

# 西野原遺跡(3)(4) 島谷戸遺跡

北関東自動車道(伊勢崎～県境)建設事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2008

東日本高速道路株式会社  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 序

西野原遺跡（3）（4）と鳥谷戸遺跡は旧藪塚本町と太田市との境にある遺跡で、北関東自動車道（伊勢崎～県境）の建設に伴い、平成12年度から16年度にかけて当事業団によって発掘調査が行われました。整理事業は平成18年度から20年度にかけて実施され、この度その調査報告書が刊行の運びとなりました。

西野原遺跡（3）（4）と鳥谷戸遺跡は、大間々扇状地の東端に位置し、北側には東国最大級の製鉄遺跡として注目されている西野原遺跡（5）があります。本遺跡では製鉄関連の遺構は見られませんでした。古墳時代の集落の南端部と思われる竪穴住居や、平安時代末から中世にかけての掘立柱建物をはじめとした多くの遺構を調査することができました。これらの成果は地域の歴史を考える上で貴重な資料になるものと思います。

なお、本書には旧藪塚本町内で行われた4遺跡（大久保鹿聴遺跡・大原百石遺跡・山之神野田遺跡・山之神南側遺跡）の範囲確認調査の結果も、併せて収録しております。

最後になりましたが、東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、旧藪塚本町教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行に至るまで多大なご指導・ご協力を賜りました。本書の刊行に際し、心から感謝申し上げますと共に、本書が歴史研究の資料として広く活用されることを願い、序といたします。

平成20年12月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 高橋 勇 夫



## 例 言

- 1 本書は、北関東自動車道（伊勢崎－県境）建設に伴って実施された埋蔵文化財発掘調査の報告書であり、西野原遺跡（3）、同（4）、島谷戸遺跡と、旧藪塚本町内で行われた範囲確認調査（大久保鹿聴遺跡、大原百石遺跡、山之神野田遺跡、山之神南側遺跡）の成果を取めた。これらのうち西野原遺跡（3）、同（4）については、発掘調査当時藪塚西野原遺跡、西長岡横塚古墳群と呼んでいたものであるが、名称を改めた事情については下記「遺跡名称の改訂について」を参照のこと。
- 2 本書で報告する遺跡の調査面積・所在地は下記の通り。（）内は合併前の住所表記である。

大久保鹿聴遺跡	33,300㎡	太田市大久保町（新田郡藪塚本町大久保）
大原百石遺跡	22,200㎡	太田市大原町（新田郡藪塚本町大原）
山之神野田遺跡	18,300㎡	太田市山之神町（新田郡藪塚本町山之神）
山之神南側遺跡	46,900㎡	太田市山之神町（新田郡藪塚本町山之神）
西野原遺跡（3）	31,300㎡	太田市藪塚町（新田郡藪塚本町藪塚）
西野原遺跡（4）	4,387㎡	太田市西長岡町
島谷戸遺跡	3,781㎡	太田市西長岡町
- 3 事業主体 東日本高速道路株式会社（調査時旧称「日本道路公団」）
- 4 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 調査・整理体制及び期間は下記の通りである。

### ○発掘調査

平成12年度 〔西野原遺跡（4）・島谷戸遺跡 平成13年2月5日～3月29日〕

理事長 小野宇三郎

事務局 赤山容造・住谷進・能登健・相京建史・坂本敏夫・笠原秀樹・須田朋子・片岡徳雄  
小山建夫・吉田有光・柳岡良宏・森下弘美・今井もと子・内山佳子・佐藤美佐子  
本間久美子・北原かおり・狩野真子

調査担当 相京建史・久保学

平成13年度 〔島谷戸遺跡 平成13年4月1日～平成14年3月31日〕

理事長 小野宇三郎

事務局 吉田 豊・赤山容造・水田 稔・津金澤吉茂・相京建史・柳岡良宏・田中賢一

調査担当 石塚久則・金子伸也

平成14年度 〔西野原遺跡（4） 平成14年5月1日～5月31日〕

〔大久保鹿聴遺跡 ①平成14年7月1日～9月30日、②平成15年2月3日～3月20日〕

理事長 小野宇三郎

事務局 吉田 豊・神保侑史・能登健・真下高幸・佐藤明人・相京建史・笠原秀樹・柳岡良宏  
中澤恵子

調査担当 石塚久則（西野原遺跡（4））・黒澤照弘（西野原遺跡（4））・斎藤和之（大久保鹿聴遺跡①）・新倉明彦（大久保鹿聴遺跡②）

平成15年度 〔西野原遺跡（3） 平成15年9月1日～平成16年3月31日〕

〔西野原遺跡(4) 平成15年6月1日～11月30日〕

〔大久保鹿聴遺跡 平成15年9月1日～9月30日〕

〔大原百石遺跡・山之神野田遺跡・山之神南側遺跡 平成16年1月1日～2月29日〕

理事長 小野宇三郎

事務局 住谷永市・神保侑史・平野進一・真下高幸・井川達雄・笠原秀樹・柳岡良宏・北野勝美  
中澤恵子・金子三枝子

調査担当 石塚久則(西野原遺跡(3)(4)・大久保鹿聴遺跡)・亀山幸弘(西野原遺跡(3)(4))  
・廣津英一(大原百石遺跡ほか・西野原遺跡(3))・小林徹(大原百石遺跡ほか・西野  
原遺跡(3))・渡辺弘幸(大原百石遺跡ほか)

平成16年度 〔西野原遺跡(3) 平成16年4月1日～平成16年4月30日〕

理事長 小野宇三郎

事務局 住谷永市・神保侑史・平野進一・真下高幸・藤巻幸男・笠原秀樹・今泉大作・柳岡良宏  
清水秀紀・中澤恵子・金子三枝子

調査担当 石塚久則・飯田公規

#### ○整理事業

平成18年度 平成19年1月1日～平成19年3月31日

理事長 高橋勇夫

事務局 木村裕紀・津金澤吉茂・萩原勉・西田健彦・中東耕志・国定均・関晴彦・笠原秀樹  
石井清・須田朋子・斉藤恵利子・今泉大作・栗原幸代・柳岡良宏・佐藤聖行  
今井もと子・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・内山佳子・狩野真子

整理担当 谷藤保彦

整理補助員 伊東悦子・伊藤幸代・根井美智子・真庭和子・中橋たみ子・福島瑞希

平成19年度 平成19年4月1日～平成20年3月31日

理事長 高橋勇夫

事務局 木村裕紀・津金澤吉茂・萩原勉・西田健彦・佐藤明人・笠原秀樹・石井清・須田朋子  
矢島一美・斎藤陽子・斉藤恵利子・柳岡良宏・今井もと子・佐藤美佐子・本間久美子  
北原かおり

整理担当 石塚久則

整理補助員 伊東悦子・根井美智子・中橋たみ子・田子幸代・狩野清美

平成20年度 平成20年4月1日～平成20年8月31日

理事長 高橋勇夫

事務局 津金澤吉茂・木村裕紀・相京建史・笠原秀樹・佐嶋芳明・須田朋子・矢島一美  
斎藤陽子・斉藤恵利子・柳岡良宏・今井もと子・佐藤美佐子・本間久美子  
北原かおり

整理担当 高井佳弘

整理補助員 立川千栄子・伊東悦子・根井美智子・狩野清美

6 遺構の写真撮影は各発掘調査担当者、遺物写真撮影は当事業団主幹佐藤元彦が行った。

7 プラントオパール分析・テフラ分析・花粉分析については株式会社古環境研究所に委託し、その報告書

は第11章に掲載した。

8 本書の編集、執筆分担は以下の通りである。

編集 石塚久則・谷藤保彦・高井佳弘

本文執筆 第1章第1節 相京建史・佐藤明人 第11章 株式会社古環境研究所

それ以外 高井佳弘

遺物観察表 石塚久則・橋本淳（縄文土器）・大西雅広（陶磁器）・笹澤泰史（鉄滓）・高井佳弘

その他、遺物実測、遺物観察には岩崎泰一・坂口 一・神谷佳明の教示・協力を受けた。

9 本遺跡の記録保存資料および出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査事業団が保管している。

10 発掘調査・整理にあたっては、下記の方々・機関にご協力、ご教示をいただいた。記して感謝致します。

（敬称略・順不同）

群馬県教育委員会・太田市教育委員会

## 遺跡名称の改訂について

西野原遺跡は、北関東自動車道本線部分（委託者：日本道路公団（当時））と、一般県道国定藪塚線（北関東自動車道側道）部分（委託者：群馬県太田土木事務所）、石田川流域調節池部分（委託者：群馬県太田土木事務所）との3事業に対応して、それぞれの発掘調査が行われた。

発掘調査事業実施時には、本遺跡が藪塚本町、太田市の二市町にまたがるため、当事業団が調査した旧藪塚町内にかかる北関東自動車道本線部分、一般県道国定藪塚線部分、石田川流域調節池部分に関しては「藪塚西野原遺跡」と呼称し、旧太田市内にかかる北関東自動車道本線部分は「西長岡横塚古墳群」、石田川流域調節池部分については「西野原遺跡」と呼称していた。また、太田市教育委員会文化財課が調査した一般県道国定藪塚線部分は「西野原遺跡」としていた。しかし、その後平成18年3月28日に太田市と藪塚本町とが合併したことによってこれらの遺跡が全て新太田市内に属することとなり、遺構名を整理する必要が生じたこととなった。そのため平成18年4月、県教育委員会文化課と太田市教育委員会文化財課との協議が行われ、本遺跡の名称については「西野原遺跡」と統一することになって、当事業団にもその旨、通告された。以後、本遺跡については全域を「西野原遺跡」と総称し、調査地点毎に番号を付して区別することとなった。

各事業に伴う遺跡呼称は次表の通りであり、本報告書で報告するのは、新呼称で西野原遺跡（3）と西野原遺跡（4）となる。

表1 西野原遺跡発掘調査原因事業別呼称一覧

発掘調査事業名	調査地点	調査主体	旧遺跡名	新遺跡名
一般県道国定藪塚線	県道太田大間々線の西側	当事業団	藪塚西野原遺跡	西野原遺跡（1）
一般県道国定藪塚線	県道太田大間々線の東側	当事業団	藪塚西野原遺跡	西野原遺跡（2）
一般県道国定藪塚線	東武鉄道桐生線の西側	太田市教育委員会	西野原遺跡	西野原遺跡（6）
北関東自動車道本線	県道太田大間々線の西・東側	当事業団	藪塚西野原遺跡	西野原遺跡（3）
北関東自動車道本線	東武鉄道桐生線の西側	当事業団	西長岡横塚古墳群	西野原遺跡（4）
石田川流域調節池（D池）	東武鉄道桐生線の西側	当事業団	藪塚西野原遺跡（調整池）	西野原遺跡（5）
石田川流域調節池（D池）	東武鉄道桐生線の東側	当事業団	西野原遺跡（調整池Ⅱ）	西野原遺跡（7）

## 凡 例

- 1 本文中に使用した方位はすべて国土座標の第Ⅸ系を使用している。グリッド名称は特に遺跡特有のものはもうけず、国土座標系の下3桁（下記・例参照）を用いる。

例 X = 38750 Y = -45100 の場合、750-100

- 2 各遺跡は原則としていくつかの調査区に区画されている。調査区の分け方は各遺跡毎に異なるが、調査区名については、基本的に西から順に、Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅲ区・・・と名付けた。
- 3 遺構名称・番号は、各調査区毎に種類毎の続き番号とした。ただし、隣接する2つの調査区にまたがる溝の一部については、遺構の大部分の面積が含まれる区の遺構番号を、もう一方の区においても使用している場合がある。
- 4 本書におけるテフラの略号は以下の通り

A s - B 浅間山噴出B軽石（天仁元年・1108） Hr - F A 榛名山二ツ岳噴出軽石（6世紀前半）

- 5 遺構・遺物図面の縮尺は基本的には以下の通りであるが、それぞれの場合に適したものを採用した場合が多いので、各図面のスケールを参照していただきたい。

竪穴住居 1/60 竈 1/30 土坑・井戸 1/40 溝平面 1/100 か 1/200 溝断面 1/60

土師器・須恵器・弥生土器・縄文土器・石器（砥石・石斧等） 1/3 石器（石鏃等） 1/1

- 6 土層、遺物の色調については農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に拠った。



# 目次

序  
例言  
凡例  
目次

第1章 調査の経緯・経過・方法	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	3
第3節 調査の方法	5
第2章 遺跡の位置と環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 大久保鹿聴遺跡	15
第4章 大原百石遺跡	18
第5章 山之神野田遺跡	20
第6章 山之神南側遺跡	20
第7章 西野原遺跡(3)	26
第1節 遺跡の概要	26
第2節 I～IV区の調査	26
第3節 V区の調査	29
第4節 VI区の調査	32
1 概要	32
2 掘立柱建物	32
3 溝	35
4 土坑	40
5 畠・耕作痕	44
6 旧石器確認調査	44
7 遺構外出土の遺物	44
第5節 VII区の調査	45
1 概要	45
2 掘立柱建物	45
3 溝	48
4 土坑	55
5 井戸	66
6 ピット	66
7 旧石器確認調査	68
8 遺構外出土の遺物	68
第6節 VIII区の調査	70
1 概要	70
2 竪穴住居	70
3 溝	89
4 土坑	96
5 柵列・ピット	107
6 畠・耕作痕	107
7 土器集中部	114

8	旧石器確認調査	114
9	遺構外出土の遺物	114
第7節	Ⅸ区の調査	118
1	概要	118
2	掘立柱建物	118
3	溝	126
4	土坑	131
5	ピット	141
6	畠・耕作痕	141
7	旧石器確認調査	141
8	遺構外出土の遺物	142
第8章	西野原遺跡(4)	144
第1節	遺跡の概要	144
第2節	調査の成果	144
1	竪穴住居	144
2	溝	146
3	土坑	146
4	畠	156
5	遺構外出土の遺物	157
第9章	鳥谷戸遺跡	166
第1節	遺跡の概要	166
第2節	調査の成果	166
1	I区の調査	166
2	Ⅱ区1面の調査 As-B下面と関連の面	166
3	Ⅱ区2面の調査 洪水層下面	172
4	Ⅱ区3面の調査 Hr-FA下面	177
5	Ⅱ区4面の調査 ローム層上面	180
6	遺構外出土の遺物	184
第10章	製鉄関連遺物	188
第11章	自然科学分析	194
第12章	まとめ	209
	遺物観察表	210

写真図版

抄録

付図	1	西野原遺跡(3)Ⅴ区全体図 (1/200)
	2	西野原遺跡(3)Ⅵ区全体図 (1/200)
	3	西野原遺跡(3)Ⅶ区全体図 (1/250)
	4	西野原遺跡(3)Ⅷ区全体図 (1/250)
	5	西野原遺跡(3)Ⅸ区全体図 (1/250)
	6	西野原遺跡(4)全体図 (1/200)
	7	鳥谷戸遺跡全体図 (1/250)

# 第1章 調査の経緯・経過・方法

## 第1節 発掘調査に至る経緯

北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設に伴う伊勢崎インターチェンジから栃木県境までの17.7kmの発掘調査が開始されたのは平成12年度である。平成12年6月、日本道路公団、群馬県土木部、群馬県教育委員会、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の4者による協議において、道路公団から橋梁下部工事等の工事優先区間の一部について、平成12年8月から発掘調査実施の要請があった。これを受けて当事業団は用地解決状況、残土場の確保、側道と本線の調査地区分の検討等、調査実施への準備を進めた。

平成12年8月1日、日本道路公団、群馬県教育委員会、当事業団の3者による「北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を締結し、また、協定書に基づく公団と事業団による平成12年度発掘調査の契約が結ばれ、発掘調査は伊勢崎市書上遺跡から着手となった。

本報告書に関わる遺跡のうち、大久保鹿聴遺跡、大原百石遺跡、山之神野田遺跡、山之神南側遺跡の旧藪塚本町内に所在する4遺跡については、下記の理由から範囲確認調査を行うこととした。



第1図 遺跡位置図 (1/200,000) 国土地理院20万分の1地勢図「宇都宮」使用

## 第1章 調査の経緯・経過・方法

これらの遺跡の所在地は大間々扇状地の扇中央部にあたり、扇状地の基盤を形成する礫層が厚いところで10数mも堆積し、典型的な欠水地帯である。近世以前は「笠懸野」と称され、一面雑木林地帯であり、集落跡など生活の場としての遺跡は藪塚本町東部の沖積低地及び隣接地付近を除いてほとんど確認されていないが、扇中央部を除くといくつかの場所で戦中戦後の開墾を経て地面が露出した一時期に土器・石器の採集が確認されたとの聞き込み調査の結果が県教育委員会文化課によって提示された。つまり、調査対象地は遺跡内ではあるものの、全体に遺構はかなり希薄であると考えられた。そのため、当初から対象地全面を本格的に発掘調査するのではなく、まず調査に対する準備として、重機によるトレンチ掘削で全体的な様相を把握して遺跡の範囲を確認し、必要に応じて本格的な体制を整えることとした。

このために調査にあたっては対象面積の10%を目途に路線を縦断する形でトレンチを入れ、関東ローム層上面を示準に掘削して遺構の有無を確認し、所々でローム面下の土層堆積及び旧石器出土の可能性を探るために深掘りを行うこととした。

これらの遺跡の調査は、大久保鹿聴遺跡が平成14・15年度にかけて3次にわたり行ったほか、大原

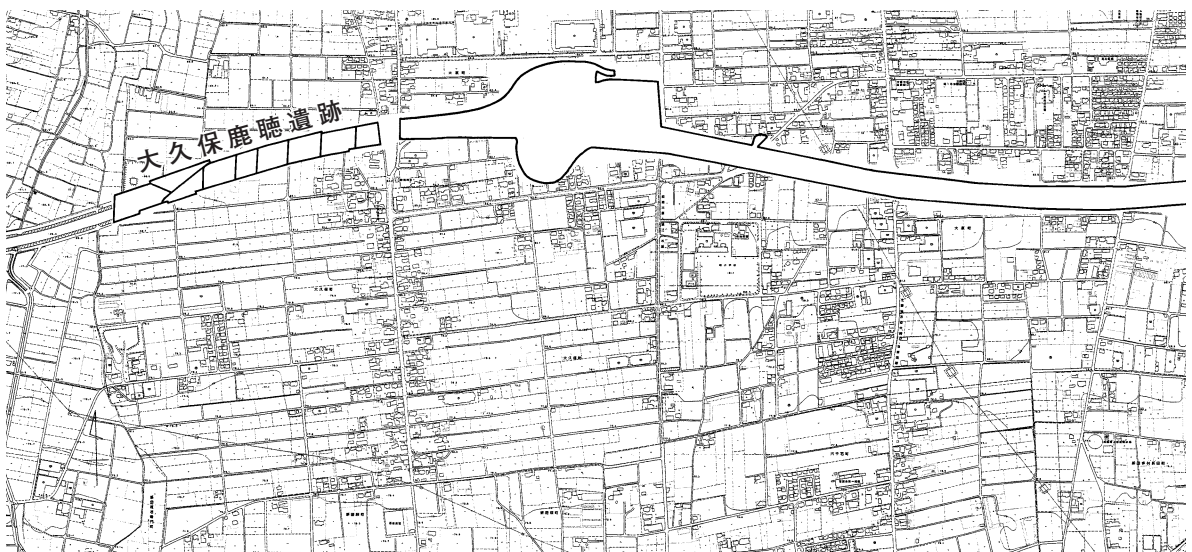
百石遺跡、山之神野田遺跡、山之神南側遺跡は平成15年度に行った。

西野原遺跡(3)(4)は、「例言」で述べたとおり、発掘調査当时には西野原遺跡(3)を藪塚西野原遺跡、(4)を西長岡横塚古墳群と呼称していた遺跡である。

西野原遺跡(3)(旧称藪塚西野原遺跡)は、西野原遺跡(4)(旧称西長岡横塚古墳群)と市道を境に西に隣接する。平成17年3月以後は太田市に合併となるが、発掘調査が行われた平成15年度は藪塚本町に所属していた。

藪塚本町にかかる北関東自動車道建設事業地内については、本発掘調査の実施に先立って平成14年8月～12月に北関東自動車道、およびこの側道として施工される県道西国定藪塚線の事業地をも併せて、県文化課により試掘調査が実施された。試掘区間は藪塚本町大字大原から本遺跡が所在する大字藪塚まで約3万9千㎡である。この試掘結果に基づき、藪塚西野原遺跡の本調査対象地は太田大間々線西側から西長岡横塚古墳群までの間全体が対象地とされた。

発掘調査は、用地取得が進み文化財調査が可能な状況に至った平成15年4月、調査準備に入り、6月に西野原遺跡(4)の着手に引き続いて調査を開始した。



第2図 遺跡位置図 (1/20,000)

西野原遺跡(4)(旧西長岡横塚古墳群)は東武桐生線と身無川の西岸に位置し、遺跡の西端が太田市、藪塚本町の境界に接する。昭和60年7月には小型の家形石棺等が太田市教育委員会により調査されている。古墳群は北関東自動車道の発掘区からやや東にあり、分布の中心は外れるが、かつては多くの古墳が残存していた。北関東自動車道にかかる本発掘区は平成8年の詳細分布確認により西長岡横塚古墳群に含まれた。この遺跡と次の島谷戸遺跡については、当時用地が取得できた範囲に限定して、平成12年度末に範囲確認調査を行ない、遺構の分布範囲を確認した。

本調査については、本遺跡内の跨線橋橋台工事区域は用地の取得が進まず、工事日程が差し迫る状況にあって、道路公団から、橋台工事の掘削範囲及び、施工エリアに範囲を限定しての発掘調査の実施について要請があった。この要請を受けて隣接の未収去

住宅への影響を避けながら、また隣接する東武桐生線への安全措置を図りながら、平成14年4月24日から範囲確認の調査を行い、その結果に基づいて平成14年5月10日から発掘調査を実施した。

島谷戸遺跡は太田市最西端に位置し太田市と藪塚本町との境界部に沿って走る東武桐生線の東側に隣接する。島谷戸遺跡は、平成8年度に北関東道建設事業地区間の埋蔵文化財状況について沿線市町村の協力のもと詳細分布の確認作業の結果、遺跡の周知化が図られている。

発掘調査は北関東自動車道工事の日程上、東武桐生線と身無川を高架橋で越える西長岡跨線橋の工事が最も急がれ、道路公団から跨線橋の北側橋台工事区域にかかる島谷戸遺跡の最優先着手を要請されていた。島谷戸遺跡の発掘調査は、一部未収去地を除いて平成13年4月9日に着手した。

## 第2節 調査の経過

各遺跡の調査の経過は以下の通りである。

### 大久保鹿聴遺跡

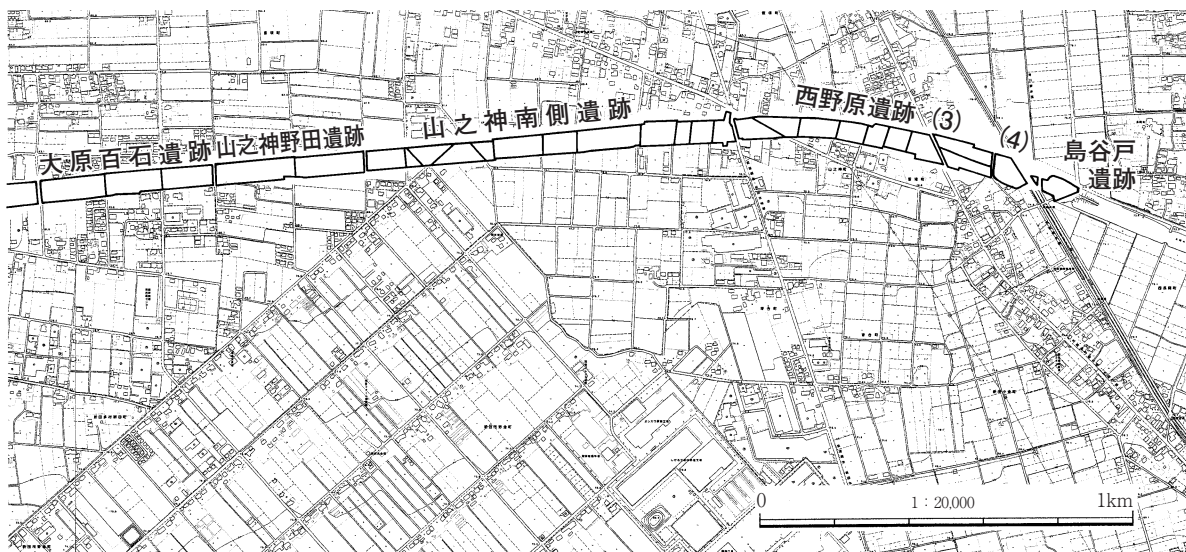
大久保鹿聴遺跡は下記の3次に亘って調査を行った。

第1次 平成14年7月1日～9月30日

第2次 平成15年2月3日～3月20日

第3次 平成15年9月1日～9月30日

第1次ではI～IV区、第2次ではV～VIII区、第3次ではIX区を対象としている。これらの調査では、範囲確認調査であるので、トレンチによる調査と、一部拡張による平面調査を行った。各トレンチでは、重機による掘削作業、遺構確認、写真撮影、平面図・



太田市発行1/2,500 地形図15～18使用

## 第1章 調査の経緯・経過・方法

断面図作成を行い、その後必要に応じてトレンチを拡張し、遺構確認を行い、遺構を調査した。それらの調査が終了した後、旧石器の出土の有無を確認するため、所々で重機により深掘りを行い、それについても写真撮影、平面図・断面図作成を行い、終了後埋め戻しを行った。

### 大原百石遺跡・山之神野田遺跡・山之神南側遺跡

この3遺跡については下記のように続けて調査を行っている。

大原百石遺跡 平成16年1月15日～19日

山之神野田遺跡 平成16年1月19日～20日

山之神南側遺跡 平成16年1月21日～2月6日

調査の手順は大久保鹿聴遺跡と同様である。

### 西野原遺跡（3）

西野原遺跡（3）(旧称藪塚西野原遺跡)の調査は平成15年度から開始した。その経過は下記の通りである。この年度には後述する西野原遺跡（4）の調査も行っている。

平成15年6月に準備作業を行い、調査は27日から開始した。まずⅧ-2区から開始し、表土除去（7月11日まで）の後遺構調査を行った。その後7月8月と遺構調査を継続したが、この区は低地に位置していたため、8月11日に台風により水没した後は湧水が激しくなり、排水作業を行っても水が完全には引かず、調査が不可能な状態となってしまった。そのため、この区の作業は一端中止して、標高がやや高く湧水の心配のないⅥ区に移ることとなった。

Ⅵ区は8月27日に準備作業を行い、28日から表土掘削を行った。9月4日からはⅤ区の調査も開始し、以後Ⅴ区・Ⅵ区を並行して調査し、9日には高所作業車で全景写真を撮影した。翌10日に測量を行った後、11日には旧石器の確認調査に入った。これらの作業と並行してⅧ-1区の表土除去も9日から開始した。Ⅴ・Ⅵ区の調査は9月30日に終了し、その後埋め戻し作業を行い、10月3日に終了した。

Ⅷ-1区は9月19日より遺構確認作業を開始し

た。10月6日からはⅧ-2区と西野原（4）との境となっていた道路下の調査を開始し、以後Ⅷ-1区、Ⅷ-2区の調査を同時並行で行った。10月24日からはⅧ-1区で準備作業を開始し、まずコンクリート基礎や盛土の搬出作業を行った。この区の表土除去は11月18日から27日まで行った。Ⅸ区の調査は12月4日から開始し、以後、西野原遺跡（4）の調査が11月末に終了するに伴い、Ⅶ-1区とⅧ区（Ⅷ-1区とⅧ-2区）、Ⅸ区とを同時並行的に調査した。Ⅷ区の旧石器確認調査は10月29日以降、遺構の調査が終了した部分から順次行っており、1月7日に全域で終了した。Ⅶ-1区も12月12日以降旧石器の確認調査を行ったが、12月末には終了し、平成16年1月8日から13日に埋め戻した。

続けて14日からはⅦ-2区の表土除去を開始し、以後Ⅶ-2区とⅨ区の調査を並行して行った。Ⅶ-2区は23日に遺構の調査を終了し、以後旧石器の確認調査を2月12日まで行い、埋め戻しは2月19日・20日に行った。以後しばらくはⅨ区のみ調査となる。Ⅸ区は遺構調査を行い、終了した部分から順次旧石器の確認調査や縄文時代の遺物包含層、旧河道などを調査し、3月17日から埋め戻しを開始して終了した。

その間、3月1日からはⅧ-3区を開始し、Ⅸ区と並行して調査した。まずコンクリート基礎を除去し、一部の遺構の調査に着手しながら表土除去を行ったが、それが終了した時点で年度が終わり、以後の調査は16年度に行うこととした。

また、Ⅰ区からⅣ区の範囲確認調査は、平成16年に入って準備を開始し、1月13日から20日までと、1月28日とに行った。

平成16年度はⅦ-3区のみ調査であり、4月8日から現地における調査を開始し、15日に遺構の全景撮影、16日から縄文時代包含層調査、さらに21日から旧石器の確認調査と続き、27日調査終了、28日から30日まで埋め戻しを行って、西野原遺跡（3）のすべての調査を終了した。

#### 西野原遺跡（4）

西野原遺跡（4）（旧称西長岡横塚古墳群）は、Ⅰ～Ⅲ区に分けて調査を行ったが、まず用地が解決したⅡ区の大部分について、平成12年度に範囲確認調査を行っている。この範囲には遺構は確認できなかったが、西側に微高地があることが確認され、その部分に遺構の存在の可能性が考えられた。その後平成14年には、用地の解決したⅡ区の残りの部分とⅠ区とについて調査を行った。調査は範囲確認のトレンチ調査を4月24日から5月8日まで行い、その結果、Ⅰ区に遺構の存在を確認したので、この部分の調査を5月10日から開始した。調査は31日まで行い、その後埋め戻しを行った。

Ⅲ区の調査は平成15年6月から準備作業を行い、7月1日から表土除去を開始した。表土掘削は2日から行い、順次遺構調査を行った。この区は大部分が低地部に位置するため、台風その他の降雨や湧水によって水没することがあり、調査は難航した。10月6日からは、前述した西野原遺跡（3）Ⅷ～Ⅱ区との境である道路下の調査を合わせて行い、11月18日には遺構の調査をすべて終了した。その後埋め戻

しを行い、西野原遺跡（4）の調査を終了した。

#### 島谷戸遺跡

島谷戸遺跡は、平成12年度に、当時用地が解決していた部分について範囲確認調査を行っている。本調査は平成13年4月から行った。調査区はⅠ区とⅡ区とに分かれている。年度当初の準備作業ののち、Ⅱ区の表土除去を行い、遺構調査は4月11日から開始した。この区は多面調査となり、以後、1つの面を終了後下層の試掘を行い、その結果を受けて下位の面を掘り広げて調査するということを繰り返した。その間Ⅰ区の調査を5月11日から開始した。この区ではAs-Bの面の調査を行い、一部下層の確認調査を行って6月25日に終了、26日～28日に埋め戻しを行い調査を終えた。Ⅱ区は10月24日にすべての遺構の調査を終了し、30・31日に埋め戻しを行い、11月に整地作業を行った。その後用地解決などに伴い、2月12・13日にⅡ区の西側、3月8日にⅠ区の北側で小面積の調査を追加で行い、島谷戸遺跡の調査はすべて終了した。

### 第3節 調査の方法

本書で対象とする7遺跡は東西6kmの間に分布するため、地形・遺構の内容に違いがあり、調査の方法も一様ではないが、本節でその原則について述べることにする。

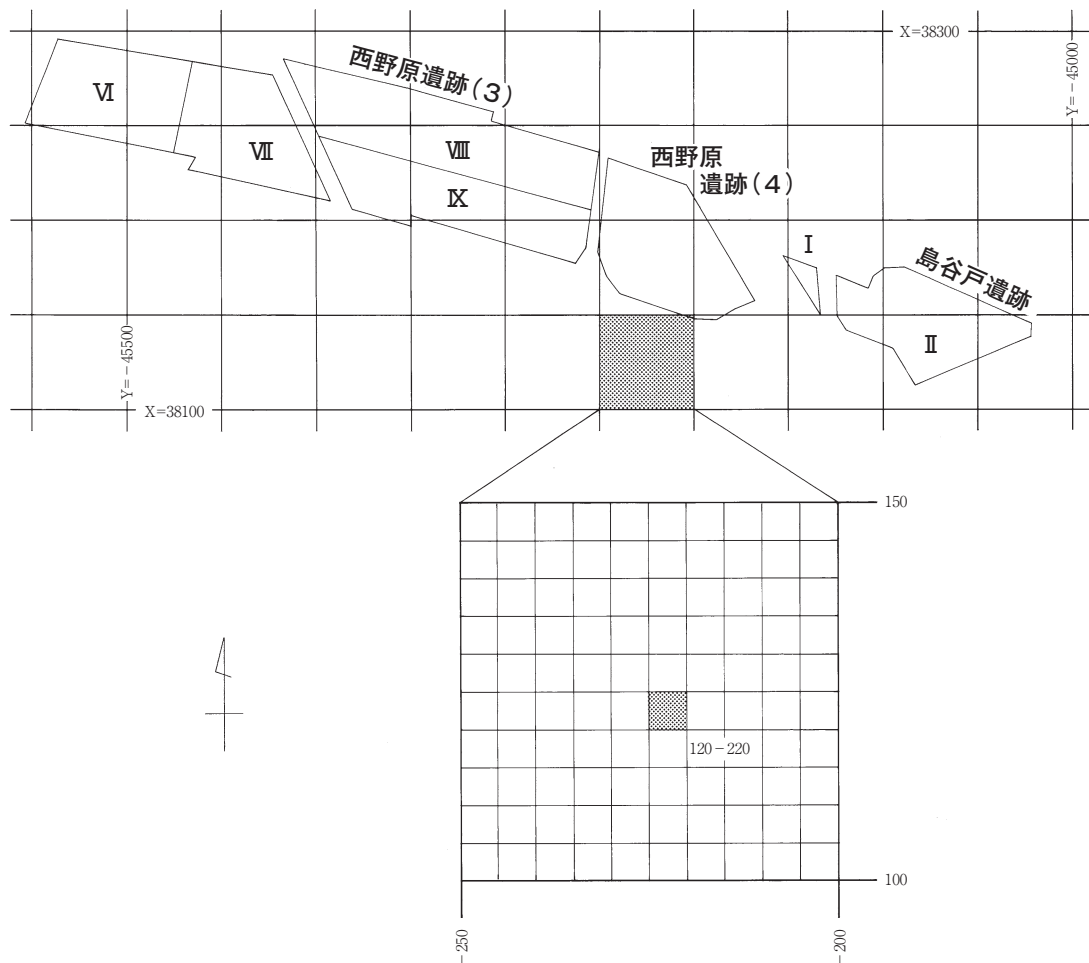
各遺跡は調査対象面積が広いため、現道などを基準にして地区分けを行い、各地区は西からⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区…と呼称した。この地区分けは、調査工程の都合などで、一部変則的になっているところがある。

範囲確認調査を行った大久保鹿聴遺跡、大原百石遺跡、山之神野田遺跡、山之神南側遺跡、西野原遺跡（3）Ⅰ～Ⅴ区では、トレンチによる調査を行い、必要により本格的な体制を整えることにした。トレンチの密度は対象面積の10%を目途にして設定し

た。トレンチ内の表土掘削は重機を用い、その後遺構確認を行い、遺構と思われるものがあれば必要に応じてトレンチを拡張して調査した。遺構確認あるいは遺構調査終了後、所々深掘りを行い、旧石器時代の文化層の有無の確認を行った。

西野原遺跡（3）Ⅵ～Ⅸ区、西野原遺跡（4）、島谷戸遺跡Ⅰ・Ⅱ区では全面調査を行ったが、ここでも表土除去は基本的にバックホーを用いた。表土除去終了後は遺構確認を行い、確認できた遺構について調査を行った。遺構の種類は住居跡、掘立柱建物のほか、土坑、溝、ピットであり、それぞれに適した方法を用いた。

発見された遺構名は、調査区毎に続き番号で表したが、整理作業時に一部付け替えた所がある。遺



第3図 グリッド設定図

構の実測図は測量業者に委託してデジタル測量を行い、縮尺は1/10、1/20、1/40、1/100を遺構の性格に合わせて適宜使用した。調査に用いたグリッドは10m×10mを基本とし、遺構の場所や遺物の出土位置を示す場合は、適宜5m×5mも併用した。その名称は遺跡特有のものを設定することはせず、国土地標IX系を用い、X・Y座標について、その下3桁を用いて表すことにした（例：第3図のように、X = 38120、Y = -45220の場合、120-220）。地点を細かく表示する場合は、この下3桁の数字をそのまま用いた場合も多い（例：5mないし10mグリッドにこだわらず、1m単位で121-221と表す場合がある）。遺構調査終了後、2m×4m、あるいは1m幅のトレンチを設定して旧石器の確認調査を行ったが、今回調査対象とした全地区では、遺物は出土

しなかった。

遺構写真の撮影は、35mmモノクロとカラーリバーサルを併用し、適宜6×7版モノクロ、カラーリバーサルも撮影した。全景写真は高所作業車を用いた。

また、テフラの同定や、水田跡の確定のためのプラントオパール分析、古環境復元のための花粉分析は、株式会社古環境研究所に委託して行った。



## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

本書で報告する、大久保鹿聴遺跡、大原百石遺跡、山之神野田遺跡、山之神南側遺跡、西野原遺跡（3）、同（4）、島谷戸遺跡の7遺跡は、東西約6kmの長さ亘って分布しているため、その地理的環境は一樣ではない。この範囲は大間々扇状地の西半部から中央を経て東半部を通り、さらに東側の沖積地に至る範囲である。

大間々扇状地は、『太田市史・通史編 自然』（太田市 1996）によれば、「渡良瀬川が更新世に形成した関東地方有数の大型扇状地で、谷口の大間々町から南方に発達し、太田市北西部から新田町、境町を経て伊勢崎市東部に至る海拔50～60m付近を扇端とする。南北約18km、扇端の幅約13kmの略三角形（扇形）の範囲に発達する」。北関東自動車道のルートはこの大間々扇状地の南半部を横断するように通っており（第4図）、大久保鹿聴遺跡は太田藪塚インターチェンジの西側、その他の遺跡はインターチェンジの東側に連なっている。7遺跡のうち西野原遺跡（3）Ⅵ区付近から東側では、扇状地の東端となって小川も見られる地形となるが、以西のその他の遺跡は扇状地の中に入る。その範囲は扇状地の基盤となる礫層が厚く堆積する地域であり、流水は地下に浸透してしまっており、地表面には自然流路を見ることはできない。また、第4図の地下水面等水位曲線

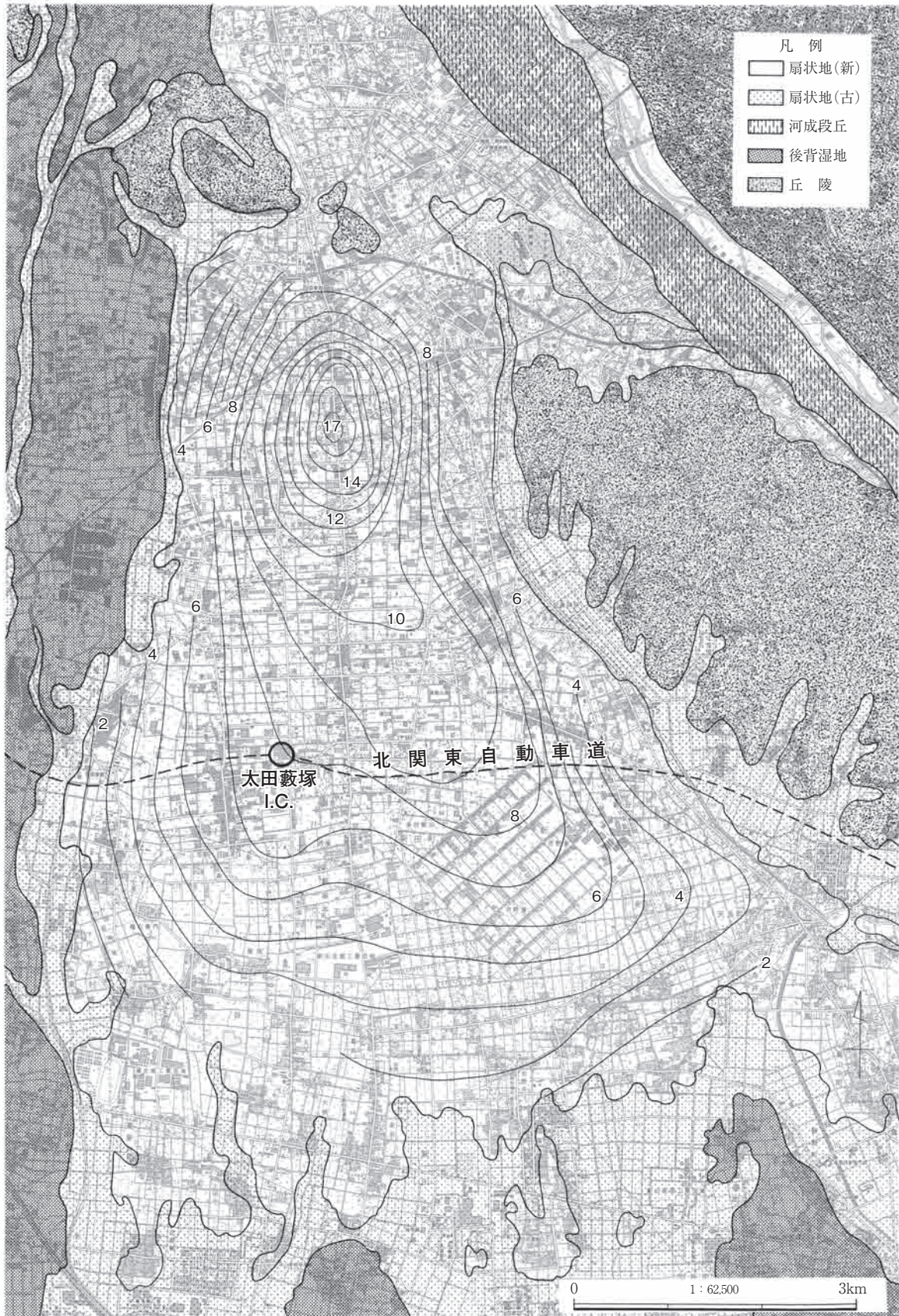
図に見るように、遺跡内の地下水面の深さは最も深いところで9mにも達している。つまりこの地域は、水にきわめて乏しい地域なのである。そのため、扇状地中央部は人の居住に適さず、近世以前は「笠懸野」と呼ばれる広大な原野であった。次節で述べるように、この地域で古代・中世の遺跡がほとんど確認されていないはそういった理由による。集落遺跡が見られるのは、この扇状地の東西両端の沖積地付近と、南側扇端以南である。前者では前述の通り小川がみられ、また、後者では扇状地地下を流れた地下水が、この付近で地上に現れて数多くの湧水地が見られるようになる。次章で述べるように、この二つの地域付近は人の居住に適し、縄文時代以降、多くの遺跡が営まれた。基本的に扇状地上に人が住み始めるのは、近世以降の開拓事業によってである。現在の土地利用を見ても、島谷戸遺跡付近とその東側では水田地帯となるが、それ以西の扇状地上は畑作地帯である。

報告する7遺跡の標高やごく簡単な基本土層は第5図のとおりである。標高は、大久保鹿聴遺跡の東部が標高約82mで最も高く、そこから東西両方に低くなっていく。最も低いのは島谷戸遺跡付近で、73.5m前後である。

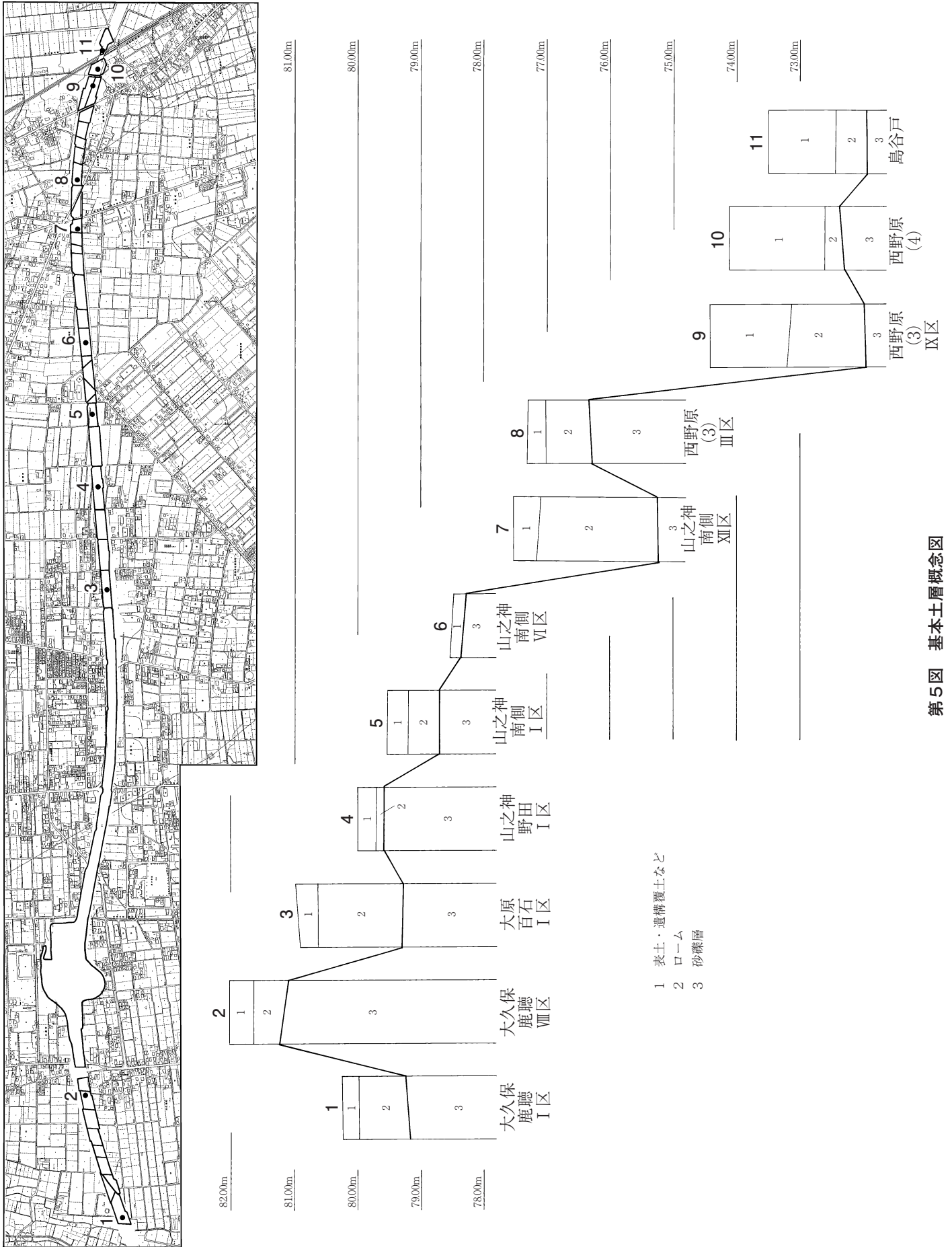
### 第2節 歴史的環境

本書で取り上げる7遺跡の周辺の遺跡については第7図にあげた通りである。前節で述べたように、今回報告する遺跡の大部分は扇状地上にある。この部分は水に乏しい地域なので遺跡がほとんど知られていない。第7図においては図の中央部分が大間々扇状地に当たり、その部分には遺跡がほとんど分布

していないことが見て取れる。遺跡が集中するのは扇状地の東西両側の低地部分と、南側の湧水地帯である。第7図では図の周辺部分がそれにあたり、そこには多くの遺跡を見ることができる。ただし、この地域では発掘調査があまり行われてはおらず、遺跡の内容には不明な点が多い。第7図にあげてある遺



第4図 周辺地形分類図と地下水面等水位曲線図 等水位曲線図は阿由葉元氏による



第5図 基本土層概念図

- 1 表土・遺構覆土など
- 2 ローム
- 3 砂礫層



跡分布は分布調査の結果を受けたものであり、その範囲はインターネット上に公開されている群馬県教育委員会による『群馬県文化財情報システム』によって記入したものである。以下、この第7図の範囲にある遺跡についてまとめることとする。

旧石器時代の遺跡はこの範囲では知られておらず、最も近いのは旧藪塚本町北端近くにあるつじ山遺跡であり、昭和25～26年の明治大学によって発掘調査が行われ、ナイフ形石器などが出土している。

縄文時代の遺跡は数多く知られている。早期の遺跡としては岩崎遺跡(47)で田戸下層式、滝ノ入前遺跡(24)で茅山式の土器が出土しているが、遺構は確認されていない。

前期は黒浜式の土器が出土した遺跡として岩崎遺跡、滝ノ入前遺跡など、諸磯式では滝ノ入遺跡などから出土している。

中期は滝ノ入前遺跡で竪穴住居1棟と落とし穴・土坑が調査されている。

後晩期の遺跡として有名なのは第7図の範囲からはずれるが旧藪塚本町の石之塔遺跡である。この遺跡からは晩期を中心とした多くの遺構・土器が見つかっている。

その他、現在整理中の遺跡が多いが、北関東自動車道の調査では、縄文時代の遺構が多く確認されている。西長岡宿遺跡(55)では早期の土器片、中期～後期の住居跡・敷石住居・配石遺構が確認されている。菅塩遺跡群(57)では後期の配石遺構の他、各時期の土器・石器が出土している。また、西野原遺跡(5)(7)では中期を中心とした集落が調査されている。

このように、西野原遺跡(3)(4)や島谷戸遺跡の至近には縄文時代の遺跡が多く見られるが、今回の調査では縄文時代の遺構は見られず、土器・石器が少なからず出土しているのみである。

弥生時代は遺跡が少ない。これまでは竪穴住居などの調査例はほとんどなく、わずかに元屋敷遺跡(36)で中期後半の竜見町式の壺形土器、滝ノ入前遺跡(24)で後期の樽式の土器片が出土してことな

どが知られていただけであったが、西野原遺跡(2)(5)(7)では集落跡が確認され、住居跡が調査されている。本書で報告する遺跡内からは遺構は見つかっていないが、西野原遺跡(3)(4)や島谷戸遺跡からは土器片が出土している。

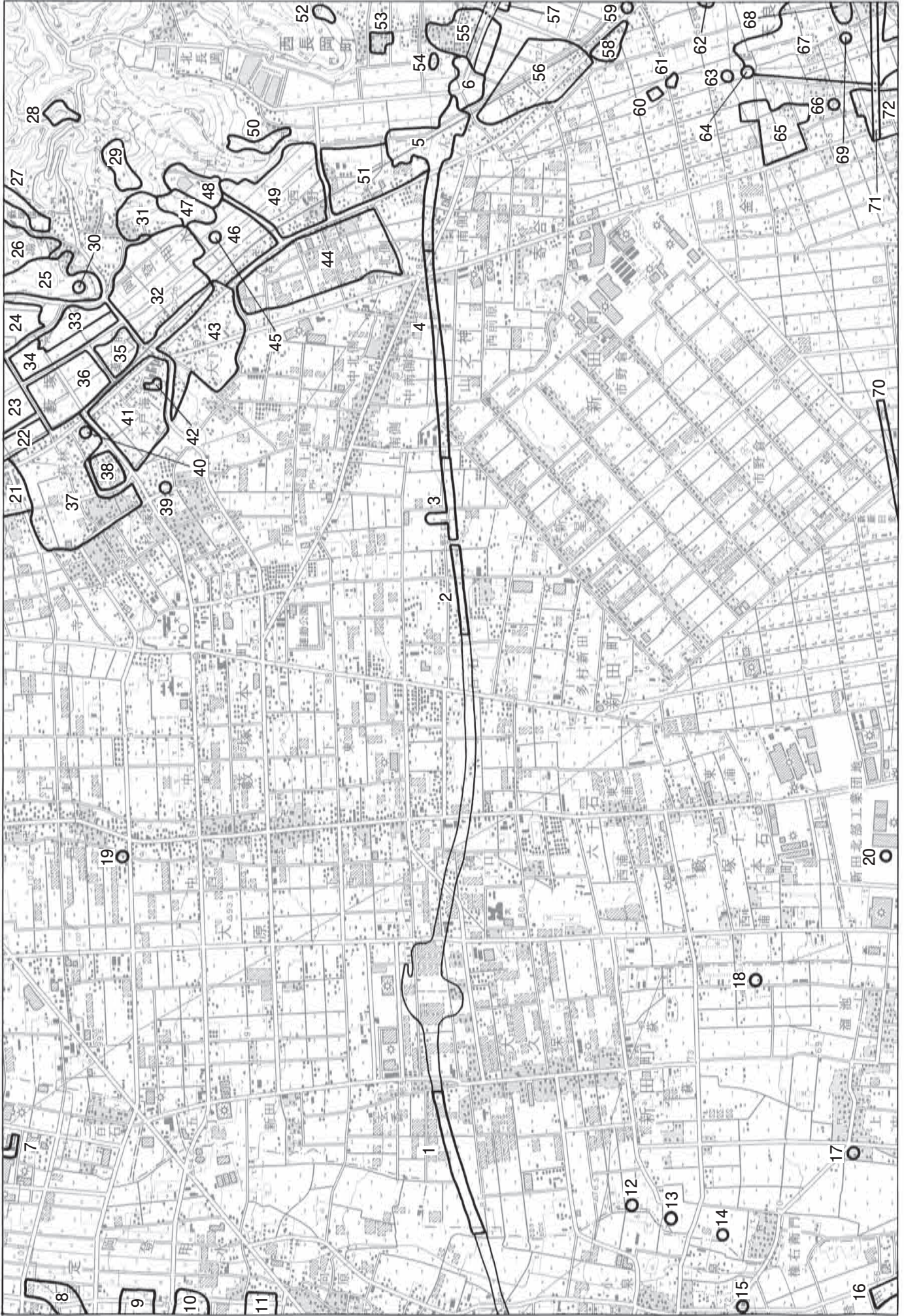
古墳時代には、東側の八王子丘陵から平地部にかけて後期を中心とした古墳が見られるほか、大久保鹿聴遺跡南側の大間々扇状地南西部上に遠北古墳(12)などが分布している。

八王子丘陵上には全長34mの前方後円墳である西山古墳(30)、その北側にあり、径22mの円墳で横穴式石室をもつ北山古墳(第7図の範囲外)、北山古墳の西側にあり径11mの円墳で横穴式石室をもつ向山古墳(第7図の範囲外)などが知られている。これらは6世紀末から7世紀前半までのもので、その周辺には湯之入古墳群など、数多くの古墳が存在する。

西野原遺跡(3)(4)や島谷戸遺跡の1kmほど南には二ツ山1号墳(60)、同2号墳(61)がある。それぞれ全長74m、45mの前方後円墳であり、前掲の古墳よりもやや遡る6世紀後半の築造で、この地域の盟主墳と考えられる。

西野原遺跡(3)(4)や島谷戸遺跡の近傍には古墳が存在し、調査が行われている。南側の西長岡横塚古墳群(56)には7世紀代を中心とした古墳が分布し、そのうち3基の古墳の調査が行われている。西野原遺跡(5)では横穴式石室をもつ円墳が数多く調査されている。本書で報告する西野原遺跡(4)は調査実施時には「西野原横塚古墳群」と呼んでいたが、今回の調査では古墳自体は確認されておらず、島谷戸遺跡などで少数の埴輪片が出土したのみである。

集落遺跡はこの範囲内にも数多く見られ、住居跡が調査されている。本書で報告する住居はすべてこの時期のものであるが、古墳時代の集落跡は西野原遺跡(1)(2)(5)(6)(7)に中心部があり、本遺跡の住居はその集落の南端部分に当たるものである。



第7図 周辺の遺跡位置図 国土地理院 1/25,000地形図「桐生」「上野境」使用

No	遺跡名	旧石器	集落○ 墳墓●				中世	近世	発掘履歴	文献
			縄文	弥生	古墳	奈良平安				
1	大久保鹿鳴遺跡								本書	
2	大原百石遺跡								本書	
3	山之神野田遺跡								本書	
4	山之神南側遺跡								本書	
5	西野原遺跡		○	○	○	○	○	群埋文・市教委	本書	
6	鳥谷戸遺跡		○		○		○		本書	
7	五反歩遺跡		○			○				
8	見取遺跡		○						(10)	
9	水殿遺跡		○		○	○			(10)	
10	磯沼遺跡		○		○	○			(10)	
11	西磯遺跡		○			○			(10)	
12	遠北古墳				●				(1)	
13	金助塚古墳				●				(1)	
14	元祖塚古墳				●				(1)	
15	東村2号墳								(1) (10)	
16	平井裏遺跡		○		○	○			(10)	
17	新割遺跡					○		町教委		
18	東遺跡		○	○						
19	三区西浦遺跡		○							
20	庚申塚古墳				●					
21	中原下遺跡		○		○	○				
22	六地藏遺跡		○			○		町教委	(5)	
23	新井前遺跡		○		○					
24	滝之入前遺跡		○	○		○		町教委	(8)	
25	湯坂道遺跡		○		○					
26	湯之入古墳群				●					
27	湯之入前遺跡		○							
28	雷電山砦跡						○			
29	蚕影山古墳群				●					
30	西山古墳				●			群馬大		
31	湯之入東遺跡						○			
32	八石遺跡		○	○	○	○		町教委		
33	三島神社境内遺跡				○			群馬大・國學院		
34	三島前遺跡		○		○					
35	薬師前遺跡				○	○	○	町教委	(2) (4)	
36	元屋敷遺跡		○	○	○	○	○	町教委	(3)	
37	萩林遺跡		○		○	○		町教委		
38	台之原廃寺				○	○		町教委	(6) (7)	
39	十輪寺遺跡						○	町教委		
40	長土手遺跡		○							
41	木戸海道遺跡		○		○	○		町教委		
42	木戸海道Ⅰ遺跡		○			○		町教委		
43	三島遺跡						○			
44	西野西遺跡		○					町教委		
45	街道橋遺跡		○	○	○			群馬大		
46	西野東上遺跡		○	○	○	○				
47	岩崎遺跡		○							
48	谷遺跡		○							
49	西野東中遺跡		○	○	○	○		町教委		
50	西長岡天神山古墳群				●					
51	西野東下遺跡		○	○	○	○				
52	愛宕山遺跡				○	○		市教委	(13)	
53	長岡城跡						○			
54	西長岡宿古墳群				●					
55	西長岡宿遺跡		○		○			群埋文	(21) (22)	
56	西長岡横塚古墳群				●			市教委・群埋文	(9)	
57	菅塩遺跡群		○					群埋文	(22)	
58	愛大塚遺跡		○					市教委	(16)	
59	古墳				●					
60	二ツ山古墳1号墳				●			町教委	(11)	
61	二ツ山古墳2号墳				●			町教委	(11) (20)	
62	寺井廃寺北遺跡				○	○		市教委		
63	天良蛇塚古墳				●				(11)	
64	新生割古墳				●					
65	堀廻遺跡		○	○	○	○				
66	堀廻古墳				●					
67	天良七堂遺跡					○		群馬大・市教委	(17) (19) (23)	
68	寺井古墳群				●					
69	寺井境古墳				●			町教委	(11)	
70	推定東山道駅路下新田ルート					○			(12)	
71	推定東山道駅路下新田ルート					○				
72	笠松遺跡				○	○	○	町教委	(11)	

第1表 周辺の遺跡一覧表 Noは第7図と一致する

## 第2章 遺跡の位置と環境

生産遺跡としては古墳時代末期、7世紀後半の製鉄遺跡が西野原遺跡（5）（7）で調査されている。この遺跡は当時東国最大規模のものと考えられ注目されるが、本書で報告する範囲には関連遺構は見られず、鉄滓を中心とした遺物が出土している。

奈良・平安時代の遺跡も数多く、住居跡は各地で調査されているが、この地域で特に注意されるのは、西野原遺跡（3）（4）・島谷戸遺跡の南側の地域である。ここには郡衙である天良七堂遺跡（67）、白鳳寺院の寺井廃寺（第7図の範囲外）、推定東山道駅路（70・71）などがあり、古代新田郡の中心地であった。しかし、本書で報告する遺跡ではごく少数の遺物が出土するのみで、遺構は確認できていない。

中世以降は調査例がかなり少なく、遺跡の様相は不明な点が多い。第7図の範囲の大部分を占める大間々扇状地はこの時期「笠懸野」と呼ばれており、やはり人の生活痕跡が希薄な地域であった。西野原遺跡（3）で見つかっている掘立柱建物はこの時期のものと思われる。

なお、遺跡内の大字・小字名は第6図に示したとおりである。

### 参考文献

- (1) 『上毛古墳綜覧』 群馬県 1938
- (2) 『薬師前遺跡 岡登中部遺跡群発掘調査報告書第1集』 藪塚本町教育委員会 1981
- (3) 『元屋敷遺跡』 藪塚本町教育委員会 1982
- (4) 『薬師前遺跡』 藪塚本町教育委員会 1983
- (5) 『六地藏遺跡』 藪塚本町教育委員会 1984
- (6) 『台ノ原廃寺Ⅰ』 藪塚本町教育委員会 1985
- (7) 『台ノ原廃寺Ⅱ』 藪塚本町教育委員会 1985
- (8) 『滝ノ入前遺跡』 藪塚本町教育委員会 1986
- (9) 『西長岡横塚古墳群発掘調査概報』 太田市教育委員会 1986
- (10) 『佐波郡東村の遺跡』 東村教育委員会 1987
- (11) 『新田町誌・第2巻』 新田町 1987
- (12) 『下新田遺跡』 新田町教育委員会 1992
- (13) 『埋蔵文化財調査年報』 2 太田市教育委員会 1992
- (14) 『市内遺跡』 太田市教育委員会 1994
- (15) 『太田市史 通史編・原始古代』 太田市 1996
- (16) 『埋蔵文化財発掘調査年報』 6 太田市教育委員会 1996
- (17) 『天良七堂遺跡・笠松遺跡』 新田町教育委員会 1999
- (18) 『新田町内遺跡Ⅰ』 新田町教育委員会 1999
- (19) 『新田町内遺跡Ⅱ』 新田町教育委員会 2000
- (20) 『新田町内遺跡Ⅲ』 新田町教育委員会 2001
- (21) 『年報2 1』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002
- (22) 『年報2 2』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003
- (23) 『天良七堂遺跡Ⅱ』 新田町教育委員会 2004
- (24) 『年報2 3』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004
- (25) 『年報2 4』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005
- (26) 『年報2 5』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006
- (27) 『群馬県文化財情報システム』 群馬県教育委員会（インターネットで公開中）



### 第3章 大久保鹿聴遺跡

以下、第3章から第6章までは、大間々扇状地内の遺跡で行った範囲確認調査の結果を報告する。大久保鹿聴遺跡、大原百石遺跡、山之神野田遺跡、山之神南側遺跡の4遺跡は、第1章や第2章に述べたように大間々扇状地の中央という、遺構の希薄な地帯に位置する。そのため、これらの遺跡では最初から全面調査を行うのではなく、トレンチによる遺構確認調査を行って遺跡の範囲を確認し、必要に応じて調査区を拡大して調査を行うこととした。トレンチの密度は対象面積の10%を目途とし、重機を用いて幅1m程度のトレンチをローム層上面まで掘削して、遺構の有無を確認した。その後ローム層の堆積状態や旧石器出土の可能性の有無をさぐるために、所々で1～2m深掘りを行っている。

大久保鹿聴遺跡は今回報告する遺跡の中では最も西側にあり、北関東自動車道太田藪塚インターチェンジのすぐ西側に位置する。第4図にみるように、この位置は大間々扇状地の西半部で、地下水位面には5～8mほどの深さがあり、水の乏しい地域である。そのため遺構は希薄であると思われるが、第7図に見るように1km程度西には多くの遺跡が分布しているので、注意が必要な地域である。

調査にあたっては、現道や現在の土地区画などを考慮に入れて全域をⅠ～Ⅸ区の9調査区に分けたが、実際の調査の際には2地区にまたがってトレンチを入れたところもある。

調査は第1章第2節で述べたように、平成14年度（Ⅰ～Ⅷ区）と平成15年度（Ⅸ区）の2カ年にかけて行った。

トレンチの配置は第8図、第10図に見るとおりであり、基本的には対象地を縦断する方向に合計31本のトレンチを設定した。

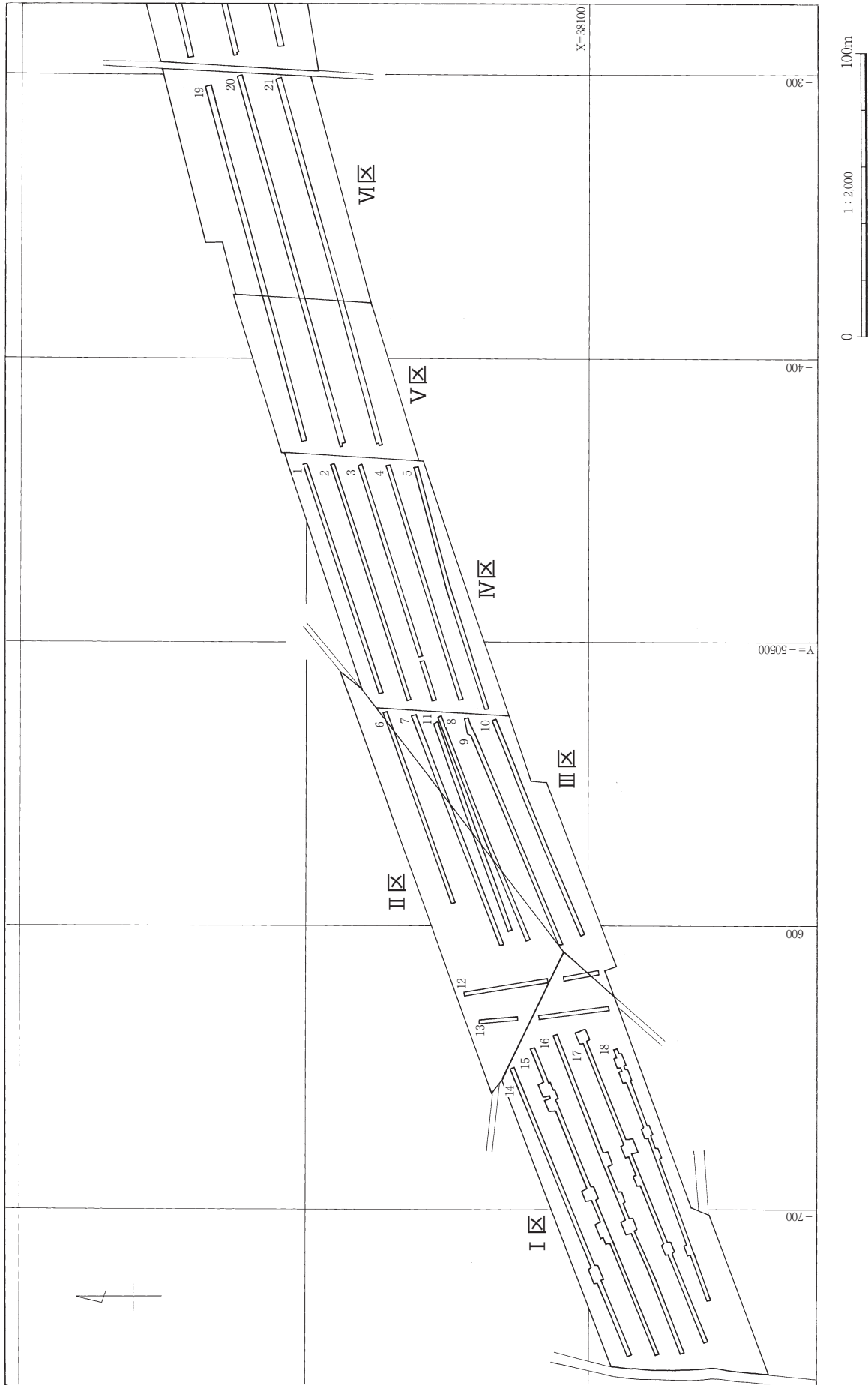
第9図にⅠ区の土層断面を示したが、それにみるように、表土＝現耕作土（1層）、旧耕作土（2層）

とその下に広く存在する灰褐色砂質土（3層）の下層がローム層となる。ここまでほとんどの場所では現地地表下20～40cmであり、かなり浅い。

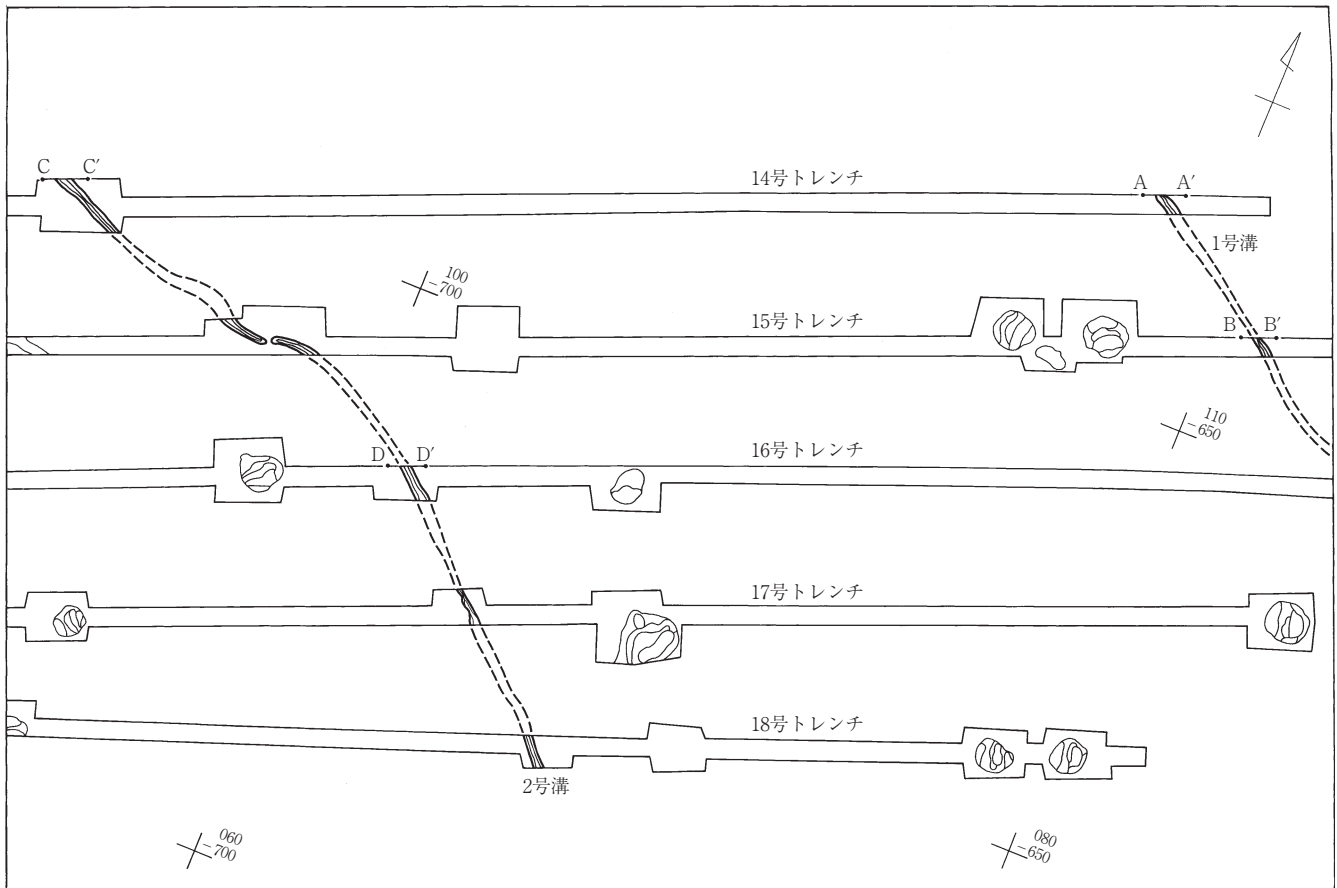
Ⅰ区では溝2条と風倒木痕多数を確認した。溝は東側にあるものを1号溝、西側にあるものを2号溝として調査した。いずれも幅30～60cm、深さ10～20cmの小規模なもので、北西から南東に向けて緩やかに蛇行して走行する。遺物が全く出土しないために時期を特定することはできないが、土層の状況からごく新しいものと思われる。風倒木は拡張して平面確認を行い、土層等を記録したが、これらからも遺物は出土せず、時期は明確にできなかった。

その他のトレンチでは、ごく最近の時期の畝の畝跡と思われる、平行する多数の細溝が見られるのみで、顕著な遺構は見つかっていない。遺物も全く出土しなかった。

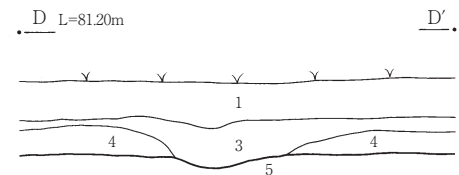
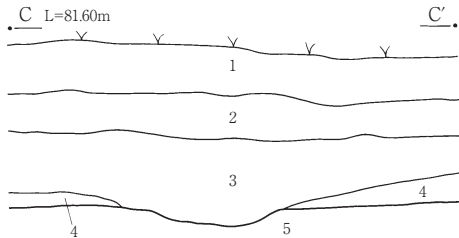
ローム面下層の深掘り調査では、Ⅷ区東端付近で良好な浅間・板鼻黄色軽石層（As-YP）の純層堆積が見られた。そのため部分的に平面調査を行ったところ、この層は、より下層にある旧河道の凹みに堆積したものであることが確認された。ほかの部分では0.3～2mほどで砂礫層となり、その間に旧石器文化層の堆積を認めることはできなかった。



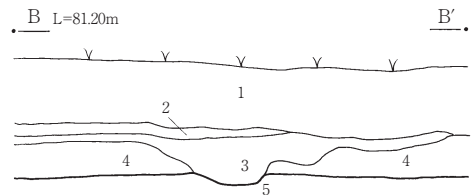
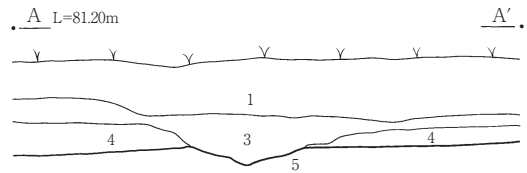
第8図 大久保鹿聴遺跡 I～VI区トレンチ配置図



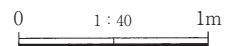
2号溝



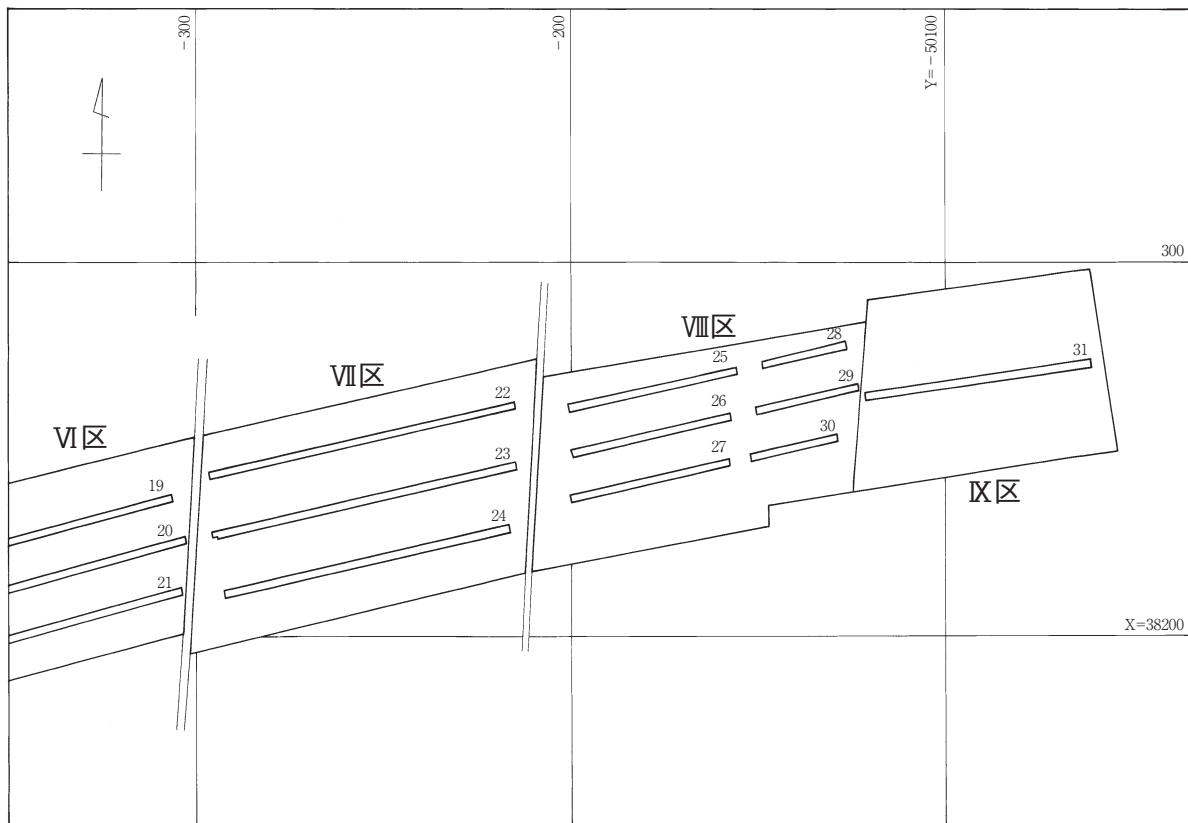
1号溝



- 1 褐色砂質土 現耕作土。締まり弱い。ローム粒と若干の軽石粒 (As - A か) を含む。
- 2 1層に4層土が混じるやや明るい褐色土 締まり弱い。
- 3 灰褐色砂質土 1層よりも灰色味が強い。
- 4 明黄褐色砂質ローム土 締まり弱い。
- 5 明灰黄褐色細砂質ローム土 4層より砂質分がやや多い。



第9図 大久保鹿聴遺跡 I 区 1・2号溝



第10図 大久保鹿聴遺跡Ⅶ～Ⅸ区トレンチ配置図

0 1:2000 100m

## 第4章 大原百石遺跡

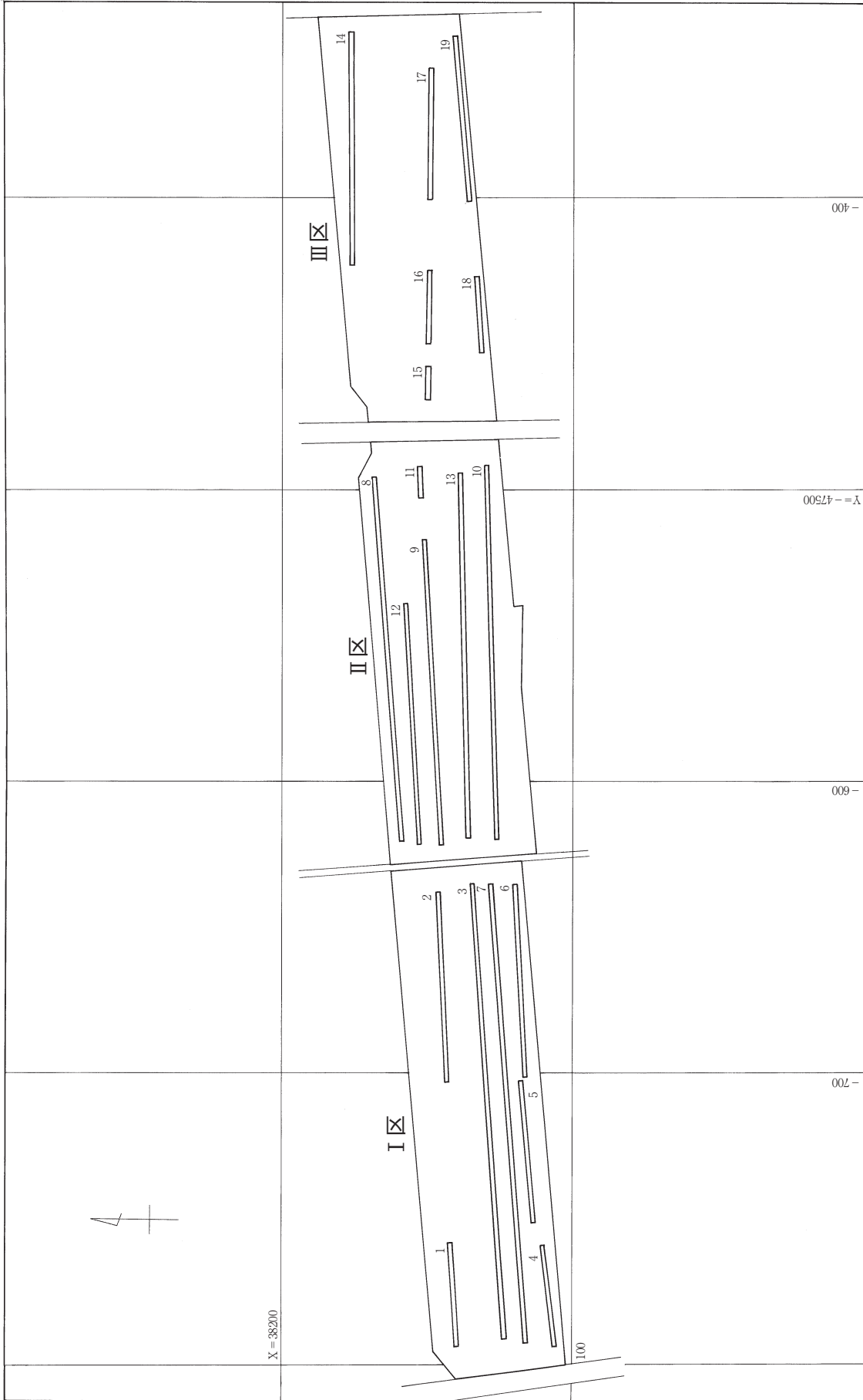
大原百石遺跡は太田藪塚インターチェンジから2 kmほど東にあり、大間々扇状地の東半部に位置する。この付近は第4図に見るように地下水位面が8～9 mと深く、やはり水に乏しい地域である。

調査は後述する山之神野田遺跡、山之神南側遺跡とともに平成16年1、2月に行った。調査対象地内は現道によってほぼ三等分されているため、これをそのまま利用して調査区とし、西からⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区と名付けた。本遺跡の調査前の土地利用は、畑地と個人住宅とが混在する状態であった。

調査は調査区を縦断するようにトレンチを設定して行ったが、調査区内に個人住宅の基礎が数多く残っていたため、特にⅢ区ではその配置に一部不規則なところが出てしまっている。トレンチの数は合計19本である。

本遺跡ではローム面までが浅く、20～30cmの表土の下がローム上面となる。この面で遺構の有無を精査したが、どのトレンチにおいても遺構は全く見つからず、遺物も出土しなかった。

ローム面下層は所々で深掘りを行ったが、1～2 mで砂礫層となり、旧石器文化層の堆積は見られなかった。



第11図 大原百石遺跡トレンチ配置図

## 第5章 山之神野田遺跡

山之神野田遺跡も太田藪塚インターチェンジの東、大間々扇状地の東半部にある。やはり地下水位が深く、水に乏しい地域である。調査前の土地利用の現況は、一部に宅地があるほかは畑地であった。

調査対象地は現道を境として2地区に分かれるため、西をⅠ区、東をⅡ区と名付けて調査した。トレンチは対象地を縦断するように4列ずつ設けたが、道路などの施設を避けたため一部不規則になっている。

トレンチの数は合計13本である。

この地域では表土は40～50cmで、その下はロームとなる。この面で遺構精査を行ったが、遺構は全く確認できず、出土遺物もなかった。また、このロームを一部で深掘りしたところ、1～1.5mで砂礫層となり、その間に旧石器文化層の堆積は認められなかった。

## 第6章 山之神南側遺跡

山之神南側遺跡も大間々扇状地の東半部にあたるが、第7図に見るように、扇状地東側の遺跡が多い地域とは数百mしか離れていないため、以西の遺跡に比べて遺構が存在する可能性が高く、特に注意が必要な地域である。調査前の土地利用の現況は、畑地と宅地である。

対象地は現道によって細かく分かれているため、Ⅰ～Ⅶ区に分けて調査を行った。トレンチは、原則として対象地を縦断するように、東西に5列ずつ設けたが、宅地の集中するⅡ～Ⅳ区など、不規則な配置となっている所もある。トレンチの数は合計59本である。

調査の結果、溝、炭焼窯が確認され、その部分については一部拡張して調査した。

V区では17号トレンチにおいて東西方向の溝が確認された。この1号溝(第16図)は幅9m、深さは確認面から1.50mのかなり大規模なものであるが、遺物は全く出土しなかった。埋土の特徴から、近世以降のかなり新しい時期のものと考えられる。

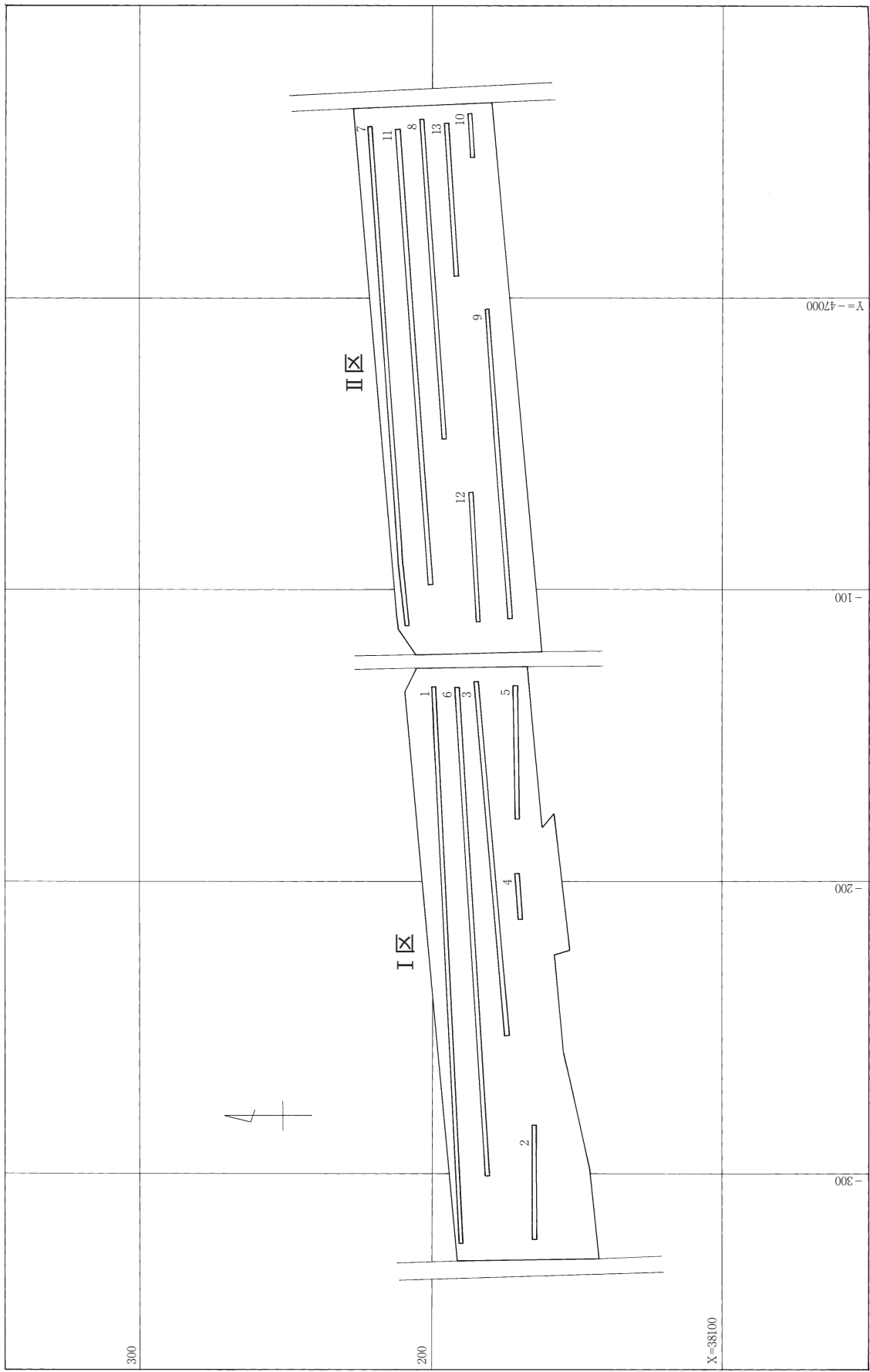
Ⅷ区東半部の37号・38号トレンチでは2本の溝が確認され、一部拡張して調査した(第17図)。2号溝は幅62～92cm、深さ11～35cmで、確認した長さは約24mである。走行方向はN-5°-Eであり、ほ

ぼ直線的に伸びている。断面を見ると複数の掘り直しが認められる。

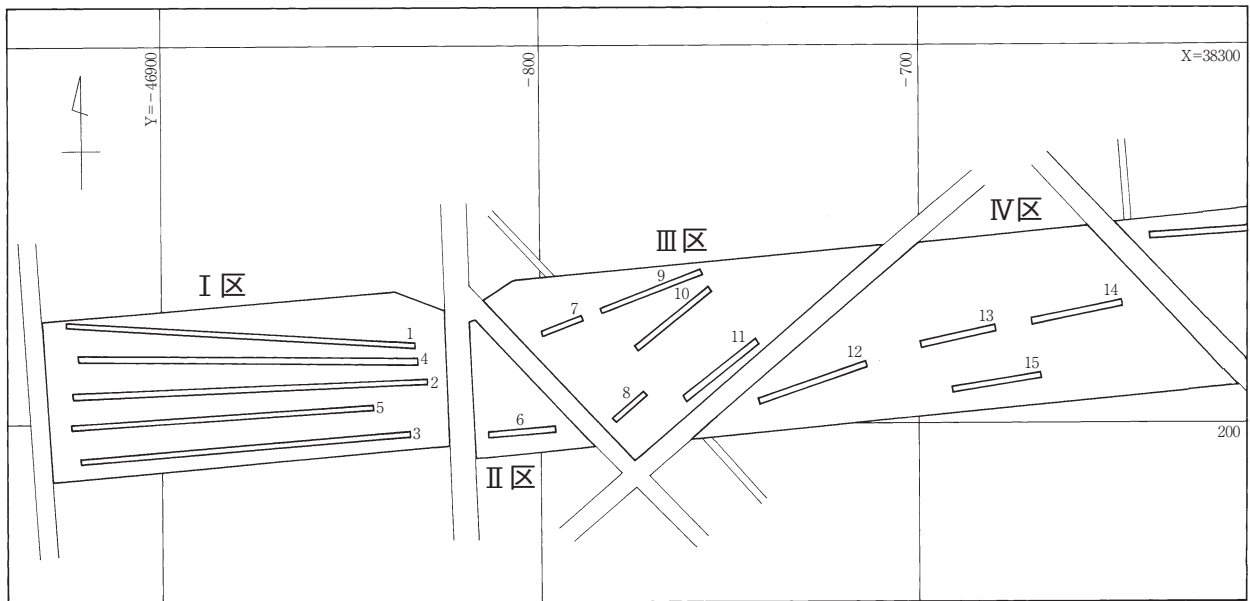
3号溝は2号溝から西に延びるが、新旧関係は明らかではない。幅1.57～2.18m、深さ15～30cmである。走行方向はN-86°-Eで、やや湾曲している。2号溝、3号溝とも遺物が出土しないので時期を特定できないが、埋土の特徴から近世以降の新しい時期のものと考えられる。

炭窯はX区46号トレンチで3基確認され、その部分を拡張して調査した(PL.6)。長さ4～5m、幅2.4～3.0mの卵形の窯であり、それが0.8～1mの間隔をあけて東西に並んでいた。主軸方位はいずれもN-8°-Eであり、北側に煙突を設けている。埋土からガラス製品が出土しており、近現代のものである。

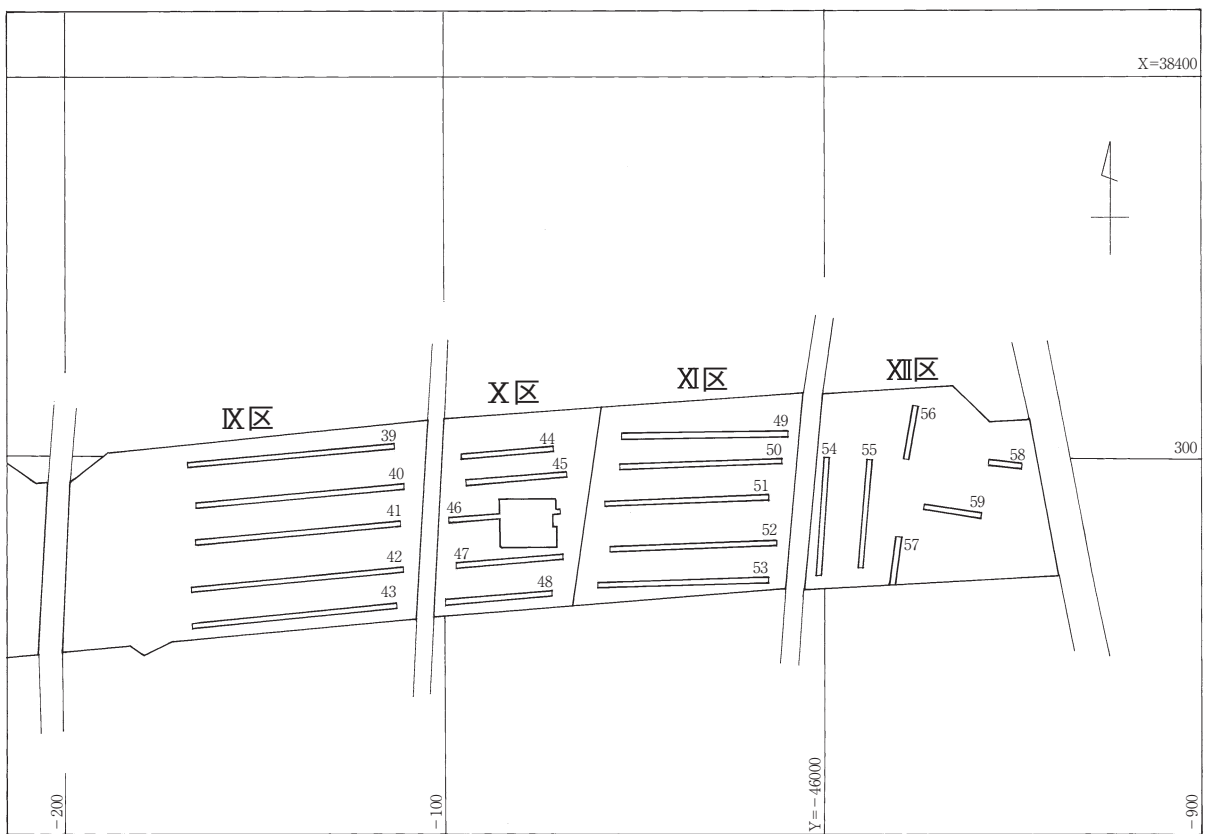
この区においてもローム層に深掘りを入れて調査したが、1～2mで基盤の砂礫層となり、その間に旧石器文化層の堆積は認められなかった。



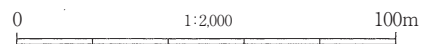
第12図 山之神野田遺跡トレンチ配置図



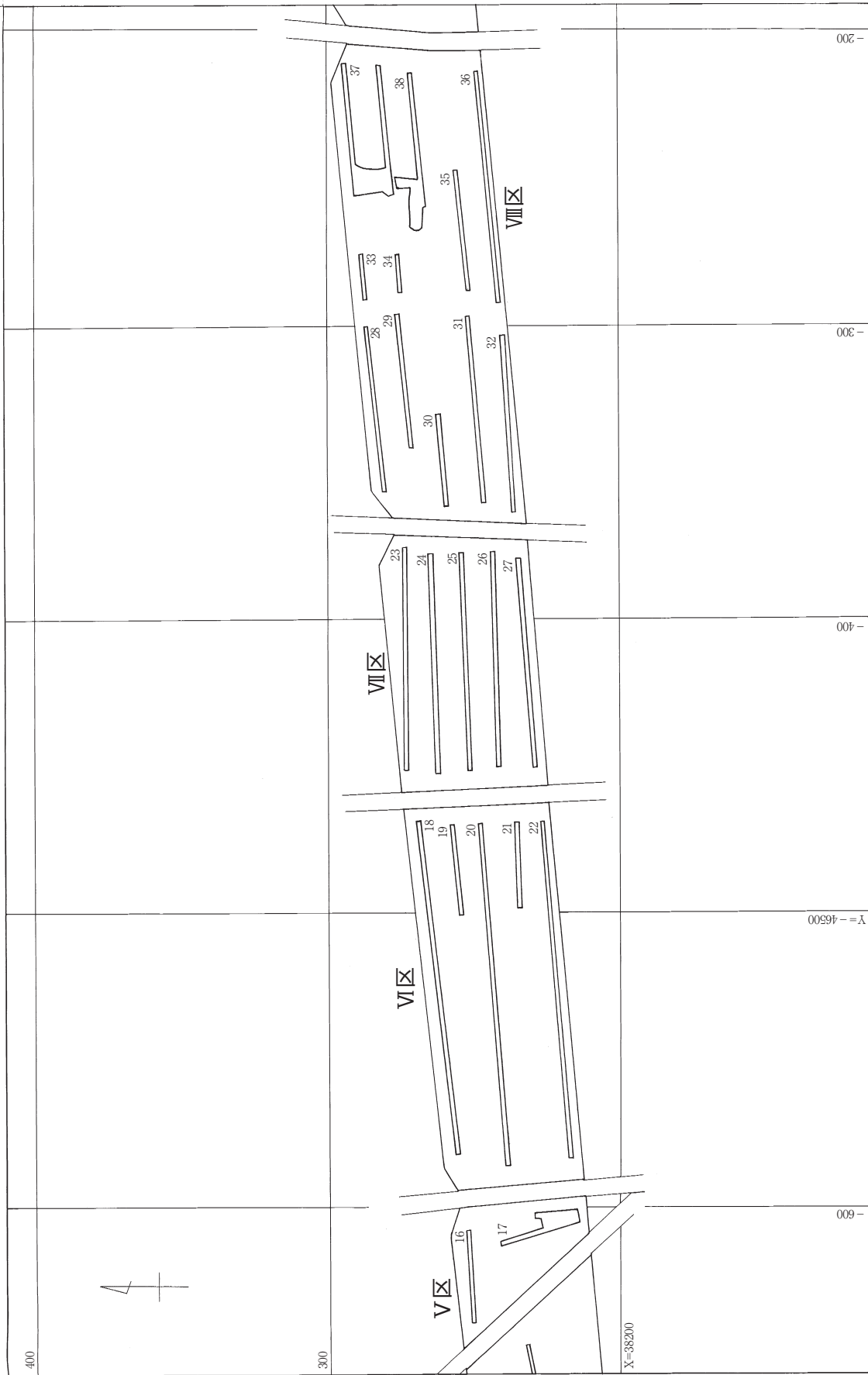
第13図 山之神南側遺跡 I～IV区トレンチ配置図



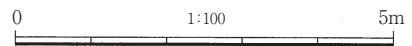
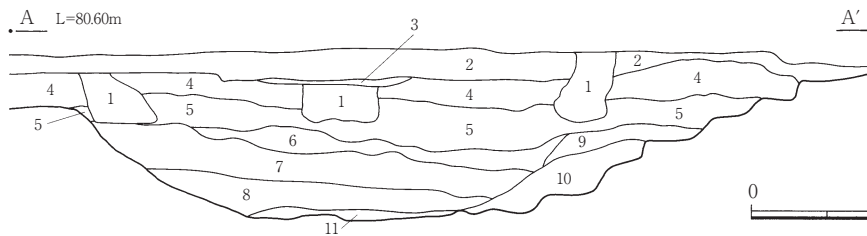
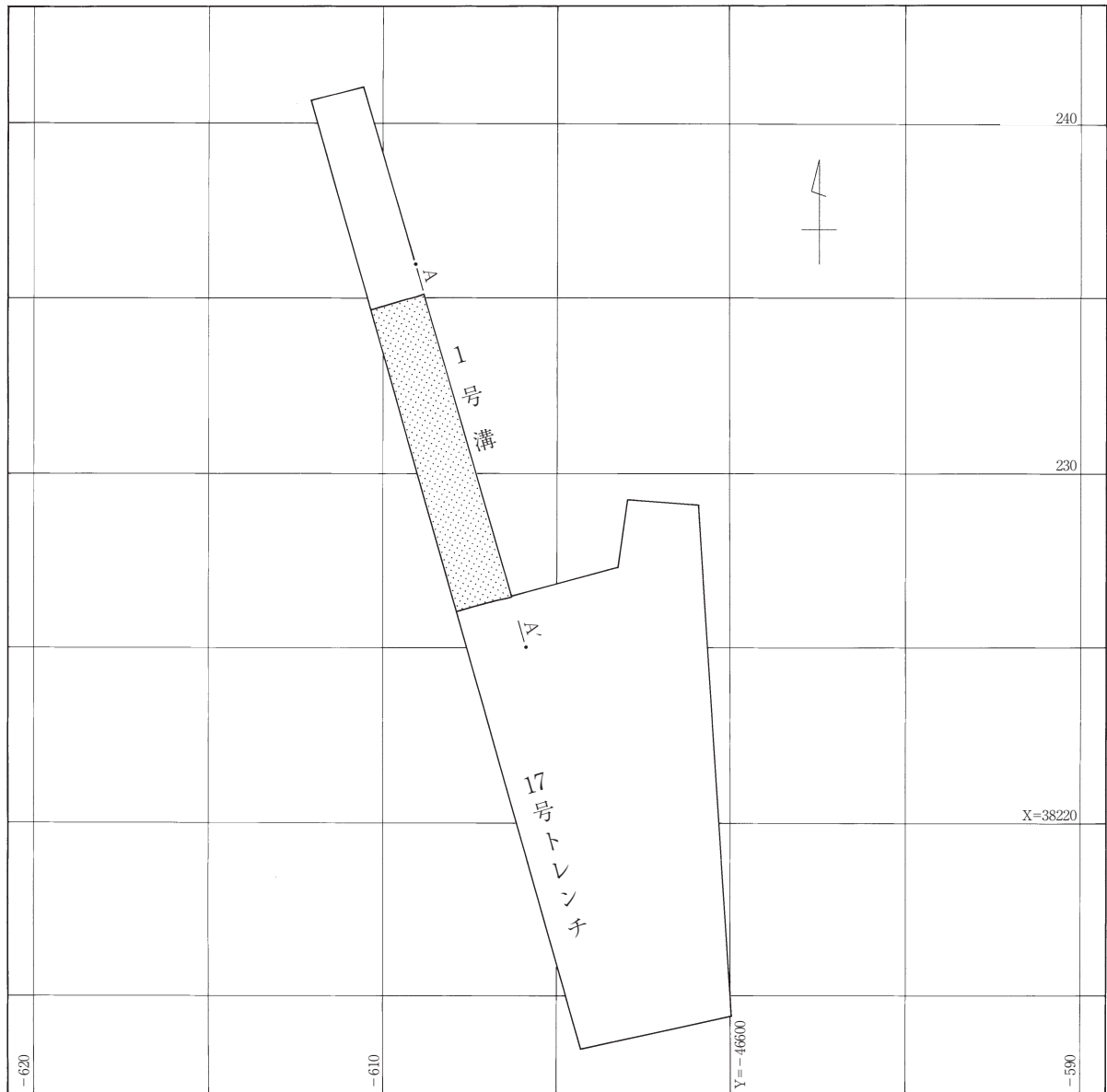
第15図 山之神南側遺跡IX～XII区トレンチ配置図





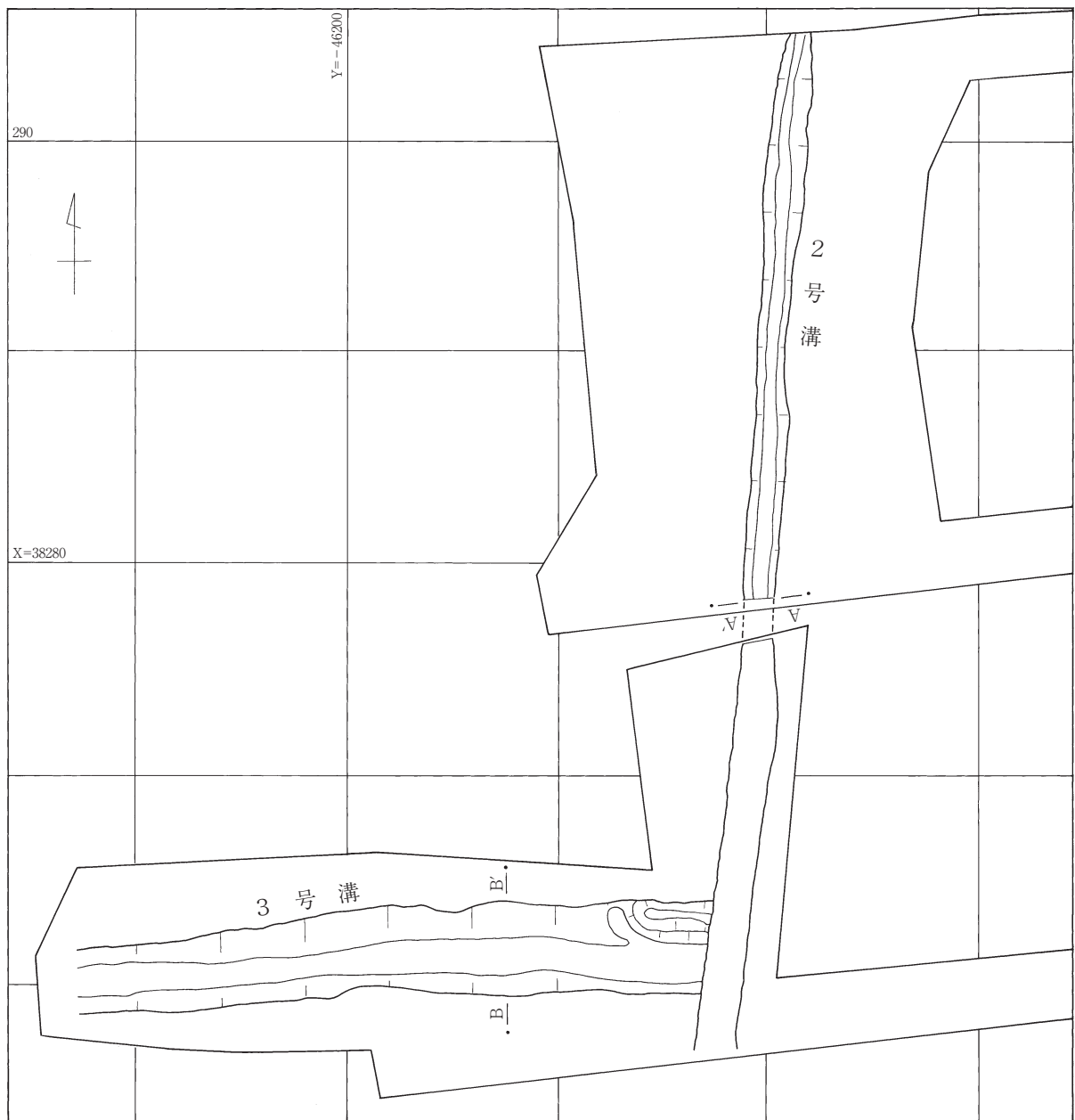


第14図 山之神南側遺跡V～VII区トレンチ配置図

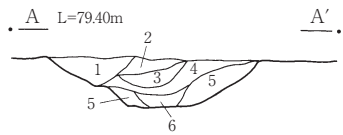


- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1 攪乱 トレンチャーの溝と思われる。    | 7 黄褐色土 砂質。           |
| 2 暗褐色土 表土。             | 8 砂礫層                |
| 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。耕作土。 | 9 にぶい黄褐色土 シルト質。粘性あり。 |
| 4 黄褐色土 砂質。             | 10 黄褐色土 砂質。          |
| 5 灰黄褐色土 固く締まっている。      | 11 礫層                |
| 6 褐灰色砂                 |                      |

第16図 山之神南側遺跡V区1号溝



2号溝



3号溝



0 1:160 5m

0 1:40 1m

- 1 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 2 褐色砂質土
- 3 褐色砂
- 4 褐色砂質土 砂を含む。
- 5 褐色土 ロームブロックを含む。
- 6 暗褐色砂質土

第17図 山之神南側遺跡Ⅷ区2・3号溝

## 第7章 西野原遺跡（3）

### 第1節 遺跡の概要

西野原遺跡（3）は、県道桐生・新田木崎線以東、旧太田市・藪塚本町の境界までがその範囲であり、「例言」で述べたとおり、発掘調査時には藪塚西野原遺跡と呼称していた遺跡である。

この地域は第2章第1節で述べたように、大間々扇状地の東端部分にあたるが、調査対象地の長さが東西700mもあるので、立地する地形が東西で大きく異なり、それに伴って遺構の密度も異なることが予想された。すなわち、遺跡の東半部は扇状地東側の低地部に近くなるため、多くの遺構の存在が予想されたが、西側はそこからかなり離れるため、遺構が希薄である可能性が強かった。調査前の土地利用の状況は、畑と宅地が混在しており、概ね西から東に向かって緩やかに下がる地形となっている。

調査は平成15年度と16年度初めにかけて行った。調査対象地は東西に長いので、現道を利用してⅠ～Ⅸ区の9地区に分け、さらに一部の調査区では調査工程の都合で2から3地区に細分した。これらの9カ所の調査区のうち、遺構が希薄であると予想される西半部（Ⅰ～Ⅴ区）は範囲確認調査を行い、以東のⅥ～Ⅸ区は本調査とした。

その結果、Ⅰ～Ⅴ区では顕著な遺構は確認されなかったが、この5地区の中では最も東にあるⅤ区では、時期・性格共に不明の溝2条、土坑1基が見つかった

いる。これは、東に向かって遺構が徐々に増えていく状況を示すものと思われる。

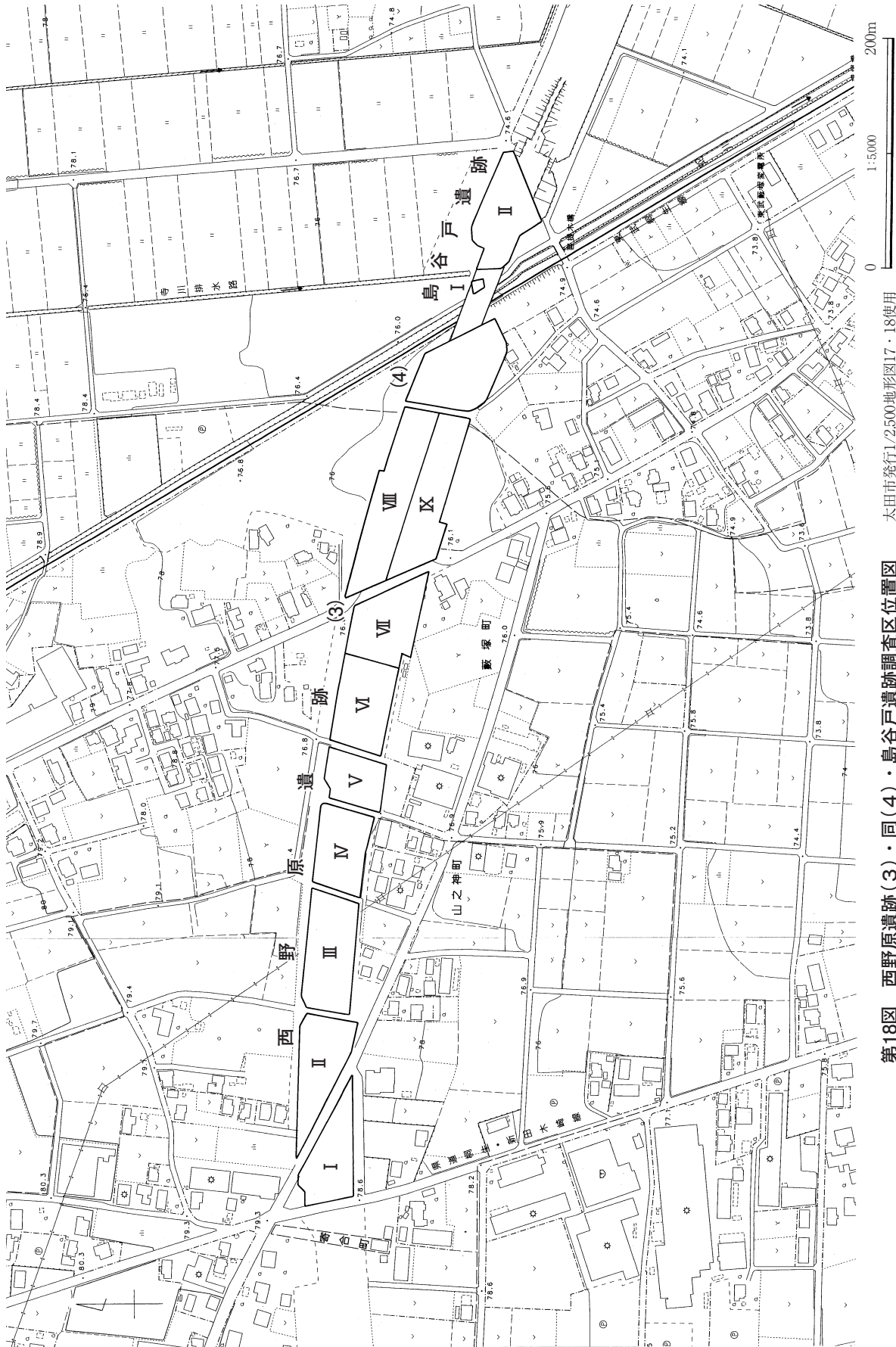
さらに東側にあるⅥ～Ⅸ区の4地区では、予想通り多くの遺構が確認された。調査できた遺構は、竪穴住居6軒、掘立柱建物8棟、溝107条、土坑220基、井戸1基などである。竪穴住居はいずれも6世紀前半～中葉のもので、Ⅷ区に集中する。この区の北側に同時代の集落遺跡が存在することは、西野原遺跡（2）（5）の発掘調査で判明している。本調査区の竪穴住居は、その集落遺跡の南端部に当たるものと思われる。掘立柱建物は古代末から中世にかけてのものである可能性が強いが、その分布は竪穴住居と逆に、Ⅷ区を除いた3地区に分布している。Ⅵ区北東部にある1号掘立柱建物は、正方形の溝に囲まれたもので、その性格が目される。また、Ⅶ区東端部からⅨ区西端部にかけては5棟の建物が集まっており、一連の屋敷である可能性が考えられる。溝は全地区から数多く見つかったが、走行方向が近似するものとそれと90°異なるものも多くあり、それらは土地区画を示しているものと思われる。掘立柱建物もこれらの溝と近い方向を示しており、これがこの周辺の古くからの区画方向だと思われるが、地形の傾きもその方向に近いところが多いので、この方向は本来地形に制約されたものであるかもしれない。

### 第2節 Ⅰ～Ⅳ区の調査

Ⅰ～Ⅳの4地区では範囲確認調査を行った。トレンチの配置は第19図に示したとおりであり、合計13本である。この範囲には宅地が多く存在したため、トレンチの設定はその移転状況に制約され、かなり変則的となっている。

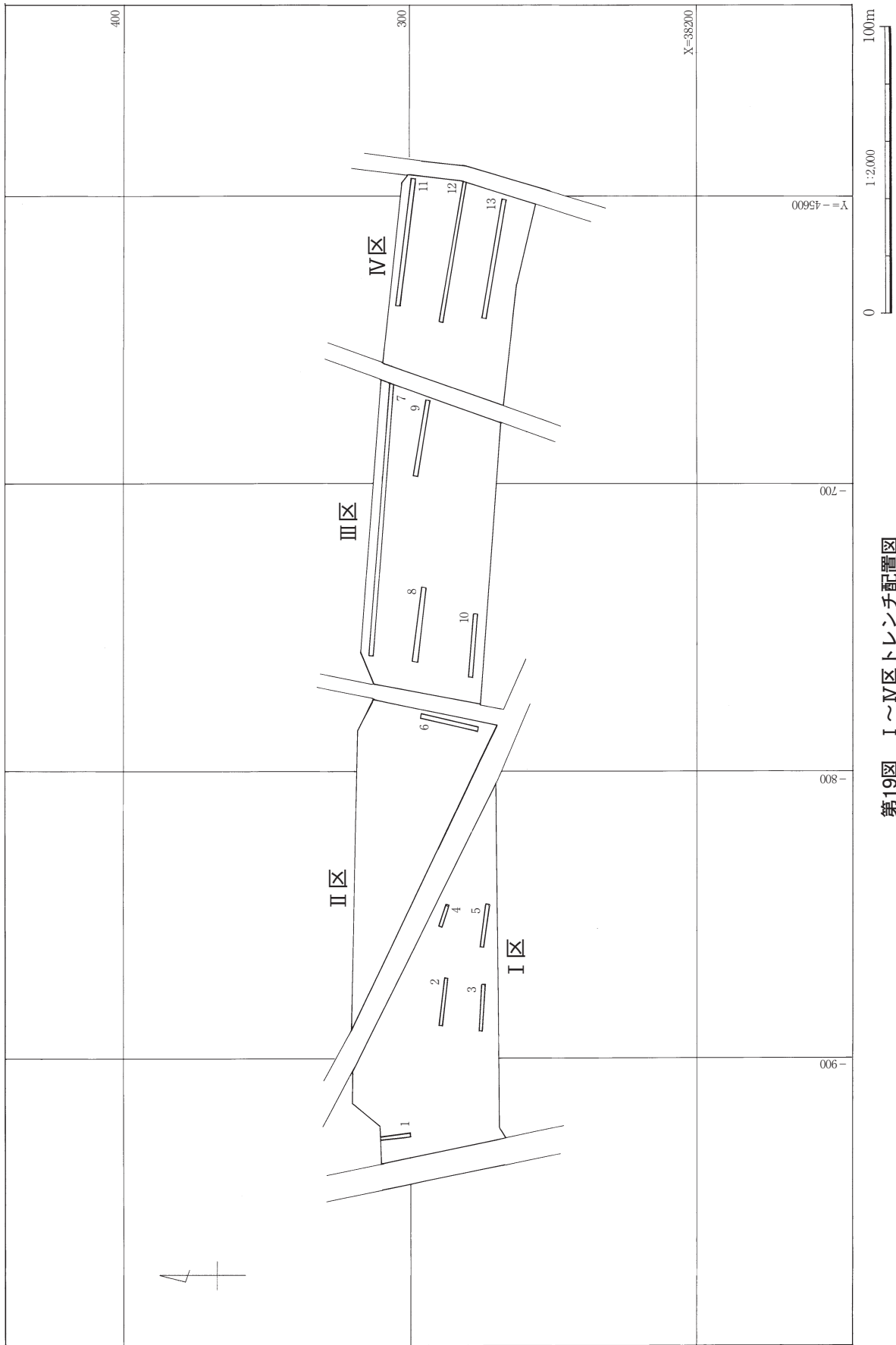
これらの地区では、近世以降の耕作や攪乱によっ

て地表面がかなり削平されているらしく、20～40cmの薄い表土の下はすぐにローム層となっていた。遺構確認はこの面で行ったが、遺構は全く確認されなかった。また、数カ所で深掘りを行ったが、旧石器文化層の堆積は見られなかった。



第18図 西野原遺跡(3)・同(4)・島谷戸遺跡調査区位置図

太田市発行1/2,500地形図17・18使用



第19図 I～IV区トレンチ配置図

### 第3節 V区の調査

V区は範囲確認調査とした調査区の中ではもっとも東に位置し、遺構の存在がより高いものと思われたが、調査の結果、予想通り、溝・土坑などが少数見ついている。

調査は調査区の北、中央、南に3本のトレンチを東西方向に設けて行い、北から1～3号トレンチと名付けた。

第20図に見るように、この地区の表土は非常に浅く、わずかに20cmほど掘り下げると遺構確認面となる。遺構と思われるものは2本の溝と1基の土坑である。

溝は1号、2号トレンチの東半部で、南北方向に走るものが2条確認された。その走行方向から考えて、1号トレンチの2本の溝と2号トレンチの2本の溝とがそれぞれ接続するものと思われる。東側にあるものを1号溝、西側にあるものを2号溝と名付けた。

1号溝は1号トレンチ北端から2号トレンチ南端までの検出全長25mで、幅75cm、深さ16cmである。走行方向はN-21°-Eである。1号トレンチから2号トレンチにかけてほぼ直線的に走っているらしい。灰黄褐色の砂質土ないし軟質土で埋まっているが、底面には砂礫層が見られるので、水流があった時があったのかもしれないが、浅い溝であるので長期間水を流す水路のような溝ではないであろう。

2号溝は1号溝の西に約15m離れてほぼ平行する溝である。検出した全長は22.5mで、幅150cm、深さ14cmである。走行方向はN-25°-Eである。1号トレンチと2号トレンチとの方向がやや異なるので、多少蛇行している可能性がある。灰黄色ないし浅黄橙色のローム質土に砂粒が混じる土で埋没するが、特に砂礫は見られず水流があったようには見えない。いずれの溝も遺物が見られず、埋土の特徴などから近世以後のものと思われる。

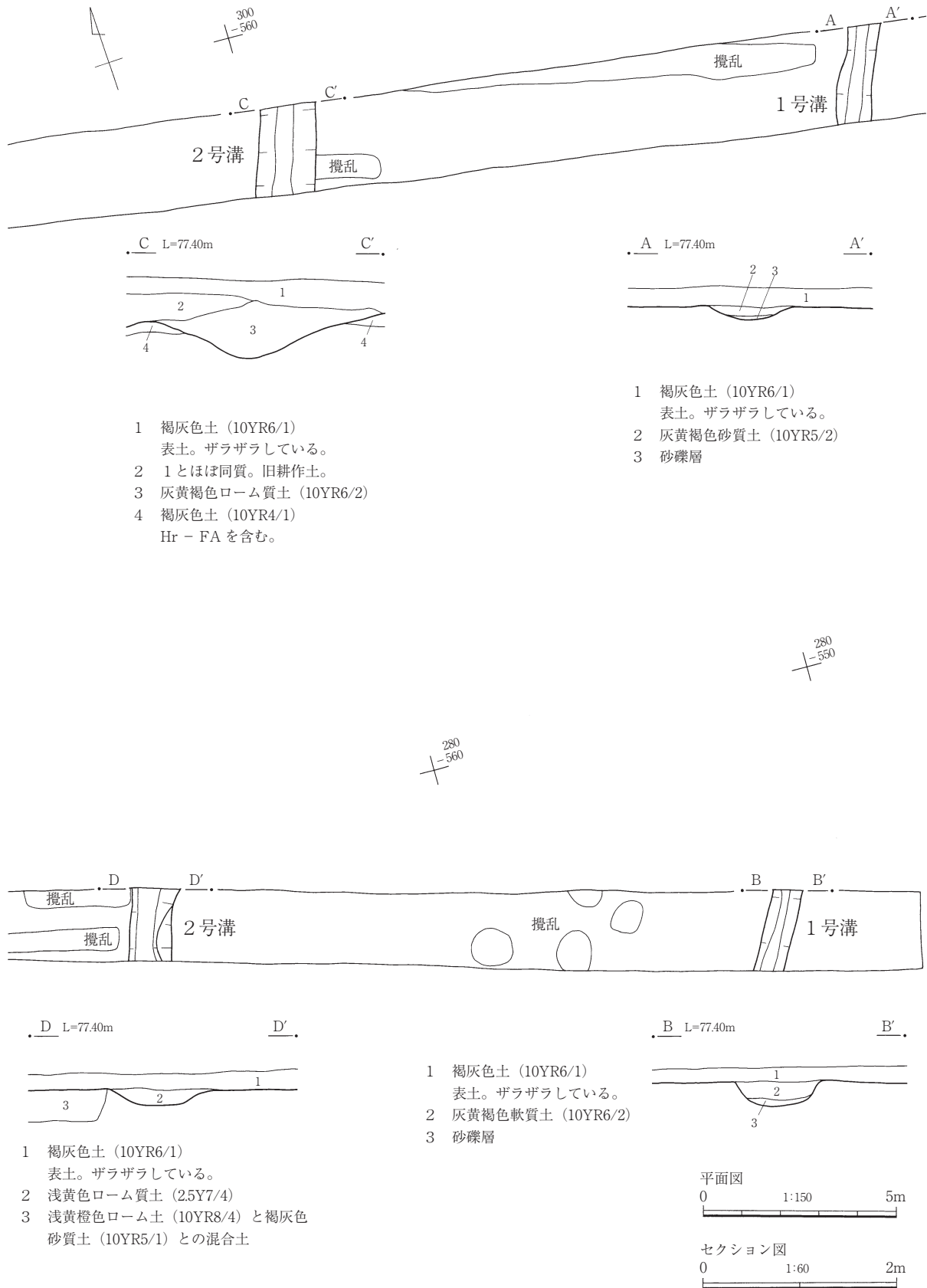
土坑は3号トレンチの中央南端で1基確認した。南側半分程度がトレンチ外となるが、長方形で全長

250cm、幅90cmであると思われ、深さは30cmである。遺物は出土せず、時期は特定できないが、埋土の特徴から近世以降のものと思われる。

その他、調査区全域で土坑、ピット状の落ち込みが見られたが、埋土の特徴などから近現代の攪乱と思われるものばかりであった。

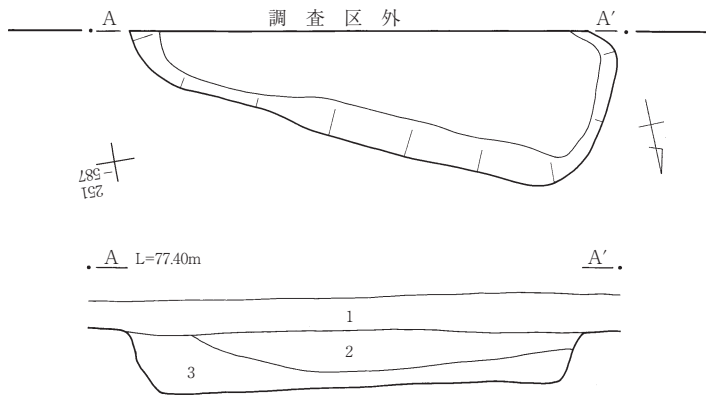
出土した遺物は非常に少なく、3号トレンチで打製石斧が見つかったのみである。

この区では以上のように時期不明の溝2本、土坑1本が見つかったのみで、顕著な遺構は確認できなかった。そのため、この区においても全面調査は行わないこととした。



第20図 V区1・2号溝

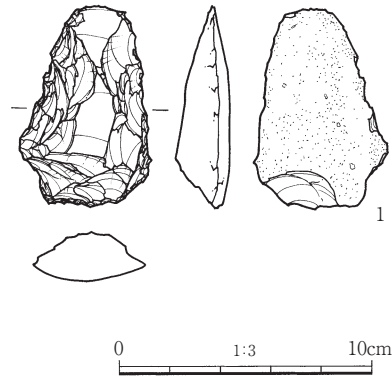




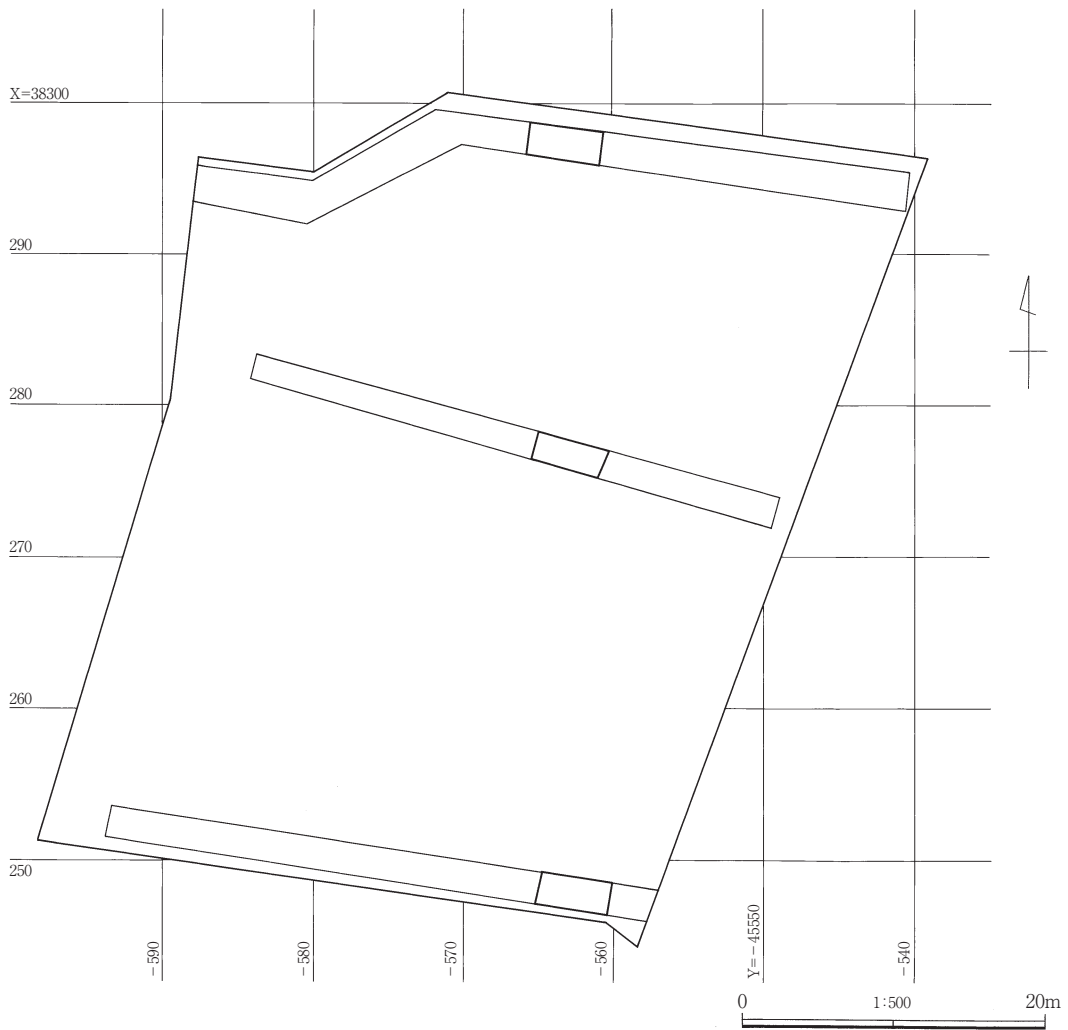
- 1 褐灰色土 (10YR6/1)  
表土。ザラザラしている。
- 2 におい黄色ローム質土 (2.5Y6/3)
- 3 黄灰色軟質土 (2.5Y4/1)

0 1:40 1m

第21図 V区1号土坑



第23図 V区遺構外の出土遺物



第22図 V区旧石器確認トレンチ配置図

## 第4節 VI区の調査

### 1 概要

VI区は中央部から西半部にかけて建築物の跡地が2棟分あり、その場所については遺構面まで壊されていることが確実にあったため、付図に見るように変則的な調査区となっている。この付近の地形は、大間々扇状地の東端部にあたるため、概ね西が高く東が低い地形となっている。遺構確認面における標高を見ると、特に南西隅が77.0mと最も高く、それが東へ向かって緩やかに傾斜し、東端部は75.85m前後となる。その標高差は1.15mである。

この区においても顕著な遺構はさほど多くなく、遺物の散布も少なかったが、東端近くに掘立柱建物が見つかったのを始めとして、溝や土坑などが全域に分布しているのが確認されたため、この地区以東では遺構が増加することが予想された。

この区の調査で確認できた遺構は、掘立柱建物2棟、溝19本、土坑18基であり、その他、畠跡・耕作痕が広い範囲で確認できた。特に注目されるのは1号掘立柱建物と呼んだ遺構である。細い溝で囲まれた1辺14m程度の正方形の区画の中に掘立柱建物が1棟あるものであり、特別な用途のものと考えられる。VI区東端からVII区、IX区にかけて掘立柱建物が分布しており、関連したものである可能性が高い。

### 2 掘立柱建物

#### 1号掘立柱建物(第24・25図、PL.8)

1号掘立柱建物は、VI区とVII区に跨る位置にある。ほぼ正方形をなす溝(VI区4号溝)の中に掘立柱建物が存在するもので、溝・建物の配置や方向などから両者は一体の遺構であると思われるため、以下、この溝を含めて1号掘立柱建物として報告する。

掘立柱建物は桁行3間、梁間2間の南北棟の側柱建物で、規模は柱穴心-心で計測して、桁行き5.06~5.10m、梁間3.83~3.95mである。方位はN-22°-Eである。桁行の柱間を見ると、等間隔ではなく、中央間がやや広いことが分かる。東辺で測ると、中

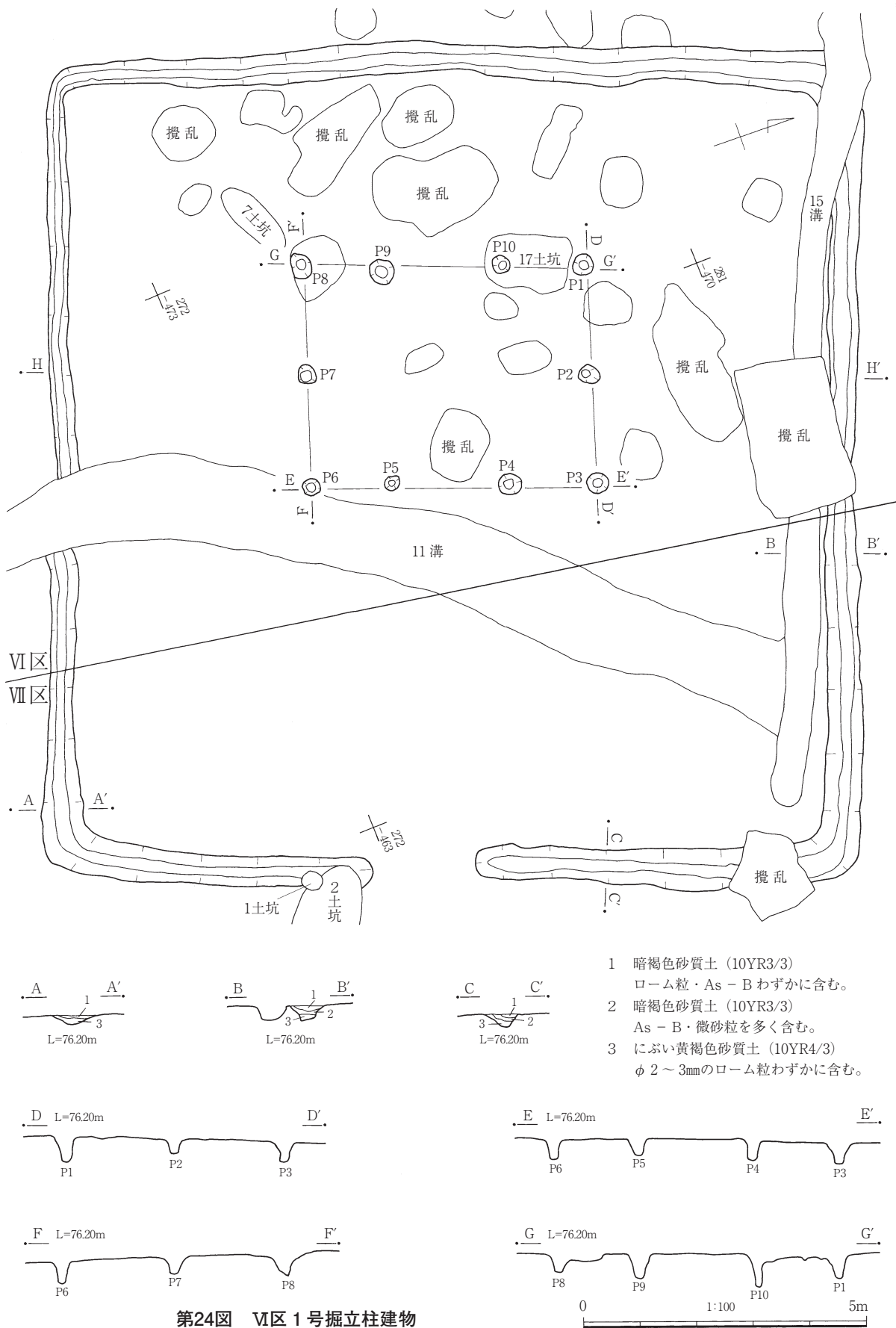
央間が2.02m、両脇間が北側1.60m、南側1.48mである。梁間はほぼ等間隔である。柱穴はいずれも小さく、ほぼ円形で、切り合いは認められなかった。それぞれの規模は以下の通りである。

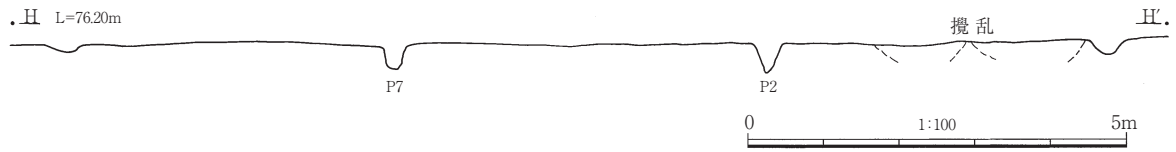
P 1	長径38cm、短径38cm、深さ43cm
P 2	長径38cm、短径38cm、深さ25cm
P 3	長径38cm、短径36cm、深さ36cm
P 4	長径40cm、短径40cm、深さ37cm
P 5	長径34cm、短径30cm、深さ30cm
P 6	長径33cm、短径28cm、深さ35cm
P 7	長径38cm、短径33cm、深さ32cm
P 8	長径50cm、短径36cm、深さ42cm
P 9	長径46cm、短径43cm、深さ42cm
P 10	長径33cm、短径30cm、深さ50cm

周囲を囲む溝は北辺14.6m(西端部が壊されているため推定値)、南辺14.23m、東辺14.34m、西辺14.44mであり、多少の歪みはあるものの、ほぼ正方形といってよい形状である。溝の幅は28cm~88cmほどで特に広狭に特徴はない。深さは確認面から4cm~28cmであり、規模としてはかなり小さな溝である。溝の内外には柵列・土塁などの施設は認められなかった。そのためこの溝の役割は、何かの進入を防ぐというよりは、区画を明示することの方が大きいように思われる。東辺の溝はほぼ中央部で1.9m途切れており、ここが出入り口となっているのではないと思われる。

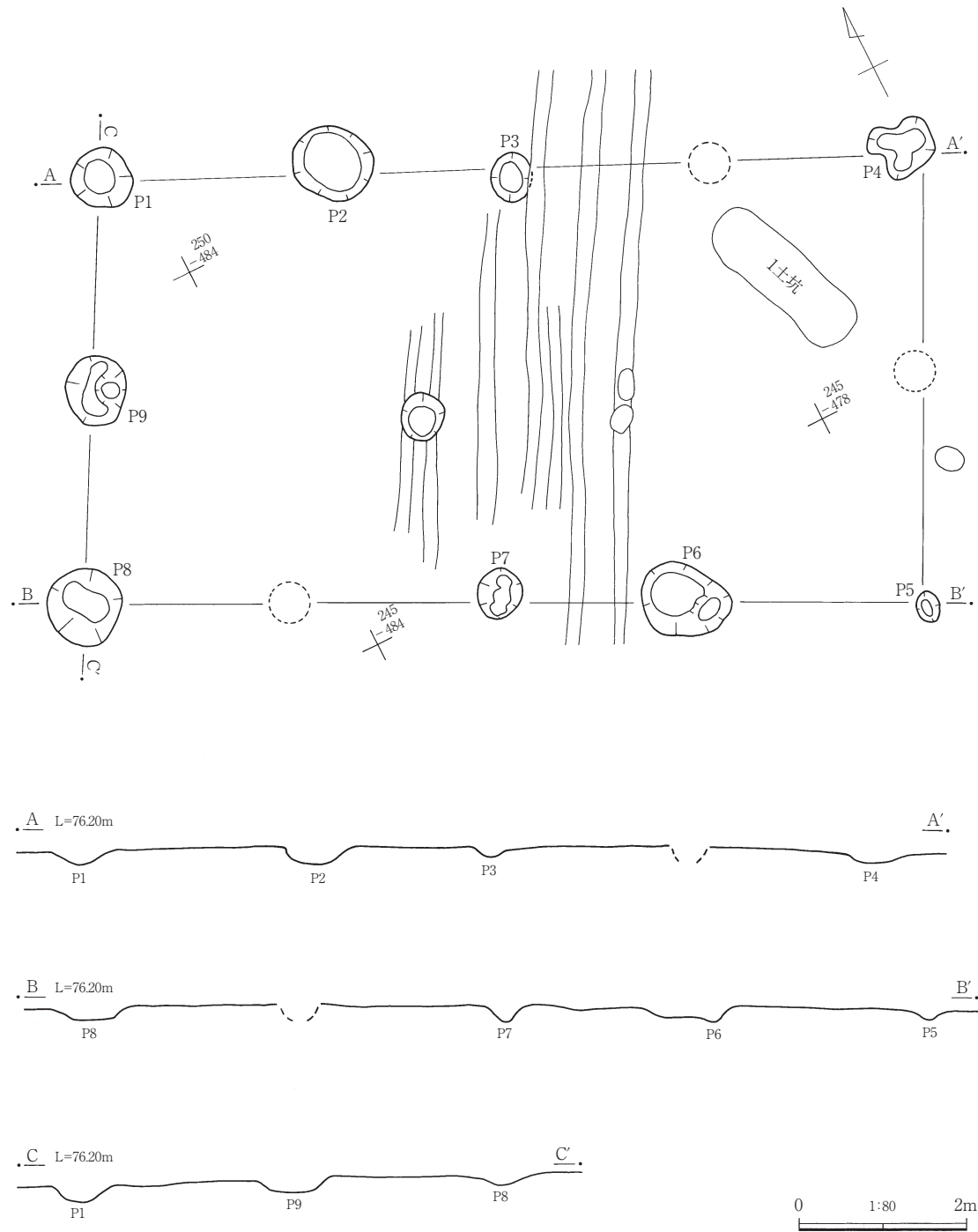
掘立柱建物はこの溝が作り出す正方形の西寄りにある。それぞれの柱列と溝の中央との距離を測ると、建物・溝の西辺の間隔は3.65m、同じく北辺は4.53m、東辺は6.65m、南辺は4.38mである。建物の東辺が溝で作られる正方形区画の中心線にかなり近い位置にあることが分かる。

これらの遺構の時期は、伴出遺物がほとんど無いので特定できないが、溝の埋土にAs-Bが含まれて





第25図 VI区1号掘立柱建物断面 (平面図は前ページ)



第26図 VI区2号掘立柱建物

いるので、平安時代末～中世にかけてのものである可能性が高い。柱穴、溝ともに切り合いなどは確認されておらず、いずれも1時期のものと思われ、存続期間は短いものと思われる。

遺構の性格も、それを示す遺物が、この周辺も含めて出土していないので明確ではない。景観としては、小規模な溝によって正方形に囲まれた区画の中に、1棟の建物が建っていて、東側に入り口を持つというものであり、それ以外の施設は確認されていない。わざわざ溝によって建物を区画し、周囲と隔てていることから、祭祀的なものを感じさせ、前橋市鳥羽遺跡での神社遺構とも類似するため、それに近い宗教的な性格をもった建物ではないかと思われる。

**2号掘立柱建物（第26図）**

調査区東南隅近くで見つかった桁行4間、梁間2間の側柱建物である。建物を構成するはずの12本の柱穴のうち3本が見つからないが、その他の柱穴の配置から建物と判断した。柱穴は径が大きいものの深さはいずれも浅いので、この部分は後世にかなり削平を受けたものと思われ、一部の柱穴がそれによって破壊されたものと思われる。建物の規模は北東辺9.65m、南西辺10.10m、南東辺5.56m、北西辺5.52mであり、やや歪みがある。方位はN-63°-Wである。各柱穴の規模は以下の通りである。

- P 1 長径75cm、短径70cm、深さ18cm
- P 2 長径97cm、短径92cm、深さ22cm
- P 3 長径62cm、短径50cm、深さ12cm
- P 4 長径80cm、短径58cm、深さ10cm
- P 5 長径37cm、短径28cm、深さ10cm
- P 6 長径110cm、短径83cm、深さ12～18cm
- P 7 長径63cm、短径55cm、深さ21cm
- P 8 長径95cm、短径90cm、深さ15cm
- P 9 長径85cm、短径75cm、深さ18cm

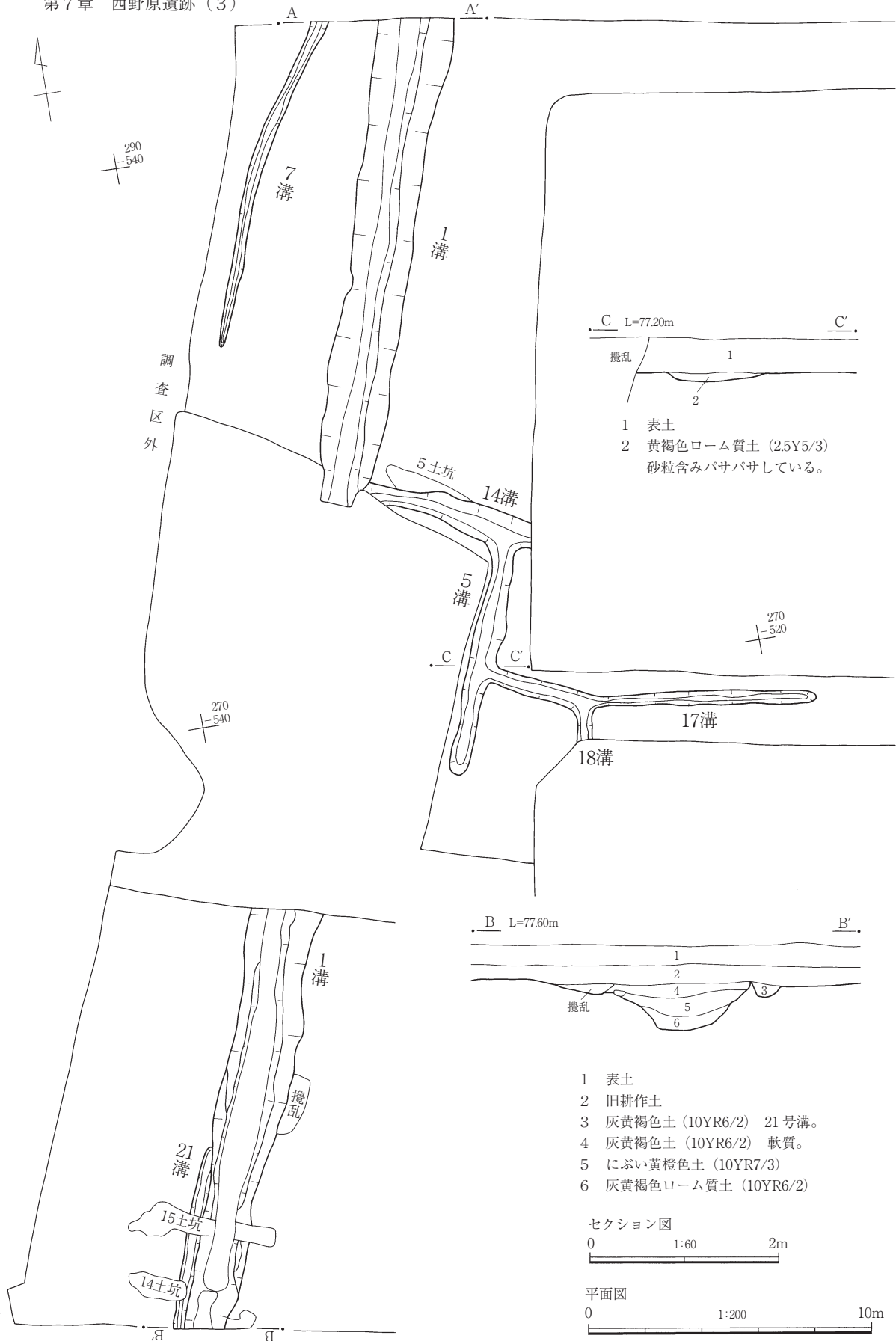
遺構の時期・性格は不明である。

**3 溝**

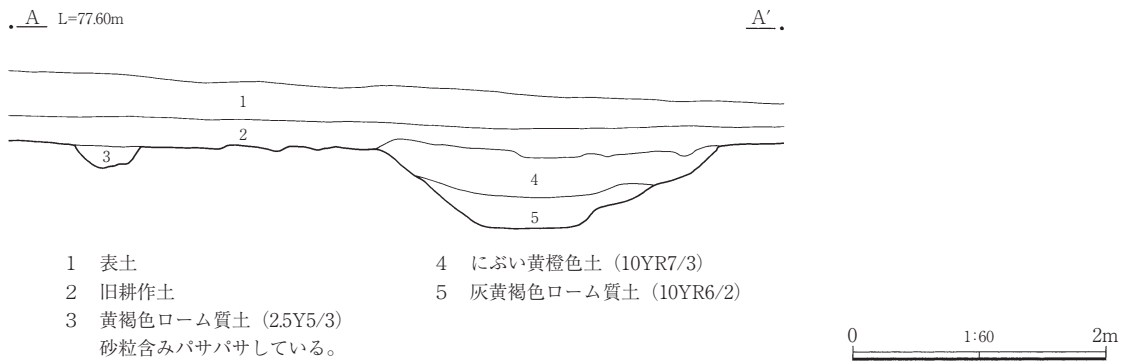
溝は全域で19本調査した。これらのうち注目されるのは1号溝である。この溝はVI区西端部を直線状にのびている。確認された全長は47.4mで、幅は1.48～2.75m、深さは断面(A-A')を取ったところで0.63mであり、断面形状は逆台形でしっかりした溝である。この溝は北側に接する県道調査区・西野原遺跡(1)でも調査されており、VI区から13.2m北に延びた地点で途切れていることが確認されている。時期は西野原遺跡(1)でも顕著な伴出遺物がないが、同調査区では埋土中層に浅間B軽石(As-B)が多量に含まれていたため、平安末以前に遡る可能性がある。この周辺は北にいづくにつれて標高が高いが、この溝は北で途切れているので、用水路としての用途は考えにくく、性格は不明である。ただしこの溝の方向はN-18°-Eであり、このように北でやや東に振れる方向を取る溝は遺跡内にくつつか見られるため注意される。この方向が、古くからのこの地域の土地区画の方向なのであろう。この方向は周辺の等高線にも近く、地形にも則っている方向である。

番号	規模 (m)			備考
	検出長	幅	深さ	
1	47.40	1.48～2.75	0.63	
2	11.50	1.08～1.49	0.25	3溝より古
3	5.15	0.32～0.58	0.18	2溝より新
4	53.90	0.28～0.88	0.25	11溝・15溝より古
5	8.35	0.58～0.98	0.08	
6	27.40	0.43～0.69	0.20	
7	12.30	0.18～0.45	0.16	
8	15.80	0.30～0.70	0.42	
9	17.60	0.78～1.23	0.45	
10	11.80	0.80～1.18	0.45	
11	21.50	0.90～1.62	0.18	4溝より新
12	28.20	0.72～1.40	0.22	
13	28.30	0.82～1.49	0.24	
14	6.30	0.52～1.20	0.15	
15	14.60	0.53～0.76	0.43	4溝より新
16	3.50	0.42～0.67	0.05	
17	11.60	0.29～0.45	0.07	
18	1.20	0.45～0.50	0.05	
19	欠番			
20	欠番			
21	6.60	0.32～0.44	0.15	

第2表 VI区溝一覧表

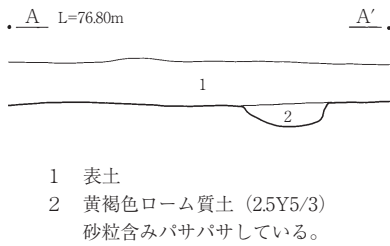


第27図 VI区 1・5・7・14・21号溝

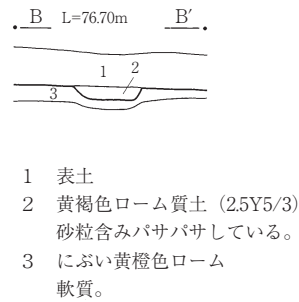


第28図 VI区 1・7号溝断面 (平面図は前ページ)

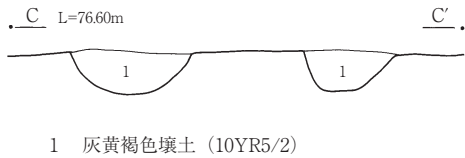
6号溝



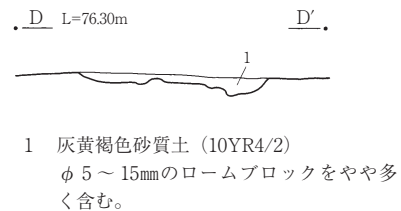
6号溝



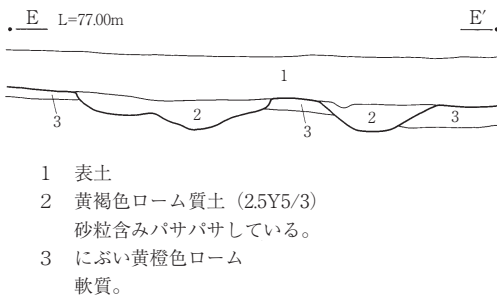
8・9号溝



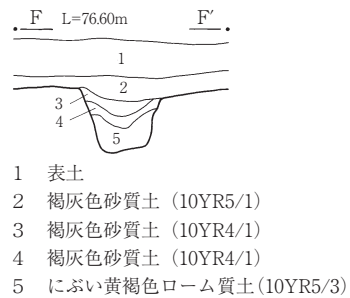
11号溝



12・13号溝

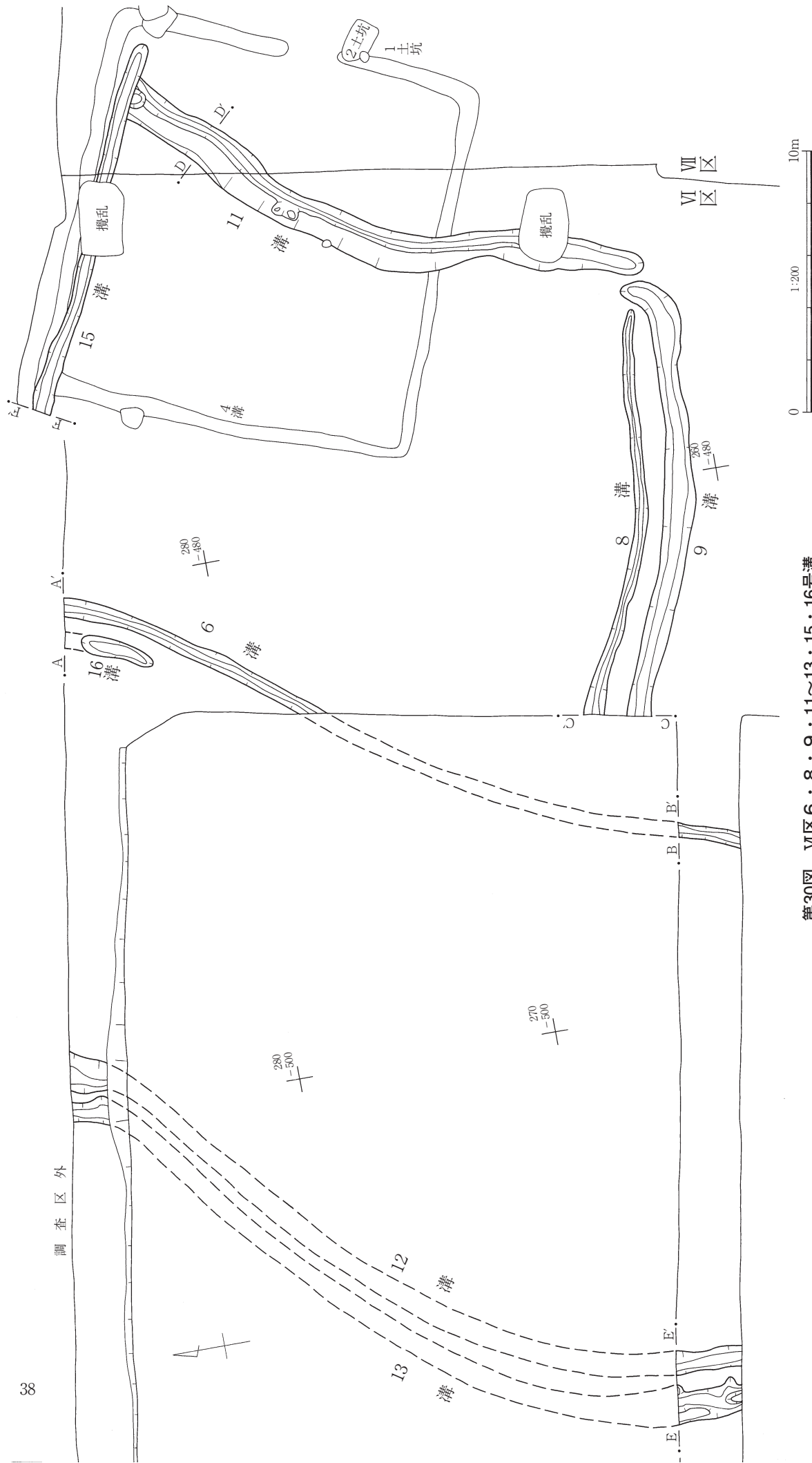


15号溝



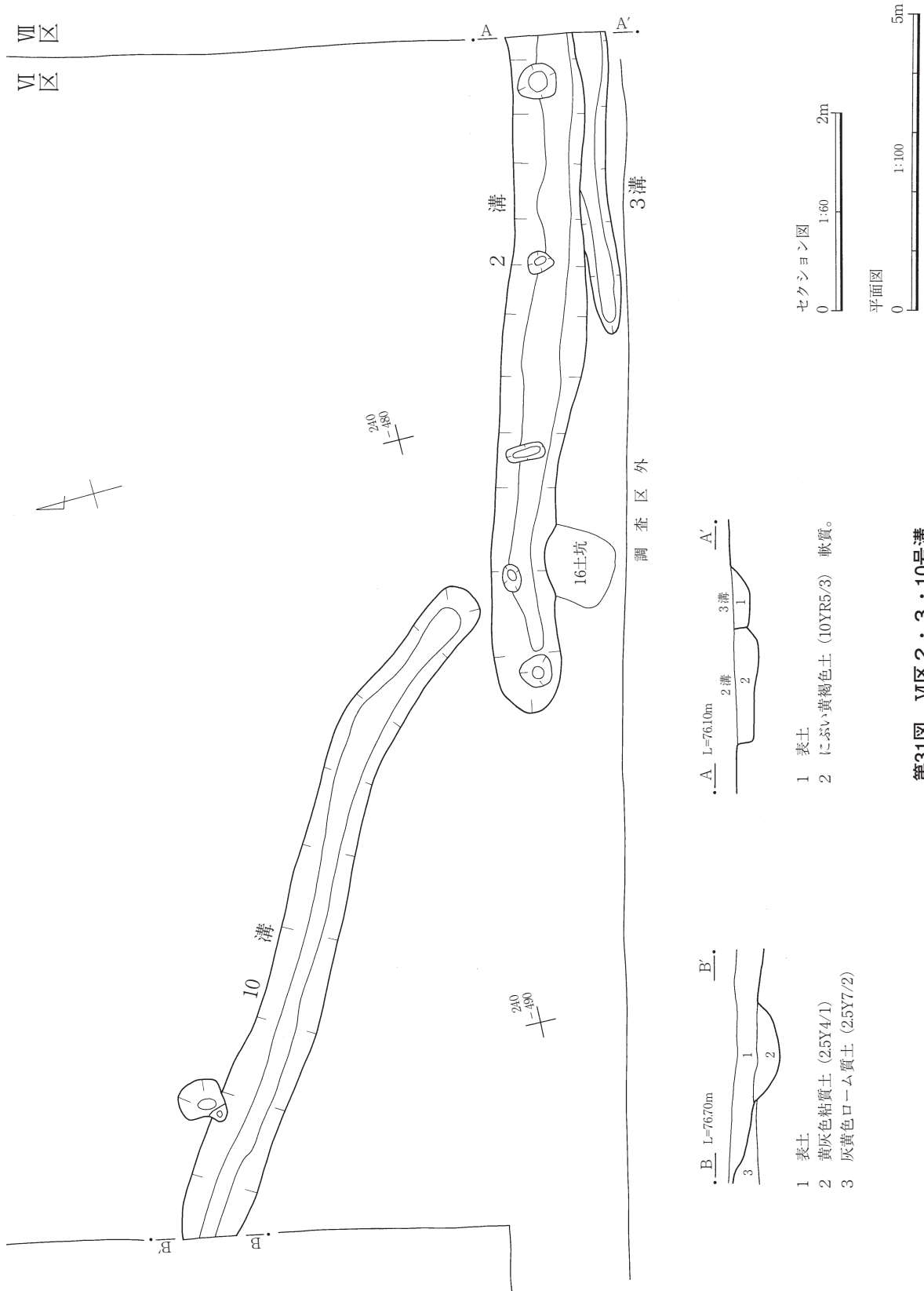
0 1:60 2m

第29図 VI区 6・8・9・11~13・15号溝断面 (平面図は次ページ)

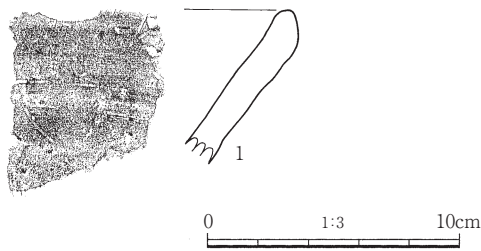


第30图 VI区 6·8·9·11~13·15·16号溝





第31図 VI区 2・3・10号溝



第32図 VI区2号溝出土遺物

その他の溝については、埋土の特徴やわずかな出土遺物から、いずれも近世以降のものと思われる。それぞれの走行方位にはややばらつきがあり、また、かなり蛇行しているものも多いが、巨視的に見れば、1号溝同様、北で東に振れる方位か、あるいはそれと直角に交わる方位を取るものが多く、区画溝か用排水溝などの役割をもつものであろう。いずれも幅が細く浅い溝であり、さらに途中で途切れているものが多いことを考えれば、用排水を流すものではなく、区画溝としての役割が大きいのではないかと考えられる。特に15号溝については、その東延長方向にはⅦ区2・3号溝がのび、西延長方向には西野原遺跡（1）で3号溝につながっているため、延長約120mかそれ以上の区画線の存在が想定できる。

8号と9号溝、6号と16号溝、12号と13号溝などのように、2本の溝がわずかな空間をあけて平行する例がみられるのは、田畑の畦の両側にこれらの溝が掘られていたことを想像させる。また、11号、15号溝はいずれも1号掘立柱建物の周囲の溝（4号溝）を破壊しており、新しいものであることが確認され

ている。

#### 4 土坑

土坑は18基調査している。

その分布には特徴的なところはなく、南西隅に6基があるほかは集中しているところはないが、調査区が限定されているので詳細はよく分からない。

各土坑の平面形は、第33図・第34図に見るように、長方形のものが多く、なかには溝状と呼べるような長いものもある。断面形状は逆台形で、底面が平坦になっているものがほとんどであり、いわゆる「芋穴」に類する性格のものが多く含まれているものと判断される。

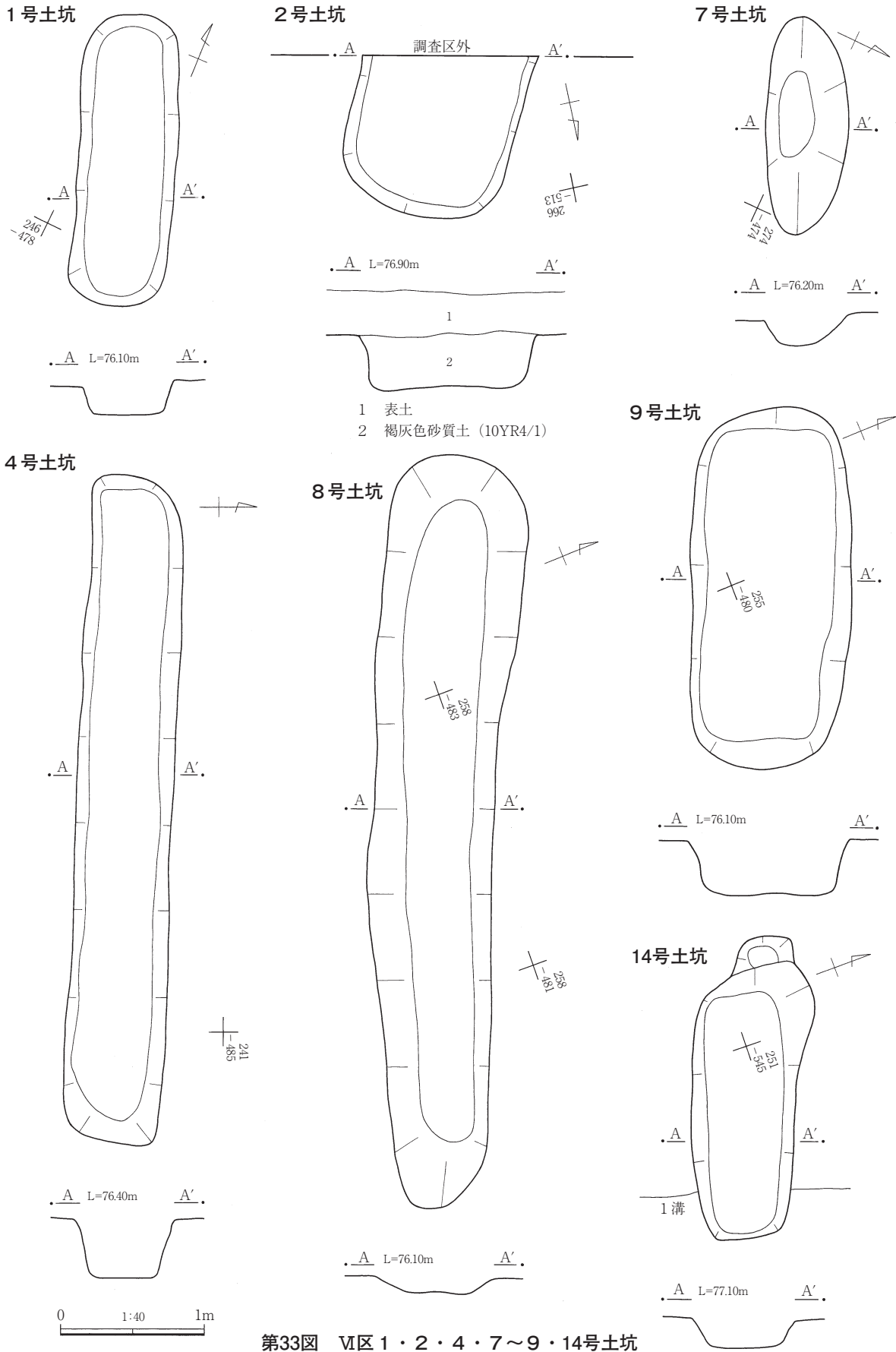
長軸の方向は、溝と同様に、北で東に傾くか、あるいはそれと直角の方向のものが多く、土地区画方向に規制されていると思われるが、3号・4号・6号のように異なるものもある。

それぞれの土坑の時期は明確に特定することはできないが、埋土の特徴やわずかな出土遺物から、近世かそれ以降のものと考えられる。

番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	備考
1	245-475	N-21° - W	205×68×24	土師器・陶器出土
2	260-510	N-24° - E	(116)×118×38	陶器・焙烙出土
3	240-500	N-88° - W	360×(88)×31	
4	240-480	N-88° - W	465×64×40	瓦出土
5	270-525		(310)×72×13	
6	285-485	N-84° - E	724×106×49	陶磁器・焙烙出土
7	270-470	N-66° - E	150×59×23	土師器出土
8	255-480	N-63° - W	524×96×11	
9	250-475	N-64° - W	252×114×40	

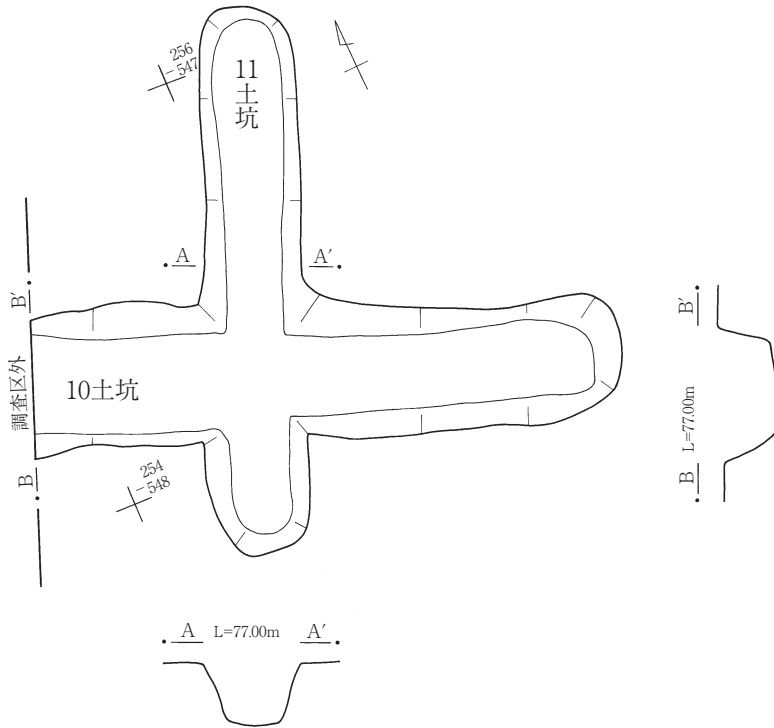
番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	
10	250-545	N-71° - W	(314)×72×31	
11	250-545	N-21° - E	290×50×34	
12	250-545	N-64° - W	310×74×42	
13	250-545	N-16° - E	204×70×24	
14	250-540	N-68° - E	204×80×20	
15	250-540	N-64° - W	420×66×44	
16	235-480	N-39° - E	(120)×112×17	
17	275-470	N-29° - E	154×108×12	
18	235-485	N-4° - E	68×30×26	

第3表 VI区土坑一覧表

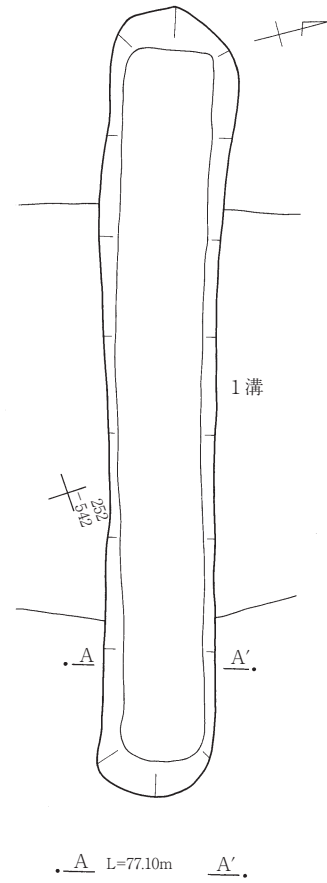


第33図 VI区 1・2・4・7~9・14号土坑

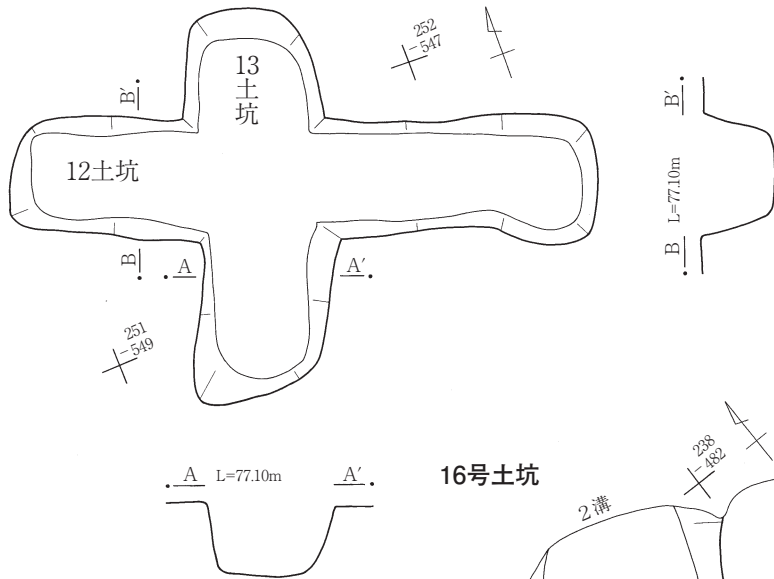
10号土坑・11号土坑



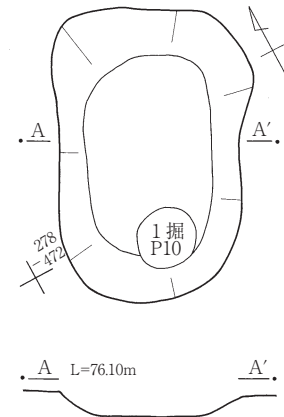
15号土坑



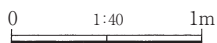
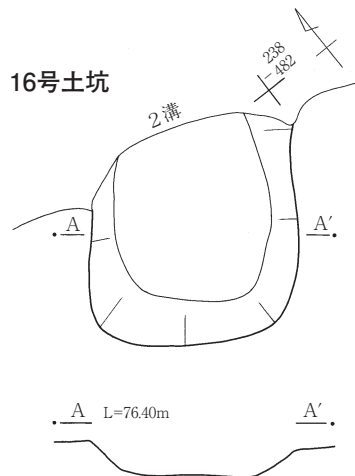
12号土坑・13号土坑



17号土坑



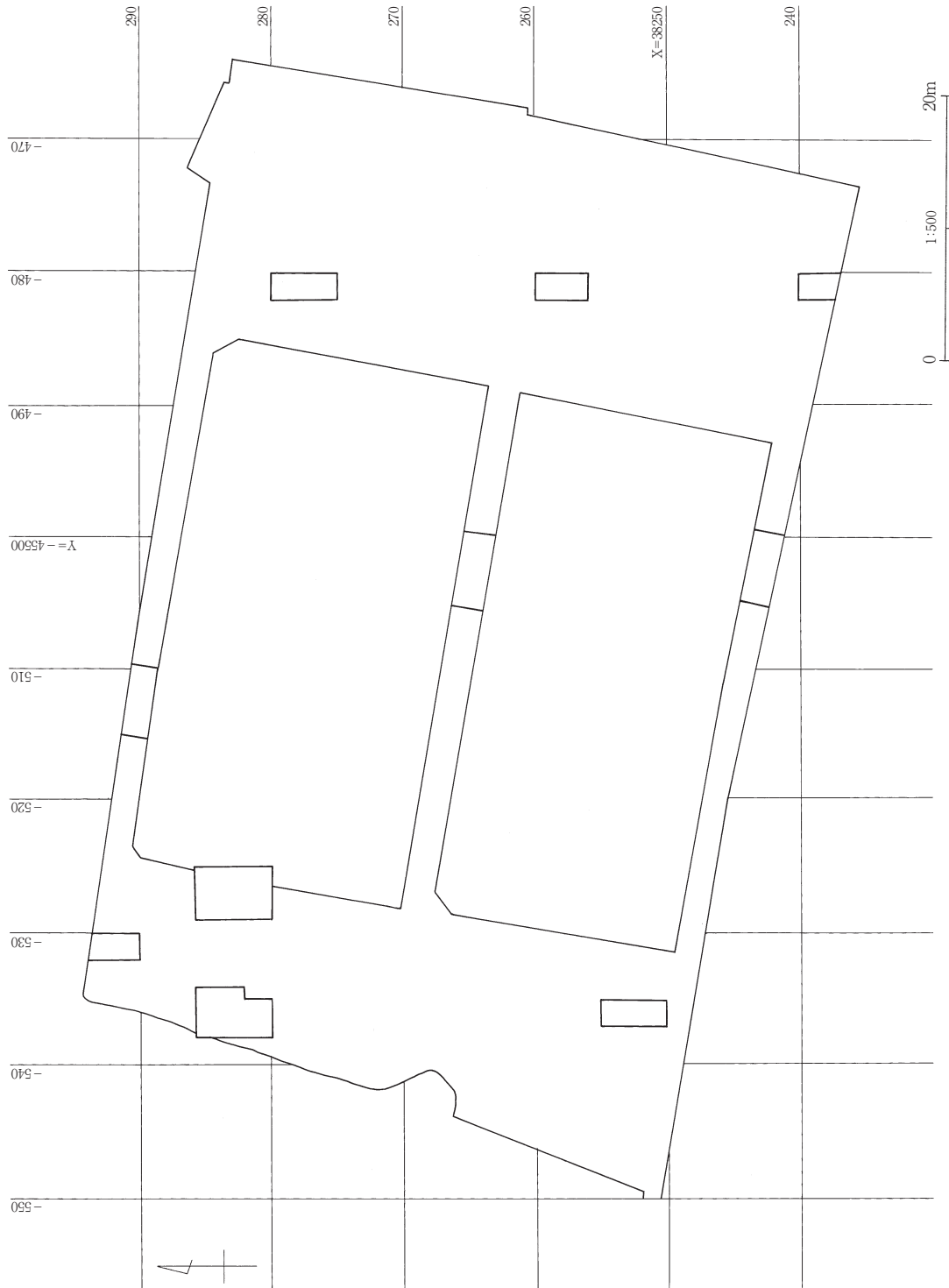
16号土坑



第34图 VI区10~13・15~17号土坑



第35図 6号土坑出土遺物



第36図 VI区旧石器確認調査トレンチ位置図

## 5 畠・耕作痕

調査区の各所には、畠の跡、あるいは何らかの耕作痕と思われる、幾筋もの平行する溝状の遺構を見ることができた。この溝状の遺構は、畠の畦や作物を植えるための溝などの痕跡だと考えられる。それらは、調査区の南西隅から南側一体にかけてと、北西部と南東部とに見ることができ、4カ所に分けることができる。

出土遺物がほとんどないので、それぞれの詳細な時期は不明であるが、埋土の特徴とわずかな遺物から、いずれも近世以降のものであると思われる、なかには近現代のものも含まれている可能性があると思われる。しかし、それらを分離することは不可能であるため、ここでは一括して取り上げる。

それらの平面図は付図2に示したとおりであるが、特にこれらの遺構が集中する付近は、調査区が狭く限定的であるため、全体でどのような平面形になるのかは明らかにできなかった。

畠と思われる溝の幅と方向とには、場所によって違いがあることが見て取れるが、これはそれぞれの畠の区画を反映するものであろう。大部分は掘立柱建物や溝と同様、北に向かって東に傾く方向であるが、南部の1カ所の畠跡のみは北に向かって西に傾く方向となっている。同様な方向はⅥ区・Ⅶ区にある一部の溝、土坑にも見ることができ、この方向も一時期の土地区画として存在した区画方向であったと思われる。

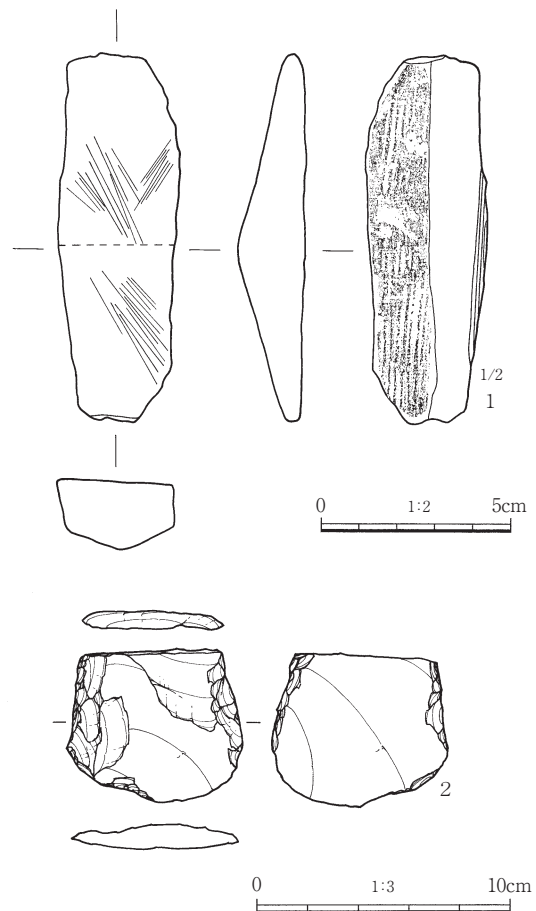
## 6 旧石器確認調査

Ⅵ区では10カ所で旧石器の確認調査を行った。トレンチの大きさは一部を除いて2m×5mを基本とし、それぞれローム層を礫層まで掘り下げて調査を行った。

石器と類似した石片が出土した北西のトレンチでは、調査区を拡張して調査を行ったが、精査の結果石片は石器ではなく、その他のトレンチでも旧石器は出土しなかった。

## 7 遺構外出土の遺物

Ⅵ区では全体に遺物の出土が少なく、遺構外から出土した遺物も少ない。報告するものは表土から出土した砥石と打製石斧各1点である。



第37図 Ⅵ区遺構外出土遺物

## 第5節 VII区の調査

### 1 概要

VII区は県道太田大間々線の西側に当たる調査区である。調査は用地取得の関係から3回に分けて行われた。それぞれの回の調査区は、発掘当時VII-1区、VII-2区、VII-3区と呼び分けたが、ここでは特に断らない限り、それらを一体のものとしてVII区と呼称することにする。

調査区内には大小の攪乱が各所に入り、遺構の残りは比較的よくない。

調査できた遺構は、掘立柱建物2棟、溝30条、土坑70基、井戸1基、ピット13基である。これらの遺構は調査区のほぼ全面に分布するが、調査区の北西から南東にかけて、帯状の範囲に比較的多く存在するようである。遺構確認面で見ると、標高が最も高いのは北東隅と南西隅であり、南東隅に向かって緩やかに低くなっている地形である。

### 2 掘立柱建物

掘立柱建物は2棟調査した。いずれも調査区の東端南寄りにある。県道を挟んで東側に隣接するIX区でも、その西端付近で3棟の掘立柱建物と、4条の短い柵列を調査しているので、比較的狭い範囲に建物が分布していることになる。その分布範囲は東西60mほどの範囲で、散在というべき分布密度ではあるが、関連するものである可能性は強いと思われる。それぞれの建物の時期については、伴出遺物が少ないので特定できないが、それぞれ建物の方位が、VI区1号掘立柱建物と同じ方向、すなわち北に向かって東に振れる方向か、あるいはそれと直角に交わる方向に近く、また、VII区1号掘立柱建物のように、桁行の中央間が広く、両脇の柱間が狭いという特徴が共通するものがあるので、時期的にはVI区1号掘立柱建物にかなり近いと考えることが可能である。それが正しければ、これらの掘立柱建物も古代末～中世のものと考えられ、その時期の屋敷地を調査し

たことになるだろう。

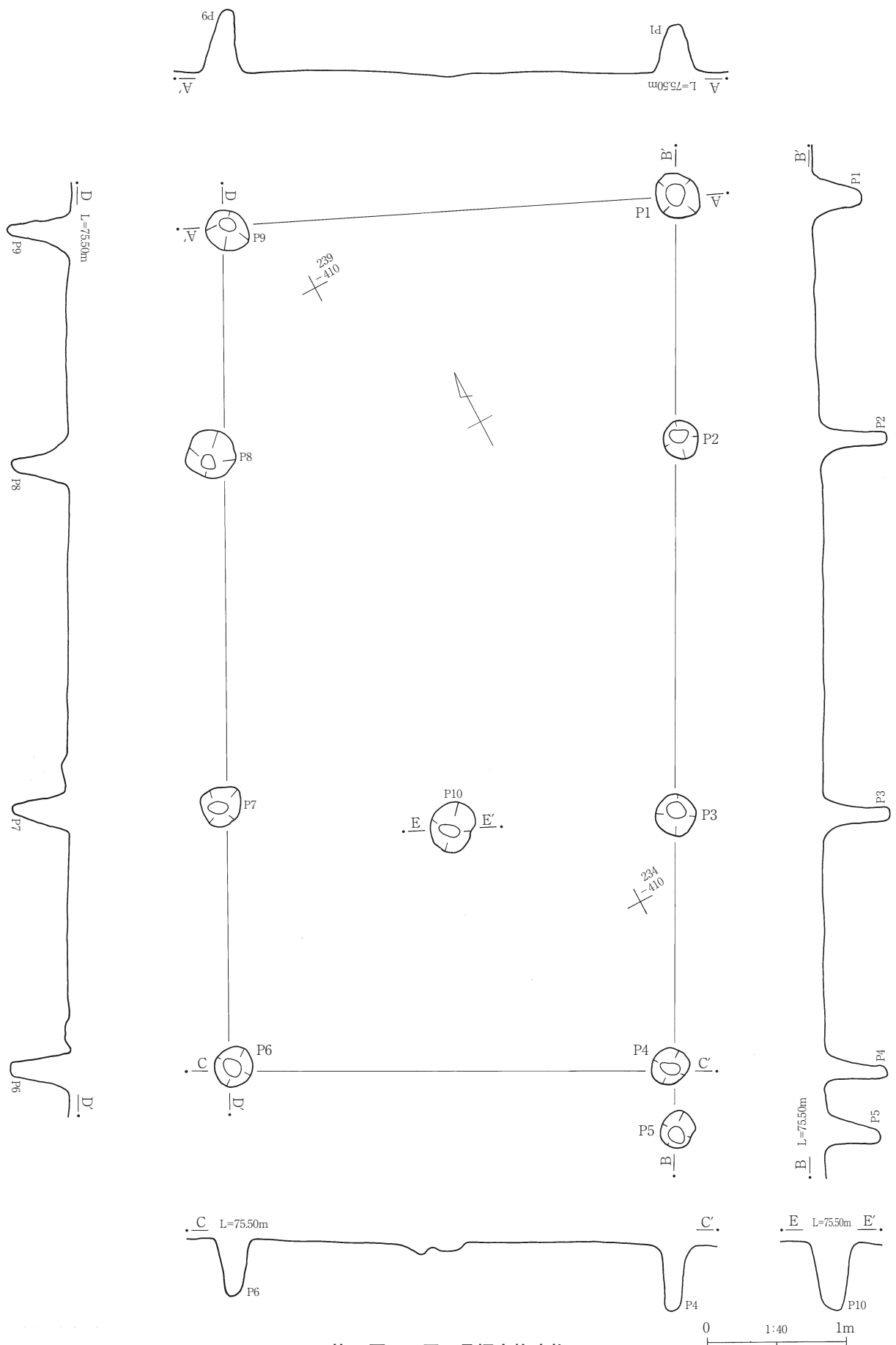
#### 1号掘立柱建物（第38図、PL.10）

調査区東端中央やや南寄りにある。桁行3間、梁間1間の側柱建物であるが、第38図に見るように、南東側の柱筋P1～P4の南延長線上に1本の柱穴＝P5があり、また、建物の内部、P3とP7とのちょうど中間にも1本の柱穴＝P10がある。その位置や柱穴の大きさ・深さから考えて、これらの柱穴も建物の一部を構成していた可能性が大きい。

建物の規模は桁行が南東辺6.30m（P1～P4、P5まで測ると6.80m）、北西辺6.08m、梁間が北東辺3.24m、南西辺3.17mであり、やや歪みがある。特に北西辺の歪みが大きい。建物の方位はN-28°-Eである。桁行の柱間は、両辺とも中央が広く、両脇が狭い。南東辺では中央P2～P3が2.70mなのに対して、両脇はP1～P2が1.74m、P3～P4が1.86mであり、北西辺は中央P7～P8が2.50mなのに対して、両脇のP6～P7が1.87m、P8～P9が1.71mである。各柱穴の大きさは以下の通りである。

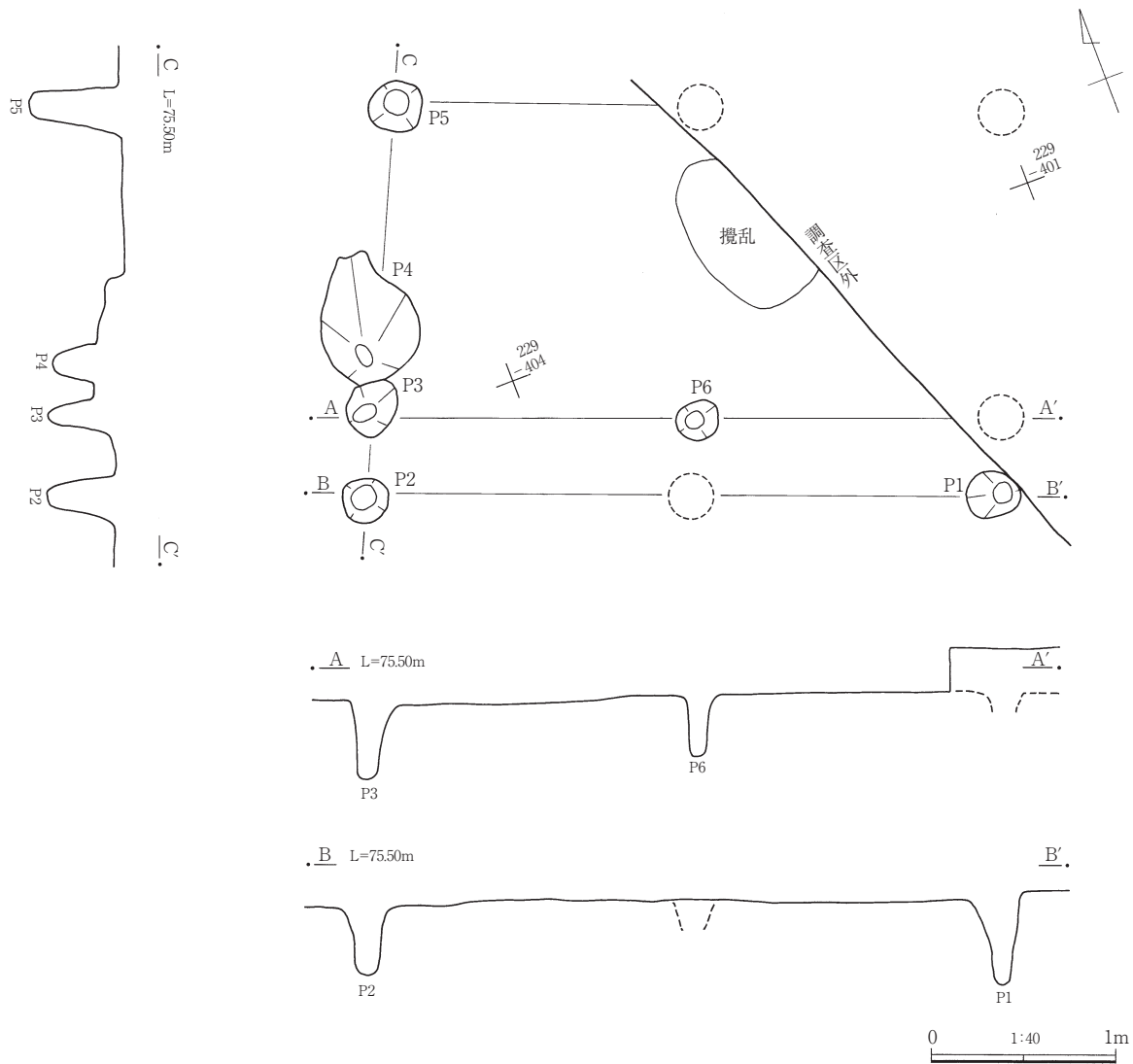
P 1	長径36cm、短径31cm、深さ34cm
P 2	長径27cm、短径25cm、深さ48cm
P 3	長径31cm、短径29cm、深さ50cm
P 4	長径37cm、短径37cm、深さ45cm
P 5	長径27cm、短径23cm、深さ38cm
P 6	長径30cm、短径27cm、深さ43cm
P 7	長径31cm、短径29cm、深さ40cm
P 8	長径37cm、短径35cm、深さ42cm
P 9	長径33cm、短径28cm、深さ46cm
P 10	長径35cm、短径30cm、深さ49cm

平面形状はいずれも円形で、大きなものではないが、深さは比較的深く、しっかりとした柱穴である



第38图 VII区1号掘立柱建物





第39図 VII区2号掘立柱建物

といえよう。

時期は伴出遺物がなく特定できないが、先述のように、桁行の中央間が広いという特徴と、方位が北に向かって東に振れるという点とがVII区1号建物に類似しているため、近い時期の可能性もある。それが正しければ、平安末～中世のものであると考えられる。

**2号掘立柱建物（第39図）**

調査区東端南側にある。想定される建物の大部分が調査区外となる。

見つかっている柱穴が5本だけであるため、発

掘調査時は第39図とは違う建物として把握していたが、整理の際の検討から第39図のような建物に復元した。南西側に幅の狭い庇をもつ建物で、桁行は2間かそれ以上、梁間は2間である。P4はこの建物に付随するものではない可能性もある。桁行の柱間はP3～P6で計測して1.81m、梁間は身舎部分はP3～P5が2.16m、庇部分は非常に狭くP2～P3が0.46mである。

各柱穴の大きさは下記の通りである。

- P 1 長径28cm、短径26cm、深さ48cm
- P 2 長径27cm、短径26cm、深さ36cm

第7章 西野原遺跡（3）

P 3 長径34cm、短径26cm、深さ43cm

P 4 長径69cm、短径53cm、深さ23cm

P 5 長径30cm、短径29cm、深さ50cm

P 6 長径25cm、短径22cm、深さ33cm

柱穴の形状はほぼ円形で、P 4を除いて大きいものではないが、深さは比較的深く、しっかりした柱穴である。

時期は出土遺物がないので不明であるが、1号掘立柱建物とは至近距離にあり、建物方向も直交するような方向になっているので、先述のように関連があるものと考えられる。

### 3 溝

溝は合計30条調査したが、幅が狭く浅いものも多く、途中で途切れているものも多いので、大部分が土地区画のために掘られた溝だと思われる。

溝の走行方向はⅥ区と同様に、北に向かって東に振れる方向か、それと直交する方向のものが多いが、この区ではそれに当てはまらないものも多く存在する。特に、東端中央付近や南東隅付近には、異なる方向や大きく屈曲する溝が複数見られ、この付近では区画方向が周囲と異なっているものと考えら

れる。

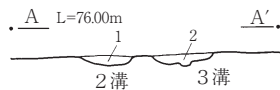
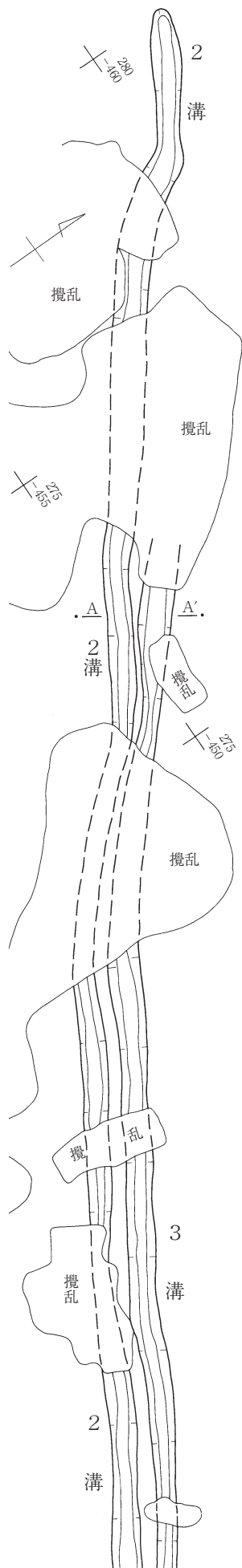
2号溝と3号溝、4号溝と5号溝、6号溝と7号溝など、2本の溝が狭い間隔を置いて平行するのは、Ⅵ区の場合同様、田畑の畦の両側に溝が掘られたものと考えられる。このうち2・3号溝は、その西側延長線上にⅥ区15号溝があり、さらにその西側は西野原遺跡（1）3号溝につながるもので、この付近の主要な区画線である。その他、12～14号溝、17～19号溝、25・28・29号溝等のように、ほぼ同じ場所に掘られている溝については、畦の両側の溝であると推定されることと共に、区画溝が複数の時期にわたって掘削されたものとも考えることができよう。

それぞれの溝の時期は、伴出遺物がほとんどないため特定できないが、埋土の特徴やわずかな遺物から、近世以降のものと思われる。

番号	規模 (m)			備考
	検出長	幅	深さ	
1	欠番			
2	52.15	0.38～0.85	0.15	3溝、7・9坑と重複
3	47.65	0.34～1.00	0.21	2溝と重複
4	24.80	0.28～1.03	0.35	1・2坑より古、25・26坑と重複
5	14.55	0.38～0.78	0.29	
6	17.40	0.40～1.03	0.12	12溝と重複
7	17.15	0.37～1.17	0.18	8・12溝と重複
8	8.85	0.21～0.48	0.06	7溝と重複
9～11	欠番			
12	24.40	0.26～0.68	0.08	6・7・14溝と重複、13溝より古
13	41.20	0.45～1.10	0.20	12溝より新、14・31溝と重複
14	17.20	0.42～0.68	0.07	12・13溝と重複
15	24.24	0.23～0.86	0.08	
16	5.40	0.27～0.35	0.04	
17	9.80	0.59～0.75	0.14	
18	7.50	0.42～0.65	0.08	
19	5.90	0.48～0.66	0.10	
20	3.90	0.35～0.57	0.05	

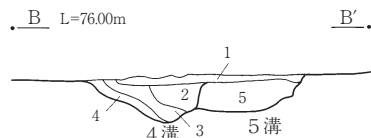
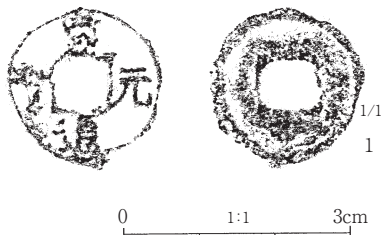
番号	規模 (m)			備考
	検出長	幅	深さ	
21	5.10	0.30～0.50	0.08	
22	4.10	0.36～0.55	0.05	
23	6.90	0.72～1.05	0.15	
24	欠番			
25	19.95	0.36～0.86	0.10	29・50溝と重複、38・47坑より古
26	6.30	0.42～1.26	0.12	46坑より新
27	10.62	0.58～1.33	0.08	42坑と重複
28	9.60	0.33～0.82	0.18	43・48・49坑より新
29	11.08	0.38～0.69	0.10	48・49坑より新、38坑より古
30	欠番			
31	7.01	0.45～0.98	0.07	13溝と重複
32	6.55	1.00～1.09	0.66	
33	欠番			
34	11.80	0.27～0.66	0.10	13・14坑と重複
35	3.20	0.18～0.34	0.07	
36	5.90	0.32～0.55	0.07	
37～49	欠番			
50	2.03	0.23～0.34	0.04	25溝と重複

第4表 Ⅶ区溝一覧表



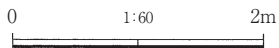
- 1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3)  
締まり悪い。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)  
φ 3~5mmの汚れたロームブロックを  
わずかに含む。

2号溝出土遺物

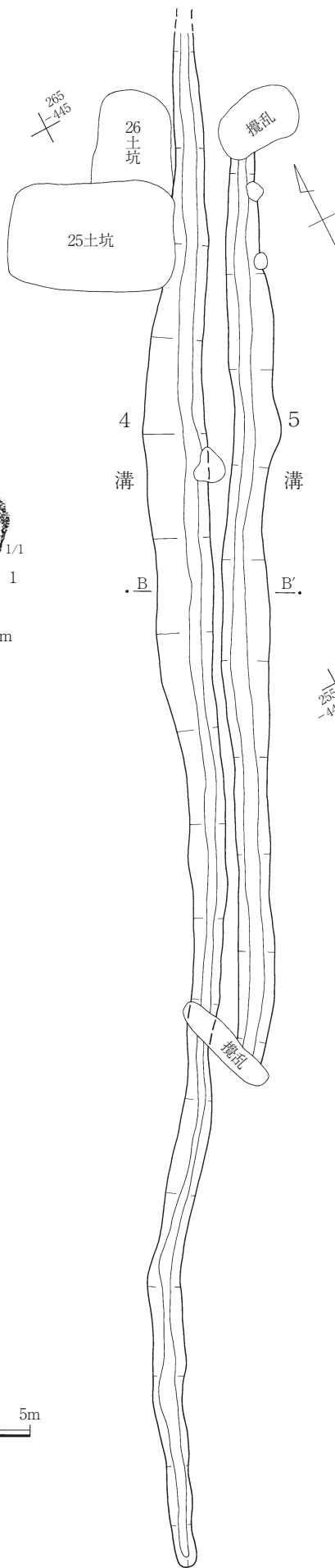
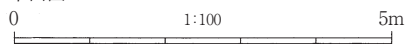


- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)  
ほぼ均一。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR5/4)  
φ 10mmのロームブロックをやや多く  
含む。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR5/4)  
φ 1mmの砂粒をやや多く含む。
- 4 褐色土 (10YR4/4)  
ローム粒、φ 5~10mmのロームブロッ  
クをわずかに含む。
- 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/4)  
ロームブロックを多く含む。

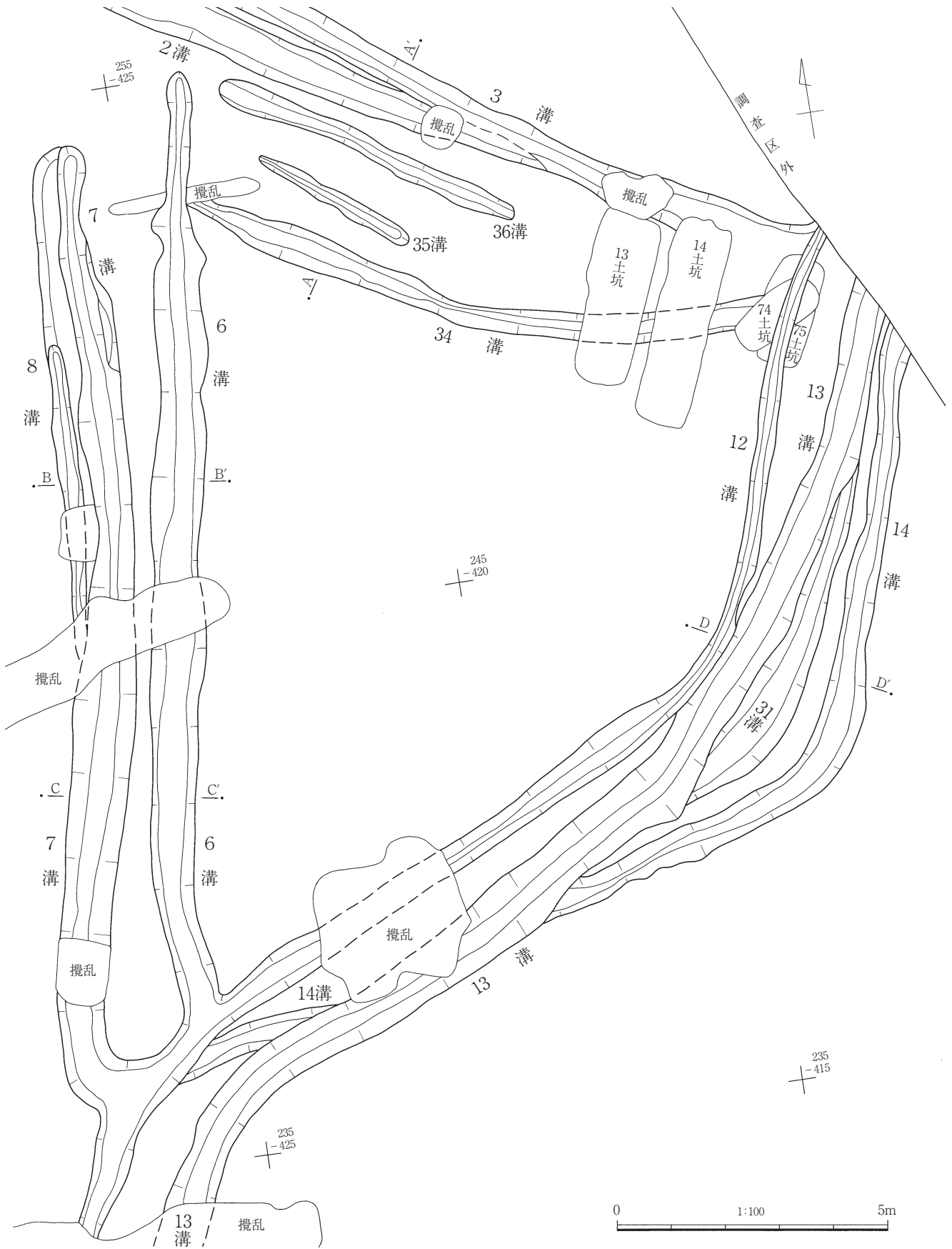
セクション図



平面図

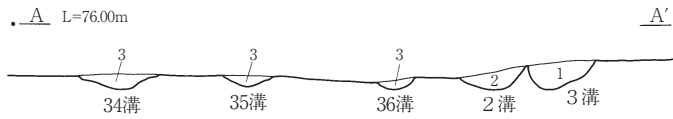


第40図 VII区2~5号溝



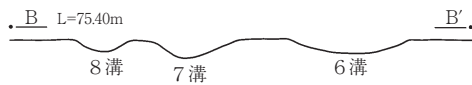
第41図 VII区 2・3・6～8・12～14・31・34号溝

2・3・34～36号溝



- 1 褐灰色粘質土 (10YR5/1)
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)  
やや締まり悪い。
- 3 におい黄褐色砂質土 (10YR4/3)  
ローム粒、φ 5mmのロームブロック、乳灰色粒子 (As - Bか) をわずかに含む。

6～8号溝

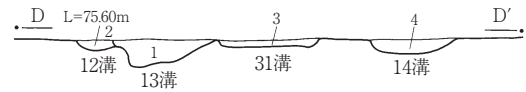


6・7号溝



- 1 におい黄褐色砂質土 (10YR5/3)  
φ 2～5mmのローム粒をわずかに含む。

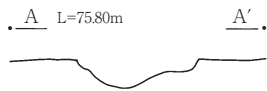
12～14・31号溝



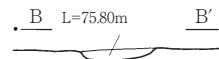
- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2)  
粒径細かくバサバサする
- 2 におい黄褐色砂質土 (10YR5/3)  
φ 10mmのロームブロックわずかに含む。粒径粗く、もろい。
- 3 におい黄褐色砂質土 (10YR5/3)  
φ 2～5mmのローム粒やや多く含む。
- 4 におい黄褐色砂質土 (10YR5/3)  
φ 10mmのロームブロックわずかに含む。粒径粗く、もろい。

第42図 VII区2・3・6～8・12～14・31・34～36号溝断面(平面図は前ページ)

13号溝

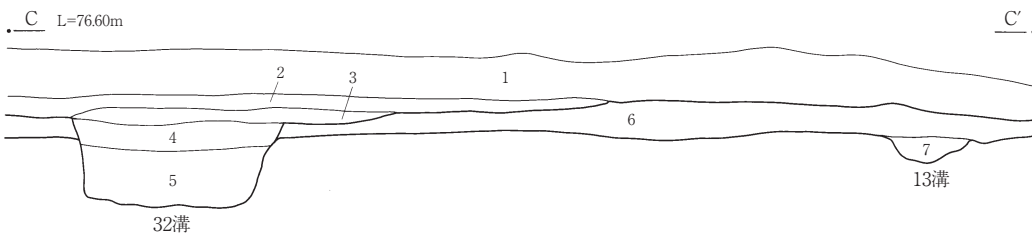


15号溝



- 1 におい黄褐色砂質土 (10YR5/3)  
φ 2～5mmのローム粒をわずかに含む。

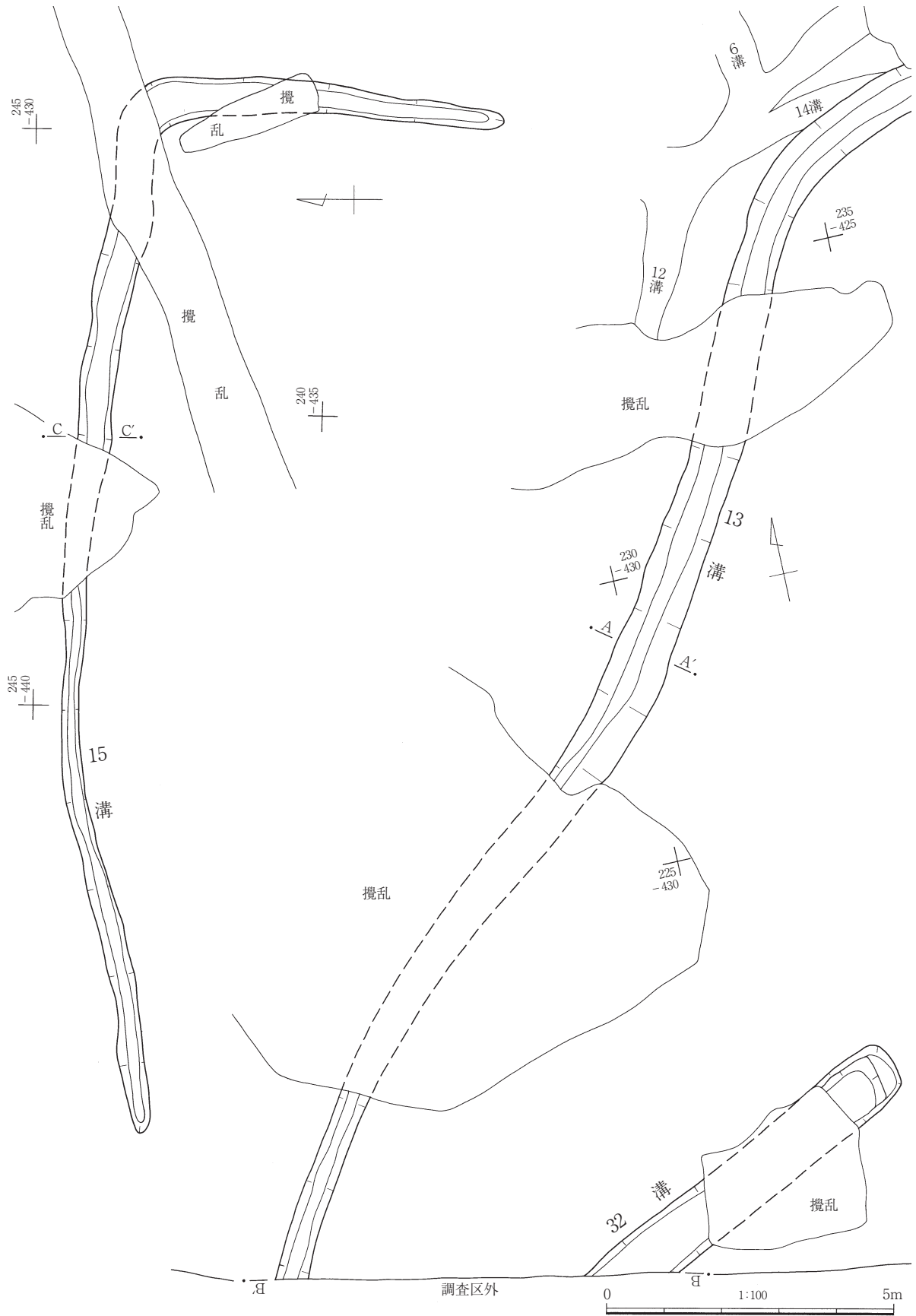
13・32号溝



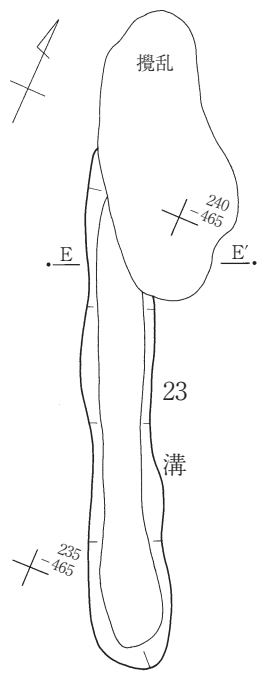
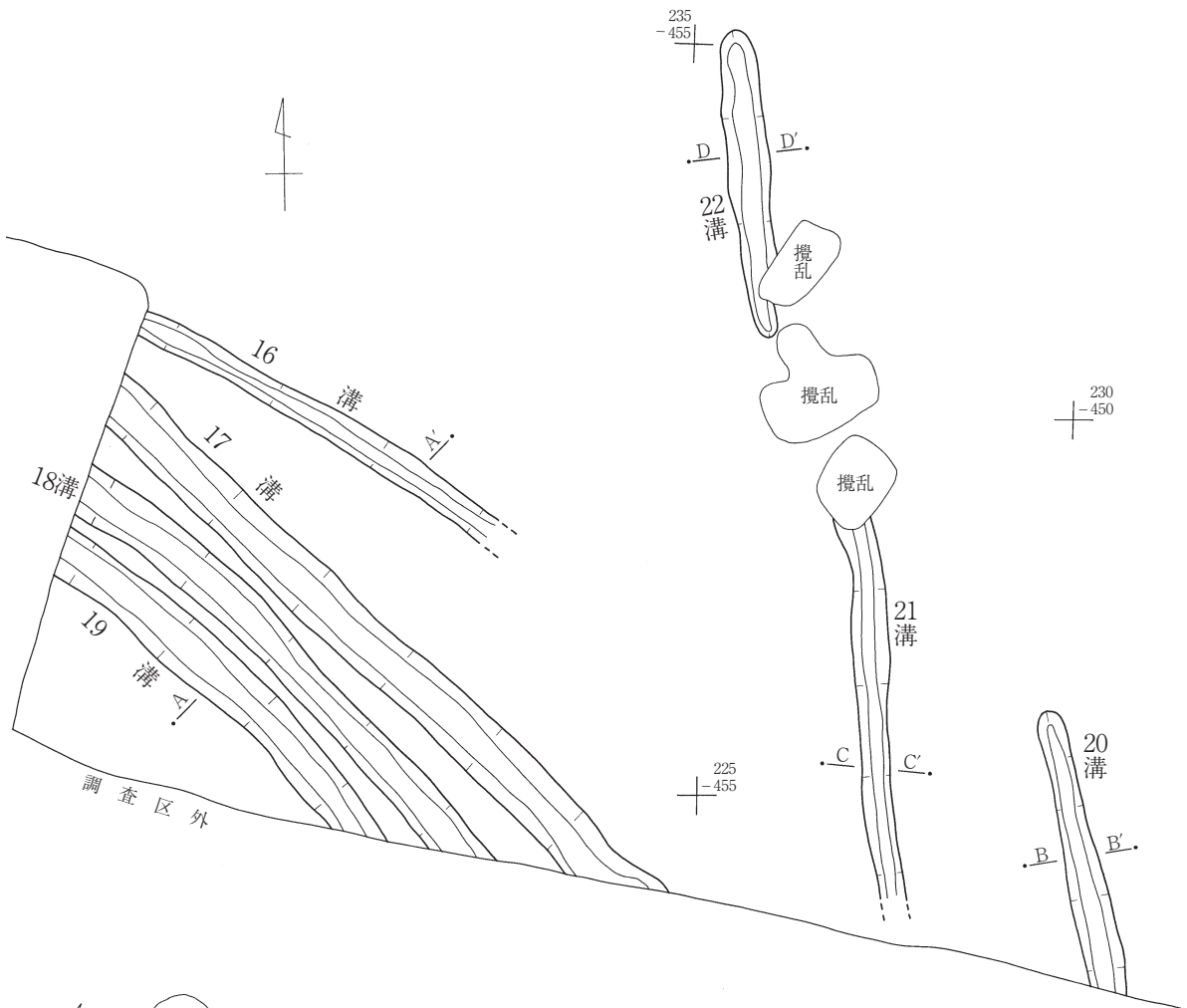
- 1 におい黄褐色土 (10YR5/4)  
盛土。φ 5～40mmのロームブロックを多量に含む。
- 2 黒褐色砂質土 (10YR2/3)  
固い。φ 10～100mmの円礫、炭化物をごくわずかに含む。
- 3 におい黄褐色砂質土 (10YR5/4)  
4層を含む。φ 5～10mmのロームブロックわずかに含む。
- 4 暗灰黄色砂質土 (2.5Y4/2)  
粒径やや細かく軟質。φ 2～5mmの円礫をわずかに含む。
- 5 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)  
軟質。φ 10mmの黒褐色砂質土ブロックをわずかに含む。
- 6 暗灰黄色砂質土 (2.5Y4/2)  
φ 2～5mmの円礫、φ 5～10mmのロームブロックわずかに含む。
- 7 におい黄褐色砂質土 (10YR4/3)  
φ 10mmの黄褐色土ブロックをわずかに含む。



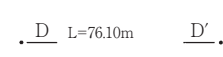
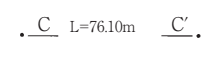
第43図 VII区13・15・32号溝断面(平面図は次ページ)



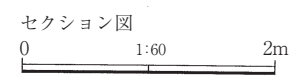
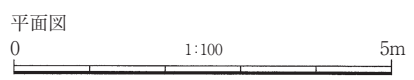
第44図 VII区13・15・32号溝



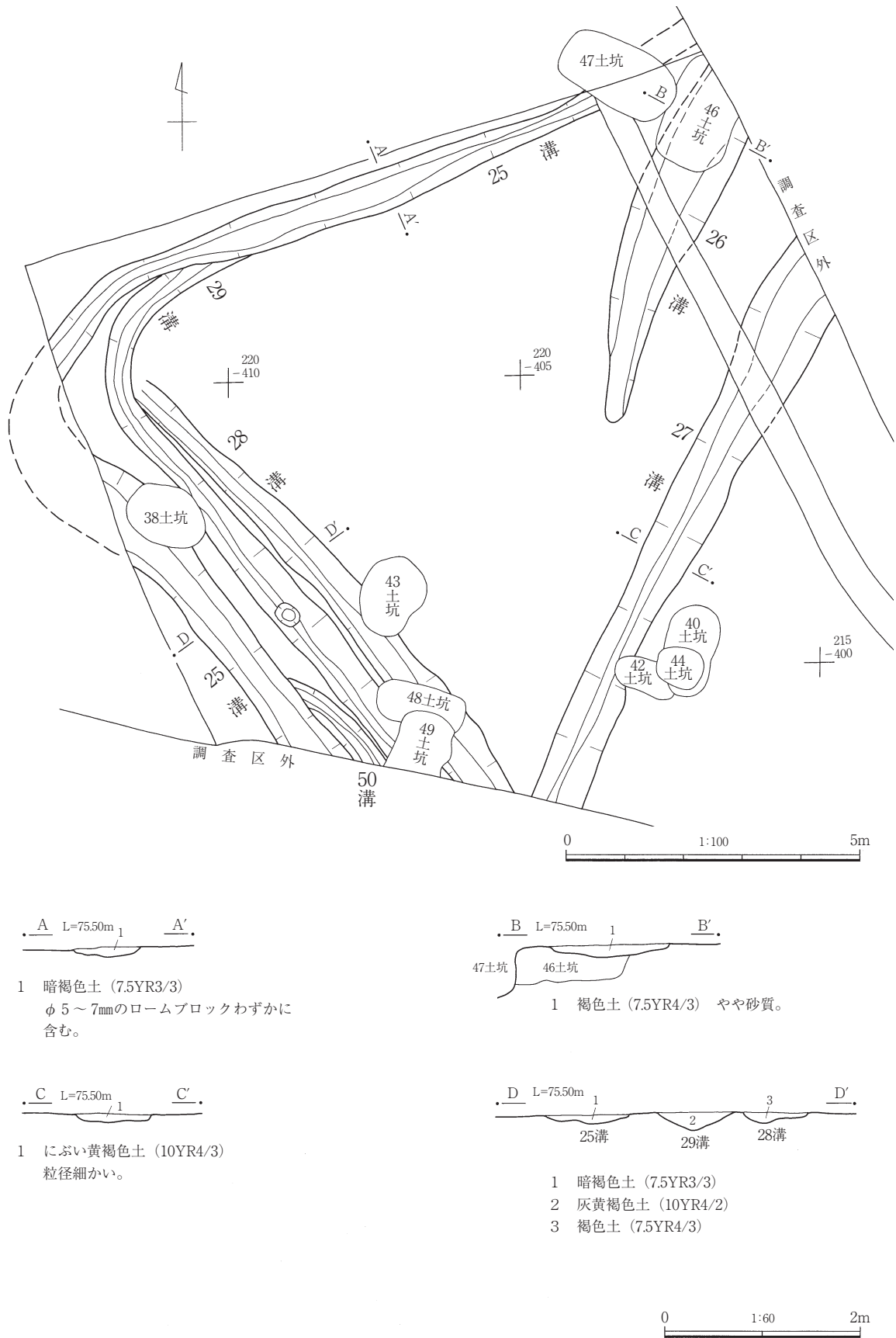
- 1 におい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 砂粒多くもろい。
- 2 1層に類似するが砂粒やや少ない。



- 1 におい黄褐色砂質土 (10YR4/3) φ 2~3mmのローム粒、長径2~10cmの円礫をわずかに含む。



第45図 VII区16~23号溝



第46図 VII区25~29号溝



4 土坑

土坑は70基調査した。ほぼ全域に分布しており、特に集中しているところは見られないが、溝の近くに多い傾向はあり、そこでは方位も溝に近いものが多い。これはそれぞれの区画の端部に土坑が掘られていることを示すものと思われる。

形状には長方形のものや円形のものがあり、長方形のものは断面が逆台形で底面が平坦であり、いわゆる「芋穴」であるものが多いと思われる。円形のもの性格不明であるが、浅いものが多い。

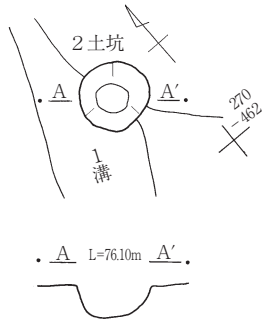
各土坑の時期は不明であるが、埋土の特徴とわずかな遺物から、大部分は近世以後のものと思われる。

64号、71号とした土坑は細長い形状のものであり、溝としたほうがよいかもしれないが、いずれも埋土にはAs-Bを多く含んでおり、平安末から中世頃に遡る可能性がある。

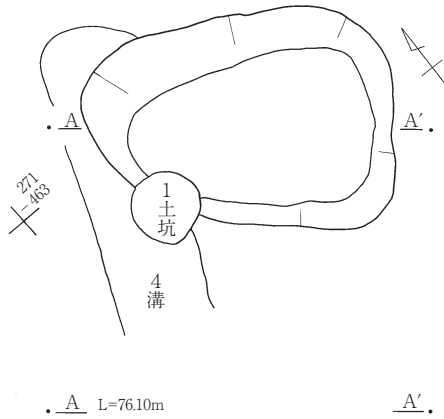
番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	備考	番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	備考
1	270-460	N-32° - E	39×37×17	2坑・4溝より新	40	210-400	N-20° - E	154×90×10	42坑・44坑より新
2	265-460	N-48° - W	165×120×22	1坑より古、4溝より新	41	210-395	N-27° - E	(159)×150×25	
3	270-455	N-19° - E	88×44×24		42	210-400	N-76° - W	114×57×10	40坑・44坑より古
4	260-440	N-31° - E	375×160×23	26坑と重複	43	210-400	N-39° - E	130×103×21	28溝より古
5	260-440	N-57° - E	(47)×64×33		44	210-400	N-73° - E	78×70×25	40坑より古、42坑より新
6	260-435	N-72° - W	(167)×115×15	7坑と重複	45	210-395	N-67° - E	240×(80)×33	土師器出土
7	260-430	N-30° - E	(212)×125×8	2溝・6坑と重複	46	220-400	N-25° - E	190×120×35	26溝・47坑より古
8	255-430	N-25° - E	(127)×131×15	9坑と重複	47	220-400	N-60° - W	209×100×47	25溝・46坑より新
9	255-425	N-65° - W	408×150×40	2溝・8坑と重複	48	210-405	N-9° - E	158×73×18	28溝・29溝より古、49坑より新
10	255-425	N-65° - W	184×109×21		49	210-405	N-9° - E	(106)×99×28	28溝・29溝・48坑より古
11	255-425	N-17° - E	76×57×25		50	235-470	N-3° - E	140×40×9	
12	250-420	N-20° - E	105×75×9		51	欠番			
13	245-415	N-22° - E	325×108×43	34溝と重複	52	欠番			
14	245-410	N-23° - E	394×120×36	34溝と重複	53	260-445	N-70° - E	110×76×64	
15	260-420	N-48° - W	292×150×12		54	240-405	N-56° - W	127×74×10	
16	265-420	N-25° - E	128×100×25		55	235-410	N-70° - E	80×65×24	
17	260-425	N-33° - E	180×130×21	土師器出土	56	220-420	N-23° - W	116×70×44	瓦出土
18	265-430	N-27° - E	203×78×7		57	220-420	N-59° - W	180×85×13	58坑と重複
19	260-450	N-54° - W	274×115×26		58	220-420	N-7° - E	220×60×14	57坑と重複
20	欠番				59	215-415	N-29° - E	54×52×25	
21	260-450	N-26° - E	110×90×12		60	欠番			
22	欠番				61	225-405	N-61° - E	80×70×10	
23	260-460	N-5° - E	83×52×33		62	225-400	N-61° - W	150×87×21	72坑より新
24	250-455	N-10° - E	70×63×30		63	230-400	N-69° - W	80×62×12	
25	260-440	N-59° - W	270×176×35	4溝・26坑と重複	64	230-405	N-61° - E	480×27×10	
26	260-440	N-33° - E	(195)×129×17	4溝・4坑・25坑と重複	65	230-405	N-56° - E	45×40×44	
27	270-425	N-81° - W	67×55×51		66	210-400	N-69° - E	102×68×8	
28	255-415	N-53° - E	84×76×12	土師器出土	67	230-400	N-12° - E	69×64×19	
29	235-470	N-6° - E	70×54×12		68	225-400	N-61° - W	409×137×44	土師器出土
30	230-455	N-51° - W	94×78×23		69	220-410	N-41° - W	57×43×19	
31	240-470	N-40° - E	215×110×12		70	225-410	N-40° - E	50×55×26	
32	230-415	N-72° - E	167×165×25		71	215-410	N-67° - E	(432)×33×8	
33	245-440	N-25° - E	(205)×130×30		72	225-400	N-57° - W	90×65×14	62坑より古
34	235-430	N-70° - W	59×50×37		73	245-410	N-21° - E	62×49×34	
35	235-435	N-20° - E	98×42×28		74	245-410	N-63° - E	174×76×20	12溝より古
36	欠番				75	245-410	N-29° - E	205×108×16	12溝より古
37	220-400	N-55° - W	160×130×17		76	欠番			
38	215-405	N-59° - W	137×100×26	25溝・29溝より新	77	230-420	N-56° - W	170×80×18	
39	215-395	N-30° - E	162×90×18						

第5表 VII区土坑一覧表

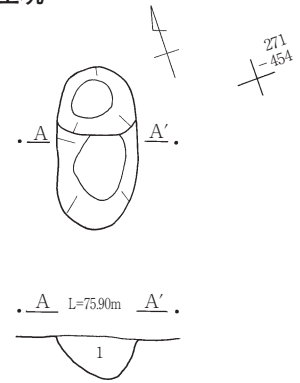
1号土坑



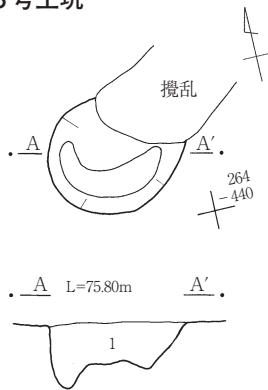
2号土坑



3号土坑



5号土坑

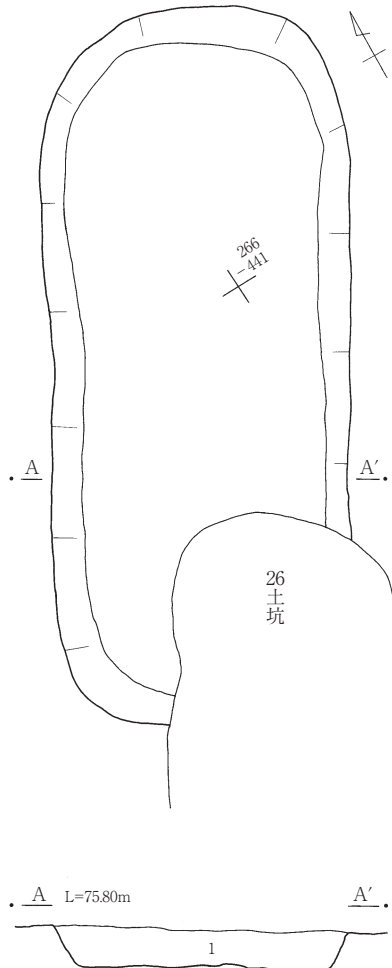


- 1 におい黄褐色砂質土 (10YR4/3)  
φ 20~30mmのロームブロックを含む。

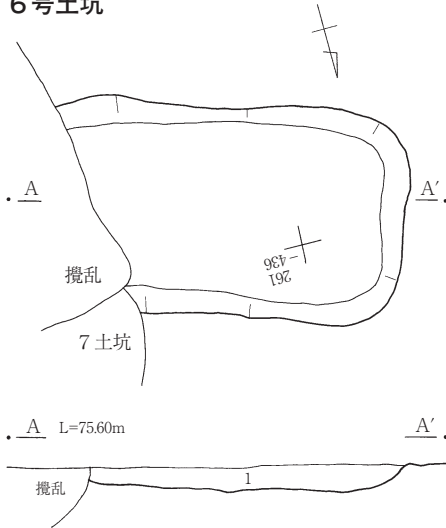
- 1 におい黄褐色砂質土 (10YR4/3)  
φ 2~10mmのロームブロックをわずかに含む。  
2 褐色砂質土 (10YR4/4)  
φ 5~10mmのロームブロック、黒褐色土ブロックをやや多く含む。

- 1 黒褐色土 (10YR3/2)  
やや多くのローム粒とわずかなφ 2~5mmのロームブロックを均一に含む。

4号土坑

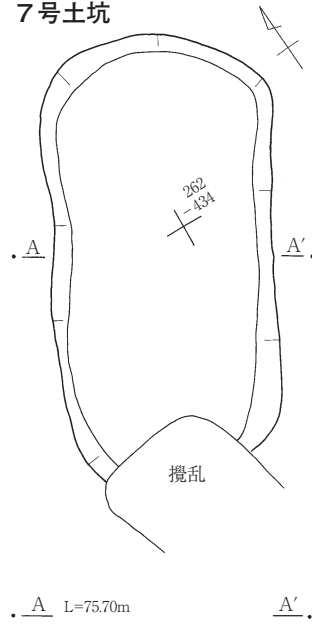


6号土坑



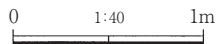
- 1 におい黄褐色砂質土 (10YR4/3)  
φ 1~5mmのローム粒をやや多く含む。

7号土坑



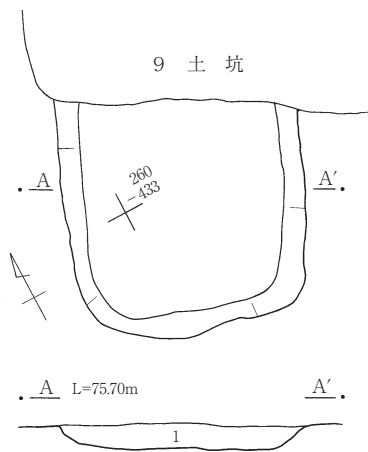
- 1 におい黄褐色砂質土 (10YR5/3)  
ローム粒、φ 2~5mmのロームブロックをわずかに含む。

- 1 におい黄褐色砂質土 (10YR4/3)  
φ 5~10mmの黒色土ブロック、ロームブロックが混在する。全体にAs-Bをわずかに含む。



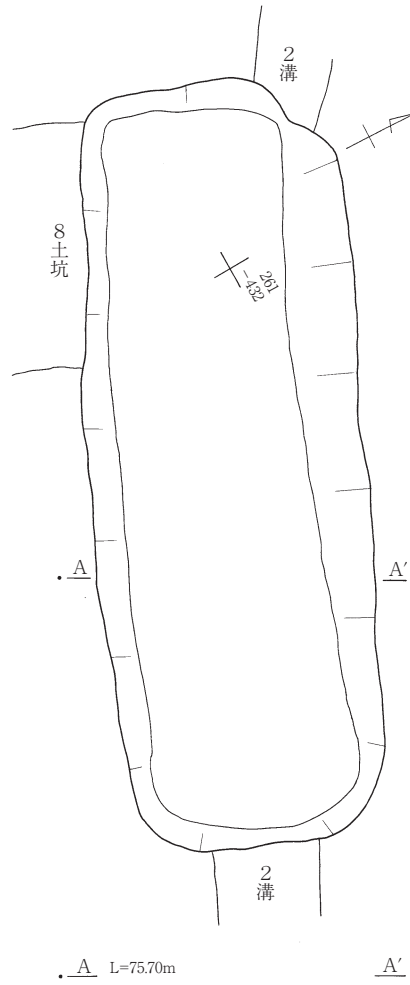
第47図 VII区 1~7号土坑

8号土坑



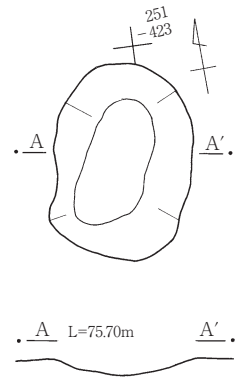
1 におい黄褐色砂質土 (10YR4/3) わずかなφ1~5mmのローム粒とφ1mmの砂粒を含む。

9号土坑

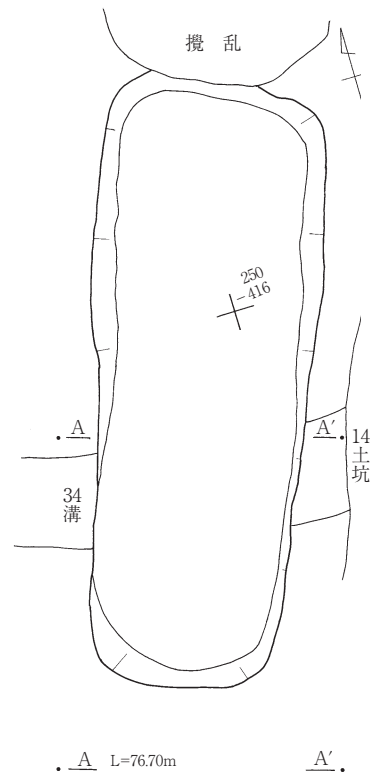


1 黒褐色砂質土 (10YR3/2) As-Bを多量に含む。  
 2 におい黄褐色砂質土 (10YR4/3) φ5mmのロームブロック、黒褐色土ブロックをわずかに含む。  
 3 黒褐色砂質土 (10YR3/2) φ5~10mmのロームブロック、におい黄褐色土ブロックをやや多く含む。

12号土坑

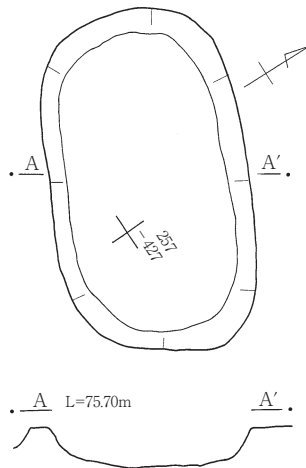


13号土坑

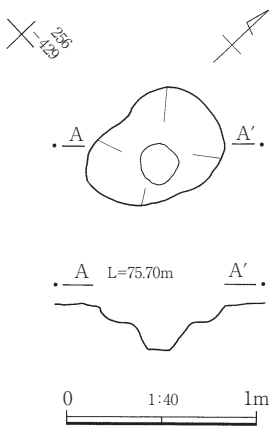


1 黒褐色土 (10YR3/1)  
 2 褐色土 (10YR4/4) φ5mmの黒褐色土ブロック、ロームブロックをわずかに含む。  
 3 黒褐色土 (10YR3/1) 粒径がやや粗い。淡い褐色土ブロックをわずかに含む。

10号土坑



11号土坑

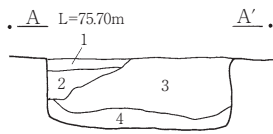
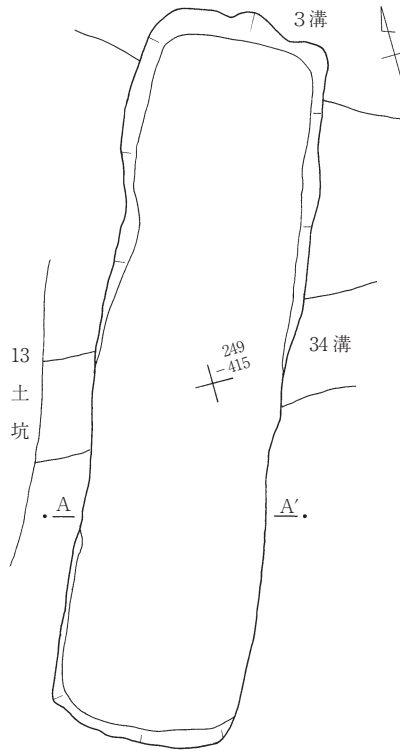


10号土坑出土遺物



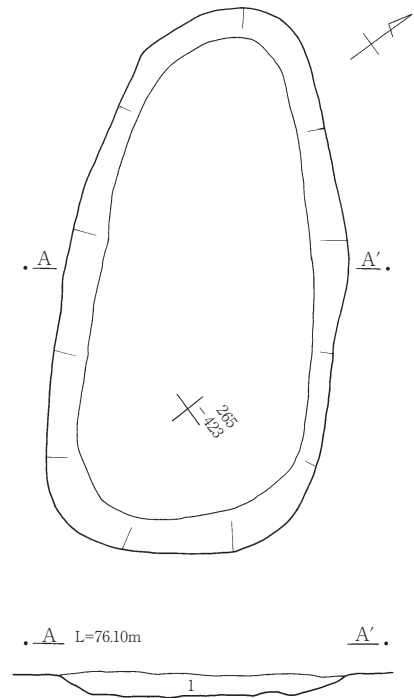
第48図 VII区8~13号土坑

14号土坑



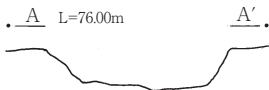
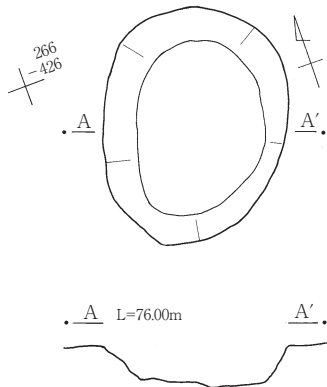
- 1 褐色土 (10YR4/4)
- 2 黒褐色土 (10YR3/1)
- 3 褐色土 (10YR4/4)  
φ 5mmの黒褐色土ブロック、ロームブロックをわずかに含む。
- 4 黒褐色土 (10YR3/1)  
粒径がやや粗い。淡い褐色土ブロックをわずかに含む。

15号土坑

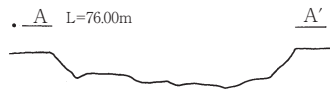
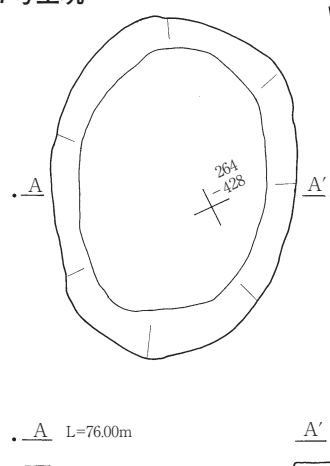


- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
ローム粒、As-Bをわずかに含む。

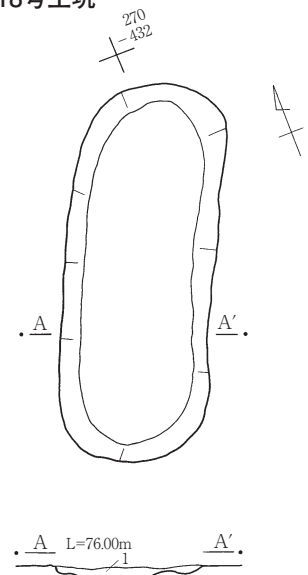
16号土坑



17号土坑



18号土坑

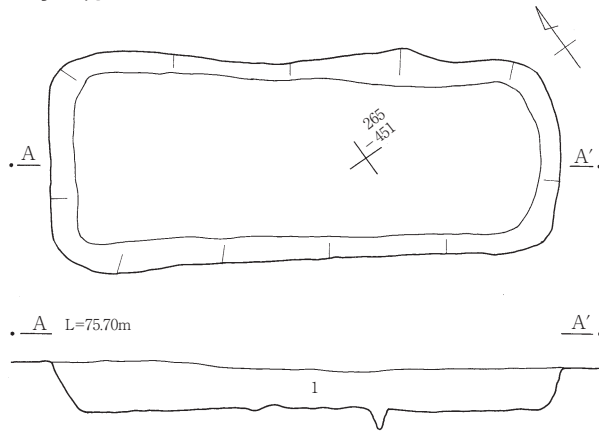


- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
わずかなローム粒、As-Bを均一に含む。

0 1:40 1m

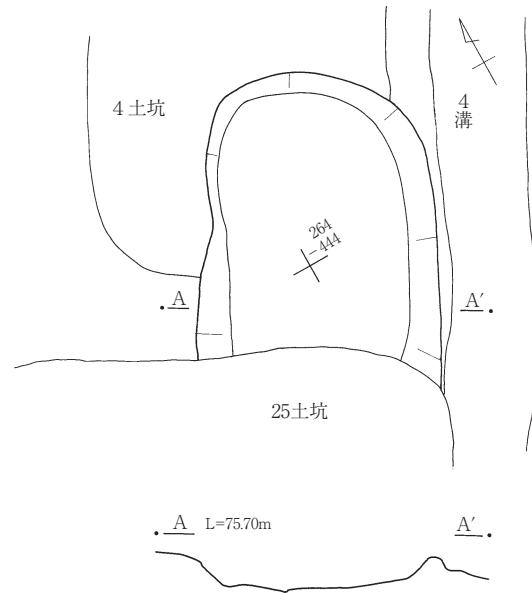
第49図 VII区14~18号土坑

19号土坑

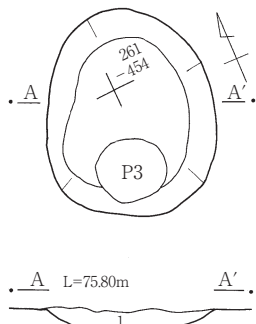


1 褐色土 (10YR4/4)  
わずかなφ2~10mmのロームブロック、黒褐色土ブロックを斑状に含む。  
乳白色のパミスもわずかに含む。

26号土坑

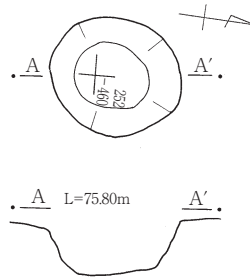


21号土坑

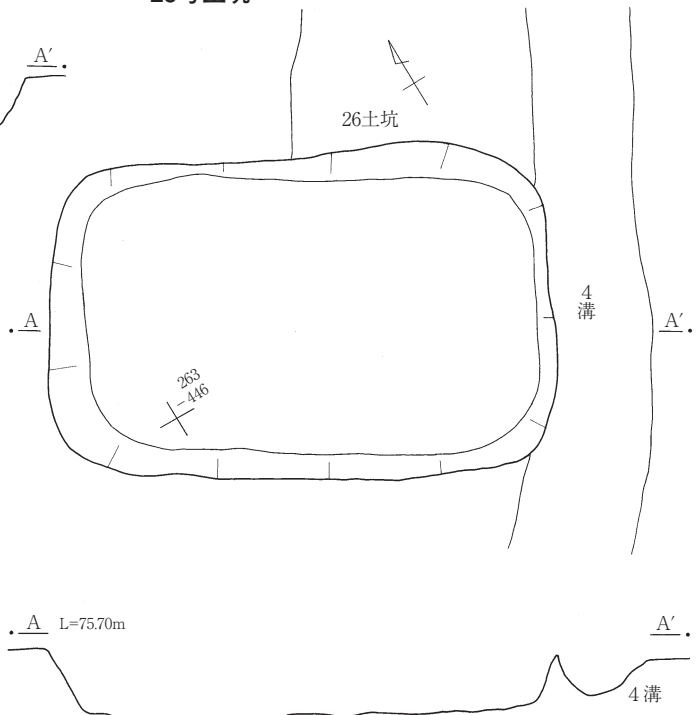


1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
わずかなローム粒と、As-B  
と思われる軽石を含む。

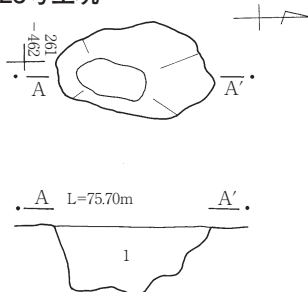
24号土坑



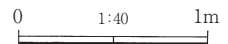
25号土坑



23号土坑

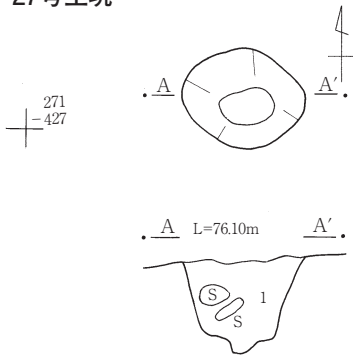


1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
ローム粒をわずかに含む。



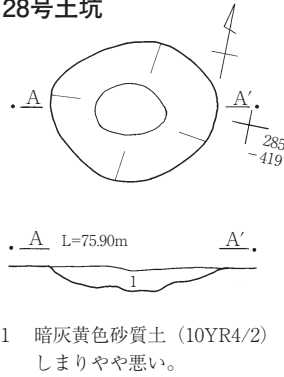
第50図 VII区19・21・23~26号土坑

27号土坑



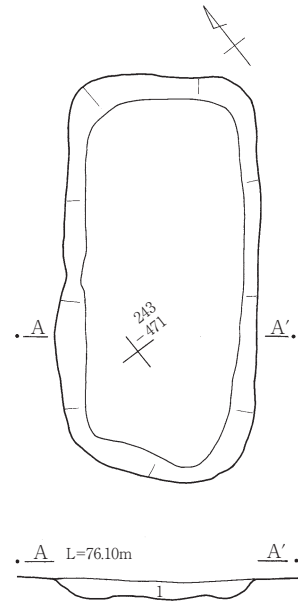
- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
As-Bをわずかに含む。上層に炭化物をわずかに含む。

28号土坑



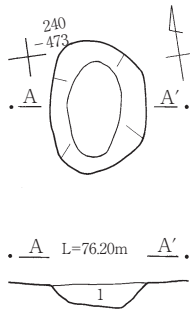
- 1 暗灰黄色砂質土 (10YR4/2)  
しまりやや悪い。

31号土坑



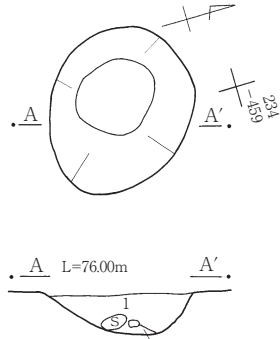
- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
As-Bとφ2~10mmのローム粒をわずかに含む。

29号土坑



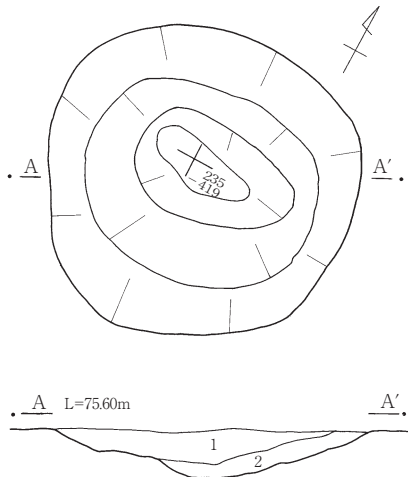
- 1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/3)

30号土坑



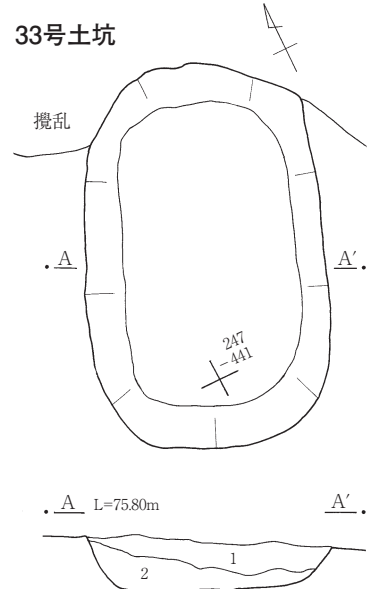
- 1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3)  
2 1と同質だが小礫多い。

32号土坑



- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
As-Bをわずかに含む。  
2 にぶい黄褐色土 (10YR6/4)  
やや軟質。

33号土坑

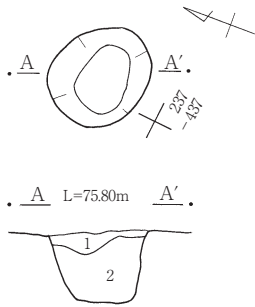


- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
φ5~10mmの地山 (10YR4/6 褐色土)  
ブロックをわずかに含む。  
2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3)  
微砂粒を層状に含む。As-Bをわずかに含む。

0 1:40 1m

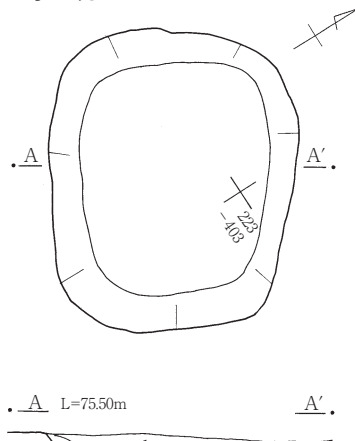
第51図 VII区27~33号土坑

34号土坑



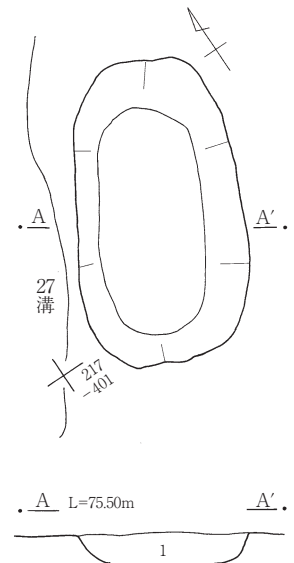
- 1 黒褐色土 (10YR3/2)
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR5/4)  
やや軟質。

37号土坑



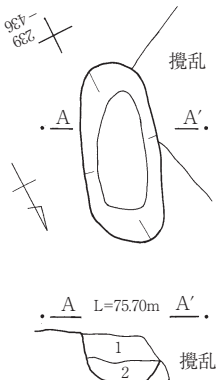
- 1 暗褐色土 (10YR3/2)  
やや砂質。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR5/4)  
やや縮まり悪い。

39号土坑



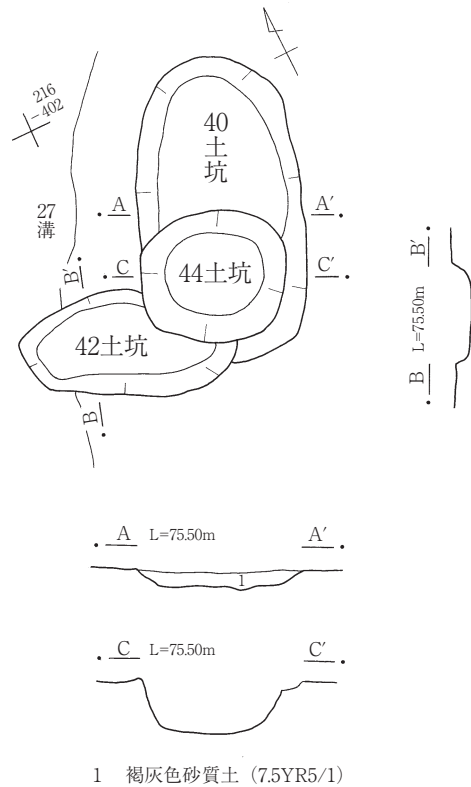
- 1 褐灰色砂質土 (7.5YR5/1)  
やや縮まり悪い。

35号土坑



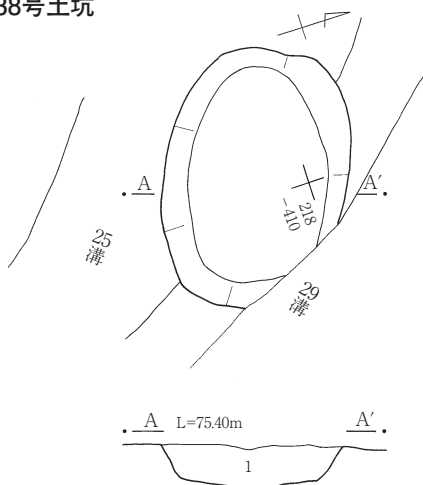
- 1 にぶい黄褐色土 (10YR5/4)
- 2 黒褐色土 (10YR3/2)  
やや縮まり悪い。

40・42・44号土坑

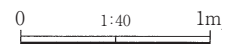


- 1 褐灰色砂質土 (7.5YR5/1)

38号土坑

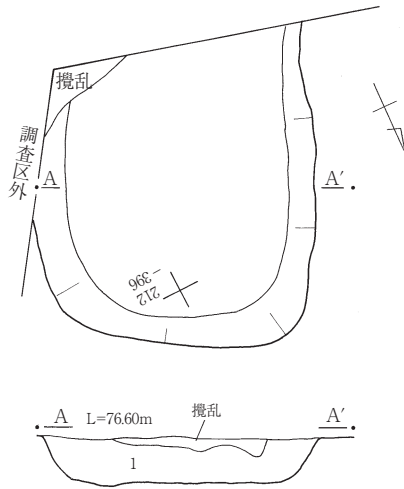


- 1 褐灰色砂質土 (7.5YR5/1)  
φ2~5mmの円礫、ローム粒をわずかに含む。



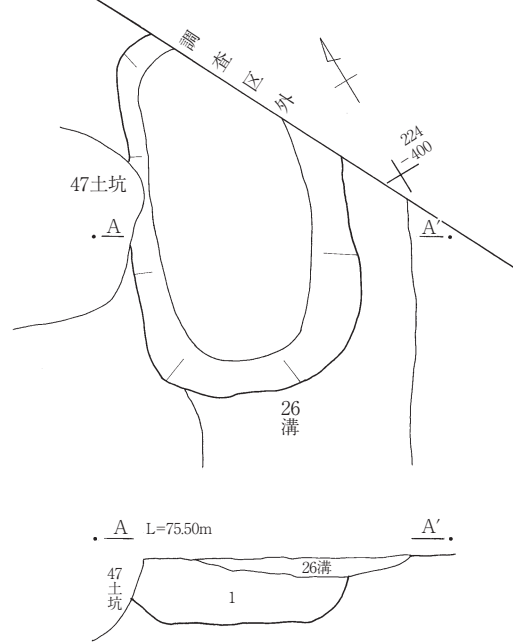
第52図 VII区34・35・37~40・42・44号土坑

41号土坑



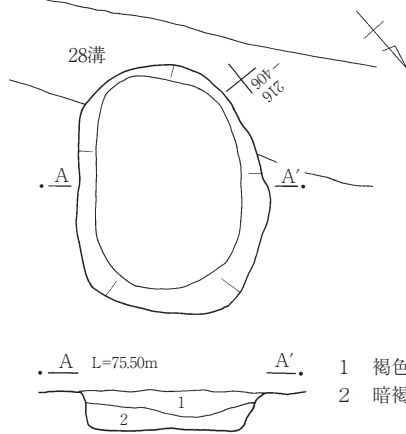
- 1 黒褐色砂質土 (10YR2/2)  
As-B、φ3mmのローム粒をわずかに含む。

46号土坑



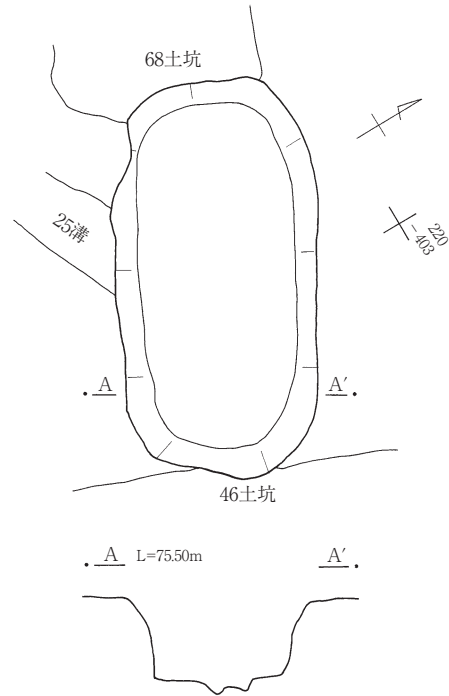
- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)

43号土坑

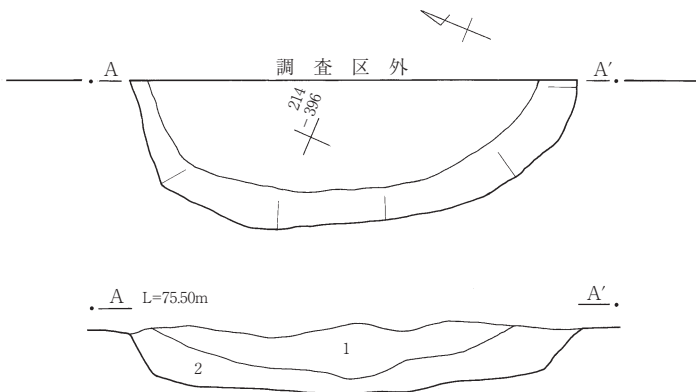


- 1 褐色土 (7.5YR4/3)  
2 暗褐色土 (7.5YR2/3)

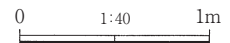
47号土坑



45号土坑



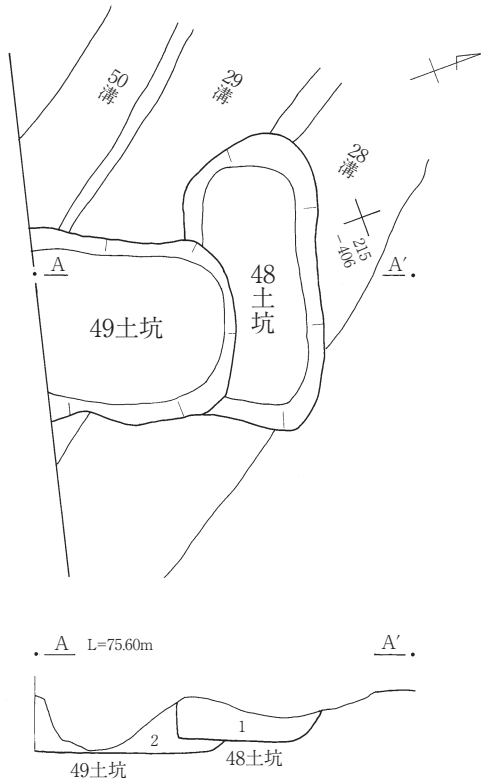
- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
やや砂質。  
2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
φ 5mmのロームブロックをわずかに含む。



第53図 VII区41・43・45~47号土坑

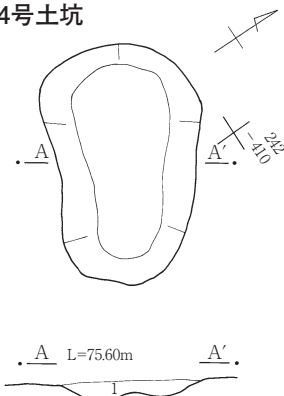


48・49号土坑



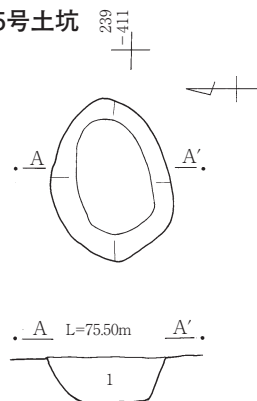
- 1 褐灰色砂質土 (7.5YR5/1)  
灰黄褐色土との混土。49号土坑よりも  
灰色が強い。
- 2 褐灰色砂質土 (7.5YR5/1)  
φ5mmのロームブロックをわずかに含  
む。

54号土坑



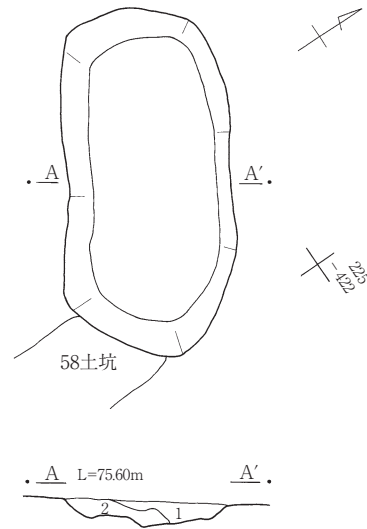
- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/1)  
As-Bとごくわずかのローム小ブロッ  
ク (φ 2~3mm) を含む。

55号土坑



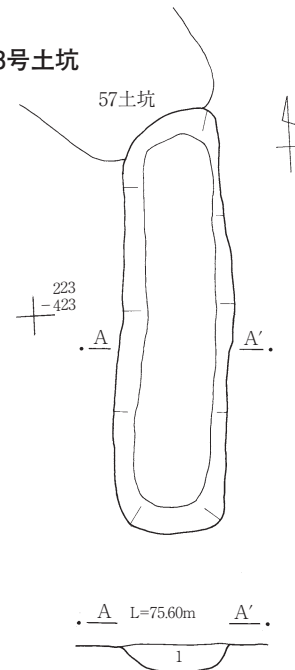
- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
φ2~5mmの小円礫をわずかに含む。

57号土坑

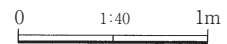


- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
φ 10~20mmのロームブロックをやや  
多く含む。
- 2 褐色土 (10YR4/6)  
くすんだローム土。地山の崩れか。

58号土坑

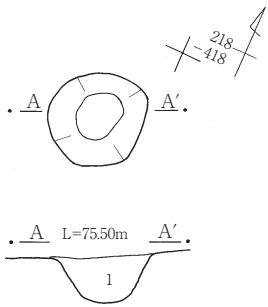


- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
粒子粗く縮まり悪い。φ 5mm前後  
のローム粒やや多く含む。



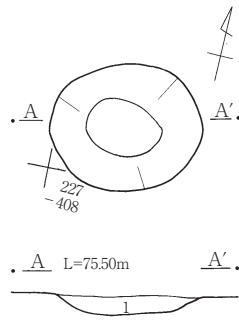
第54図 VII区48・49・54・55・57・58号土坑

59号土坑



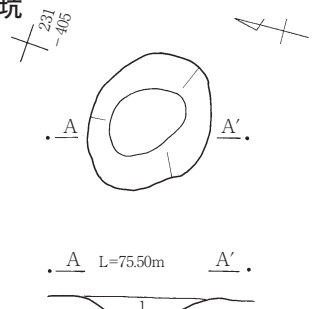
1 におい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒子をわずかに含み、締まり悪い。

61号土坑



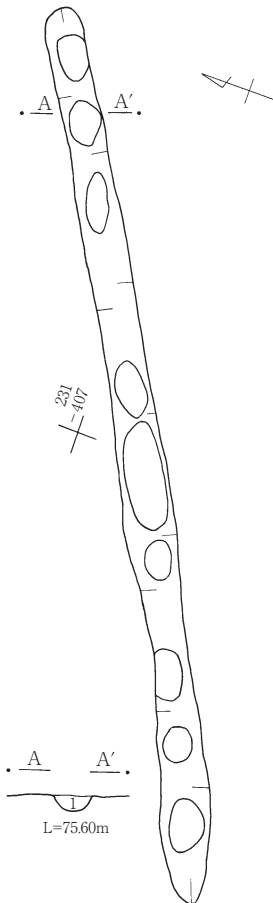
1 褐灰色砂質土 (7.5YR5/1) As-Bを含む。

63号土坑

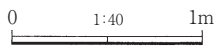


1 褐灰色砂質土 (7.5YR5/1) ロームブロックを含む。

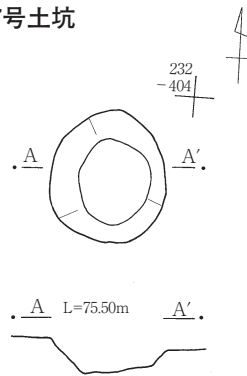
64号土坑



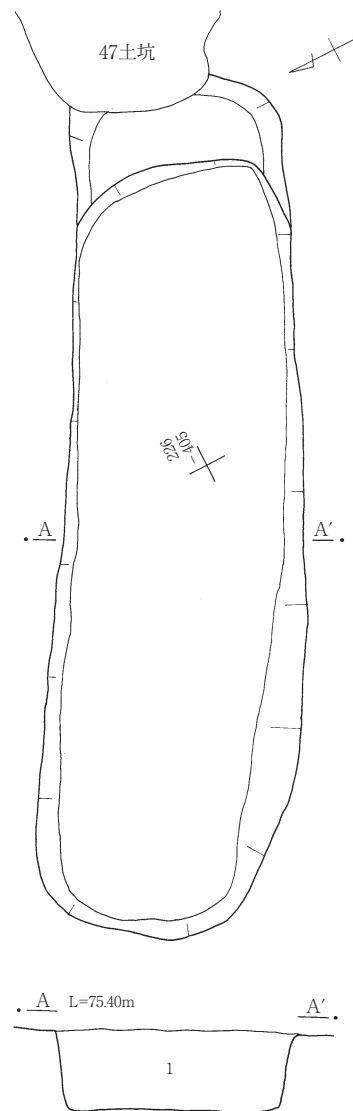
1 褐灰色砂質土 (7.5YR5/1) As-Bを多く含む。



67号土坑



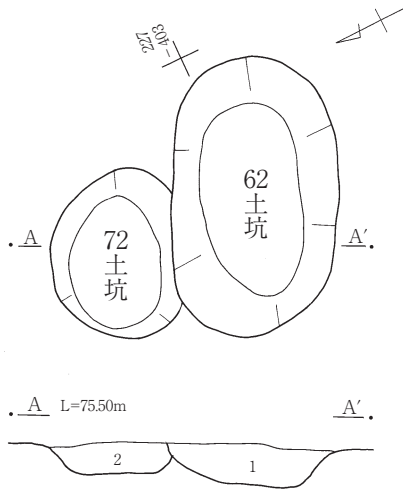
68号土坑



1 褐灰色砂質土 (7.5YR5/1)

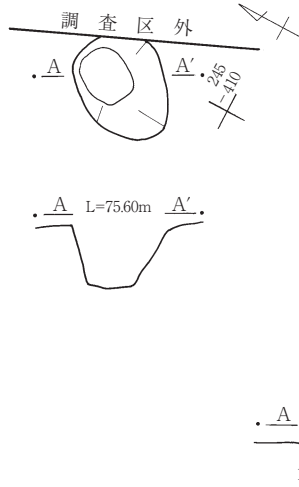
第55図 VII区59・61・63・64・67・68号土坑

62号土坑・72号土坑



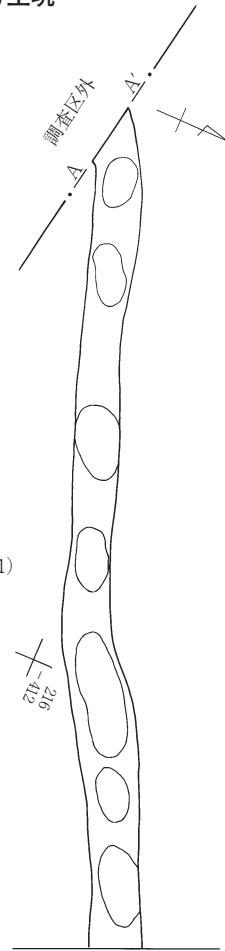
- 1 褐灰色砂質土 (7.5YR5/1)  
62号土坑。ロームブロックを含む。
- 2 褐灰色砂質土 (7.5YR5/1)  
72号土坑。ロームブロック多い。

73号土坑

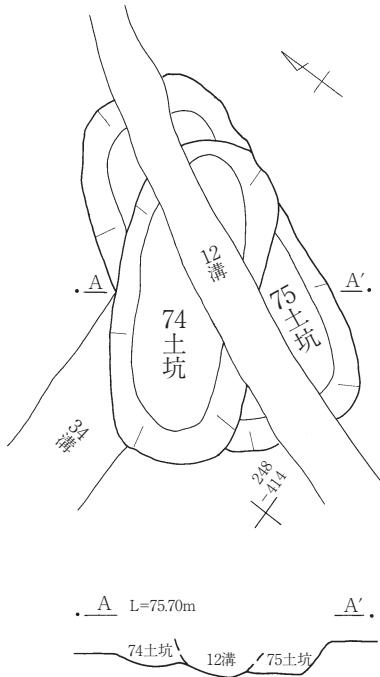


- 1 褐灰色砂質土 (7.5YR5/1)  
As-Bを多く含む。

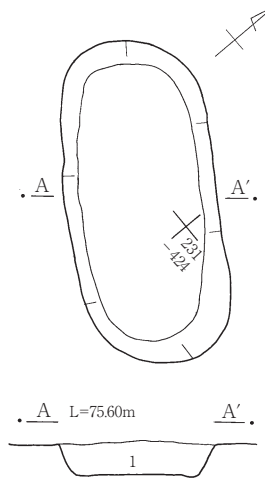
71号土坑



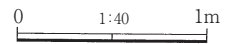
74・75号土坑



77号土坑



- 1 黒褐色砂質土 (7.5YR3/2)  
As-Bを多量に含む。



第56図 VII区62・71～75・77号土坑

### 5 井戸

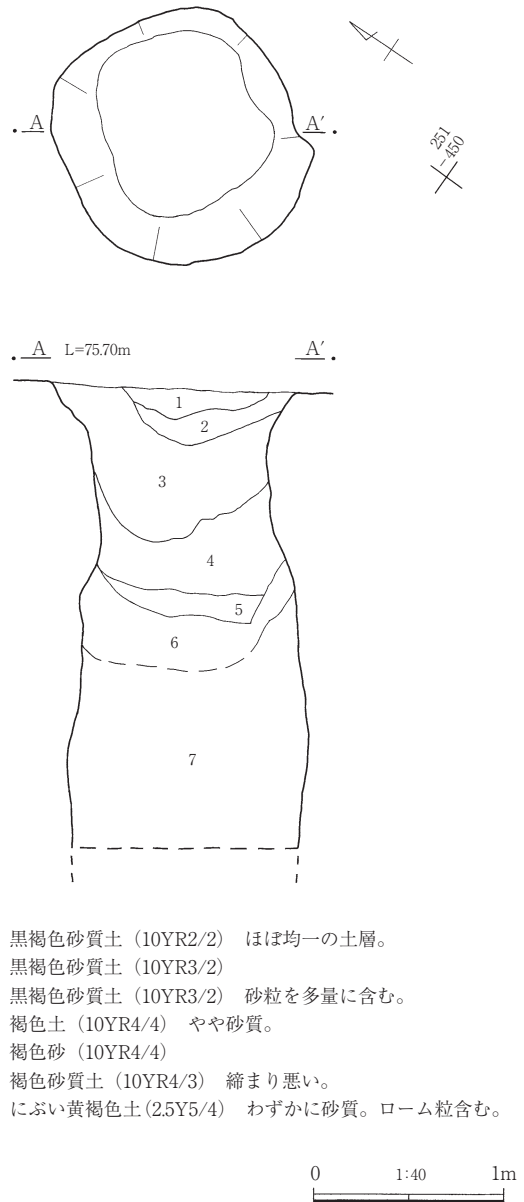
井戸は合計2基あったが、そのうち1基は地権者の話から現代のものであることが判明している。ここでは1号井戸と名付けたものについて報告する。

1号井戸はⅦ区のほぼ中央にある。素掘りのもので、平面形はやや方形に近い不整円形であり、確認面における大きさは長径1.32m、短径1.20mである。深さは確認面から2.4mほど掘り下げたところで水が湧き、埋土が崩壊して危険であったため、それ以下には掘り下げられなかった。

遺物は土師器の小破片が2点出土したのみであり、時期を特定することはできない。

### 6 ピット

掘立柱建物などの明確な遺構として把握できなかったピットは、調査区中央やや北西で13基がまともに見つかっている。それぞれの平面形は円形のものが多いが、角があり方形を意識しているのではないかと思われるものもある。径は20～40cm程度で特に大きいものではない。深さは9cmと浅いものもあるが、23～39cmのものが大部分であり、中には45cmや55cmと深いものもあり、かなりしっかりとしたピットであるといえよう。10×5mほどの狭い範囲に分布しているので、このうちのいくつかはセットとなって、何らかの遺構になる可能性もあるが、明らかにすることはできなかった。伴出遺物はなく、時期は不明である。



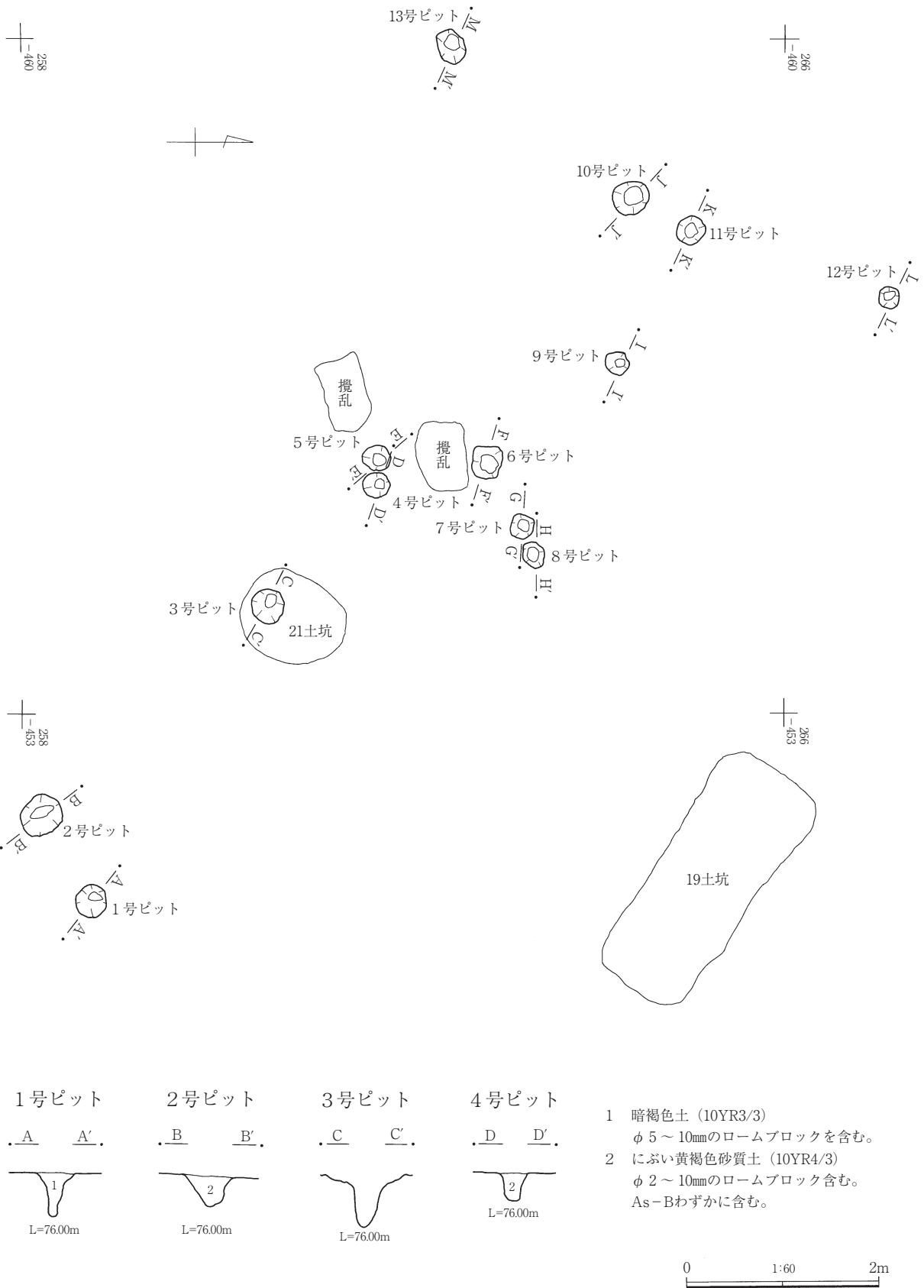
- 1 黒褐色砂質土 (10YR2/2) ほぼ均一の土層。
- 2 黒褐色砂質土 (10YR3/2)
- 3 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 砂粒を多量に含む。
- 4 褐色土 (10YR4/4) やや砂質。
- 5 褐色砂 (10YR4/4)
- 6 褐色砂質土 (10YR4/3) 締まり悪い。
- 7 にぶい黄褐色土 (2.5Y5/4) わずかに砂質。ローム粒含む。

第57図 Ⅶ区1号井戸

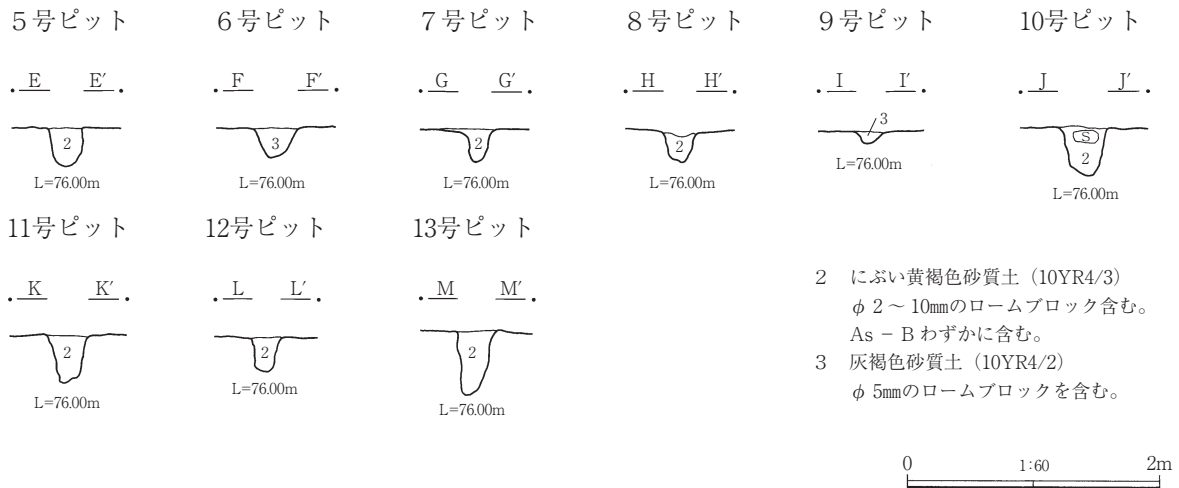
	位置	大きさ(cm)			備考
		長径	短径	深さ	
1	255-450	35	32	45	
2	255-450	47	40	32	
3	260-450	37	35	55	21号土坑と重複
4	260-455	29	27	28	
5	260-455	30	27	29	
6	260-455	34	30	23	
7	260-450	26	24	24	

	位置	大きさ(cm)			備考
		長径	短径	深さ	
8	260-450	29	24	25	
9	260-455	27	24	9	
10	260-455	39	35	39	
11	265-455	32	28	37	
12	265-455	24	22	27	
13	260-455	37	29	51	

第6表 Ⅶ区ピット一覧表



第58図 VII区 1~13号ピット



第59図 VII区5～13号ピット断面

## 7 旧石器確認調査

VII区でも遺構の調査が終了したのちに旧石器の確認調査を行ったが、ロームの残存状態によってトレンチの設定等を調整した。

VII区の北半部（VII-1区）の特に標高の高い北東部を中心とした部分では、表土を除去した時点でローム層となり、円礫が多く現れる状態であった。この層はローム土が二次堆積したものと考えられるが、堆積状態の良好なローム層はより南側のやや低くなった部分に存在するため、旧石器確認調査はこちらを中心に行うこととした。

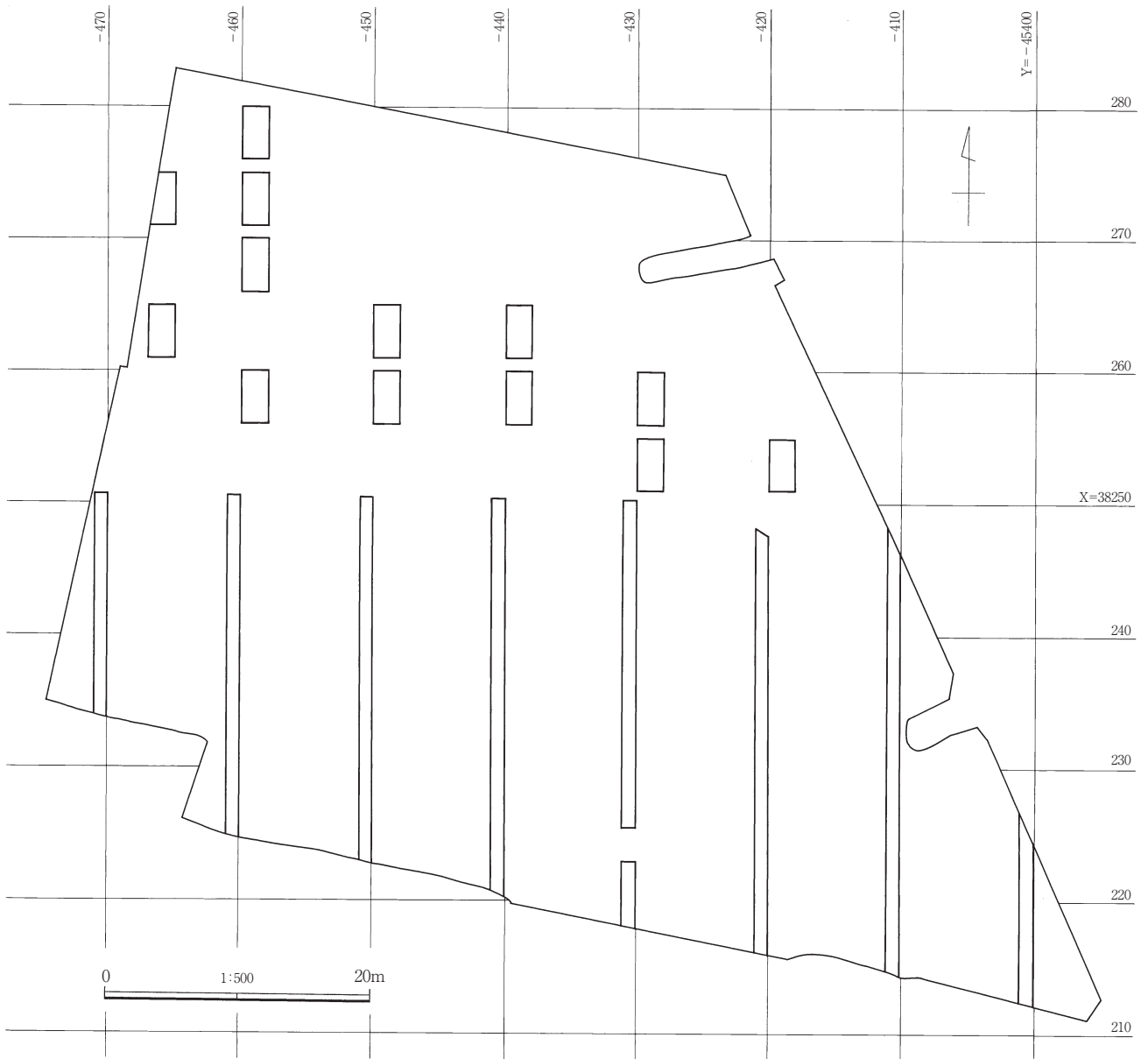
トレンチの設定は、まず北半部（VII-1区）では、2m×4mの調査区を、概ね10m×10mの範囲ごとに1カ所設定した。設定した数は合計13カ所である。南半部（VII-2・3区）では10mおきに南北のトレンチを設けて調査を行った。トレンチの幅は1mであり、設定した数は合計8本である。

調査の結果、各調査区・トレンチ共に40～120cmほどの深さで礫層となり、その間に旧石器と思われる石器は出土しなかった。

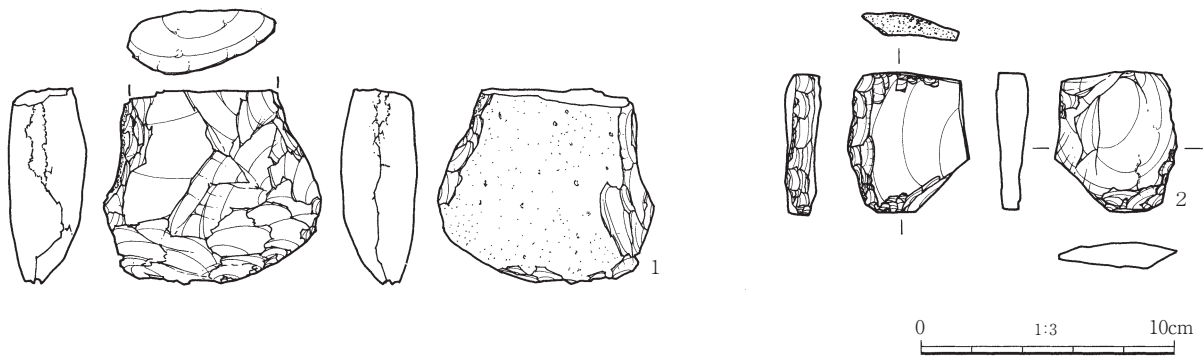
## 8 遺構外出土の遺物

VII区の出土遺物は全体に少なく、遺構外出土の遺物も少ない。報告するのは縄文時代の石器2点である。1は打製石斧、2は削器である。いずれもVII区

南東部から出土している。



第60図 VII区旧石器確認トレンチ配置図



第61図 VII区遺構外出土遺物

## 第6節 VIII区の調査

### 1 概要

VIII区は県道太田大間々線の東側の部分である。県道から東、旧太田市・藪塚本町の境までの範囲については、今回の調査範囲のなかでは最も広い面積を占めるが、排土置き場の確保といった調査工程の都合上、一度に調査を行うことは困難であるので、大きく二回に分けて調査を行うこととした。そのため全体を南北に二分して、北側をVIII区、南側をIX区とし、VIII区の調査が終了した後IX区の調査を引き続いて行うこととした。

このうちVIII区については、現地における発掘調査の時点では、西側をVIII-1区、東側をVIII-2区と名付けて調査し、さらにVIII-1区西端付近はVIII-1西区として調査するというように、区を細分して調査した。そのため、一部の記録類にはこの細分名が記されている。しかし、遺構名の付与などでは、これらの細分を区別することはなく、一括して把握して調査したので、本書でも特に断らない限りこれらを区別することはせず、VIII区として報告する。

ただし、VIII-1西区については、調査時にやや深くまで表土除去をおこなってしまったらしく、付図4に見るように、溝(16号溝)が途切れてしまっているところがある。

遺構確認面における標高を見ると、調査区の標高は西端と北側中央付近が最も高く、そこから南、東に向かって下がる地形となっている。その傾斜は概ね緩やかであるが、北側中央付近ではやや急な傾斜となっており、その傾斜が緩やかになるところに溝が東西に走っている。

この区は今回の西野原遺跡(3)の調査では中心となる調査区であり、多くの遺構が分布している。調査できた遺構は、竪穴住居6軒、溝35条、土坑71基、ピット(柵列の柱穴含む)19基、土器集中部1カ所の他、畠・耕作痕など、多種多様なものが見られる。それらの遺構は調査区全体に分布するが、巨視的に眺めれば、東側により多い傾向がある。西端

部に少ないのは、前述の通り、表土除去がやや深すぎたためであろう。竪穴住居は、調査区北側に偏って分布しており、南側のIX区には分布しない。これは、後述するように、集落の中心が本調査区の北にあるため、本調査区ではその集落遺跡の南端部を調査していることになる。

### 2 竪穴住居

竪穴住居は6棟調査した。これらは北側に展開する集落遺跡につながるものであり、本調査区ではその集落の南端付近を調査しているらしい。本調査区内の竪穴住居が、北側に偏って分布しているのはそのためである。この北側の集落遺跡については、「例言」で述べたように西野原遺跡(2)・(5)として当事業団が調査している。

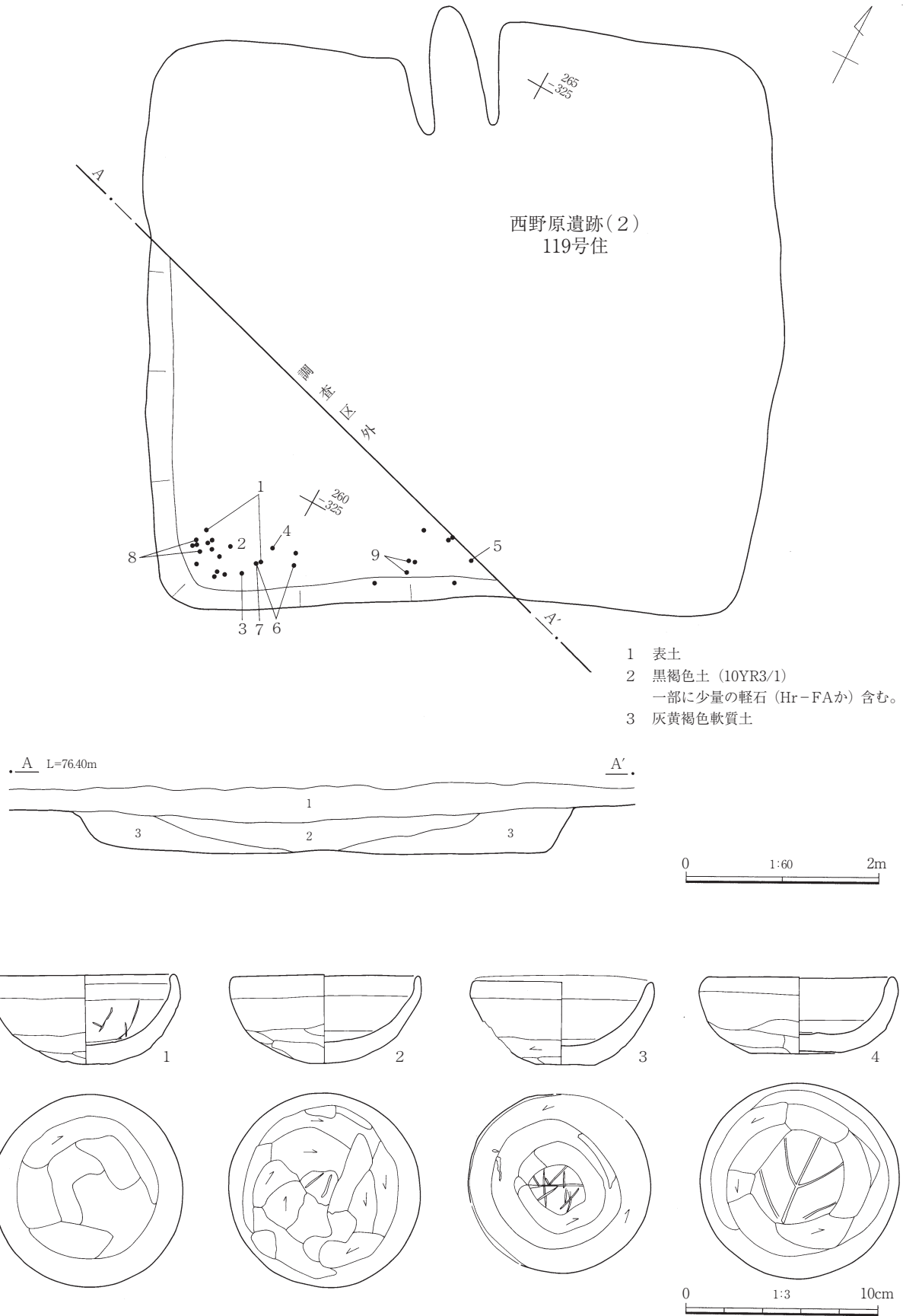
本調査区の6棟の竪穴住居は、竪穴住居同士の重複はなくいずれも単独で存在している。それらのうち3棟は、北側の調査区境界に位置し、一部~大部分が調査区外となっている。この調査区外となる部分については、平成16年度に西野原遺跡(2)として当事業団が調査し、すでに報告済みである。この調査は一般県道国定藪塚線の整備事業に伴うものであり、以下、この調査の成果を引用する場合は「西野原(2)」と略称することにする。

#### 1号竪穴住居(第62・63図、PL.20・43)

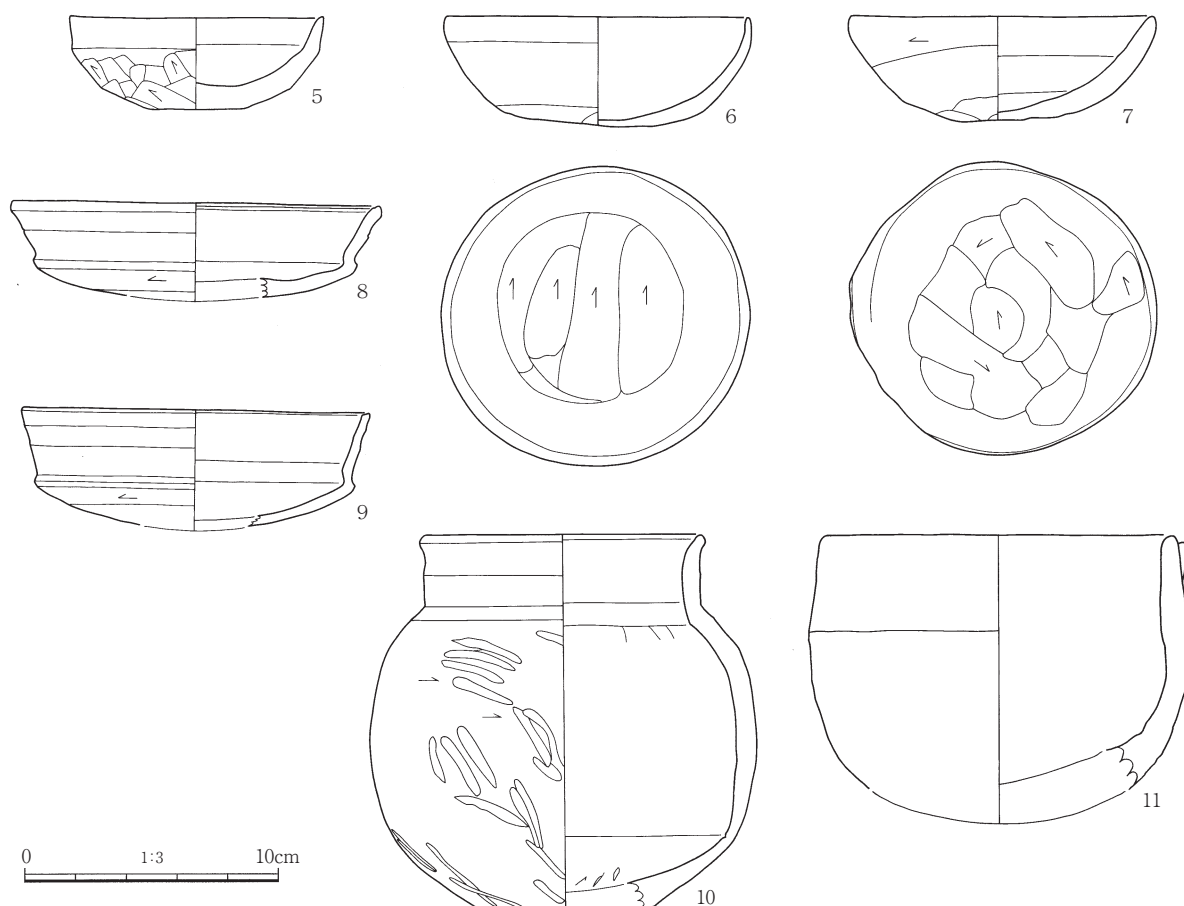
調査区北端中央やや西寄りにある。大部分が調査区外となり、調査できたのはわずかな部分である。今回報告するのは住居南隅の部分であるが、西野原(2)でそれ以外の部分が調査されており、それによって本住居の全体が判明する。西野原(2)における遺構名は「119号竪穴建物」である。

**位置:** X = 38254 ~ 262、Y = -45322 ~ 329。**重複遺構:** 本調査区内ではなし。**形態:** ほぼ正方形。**方位:** 西野原(2)でN - 38° - Eと計測されている。**規模:** 西野原(2)で6.1×6.0m。**床面積:** 5.6㎡。**壁**





第62図 Ⅷ区1号住居、出土遺物(1)



第63図 Ⅷ区1号住居出土遺物(2)

高：54cm。床面：地山を平坦に整形してそのまま床としている。柱穴：西野原(2)で東隅、北隅、西隅の3カ所を確認しており、Ⅷ区では南隅の1本が存在するはずであるが、確認できなかった。貯蔵穴：西野原(2)で竈右側にある。周溝：全く見られない。竈：北西辺にあり、西野原(2)で調査されている。遺物：遺物の出土は西野原(2)も含めて非常に多い。特に西野原(2)で報告した範囲では、竈右側から貯蔵穴周辺にかけて、数多くの坏が並べられたり重ねられたりした状態で出土している。Ⅷ区の調査では南東壁に沿った部分に遺物が集中していた。ここで報告するのは土師器坏9、土師器小型甕1、土師器鉢1である。土師器坏のうち1～4は同じ作りのもので、木葉痕の付く底面を残すもの、それを削って丸底にするものがある。同様の形態の坏は西野原(2)から数多く出土してい

る。時期：出土遺物から6世紀前半と考えられる。

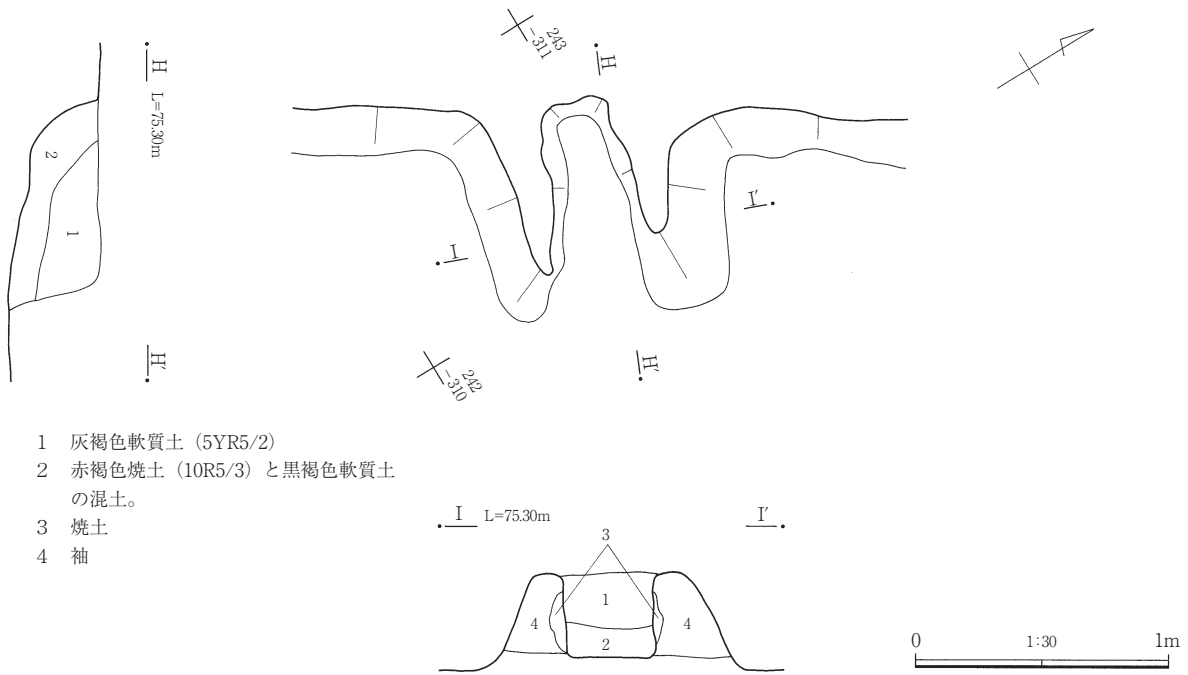
**2号竪穴住居**(第64～67図、PL.20・43・44)

調査区中央付近にある。5号住居とは至近距離にあり、方向もほぼ共通するので、2棟が並列するように見えるが、時期は本住居の方がやや新しい。いくつかの新しい遺構と重複するが、いずれも浅かったため、ほぼ全形を把握することができた。

**位置**：X = 38238～246、Y = -45303～312。重複遺

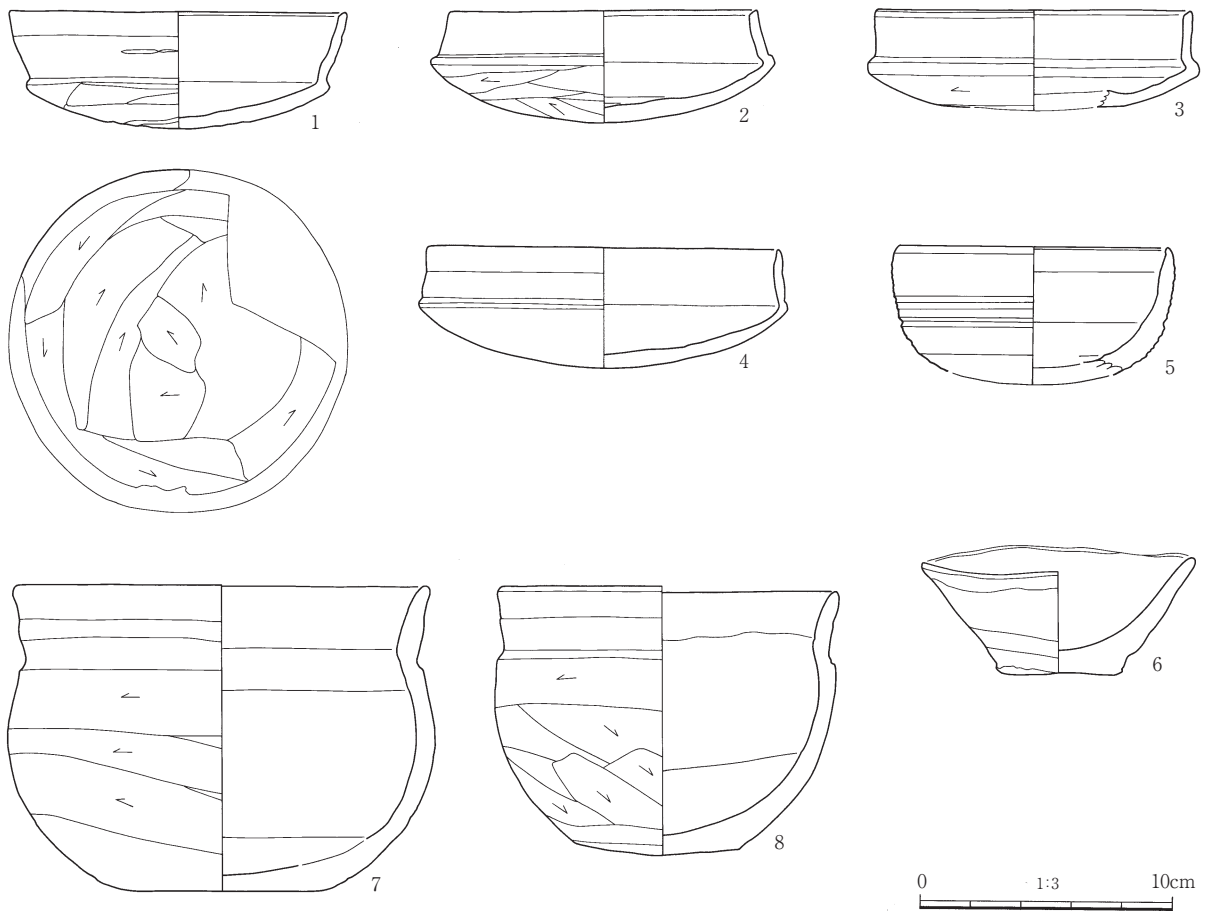
**構**：北半部に4号溝・16号溝が重複して壁の上端が壊されている他、南東壁中央に29号土坑が重複している。いずれも本遺構より新しい。南隅付近に重複して、柱穴P4の上半を破壊している長方形の土坑は、新しい時期の攪乱であり、本住居に伴うものではない。**形態**：ほぼ正方形だが、多少歪みがある。**方位**：N - 59° - W。**規模**：6.28m × 6.10m。**床面積**：32.3㎡。**壁高**：深いところで38cmである。**床面**：



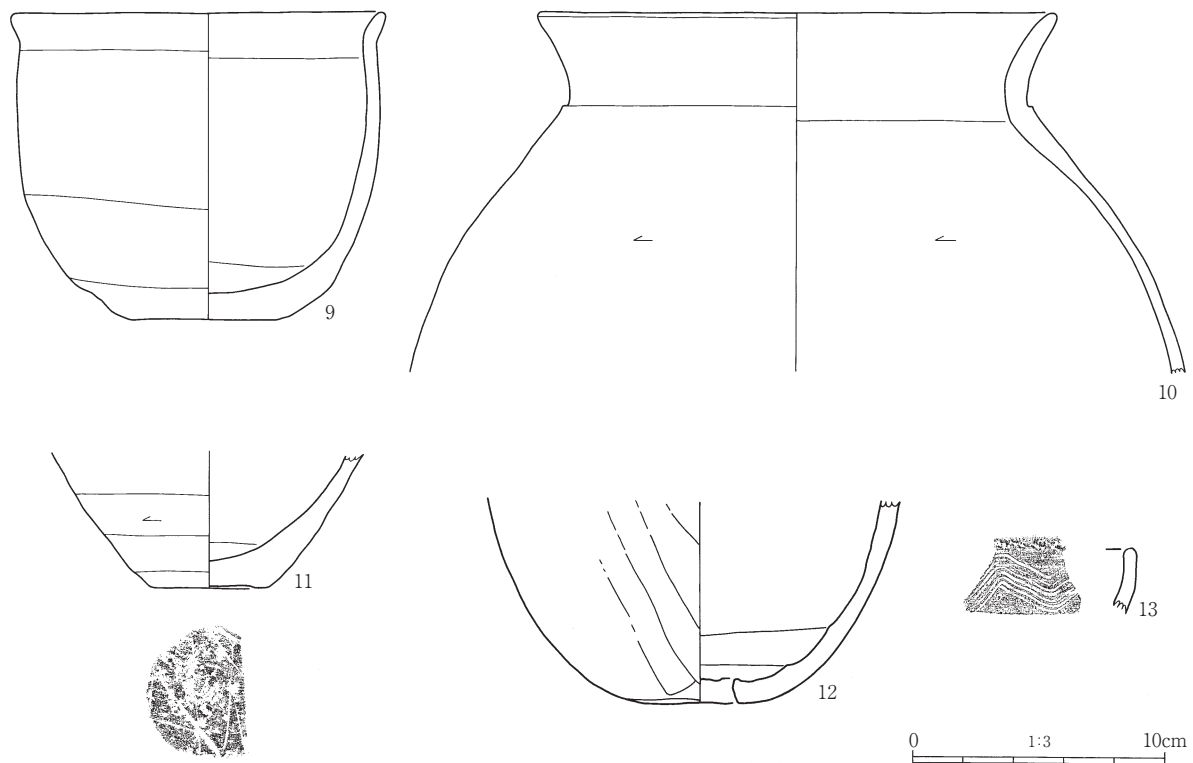


- 1 灰褐色軟質土 (5YR5/2)
- 2 赤褐色焼土 (10R5/3) と黒褐色軟質土の混土。
- 3 焼土
- 4 袖

第65図 Ⅷ区2号住居竈



第66図 Ⅷ区2号住居出土遺物(1)



第67図 Ⅷ区2号住居出土遺物(2)

地山を平坦に整形してそのまま床面としている。床面下層の土坑などは確認されなかった。**柱穴**：4隅に1本ずつあり、それぞれの長径×短径×深さは、P 1が34cm×26cm×30cm、P 2が54cm×49cm×38cm、P 3が62cm×55cm×33cm、P 4が40cm×34cm×30cmである。東隅のP 3のみには、間仕切り施設の基礎と思われる浅い溝が付随している。この溝は幅23～32cm、深さ8cmであり、P 3から北東壁に向かって直線的にのびている。**貯蔵穴**：竈の右側で住居北隅に近く、柱穴P 2のすぐ脇にある。やや歪んだ楕円形で、長さ90cm、幅73cm、深さ42cmである。断面は逆台形で、底面は平坦である。**1号土坑**：南西壁際中央やや西寄り、P 1の脇にある。住居床面では長さ79cm、幅65cm、深さ17cmの楕円形の土坑である。底面は平坦ではなく、しっかりとした遺構であるとは思えない。埋土から6の土器が出土していることから、住居よりも新しい時期のものであり、本来住居に伴うものではないと考えられる。**周溝**：なし。**竈**：北西壁の中央やや南寄りにある。両袖が良好に残り、長さ87cm、幅100cmである。煙道は住居外に

ほとんど出ていない。焼土部の袖内側はよく焼土化しており、比較的長期間使用されたものと思われる。竈内には焼土と黒褐色軟質土の混土が堆積していた。**遺物**：竈周辺から床面中央にかけてのやや広い範囲に遺物が散布していた。報告するのは土師器坏4、須恵器高坏の坏部1、土師器甕5、土師器甑1などである。これらの土器の破片の一部は、隣接する5号住居埋土から出土している。6の土師器碗は1号土坑から出土したもので、この住居には伴わない。**時期**：出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

### 3号竪穴住居 (第68～73図、PL.20・44・45)

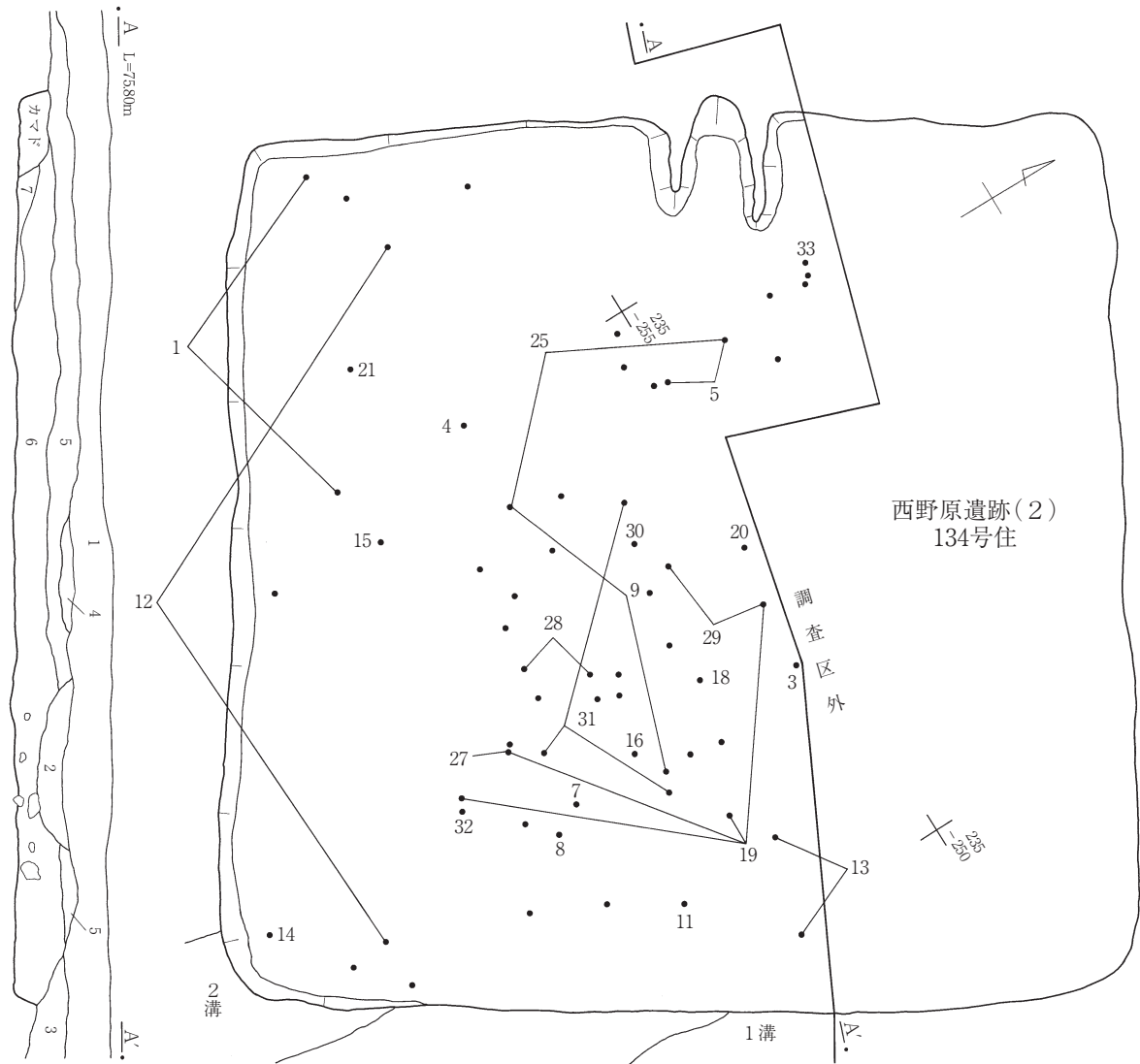
調査区北東隅近くにあり、北半部が調査区外となる。この調査区外の部分は西野原遺跡(2)と、太田市教育委員会調査の西野原遺跡(6)にあたり、西野原遺跡(2)では134号竪穴建物と呼ばれているものに相当する。これらの調査成果を合わせることで遺構の全体を把握することができた。Ⅷ区内では2条の溝と重複しているもののほかの住居とは重複していないが、西野原(2)では133号竪穴建物と重複

第7章 西野原遺跡(3)

している。

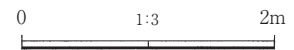
**位置：**X = 38229~238、Y = -45249~258。**重複遺構：**住居東端部付近に1号溝と2号溝が重複するが、いずれも浅く、壁の上端を壊しているだけである。2条とも本遺構より新しい。**形態：**ほぼ正方形で隅はほぼ直角をなし、整った形である。**方位：**N - 60° - W。**規模：**7.23m × 7.25m。**床面積：**32.3㎡。**壁高：**残りのいいところで40cmである。**床面：**地山

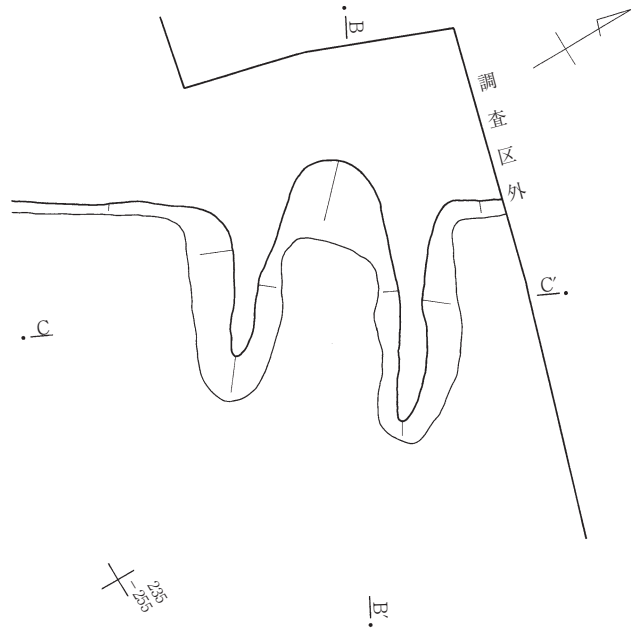
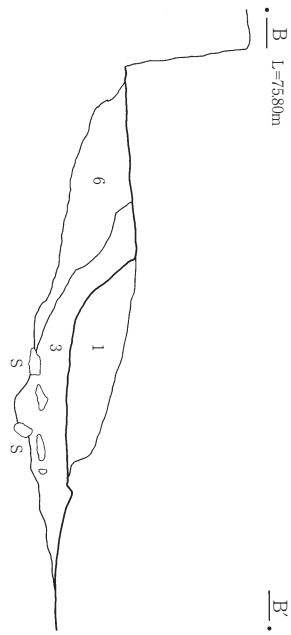
を平坦に整形してそのまま床面とする。床下の遺構は確認できなかった。**柱穴：**確認できなかった。西野原(2)では東隅付近に浅いピットを確認しているが、その他の場所では見つかっていないため、本来柱穴はなかったものと考えられる。**貯蔵穴：**確認できなかった。西野原(2)でも確認されていないので、本来なかったものと考えられる。**周溝：**なし。西野原(2)でも確認されていない。**竈：**北西壁中



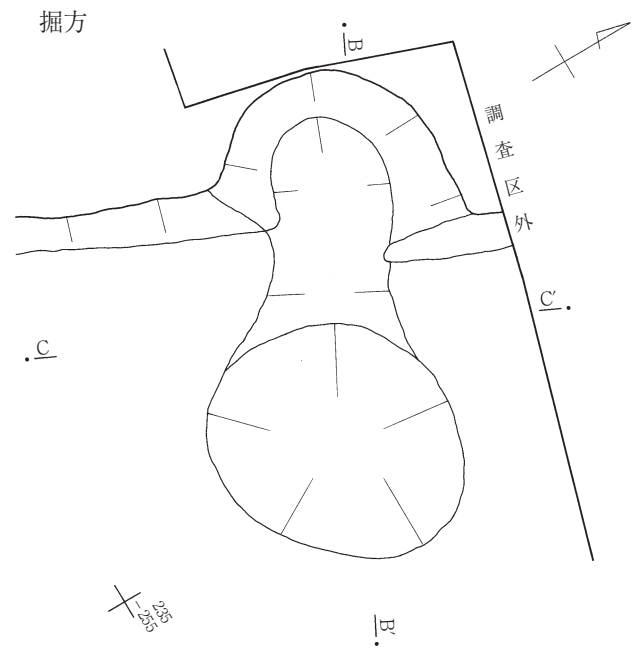
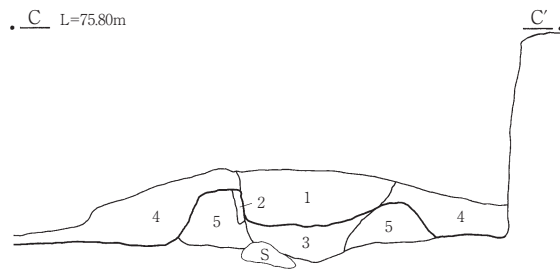
- |                            |                                   |
|----------------------------|-----------------------------------|
| 1 灰黄褐色土 (10YR6/2) 表土。      | 5 褐灰色軟質土 (10YR5/1)                |
| 2 にぶい黄橙色軟質土 (10YR6/3) 2号溝。 | 6 褐灰色粘質土 (10YR4/1)                |
| 3 にぶい黄橙色軟質土 (10YR6/3) 1号溝。 | 7 褐灰色粘質土 (7.5YR6/1) 焼土と灰色粘土との混合土。 |
| 4 褐灰色粘質土 (10YR6/1)         |                                   |

第68図 VIII区3号住居

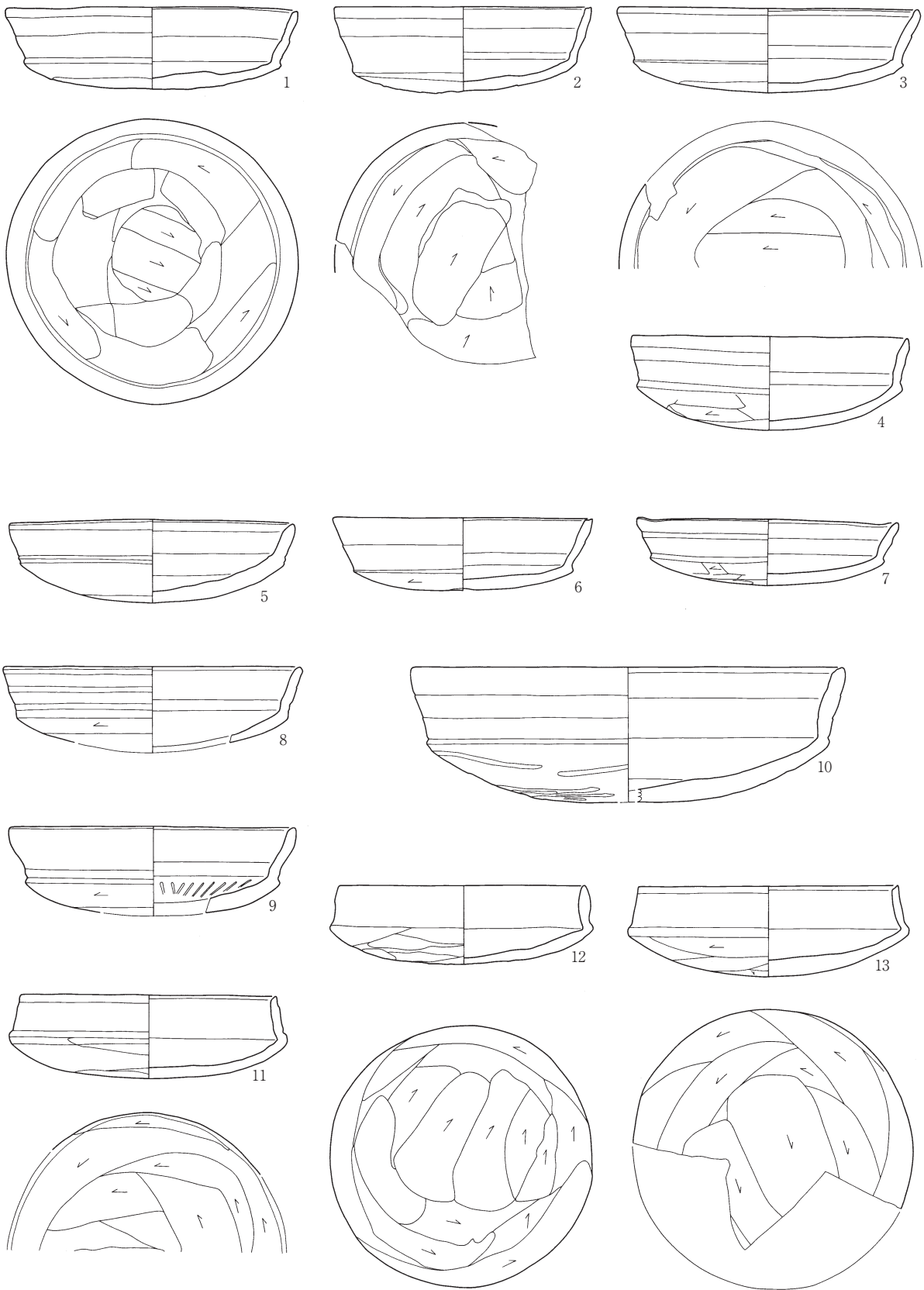




- 1 褐灰色軟質土 (7.5YR6/1) 少量の焼土粒含む。
- 2 赤色土 (10R4/8) 焼土。壁状になっている。
- 3 灰赤色焼土層 (2.5YR6/2)
- 4 褐灰色粘質土 (7.5YR6/1) 焼土と灰色粘土の混合層。
- 5 にぶい黄橙色粘土 (10YR7/2) 袖。内側は焼土化。
- 6 褐灰色軟質土 (7.5YR6/1) 少量の焼土粒含む。

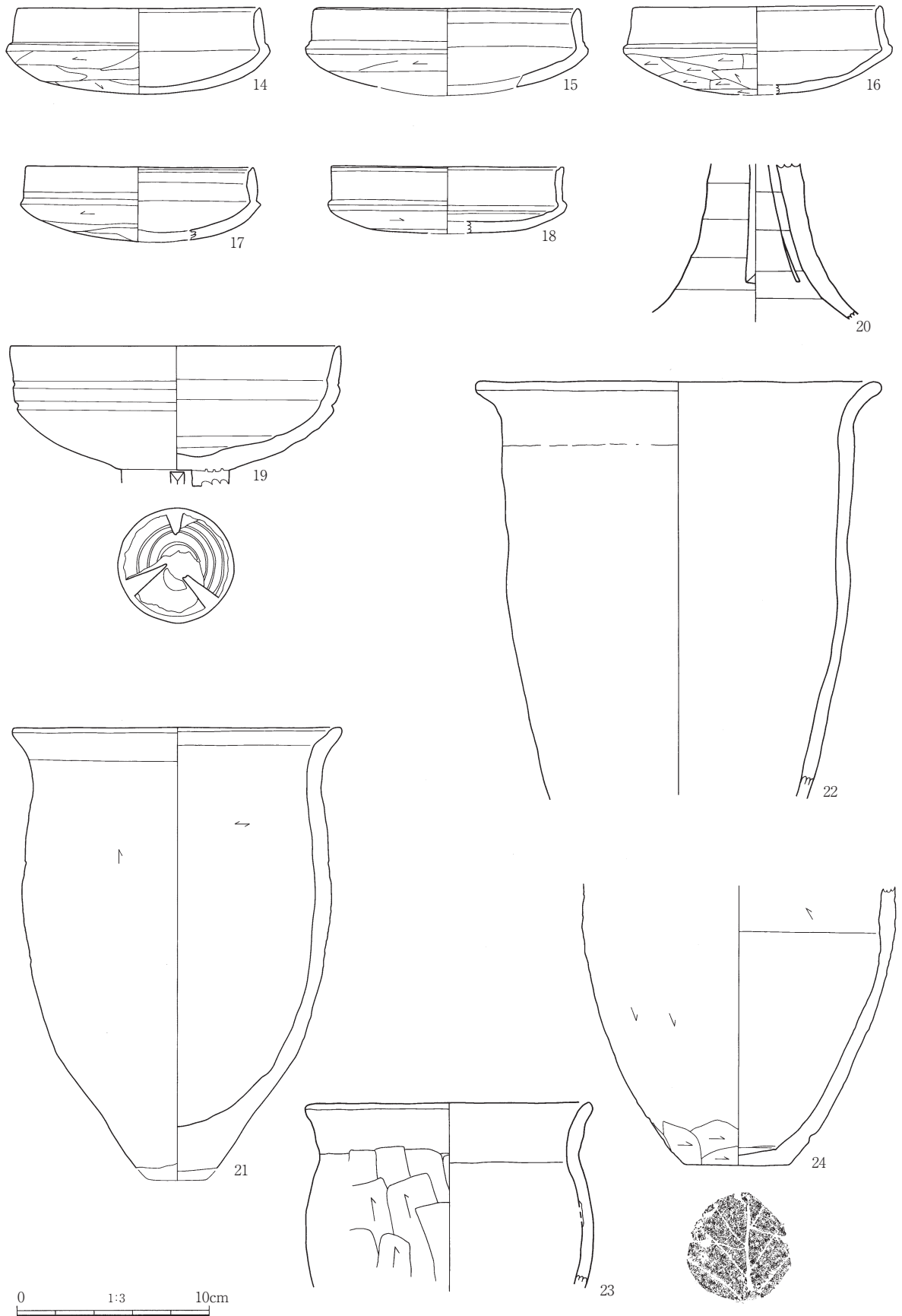


第69図 VIII区3号住居竈

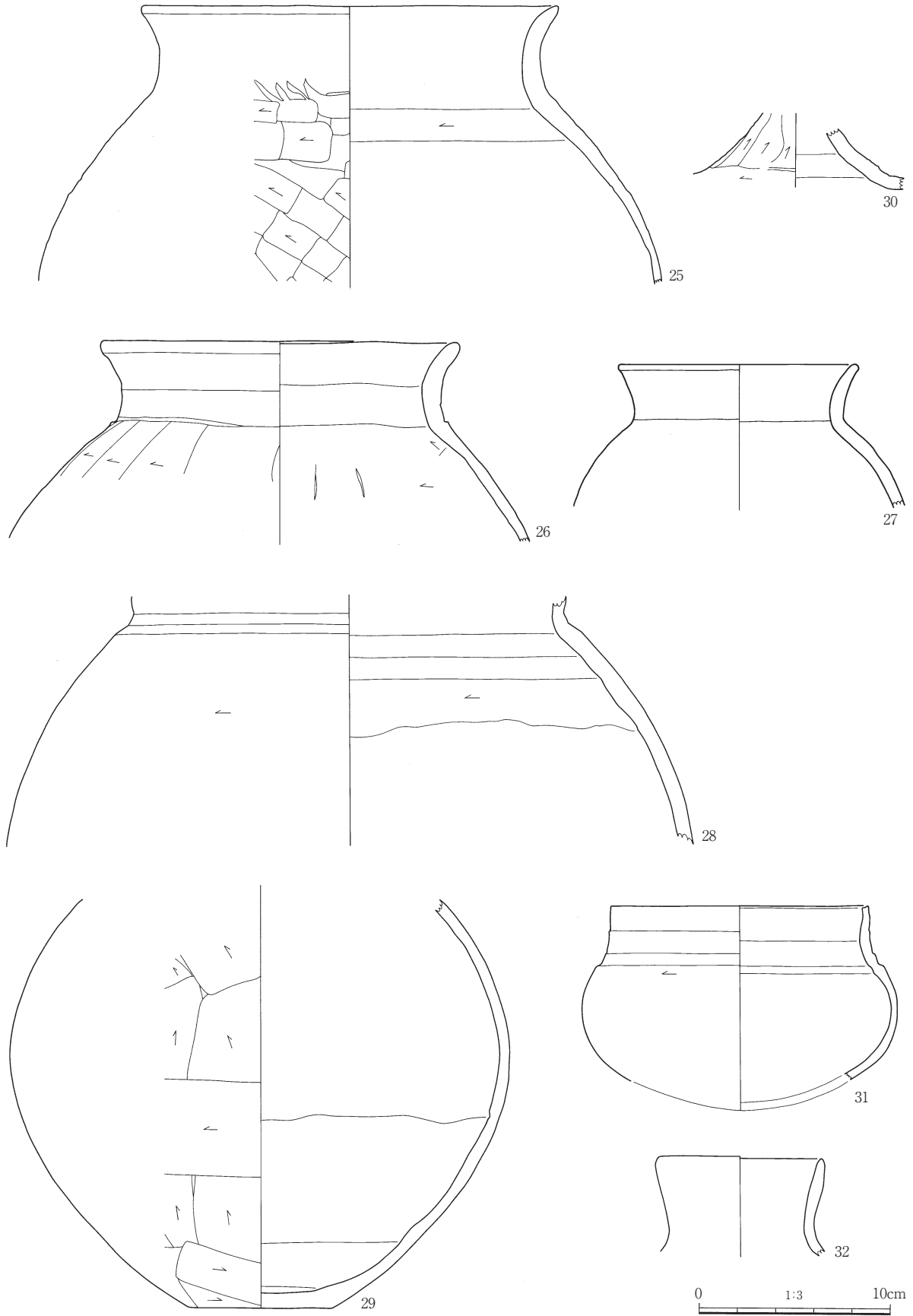


第70図 Ⅷ区3号住居出土遺物(1)

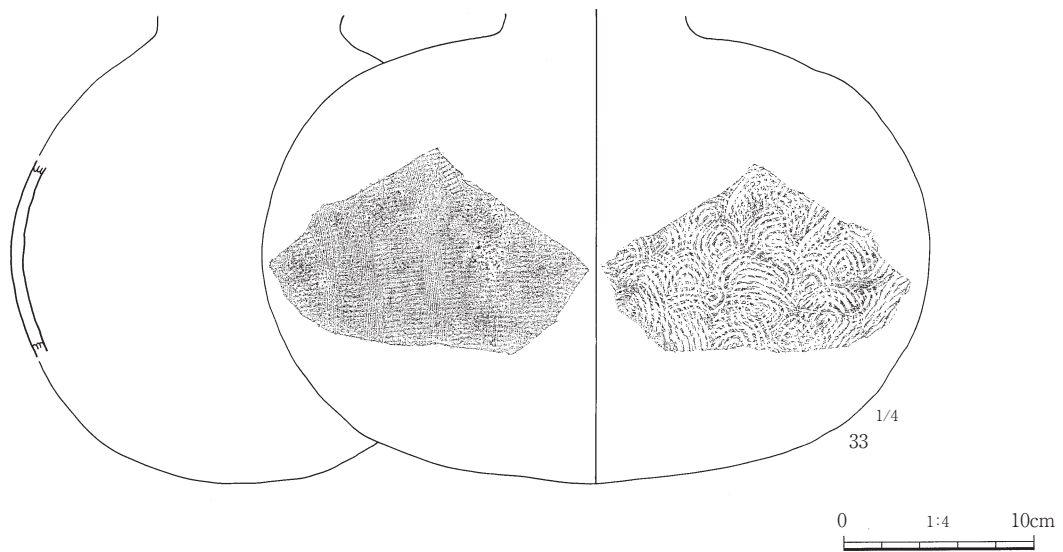




第71図 Ⅷ区3号住居出土遺物(2)



第72図 Ⅷ区3号住居出土遺物(3)



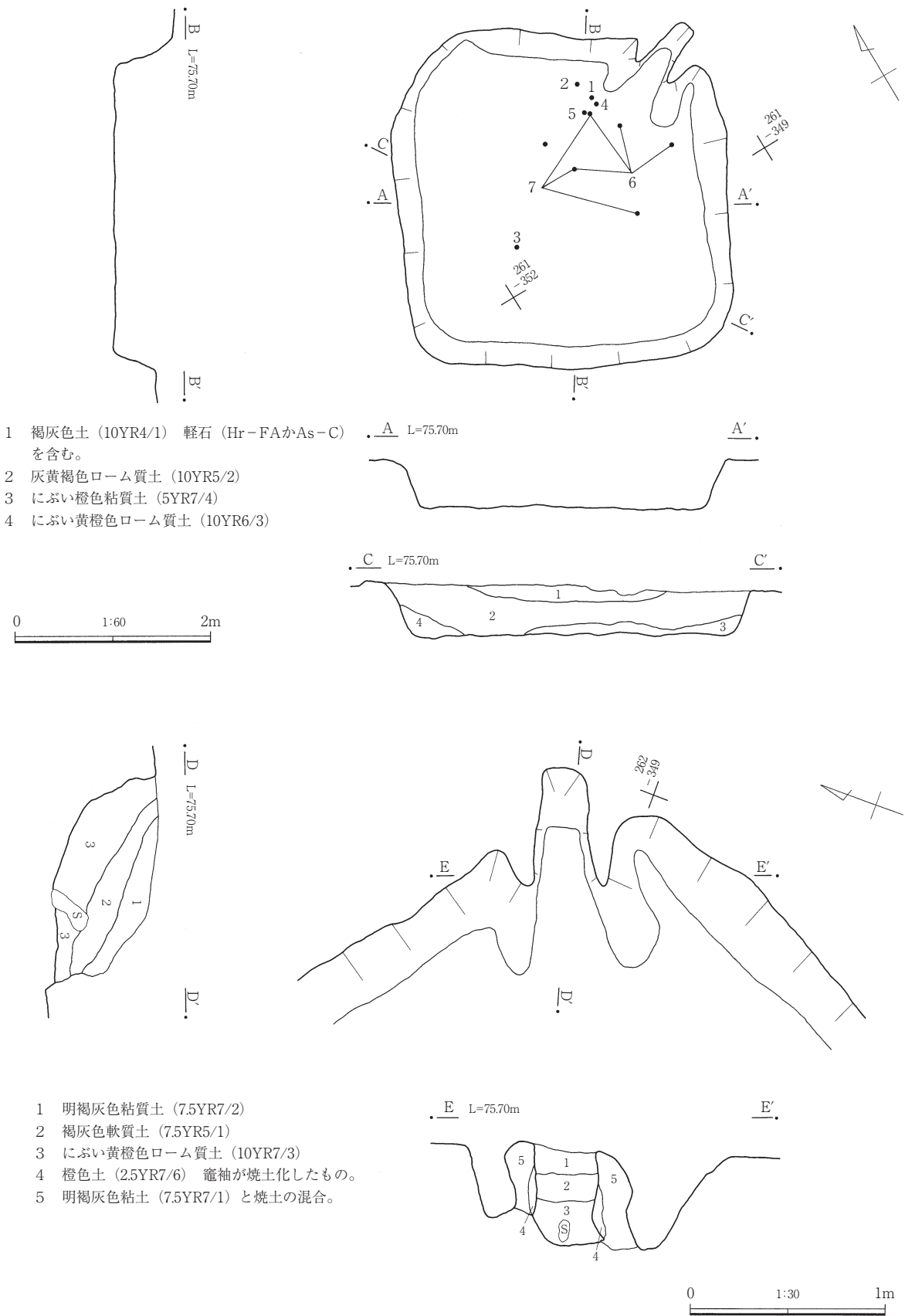
第73図 Ⅷ区3号住居出土遺物(4)

中央やや北寄りにある。両袖がよく残り、幅1.07m、長さ1.03m。煙道部は壁外にほとんど延びない。袖はにぶい黄橙色粘土で作られ、内側はよく焼土化している部分がある。竈内には焼土層が厚く堆積していた。**遺物**：床面中央付近を中心として多くの遺物が散布していた。ここで報告するのは土師器坏18、須恵器高坏2、土師器甕11、土師器埴1、須恵器横瓶1などであり、種類が豊富である。10は大型の坏であるが、同様なものは5号住居からも出土している。19は須恵器高坏の坏部分であり、脚との接合部には同心円状に刻みを入れ、3方向の透かし穴の痕跡も残っている。甕にも、胴の丸みがないもの、丸く膨らむものなど、様々な器形のものが含まれている。横瓶は小破片しか出土していないが、掻き目と形態から復元したものである。**時期**：出土遺物から6世紀前半であると思われる。

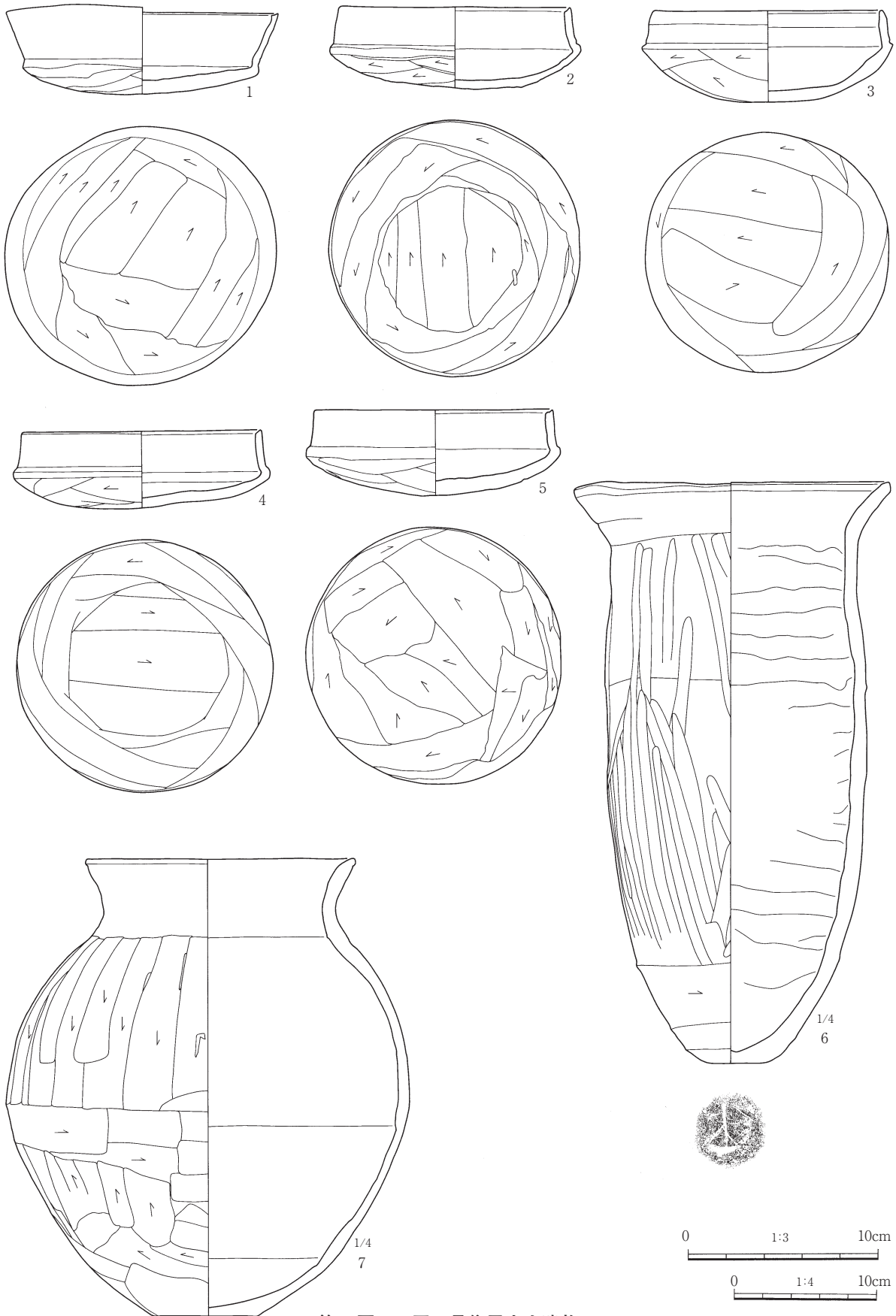
#### 4号竪穴住居（第74・75図、PL.21・45）

調査区西半部やや北寄りにある小型の住居であり、竈が壁中央ではなく東隅に構築されているのが特徴である。他の遺構との重複がなく、単独で存在する。貯蔵穴、柱穴、周溝など、住居内の施設は見つかっていないが、これは住居面積が小さいためであると思われる。

**位置**：X = 28259～264、Y = -45349～353。**重複遺構**：なし。43号土坑・85号土坑とは至近距離にあるが重複していない。これらの土坑は埋土の特徴から見ていずれも本住居より新しい。**形態**：ほぼ正方形だが、北隅がやや歪んでいる。**方位**：竈が隅にあるので主軸方位を限定しづらいが、第74図にあげた向きで上下方向を主軸方位とすると、N - 29° - Eである。**規模**：3.44m×3.38m。**床面積**：8.1㎡。**壁高**：全体に残りがいいが、特にいい部分では55cmある。**床面**：地山を平坦に整形してそのまま床面とする。床下の施設は確認できなかった。**柱穴**：確認できなかった。**貯蔵穴**：確認できなかった。**周溝**：確認できなかった。**竈**：東隅にある。袖がよく残り、幅0.85m、長さ1.03m。煙道部は外にやや延びている。袖は明褐色灰色粘土で作られ、燃焼部内側がよく焼土化しているが、埋土に焼土、炭化物はあまり多く含まれていない。**遺物**：竈の前を中心として遺物が散布していた。報告するのは土師器坏5、土師器長胴甕1、土師器甕1である。**時期**：出土遺物から6世紀前半と考えられる。



第74図 Ⅷ区4号住居、竈



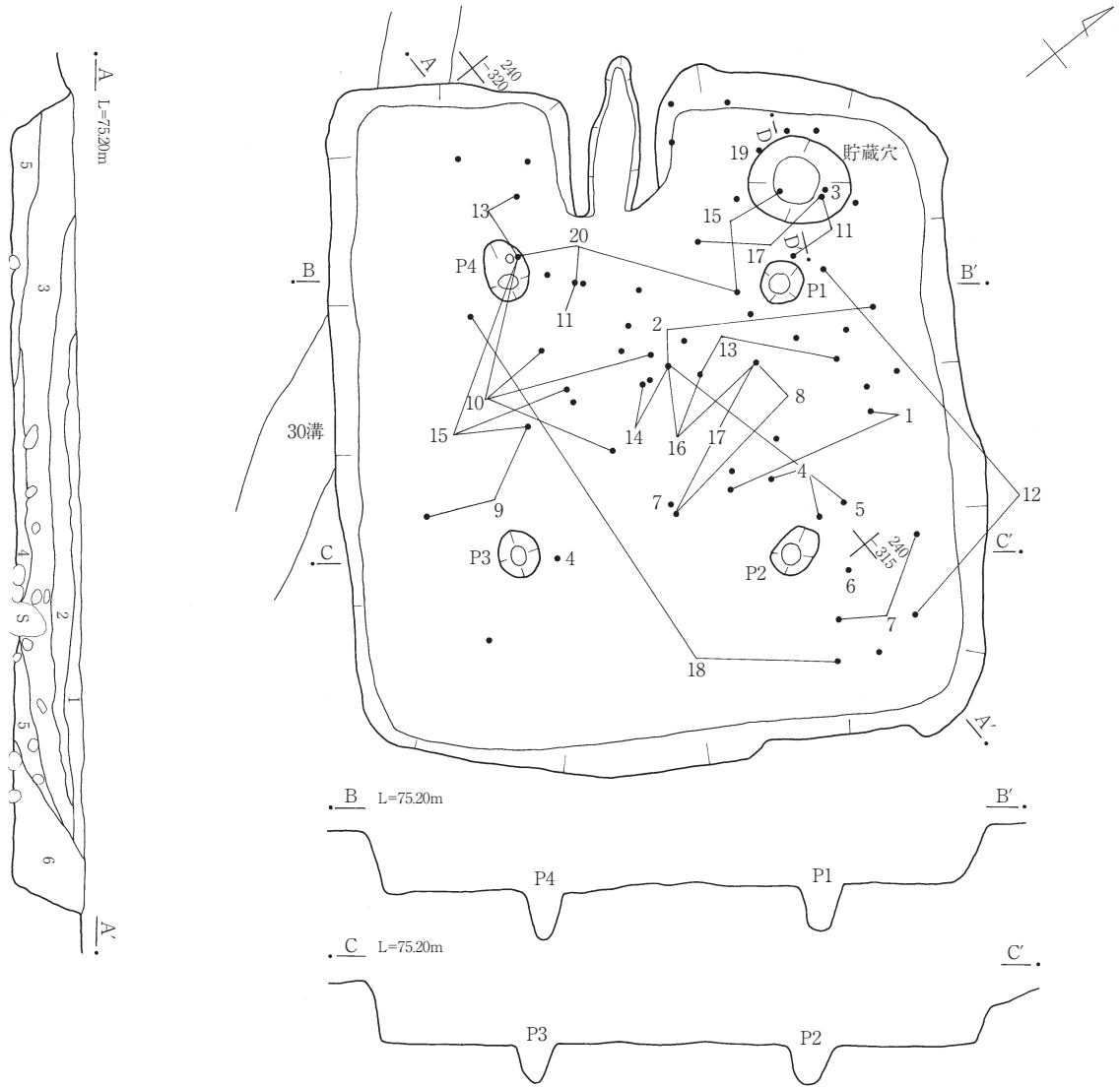
第75図 Ⅷ区4号住居出土遺物

5号竪穴住居 (第76~79図、PL.21・45・46)

調査区中央、2号住居の南西側至近距離にある。前述したようにこの2軒の住居は同時に並列しているように見えるが、時期は本住居の方がやや古い。南西隅に30号溝が重複するが、この溝は浅いため、

ごくわずかに破壊されたのみで、遺構の全体を調査することができた。

位置：X = 28236~243、Y = -45313~321。重複遺構：南西隅付近に30号溝が重複する。本遺構が古い。この溝は幅が狭くごく浅いため、壁の上端付近をわ



- 1 灰白色砂質土 (10YR7/1)  
As - B を多量に含む。
- 2 褐色土 (10YR4/1)  
ガラガラしている。軽石 (FAかAs-C) を多量に含む。
- 3 灰黄褐色土 (10YR5/2)  
軽石 (FAかAs-C) を少量含む。
- 4 赤橙色焼土 (10R6/8) と炭化物
- 5 灰黄褐色ローム質土 (10YR6/2)
- 6 におい黄橙色ローム質土 (10YR7/3)

貯蔵穴

- 1 黒色軟質土 (10YR2/1)
- 2 におい黄褐色土 (10YR5/3)  
上層にローム質土が混じる。

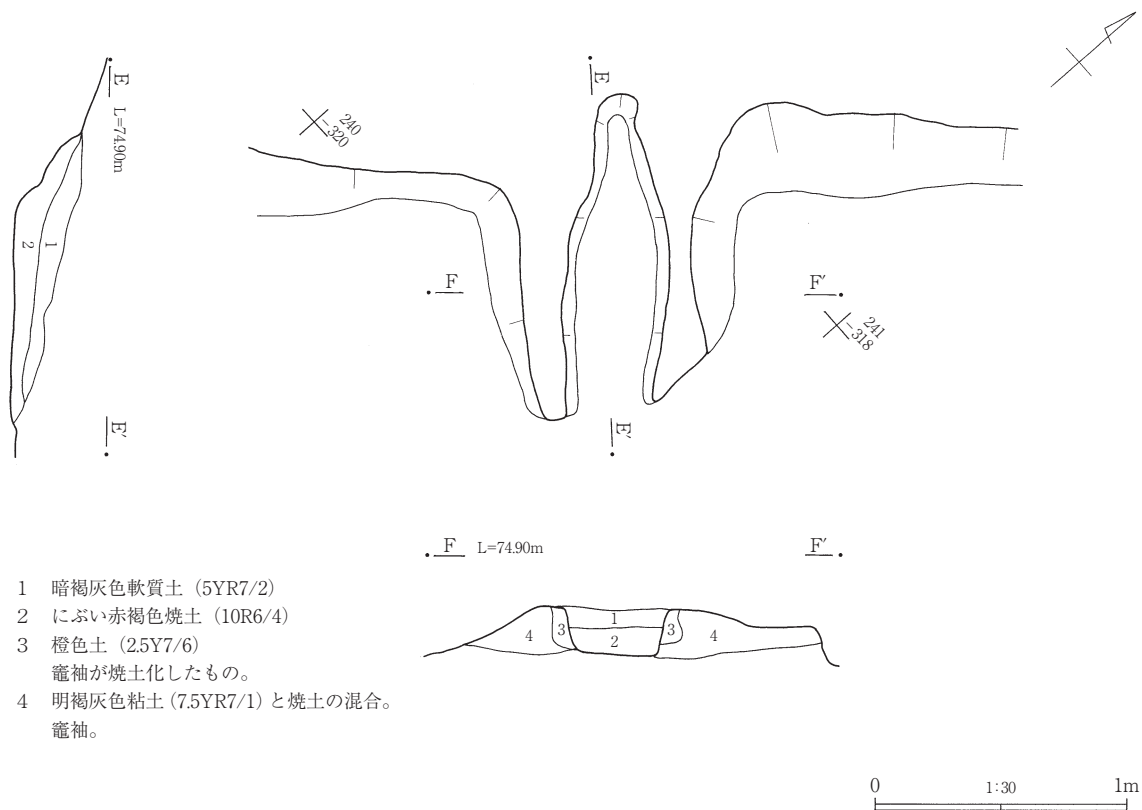


0 1:60 2m

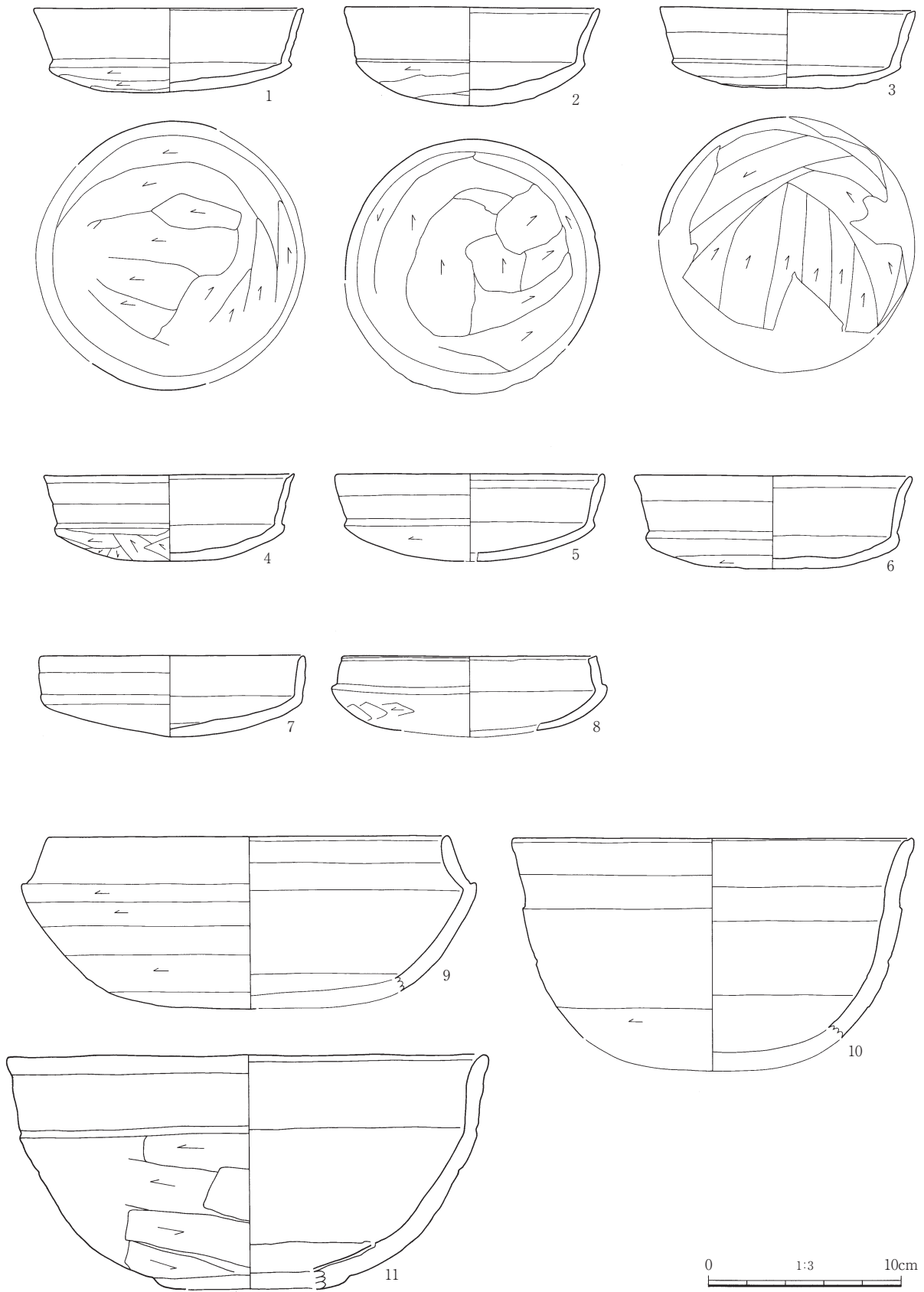
第76図 VIII区5号住居

ずかに破壊しただけである。**形態**：主軸方向にわずかに長く、また、北東壁よりもそれに対する南西壁の方がわずかに長いので、全体としては台形となっている。**方位**：N-52°-W。**規模**：5.40m×5.05m。**床面積**：22.2㎡。**壁高**：残りのいいところで58cmある。**床面**：地山を平坦に整形してそのまま床面としている。床面には地山に含まれる礫が頭を出している。床下の遺構は見つからなかった。**柱穴**：4隅に存在する。それぞれの大きさ(長径×短径×深さ)は、P1が36cm×34cm×37cm、P2が42cm×30cm×30cm、P3が38cm×34cm×32cm、P4が51cm×34cm×38cmである。それぞれの柱穴間の距離はいずれも2.2mであり、ほぼ正確な正方形に配置されている。**貯蔵穴**：住居北隅付近、P1の脇にある土坑が貯蔵穴と思われるが、断面が浅い椀形であり、しっかり掘られたもののように見えないので、やや疑問がある。長径83cm、短径68cmの楕円形で、深さは25cmである。埋土には特に注意すべきものは見られないが、内部からは3の坏が出土している。第76図に

見られるその他の遺物は、いずれも上層から出土したものであり、貯蔵穴に直接関連するものではない。**周溝**：確認できなかった。**竈**：北西壁のほぼ中央、わずかに南寄りにある。両袖がよく残り、幅1.00m、長さ1.26mである。焚き口部から燃焼部にかけては幅30cm前後で狭く、広がっていない。煙道は壁外にわずかに延びる。袖は明褐色灰色粘土でつくり、燃焼部内側が焼土化している。燃焼部の底面には焼土が10cm近く堆積している。**遺物**：北半分を中心とするものの、住居全体から散在するように遺物が出土している。報告するのは土師器坏9、土師器鉢2、土師器甕7、土師器甗1などで種類が豊富である。9は大型の土師器坏。甕は胴の丸みがほとんどないものから丸く膨らむものまで、様々な形態のものがある。19は甕の台部状であるが、雑な作りで器壁が厚く重い。**時期**：出土遺物から6世紀前半であると思われる。

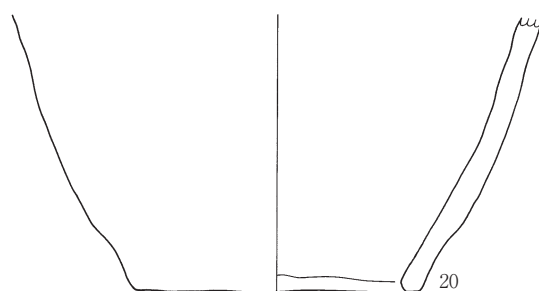
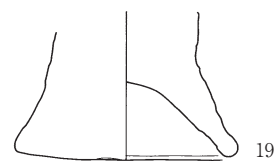
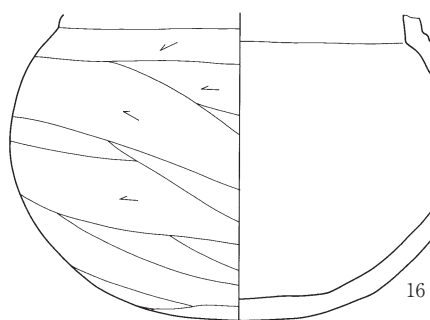
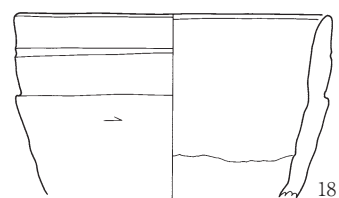
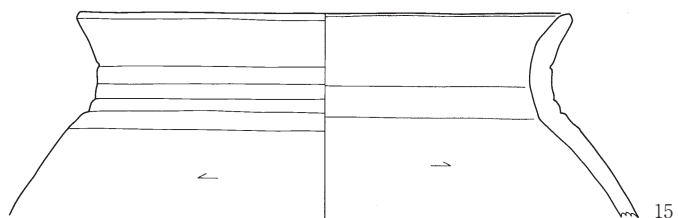
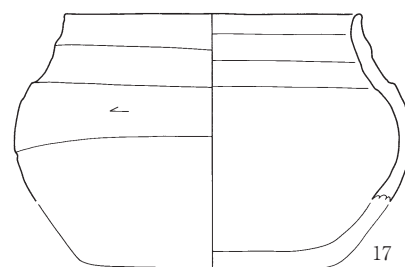
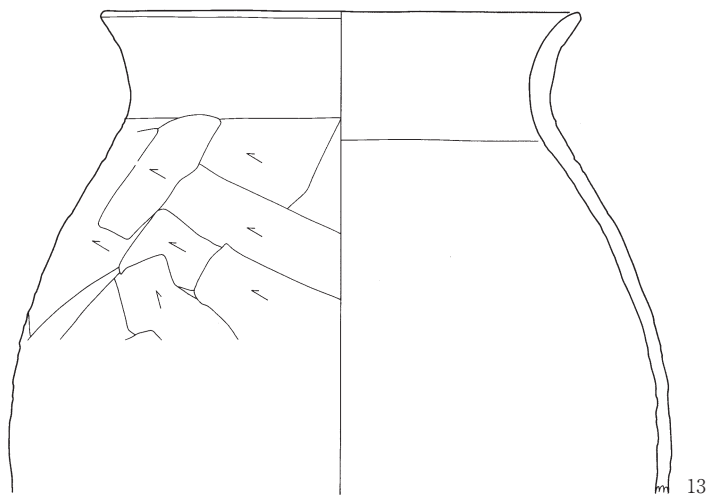
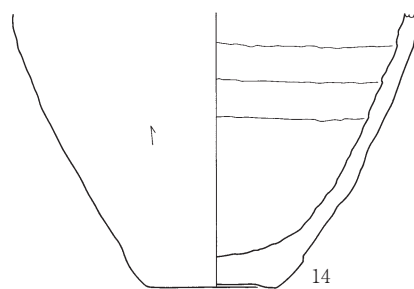
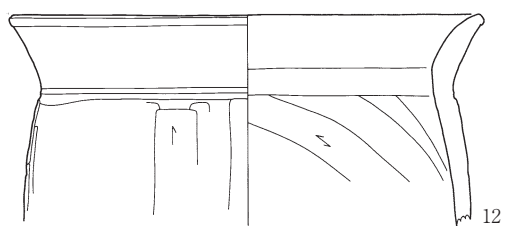


第77図 VIII区5号住居竈



第78図 Ⅷ区5号住居出土遺物(1)





0 1:3 10cm

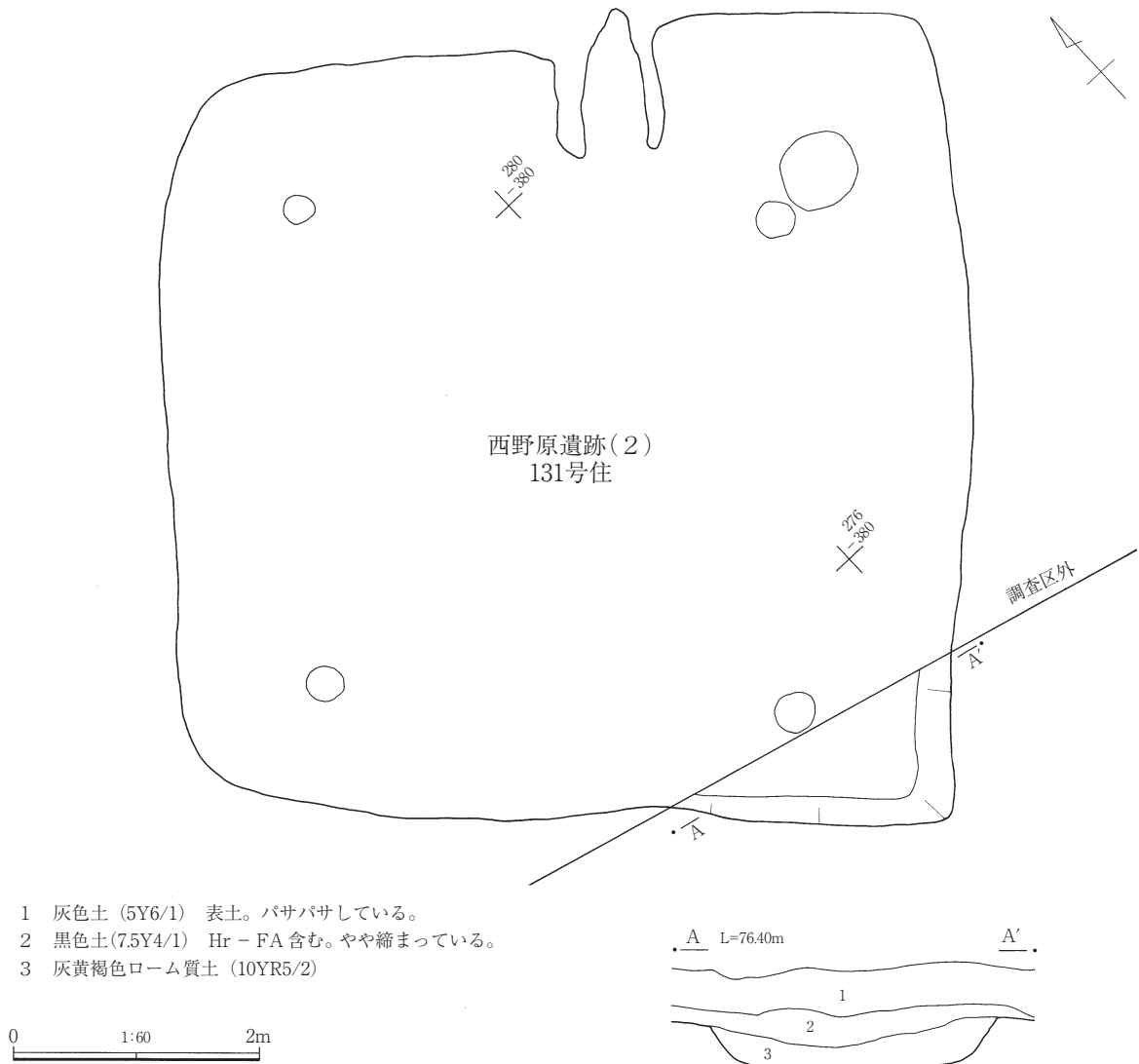
第79図 Ⅷ区5号住居出土遺物(2)

6号竪穴住居(第80図)

調査区西半部の北壁にわずかにかかる住居である。調査区内にはいるのは南隅のごく一部であり、大部分は西野原遺跡(2)で調査されている。西野原(2)では131号竪穴建物と呼称されているもので、それにより全体の様子が判明する。

**位置:** X = 28274~276, Y = -45380~383。**重複遺構:** なし。西野原(2)でも重複する遺構は見られない。**形態:** やや歪んだ方形で、調査したのは南隅の部分である。**方位:** 西野原(2)でN-33°-E。**規模:** 6.01m × 5.74m。**床面積:** 0.9m<sup>2</sup>。**壁高:** 調査区壁で計測して38cm。**床面:** 地山を平坦に整形して

そのまま床面とする。西野原(2)でも同様である。床下の遺構は見つからなかった。**柱穴:** 本調査区内にはないが、西野原(2)で4本見つかっている。**貯蔵穴:** 西野原(2)で竈右側に確認している。**周溝:** 確認できなかった。西野原(2)でも見つかっていないので、本来なかったものと考えられる。**竈:** 西野原(2)で北東壁中央にあるのが確認されている。**遺物:** 本調査区内では出土していない。西野原(2)では土師器坏3、土師器高坏1、土師器甕3などが出土している。**時期:** 本調査区では遺物の出土がないので時期を特定できないが、西野原(2)では遺物から5世紀末~6世紀初頭を想定している。



- 1 灰色土(5Y6/1) 表土。バサバサしている。
- 2 黒色土(7.5Y4/1) Hr-FA含む。やや締まっている。
- 3 灰黄褐色ローム質土(10YR5/2)

第80図 VIII区6号住居

## 3 溝

溝は全域で見つかり、合計35条と数が多い。

西野原遺跡(3)Ⅷ区と西野原遺跡(4)の間には町道が通っていたが、その部分もⅧ区として調査している。この部分には多くの溝が重複して存在するものと発掘調査時は判断され、それらは第81図のように把握された。それをみると、1号・2号・41号の3本の溝が町道のあった場所に沿って直線的に走っているほか、27号・29号・42号溝のように途中から直角にそれる溝も同じ場所に通っている。これらの溝は調査区北端のA-A'セクションや中央部のB-B'セクションに示したように、埋土がいずれもよく似ていて、埋没時期がかなり近いことを窺わせる。また、溝同士の重複は少ないが、上面をかなり削平されているので、本来は大きく重複していたはずであり、そのためこれらの溝は同時存在ではないと思われる。とすれば、このように細い溝がいくつも並んだような状態は、ほぼ同じ位置で溝が短期間に何度も掘り直された結果、そのようになったものと思われる。実際、これらの溝の調査にあつ

ては、埋土がいずれもよく似ており、上層で切り合いを区別することは困難であったようで、当初1本の溝と判断していたようである。上部がどれだけ削平されているのかは分からないが、本来は比較的幅の広い溝であったはずであり、調査ではその底部のみが見つかっているのであろう。そしてこの溝が町村境となり、太田市・藪塚本町の境界へと受け継がれたものと思われる。これらの溝の時期は埋土の特徴などから近世以降と考えられるが、最も古い時期がいつまで遡るかは明確にできなかった。

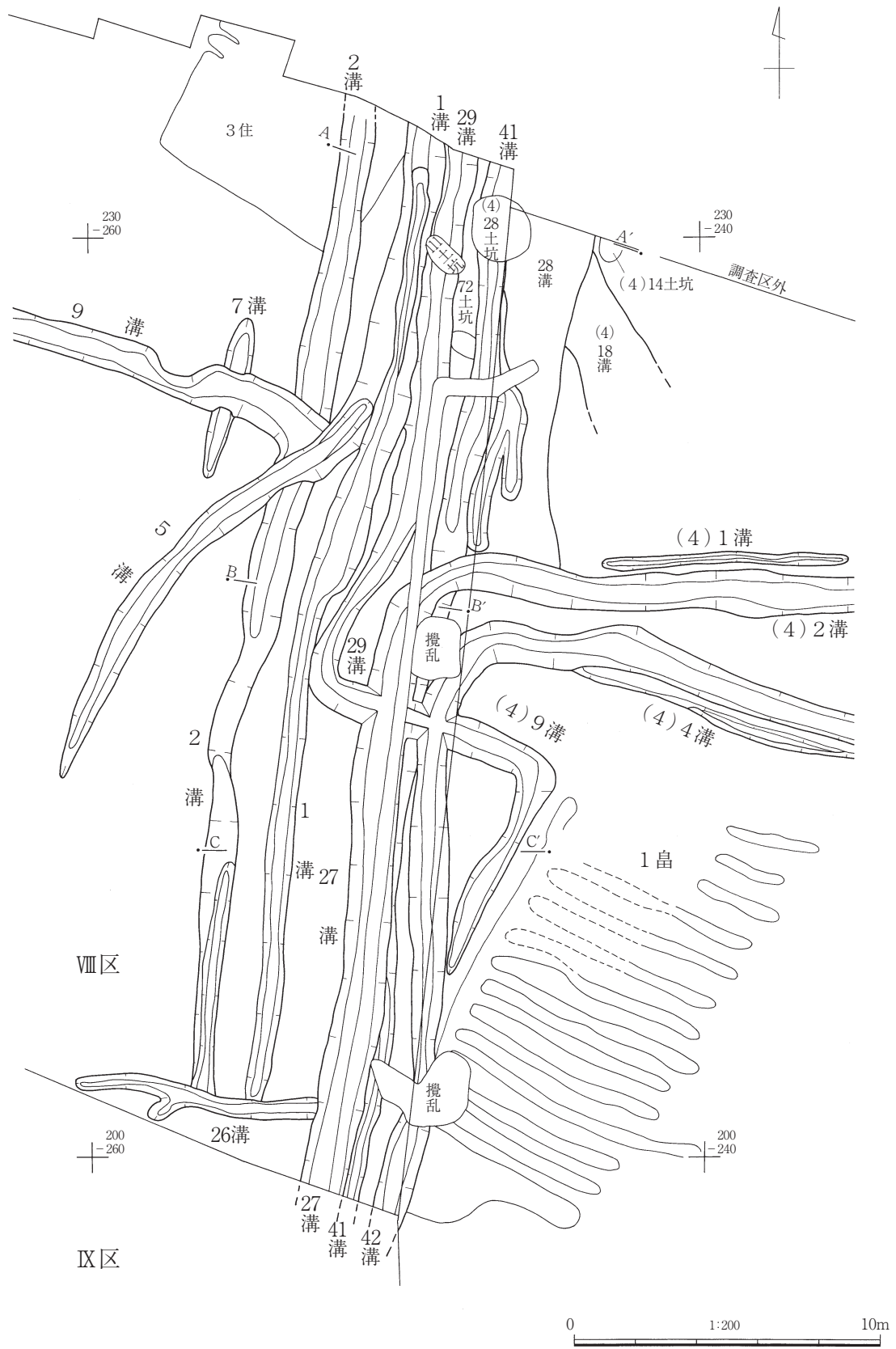
なお、この付近からは鉄滓が大量に出土している。前述のように、当初溝の区別が難しく1本の溝と考えられていたようで、そのため鉄滓のほとんどが「1号溝」として取り上げられているが、本来ここにある複数の溝から出土したものと考えられる。

その他注目される溝としては16号溝や30号、31号溝のように長大な溝がある。16号溝は何度も屈曲し、一部蛇行するなど、不規則な方向の部分もあるが、同様な方向をもつ溝が他にも複数あることなどから、これらがこの地区の主要な区画溝であると思わ

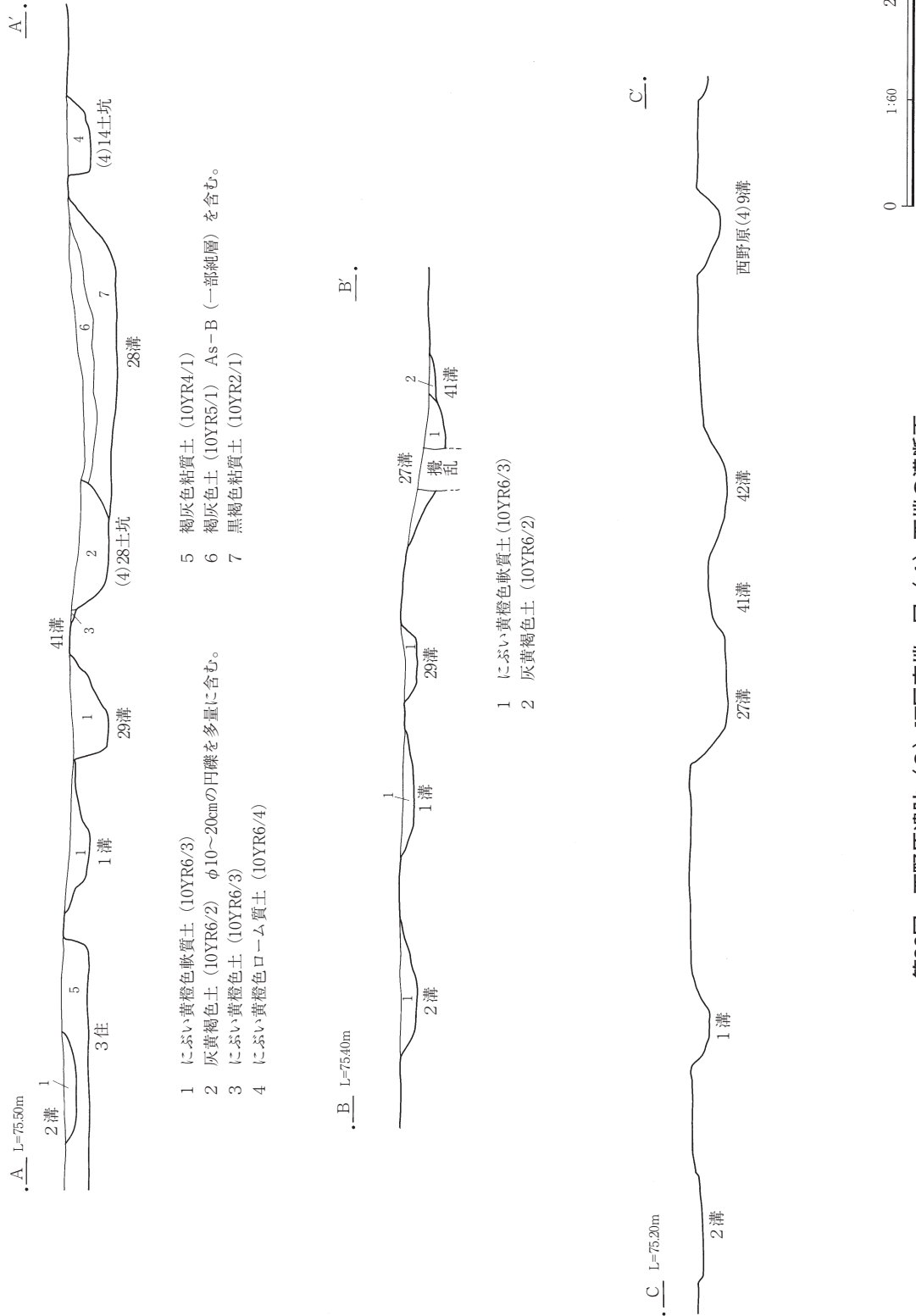
番号	規模(m)			備考
	検出長	幅	深さ	
1	32.20	0.68~1.83	0.19	3住より新、5・26・29溝、111坑と重複
2	32.80	0.47~1.42	0.15	3住より新、5・9・26溝と重複
3	14.95	0.33~0.90	0.17	3・4・107坑と重複
4	50.40	0.42~1.70	0.14	2住より新、15・23溝、4・24・107・109坑と重複
5	32.60	0.70~1.06	0.09	1・2・9溝と重複
6	欠番			
7	5.40	0.47~0.88	0.09	9溝と重複
8	欠番			
9	28.40	0.74~1.51	0.17	2・5・7・12・1・22溝と重複
10	31.80	0.32~0.50	0.05	14・18溝と重複
11	10.75	0.40~1.10	0.13	12-1溝と重複
12-1	21.60	0.29~0.75	0.09	11・13・14溝と重複
12-2	6.60	0.28~0.40	0.11	12-3溝と重複
12-3	3.95	0.33~0.48	0.07	12-2溝と重複
13	2.40	0.48~0.60	0.09	12-1溝と重複
14	5.00	0.24~0.30	0.07	10・12-1溝と重複
15	7.40	0.54~1.30	0.12	71溝より新
16	98.90	0.70~3.36	0.38	2住より新、30溝より古、33溝、64・69・75坑と重複
17	8.00	0.62~0.85	0.09	20坑と重複
18	17.20	0.47~0.98	0.14	19溝より新、10溝と重複

番号	規模(m)			備考
	検出長	幅	深さ	
19	9.40	0.58~0.88	0.10	18溝より古
20-1	4.45	0.55~0.70	0.25	
20-2	4.10	0.32~0.44	0.15	
21	3.58	0.26~0.42	0.08	
22	2.90	0.28~0.38	0.05	9溝と重複
23	7.00	0.75~1.20	0.20	4溝と重複
24	欠番			
25	欠番			
26	7.90	0.44~1.30	0.12	1・2・27溝と重複
27	21.40	0.66~1.22	0.26	26・29溝と重複
28	11.00		0.41	
29	22.70	0.64~1.08	0.32	1・27・41・42溝、111・112坑と重複
30	45.60	0.42~1.18	0.10	5住、16溝より新、31溝、65坑と重複
31	16.10	0.35~0.65	0.10	30溝と重複
32	7.10	0.20~0.55	0.09	
33	11.30	0.50~0.80	0.16	16溝と重複
34~39	欠番			
40	6.90	0.15~0.23	0.06	
41	34.60	0.72~1.14	0.05	27・28・29溝、112・(4)28坑と重複
42	19.20	0.71~1.44	0.21	29溝と重複

第7表 Ⅷ区溝一覧表

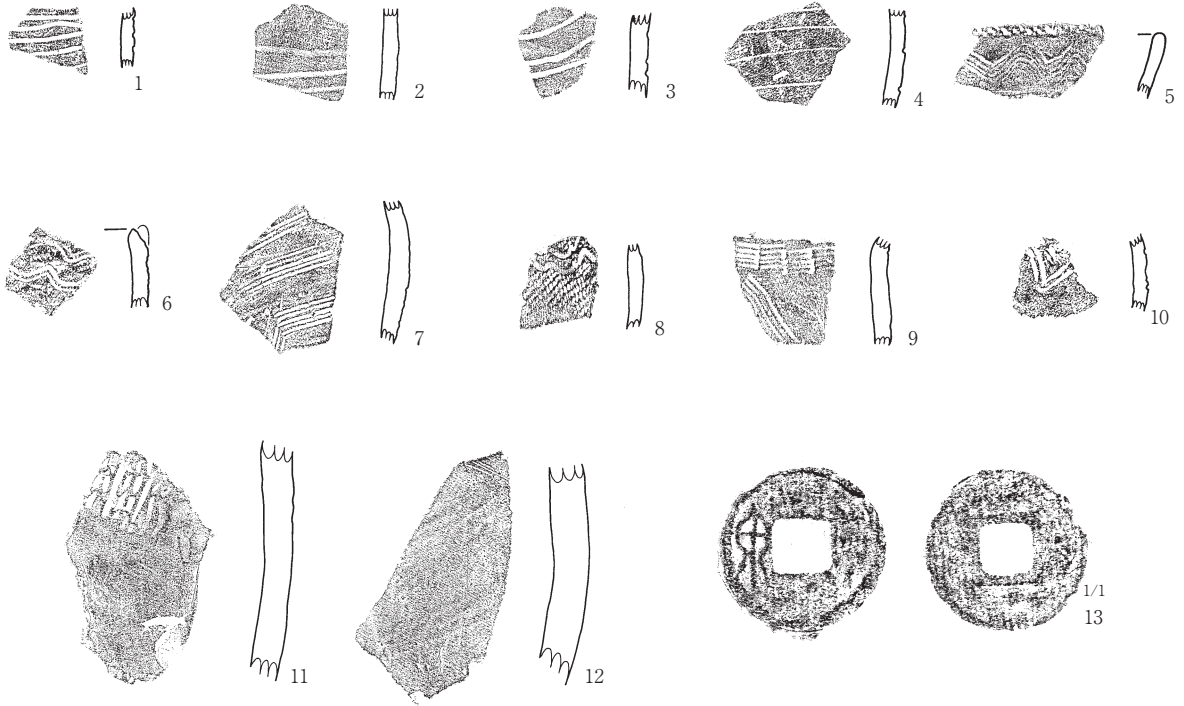


第81図 西野原遺跡(3) VIII区東端、同(4)西端の溝



第82図 西野原遺跡 (3) Ⅷ区東端、同 (4) 西端の溝断面

1号溝出土遺物



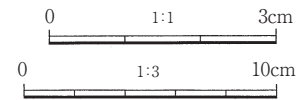
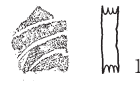
2号溝出土遺物



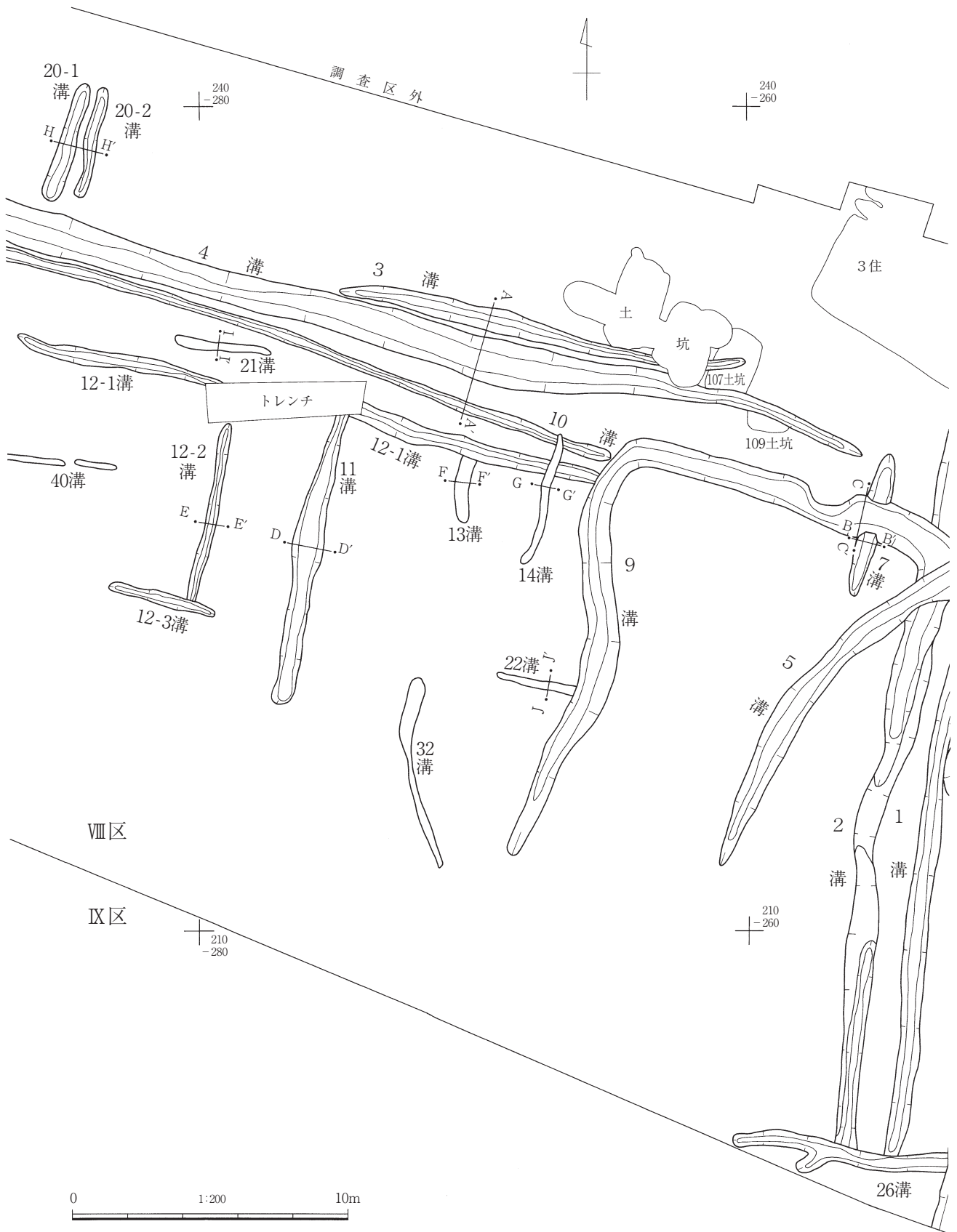
5号溝出土遺物



26号溝出土遺物



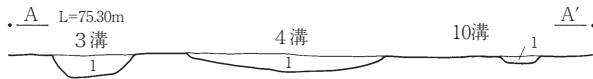
第83図 Ⅷ区1・2・5・26号溝出土遺物



第84図 VIII区東半部の溝

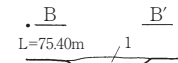
第7章 西野原遺跡(3)

3・4・10号溝



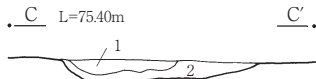
1 灰黄褐色土 (10YR6/2) As-Bを多く含む。砂質。

7号溝



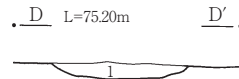
1 灰黄褐色ローム質土 (10YR6/2) 砂質。

9号溝



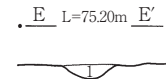
1 におい黄橙色ローム質土 (10YR7/3) 砂質。  
2 におい黄橙色ローム質土 (10YR7/2) 粘性強い。

11号溝



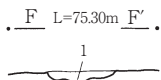
1 暗灰黄色軟質ローム質土 (2.5Y5/3)

12号溝



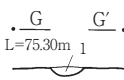
1 におい黄色砂質土 (2.5Y6/3)

13号溝



1 暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2)

14号溝



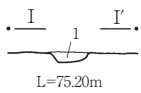
1 暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2)

20号溝



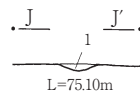
1 灰黄色砂質土 (2.5Y6/2)

21号溝

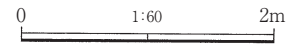


1 黄灰色砂質土 (2.5Y6/1)

22号溝

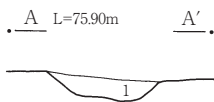


1 黄灰色砂質土 (2.5Y6/1)



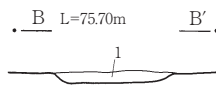
第85図 Ⅷ区東半部の溝断面 (平面図は前ページ)

16号溝



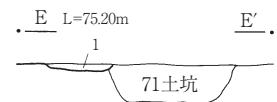
1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 円礫を含む。

16号溝(Ⅸ区19号溝)



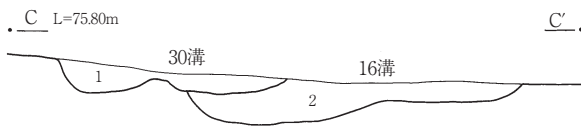
1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) φ 1cmの円礫をわずかに含む。

15号溝



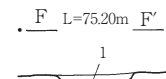
1 におい黄色砂質土 (2.5Y6/3)

16・30号溝



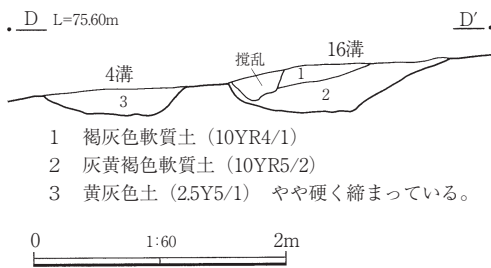
1 砂礫層 φ 1~2cmの礫を多量に含む。硬く締まっている。  
2 灰黄色シルト質土 (2.5Y6/2)

17号溝



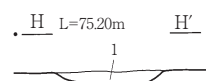
1 におい黄橙色ローム質土 (10YR6/3)

4・16号溝



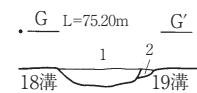
1 褐灰色軟質土 (10YR4/1)  
2 灰黄褐色軟質土 (10YR5/2)  
3 黄灰色土 (2.5Y5/1) やや硬く締まっている。

19号溝



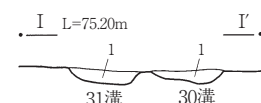
1 におい黄橙色砂質ローム土 (10YR6/3)

18号溝



1 におい黄色砂質土 (2.5Y6/3)  
2 におい黄橙色砂質ローム土 (10YR6/3)

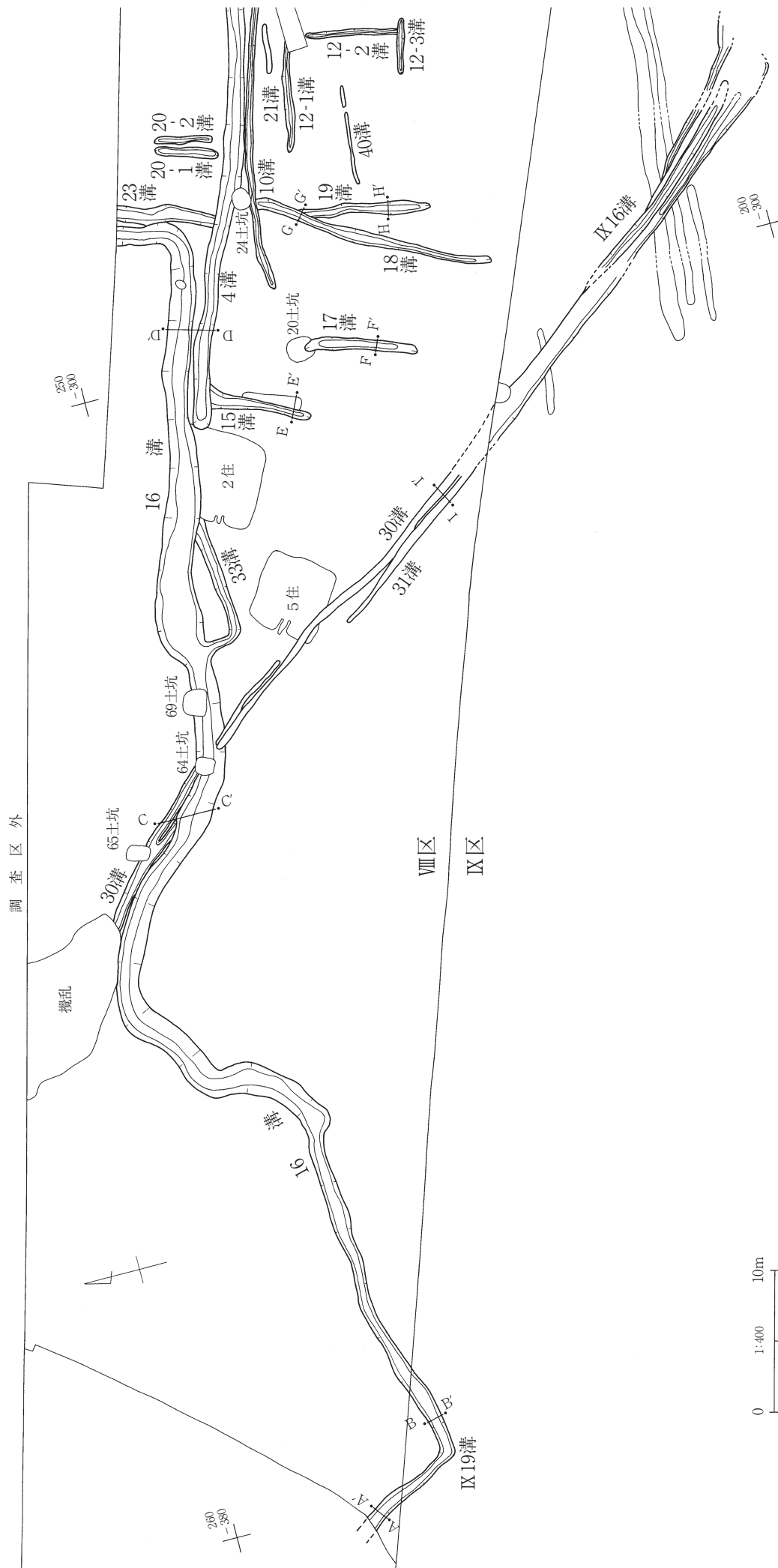
30・31号溝



1 砂礫層 φ 1~2cmの礫を多量に含む。

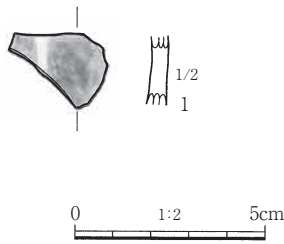
第86図 Ⅷ区中央部の溝断面 (平面図は次ページ)



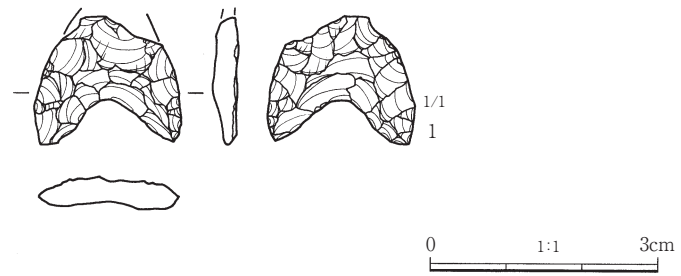


第87図 VIII区中央部の溝

10号溝出土遺物



18号溝出土遺物



第88図 Ⅷ区10・18号溝出土遺物

れる。この16号溝の東端付近には3号、4号、10号、12号などの溝が同じ方向で東西に並んでいる。等高線も同じ方向であるので、地形に沿った区画方向であると思われる。これら多くの溝の時期も、出土遺物がないので特定できないが、埋土の特徴から近世以降のものと思われる。

#### 4 土坑

土坑も全域から数多く見つかり、調査した数は合計71基である。

分布は調査区の東半部、特に北東部の3号住居付近に多い。土坑の方向は溝と同じ方向を向くものが多く、特に長い形態のものはその傾向が著しい。一部のものを除いて、区画方向に合わせて土坑を掘っていることが分かる。

土坑の形態には長方形のものや円形のものなど様々である。特に長い長方形のものはいわゆる芋穴である可能性があり、比較的新しい時期のものと考えられるが、71号土坑のように埋土にAs-Bを多く含むものがあるので、一概に近世以降と断定することはできない。その他の土坑については、その性格は不明である。

時期は伴出遺物が少ないので、大部分の土坑については時期を特定できないが、この区では埋土にAs-Bを含むものが複数あり、注目される。それは、31号土坑、34号土坑、71号土坑などであり、これらは平安末～中世にまで遡る可能性がある。また、78

号土坑、80号土坑、83号土坑、84号土坑などのように、埋土にHr-FAを多く含むものもある。これらは長方形でほぼ共通する形態をもち、また分布も調査区中央南側のやや西寄りの狭い範囲に集中しており、ひとまとまりのものと考えられる。この区で調査されている住居はいずれも6世紀代のものなので、これらの土坑も古墳時代まで遡る可能性は否定できない。

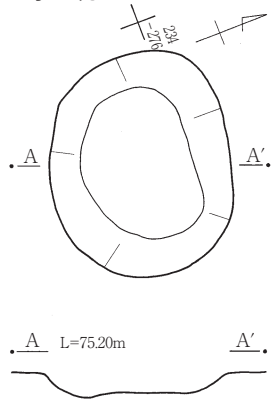
遺物の出土した土坑は少ないが、1号土坑からは青磁と弥生土器が、43号土坑からは土師器埴の口縁部が、69号土坑からは石製硯が、76号土坑からは須恵器短頸壺が出土している。

第6節 Ⅳ区の調査

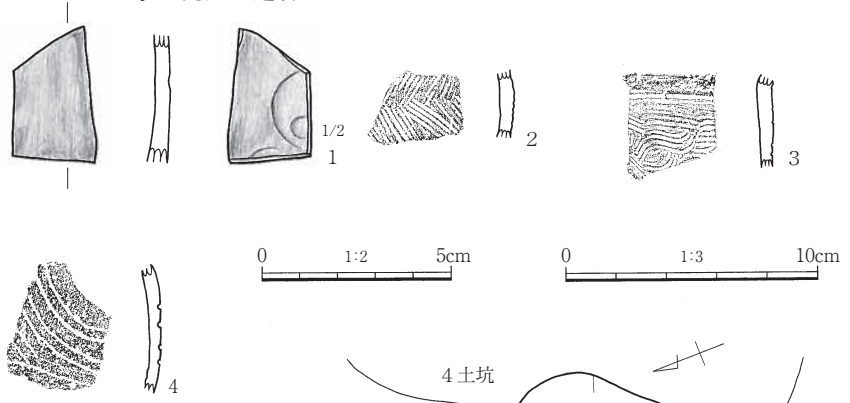
番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	備考	番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	備考
1	230-270	N-86°-W	117×96×10		55	245-370	N-52°-W	125×75×30	
2	230-270	N-30°-W	143×117×25		56	欠番			
3-1	230-260	N-0°	53×48×35		57	欠番			
3-2	230-260	N-22°-E	252×138×24		58	欠番			
3-3	230-260	N-72°-E	128×126×31	4坑と重複	59	欠番			
3-4	230-260	N-22°-E	(317)×178×22	81坑と重複	60	欠番			
4-1	230-260	N-29°-E	255×125×34	3溝・3-4・9坑と重複	61	欠番			
4-2	230-260	N-18°-E	190×135×30	3・4溝・9坑と重複	62	欠番			
5	欠番				63	欠番			
6	230-270	N-66°-W	149×110×30		64	245-325	N-24°-E	145×127×56	16溝と重複
7	235-270	N-89°-E	152×102×9		65	250-330	N-73°-W	167×115×45	30溝と重複
8	235-270	N-69°-W	100×84×18		66	欠番			
9	230-260	N-64°-W	(120)×120×8	4・10坑と重複	67	欠番			
10	230-255	N-66°-W	124×90×5		68	欠番			
11	230-255	N-64°-E	198×125×16		69	245-320	N-73°-W	198×165×54	16溝と重複
12	235-260	N-72°-W	218×(120)×26		70	欠番			
13	235-260	N-73°-W	180×(134)×18		71	235-300	N-20°-E	440×104×30	15溝より古
14	230-255	N-22°-E	140×129×10		72	欠番			
15	230-255	N-42°-W	110×105×32		73	210-270	N-50°-W	219×155×32	
16	235-260	N-74°-W	197×57×23		74	欠番			
17	欠番				75	240-290	N-12°-E	70×67×33	16溝と重複
18	230-300	N-65°-W	480×132×55		76	225-325	N-71°-W	110×(35)×18	
19	235-300	N-71°-W	442×106×42		77	欠番			
20	230-295	N-14°-W	200×165×8	17溝と重複	78	230-325	N-18°-E	310×195×24	79坑より新
21	230-295	N-55°-W	130×85×12		79	230-325	N-8°-E	(202)×126×26	78坑より古
22	230-295	N-76°-W	118×65×13		80	235-320	N-15°-E	210×165×35	
23	230-295	N-20°-W	87×80×21		81	230-265	N-69°-W	(194)×120×21	3坑と重複
24	235-285	N-76°-W	154×128×13	4溝と重複	82	240-290	N-23°-E	(272)×170×24	
25	235-290	N-74°-W	206×88×9		83	235-325	N-17°-E	261×175×60	
26	欠番				84	240-325	N-16°-E	241×137×28	
27	欠番				85	260-350	N-15°-W	170×88×65	43坑と重複
28	欠番				86	欠番			
29	240-300	N-60°-W	120×114×18	2住より新	87	欠番			
30	210-275	N-37°-E	205×145×7		88	欠番			
31	210-280	N-53°-E	150×124×55		89	欠番			
32	220-285	N-48°-E	167×154×42		90	欠番			
33	210-275	N-5°-W	160×108×14		91	欠番			
34	210-275	N-23°-W	83×79×38		92	欠番			
35	235-285	N-34°-E	98×93×9		93	欠番			
36	240-290	N-17°-E	244×122×24	82坑と重複	94	欠番			
37	215-285	N-31°-E	75×63×27		95	欠番			
38	220-285	N-89°-E	116×80×20		96	欠番			
39	220-285	N-33°-W	125×70×42		97	欠番			
40	260-375	N-43°-W	460×360×109		98	欠番			
41	欠番				99	欠番			
42	260-355	N-23°-E	255×97×44		100	欠番			
43	260-350	N-7°-E	(595)×196×26		101	欠番			
44	欠番				102	欠番			
45	250-385	N-62°-W	55×52×21		103	欠番			
46	250-380	N-55°-W	124×121×25		104	255-320	N-13°-E	255×155×25	
47	275-410	N-25°-W	140×(49)×48		105	欠番			
48	280-405	N-19°-E	(47)×59×35		106	欠番			
49	275-390	N-80°-W	131×(51)×45		107	225-255	N-22°-E	250×162×50	3・4溝・4坑と重複
50	250-380	N-15°-E	51×43×17		108	225-260	N-66°-W	154×110×52	
51	欠番				109	225-255	N-79°-W	164×95×72	4溝と重複
52	欠番				110	220-305	N-4°-E	178×128×36	
53	255-330	N-11°-E	178×108×62		111	225-245	N-45°-W	155×80×34	1・29溝と重複
54	欠番				112	225-245	N-36°-E	(95)×75×16	29・41溝と重複

第8表 Ⅳ区土坑一覧表

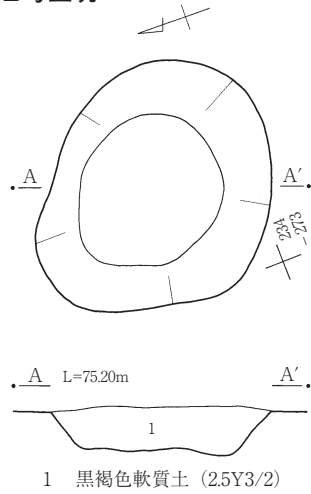
1号土坑



1号土坑出土遺物

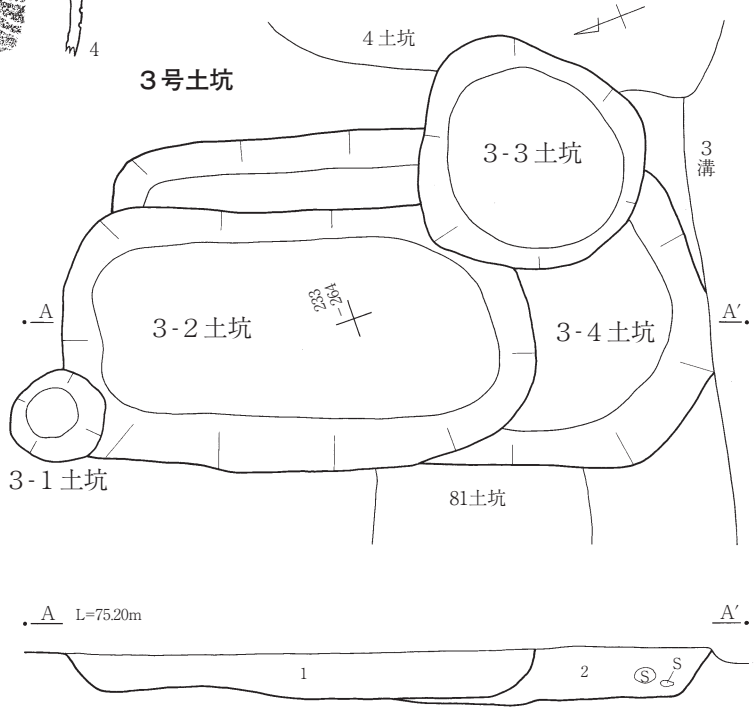


2号土坑



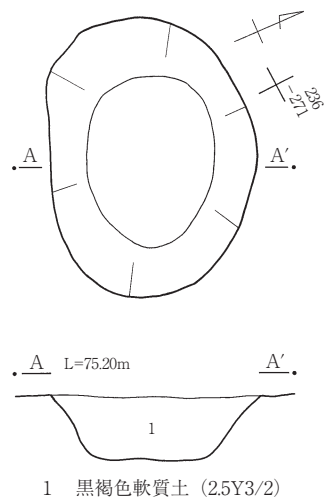
1 黒褐色軟質土 (2.5Y3/2)

3号土坑



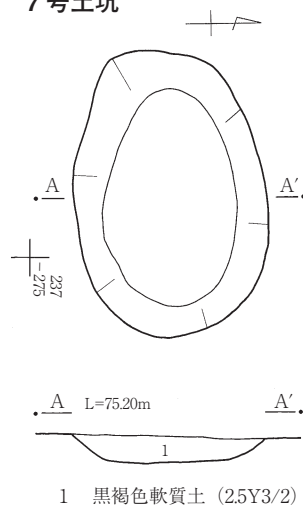
1 黒褐色軟質土 (2.5Y3/2)  
2 黒褐色軟質土 (2.5Y3/2)

6号土坑



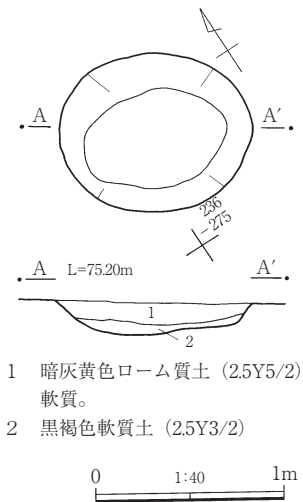
1 黒褐色軟質土 (2.5Y3/2)

7号土坑

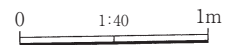


1 黒褐色軟質土 (2.5Y3/2)

8号土坑

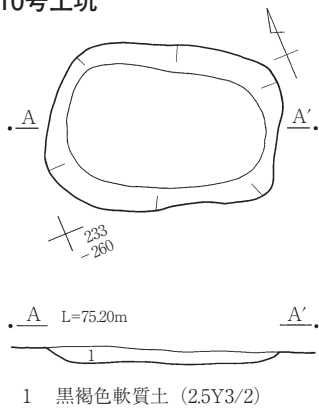


1 暗灰黄色ローム質土 (2.5Y5/2) 軟質。  
2 黒褐色軟質土 (2.5Y3/2)

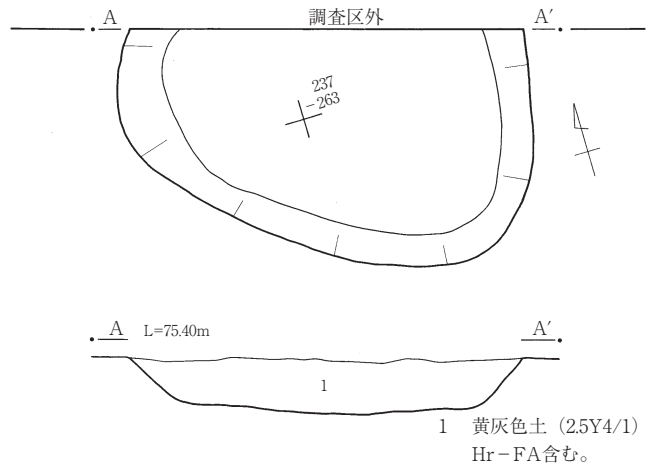


第89図 Ⅷ区 1~3・6~8号土坑

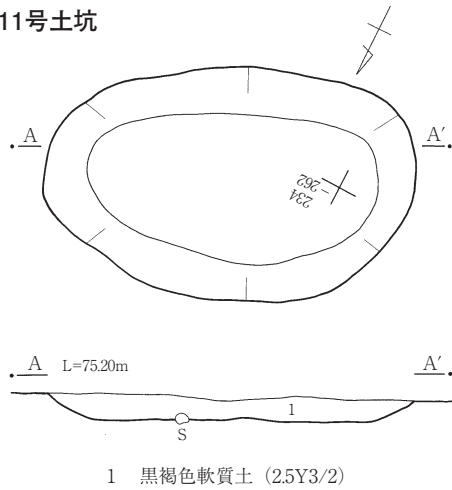
10号土坑



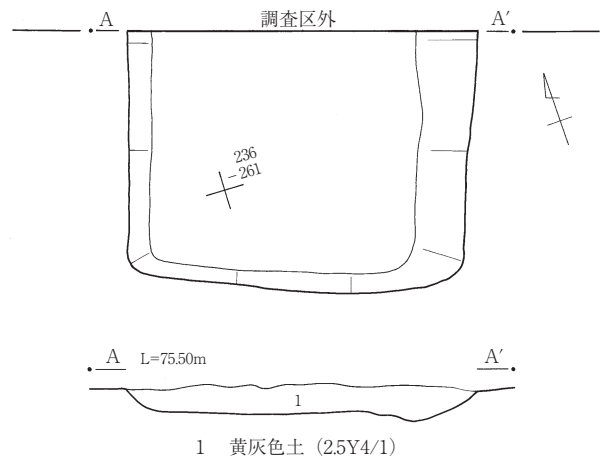
12号土坑



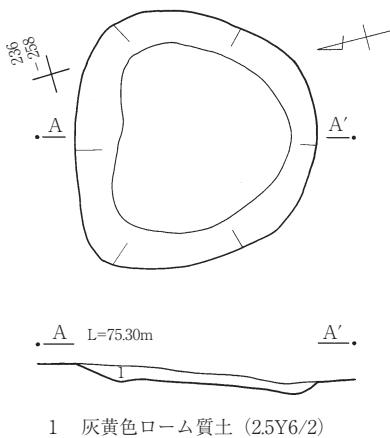
11号土坑



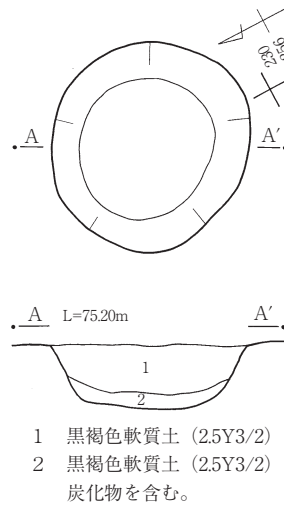
13号土坑



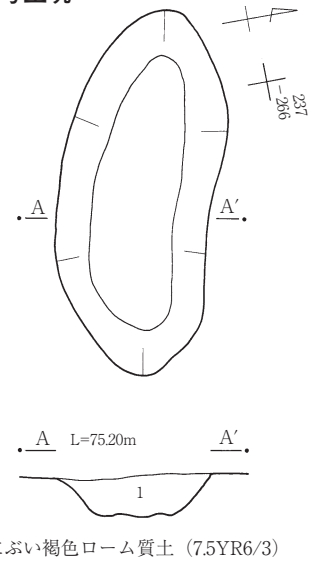
14号土坑



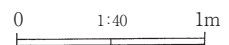
15号土坑



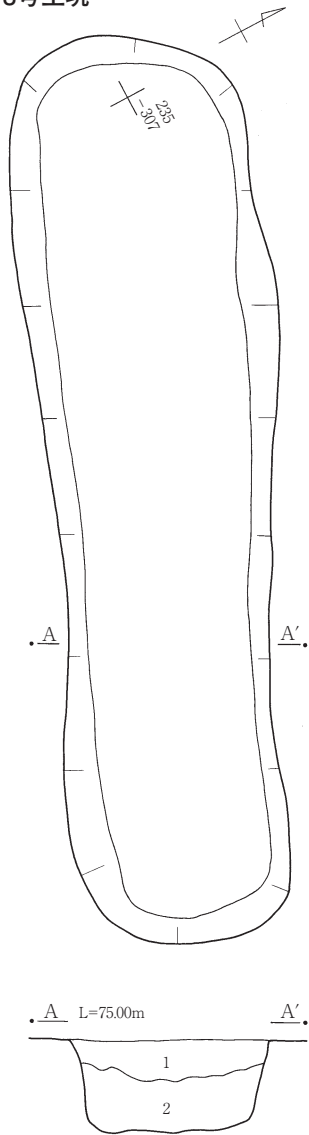
16号土坑



第90図 Ⅷ区10~16号土坑

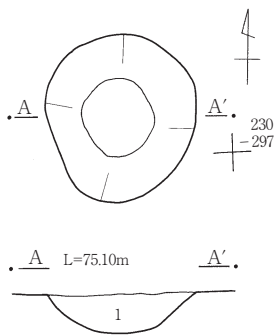


18号土坑



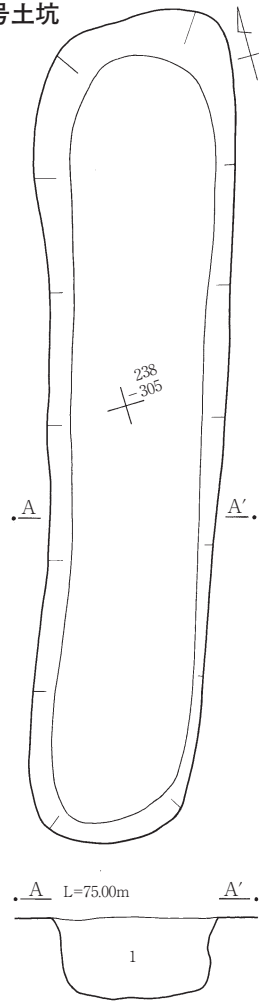
- 1 灰黄褐色軟質土 (10YR5/2)
- 2 灰黄褐色軟質土 (10YR4/2)

23号土坑



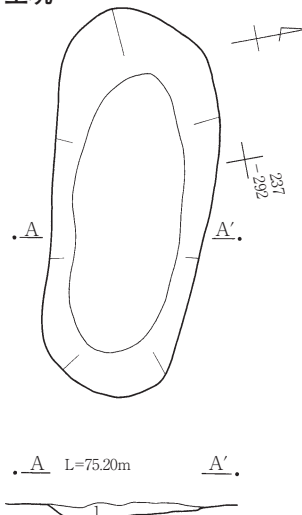
- 1 灰黄褐色砂質ローム土(10YR5/2)

19号土坑



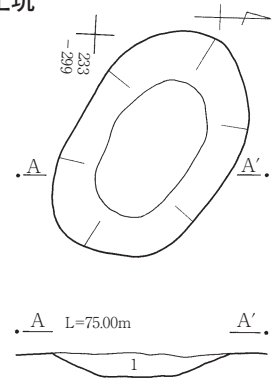
- 1 におい黄橙色ローム質土 (10YR6/4) 軟質。

25号土坑



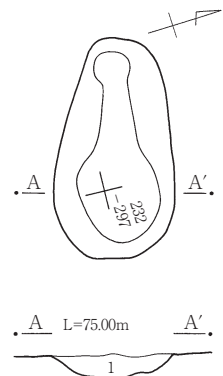
- 1 暗灰黄色ローム質土 (2.5Y5/2) 軟質。

21号土坑



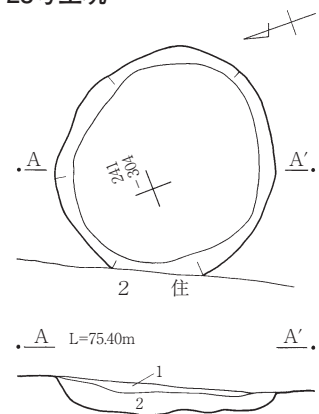
- 1 灰黄褐色砂質ローム土(10YR5/2)

22号土坑

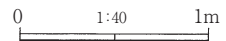


- 1 灰黄褐色砂質ローム土(10YR5/2)

28号土坑

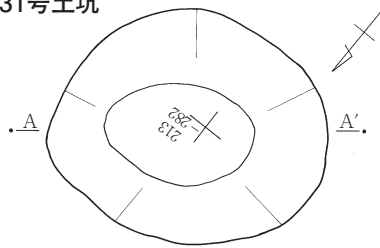


- 1 φ2~3cmの礫層
- 2 灰黄褐色ローム質土 (10YR5/2) 軟質。

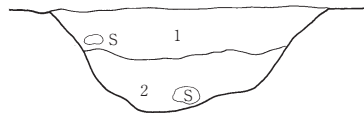


第91図 VIII区18・19・21~23・25・29号土坑

31号土坑

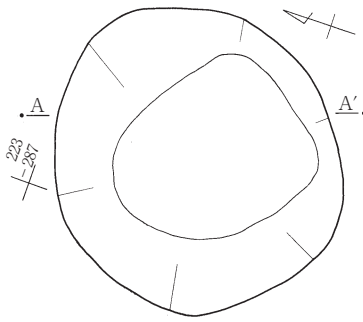


L=75.00m

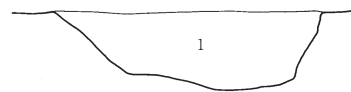


- 1 褐灰色土 (7.5YR4/1)  
As-Bを含み、ガラガラしている。
- 2 灰褐色土 (7.5YR4/2)  
As-Bを含む。ローム土を含む。

32号土坑

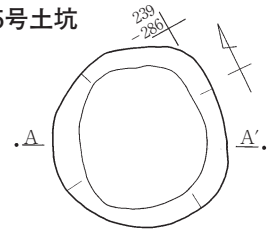


L=75.00m



- 1 灰黄褐色ローム質土 (10YR6/2)

35号土坑

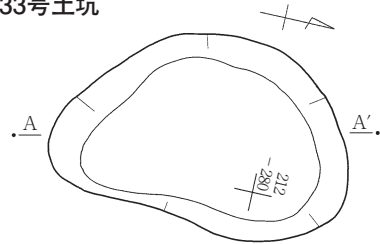


L=75.40m

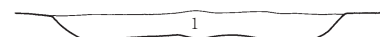


- 1 浅黄色軟質ローム質土 (2.5Y7/3)

33号土坑



L=75.00m

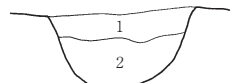


- 1 褐灰色土 (10YR4/1)  
やや粘質。

34号土坑

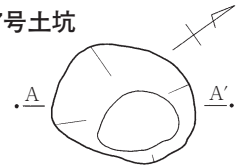


L=75.00m

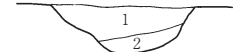


- 1 褐灰色土 (7.5YR4/1)  
As-Bを多く含み、ガラガラしている。
- 2 灰褐色土 (7.5YR4/2)  
As-B、ローム土を含む。

37号土坑

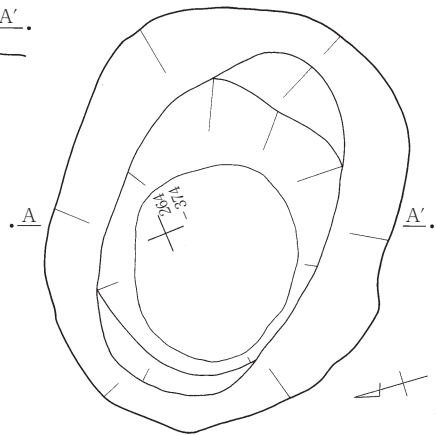


L=75.00m

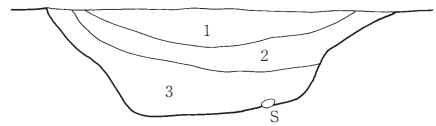


- 1 褐灰色土 (10YR5/1)
- 2 灰黄褐色土 (10YR5/2)

40号土坑 1/80

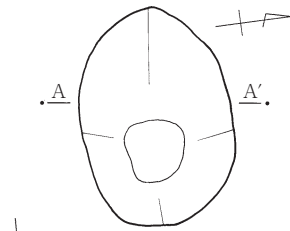


L=75.80m

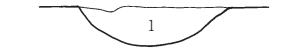


- 1 灰黄色砂 (2.5Y6/2)
- 2 褐灰色砂 (10YR4/1)
- 3 黒褐色粘質土 (10YR3/1)

38号土坑

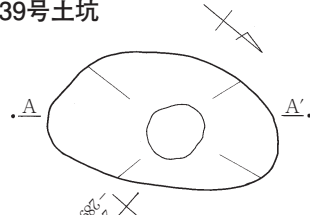


L=75.00m

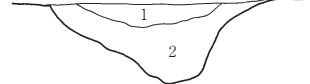


- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2)  
灰褐色土をやや多く含む。

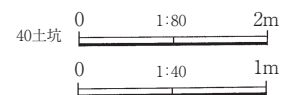
39号土坑



L=75.00m

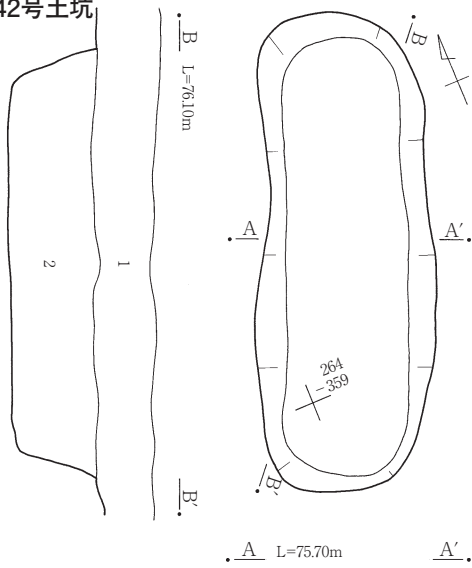


- 1 灰黄褐色ローム質土 (10YR6/2)  
As-B、Hr-FAを含む。
- 2 灰黄褐色ローム質土 (10YR6/2)



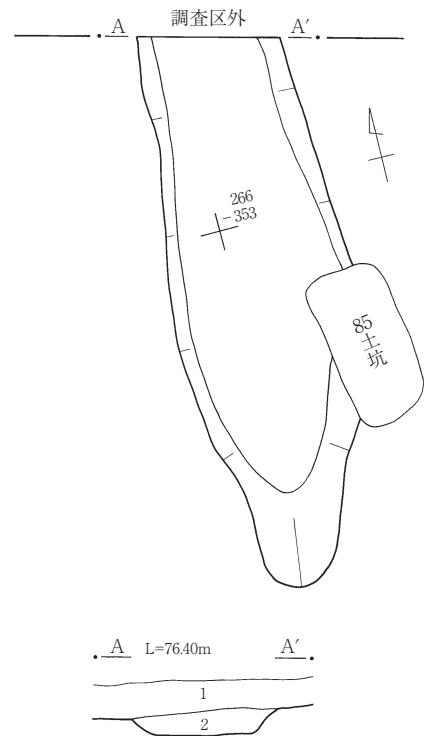
第92図 Ⅷ区31~35・37~40号土坑

42号土坑



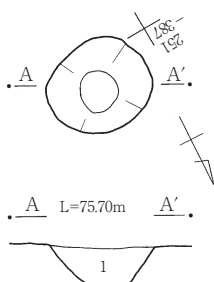
- 1 表土
- 2 灰褐色砂質土 (7.5YR4/2)

43号土坑 1/80



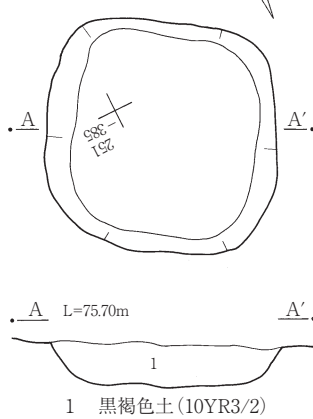
- 1 表土
- 2 黄灰色砂質土 (2.5Y6/1)

45号土坑



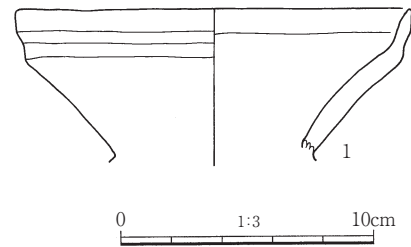
- 1 黑褐色土 (10YR3/2)

46号土坑

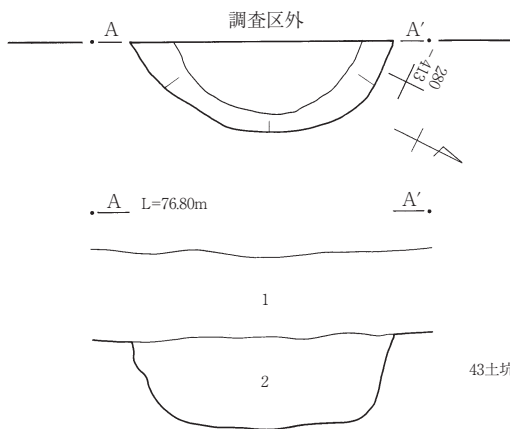


- 1 黑褐色土 (10YR3/2)

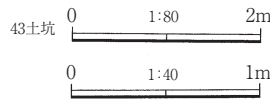
43号土坑出土遺物



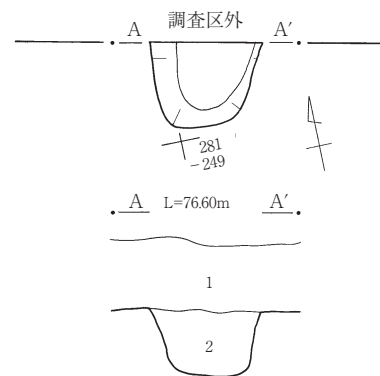
47号土坑



- 1 表土
- 2 黑褐色土 (10YR3/2)



48号土坑

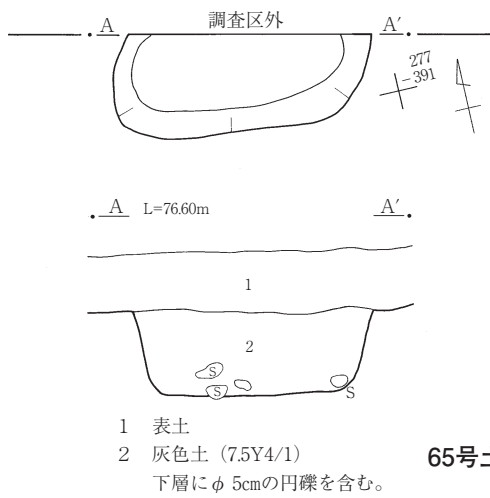


- 1 表土
- 2 灰色土 (7.5Y4/1)

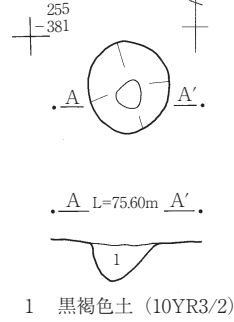
第93图 VIII区42・43・45~48号土坑



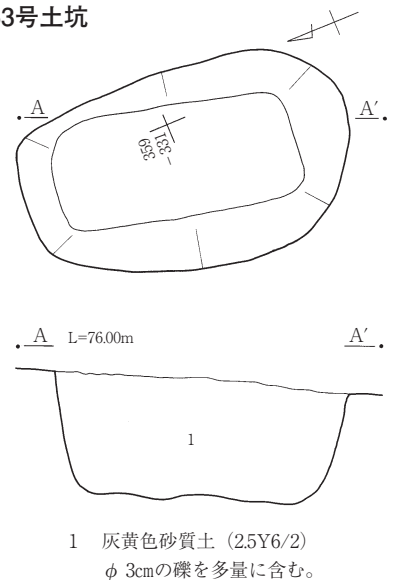
49号土坑



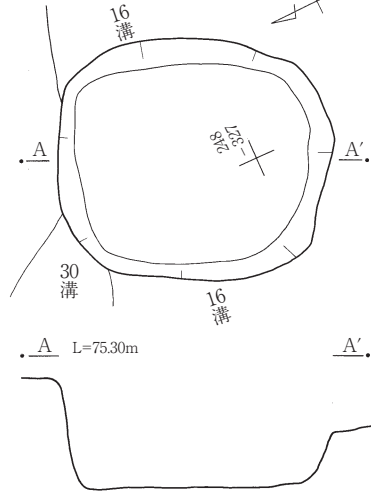
50号土坑



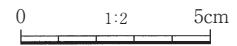
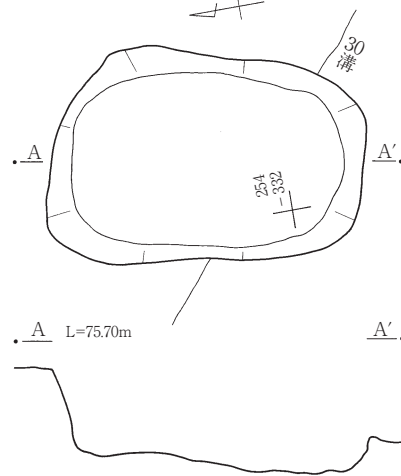
53号土坑



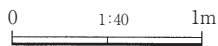
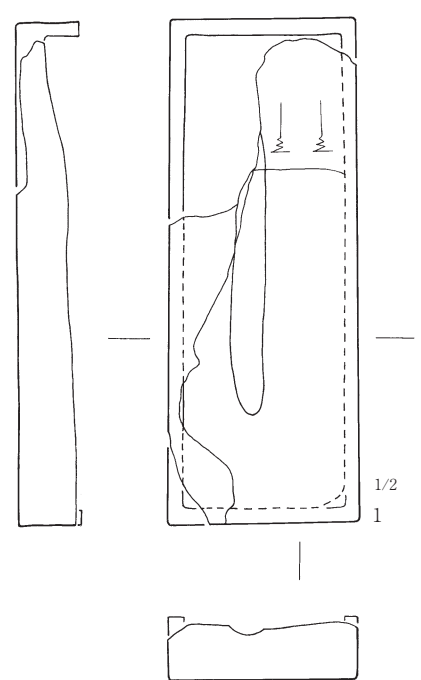
64号土坑



65号土坑

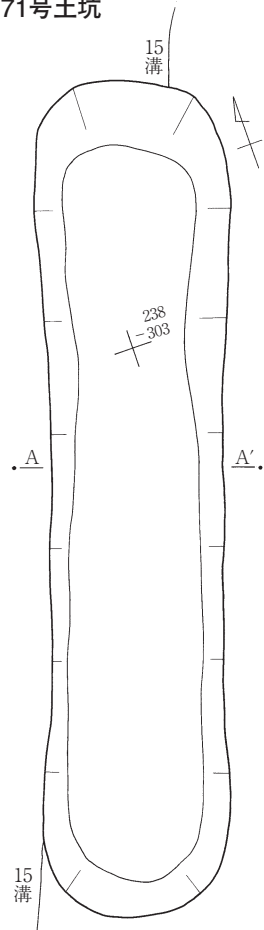


69号土坑出土遺物

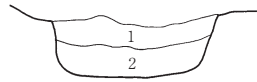


第94図 VIII区49・50・53・64・65・69号土坑

71号土坑

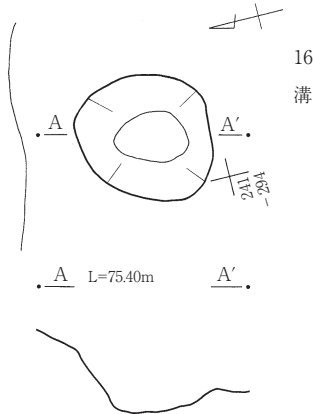


.A L=75.20m A'



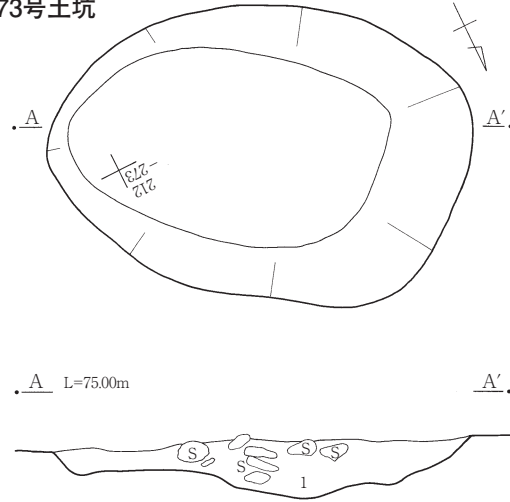
- 1 褐灰色砂質土 (10YR5/1) As-Bを多く含む。
- 2 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) As-Bを多く含む。

75号土坑



.A L=75.40m A'

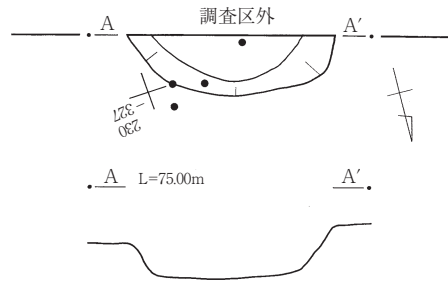
73号土坑



.A L=75.00m A'

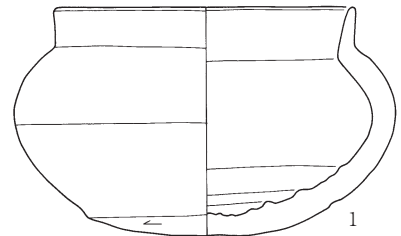
- 1 褐灰色土 (7.5YR4/1) バサバサしている。

76号土坑



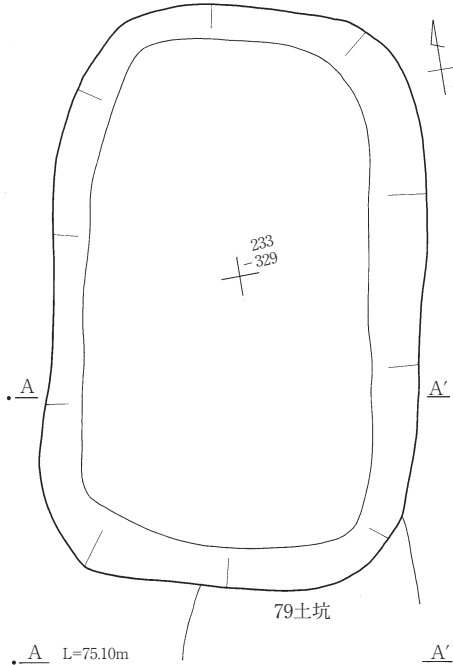
.A L=75.00m A'

76号土坑出土遺物



0 1:3 10cm

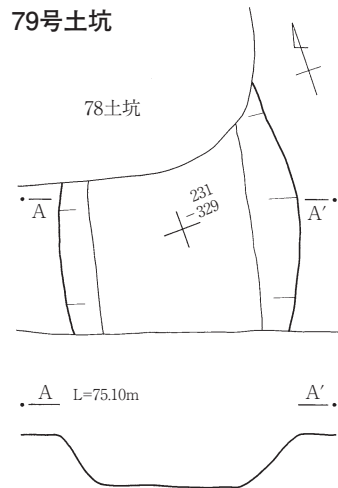
78号土坑



.A L=75.10m A'

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) Hr-FAを多く含む。

79号土坑

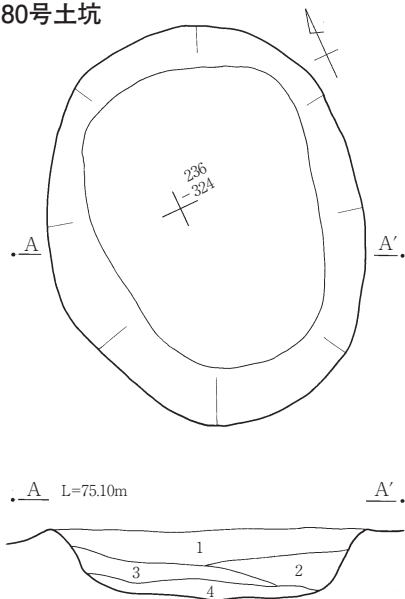


.A L=75.10m A'

0 1:40 1m

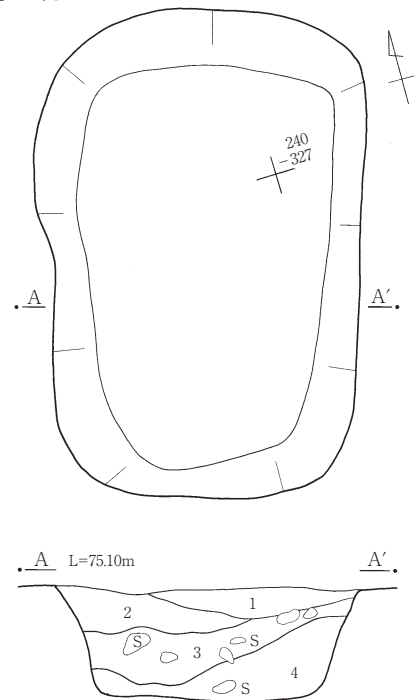
第95図 VIII区71・73・75・76・78・79号土坑

80号土坑



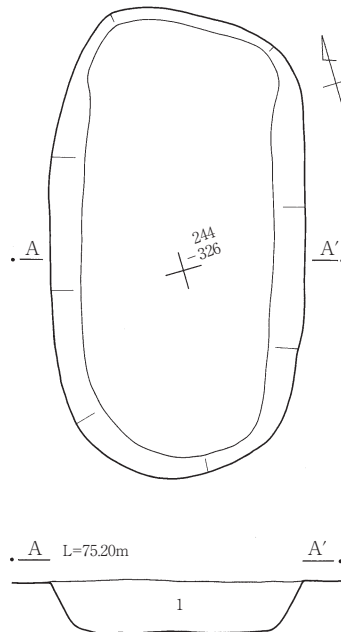
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
Hr-FAを多量に含む。
- 2 1・3層と4層の混土。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
Hr-FAを多量に含む。
- 4 黄橙色ローム質土 (10YR8/8)  
ロームの崩壊土。ロームブロックを多く含む。

83号土坑



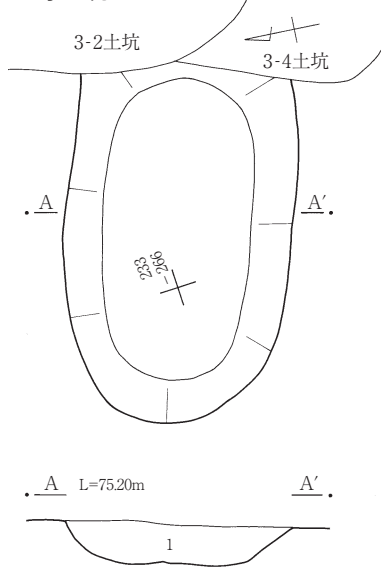
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
Hr-FAを多量に含む。
- 2 黄橙色ローム質土 (10YR8/8)  
ロームの崩壊土。ロームブロックを多く含む。
- 3 1・2層の混土。
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2)

84号土坑



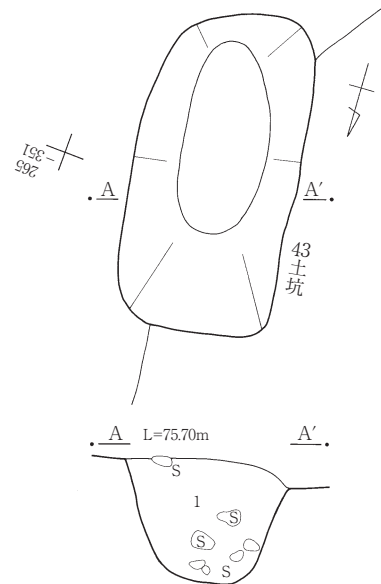
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
Hr-FAを多く含む。

81号土坑

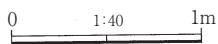


- 1 灰黄褐色ローム質土 (10YR5/2)  
As-B, Hr-FAを少量含む。

85号土坑

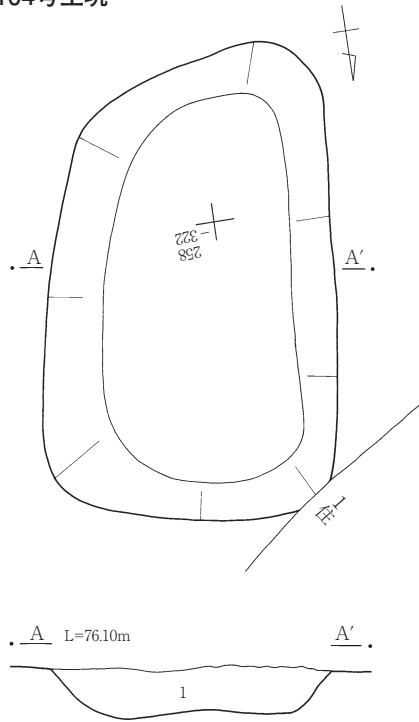


- 1 褐灰色土 (10YR4/1)  
バサバサしている。φ 5cmの円礫を多量に含む。



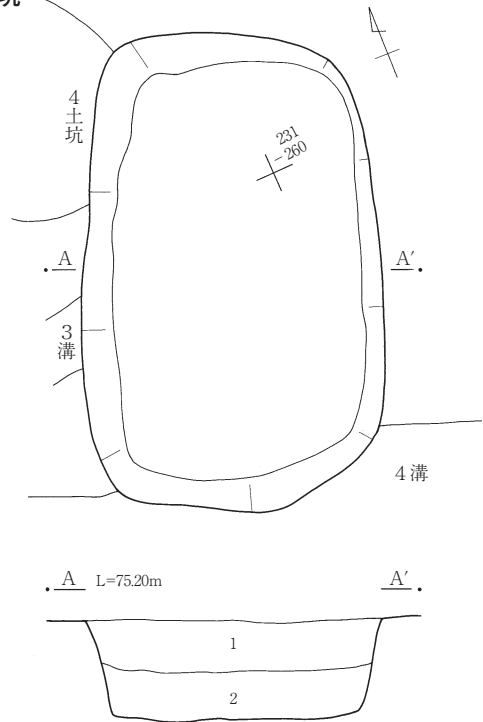
第96図 Ⅷ区80・81・83～85号土坑

104号土坑



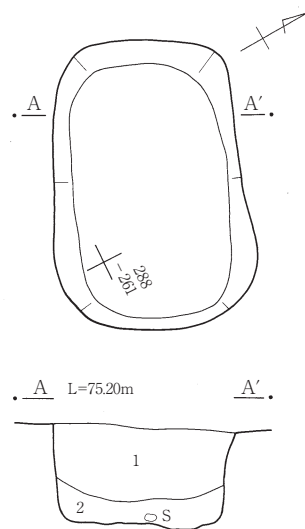
1 におい黄色ローム質土 (7.5Y6/3)

107号土坑



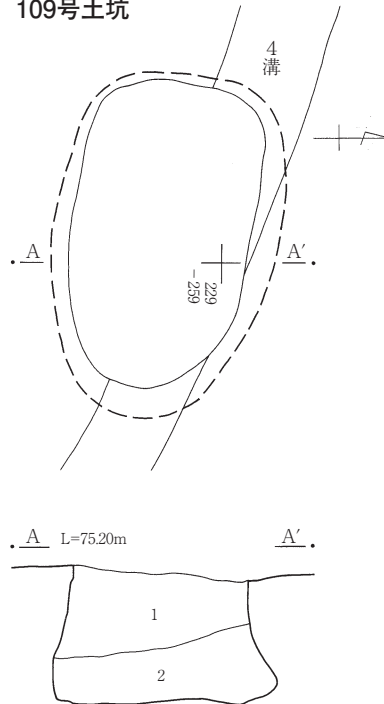
1 暗灰黄色土 (2.5Y4/2) ザラザラしている。  
2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)

108号土坑



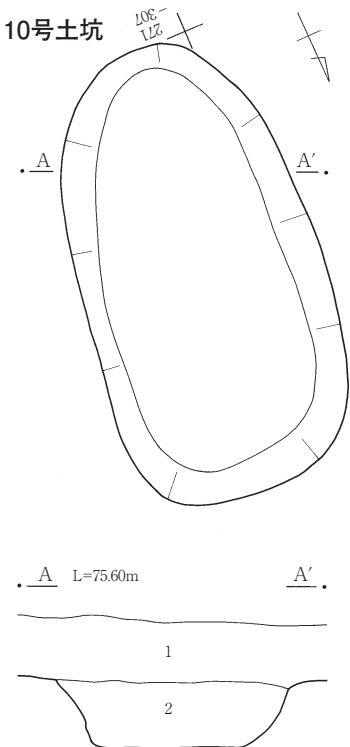
1 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)  
ザラザラしている。  
2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)

109号土坑

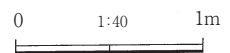


1 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)  
ザラザラしている。  
2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)

110号土坑



1 表土  
2 黒褐色土 (10YR3/1)  
軟質。



第97図 Ⅷ区104・107~110号土坑

### 5 柵列・ピット

調査区北側中央付近には狭い範囲に多くのピットが集中している（第99図）。それらは合計19基確認している。平面形はいずれもやや不整な円形で、径は40～60cmある。深さは20～40cm程度で、あまり深いものではないが、何らかの柱穴と考えられる。

これらのピットは、2～4基が並んでいるのを複数組把握することができたが、直角方向にピットが並ぶのを確認できなかったため、掘立柱建物のものと断定することはできず、ここでは柵列と報告することにする。ただし、すぐ北側が調査区外になってしまうため、こちらにピットが続いている可能性は考えられたが、西野原遺跡（2）でもこの部分に顕著なピットは確認できていないので、柵列である可能性の方が高いものと考えられる。

出土遺物はきわめて少ないが、北東端にある54号ピットからは2点の須恵器壺が出土しており注目される（第98図）。うち1点には墨書がある。

ピットの時期は不明であるが、周囲からほとんど出土しない平安時代の須恵器が54号ピットから出土しているため、一部は平安前期にまで遡る可能性は考えられる。

### 6 畝跡・耕作痕

この区でも遺構確認面に畝跡や、耕作に関わる痕跡を各所に見ることができた。それらは付図に見られるとおりで、合計5カ所のまとまりとして把握することができた。いずれも細い溝が平行に並ぶ形態であるが、その方向は様々であり、何時期かの区画が重複しているものと思われる。

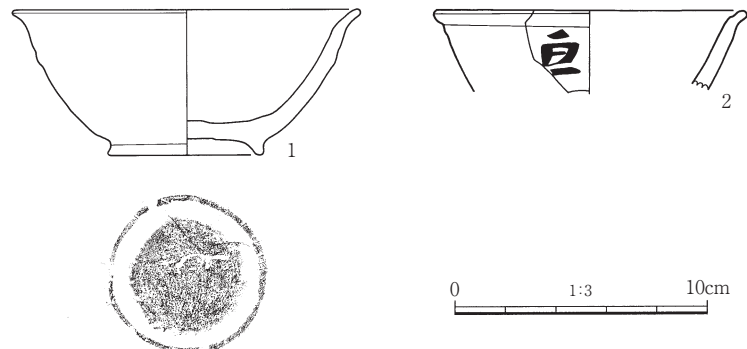
1号畝跡（第100図）は調査区東端付近にあるもので、長さ約15m、幅約8mの範囲に幅20～30cmの28、9本の細い溝（いわゆる畝間）が並んでいる。溝の深さはいずれも浅く、深くても10cmである。5号、7号溝より

も新しいので、近世以降のものと思われるが、出土遺物がないので時期は特定できない。

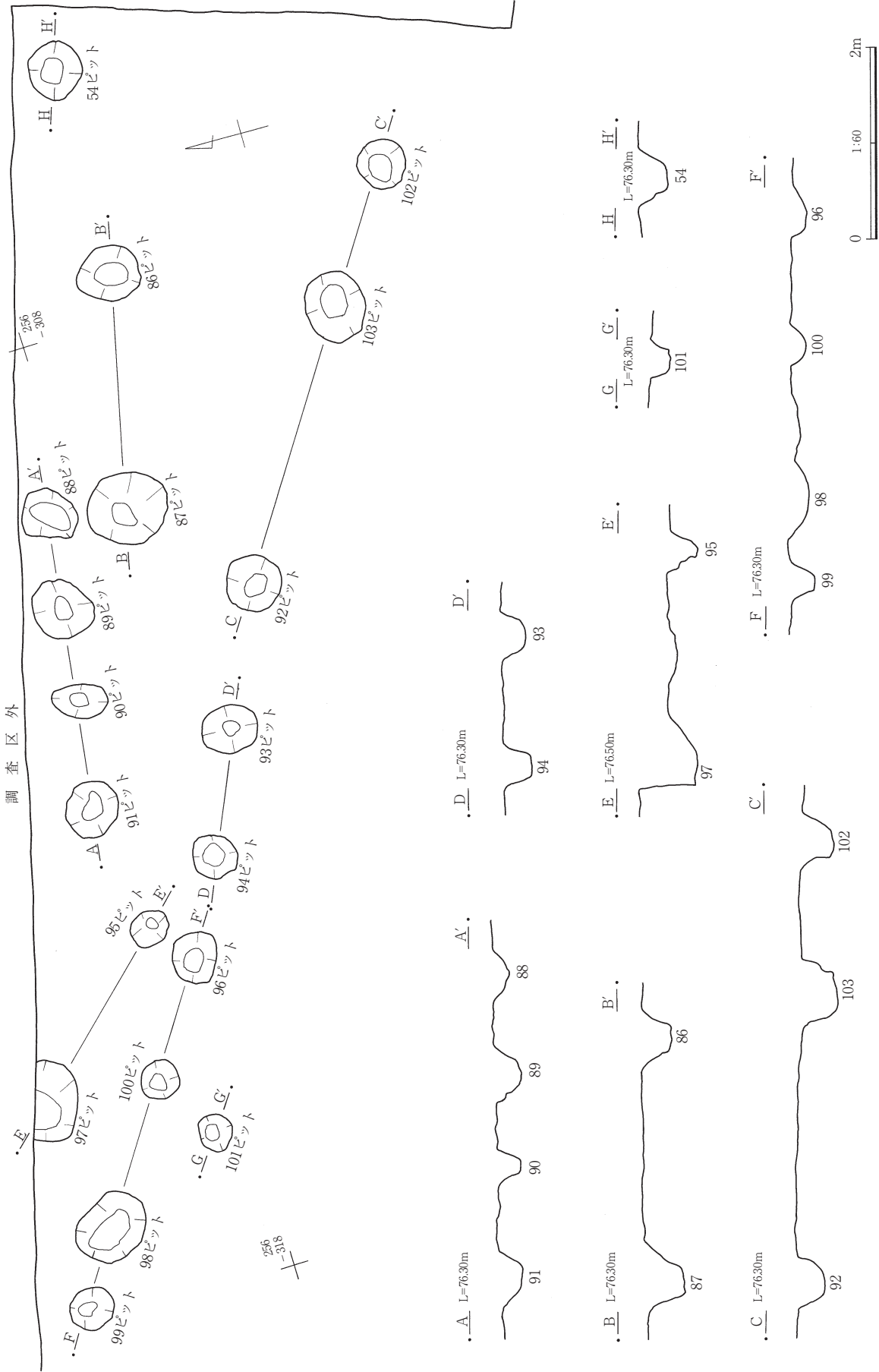
その他の2～5号畝は痕跡程度の残存度である。1号畝と同様に短い溝が数多く並ぶ形態のもの（3・4・5号畝）と、少数の長い溝が狭い幅の中に並ぶ形態のもの（2号畝）とがある。このうち2号畝の南東延長線上ではⅧ区でも同様な形態の畝跡が見つかっている。これらの時期も出土遺物などがなく、特定できない。

	大きさ(cm)			備考
	長径	短径	深さ	
54	63	57	32	須恵器出土
86	69	59	29	
87	90	80	40	
88	60	50	15	
89	68	62	25	
90	62	37	24	
91	63	55	23	
92	63	58	27	
93	62	51	25	
94	53	47	31	
95	43	36	29	
96	55	48	15	
97	85	(43)	29	
98	82	63	18	
99	49	43	27	
100	44	41	16	
101	42	36	23	
102	54	52	34	
103	75	64	35	

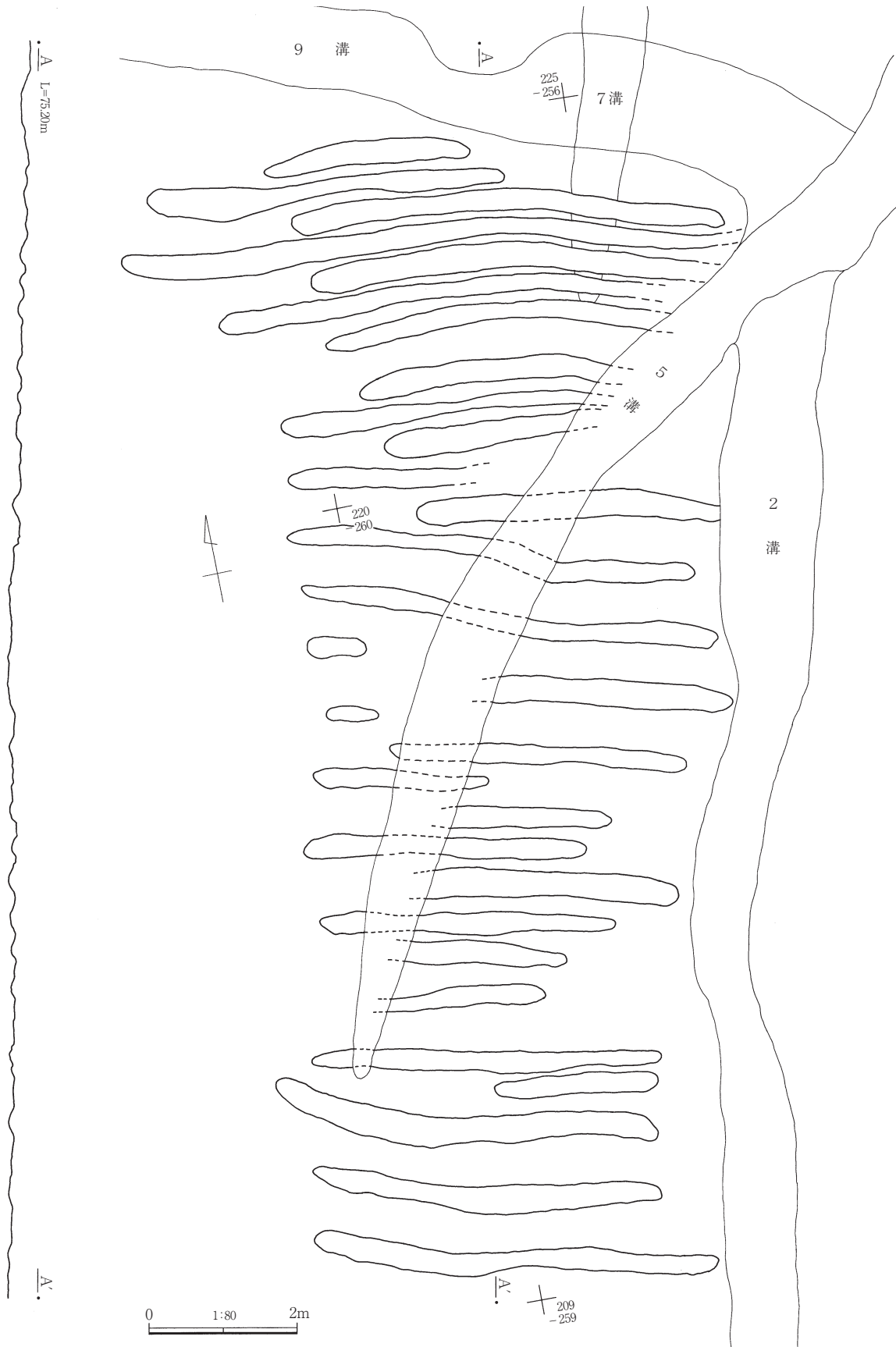
第9表 Ⅷ区のピット一覧表



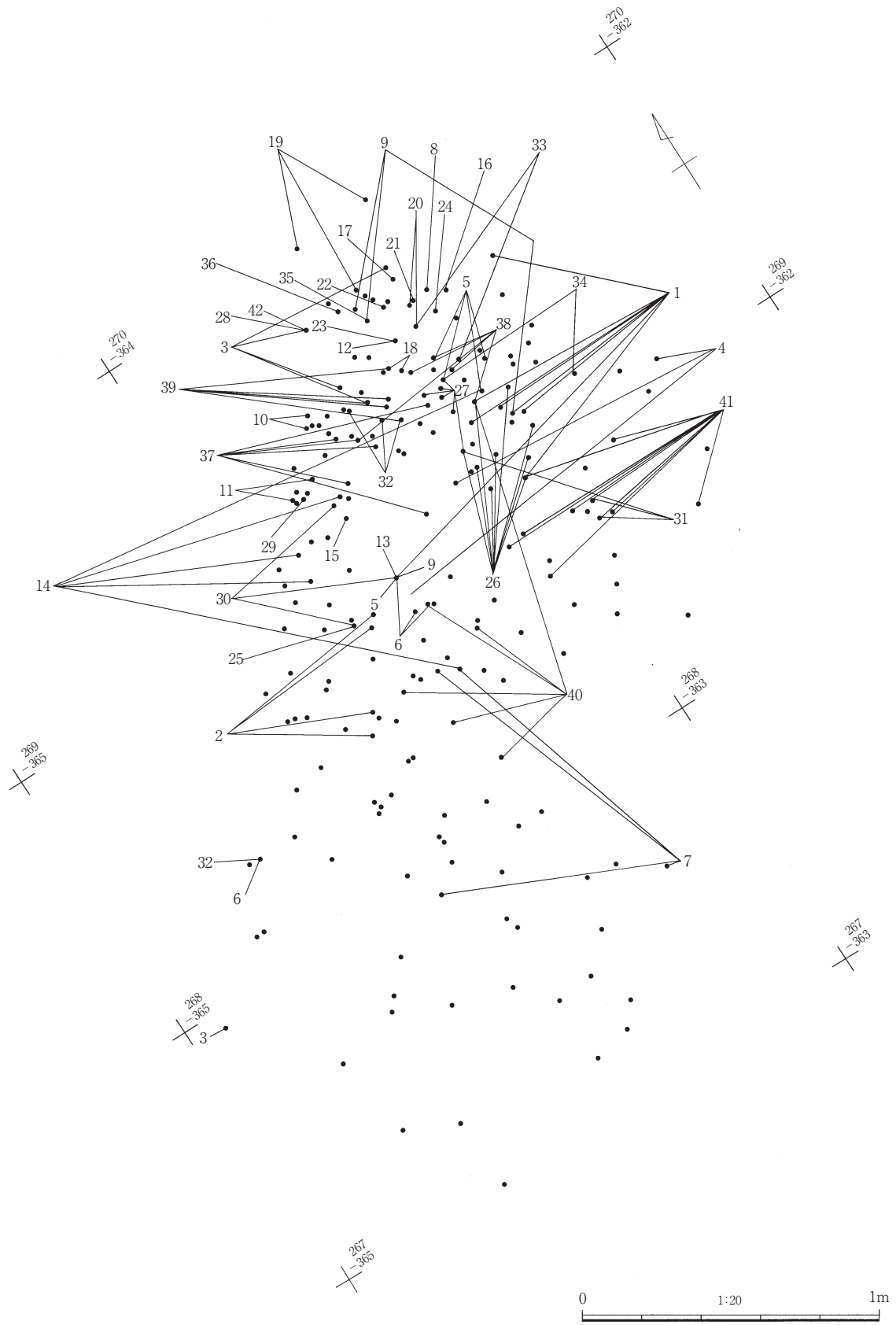
第98図 Ⅷ区54号ピット出土遺物



第99図 Ⅷ区柵列・ピット群

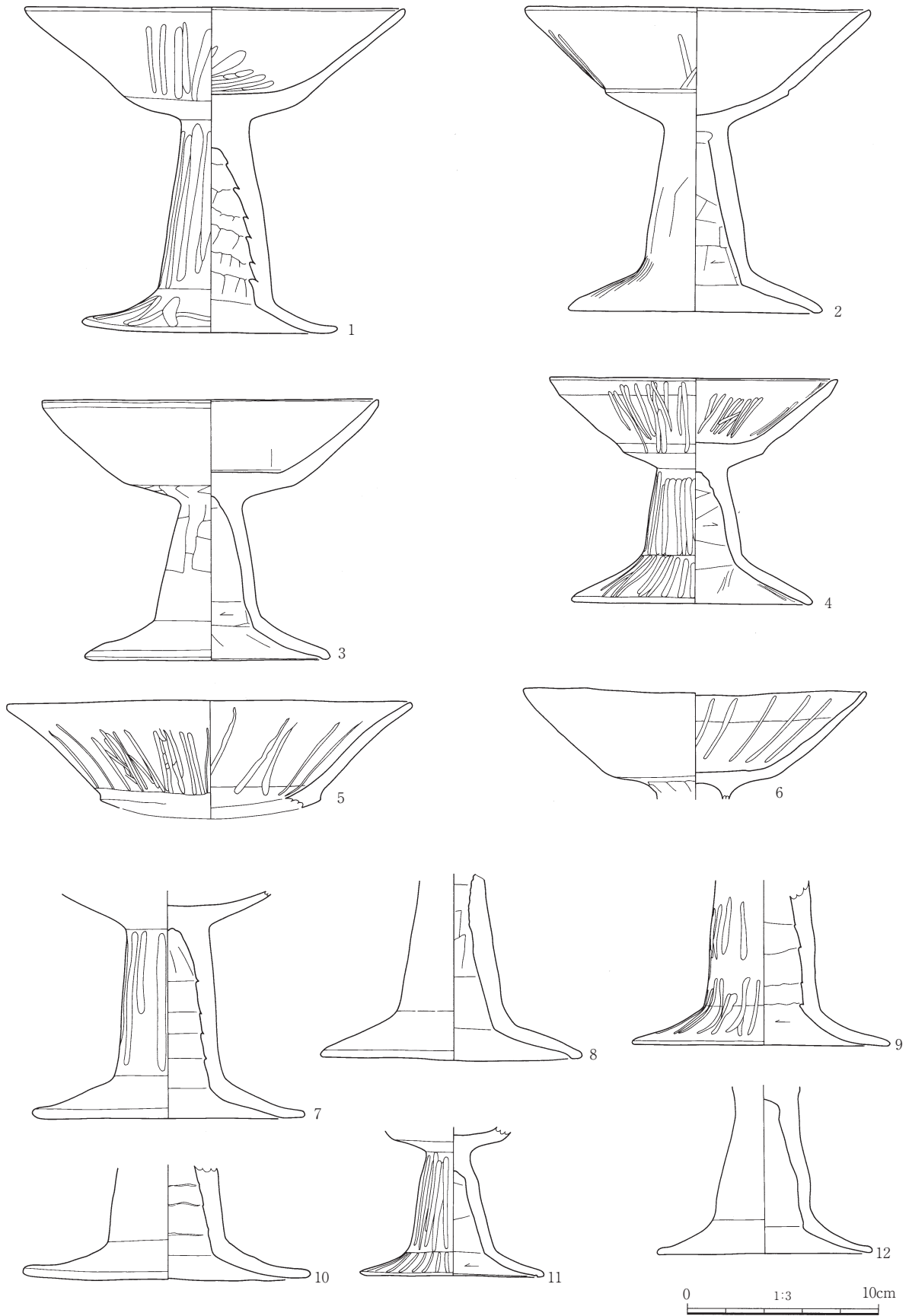


第100図 Ⅷ区1号畠跡

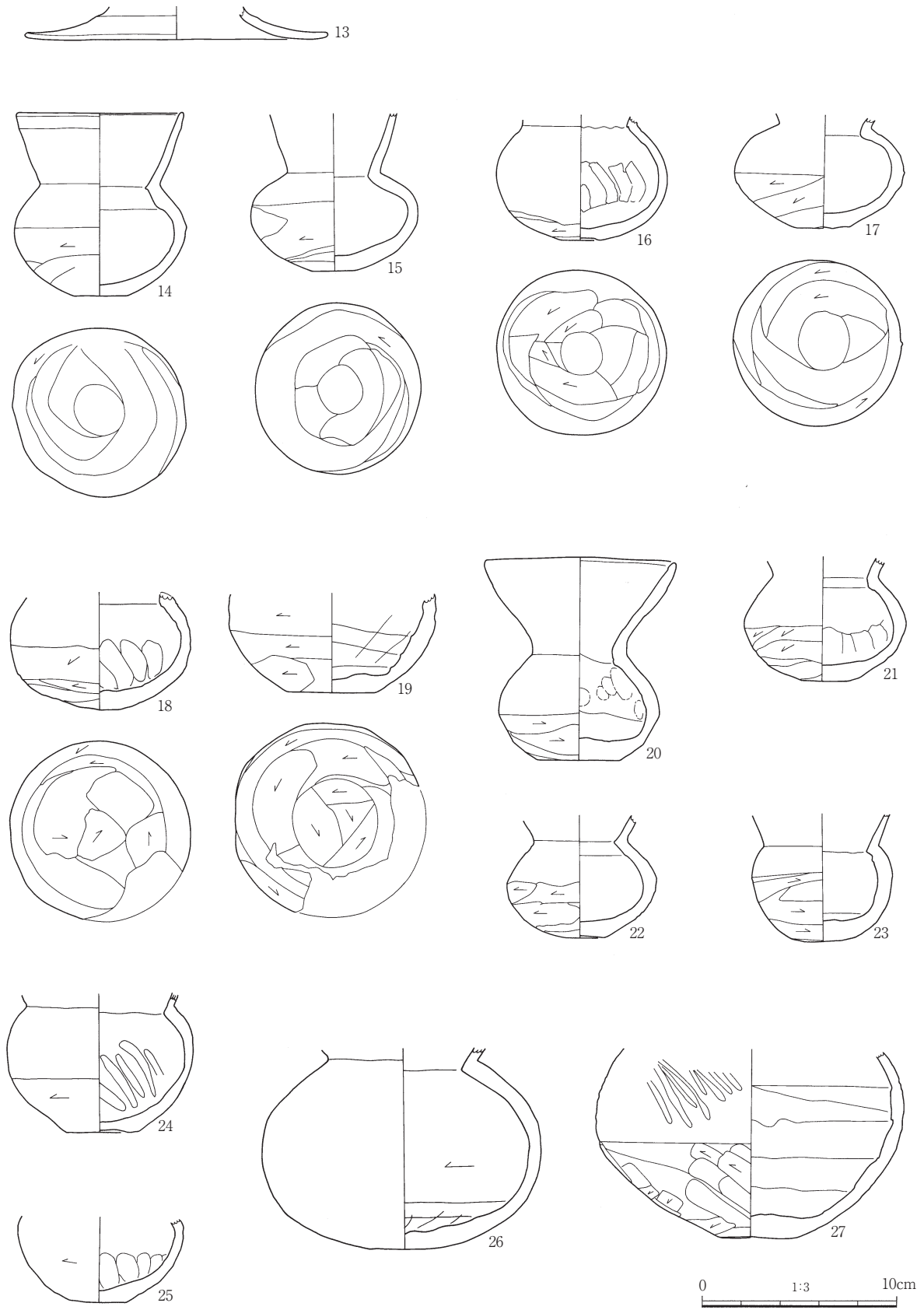


第101図 VIII区1号土器集中部遺物分布図

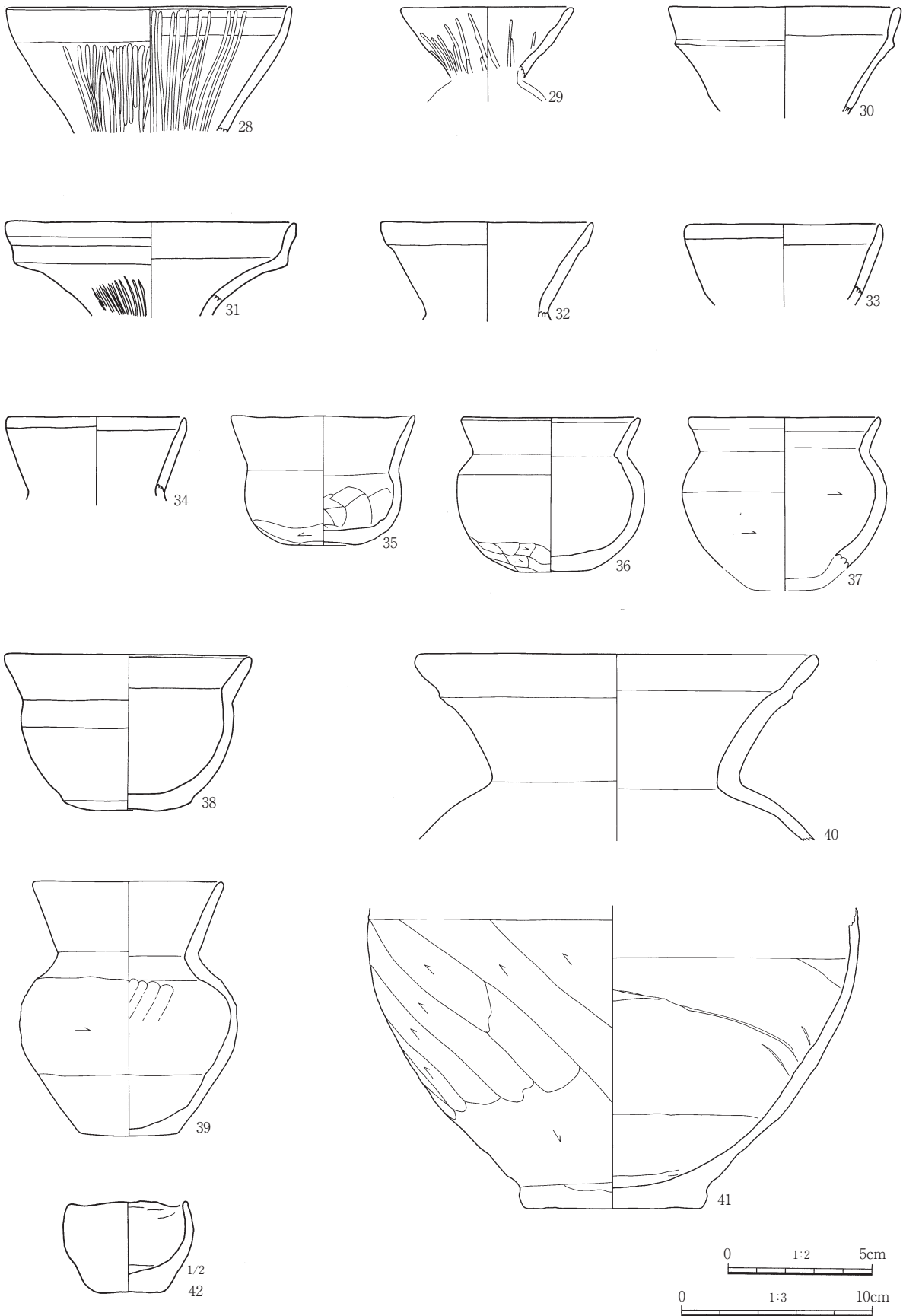




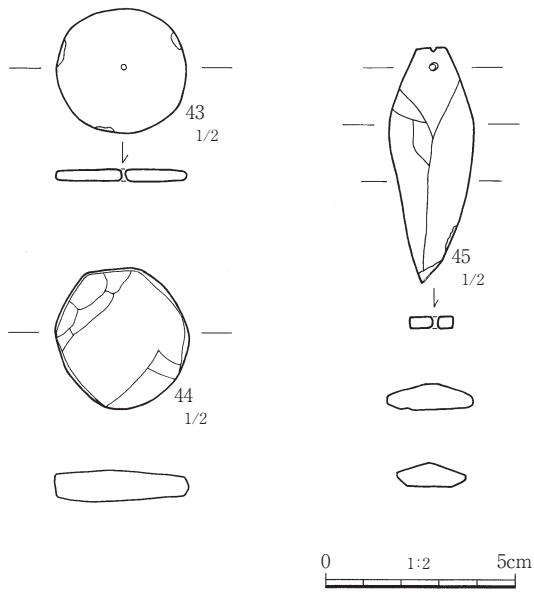
第102図 Ⅷ区1号土器集中部出土遺物(1)



第103図 Ⅷ区1号土器集中部出土遺物（2）



第104図 Ⅷ区1号土器集中部出土遺物(3)



第105図 VIII区1号土器集中部出土遺物(4)

## 7 土器集中部

調査区西部北端近くで、狭い範囲に多くの土器片が集中して出土した。以下この部分を1号土器集中部と名付けて報告する(第101~105図、PL.23・46・47)。

土器片の散布範囲は長さ3.5m、幅1.5mである。特に凹みなどは確認できておらず、平面的に土器が散布していただけである。その分布を第101図で見ると、個体ごとに比較的まとまっていることが分かるので、土器はあらかじめ破碎されたものがばらまかれたわけではなく、破碎後ばらまかずにまとめて置かれたか、あるいは完形のままここに置かれた土器が埋没後に破碎したかのどちらかであろう。

出土した土器は高坏と埴が大部分であり、その他のものは少ない。高坏は13点、埴は22点掲載できた。その他、手捏ね土器1点と石製模造品3点が出土している。

出土する土器の器種が限られ、狭い範囲に置かれたように出土すること、手捏ね土器や石製模造品が出土することから、何らかの祭祀跡であると思われる。土器の時期は5世紀前半と思われる。同時期の遺構は西野原遺跡(3)(4)・鳥谷戸遺跡には見られないが、北側の西野原遺跡(5)では堅穴住居な

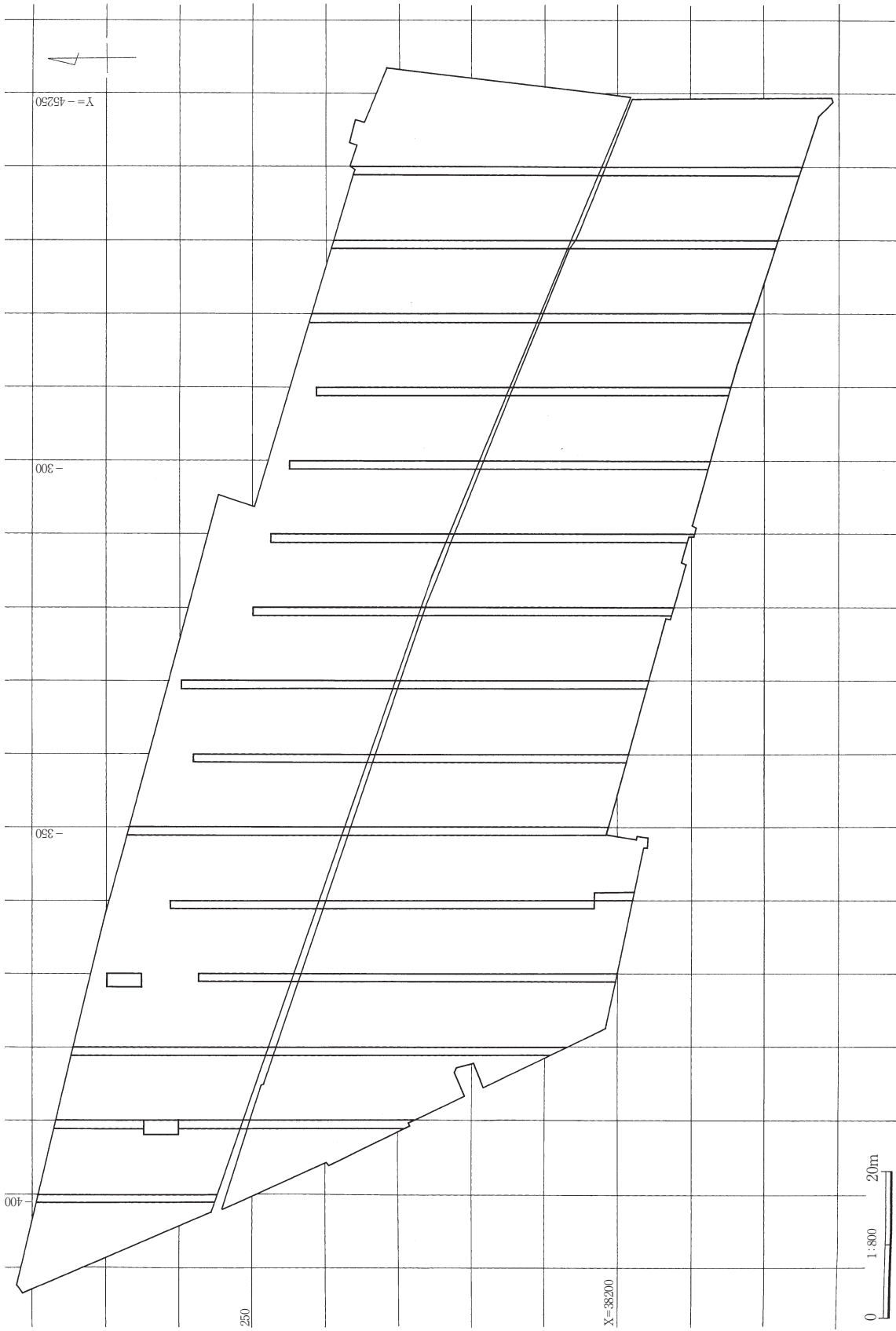
どが調査されているので、関連するものと思われる。

## 8 旧石器確認調査

VIII区では10mおきに幅1mのトレンチを設定して旧石器の確認調査を行った。設けたトレンチは合計15本である。その結果、大部分の場所では0.6~1.5mで礫層となり、その間に旧石器文化層の堆積は確認できなかった。

## 9 遺構外出土の遺物

VIII区では多くの遺構が存在するため、遺構外出土の遺物も多い。縄文から中・近世までの各時代の遺物が見られる。それらのうち、円筒埴輪片や弥生土器片は、北側の西野原遺跡(5)で同時期の遺構(古墳、堅穴住居)を調査しているので、関連するものであろう。





第107図 VIII区遺構外出土遺物(1)



第108図 Ⅷ区遺構外出土遺物(2)

## 第7節 IX区の調査

### 1 概要

IX区はVIII区の「概要」の項で述べたように、VIII区の南側に当たる部分である。他の多くの調査区と異なり、IX区は全体を一度に調査することができた。標高は西端が最も高く、東に向かって緩やかに下がっている。

遺構の密度は比較的薄く、調査できた遺構の数は掘立柱建物4棟、柵列4条、溝23条、土坑60基、ピット20基の他、畝・耕作痕などである。遺構の分布はほぼ全域であるが、掘立柱建物は西端付近と東端付近にあって中央部にはないなど、遺構の種別ごとに分布に偏りが見られる場合がある。

### 2 掘立柱建物

#### 1号掘立柱建物(第109図、PL.24)

調査区北西部のVIII区との境界付近にある。西側8mには4号掘立柱建物がある。43号土坑が西の側柱列に重複する。この土坑の埋土には本建物の柱穴と同様As-Bを含むので、時期的には比較的近いものと考えられ、新旧関係は不明である。桁行2間×梁間2間の側柱建物で、方位はN-24°-Eである。柱配置には多少の歪みがあり、規模は側柱の柱筋で計測すると、桁行が東側(P3~P5)4.45m、西側(P7~P1)4.60m、梁間が北側(P1~P3)3.28m、南側(P5~P7)3.33mであり、桁行の柱間が梁間の1.3~1.4倍となっている。柱穴はいずれも円形で、一部浅いものもある。各柱穴の大きさは以下の通りである。

- P 1 長径20cm、短径23cm、深さ33cm
- P 2 長径48cm、短径22cm、深さ14cm
- P 3 長径28cm、短径24cm、深さ40cm
- P 4 長径29cm、短径28cm、深さ37cm
- P 5 長径29cm、短径27cm、深さ23cm
- P 6 長径60cm、短径39cm、深さ31cm
- P 7 長径40cm、短径36cm、深さ25cm

- P 8 長径25cm、短径21cm、深さ35cm

時期は伴出遺物がなく特定できないが、P1、P8、P7の埋土にはAs-Bを含むので、平安末~中世のものである可能性が考えられる。

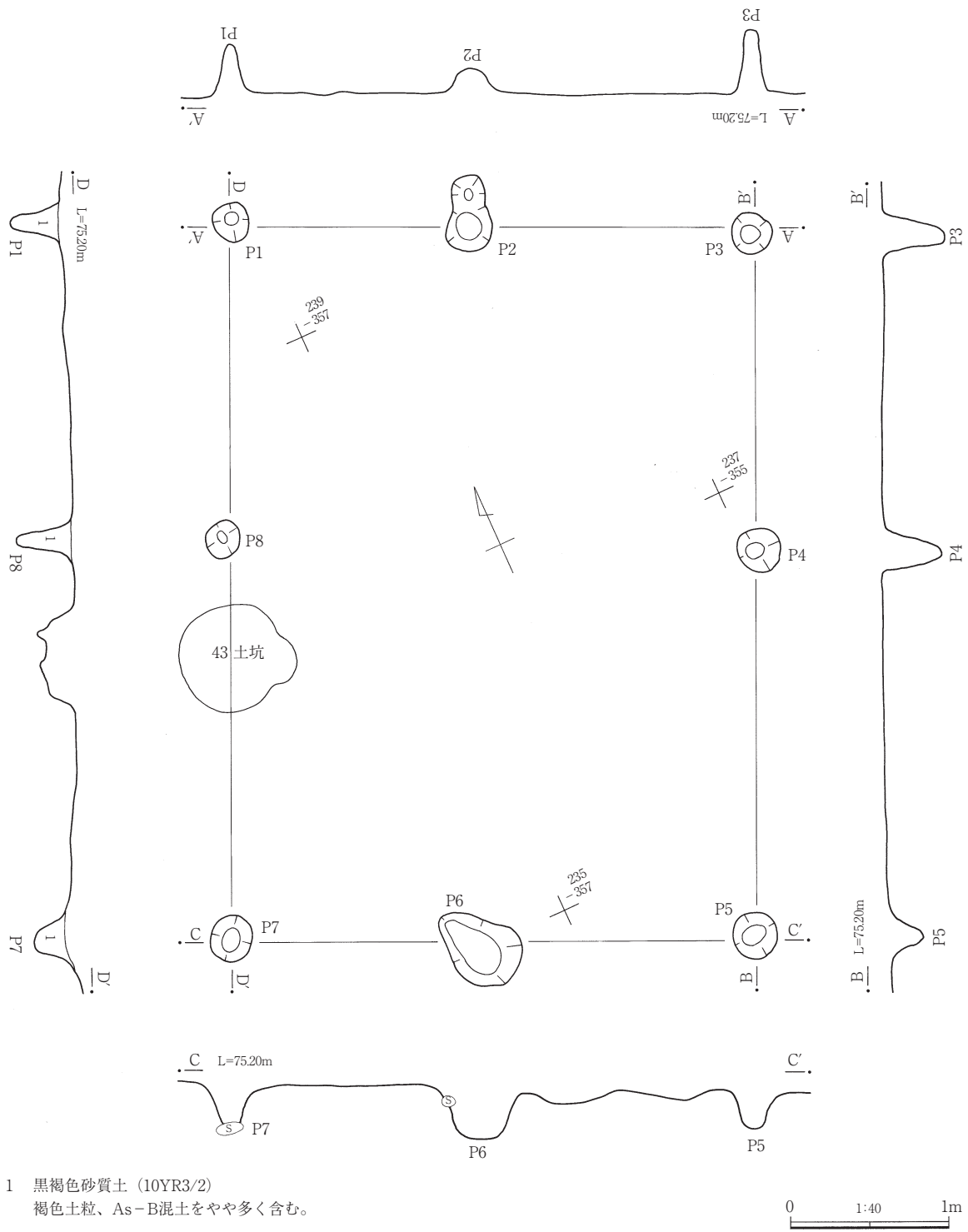
#### 2号掘立柱建物(第110図、PL.24)

調査区の東端近くにある。周囲に同様な建物はなく、1棟だけ単独で存在する。2間×2間の総柱建物であり、方位はN-69°-Wである。柱の配置はやや不規則で、特に東妻の柱列は方位が12°近く異なっている。規模は桁行が北側(P1~P3)3.77m、南側(P5~P7)4.10m、梁間が東側(P3~P5)1.75m、西側(P7~P1)1.87mであり、桁行の柱間は梁間の2.0~2.3倍となっている。柱穴はいずれも円形で、深さはほぼ揃っていて特に浅いものはなく、比較的しっかりとした柱穴と言えよう。各柱穴の大きさは以下の通りである。

- P 1 長径42cm、短径38cm、深さ44cm
- P 2 長径42cm、短径40cm、深さ42cm
- P 3 長径56cm、短径49cm、深さ41cm
- P 4 長径33cm、短径27cm、深さ33cm
- P 5 長径46cm、短径37cm、深さ35cm
- P 6 長径38cm、短径34cm、深さ43cm
- P 7 長径38cm、短径33cm、深さ52cm
- P 8 長径38cm、短径32cm、深さ39cm
- P 9 長径36cm、短径34cm、深さ40cm

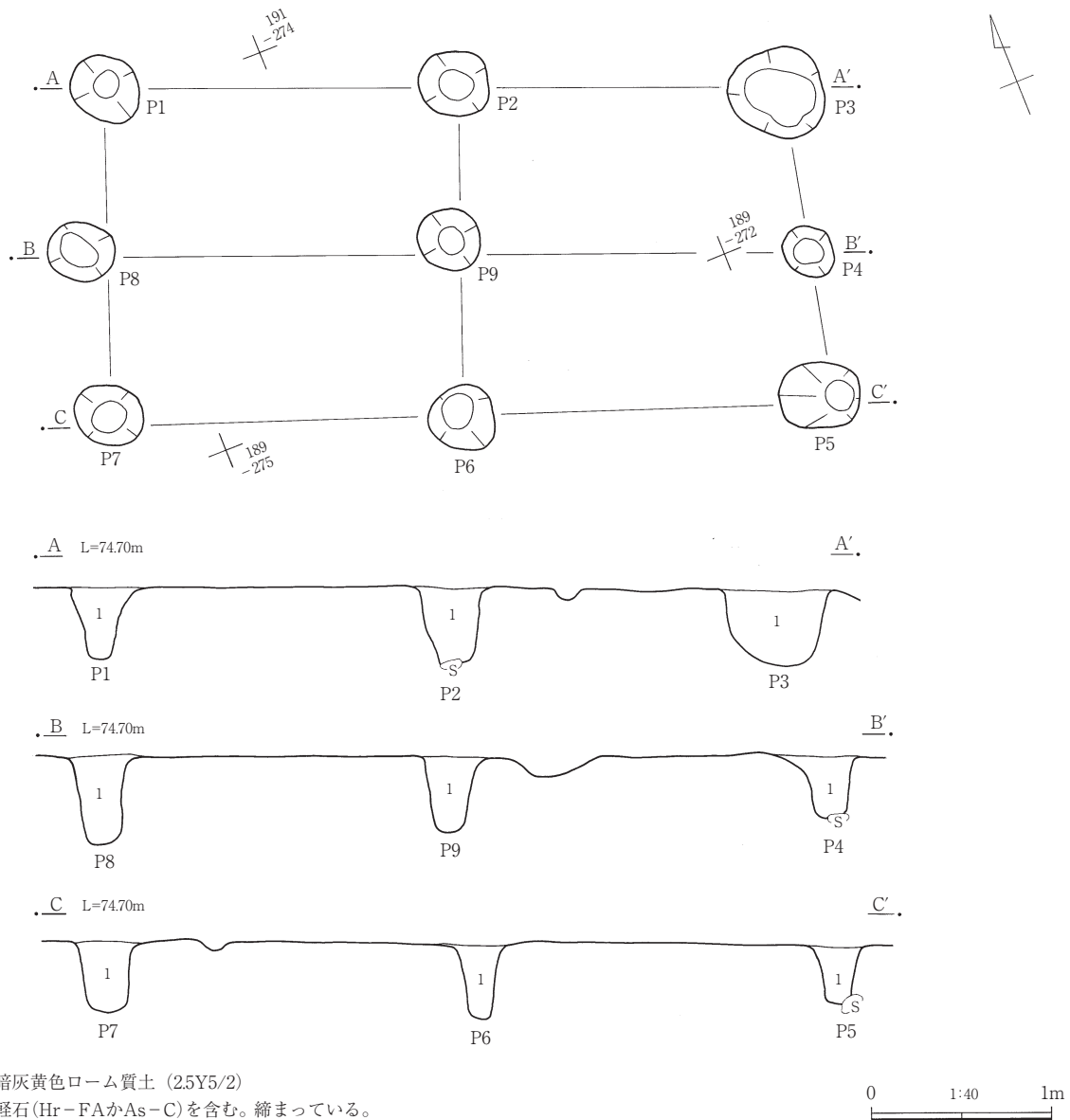
伴出遺物がなく時期を特定することはできない。柱穴埋土にはAs-Bが認められないものの、建物の方位が他の掘って立て柱建物と近いので、この建物も平安末~中世のものである可能性は高いものと考えられる。





1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
 褐色土粒、As-B混土をやや多く含む。

第109図 Ⅹ区1号掘立柱建物



1 暗灰黄色ローム質土 (2.5Y5/2)  
軽石(Hr-FAかAs-C)を含む。締まっている。

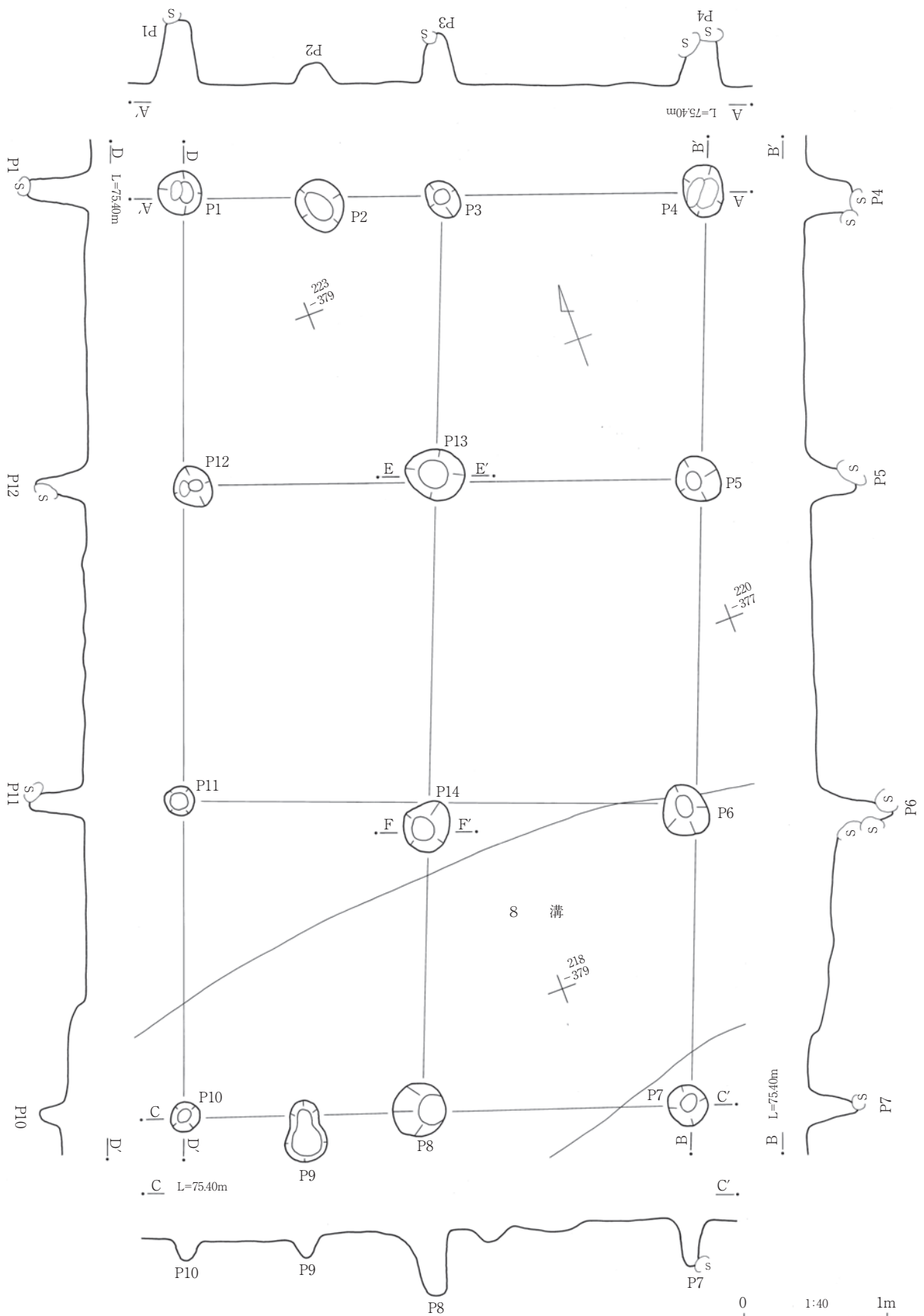
第110図 Ⅹ区2号掘立柱建物

3号掘立柱建物 (第111・112図、PL.24)

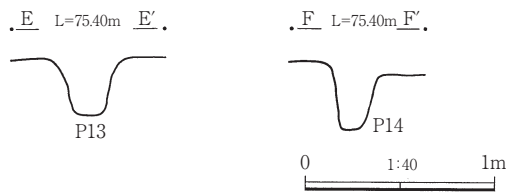
調査区西端付近にある。南側に8号溝が重複するが、本遺構が古い。4間×2間の総柱建物であるが、北妻、南妻ともに西側の柱間の中央にも柱穴(P2とP9)がある。いずれも浅いものなのでこの建物のものではない可能性もあるが、柱間のちょうど中間にあり、この建物に関わるものである可能性の方が高いと思われる。ただし、その浅さから考えて、構造材としての柱ではないであろう。建物方位はN-22°-Eである。柱配置にはやや不規則なところ

があるが、建物規模は、桁行が東側(P4~P7)6.34m、西側(P10~P1)6.44m、梁間が北側(P1~P4)3.65m、南側(P7~P10)3.53mである。柱穴はいずれも丸く、一部浅いものがある。各柱穴の大きさは以下の通りである。

- P 1 長径30cm、短径30cm、深さ44cm
- P 2 長径37cm、短径34cm、深さ15cm
- P 3 長径29cm、短径23cm、深さ36cm
- P 4 長径37cm、短径28cm、深さ33cm



第111図 Ⅹ区3号掘立柱建物



第112図 区区3号掘立柱建物柱穴断面

- P 5 長径24cm、短径29cm、深さ32cm
- P 6 長径48cm、短径30cm、深さ44cm
- P 7 長径29cm、短径26cm、深さ33cm
- P 8 長径38cm、短径36cm、深さ46cm
- P 9 長径44cm、短径22cm、深さ14cm
- P 10 長径22cm、短径20cm、深さ15cm
- P 11 長径21cm、短径21cm、深さ37cm
- P 12 長径31cm、短径26cm、深さ34cm
- P 13 長径41cm、短径38cm、深さ29cm
- P 14 長径37cm、短径33cm、深さ33cm

建物の時期は伴出遺物がないので特定できないが、周囲の建物同様、平安末～中世のものである可能性が高い。

#### 4号掘立柱建物(第113・114図、PL25)

調査区北西部のⅧ区との境界近くにあり、東側の1号掘立柱建物とは約8m離れている。柱穴には配置が不規則なところや一部見つかっていないところもあるが、西側に柵列を伴った4間×2間の側柱建物であると思われる。方位はN-62°-Wである。建物規模は桁行が北東辺(P1～P6)7.05m、南西辺(P8～P11)6.82m、梁間は北西辺(P11～P1)3.23m、南東辺(P6～P8)3.10mである。柱穴はいずれも円形で、やや浅いものもある。各柱穴の大きさは以下の通りである。

- P 1 長径35cm、短径29cm、深さ30cm
- P 2 長径34cm、短径28cm、深さ48cm
- P 3 長径34cm、短径29cm、深さ26cm

- P 4 長径41cm、短径27cm、深さ10cm
- P 5 長径25cm、短径24cm、深さ45cm
- P 6 長径52cm、短径43cm、深さ36cm
- P 7 長径32cm、短径25cm、深さ42cm
- P 8 長径28cm、短径25cm、深さ20cm
- P 9 長径38cm、短径36cm、深さ35cm
- P 10 長径39cm、短径32cm、深さ36cm
- P 11 長径50cm、短径37cm、深さ32cm
- P 12 長径34cm、短径30cm、深さ25cm
- P 13 長径53cm、短径20cm、深さ8cm
- P 14 長径31cm、短径26cm、深さ26cm
- P 15 長径43cm、短径35cm、深さ14cm

これらの柱穴のうち、P13からP15と、次の4号柵列のP2との4本は、柱穴同士を結ぶと方形になるので、これらは別の建物である可能性がある。ただし、そうすると柱間が長いところ(P14～P15など)で3.8mとかなり長くなってしまっているので、建物と断定するには疑問が残る。

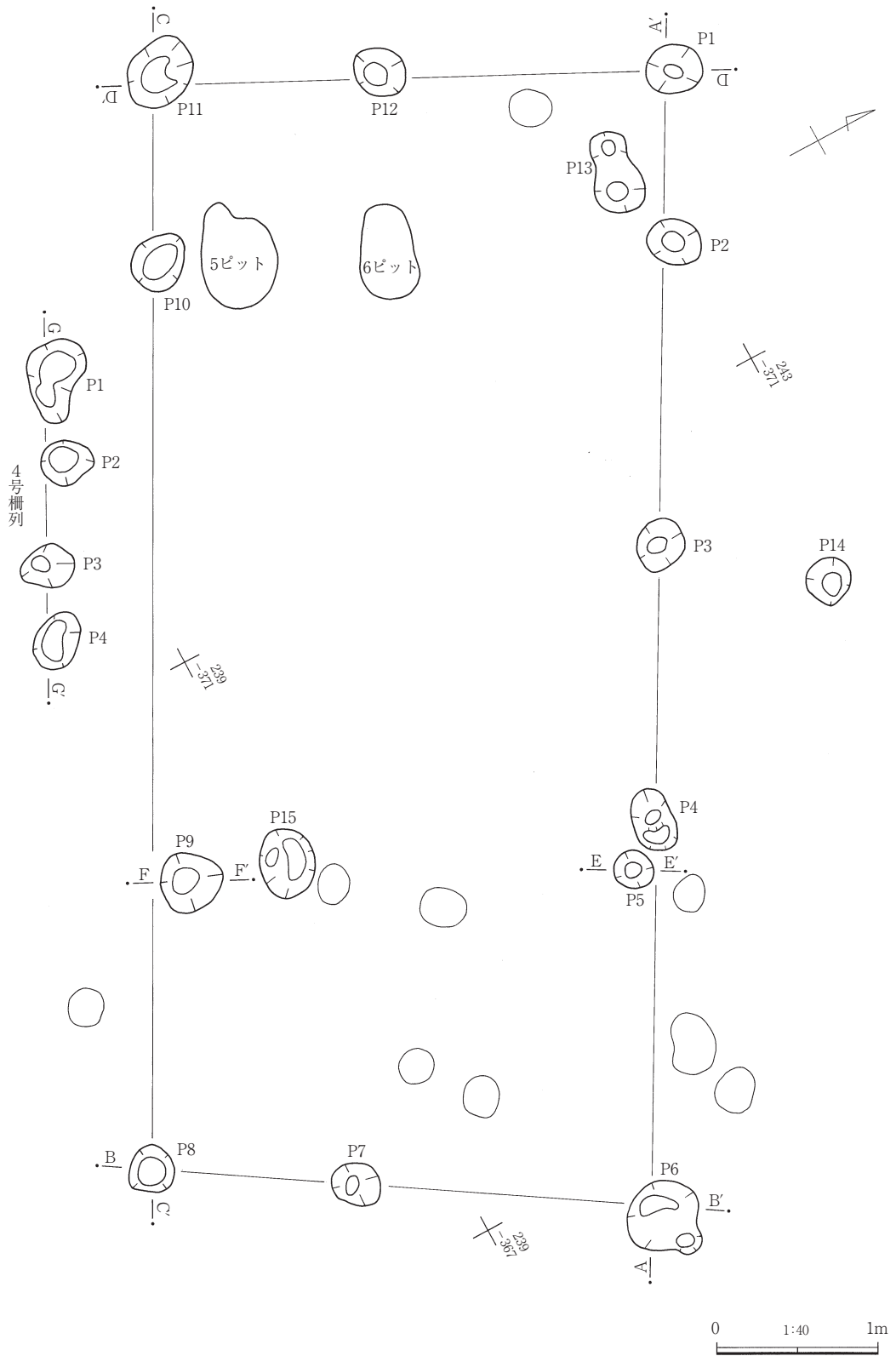
建物の時期は伴出遺物がないので特定できないが、周囲の建物と同様、平安末～中世のものである可能性が高い。

#### 4号柵列(第113・114図)

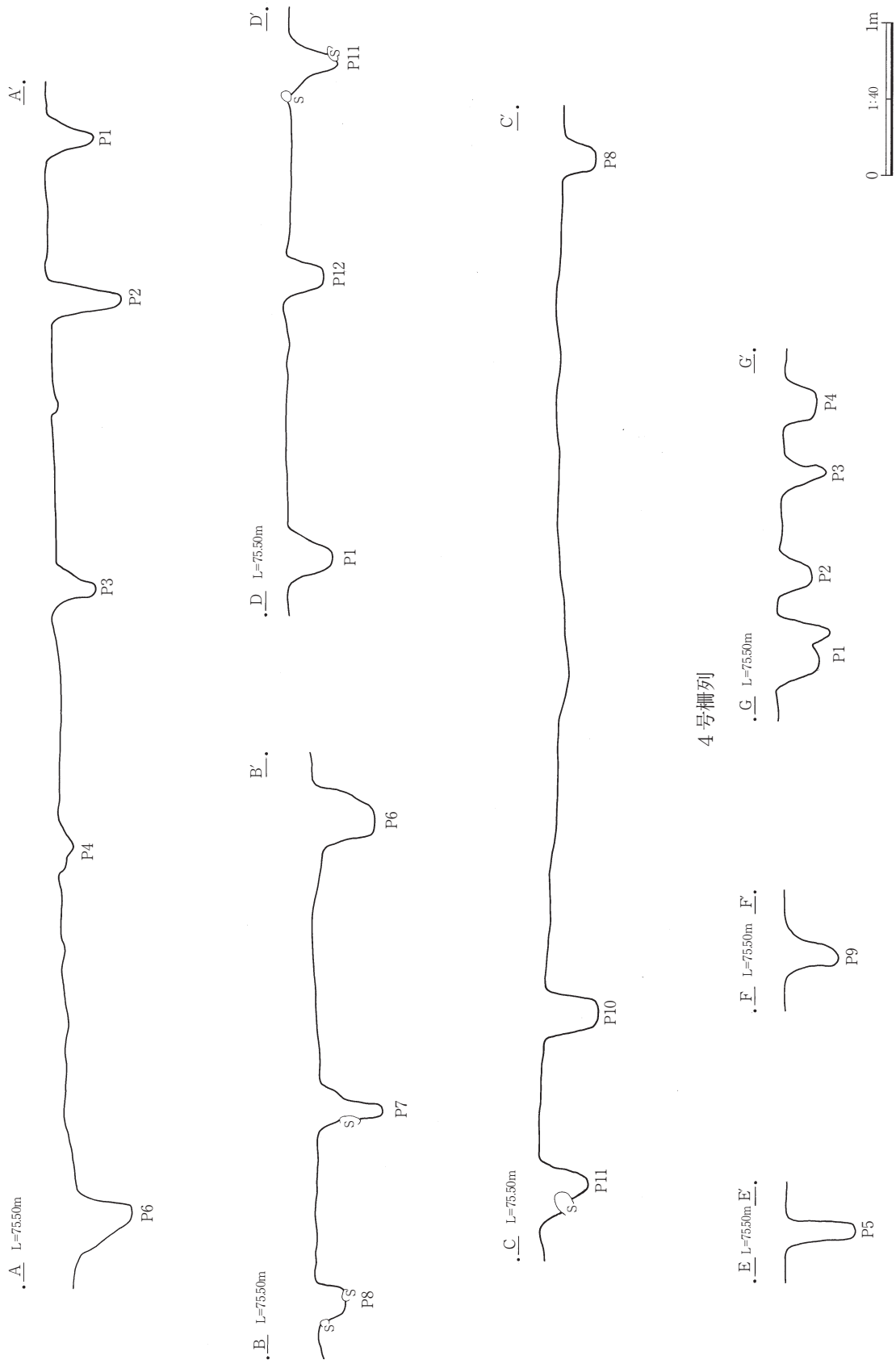
4号掘立柱建物の南西辺から約65cm離れて並行する柵列である。P1からP4の4本の柱穴が並ぶが、前述の通り、P2は別の建物の柱穴である可能性がある。方向は4号掘立柱建物と同じN-62°-Wであり、長さは4.73mである。各柱穴は不整形でその大きさは下記の通りである。

- P 1 長径53cm、短径28cm、深さ34cm
- P 2 長径33cm、短径27cm、深さ21cm
- P 3 長径35cm、短径25cm、深さ28cm
- P 4 長径38cm、短径28cm、深さ20cm

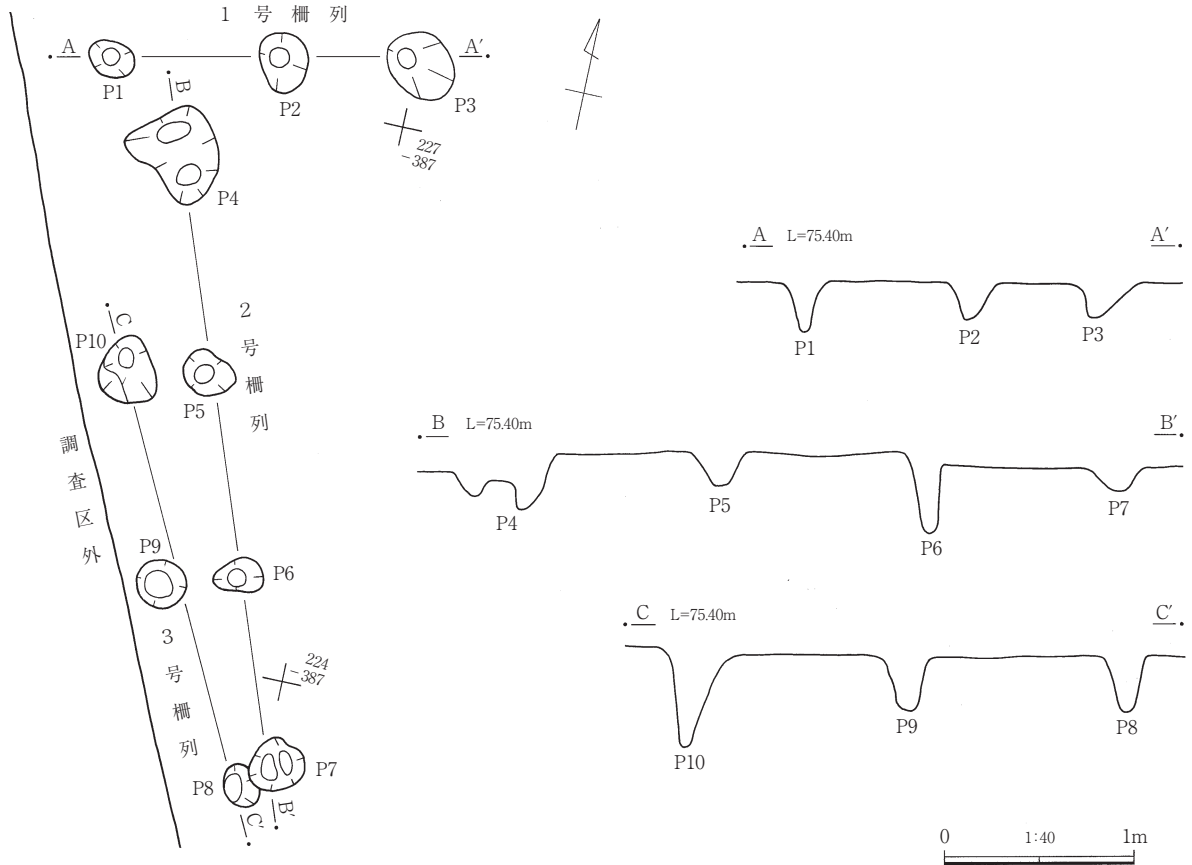
伴出遺物がないので時期を特定できないが、4号掘立柱建物に伴うものとするれば平安末～中世のもの



第113図 Ⅹ区4号掘立柱建物、4号柵列



第114图 Ⅱ区4号掘立柱建物、4号柵列断面



第115図 Ⅹ区1～3号柵列

である可能性が高い。

1～3号柵列 (第115図)

調査区西端中央付近にある。狭い範囲に柱穴と思われるピットが集中していた。それらは3列の柵列として把握できたので、1～3号柵列と名付けたが、ここは調査区の端となるため、特に2号、3号柵列については建物の東側の側柵列である可能性も高い。柱穴の形態はいずれもやや不整な円形で、かなり深いものもあり、比較的しっかりとした柱穴である。各柵列の方位、長さは、1号柵列がN-78°-Eで1.57m、2号柵列がN-20°-Wで3.42m、3号柵列がN-27°-Wで2.35mである。各柱穴の大きさは下記の通りである。

- P 3 長径39cm、短径31cm、深さ18cm
- P 4 長径50cm、短径35cm、深さ26cm
- P 5 長径29cm、短径23cm、深さ18cm
- P 6 長径26cm、短径18cm、深さ39cm
- P 7 長径31cm、短径27cm、深さ13cm
- P 8 長径23cm、短径14cm、深さ30cm
- P 9 長径26cm、短径26cm、深さ29cm
- P 10 長径35cm、短径31cm、深さ51cm

これらの柵列も伴出遺物がないので時期は特定できない。近傍に存在する掘立柱建物と関連するものとするれば、平安末～中世のものである可能性が高い。

- P 1 長径26cm、短径18cm、深さ26cm
- P 2 長径32cm、短径24cm、深さ20cm

### 3 溝

溝は全域で合計23条調査した。東端付近を除いてほぼ全域に分布する。

これらの溝の中で他の区と異なるのは、9・11・12・13号溝など、やや幅が広く、浅い溝があることである。これらの溝は長さも比較的短く、その他の溝とは形態的に異なるので、単なる区画溝とは考えにくい。性格を特定することはできなかった。

また、3・4・7・17号のように、走行方向がN-84°-Wで、他の溝と異なるものがあることも注意が必要である。同様な方向をもつものは周辺の調査区にも見あたらない。

中央部の南側にある1・2号溝と23号溝との3本は、わずかに蛇行してはいるものの、それぞれN-65°-Wと、それとほぼ直角に交わる方向とになっており、相互に関連する溝である可能性がある。1・2号溝は約5m離れて東西方向に平行に走り、道路の側溝状である。23号溝は1号溝が南に直角に折れたようになっている。この溝の性格は、周囲に関連すると思われる遺構がないので不明確だが、これらが道を含めた区画施設である可能性はある。なお、これらの溝の方向は、周囲の多くの溝や掘立柱建物の方向に近く、何度も述べるようにこれがこの地域の、基本の区画方向だと思われる。

16号溝としたものはⅧ区の30・31号溝の延長部である。南東方向に行くにしたがって浅くなり、途中で消えるようになってしまう。この溝の方向も

他の多くの溝と異なるが、同様な方向は後述する1号畠跡や、Ⅷ区16号溝の西端部などに見ることができるので、全く特異な方向ではなく、ある一時期の区画方向なのだと思う。

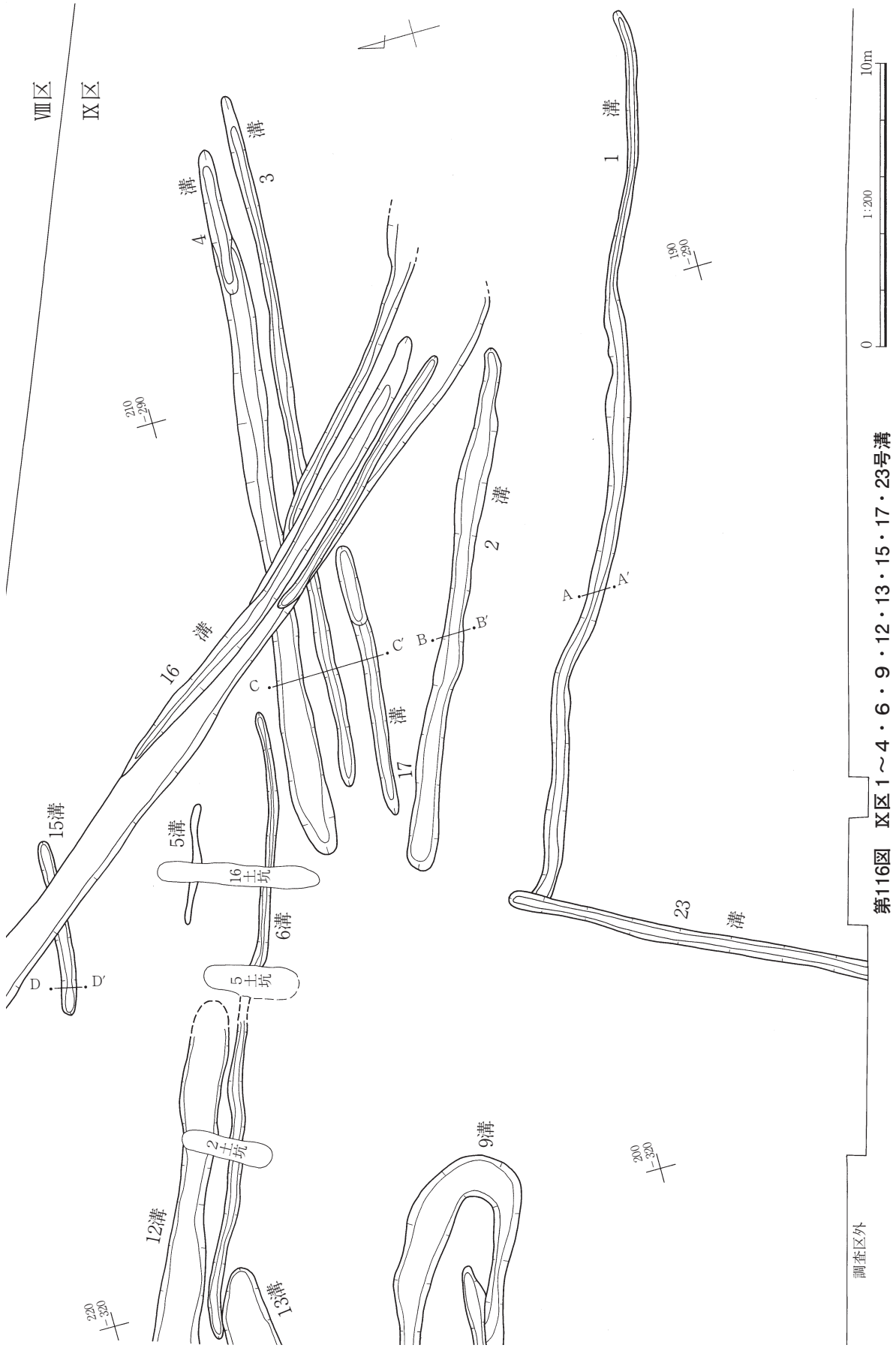
これらの溝の時期は、伴出遺物がほとんどないので特定できないが、埋土の特徴から近世以降のものが多いと思われる。なお、調査区北西隅にある22号溝のみは埋土にAs-Bをやや多く含むので、ほかの溝よりも古い時期になる可能性があるが、わずかな長さしか調査区にかかっていないので、詳細は不明である。

番号	規模(m)			備考
	検出長	幅	深さ	
1	31.20	0.30~0.85	0.45	23溝と重複
2	18.40	0.60~1.00	0.23	
3	24.60	0.38~0.55	0.10	16溝と重複
4	25.00	0.60~1.22	0.20	16溝と重複
5	4.20	0.22~0.28	0.06	16坑と重複
6	22.00	0.28~0.50	0.06	5・16・23坑と重複
7	35.90	0.46~1.70	0.07	14坑より古、21坑と重複
8	60.70	0.62~2.25	0.09	3掘立より新、42坑と重複
9	47.50	0.80~1.85	0.07	20坑より新
10	13.30	0.28~0.58	0.10	
11	12.60	1.20~1.46	0.17	12溝と重複
12	24.70	1.00~2.30	0.15	11溝、23坑と重複

番号	規模(m)			備考
	検出長	幅	深さ	
13	12.50	1.48~2.28	0.07	34坑と重複
14	12.80	0.50~0.70	0.16	
15	6.10	0.45~0.55	0.05	
16	32.50	1.30~3.60	0.14	3・4・15溝と重複
17	9.50	0.45~0.58	0.15	
18	8.10	0.40~0.68	0.13	
19	11.20	0.56~1.32	0.18	21溝と重複
20	8.70	0.40~0.54	0.10	
21	17.50	0.85~1.80	0.05	19溝、50・65坑と重複
22	5.10	0.40~0.46	0.07	
23	12.90	0.52~0.62	0.16	1溝と重複

第10表 Ⅷ区溝一覧表



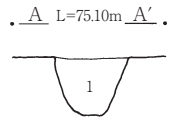


第116図 Ⅸ区1～4・6・9・12・13・15・17・23号溝

調査区外

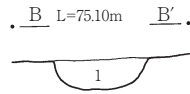
第7章 西野原遺跡(3)

1号溝



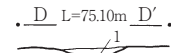
1 黄灰色砂質土 (2.5Y4/1)

2号溝



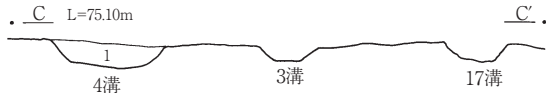
1 黒褐色土 (2.5Y3/2)  
Hr-FAを多量に含む。

15号溝



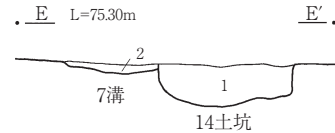
1 褐灰色シルト質土 (10YR5/1)

3・4・17号溝



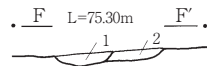
1 灰黄色シルト質土 (2.5Y6/2)

7号溝



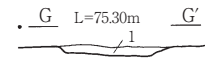
1 黄灰色ローム質土 (2.5Y5/1)  
2 灰黄色シルト質土 (2.5Y6/2)

8号溝



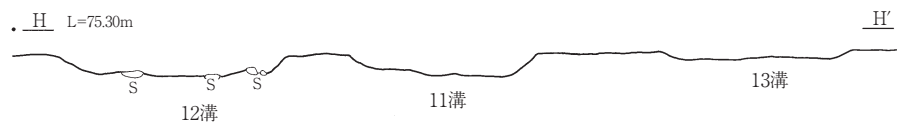
1 灰黄褐色土 (10YR6/2) 粒径細かい。  
2 灰黄褐色土 (10YR5/2) ほぼ均一。

9号溝

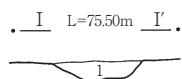


1 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
粒径細かく、やや粘質。

11・12・13号溝

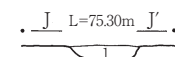


14号溝



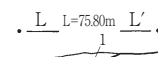
1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2)  
ほぼ均一。

18号溝



1 灰黄褐色土 (10YR4/2)

22号溝

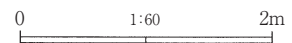


1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)  
As-Bをやや多く含み、非常に硬い。

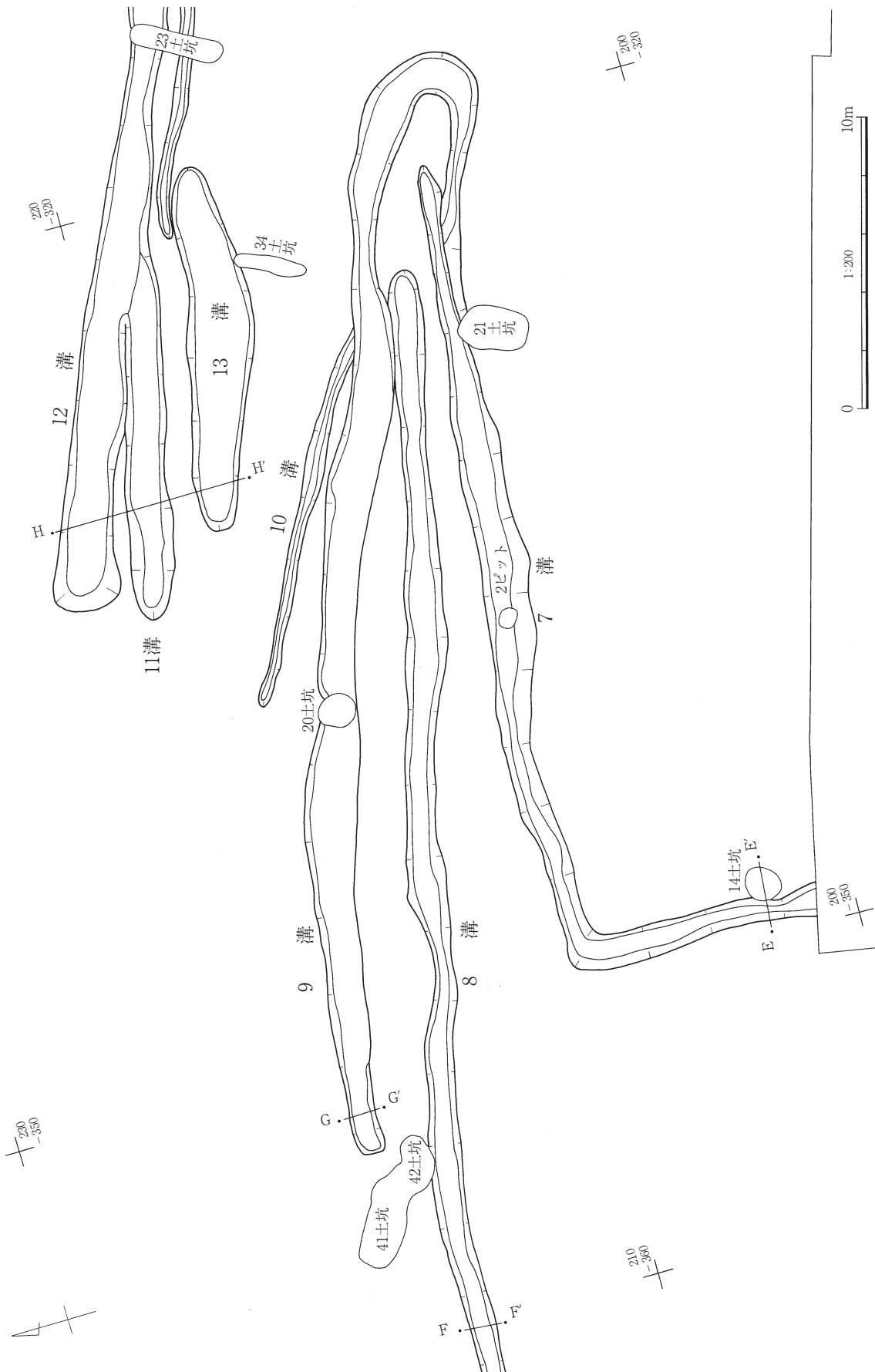
20・21号溝



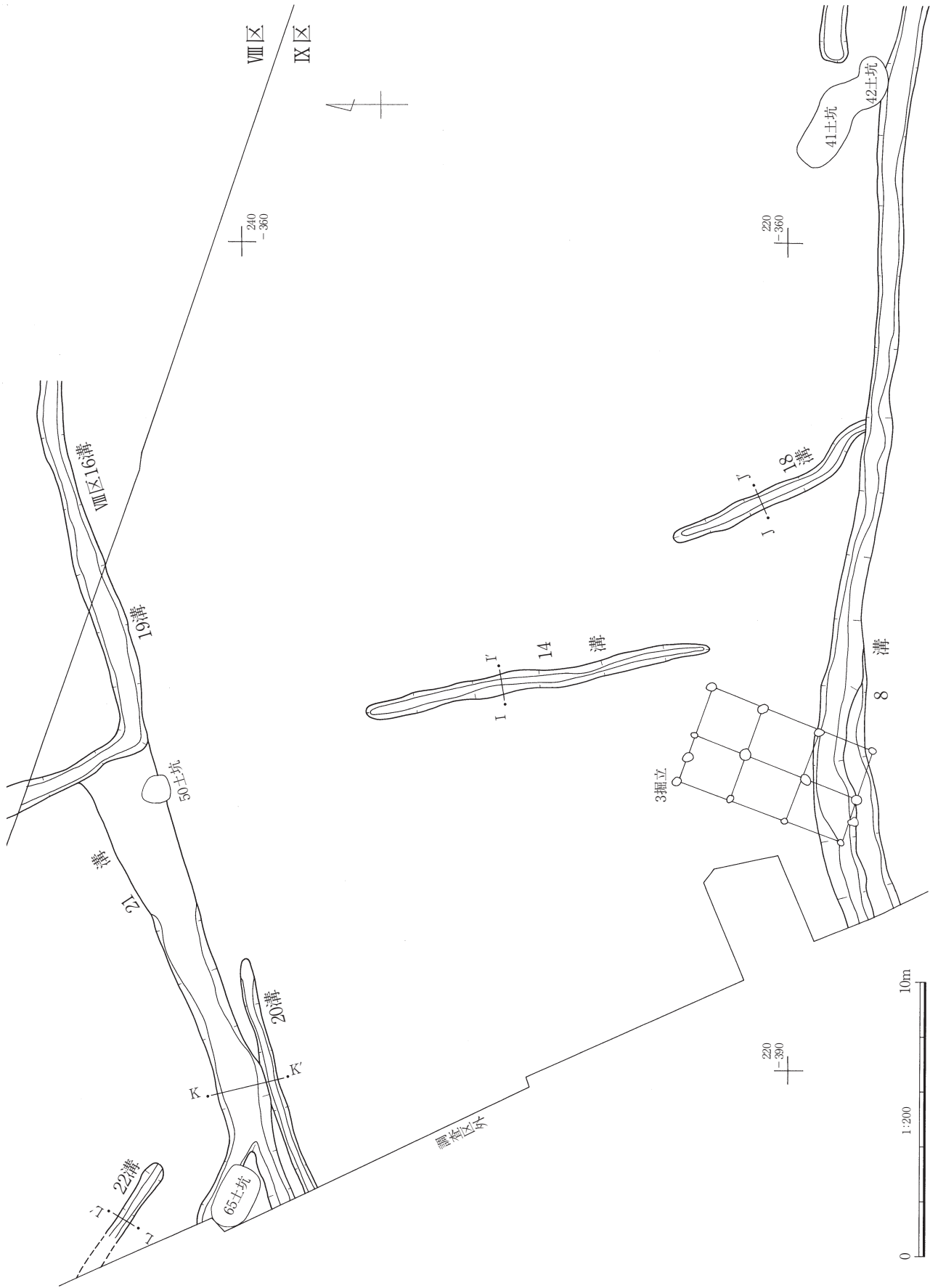
1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
2 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)  
わずかなAs-Bとやや多い地山ローム粒を含む。  
3 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3)  
φ2~3mmの地山ローム粒をわずかに含む。



第117図 Ⅹ区溝断面 (平面図は第116・118・119図)



第118図 区区7～13号溝



第119图 Ⅷ区8・14・18・20~22号溝

4 土坑

土坑は合計61基調査した。ほぼ全域にあるが、巨視的に見ると西端近くにやや多いほか、数カ所にゆるやかなまとまりがあるようである。長方形の土坑の長軸方向が周辺の溝の走行方向に近いのは、他の区と同様である。

土坑の形に長方形、円形など様々なものがあるな

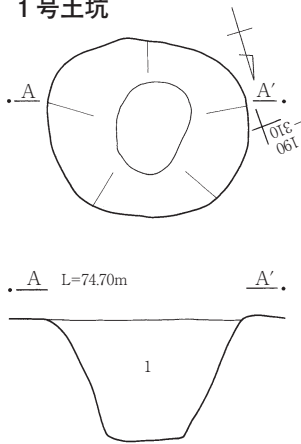
ど、特徴は特に他の区と異なることはないが、埋土にAs-Bを含むものがⅧ区以上に多くあるのが注目される。これらは平安末～中世にまで遡る可能性がある。しかし、その形や分布に偏りがあるわけではなく、各種のものが混じっているのも、すべてが平安末～中世まで遡るかどうかは明らかではない。その他は時期不明のものが多いが、埋土の特徴などが

番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	備考
1	185-295	N-68°-W	105×95×64	
2	185-250	N-74°-W	123×90×11	
3	185-275	N-86°-W	99×94×34	
4	185-290	N-49°-W	85×80×18	
5	210-305	N-25°-E	(230)×109×23	6溝と重複
6	欠番			
7	195-275	N-79°-W	93×85×28	
8	195-275	N-65°-W	83×63×11	
9	185-265	N-13°-W	95×85×29	
10	185-265	N-87°-E	95×87×17	
11	205-305	N-19°-E	320×72×35	
12	220-310	N-20°-E	367×75×10	
13	220-310	N-79°-W	200×50×8	
14	200-345	N-28°-E	125×116×33	7溝より新
15	欠番			
16	205-305	N-19°-E	575×80×19	5・6溝と重複
17	195-310	N-51°-E	154×132×29	
18	215-310	N-53°-W	118×95×20	
19	210-345	N-29°-E	198×119×48	
20	210-335	N-19°-E	128×123×22	9溝より新
21	205-325	N-24°-E	240×145×35	7溝と重複
22	欠番			
23	210-310	N-30°-E	327×80×30	6・12溝と重複
24	195-350	N-42°-W	99×78×20	
25	欠番			
26	210-355	N-25°-E	120×98×25	
27	225-385	N-30°-E	268×139×33	
28	230-390	N-50°-W	195×(110)×23	
29	230-380	N-29°-E	152×102×28	
30	235-380	N-19°-E	78×69×20	
31	220-385	N-25°-E	170×64×14	
32	欠番			
33	欠番			
34	210-320	N-25°-E	255×54×15	13溝と重複
35	190-285	N-45°-E	72×58×29	
36	欠番			
37	欠番			
38	195-295	N-4°-E	220×15×5	
39	235-360	N-25°-E	(207)×92×11	
40	205-305	N-50°-E	(173)×148×14	
41	215-350	N-57°-W	(283)×145×23	42坑と重複
42	215-350	N-83°-W	198×127×23	8溝・41坑と重複
43	235-355	N-25°-E	70×64×20	
44	235-360	N-44°-E	220×143×30	
45	235-360	N-44°-E	210×144×26	

番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	備考
46	欠番			
47	欠番			
48	欠番			
49	240-375	N-36°-E	207×160×10	
50	240-375	N-25°-W	110×94×26	21溝と重複
51	245-380	N-16°-E	65×62×28	
52	245-385	N-34°-E	225×130×26	
53	245-385	N-42°-E	223×160×19	
54	185-275	N-72°-W	85×77×37	
55	欠番			
56	欠番			
57	欠番			
58	185-260	N-89°-E	110×58×22	
59	185-260	N-57°-E	83×57×17	
60	欠番			
61	220-350	N-6°-E	106×70×17	
62	225-350	N-55°-W	115×64×16	
63	欠番			
64	欠番			
65	235-390	N-62°-W	227×133×42	21溝と重複
66	190-295	N-36°-W	70×56×34	
67	190-290	N-16°-E	78×72×23	
68	190-290	N-44°-W	172×42×28	
69	欠番			
70	230-355	N-11°-E	101×67×14	
71	185-270	N-52°-W	148×55×7	
72	欠番			
73	欠番			
74	欠番			
75	欠番			
76	220-380	N-15°-E	95×79×19	
77	205-280	N-4°-E	249×175×41	
78	欠番			
79	230-330	N-17°-E	(123)×164×25	
80	欠番			
81	220-380	N-22°-E	154×142×28	
82	欠番			
83	欠番			
84	欠番			
85	215-380	N-34°-E	(132)×115×52	
86	欠番			
87	205-280	N-71°-W	108×99×26	
88	235-360	N-12°-W	78×67×19	
89	195-285		246×(154)×4	土器片多く出土

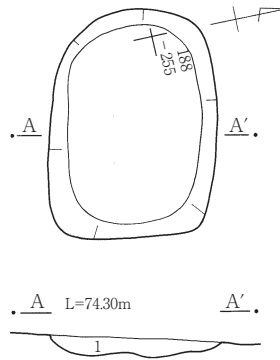
第11表 Ⅷ区土坑一覧表

1号土坑



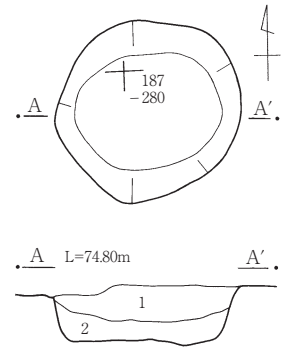
1 褐灰色粘質土 (7.5YR5/1)  
軟質。

2号土坑



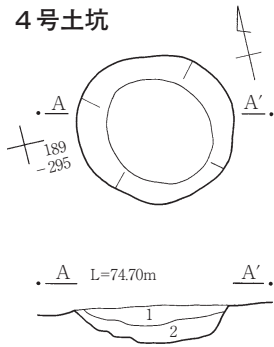
1 黄灰色土 (2.5Y4/1)  
As-Bを含む。

3号土坑



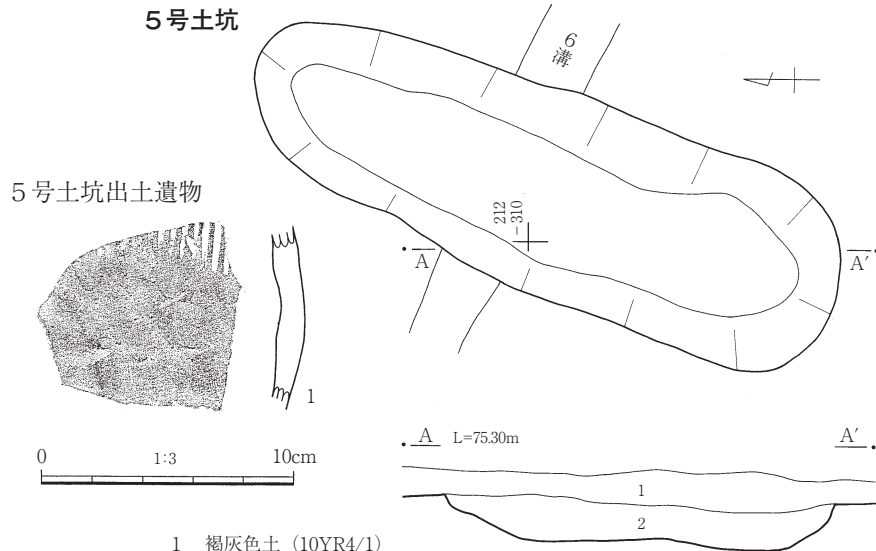
1 褐灰色砂質土 (10YR5/1)  
As-Bを含む。  
2 褐灰色砂質土 (10YR4/1)

4号土坑



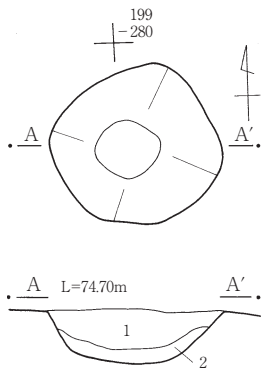
1 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2)  
2 褐灰色砂質土 (10YR4/1)  
As-Bを含む。

5号土坑



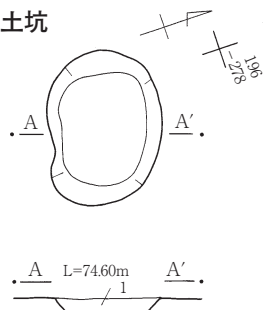
1 褐灰色土 (10YR4/1)  
As-Bを多く含む。  
2 褐灰色土 (10YR4/1)  
As-Bを含む。

7号土坑



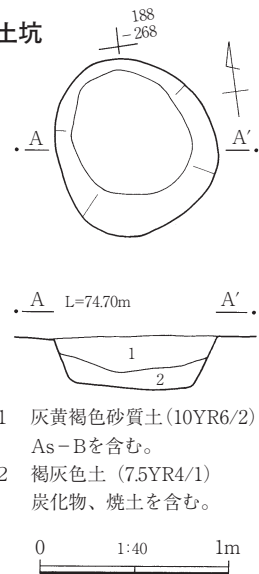
1 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2)  
As-Bを含む。  
2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)

8号土坑



1 暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2)  
As-Bを含む。

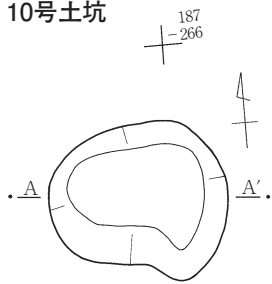
9号土坑



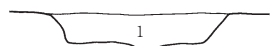
1 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2)  
As-Bを含む。  
2 褐灰色土 (7.5YR4/1)  
炭化物、焼土を含む。

第120図 区区1~5・7~9号土坑

10号土坑

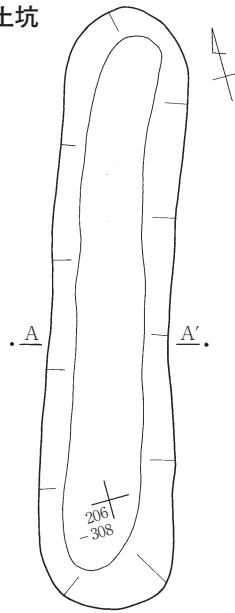


. A L=74.70m A'.

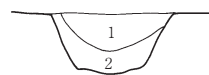


1 灰黄褐色土 (10YR5/2)  
As-B、Hr-FAを含む。

11号土坑

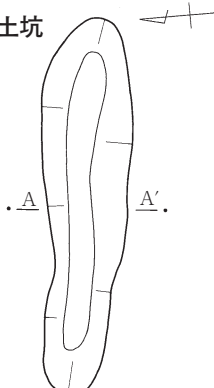


. A L=74.90m A'.



1 黄灰色砂質土 (2.5Y5/1) As-Bを多く含む。  
2 暗灰黄色砂質土 (2.5Y5/2)

13号土坑

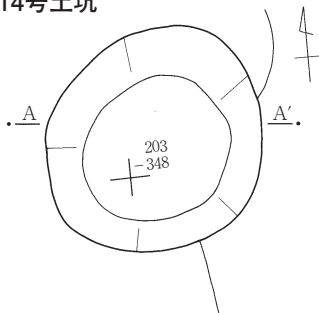


. A L=75.00m A'.

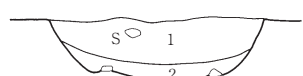


1 黒褐色土 (10YR3/2)  
As-Bを含む。

14号土坑

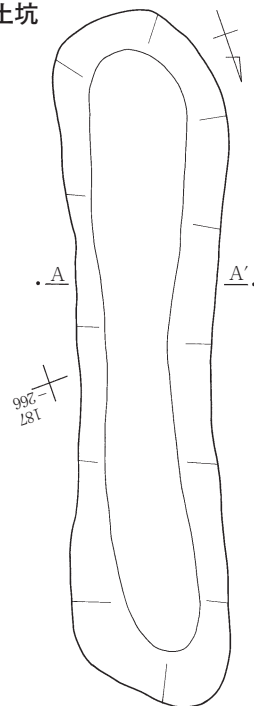


. A L=75.20m A'.

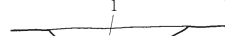


1 黄灰色ローム質土 (2.5Y5/1)  
2 灰黄色土 (2.5Y6/2)

12号土坑

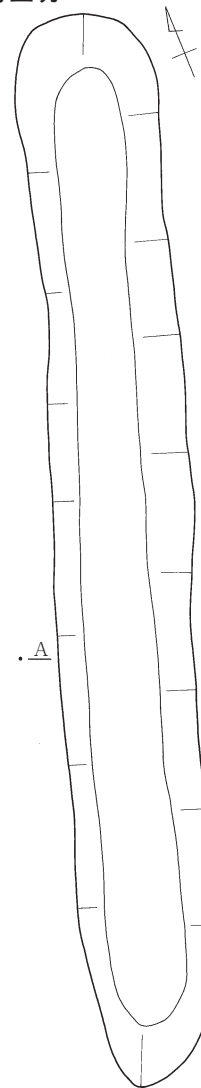


. A L=75.10m A'.



1 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2)

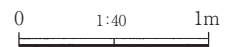
16号土坑



. A L=75.10m A'.

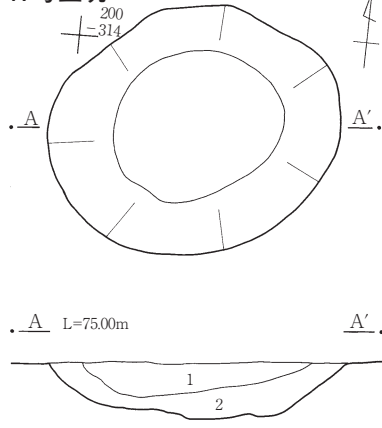


1 黄灰色砂質土 (2.5Y5/1)  
As-Bを多く含む。



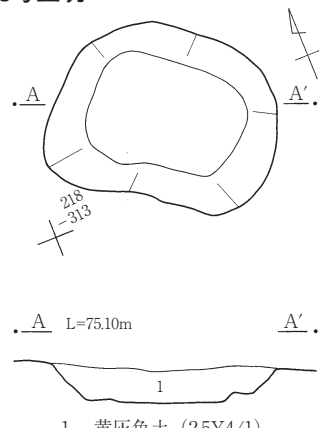
第121図 Ⅹ区10~14・16号土坑

17号土坑



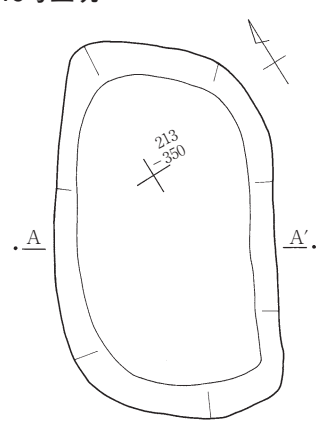
- 1 灰黄褐色シルト質土 (10YR6/2)
- 2 灰黄褐色シルト質土 (10YR5/2)

18号土坑



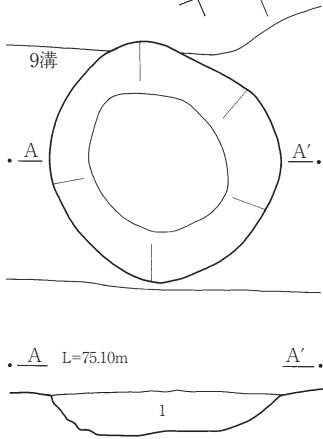
- 1 黄灰色土 (2.5Y4/1)  
As-Bを多く含む。

19号土坑



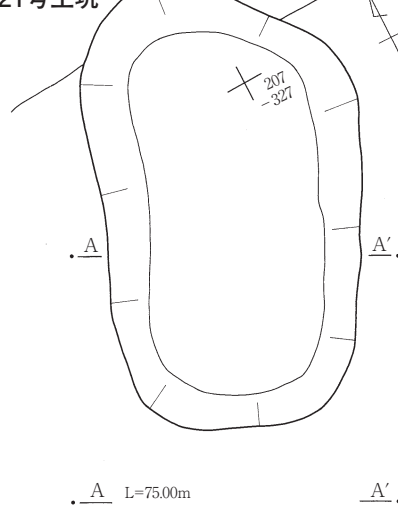
- 1 黄灰色土 (2.5Y4/1)  
円礫を多量に含む。

20号土坑



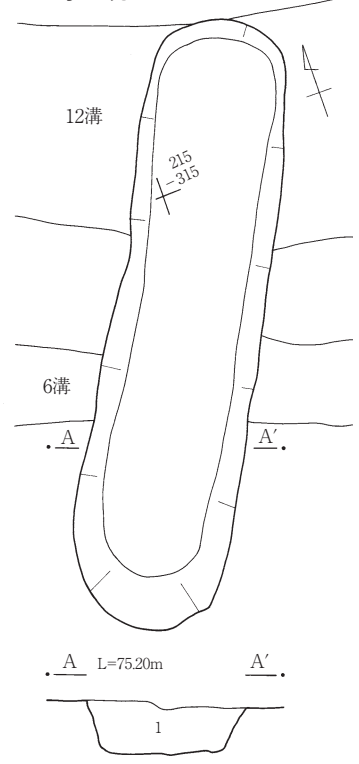
- 1 黄灰色土 (2.5Y4/1)

21号土坑



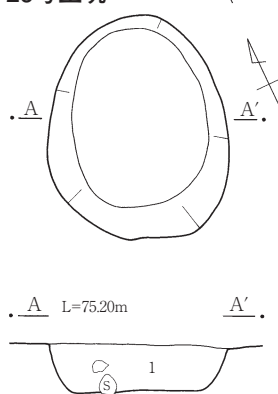
- 1 黄灰色軟質土 (2.5Y4/1)

23号土坑



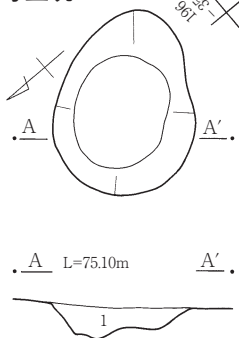
- 1 褐灰色軟質土 (10YR4/1)

26号土坑

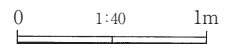


- 1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)  
As-Bやや多く、褐色土粒、Hr-FA  
をごくわずかに含む。φ 2~5cmの円礫  
を含む。

24号土坑



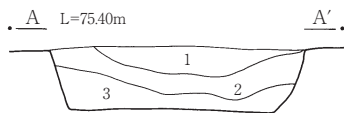
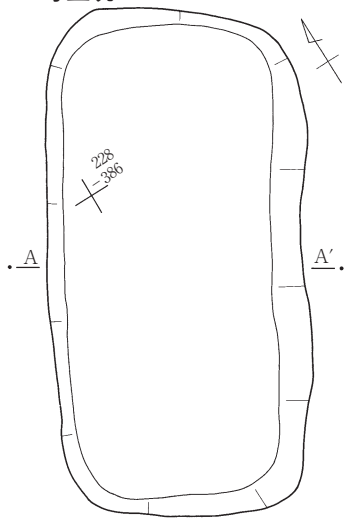
- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2)



第122図 Ⅹ区17~21・23・24・26号土坑

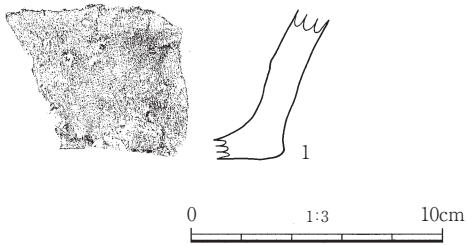


27号土坑

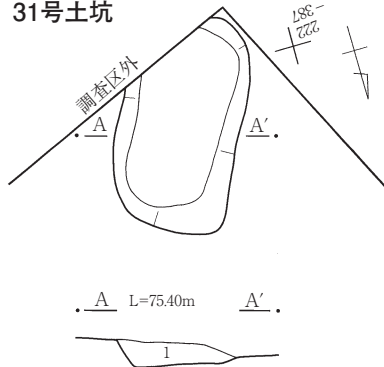


- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
地山のローム粒をやや多く含む。
- 2 褐色砂質土 (10YR4/4)  
3層土が混入する。
- 3 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
地山のローム粒をやや多く含む。

27号土坑出土遺物

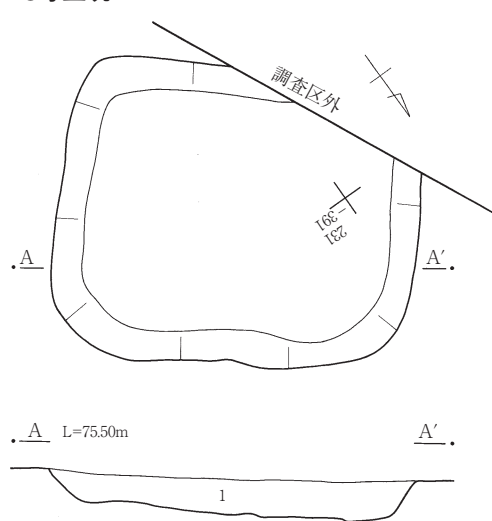


31号土坑



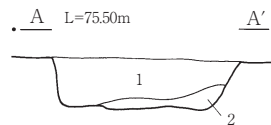
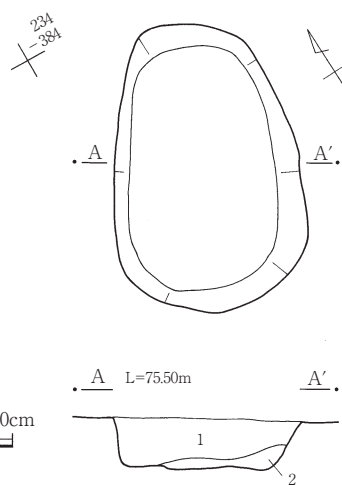
- 1 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3)

28号土坑

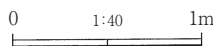


- 1 灰色砂質土 (5Y4/1)  
As-Bを多く含む。

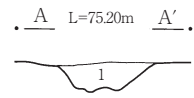
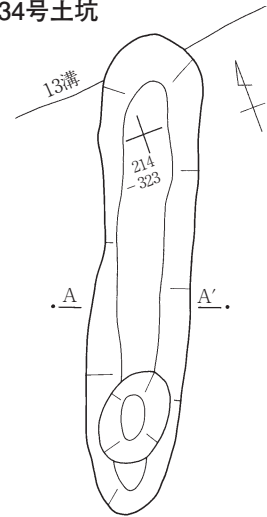
29号土坑



- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
地山の褐色土粒、As-B、φ2~5mmの小円礫、Hr-FAパミスを含む。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3)  
やや軟質。

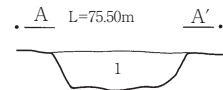
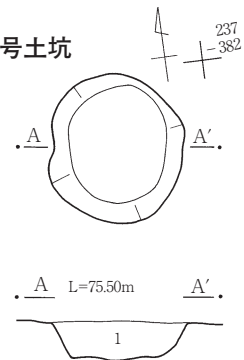


34号土坑



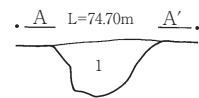
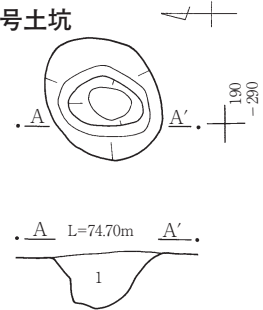
- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
As-Bを含む。

30号土坑



- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
As-Bやや多く、Hr-FAパミスとφ5mmの小円礫をごくわずか含む。

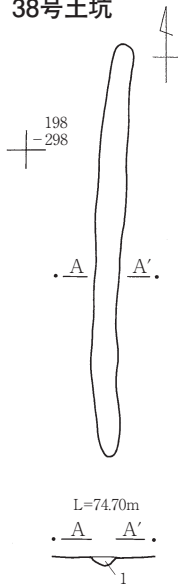
35号土坑



- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)

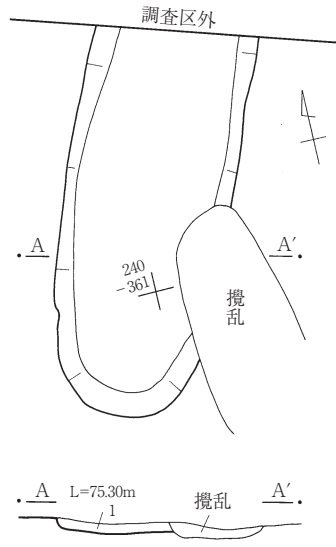
第123図 Ⅹ区27~31・34・35号土坑

38号土坑



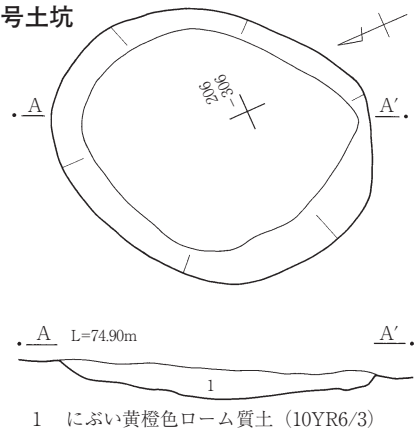
1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
Hr-FAを含む。

39号土坑



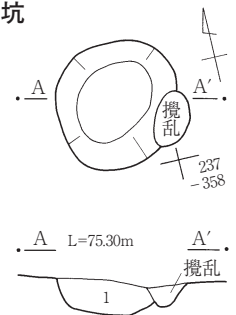
1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
As-Bやや多く含み、砂味強い。φ2~5mmの地山褐色土粒をわずかに含む。

40号土坑



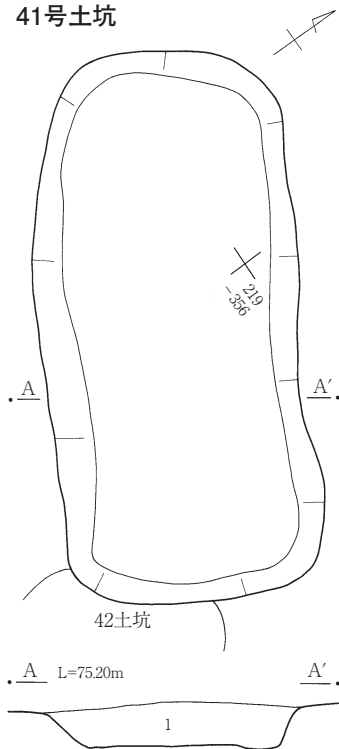
1 にぶい黄橙色ローム質土 (10YR6/3)

43号土坑



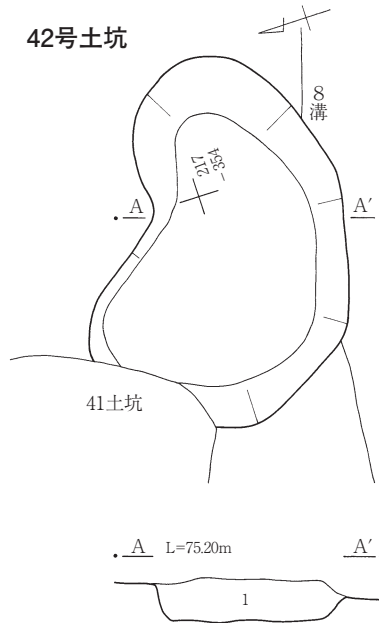
1 黒褐色砂質土 (10YR3/1)  
As-Bやや多く、地山褐色土粒をごくわずか含む。

41号土坑



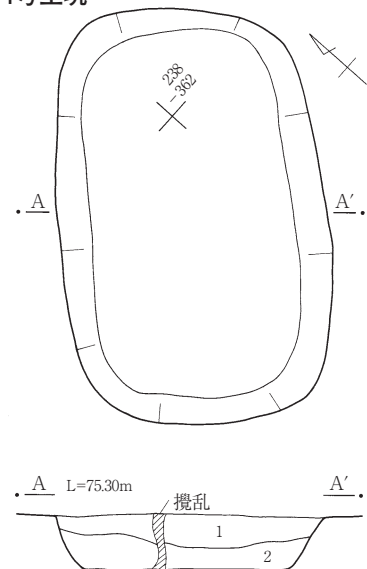
1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
粒子粗く、やや硬質。As-Bやや多く、φ2~5mmの小円礫をわずかに含む。

42号土坑



1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
粒子粗く、やや硬質。As-Bやや多く、φ2~5mmの小円礫をわずかに含む。

44号土坑

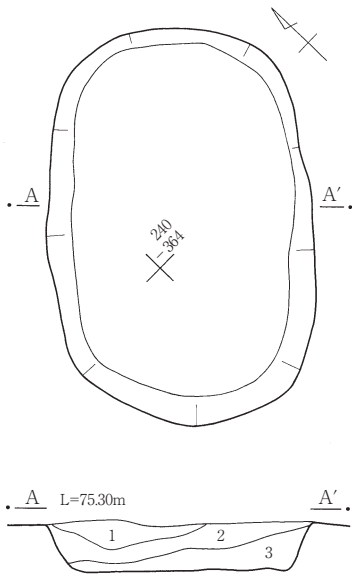


1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
As-Bやや多く、Hr-FAパミスとφ2~5cmの円礫をごくわずか含む。  
2 暗褐色砂質土 (10YR3/3)  
As-Bをわずか、φ2~5mmのローム粒、φ2~5cmの円礫をごくわずか含む。

0 1:40 1m

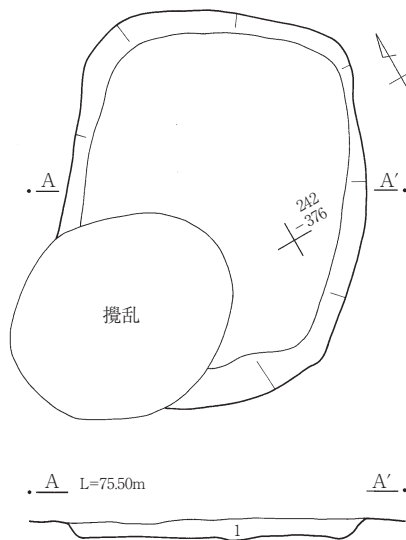
第124図 Ⅹ区38~44号土坑

45号土坑



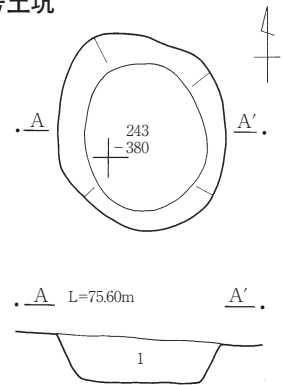
- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
As-Bやや多く含む。
- 2 黒褐色砂質土 (10YR3/1)  
As-Bやや多く、Hr-FAパミスごくわずかに含む。
- 3 暗褐色砂質土 (10YR3/3)  
黒褐色土粒やや多く、ローム粒をわずかに含む。

49号土坑



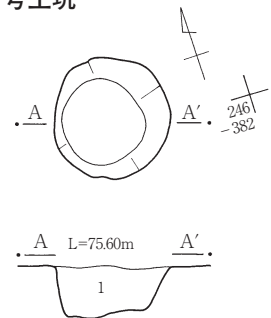
- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
As-B多く、φ10~20mmの円礫をわずかに含む。

50号土坑



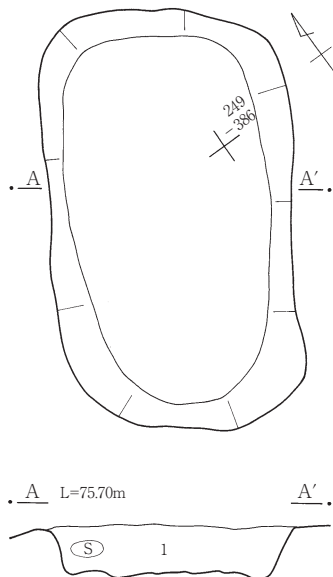
- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/1)  
やや硬い。As-B、φ5mm前後の小円礫をわずかに含む。

51号土坑



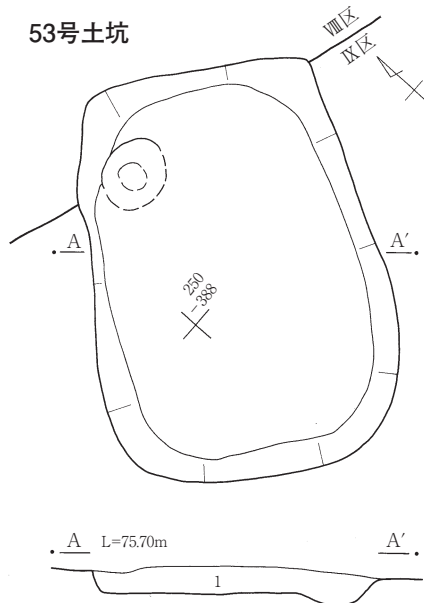
- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/1)  
やや硬い。As-B、φ5mm前後の小円礫をわずかに含む。

52号土坑



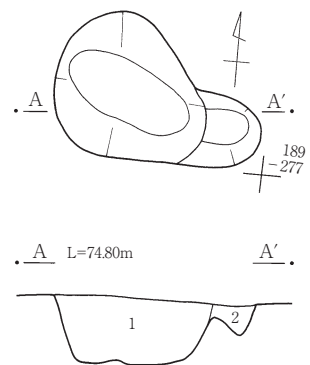
- 1 黒褐色砂質土 (10YR2/2)  
やや硬い。As-Bやや多く、Hr-FAパミス、φ1~10cmの円礫をわずかに含む。

53号土坑



- 1 黒褐色砂質土 (10YR2/2)  
やや硬い。As-Bやや多く、Hr-FAパミス、φ1~10cmの円礫をわずかに含む。

54号土坑

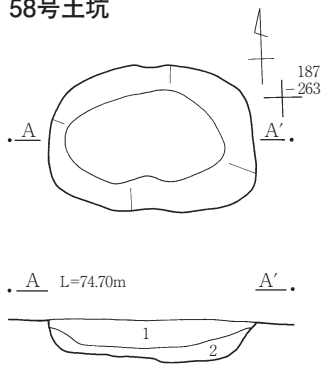


- 1 褐灰色砂質土 (10YR5/1)  
As-Bを多く含む。
- 2 褐灰色土 (10YR4/1)  
Hr-FAを含む。縮まりよく硬い。

0 1:40 1m

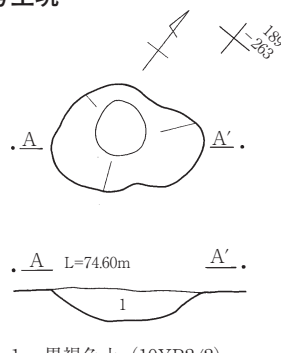
第125図 Ⅹ区45・49~54号土坑

58号土坑



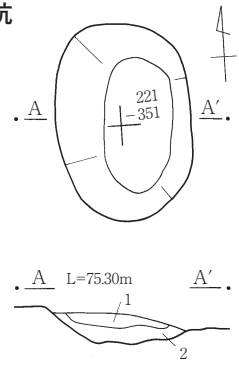
- 1 灰黄色砂質土 (2.5Y6/2)  
As-Bを多く含む。
- 2 灰黄色砂質土 (2.5Y6/2)  
炭化物を含む。

59号土坑



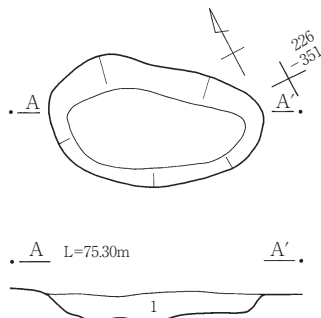
- 1 黒褐色土 (10YR2/2)  
Hr-FAを多く含む。

61号土坑



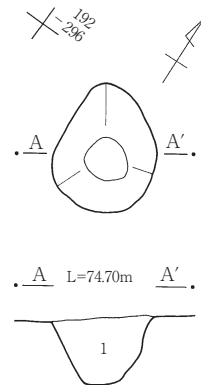
- 1 暗褐色砂質土 (10YR3/3)  
As-Bわずか、炭化物粒子とφ0.5~2cmの円礫をごくわずか含む。
- 2 黒褐色砂質土 (10YR2/3)  
As-Bとφ2~10mmのローム粒をわずか、炭化物粒を多く含む。

62号土坑



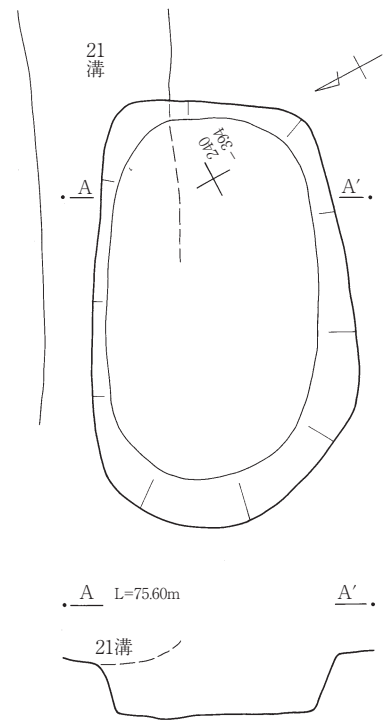
- 1 暗褐色土 (10YR3/3)  
やや多くの黒褐色土ブロック (φ5mm)とわずかな As-B、円礫 (φ1~2cm)を含む。

66号土坑

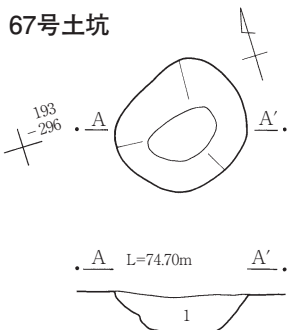


- 1 オリーブ黒色粘質土 (7.5Y3/1)  
As-C、Hr-FAを含む。

65号土坑

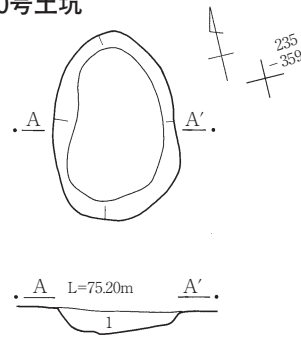


67号土坑



- 1 にぶい黄色ローム質土 (2.5Y6/3)

70号土坑

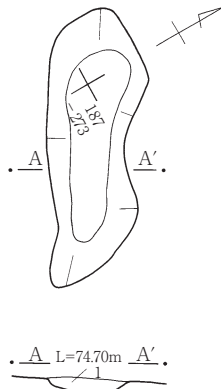


- 1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)  
As-Bをやや多く含む。



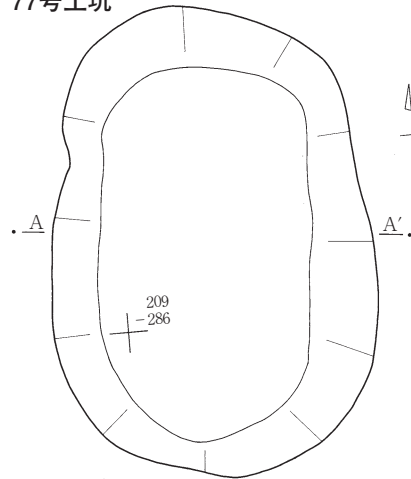
第126図 区区58・59・61・62・65~67・70号土坑

71号土坑



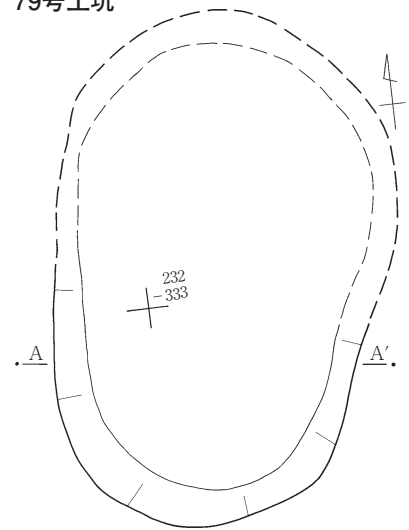
1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1)

77号土坑



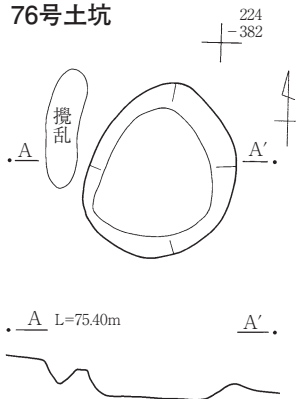
1 黒褐色土 (7.5YR3/2)  
2 黒褐色土 (7.5YR3/1)  
As-Bを少量、Hr-FAを多量に含む。

79号土坑

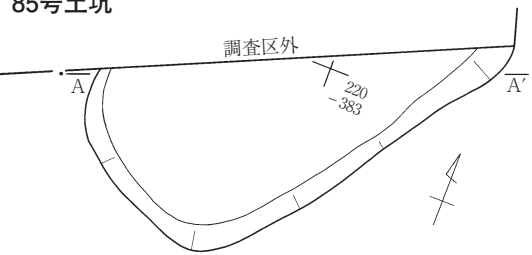


1 褐色砂質土 (7.5YR4/3)  
2 灰褐色砂質土 (7.5YR4/2)  
3 灰褐色土 (7.5YR4/2)  
いずれにもAs-B、Hr-FAを含む。

76号土坑

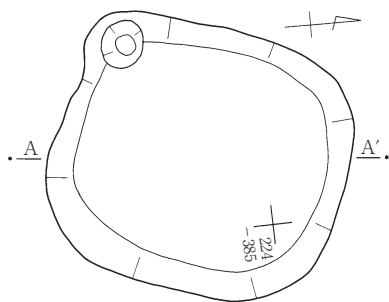


85号土坑

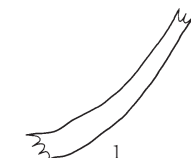
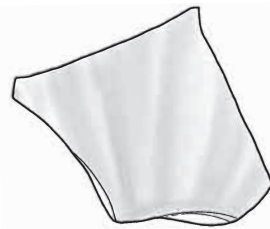


1 暗赤褐色軟質土 (5YR3/2)  
φ 1cmのロームブロックを少量含む。

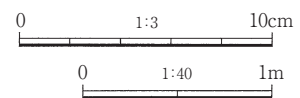
81号土坑



85号土坑出土遺物

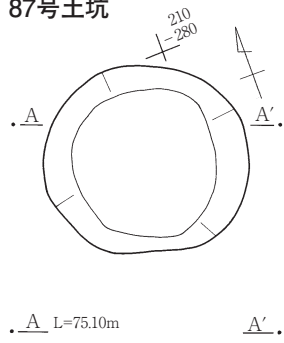


1 にぶい黄橙色ローム質土 (10YR7/4) 軟質。  
2 褐灰色土 (10YR4/1) 黒色土ブロックと1層との混土。Hr-FAを含む。  
3 浅黄橙色ローム質土 (10YR8/4) 粘質。

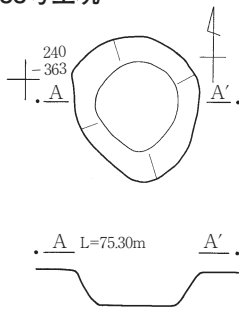


第127図 Ⅹ区71・76・77・79・81・85号土坑

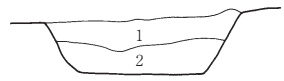
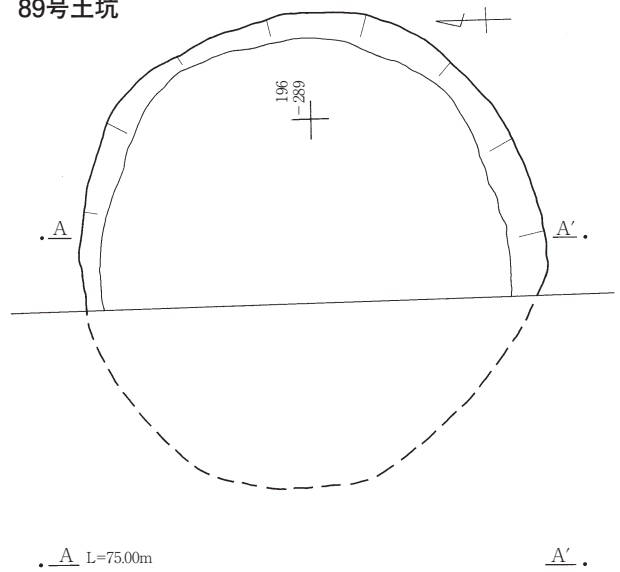
87号土坑



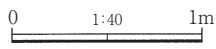
88号土坑



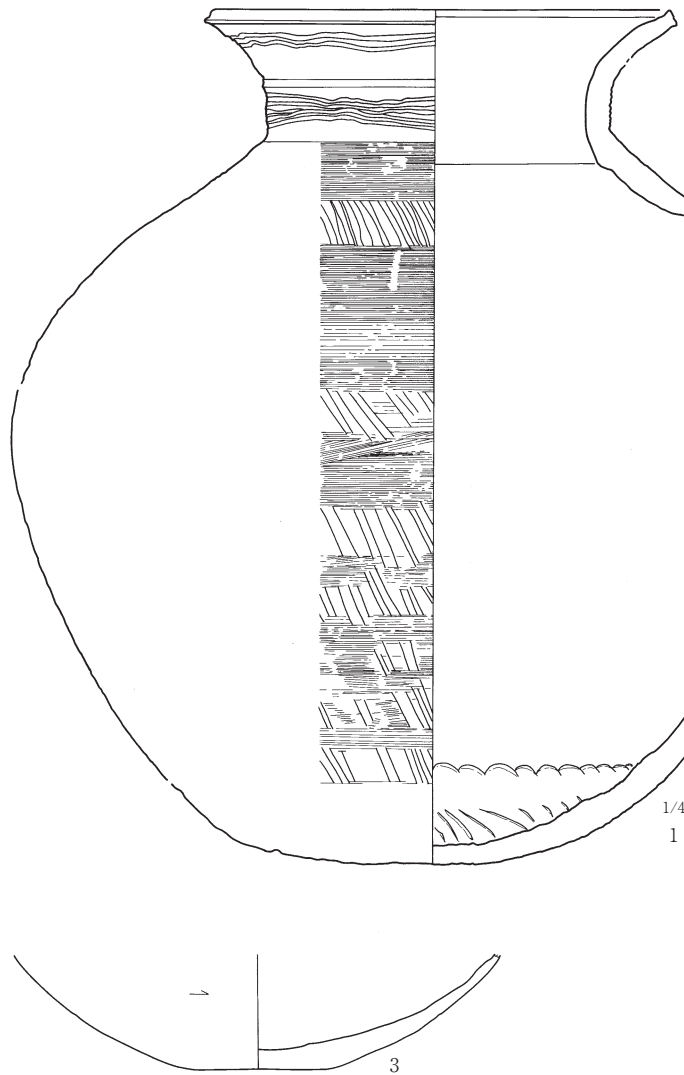
89号土坑



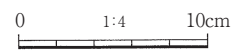
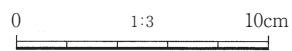
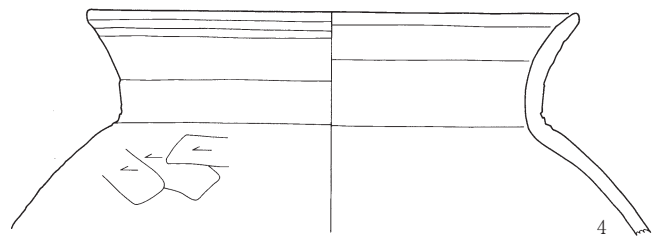
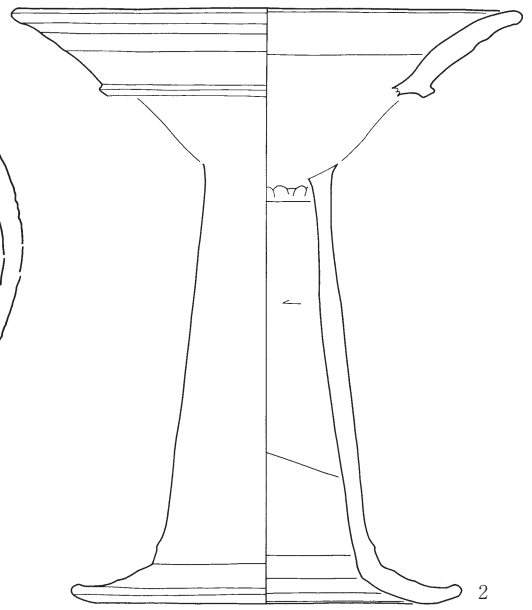
- 1 黒褐色土 (10YR3/2)  
Hr-FAを大量に含む。
- 2 明黄褐色ローム質土(10YR7/6)



89号土坑出土遺物



- 1 灰黄褐色ローム質土(10YR6/2)  
多量に土器片を含む。



第128図 Ⅹ区87~89号土坑

ら、近世以降のものが大部分を占めるとされる。

なお、89号土坑としたものはきわめて浅い凹みであるが、中から土器片が多く出土しているので、ここでは土坑として扱って報告する。削平されていることを考えれば、本来はかなり多くの数の土器片が伴っていたと考えられ、何らかの用途をもった遺構であったと思われる。その他土坑から出土した遺物は少ないが、本書では5号、27号、85号土坑から出土した中世陶器片を掲載した。

### 5 ピット

掘立柱建物の柱穴ではないピットは全域に少数散在するほか、調査区北西隅付近で比較的狭い範囲にまとまった数が見つかっている。それらの位置は付図に示した。径や深さなどの計測値は第12表の通りである。

単独で存在するピットはもちろんのこと、北西隅付近のピット群でも列をなしているものは把握できず、バラバラに存在しているため、これらのピットの性格は不明である。また、伴出遺物もないため、時期を特定することはできない。これらのうち、1～14号が調査区内に散在するピットであるが、そのうち5号と6号は4号掘立柱建物の中にあり、11号～14号は3号掘立柱建物の近くにある。直接の関係は明らかではないが、関連がある可能性があり、時期も近いものかもしれない。15～21号は北西隅にあるピット群である。比較的狭い範囲に7基あるが、深さ5cmと浅いものもある。

### 6 畠・耕作痕

Ⅷ区では畠跡や耕作の痕跡と思われるものは比較的少なく、報告できるのは1カ所のみである。1号畠（第129図）としたものは、Ⅷ区2号畠と同様、少数の長い溝が狭い幅の中に並んでいるタイプのものである。位置もⅧ区2号畠の南東方向延長線上にあり、関連がある可能性がある。長さ23m、幅3.5mの間に7～9本の細長い溝が並んでいる。断面を示した部分（A-A'とB-B'）では、深さ20cm

	位置	大きさ(cm)			備考
		長径	短径	深さ	
1	220-310	55	46	15	
2	205-335	70	62	15	7号溝と重複
3	200-325	63	62	13	
4	210-365	60	51	13	
5	240-370	69	48	10	4号掘立柱建物と重複
6	240-370	62	32	19	4号掘立柱建物と重複
7	240-390	50	42	42	
8	欠番				
9	185-270	37	35	28	
10	180-260	(72)	49	19	
11	230-380	47	40	21	
12	225-380	46	45	16	
13	225-385	29	27	22	
14	220-380	35	30	25	
15	250-390	41	32	16	
16	250-390	29	22	24	
17	245-390	32	29	18	
18	245-385	35	31	31	
19	245-390	29	28	27	
20	245-385	36	34	5	
21	245-385	32	24	23	

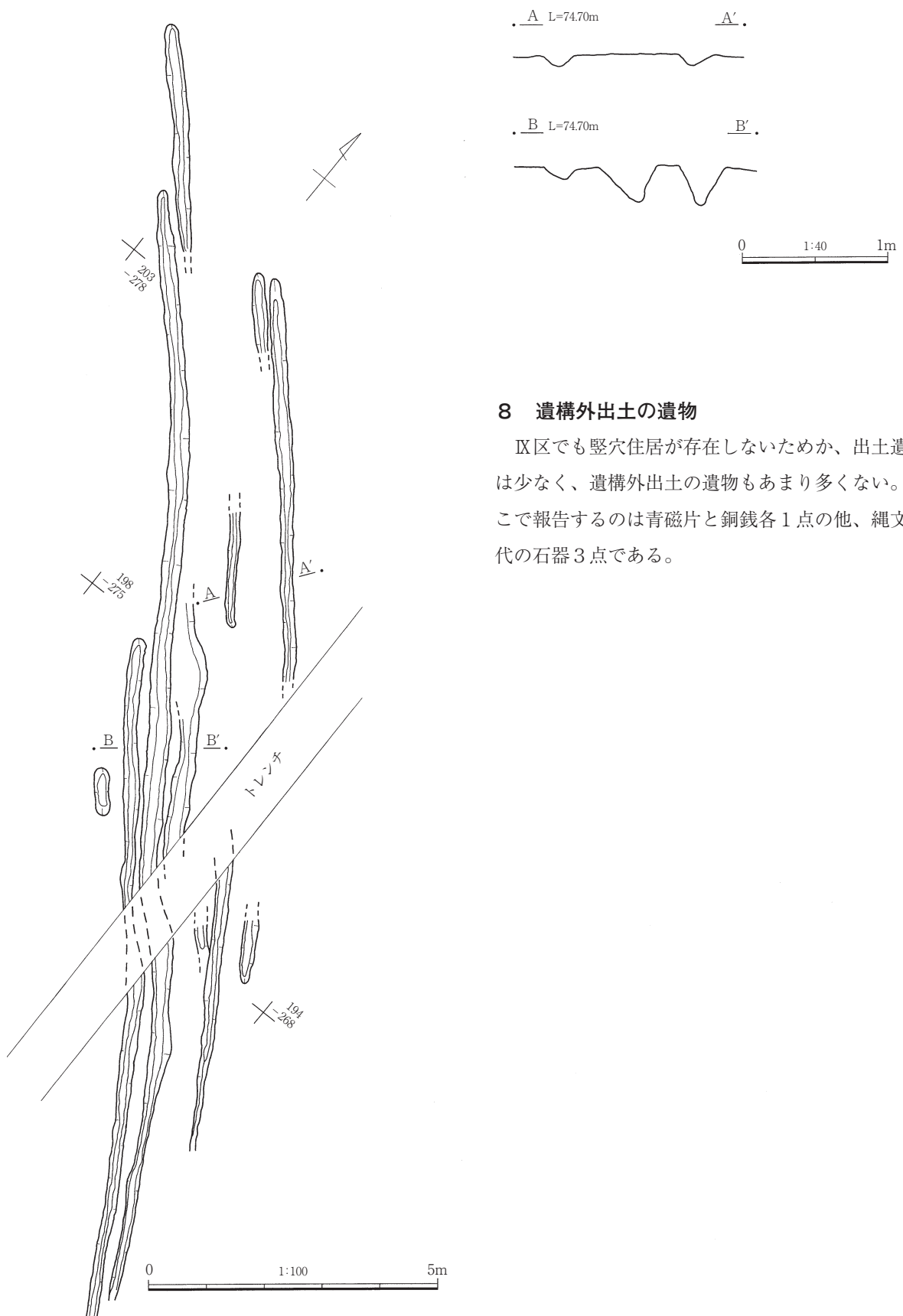
第12表 Ⅹ区ピット一覧表

と深いところもあるが、浅くなっているところも多く、断続的な残存状態である。このように深い部分があるのは、他の区の畠跡、耕作痕を含めても珍しく、この畠の特徴だと言えよう。

また、やや蛇行している部分もあるが、方向はほぼN-37°-Wである。16号溝で先述したように、この方向は16号溝と近いので、時期的に近接したものである可能性が考えられる。しかし、いずれからも伴出遺物がほとんど出土しないので、時期を特定することはできない。

### 7 旧石器確認調査

旧石器の確認調査は、Ⅷ区と同様に、10mおきに幅1mのトレンチを設定して行った（第106図）。トレンチの数は合計14本である。調査の結果、一部を除いて1～1.5mの深さで礫層となり、その間に旧石器文化層の堆積は確認できなかった。

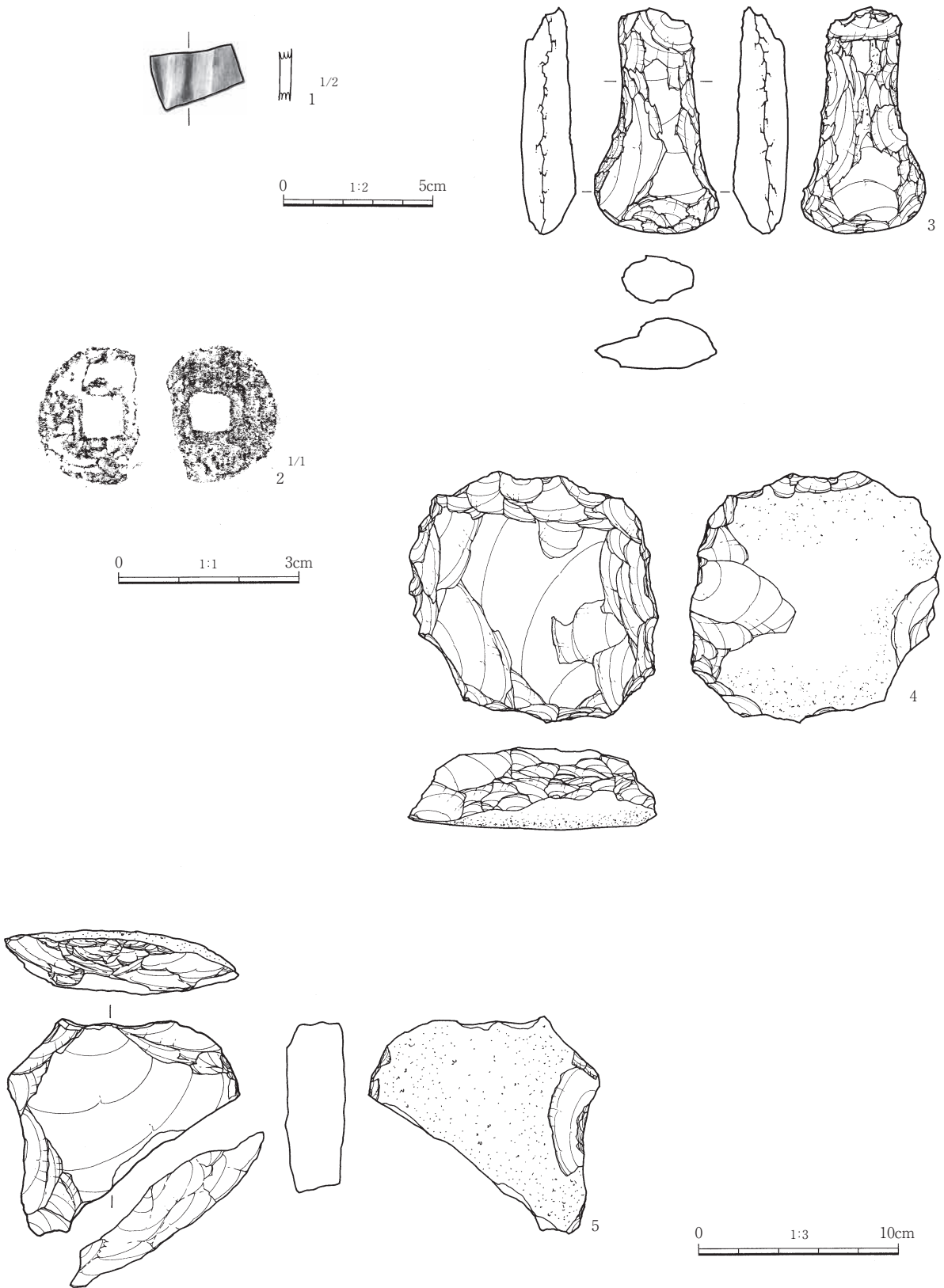


第129図 Ⅹ区1号畠

### 8 遺構外出土の遺物

Ⅹ区でも竪穴住居が存在しないためか、出土遺物は少なく、遺構外出土の遺物もあまり多くない。ここで報告するのは青磁片と銅銭各1点の他、縄文時代の石器3点である。





第130図 Ⅹ区遺構外出土遺物

## 第8章 西野原遺跡（4）

### 第1節 遺跡の概要

西野原遺跡（4）は西野原遺跡（3）Ⅷ・Ⅸ区の東に隣接する。「例言」で述べたように、この間にはかつて太田市と旧藪塚本町との境界線が通っていた。そのため、発掘調査当時は西側を「藪塚西野原遺跡」、東側を「西長岡横塚遺跡群」と、別の遺跡として扱っているが、この境界線上には地形の不連続などはないので、遺跡の内容は一連のものであり、溝などの遺構は連続している。ここではⅠ～Ⅲ区の3区に分けて調査を行った。

調査対象地は扇状地東端となり、一部低地にかかる部分にあるので、遺構が少ないところがあるものと予想された。そこで平成12年度に当時用地取得が完了した部分にトレンチを入れ、範囲確認調査を行ったところ、予想通り遺構が存在しないことが確認された。それはⅡ区とした部分の中央部であり、その後南側、北側でもトレンチ調査を行い、遺構が

ないことを確認したので、このⅡ区については全面調査を行わないこととした。Ⅰ区・Ⅲ区では遺構が確認されたため、全面調査を行っている。

調査開始前の土地利用の状況は宅地と畑地である。現況はほぼ平坦であるが、旧地形は中央に東西方向の浅い谷が入っている。そのため、北と南が高く、さらに全体として西から東に向かって緩やかに下がる地形である。

調査の結果確認された遺構は、竪穴住居1軒、溝18条、土坑28基、畠跡1カ所である。また、この区では遺構に伴わずに土器が多数出土しているので、一括して「遺構外出土」として報告する。

また、Ⅷ区と同じように、この区からも多くの鉄滓が出土している。特に多いのは16号溝であるが、その他の遺構からも少なからず出土している。それらは第10章でまとめて取り上げることにする。

### 第2節 調査の成果

#### 1 竪穴住居

竪穴住居は調査区北端で1軒のみ調査している。Ⅷ区の部分で述べたように、同時代の集落が北側にあり、この住居はその一部をなしているものと思われる。

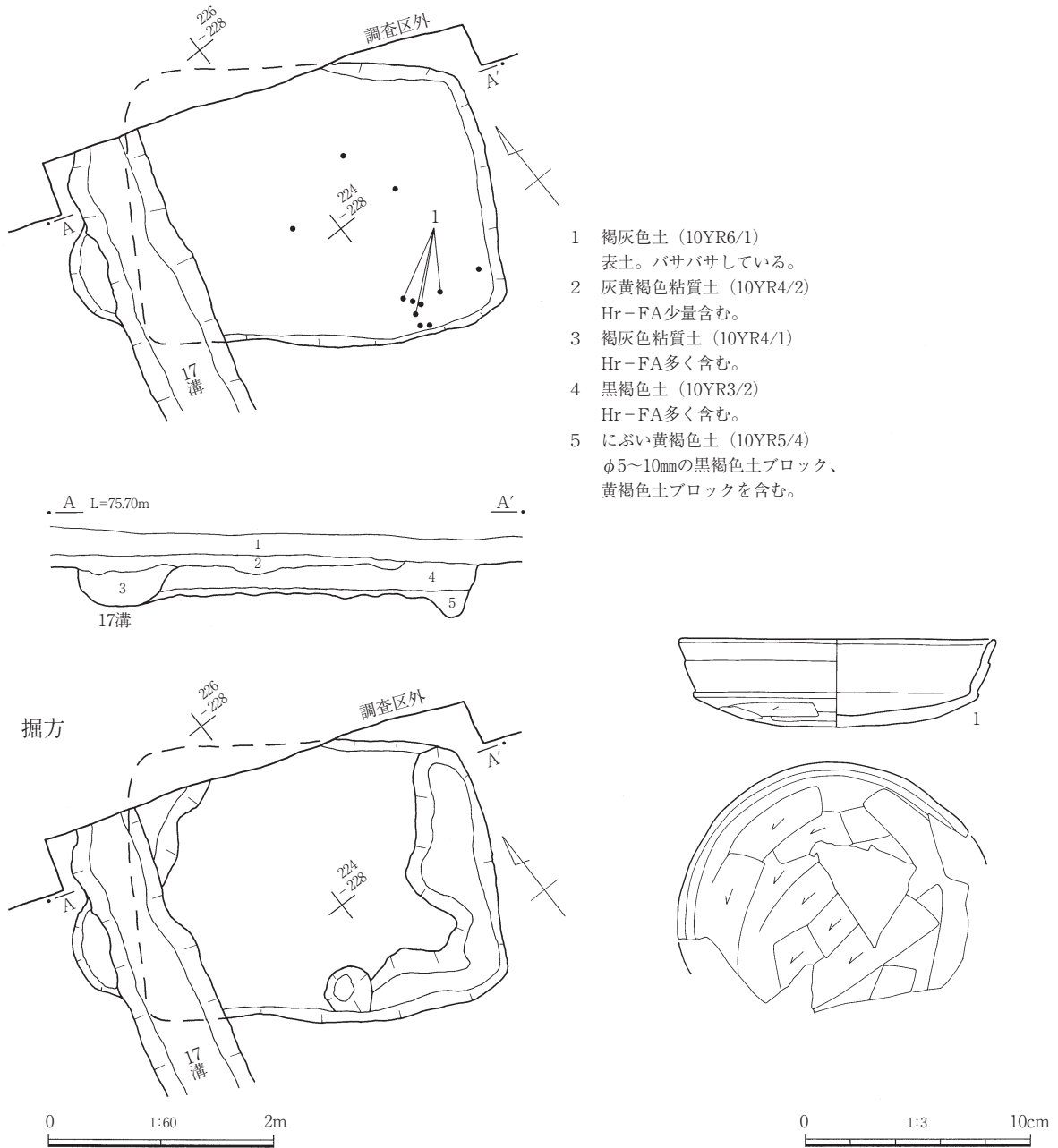
##### 1号竪穴住居（第131図、PL.35）

調査区北端の中央付近にある小型の住居であり、一部が調査区外となる。竈は溝によって破壊されたらしく、調査区内では確認できていない。その他、柱穴・貯蔵穴・周溝など、住居内の施設も一切確認できなかったが、これは住居が小型であるためかもしれない。

**位置：**X = 28222~226、Y = -45226~230。**重複遺**

**構：**西端に17号溝が重複している。この溝の方が新しく、住居の西隅と北西壁を破壊している。**形態：**北西壁が破壊されているので全形は不明であるが、長方形であると思われる。**方位：**竈の位置が分からないので主軸方向を確定できないが、北西壁にあるものと想定して、N-54°-Wである。**規模：**(3.20)m × 2.50m。**床面積：**5.8㎡。**壁高：**24cm。**床面：**掘方は南東側と北西側の壁際が深く掘られている。そこ以外は平坦であるが、それをロームブロックを含んだにぶい黄褐色土で埋め戻して床面を作っている。床面中央付近の掘方の深さは5~6cmである。**柱穴：**確認できなかった。**貯蔵穴：**確認できなかった。**周溝：**確認できなかった。**竈：**確認できなかった。17号溝で破壊された西壁にあった可能性が高いもの

と考えられるが、住居覆土にも焼土が見られず、推定の根拠に乏しい。**遺物**：量は少ないが、南隅を中心として出土している。報告できる個体は1点だけで、土師器坏である。**時期**：出土遺物から6世紀前半のものと思われる。



第131図 西野原遺跡 (4) 1号住居出土遺物

## 2 溝

溝は合計18条調査した。これらの溝の走行方向には、まず大まかに分けて次の2種類がある。4号、6号、7号、14号溝のように、互いに直角に交わる方向になるものと、それとやや方向を違えた、9号溝南半部・10号溝とである。前者には5号、11号、12号、15号も入り、後者の方向と同じ遺構には1号畠がある。両者の関係は不明瞭である。さらに、北にある2号溝や、下層の16号、18号溝はそれぞれ方向がやや異なる。この地区では区画方向が多少変化したようである。

これらの溝はいずれも浅く、4号溝を除いて流水の痕跡がないので、他の区の多くの溝と同様、区画溝であると思われる。時期は、埋土の特徴などから近世以降のものが大部分だと思われるが、16号～18号溝は下層の調査で見つかったので、それよりは遡る。このうち16号溝からは鉄滓が多量に出土した。鉄滓以外の出土遺物は少ないが、2号、7号溝からは銅銭が出土している。

## 3 土坑

土坑は合計28基調査した。その分布は、谷の底面にあたる調査区中央部には少なく、南北の高い部分に多い傾向がある。

この区の土坑の特徴は、他の区のように整った長方形の土坑が少ないことと、21号、22号土坑のように多くの遺物を出土する土坑があることである。特に細長い、いわゆる「芋穴」と思われるものは全く見られない。また、遺物が多く出土する土坑があるのは、遺構外からも多くの遺物が出土することと関連すると思われる。後述するように、西野原遺跡（4）では竪穴住居等は少ないものの、遺構外から遺物が出土しており、それらが土坑埋土に含まれたと考えることができる。

6号土坑は調査区北東部にある大きな不整形の土坑である。2号、3号溝と重複し、この土坑が古い。埋土には多くの礫を含んでいたが、確認面から1m

番号	規模 (m)			備考
	検出長	幅	深さ	
1	8.00	0.19～0.30	0.07	
2	36.90	0.55～1.60	0.14	VII - 27溝と接続、6坑と重複
3	5.10	0.56～0.70	0.13	6坑と重複
4	25.40	0.65～2.08	0.31	VIII - 42溝と接続
5	14.40	0.40～0.60	0.09	
6	20.80	1.08～1.45	0.16	
7	28.00	0.90～2.00	0.23	
8	8.20	0.65	0.24	
9	10.70	0.50～1.21	0.14	VIII - 29溝と接続
10	14.20	0.45～1.15	0.12	
11	20.90	0.38～0.50	0.06	
12	23.70	0.22～0.42	0.07	
13	28.40	0.26～0.50	0.05	
14	30.70	0.45～0.70	0.07	
15	15.10	0.26～0.50	0.06	
16	12.90	0.95～3.00	0.11	18・40・41坑と重複
17	3.35	0.56～1.00	0.31	1住より新
18	4.30	2.05～2.60	0.13	

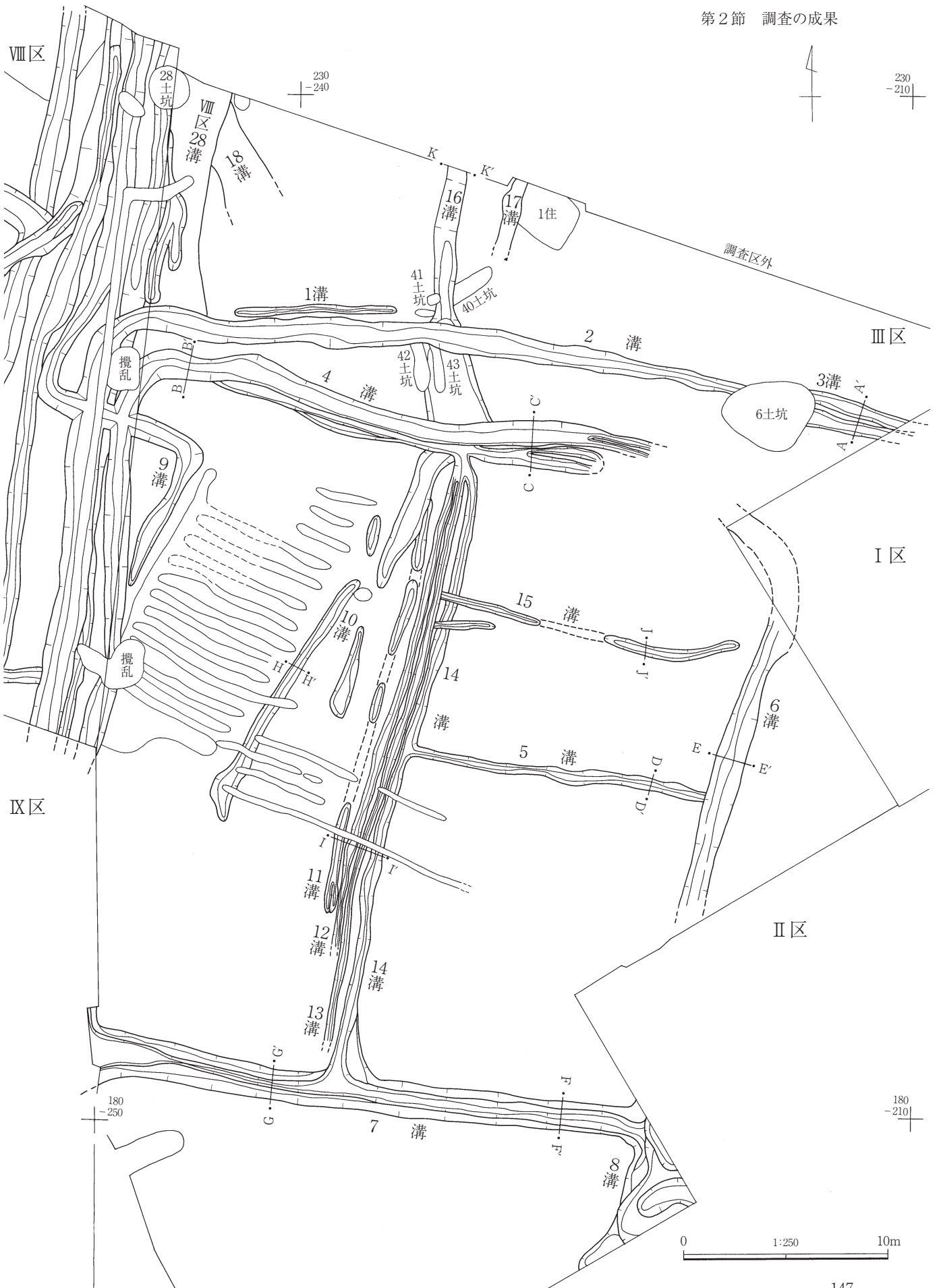
第13表 西野原遺跡（4）溝一覧表

程度掘り下げた時点で湧水が激しくなり、それ以下には発掘できなかった。断面を見ると漏斗状に広がる形である。深さが分からないので断定はできないが、井戸である可能性がある。

18号土坑は調査区北側中央にある円形の土坑で、壁が急角度であり、深さ140cmと比較的深いものである。このように深い土坑も他の区ではほとんど見られないが、この区ではこの他に21号、28号土坑などがある。これらの土坑の性格は明確にはできないが、地下水面の高い時期であればある程度水が溜まり、井戸として使用できると思われる。この土坑の埋土からは鉄滓が出土している。

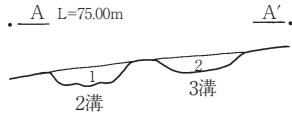
21号土坑は調査区中央の谷の底面にある円形の土坑である。壁が急角度であり、深さ1.95mと深く、井戸の可能性が高い。埋土からは土器が比較的多く出土した。報告するのは、土師器高坏2、土師器坏3、手捏ね土器3、土師器甕1である。その中で6～8の3点の手捏ね土器が出土していることが注目される。この遺構が井戸であるという推定が正しければ、水に関わる何らかの祭祀的意味合いがあるものかもしれない。

22号土坑も調査区中央の谷の底面にある、やや不



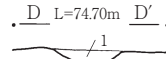
第132図 西野原遺跡(4)溝

2・3号溝



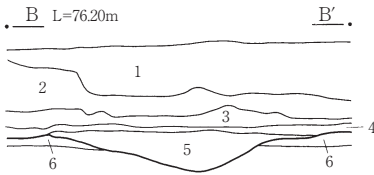
- 1 黒褐色土 (10YR3/2)  
白色軽石粒わずか、炭化物ごくわずか含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3)  
白色軽石粒わずか、炭化物ごくわずか含む。

5号溝

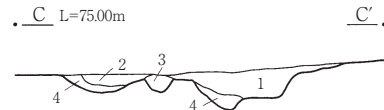


- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2)  
粒子やや粗く砂質。黒褐色土ごくわずか含む。

4号溝



- 1 明黄褐色土 (10YR6/8)  
住宅盛土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4)  
住宅盛土。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2)  
φ5mm以下の小石、乳白色軽石ごくわずか含む。やや硬い。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4)  
粒子やや粗く、やや締まり悪い。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3)  
粒子やや粗く、やや締まり悪い。炭化物粒子わずかに含む。
- 6 黒褐色土 (10YR3/1)  
φ1~2mmの暗褐色土粒、Hr-FAパミスわずかに含む。粒子やや粗く、やや締まり悪い。

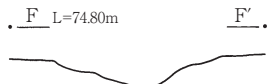


- 1 暗褐色土 (10YR3/3)  
砂の多い部分があり、流水のあった可能性がある。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2)
- 3 黒褐色土 (10YR3/2)  
黒色土ブロックをわずかに含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3)  
黒褐色土ブロックを含む。

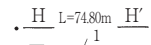
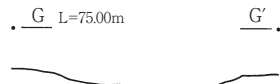
6号溝



7号溝

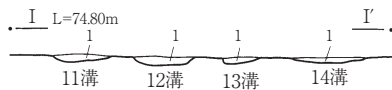


10号溝



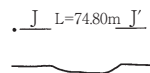
- 1 褐灰色土 (10YR6/1)  
暗黄褐色粘質土ブロックを含む。

11~14号溝

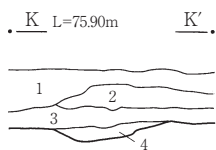


- 1 褐灰色土 (10YR6/1)  
暗黄褐色粘質土ブロックを含む。

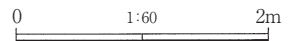
15号溝



16号溝



- 1 家屋基礎の礎
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR5/3)  
堅く締まる。白色軽石粒わずかに含む。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
粒子やや粗く、砂質。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3)

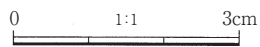
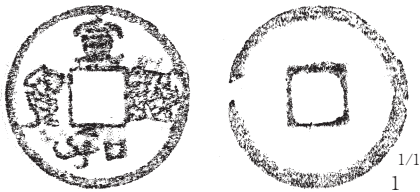


第133図 西野原遺跡（4）溝断面

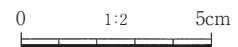
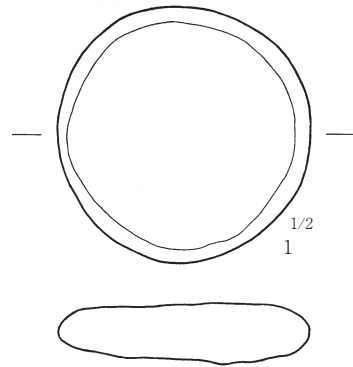
2号溝出土遺物



7号溝出土遺物



17号溝出土遺物



第134図 西野原遺跡(4) 2・7・17号溝出土遺物

整な円形の土坑である。前述の18号、21号よりも浅いが、やはり壁が急角度に掘られている。深さは85cmである。この深さでは地下水面に達しないかもしれないので、井戸の可能性はやや低いが、21号土坑と同様、比較的多くの土器が出土している。報告するのは、土師器坏4、土師器の大型の坏1、須恵器壺1、須恵器甕1である。21号土坑のような手捏ね

土器は出土していない。

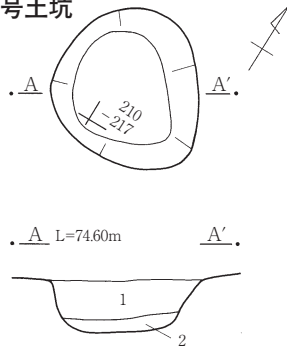
28号土坑は調査区北西隅にある円形の土坑で、一部西野原遺跡(3) VIII区にかかってしまう。VIII区41号溝と重複している。この土坑も壁が急傾斜で、深さも2.33mと深い。その形状から井戸の可能性が高いと思われる。遺物は出土していない。

番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	備考
1	200-215	N-61°-E	59×(34)×26	
2	欠番			
3	210-200	N-88°-W	584×233×76	
4	欠番			
5	200-210	N-32°-W	48×(22)×33	
6	210-210	N-66°-W	384×356×(74)	VIII-27・3溝と重複
7	欠番			
8	170-230	N-53°-E	225×210×40	
9	220-220	N-27°-W	80×68×23	
10	220-215	N-73°-W	98×(80)×18	
11	欠番			
12	215-205	N-28°-W	112×72×27	
13	欠番			
14	225-240	N-17°-E	(72)×67×11	
15	欠番			
16	欠番			
17	210-220	N-13°-W	88×60×19	
18	215-230	N-47°-E	142×130×140	16溝と重複
19	215-230	N-74°-W	100×64×19	
20	210-225	N-37°-W	246×130×48	
21	205-225	N-10°-W	302×280×195	
22	200-220	N-17°-E	114×130×85	

番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	備考
23	200-205	N-22°-E	280×148×41	
24	欠番			
25	175-220	N-19°-W	94×86×38	
26	欠番			
27	220-235	N-10°-E	140×114×11	
28	225-245	N-37°-W	224×198×233	VIII-41溝と重複
29	185-245	N-20°-E	63×60×5	
30	180-245	N-14°-E	114×80×24	
31	185-240	N-69°-W	82×75×15	
32	185-240	N-6°-E	120×106×14	
33	180-240	N-51°-W	302×290×20	
34	欠番			
35	欠番			
36	欠番			
37	欠番			
38	欠番			
39	欠番			
40	220-230	N-56°-E	(228)×77×20	16溝と重複
41	215-230	N-89°-W	(91)×25×4	16溝と重複
42	215-230	N-12°-W	(229)×80×23	VIII-27・16溝と重複
43	215-230	N-12°-W	(238)×45×23	VIII-27・16溝と重複

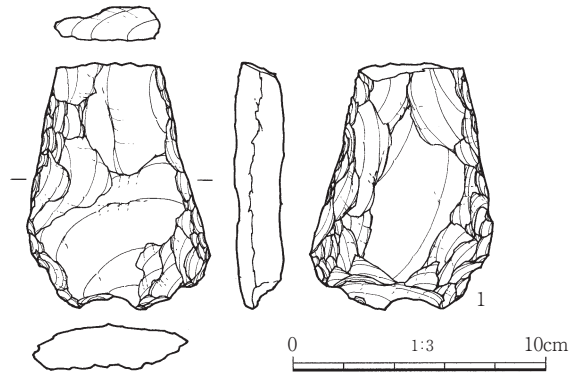
第14表 西野原遺跡(4) 土坑一覧表

1号土坑

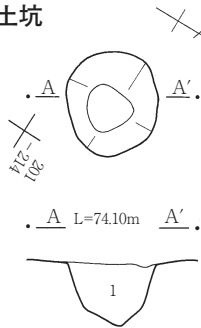


- 1 褐灰色土 (10YR5/1)  
しまり弱く、パサパサしている。
- 2 炭化物の層

3号土坑出土遺物

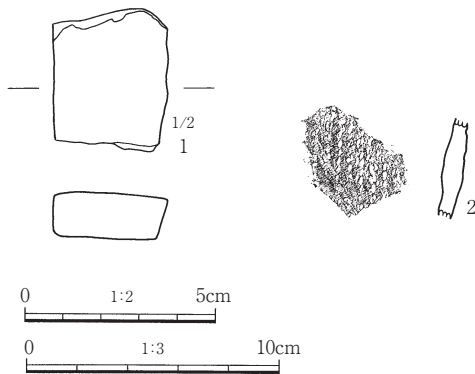


5号土坑



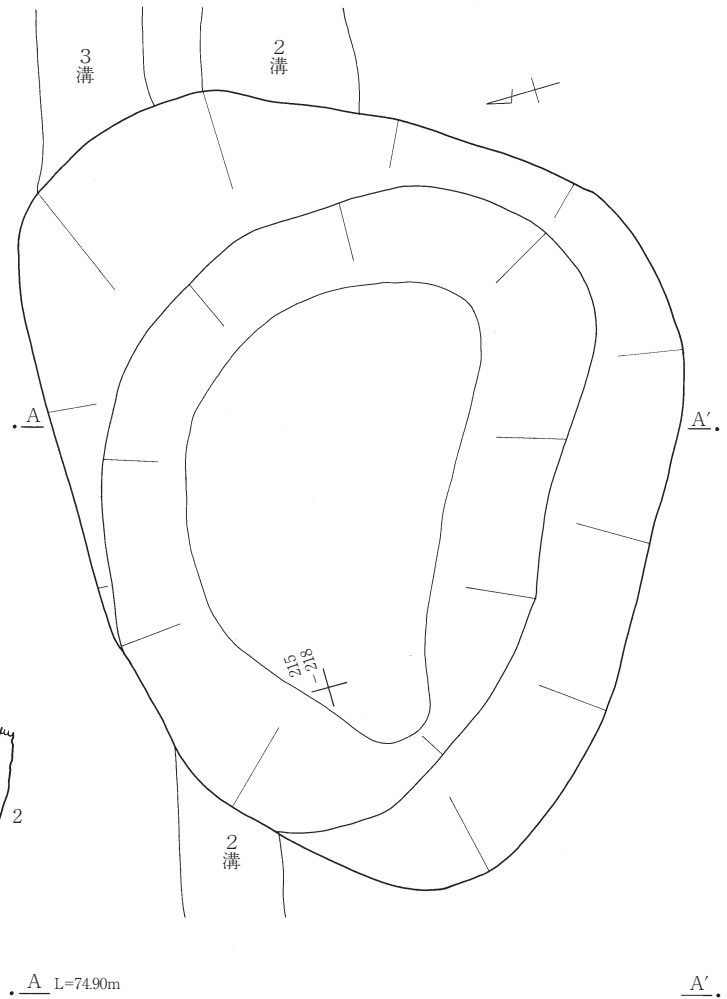
- 1 褐灰色砂質土 (10YR5/1)  
粘性をもつ。As-Bを含む。

6号土坑出土遺物



- 1 (3号溝) 黒褐色土 (10YR3/2)  
白色軽石わずか、炭化物粒ごくわずか含む。
- 2 (2号溝) 暗褐色土 (10YR3/3)  
白色軽石わずか、炭化物粒ごくわずか含む。
- 3 におい黄褐色土 (10YR4/3)
- 4 黒褐色土 (10YR3/2)  
粒子粗い。φ 5 ~ 15cmの円礫を上層にやや多く含む。湧水のため完掘できない。

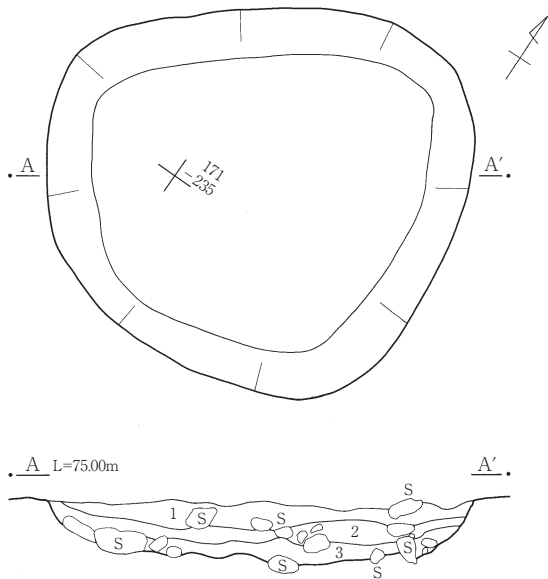
6号土坑



第135図 西野原遺跡(4) 1・5・6号土坑

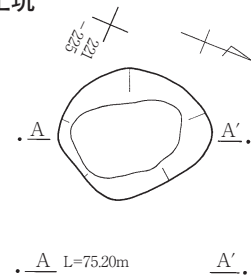


8号土坑



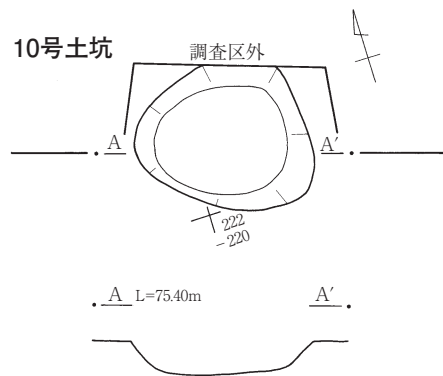
- 1 明黄褐色砂 (2.5Y7/6)  
φ1mmの砂粒を主体とし、φ1~10cmの円礫をやや多く含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3)  
φ1~10cmの円礫わずかに含む。
- 3 褐色土 (10YR4/6)  
ローム粒子を主体とし、φ5~20cmの円礫を多量に含む。

9号土坑

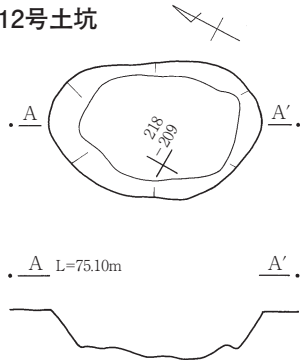


- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
やや締まり悪い。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
炭化物粒子わずかに含む。粒子やや細かい。

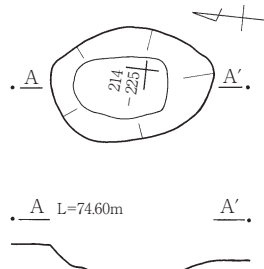
10号土坑



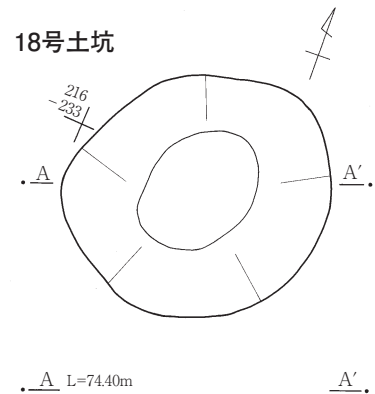
12号土坑



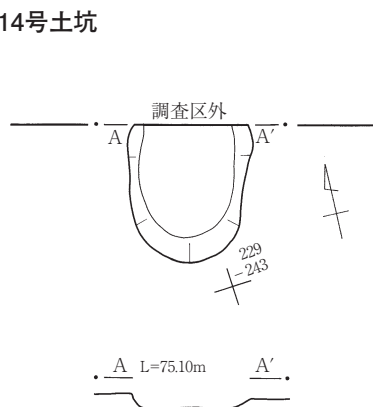
17号土坑



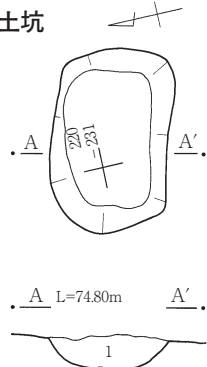
18号土坑



14号土坑

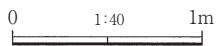


19号土坑



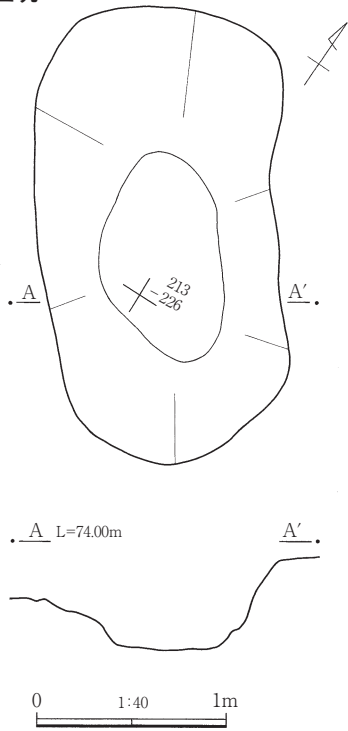
- 1 にぶい黄褐色ローム質土 (10YR7/4)  
炭化物を多量に含む。土坑底面は焼けていない。

- 1 As-Bと思われる砂層
- 2 暗灰色粘質土 (2.5Y5/2)  
層中から鉄滓を出土する。

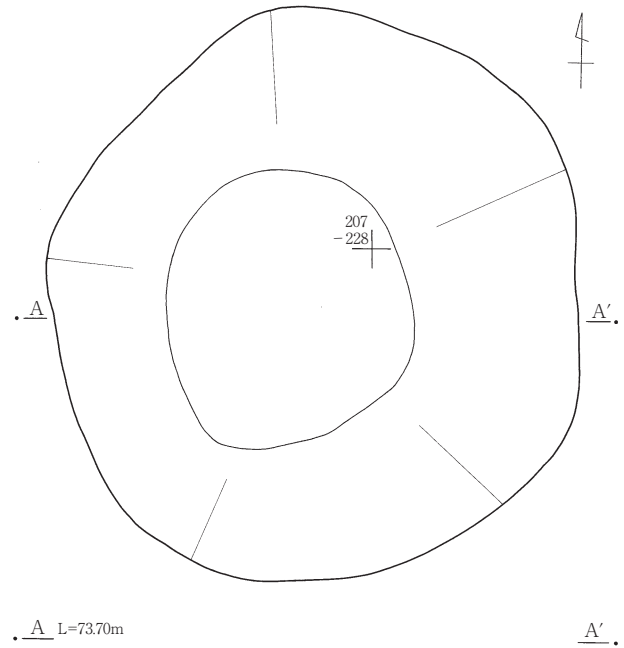


第136図 西野原遺跡 (4) 8~10・12・14・17~19号土坑

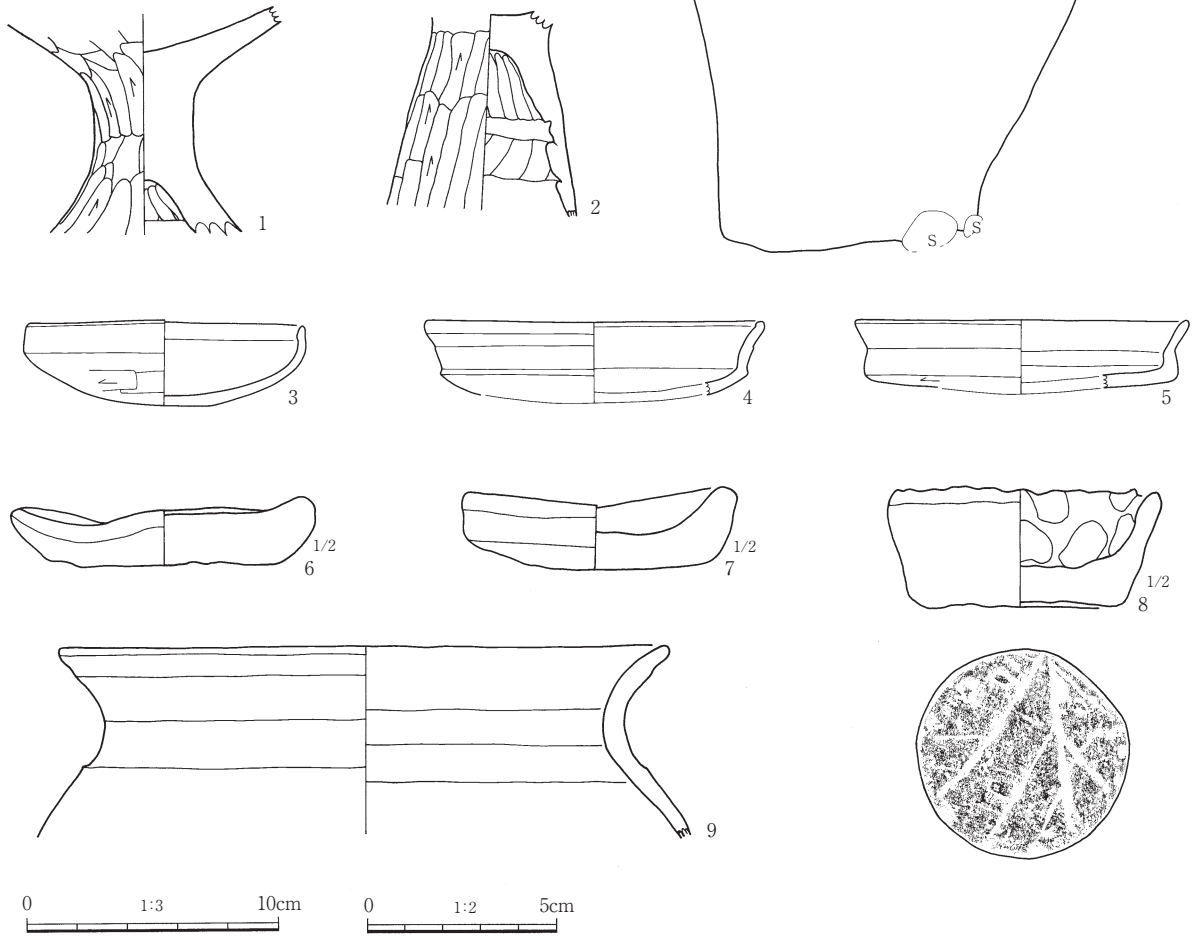
20号土坑



21号土坑



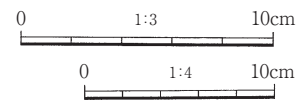
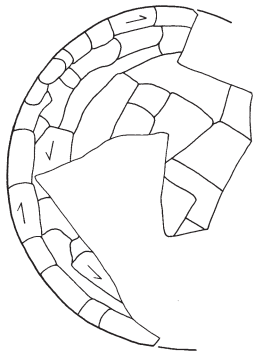
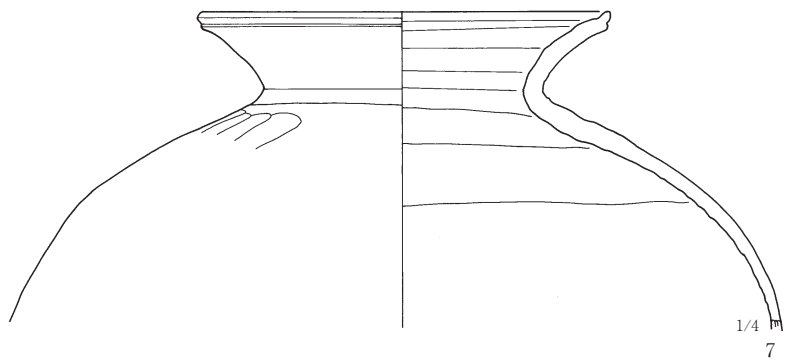
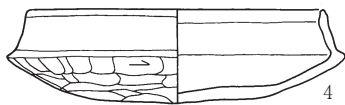
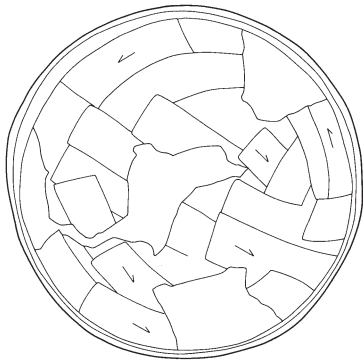
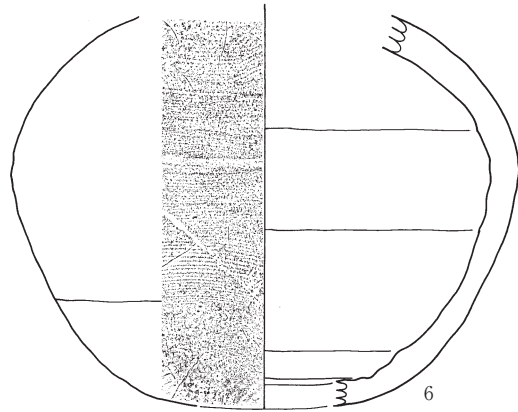
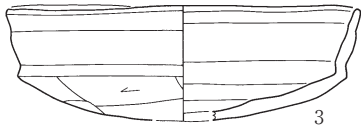
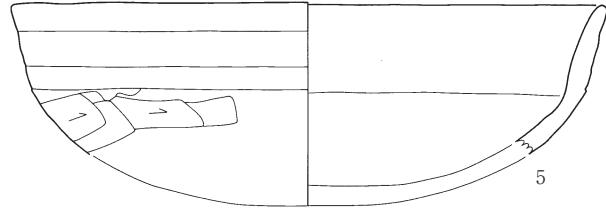
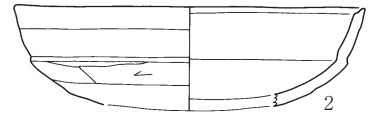
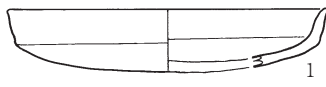
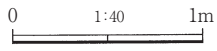
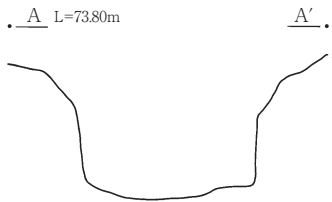
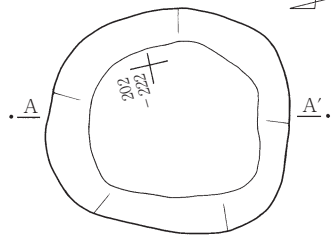
21号土坑出土遺物



第137图 西野原遺跡(4) 20・21号土坑

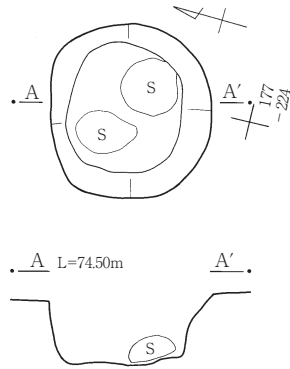
22号土坑

22号土坑出土遺物

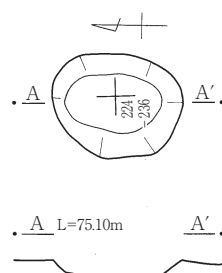


第138図 西野原遺跡 (4) 22号土坑

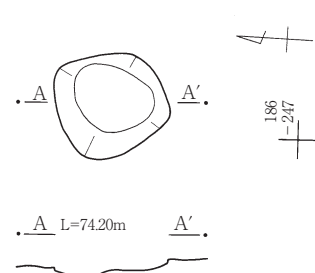
25号土坑



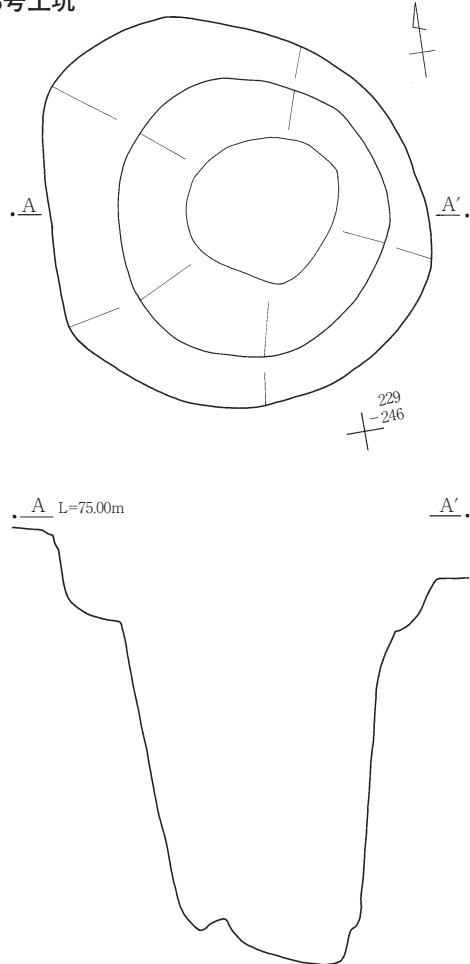
27号土坑



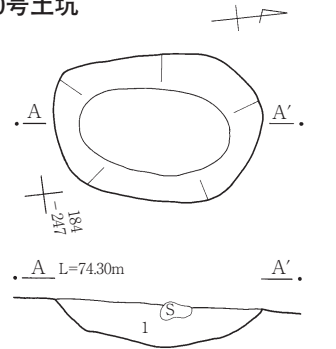
29号土坑



28号土坑

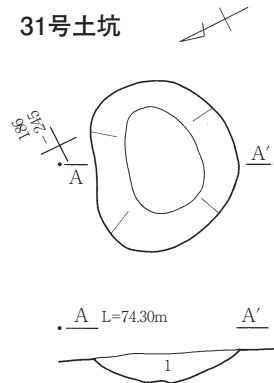


30号土坑



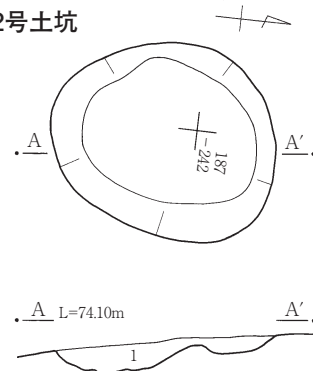
1 にぶい黄色砂質ローム土 (2.5Y6/3)

31号土坑

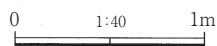


1 灰黄褐色ローム質土 (10YR5/2)  
軟質。炭化物を含む。

32号土坑

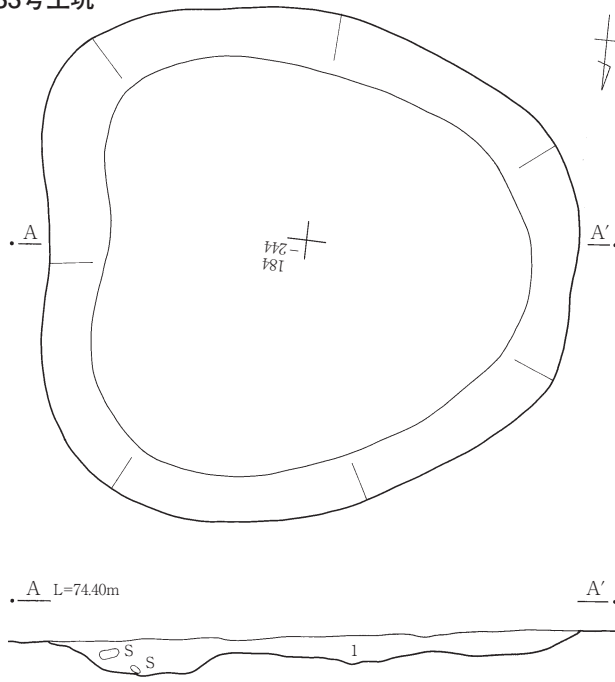


1 にぶい黄色砂質ローム土 (2.5Y6/3)



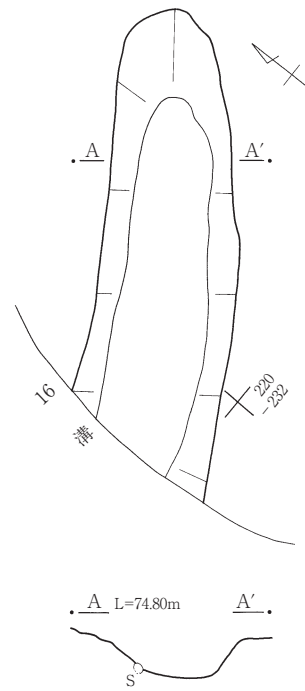
第139図 西野原遺跡(4) 25・27~32号土坑

33号土坑

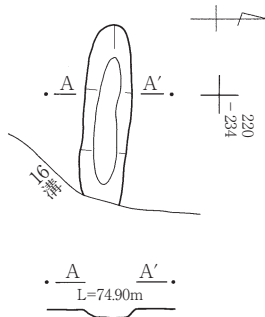


1 にぶい黄橙色ローム質土 (25Y6/3)

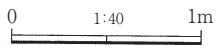
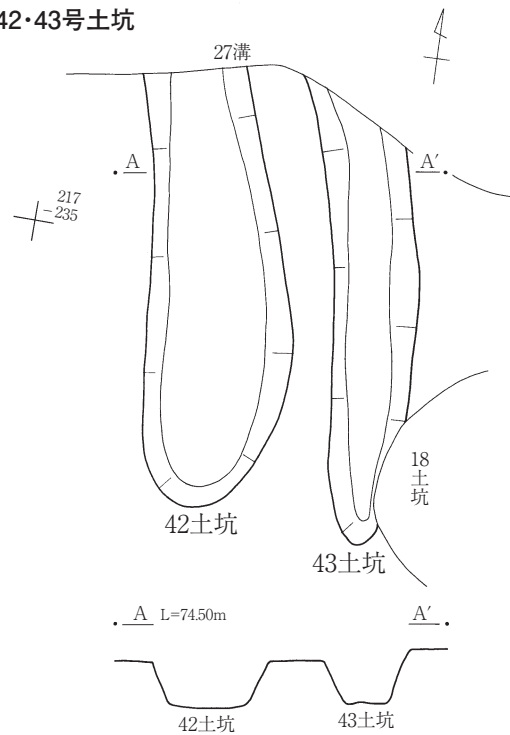
40号土坑



41号土坑



42・43号土坑



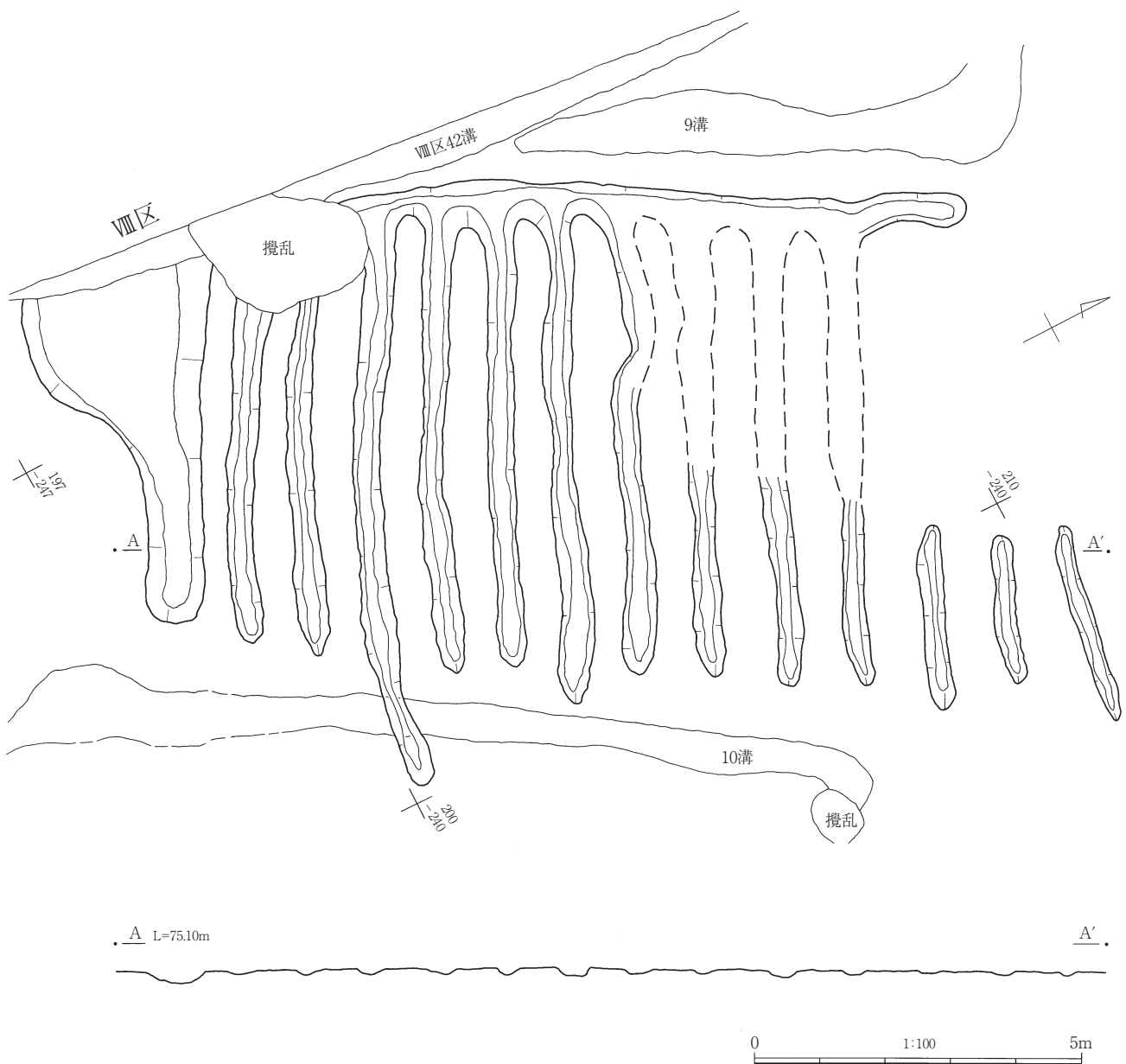
第140図 西野原遺跡 (4) 33・40~43号土坑

4 畠

畠と思われる遺構は調査区西側中央部で見つかり、これを1号畠と名付けた。

この畠は18m×10m程の範囲の中に14本の畝間の溝が見られるものである。ただし、最も南側の1本は幅が広いので、これは畝間ではないかもしれない。残存状態は悪く、北側では削平されている部分があり、ここでは溝が途切れた状態になっている。このため、本来はもう少し北側まで広がっていたかもしれない。

畝間の溝は幅30~40cmで、深さは深くても15cm程度であり、それらが50~70cmの間隔を空けて並んでいる。西側には直角方向の溝があり、それぞれの畝間はその溝につながっている。つまり、櫛の歯状の形態となっている。畝の方向は「2 溝」で述べたように、9号溝南半や10号溝と同じで、周囲にある多くの溝とは異なっている。時期は出土遺物などがなく不明である。



第141図 西野原遺跡（4）1号畠

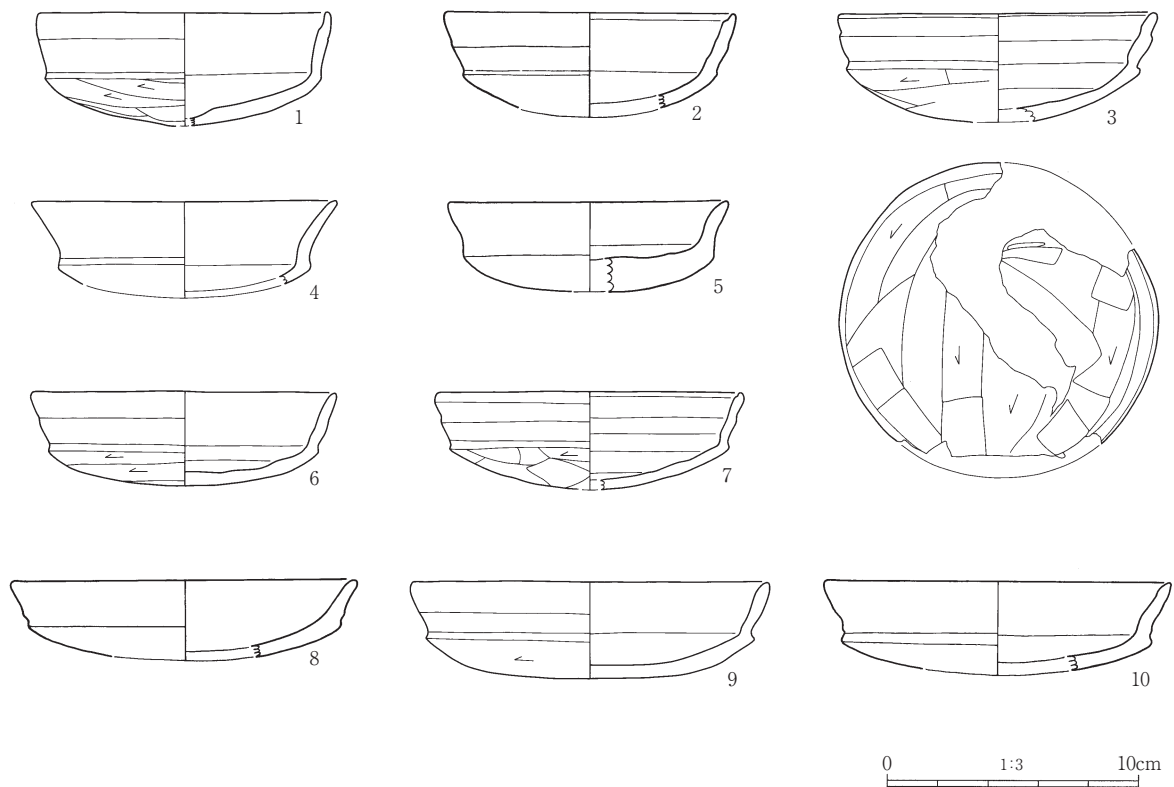
5 遺構外出土の遺物

西野原遺跡（4）では堅穴住居などの遺構が少なかったにもかかわらず、遺構外から数多くの遺物が出土している。それは、土器片が集中して出土した部分が何か所かあったことによるものである（PL.38）。しかしこれらの集中部は、輪郭を線で示せるほど明瞭なものではなく、やや散漫な分布を示すものであった。そのため、遺物を取り上げる際はグリッド単位で取り上げた。このように土器が多く出土する要因は明らかにしがたいが、ちょうどこの区の位置が集落遺跡の南端部に当たり、浅い谷が入っていることと関係するのかもしれない。その際、集落のある平坦部からこの谷へはやや急な傾斜があるので、ここに向かって土器を廃棄したか、あるいは、何らかの理由でここに置いたのではないかと考えられるが、断定する根拠には乏しい。

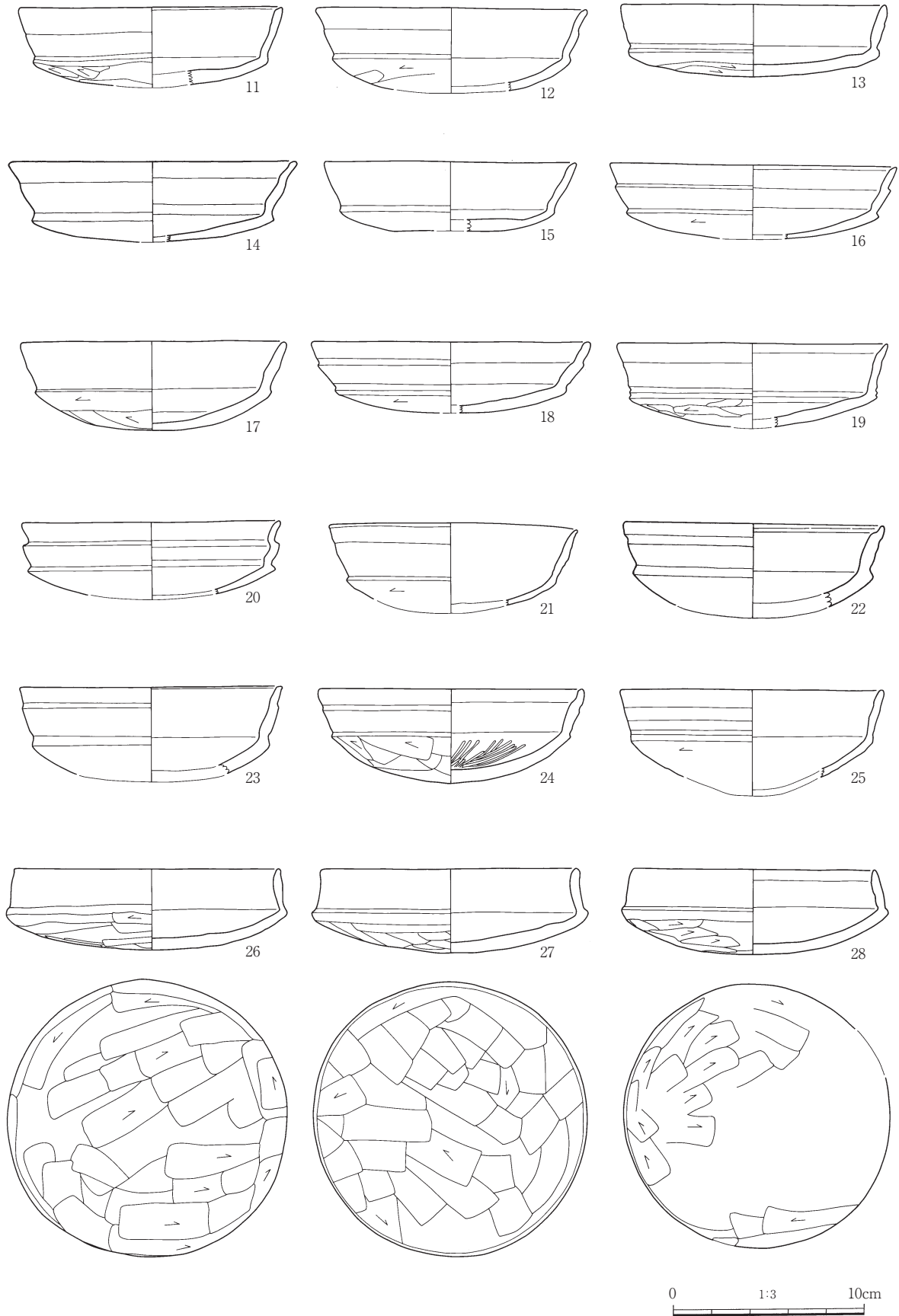
ここで報告する遺物の内訳は、土師器坏51、土師器高坏3、土師器甕20、土師器甑1、須恵器高坏1、

須恵器壺2、須恵器甕8、土錘1、縄文土器9、縄文時代石器8、弥生土器1、陶磁器4である。

出土した土器は器種が豊富で、いろいろなものが見られるが、多くは6世紀前半代のものであり、西野原遺跡（3）（4）の堅穴住居の年代と一致する。

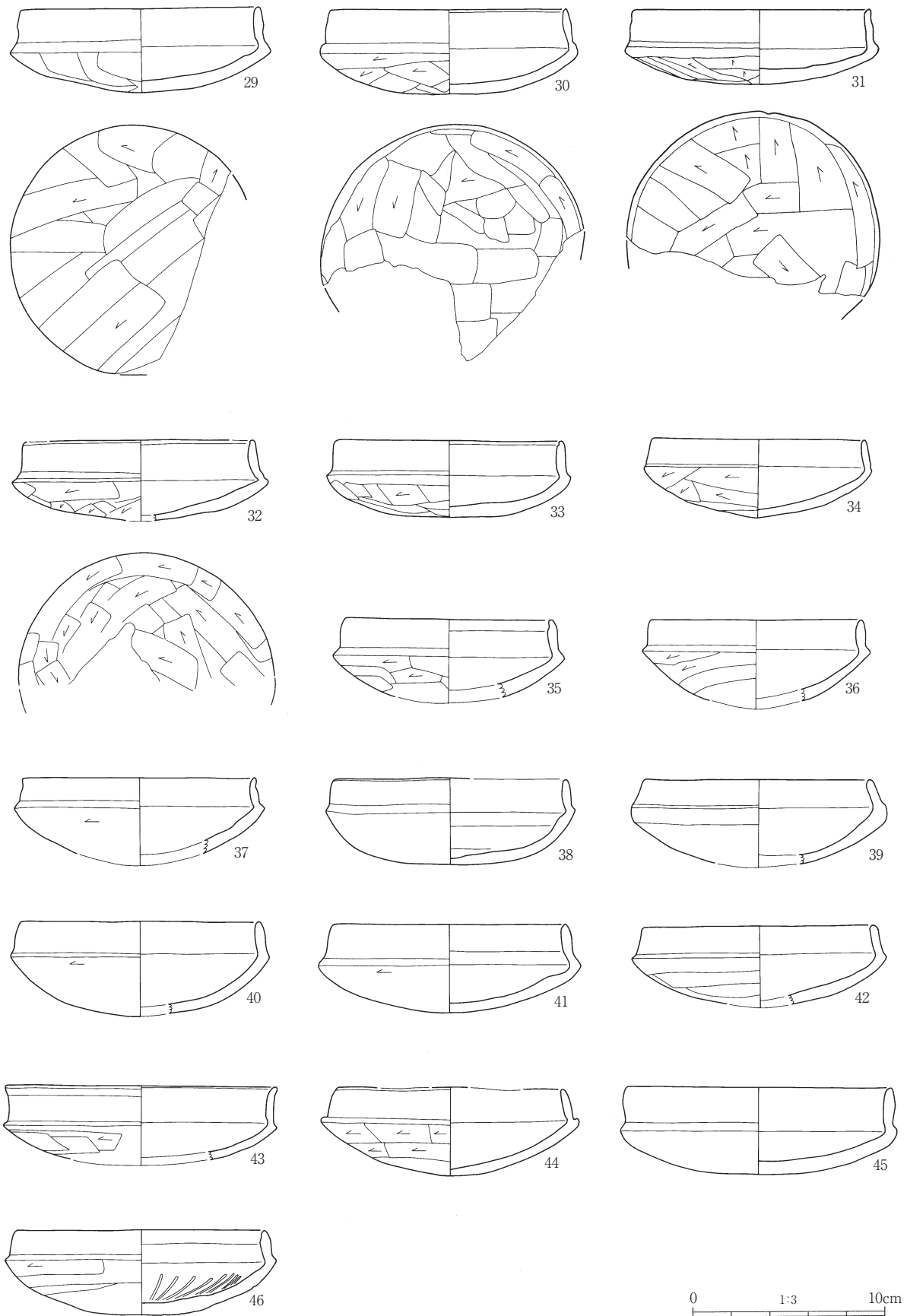


第142図 西野原遺跡（4）遺構外出土遺物（1）

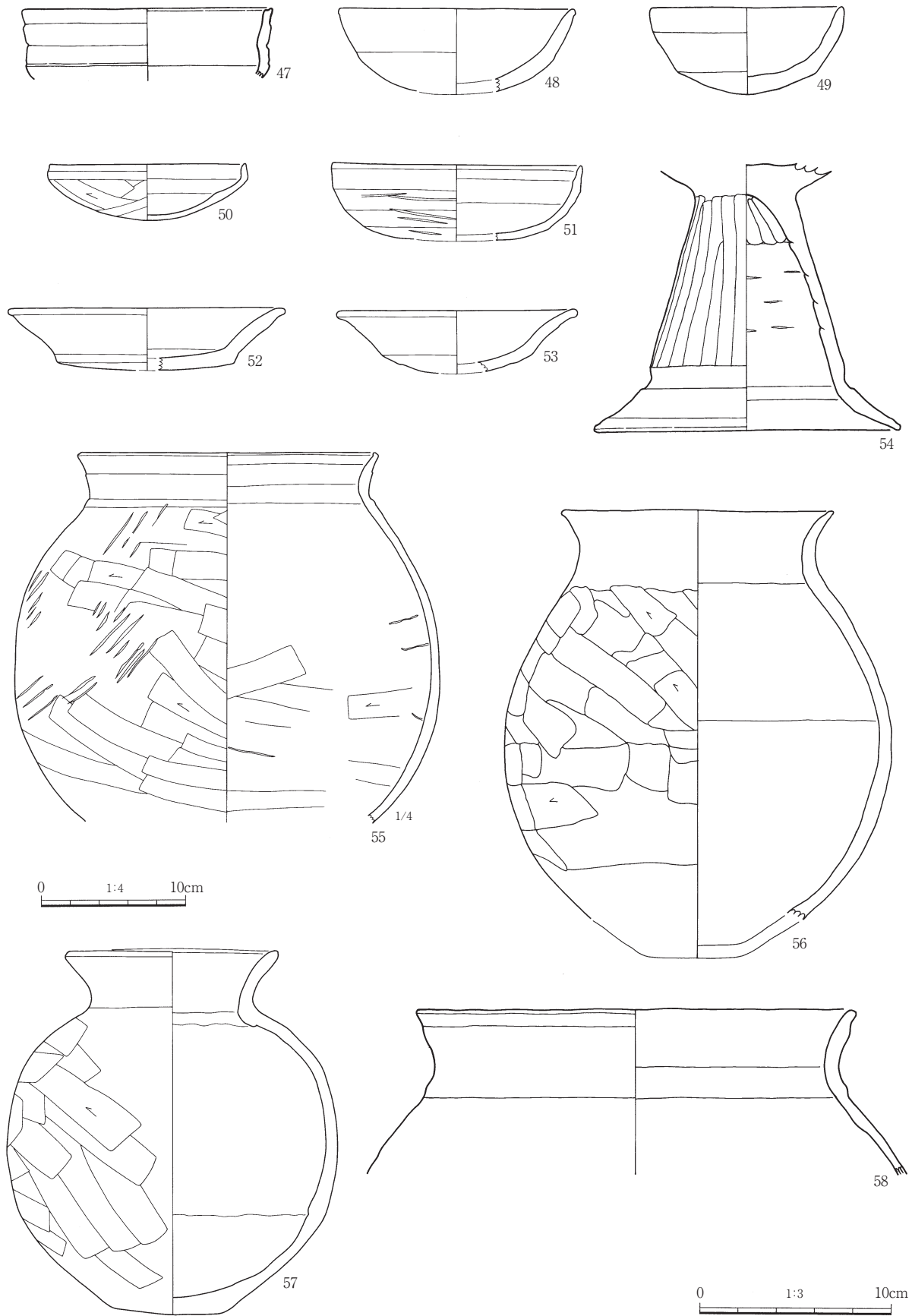


第143図 西野原遺跡（4）遺構外出土遺物（2）

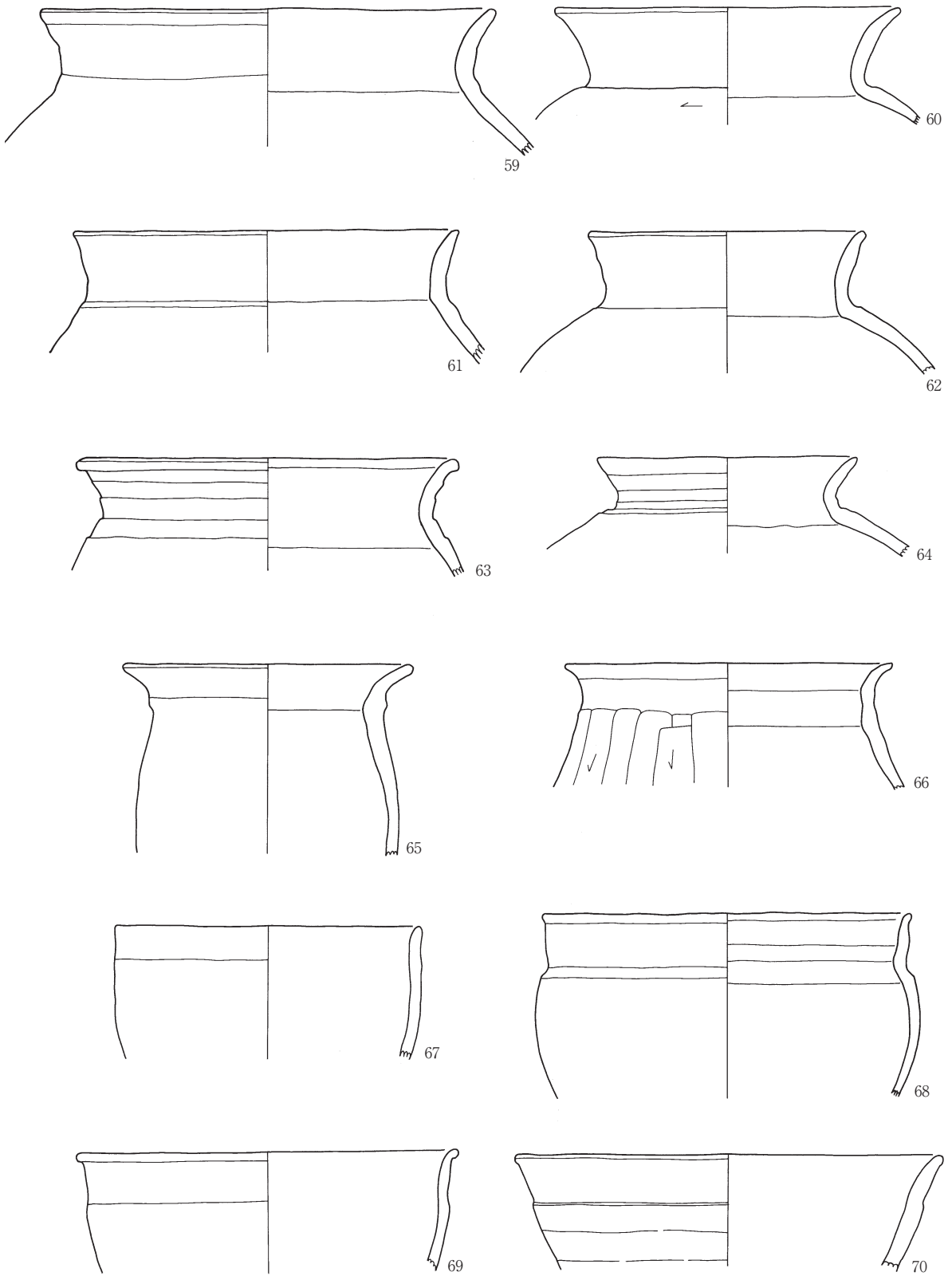




第144図 西野原遺跡（4）遺構外出土遺物（3）

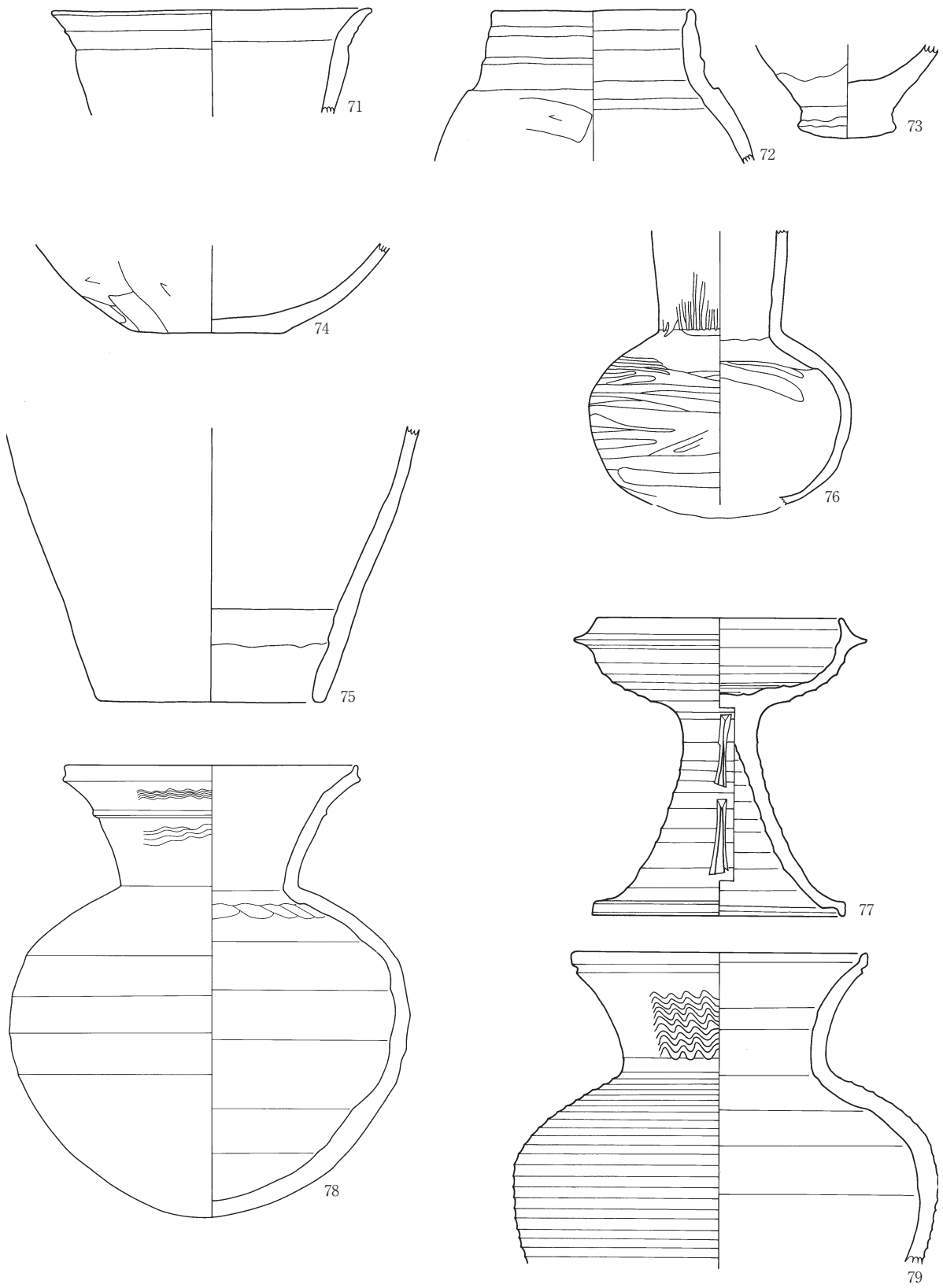


第145図 西野原遺跡（4）遺構外出土遺物（4）

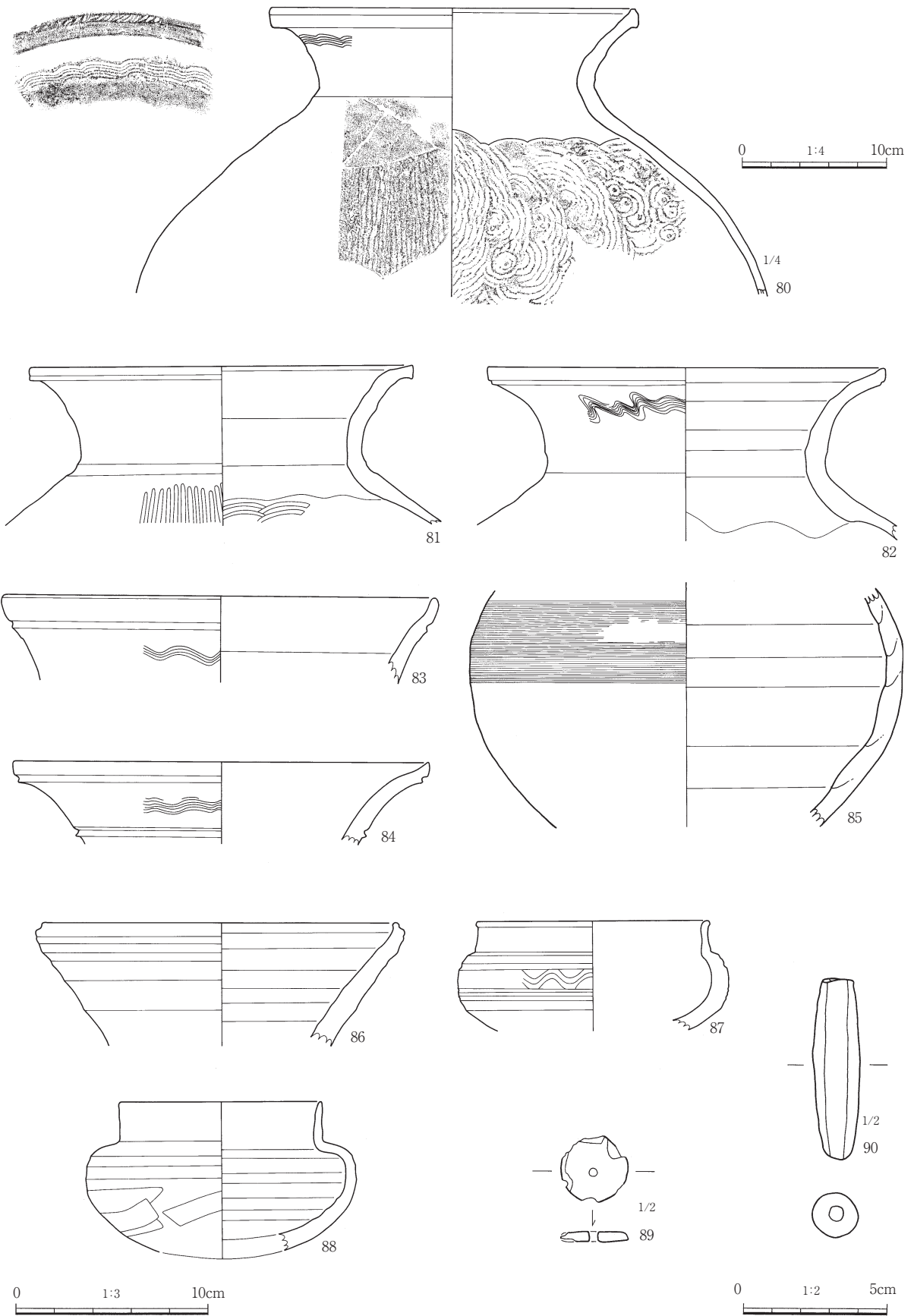


0 1:3 10cm

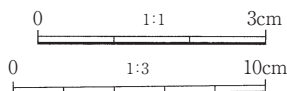
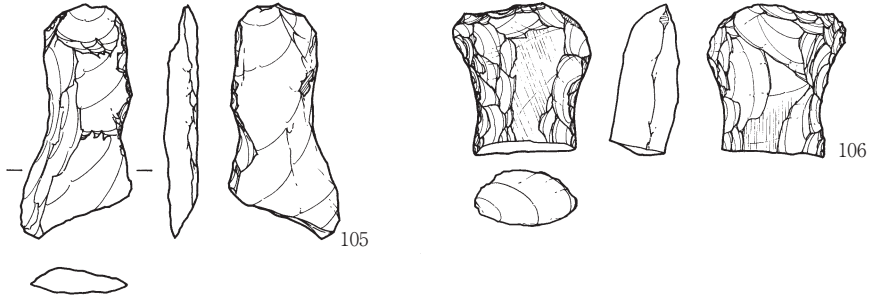
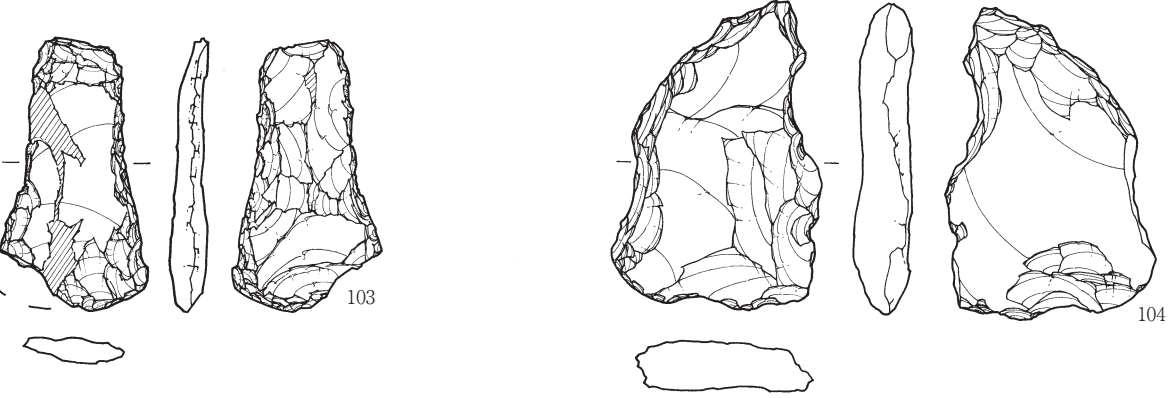
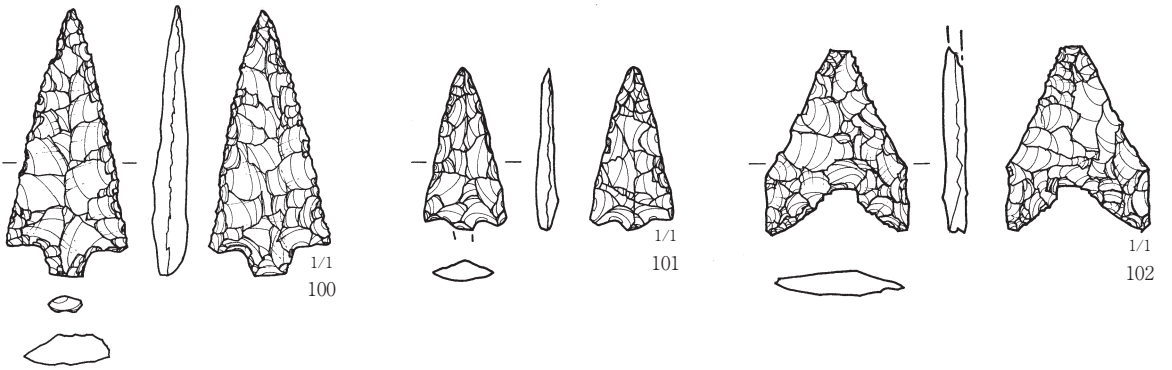
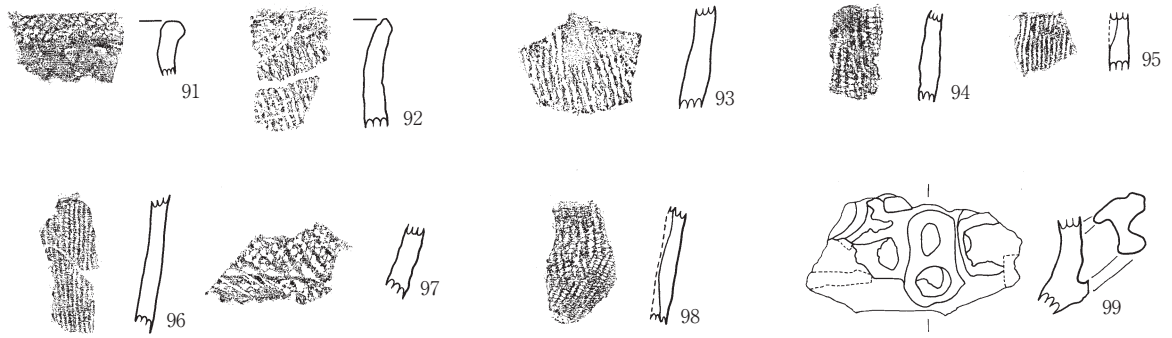
第146図 西野原遺跡（4）遺構外出土遺物（5）



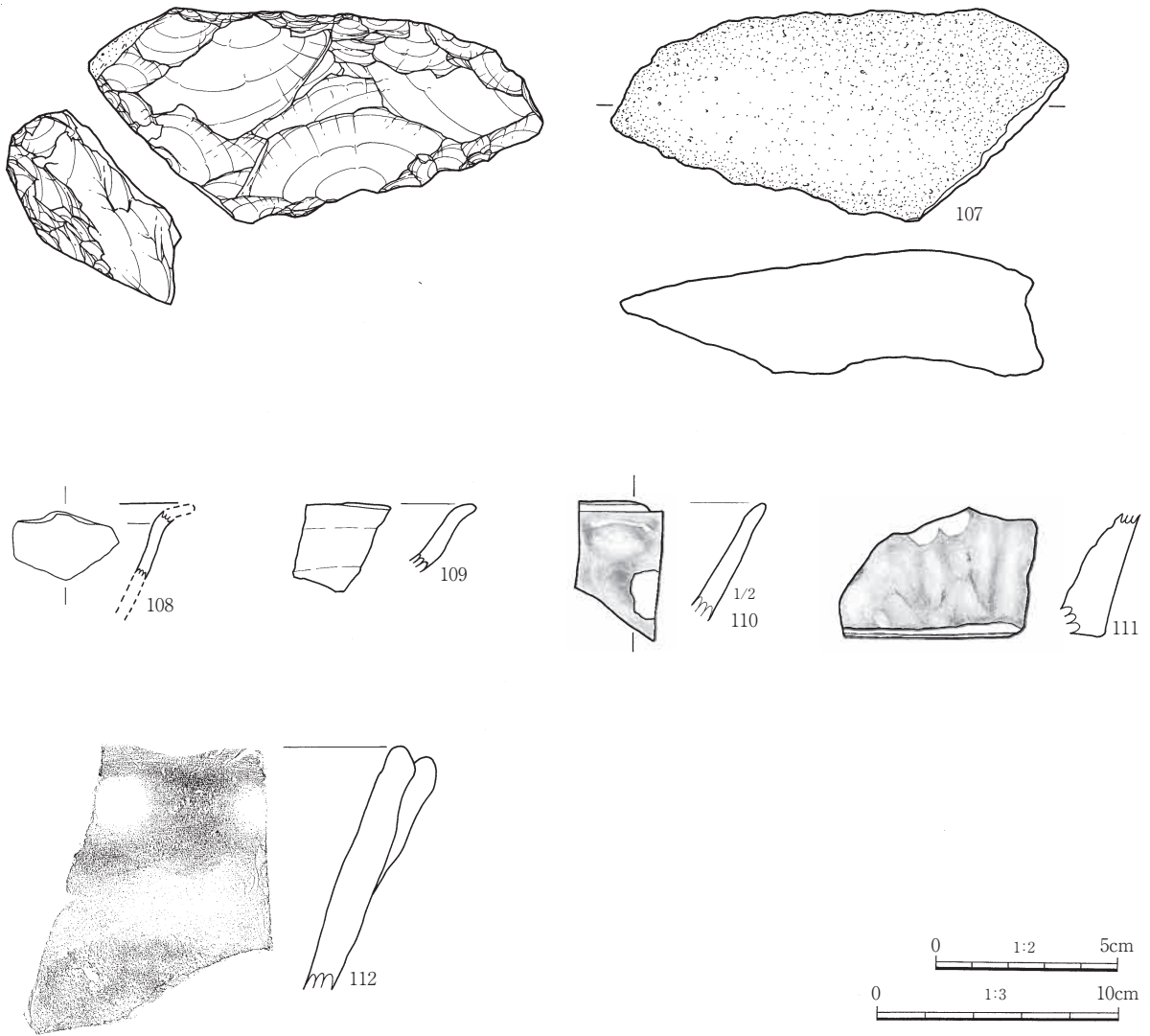
第147図 西野原遺跡（4）遺構外出土遺物（6）



第148図 西野原遺跡（4）遺構外出土遺物（7）



第149図 西野原遺跡（4）遺構外出土遺物（8）



第150図 西野原遺跡（4）遺構外出土遺物（9）

## 第9章 島谷戸遺跡

### 第1節 遺跡の概要

島谷戸遺跡は今回報告する遺跡では最も東に位置し、唯一東武鉄道桐生線の東側となる。この遺跡については平成12年度に範囲確認調査を行い、全体として低湿地ではあるものの、浅間B軽石（As-B）の残りが良好であること、北側にローム台地が張り出し、住居跡と思われる遺構があることが判明した。

本調査はその結果を受けて平成13年度に行っている。調査対象地は現道によって2地区に分けられ、北西側の小面積の地区をI区、東側の地区をII区とした。I区はさらにI-1区、I-2区に分かれている。

I区は低湿地にあたり、As-B下面の調査において水田と思われる面を確認している。

II区では中央に南北に高い部分があり、ロームがよく残っていた。その東西両側は低地となり、そこには洪水層が複数かぶっていた。そのためこの区の調査は多面調査となった。しかし、面の把握は難しく、調査は難航したようである。ここでは次の4面に整理して報告する。

### 第2節 調査の成果

#### 1 I区の調査

I区は調査対象地北西隅にある小面積の区である。2回に分けて調査を行っているので、北側をI-1区、南側をI-2区としている。

この部分はII区西側の低地の北延長部分にあたる。調査の結果、As-Bが比較的良好に残っていたので、その下面で掘り広げた。調査範囲がきわめて狭いため調査区内では畦などの区画は見つからなかったが、この面が水田面である可能性は高いものと判断できた。そこでプラントオパール分析を行ったところ、As-B下面からイネが多量に検出され（第11章参照）、

#### 1面 As-B直下面とその関連の面

上層の遺構もこの面で調査しているので、合わせて報告する。

#### 2面 洪水層下面

As-B下水田の耕作土の下には洪水層があり、その下面を調査した。

#### 3面 FA下層

#### 4面 ローム上面

以上4つの面であるが、これらのうち2面と3面については、調査当時違う土層で埋没した面として調査しているが、2面は西側低地のみに、3面は東側低地のみにあるので、そこで見つかった遺構の一部については近い時期のものである可能性も考えられる。

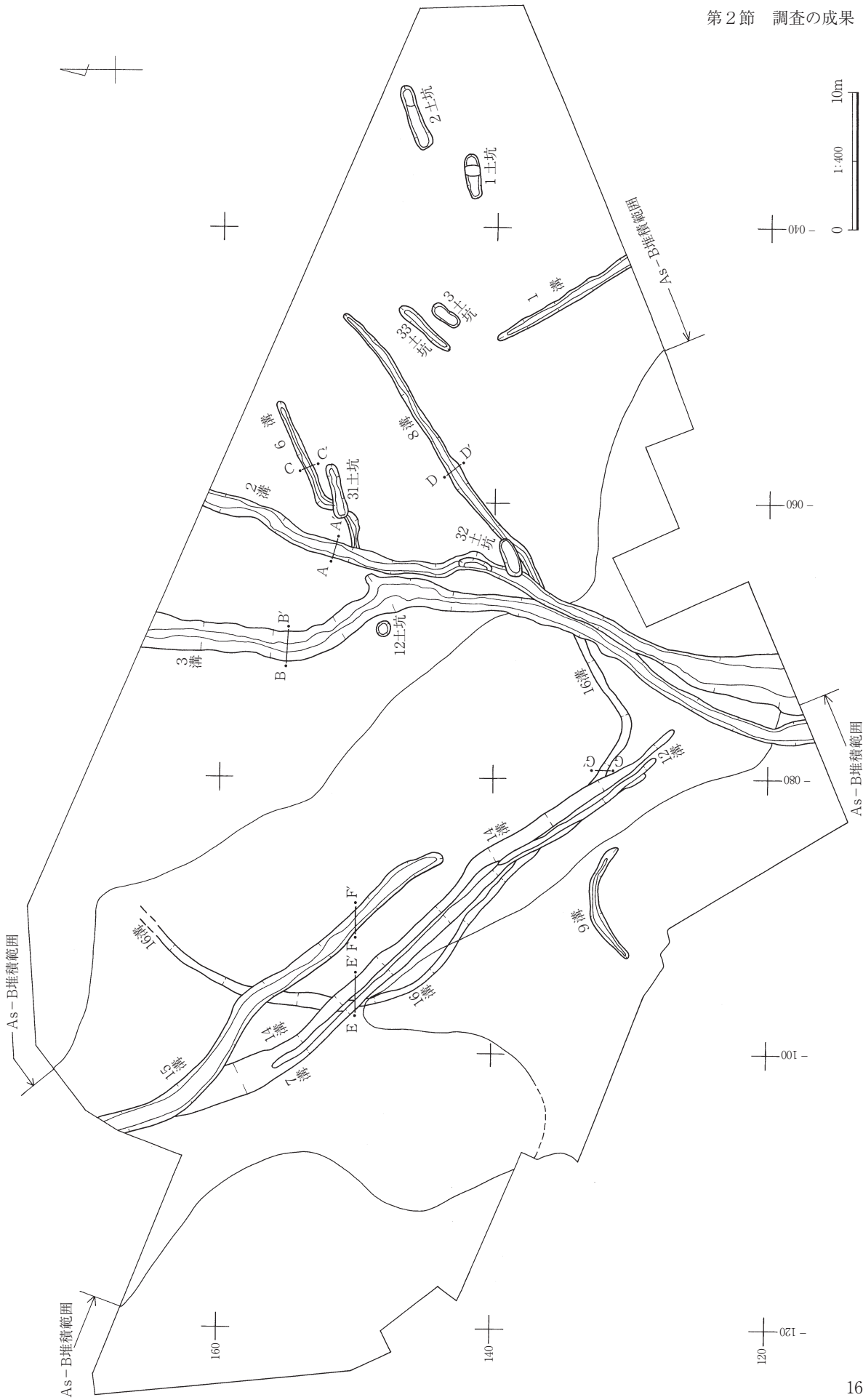
各面で見つかった遺構は、一部を除いて溝と土坑であり、範囲確認調査でその存在が指摘された堅穴住居は、今回の調査範囲内には1軒もないことが判明した。

この面が水田として利用されていたことが確認できた。水田面には細かい凹凸が無数に見られるが、前述したように畦などの施設は見られなかった。

#### 2 II区1面の調査 As-B下面と関連の面

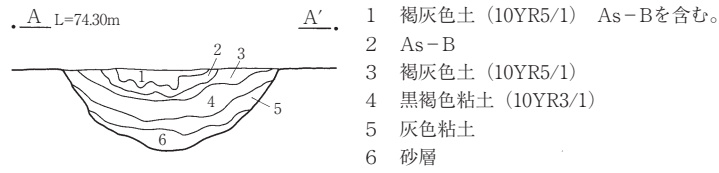
II区にも東西両側の低地部にAs-Bが残っており、その下面を第1面として調査した（第151図）。この区でも水田の畦などは見つからないが、プラントオパール分析の結果（第11章）、西壁でイネが検出されており、少なくとも西側の低地部が水田として利用されていることが確認できた。南壁で



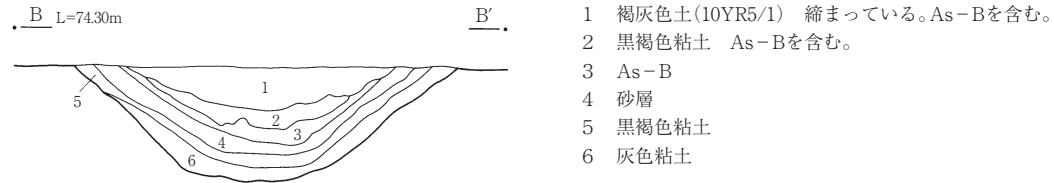


第151図 島谷戸遺跡Ⅱ区第1面遺構配置図

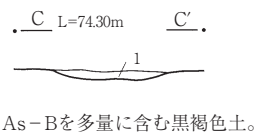
2号溝



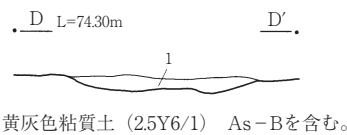
3号溝



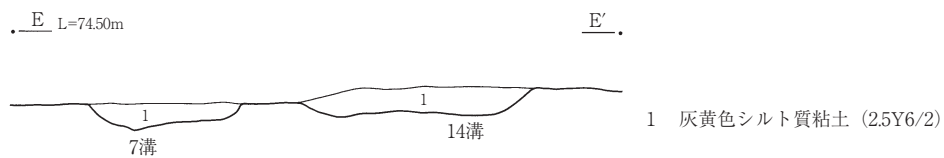
6号溝



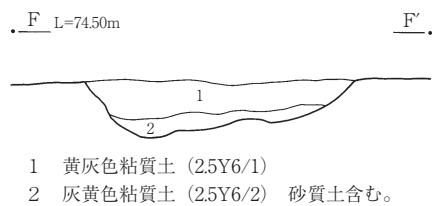
8号溝



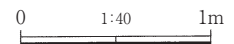
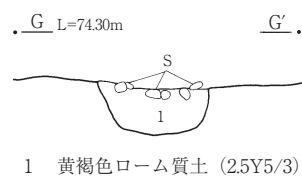
7・14号溝



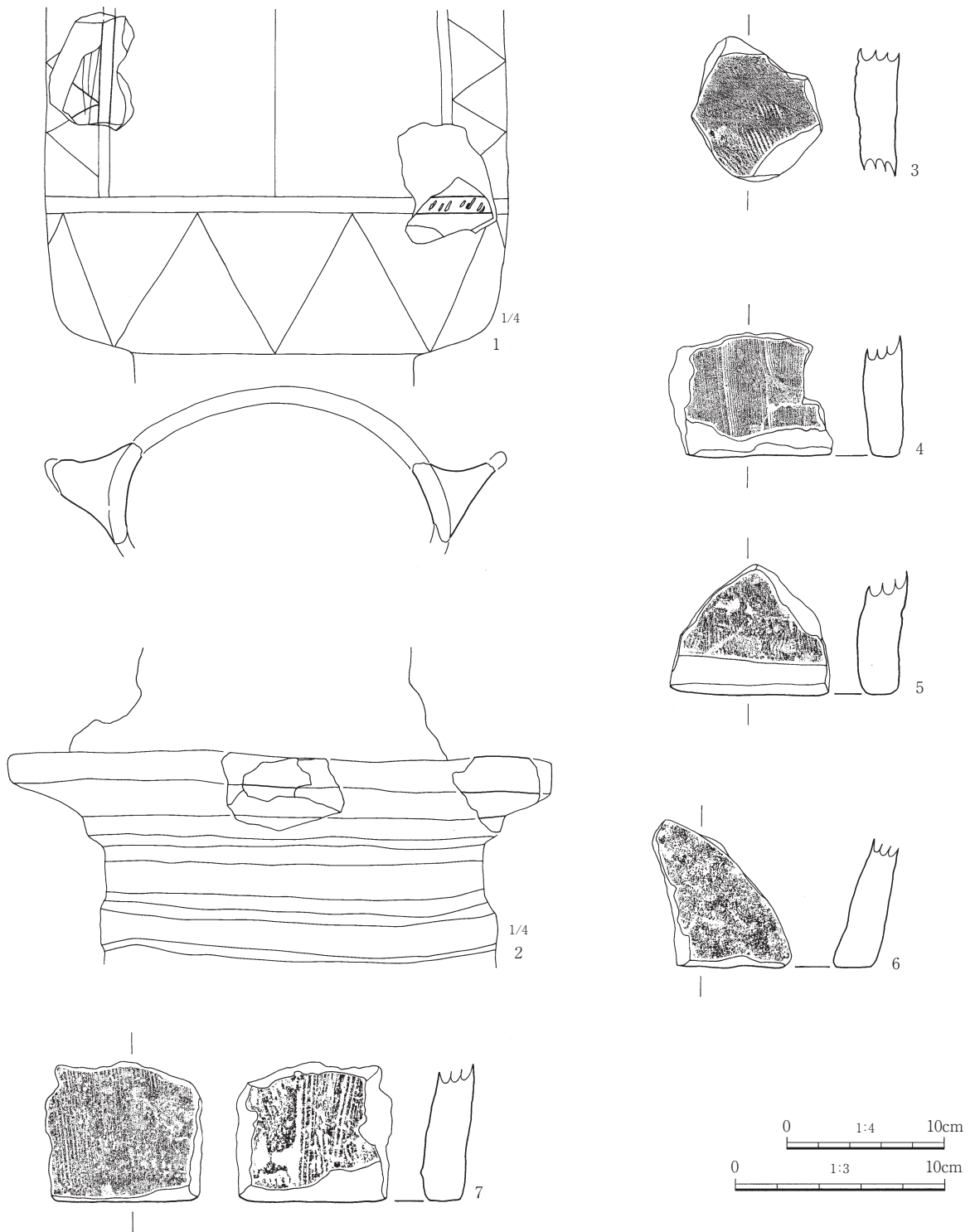
15号溝



16号溝

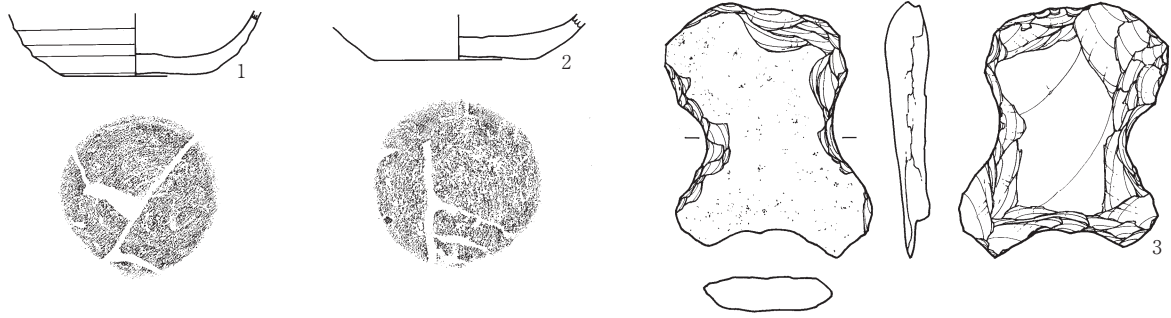


第152図 鳥谷戸遺跡Ⅱ区第1面溝断面

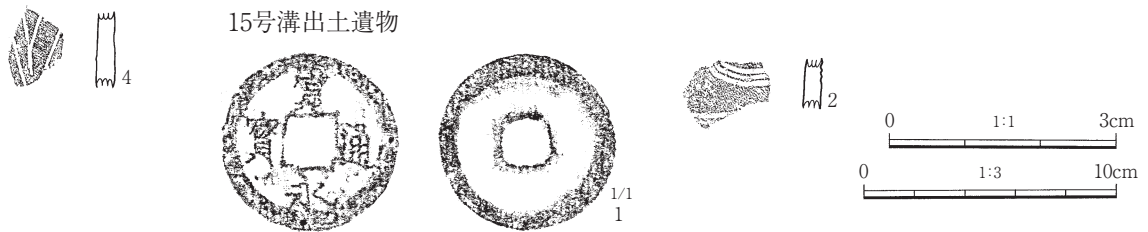


第153図 島谷戸遺跡Ⅱ区第1面1号溝出土遺物

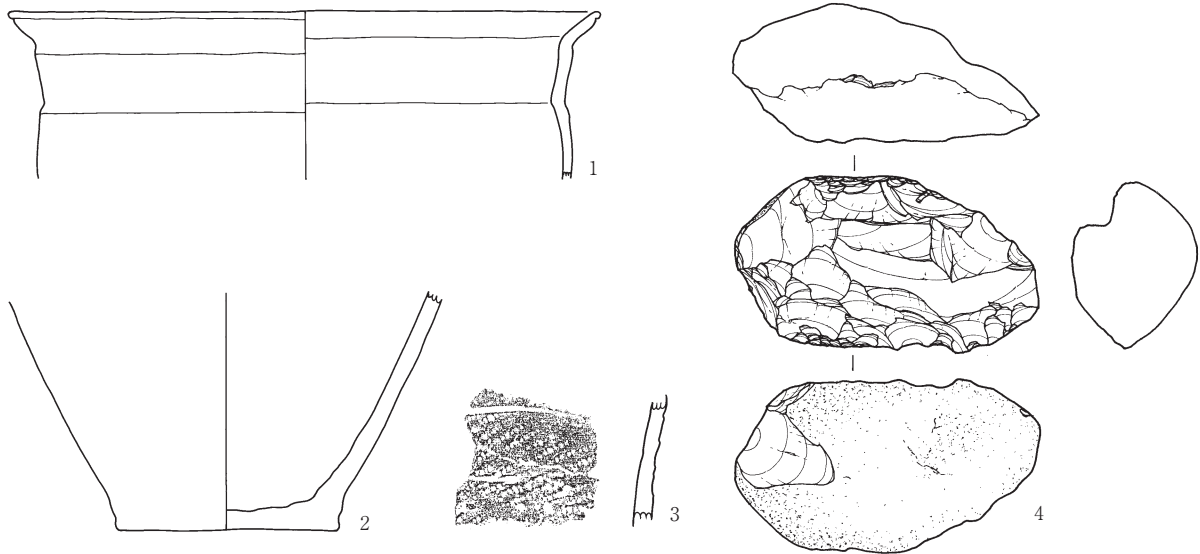
2号溝出土遺物



15号溝出土遺物



16号溝出土遺物

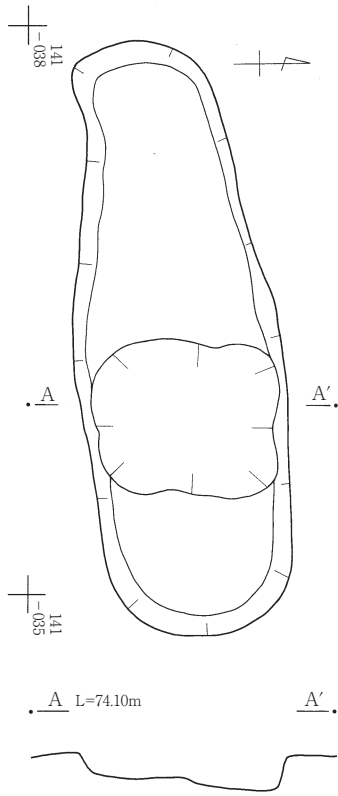


第154図 島谷戸遺跡Ⅱ区第1面2・15・16号溝出土遺物

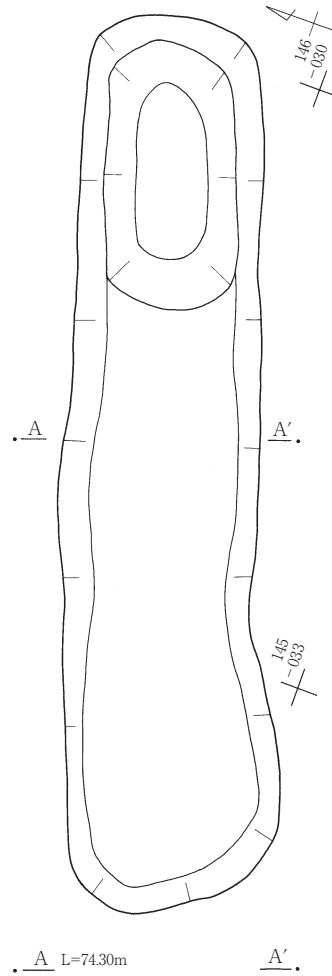
番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	備考
1	140-035	N-85° -E	320×114×35	
2	145-030	N-69° -E	235×56×6	
3	140-045	N-41° -E	222×98×13	
12	145-065	N-54° -E	90×89×98	
31	150-055	N-74° -E	396×92×6	6溝より新
32	135-060	N-67° -E	280×127×45	2・8溝より新
33	140-045	N-40° -E	468×83×5	

第15表 島谷戸遺跡Ⅱ区第1面土坑一覽表

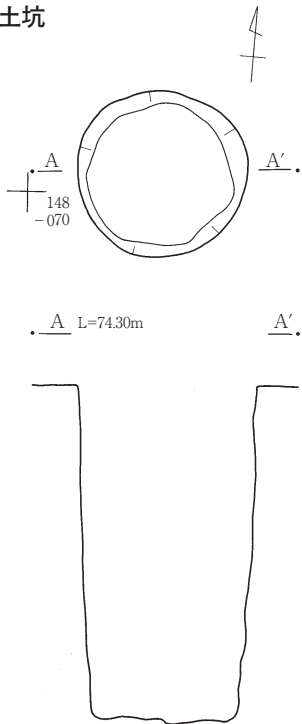
1号土坑



2号土坑



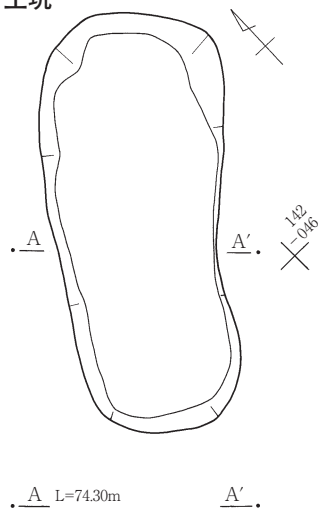
12号土坑



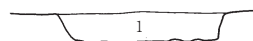
1 灰色粘質土 (5Y6/1)  
鉄分含む。



3号土坑



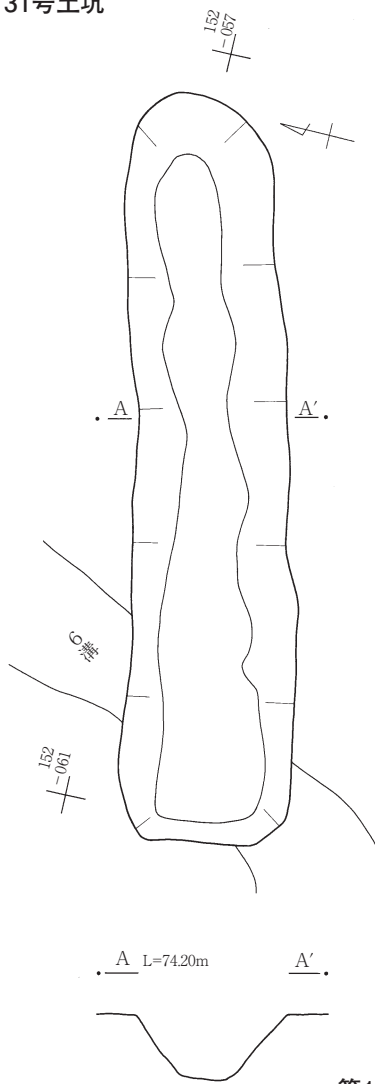
1 灰白色粘質土 (5Y7/2)  
マンガン・鉄分含む。



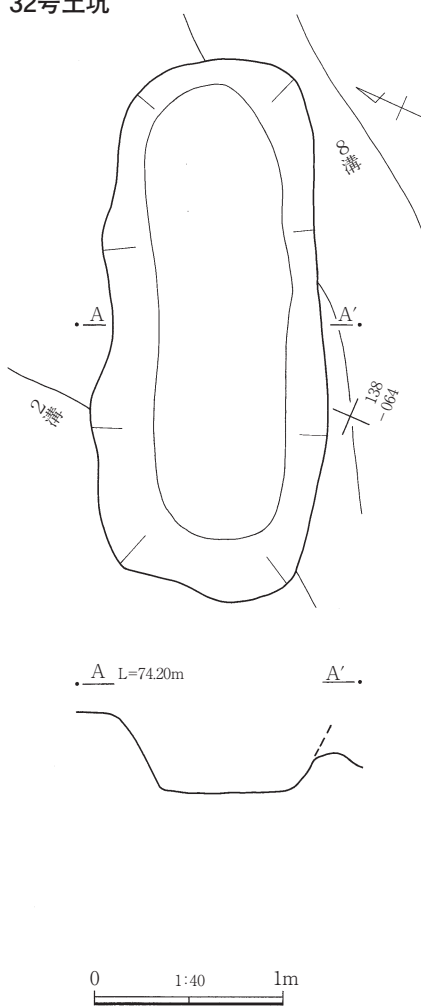
0 1:40 1m

第155図 島谷戸遺跡Ⅱ区第1面1～3・12号土坑

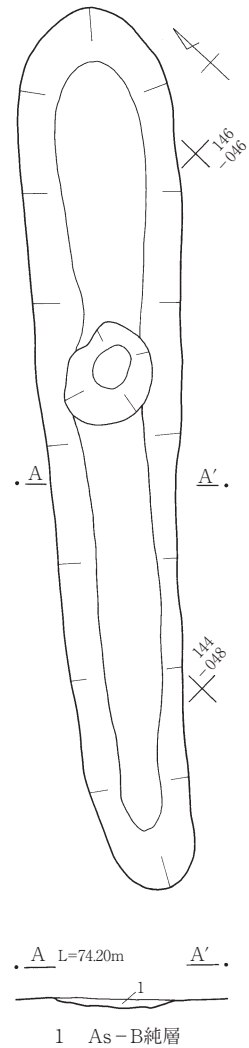
31号土坑



32号土坑



33号土坑



第156図 島谷戸遺跡Ⅱ区第1面31～33号土坑

はプラントオパールが見つかっておらず、また、西壁でも見つかった量は比較的少ないということなので、水田は限られた面積にあった可能性もある。

この面で見ついている遺構は溝と土坑である。溝の計測値は第19表の通りである。2・3号溝はAs-Bが埋土のやや上層にあるので、As-B降下時にはほとんど埋まっていた。2号溝の埋土からは須恵器坏2のほか、打製石斧1、弥生土器片1が出土した。6・8号溝は埋土にAs-Bを含むが、純層ではない。その他、1・7・14・15・16号溝は埋土にAs-Bを含まず、近世以降のものと思われる。つまり、As-B下の水田に直接関わる溝は見つからない。なお、1号溝からは埴輪片7、15号溝から

は銅銭1、弥生土器片1、16号溝からは土師器甕2、縄文土器1、縄文時代石器1が出土している。

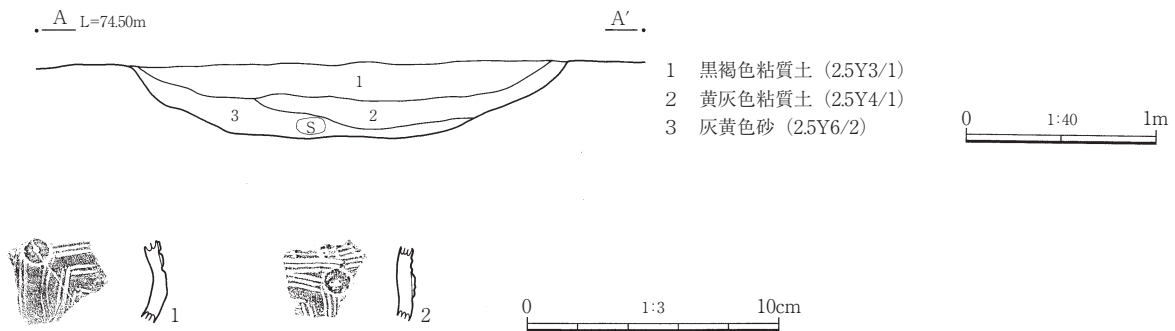
土坑は7基ある。このうち33号土坑はAs-B純層で埋もれていた。その他はAs-Bを含んでおらず、やはり近世以降の可能性が強い。12号土坑は井戸だと思われる。

### 3 II区2面の調査 洪水層下面

西側低地部分には、As-B下面の水田耕作土の下層に、洪水によると思われる土層が堆積していた。この層を除去したところ、多くの細かい溝が網目状にあることが判明したため、この面を2面目として調査した。洪水は何回かあったらしく、違う層位で見



第157図 島谷戸遺跡Ⅱ区第2面遺構配置図



第158図 島谷戸遺跡Ⅱ区第2面13号溝断面・出土遺物

え始める溝もあったので、洪水層の中位で一端掘り広げて遺構を確認し、さらに下層を掘り下げて遺構を確認した。第157図の西端の溝群は、これらの遺構を合成したものである。

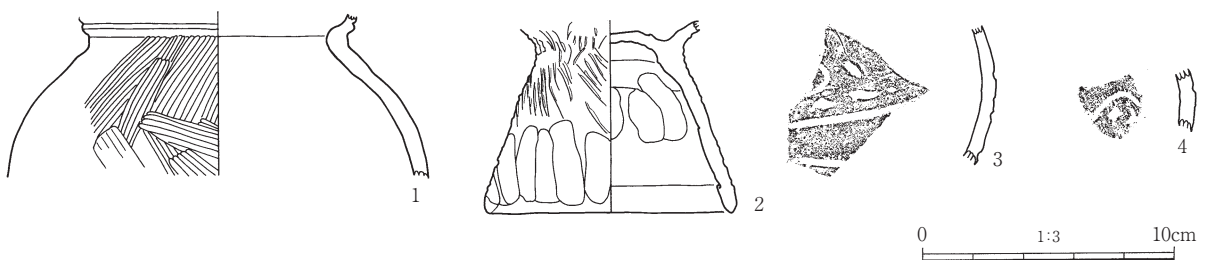
この面の溝の中で、13号溝としたものは比較的しっかりとした溝であり、高い部分から低地へと延びている。その位置から考えて、低地に水田があったとすれば、用水路的な役割を果たしたものであろう。埋土からは弥生土器片が出土している。その他の多くの溝はいずれも幅が狭いもので、痕跡程度のもも多くある。北西部分を中心として低地全体に広がっており、複雑に入り乱れているため、1単位の溝を把握することも困難で、それぞれの新旧関係は把握できなかった。おそらく長期間に亘り位置をずらし溝が掘られた結果、このような状態になったものと思われる。また、その配置から区画などを推定することも難しいが、溝の位置・方向には、この低地部の傾斜に平行ないし直交する傾向にあるものが多く見られる。その役割は明らかにしがたいが、一つ

の解釈としては、湿田の排水などに関わる溝ではないかと考えている。その湿田の時期は特定できないが、上層にあるAs-B下水田につながる水田であると考えられるので、平安時代のものと考えられる。

土坑は調査区中央の高い部分に4基確認した。いずれも不整形のものであり、深さは浅い。埋土上層にFAを含むので、次の3面に関わる可能性もある。出土遺物は少ないが、4号土坑からはS字状口縁台付甕2の他、弥生土器片2が出土している。

番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	備考
4	130-070	N-35°-E	436×350×46	
5	130-070	N-63°-E	444×180×26	
6	130-070	N-35°-W	123×98×40	
7	140-070	N-21°-W	534×360×27	

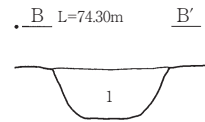
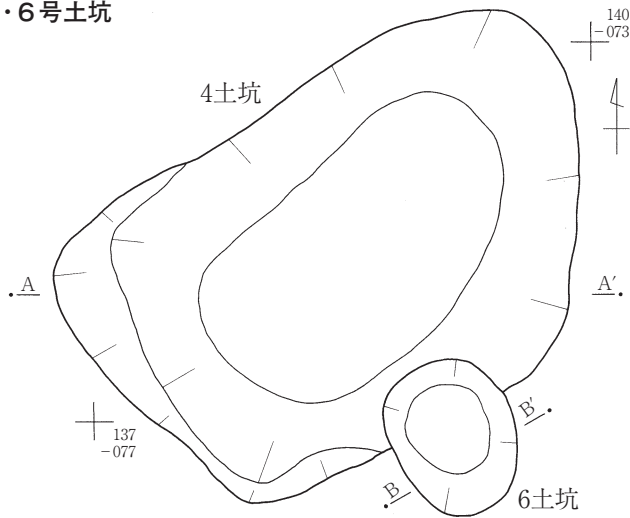
第16表 島谷戸遺跡Ⅱ区第2面土坑一覧表



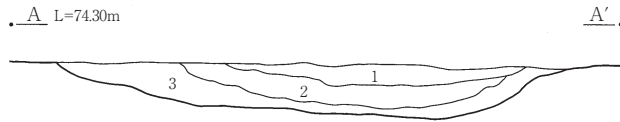
第159図 島谷戸遺跡Ⅱ区第2面4号土坑出土遺物



4・6号土坑

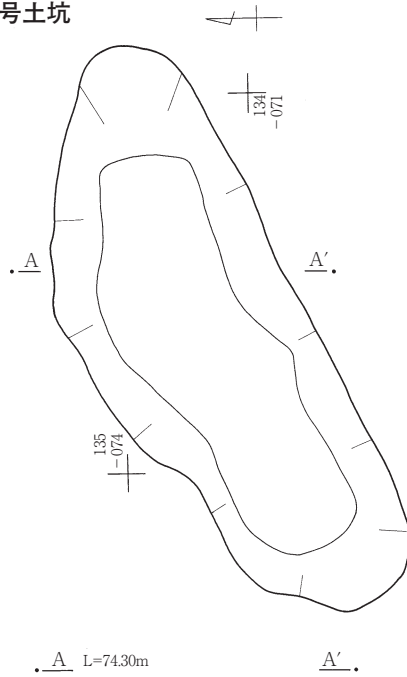


- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) と淡黄色ローム土ブロック (2.5Y8/4) との混土。  
Hr-FAを含む。



- 1 褐灰色粘質土 (10YR5/1)  
Hr-FAを多量に含む。  
2 黒褐色粘質土 (10YR3/1)  
3 灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)

5号土坑

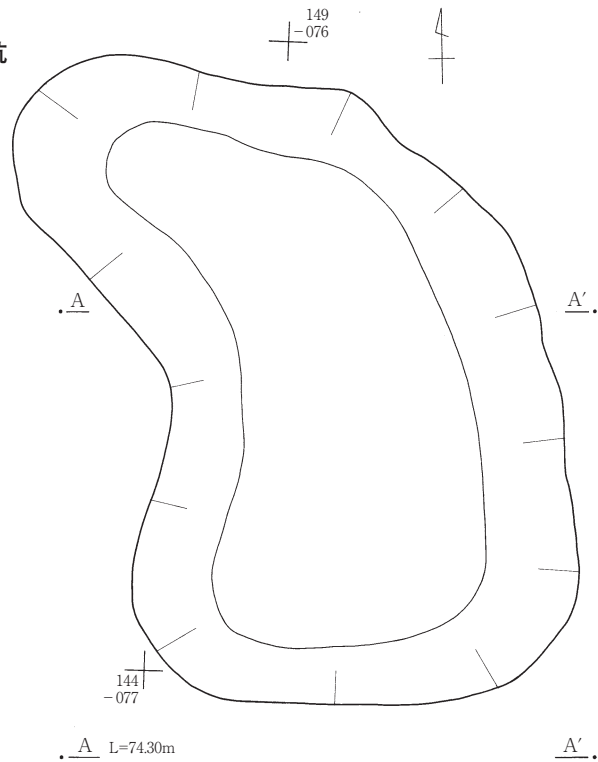


A A' L=74.30m



- 1 褐灰色粘質土 (10YR5/1)  
Hr-FAを多量に含む。  
2 灰黄褐色粘質土 (10YR5/2)  
やや軟質。

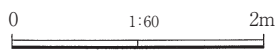
7号土坑



A A' L=74.30m



- 1 褐灰色粘質土 (7.5YR4/1)  
Hr-FAを多量に含む。  
2 灰褐色粘質土 (7.5YR5/2)



第160図 島谷戸遺跡Ⅱ区第2面4～7号土坑



第161図 鳥谷戸遺跡Ⅱ区第3面遺構配置図

#### 4 II区3面の調査 Hr-FA下面

II区の東側低地部には、Hr-FAと思われる白色火山灰がごく薄く堆積している部分があり、その面で掘り広げたところ溝などを確認したのでこれを3面として調査した。

この面で調査した遺構は溝と土坑である。

36号溝は低地部を北西から南東にむけて走る溝である。調査区南部で西に曲がり、大きく広がって調査区外となる。曲がる地点の5m北からは、東に37号溝が分岐する。この37号溝の南端は丸く広くなって終わっている。36号溝南端付近では平面図(第161図・付図7)を見ると北側に突起部分が2カ所あるが、断面(第162図)を見るとこれは別の遺構であったらしい。この36・37号溝の南端部には45号溝が重複しているが、断面図(第162図)にみるように45号溝の方が古い。この45号溝は東側で幅が大きく変化する。

36号溝からは比較的多くの遺物が出土している。報告するのは、土師器坏1、土師器甕8、土師器器台2、縄文土器1、石鏃1である。37号溝からは土師器高坏1、土師器壺1、縄文土器1が出土してい

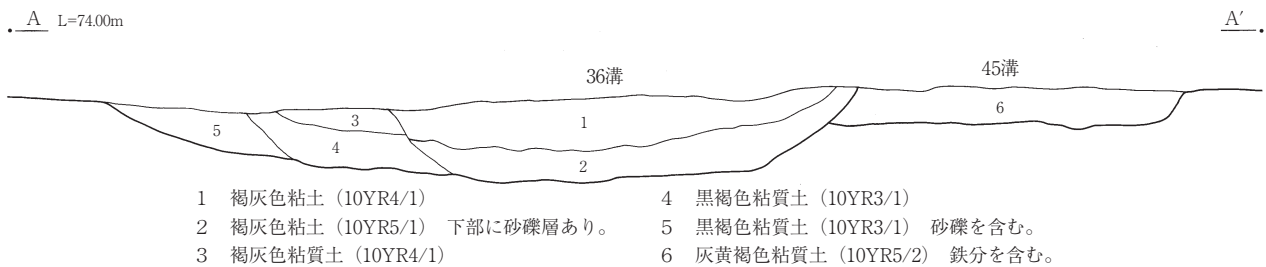
る。

土坑は36号溝東側で4基確認した。9号土坑はやや歪んだ円形、10号土坑は長方形、15・17号土坑は足跡状の形である。いずれもオリーブ黒色粘質土で埋まっていて、ほぼ同時期のものと思われるが、遺物は出土していない。

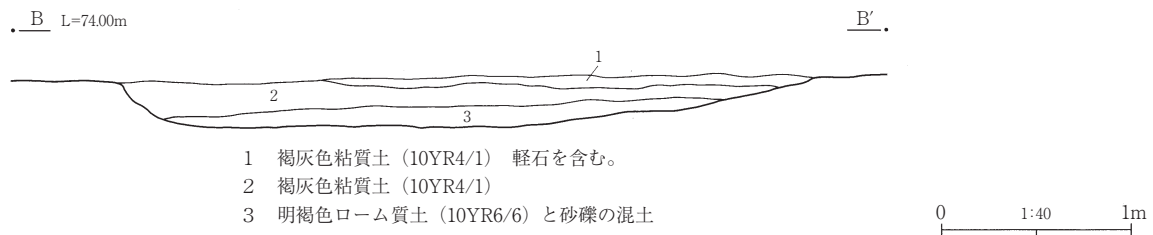
この3面の年代はHr-FA降下時なので、6世紀前半であるが、溝のように切り合っている遺構もあり、それよりも遡る時期のものも含まれていると思われる。

なお、西側低地の西端部には1号集石と名付けた遺構がある。この遺構は2面をさらに掘り下げた際に見つかったものなので、ここでは3面として扱うこととしたが、断面図に示したとおり、Hr-FAは集石の下にあるので、この遺構の時期はHr-FAよりも新しくなる。つまり、この遺構は前述の溝・土坑よりも新しいものであり、その点注意していただきたい。長さ3m、幅2mほどの範囲に円礫が多数集まっているものである。遺物は全く伴っておらず、性格は不明である。

#### 36・45号溝

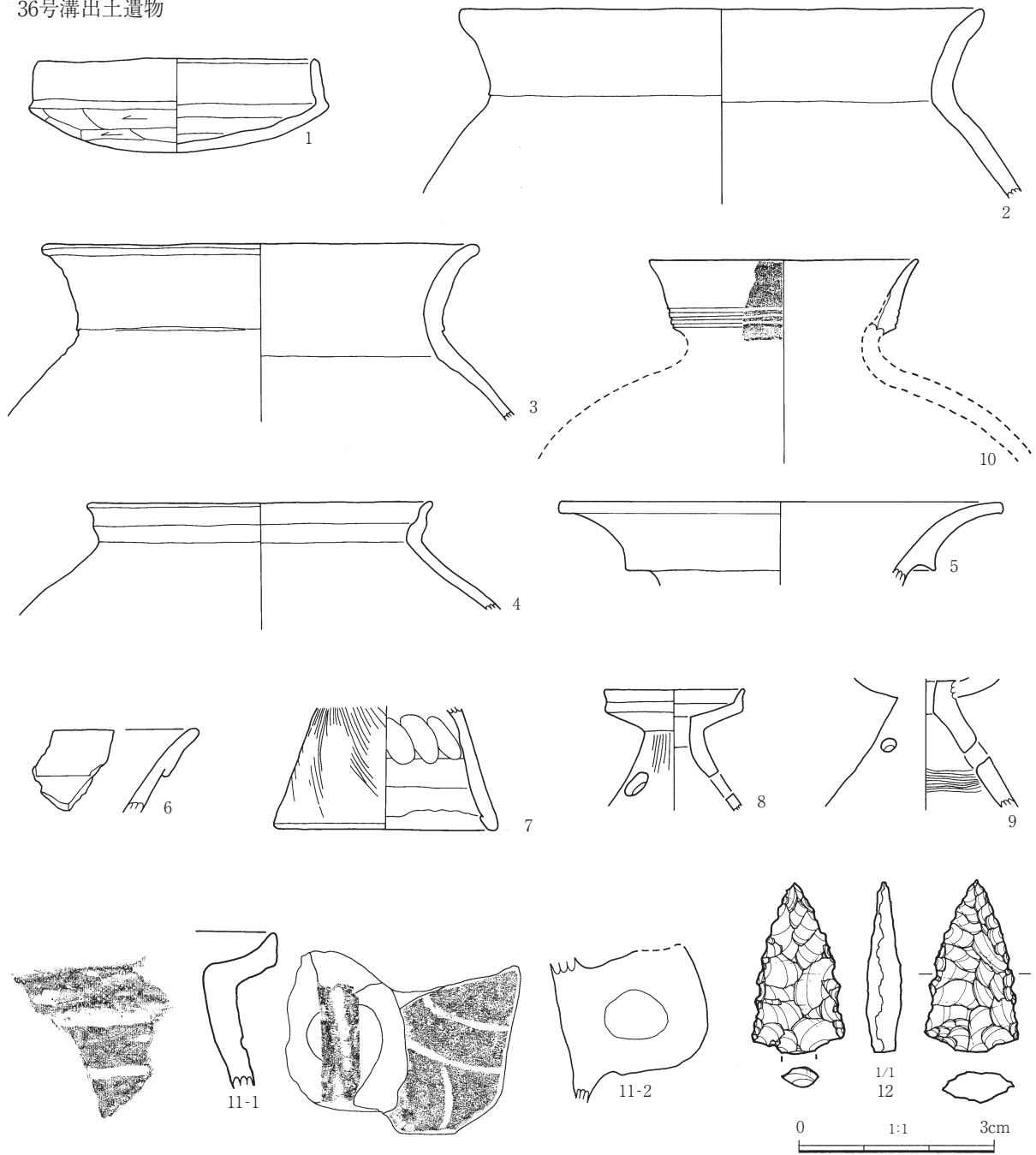


#### 37号溝

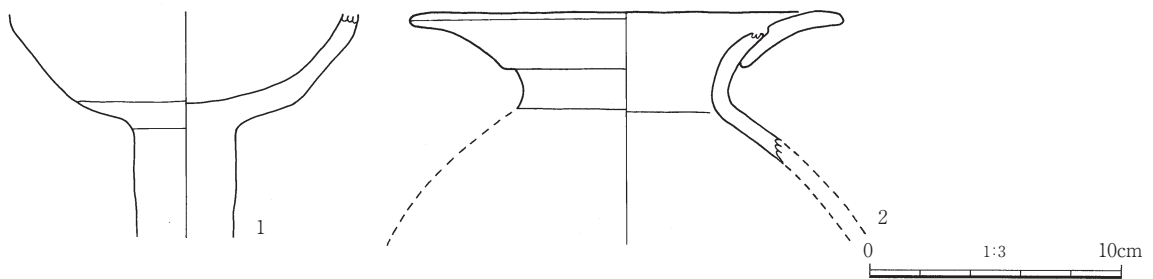


第162図 島谷戸遺跡II区第3面36・37・45号溝断面

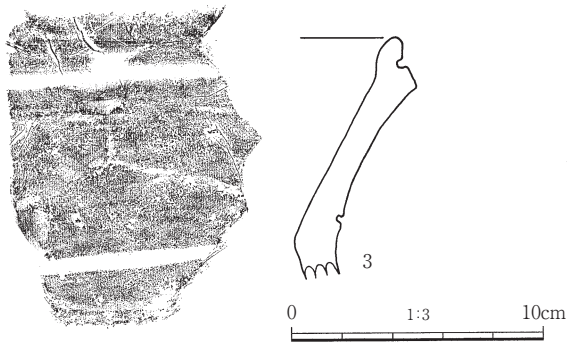
36号溝出土遺物



37号溝出土遺物



第163図 鳥谷戸遺跡Ⅱ区第3面36・37号溝出土遺物

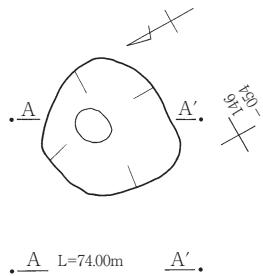


第164図 島谷戸遺跡Ⅱ区第3面37号溝出土遺物

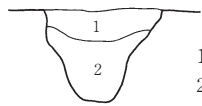
番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	備考
9	140-050	N-46°-E	73×70×55	
10	140-040	N-69°-E	187×103×25	
15	150-050	N-2°-W	154×62×15	
17	150-050	N-74°-E	113×52×12	

第17表 島谷戸遺跡Ⅱ区第3面土坑一覽表

9号土坑

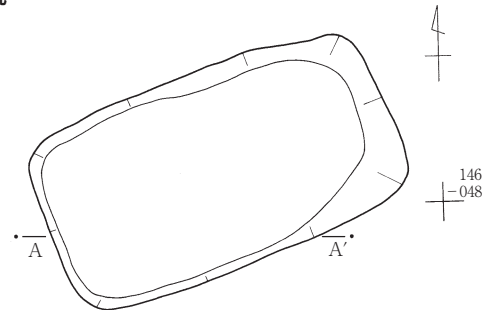


A L=74.00m A'

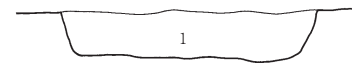


- 1 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1)
- 2 灰色粘質土 (5Y4/1)

10号土坑

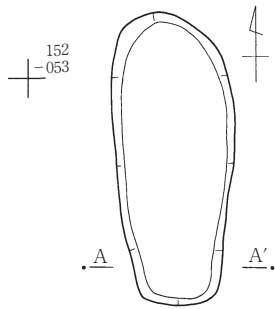


A L=74.00m A'



- 1 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1)

15号土坑

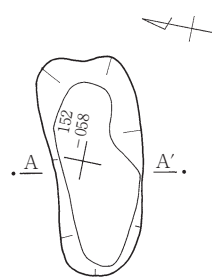


A L=74.00m A'

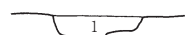


- 1 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1)

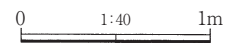
17号土坑



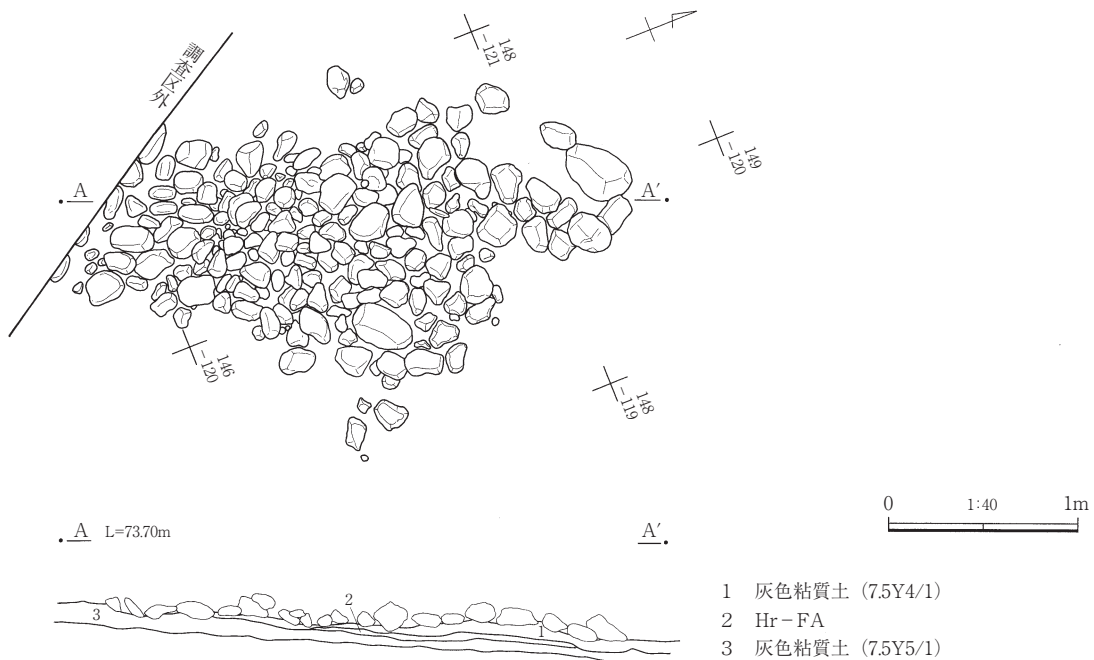
A L=74.00m A'



- 1 オリーブ黒色粘質土 (5Y3/1)



第165図 島谷戸遺跡Ⅱ区第3面9・10・15・17号土坑



第166図 島谷戸遺跡Ⅱ区第3面1号集石

### 5 Ⅱ区4面の調査 ローム層上面

第4面はローム層上面である。この面では溝1条、土坑7基の他、土器が集中する地点を5カ所調査した。これらの遺構の時期は、Hr-FAよりも下層となるので、6世紀以前ということになる。土器集中部の中には縄文時代のものもある。

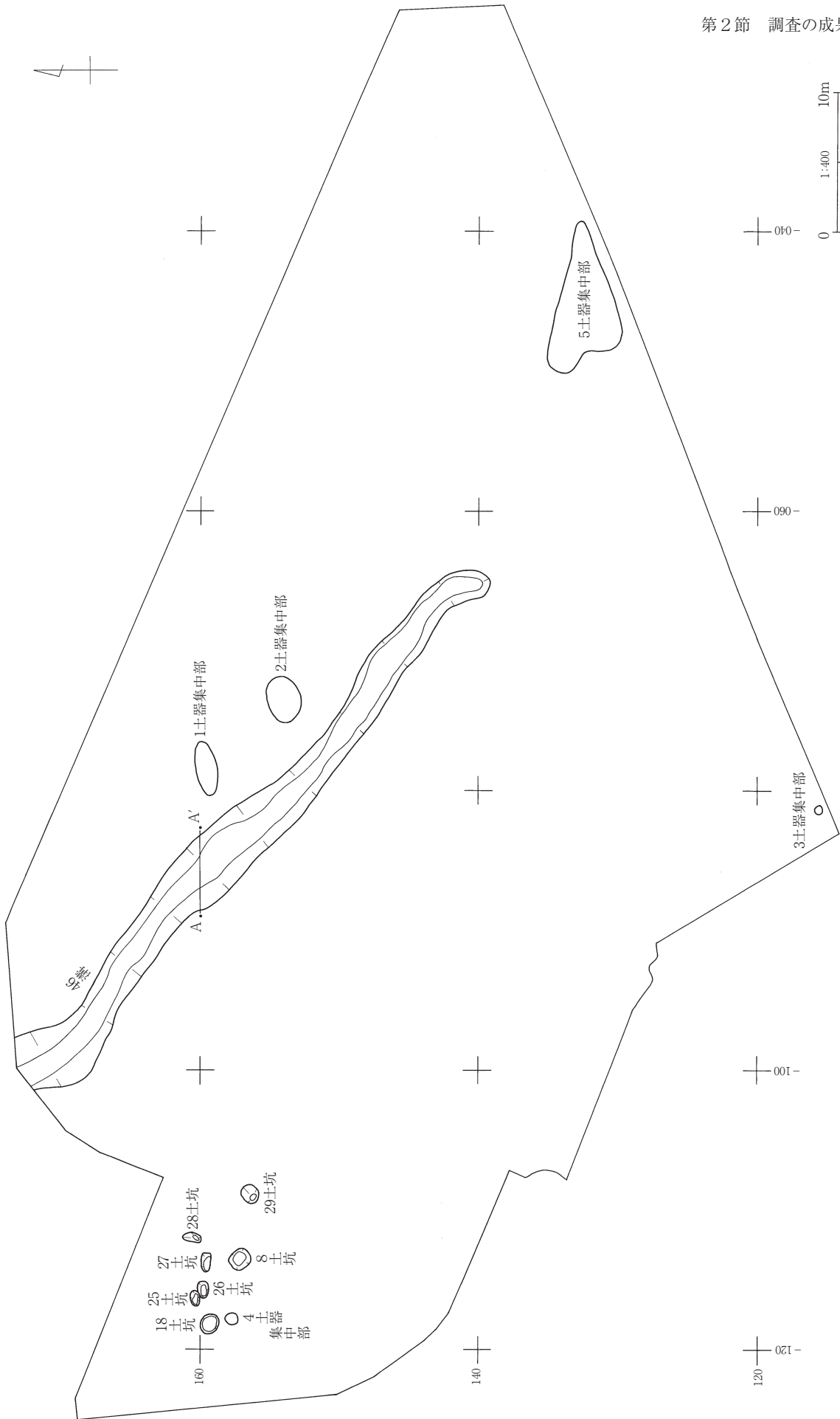
46号溝は微高地上に、等高線に沿って掘られている溝である。幅が最も広いところで4.35mあり、この遺跡で調査した溝の中では最も大きい。北端調査区外から現れて南東方向にのび、44.80mで浅くなって途切れているが、これは削平によるもので、本来は南の調査区外へまでのびていたものと考えられる。断面は深い皿状で、底面はほぼ平坦であり、深さは断面図に示したところで73cmある。埋土からは土師器甕の小破片が出土しているのみで、詳細な時期は明らかではない。

この溝の付近には、各面毎に、ほぼ平行した位置に溝が掘られている。すなわち、3面には東側に7～9m離れて36号溝があり、1面には14号、15号溝が西側に7mほど離れてある。2面には途中から低地へと下がる13号溝があり、北端部は平行した方

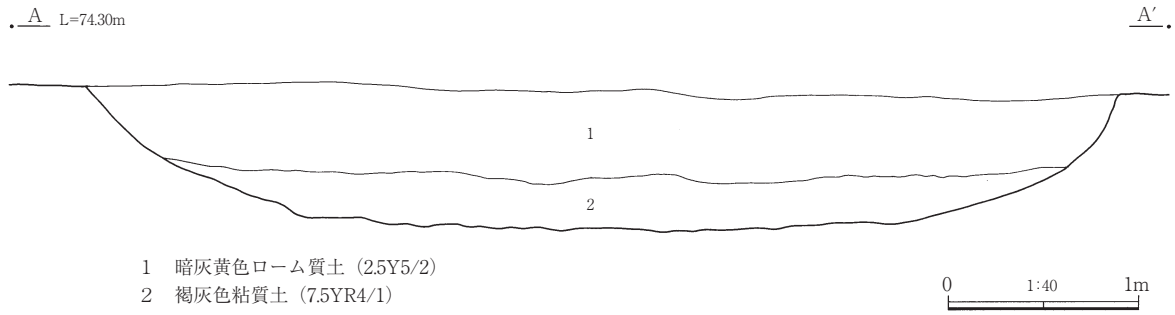
向になっている。いずれもその面では最も大きな溝であり、また、36号溝以外は微高地上を走っているので、低地部に水を供給するための用水路の役割をもった溝ではないかと思われる。この46号溝には砂礫層が見られないが、3面36号溝やその下流で分岐する37号溝、2面13号溝には砂や礫を含む層があり、水が流れていたと思われるので、その他の溝にも流水があったと考えられる。おそらく微高地に沿って上流から水を流し、東西両側の低地部に水を供給したのではないだろうか。

土坑7基は調査区北西隅付近にかたまって確認された。8号・18号・29号土坑は円形ないし方形であるが、その他の4基は不整形である。8号と18号からは縄文土器と土師器甕の小破片が出土しているが、図示できる大きさではない。その他からは遺物は出土せず、時期・性格ともに不明である。

土器集中部は全域で5カ所確認した。土器の集中度はあまり濃密ではなく、4号、5号土器集中部をPL.42に示したとおり、散在という程度のものである。出土する土器片は、いくつかの破片が接合してきたとしても、その数は少ないので、別の場所でバ

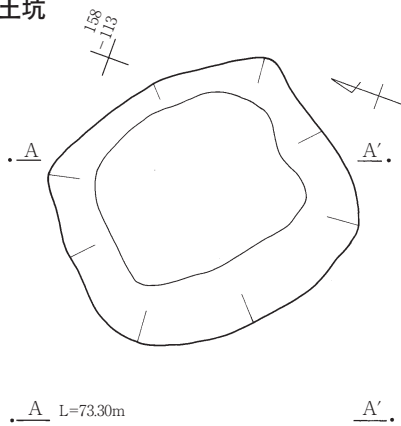


第167図 島谷戸遺跡Ⅱ区第4面遺構配置図

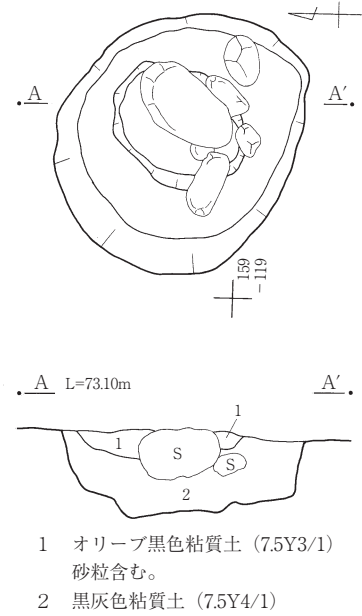


第168図 島谷戸遺跡Ⅱ区第4面46号溝断面

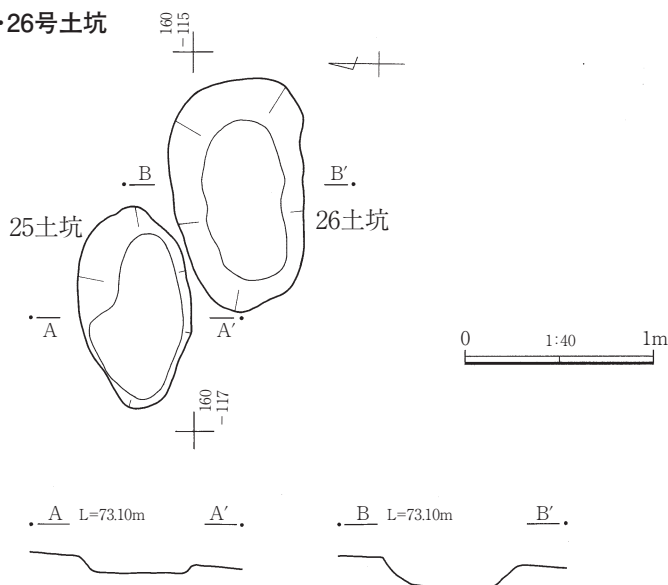
8号土坑



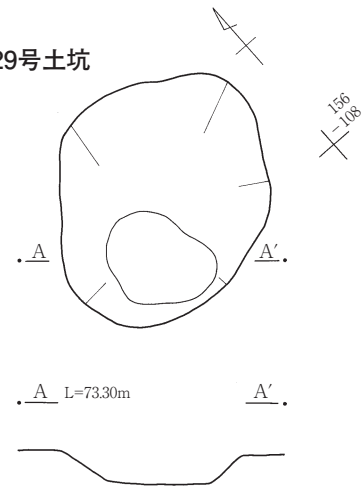
18号土坑



25・26号土坑



29号土坑



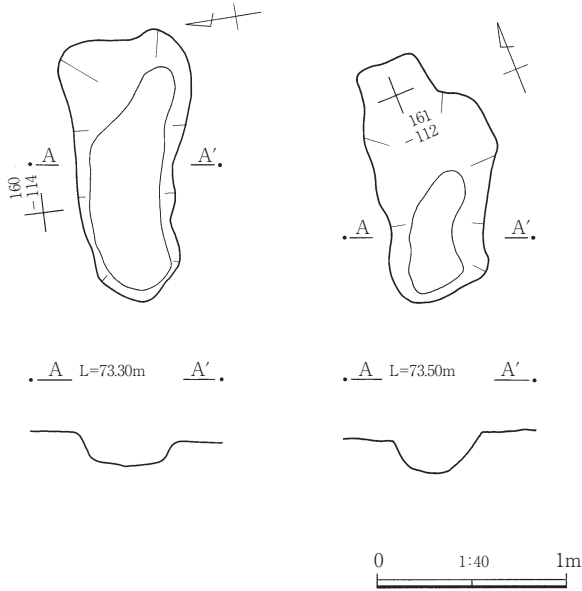
第169図 島谷戸遺跡Ⅱ区第4面8・18・25・26・29号土坑



ラバラになった破片がこの場所に散在していたものと思われる。破片はいずれも小さく、図示できる個

27号土坑

28号土坑



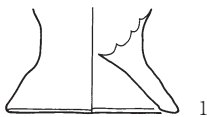
第170図 島谷戸遺跡Ⅱ区第4面27・28号土坑

体は少ない。2号、3号、4号土器集中部は土師器が出土しているが、5号土器集中部からは縄文土器のみが出土しており、この土器集中部のみは縄文時代の遺構であると思われる。それぞれの遺構の性格は不明であるが、祭祀的の遺物は含まれておらず、また、土器の集中度も散在的なので、特に意図的に土器を集めたとは思えず、廃棄された土器の破片が偶然集まって残存したものとするのが自然であろう。

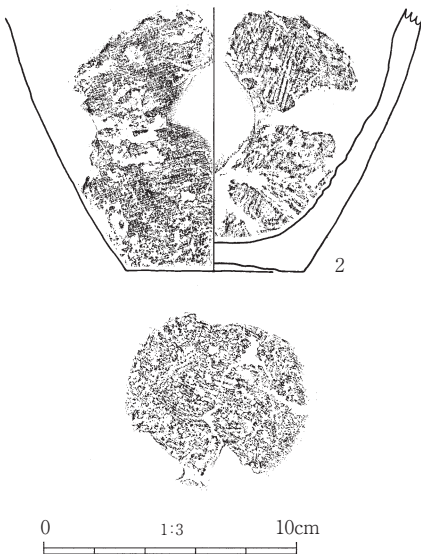
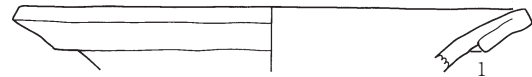
番号	位置	主軸方向	規模 (長さ×幅×深さ)	備考
8	150-110	N-47° -W	150×137×36	
18	150-110	N-50° -W	141×120×45	
25	150-110	N-79° -E	103×60×14	
26	150-110	N-85° -E	122×70×22	
27	150-110	N-85° -E	135×70×10	
28	160-110	N-14° -E	127×65×28	
29	150-100	N-39° -E	128×111×32	

第18表 島谷戸遺跡Ⅱ区第4面土坑一覧表

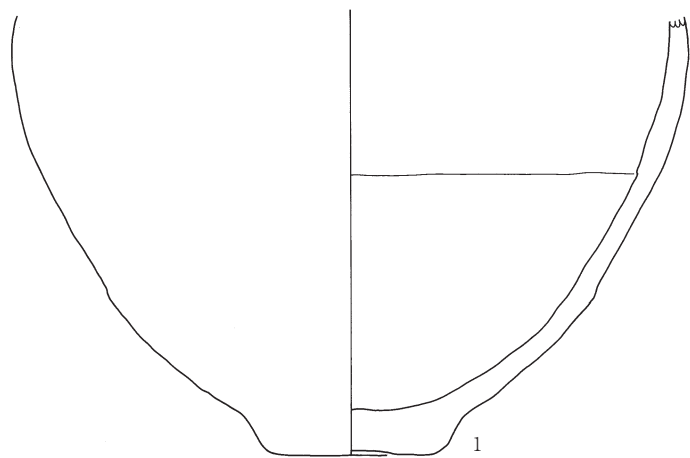
2号土器集中部出土遺物



3号土器集中部出土遺物

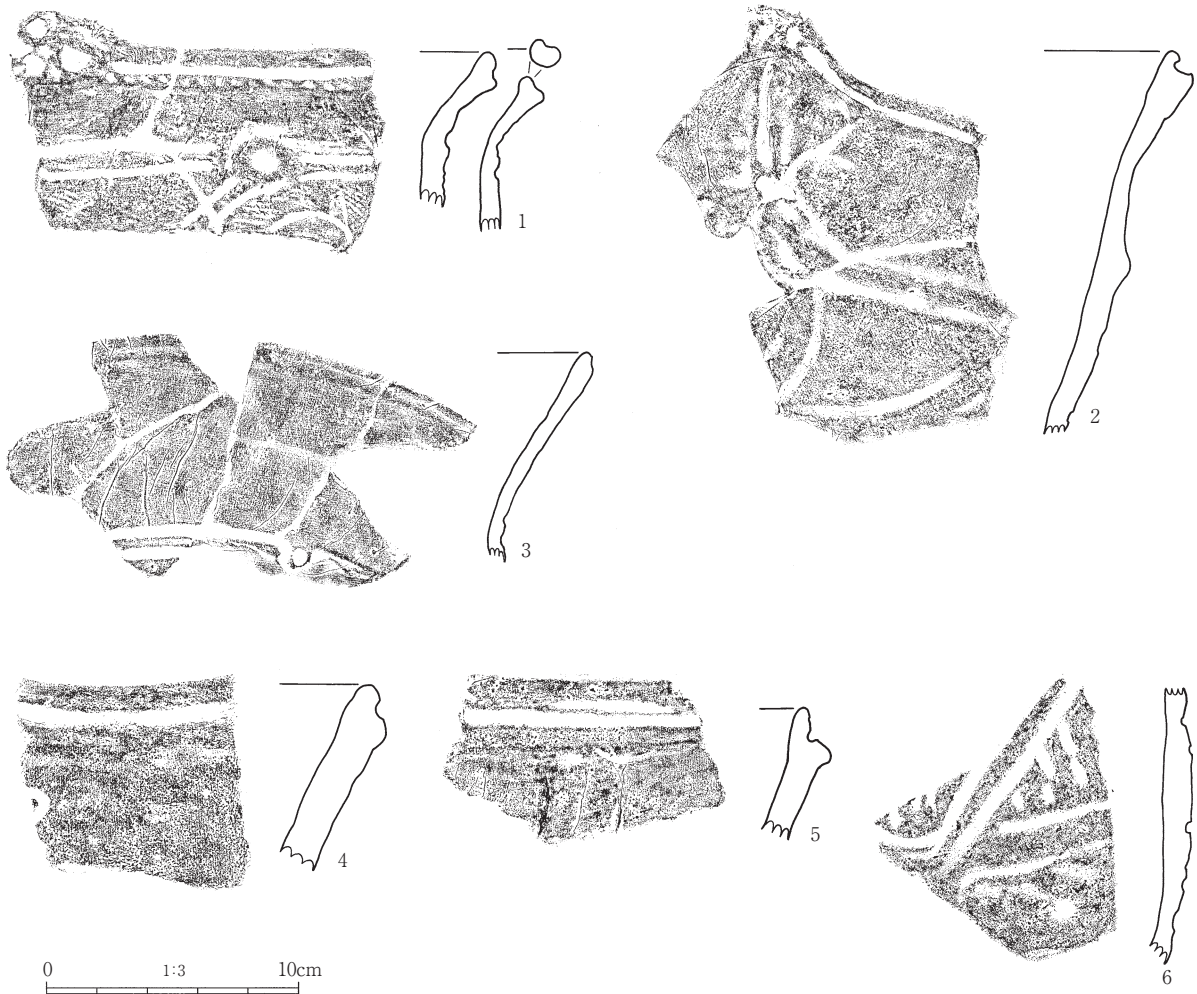


4号土器集中部出土遺物



第171図 島谷戸遺跡Ⅱ区第4面出土遺物(1)

5号土器集中部出土遺物

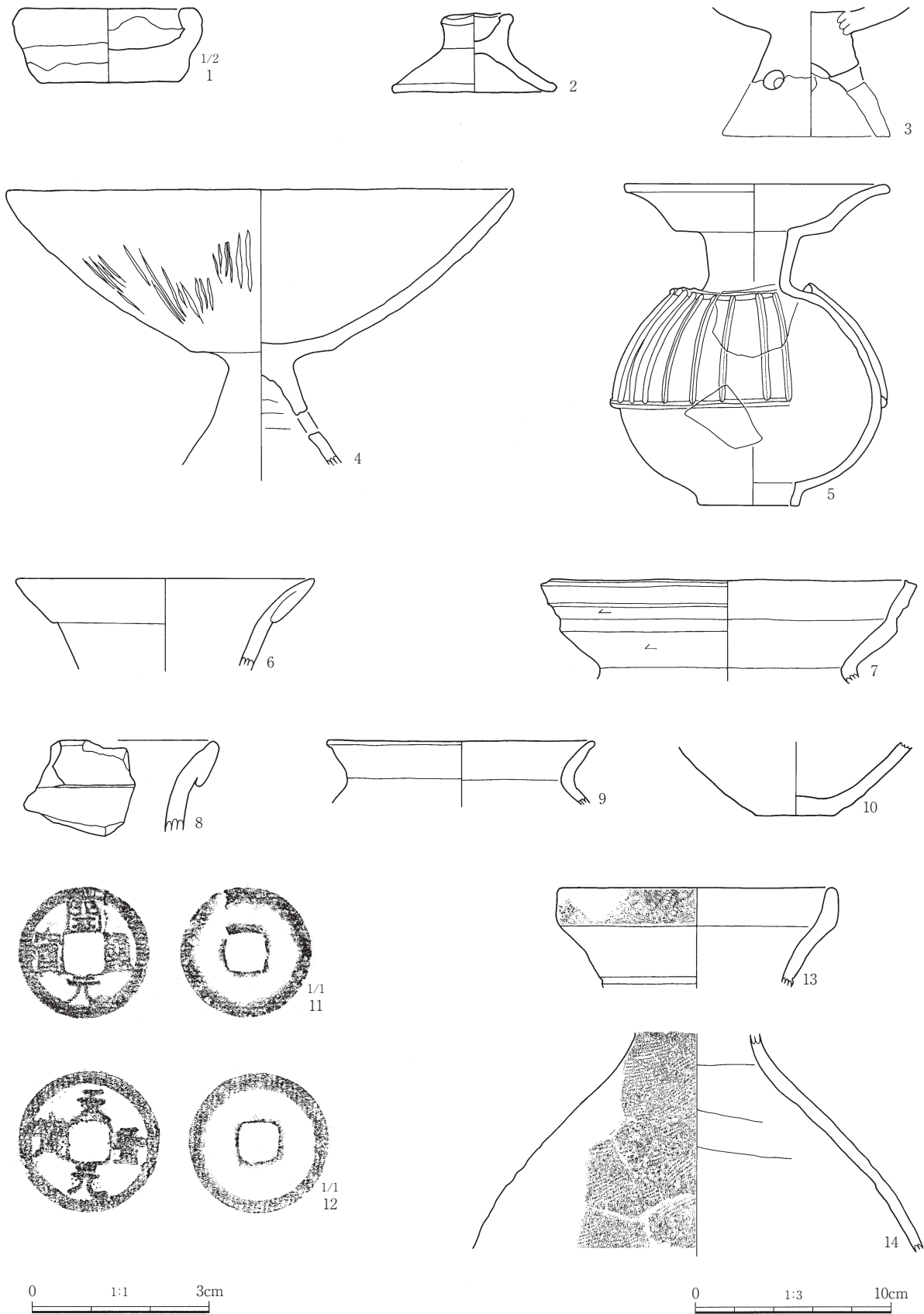


第172図 島谷戸遺跡Ⅱ区第4面出土遺物(2)

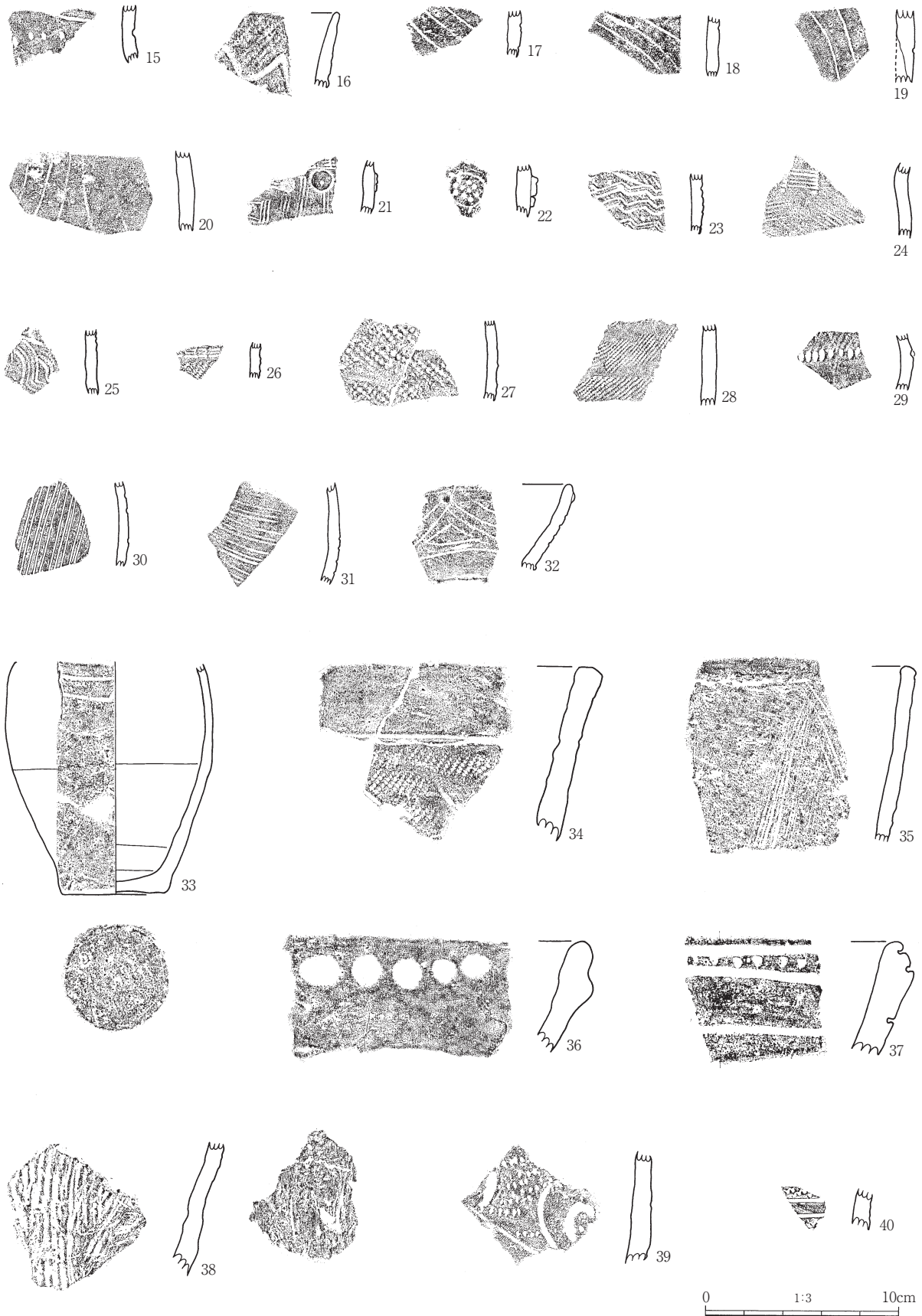
6 遺構外出土の遺物

島谷戸遺跡では、遺構外からも比較的多数の遺物が出土している。それらは第173図から第175図にかけて示したとおりである。島谷戸遺跡では、今回報告する他の区とは異なって遺物の時期が多様であり、各時期の様々な遺物が出土している。図示したのを見ると、西野原遺跡(3)Ⅷ区や(4)などで多く出土したような6世紀前半代の土師器が少なく、それ以前の土師器や弥生時代、縄文時代の遺物が多いことが分かる。弥生時代、縄文時代の遺構は、上流にあたる西野原遺跡(7)に分布しているので、大部分はその遺物が混入したものと考えられる。33の縄文土器は調査区北西隅から底面を上にした状

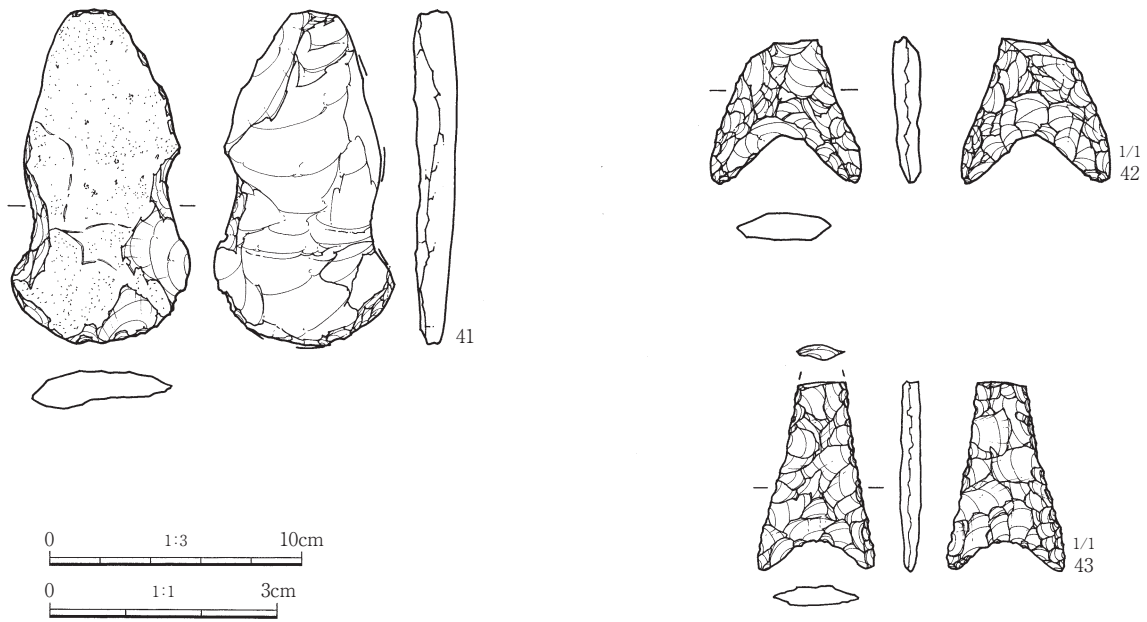
態で出土した(PL.42)。



第173図 島谷戸遺跡Ⅱ区遺構外出土遺物(1)



第174図 鳥谷戸遺跡Ⅱ区遺構外出土遺物(2)



第175図 島谷戸遺跡Ⅱ区遺構外出土遺物(3)

番号	面	規模 (m)			備考
		検出長	幅	深さ	
1	1面	11.15	0.51~0.83	0.23	埴輪片出土
2	1面	44.80	0.95~3.70	0.43	6・8溝、32坑と重複
3	1面	51.55	0.86~2.64	0.59	
4	欠番				
5	欠番				
6	1面	7.50	0.41~0.72	0.05	3溝、31坑と重複
7	1面	34.50	0.45~0.87	0.13	7・14・16溝と重複
8	1面	24.00	0.48~0.95	0.08	2溝、32坑と重複
9	1面	9.10	0.49~0.87	0.05	
10	欠番				
11	欠番				
12	1面	13.75	0.35~0.48	0.07	7・16溝と重複
13	2面	37.55	0.46~2.08	0.40	
14	1面	43.20	0.53~2.55	0.15	7・12・15・16溝と重複
15	1面	31.45	0.98~1.85	0.29	14・16溝と重複
16	1面	52.10	0.38~1.19	0.24	7・12・14・15溝と重複
29	欠番				
33~35	欠番				
36	3面	50.55	0.95~3.85	0.43	37溝と重複、45溝より新
37	3面	12.60	0.73~3.82	0.25	36溝と重複、45溝より新
38	欠番				
45	3面	26.30	1.16~7.75	0.22	東側不明瞭、36・37溝より古
46	4面	48.80	1.03~4.35	0.73	

この表にない17~28、30~32、39~44号溝は2面西部の細い溝群

第19表 島谷戸遺跡の溝一覧表

## 第10章 製鉄関連遺物

西野原遺跡(3)Ⅷ区と西野原遺跡(4)では各所から鉄滓などの製鉄関連遺物が大量に出土したので、本章はそれについて報告する。

製鉄関連遺物が数多く出土したのは(3)Ⅷ区北東端の1号溝周辺と、(4)北端の16号溝、およびそれらの周辺である。すなわち、これらの調査区の中でもより北側に集中していることになる。

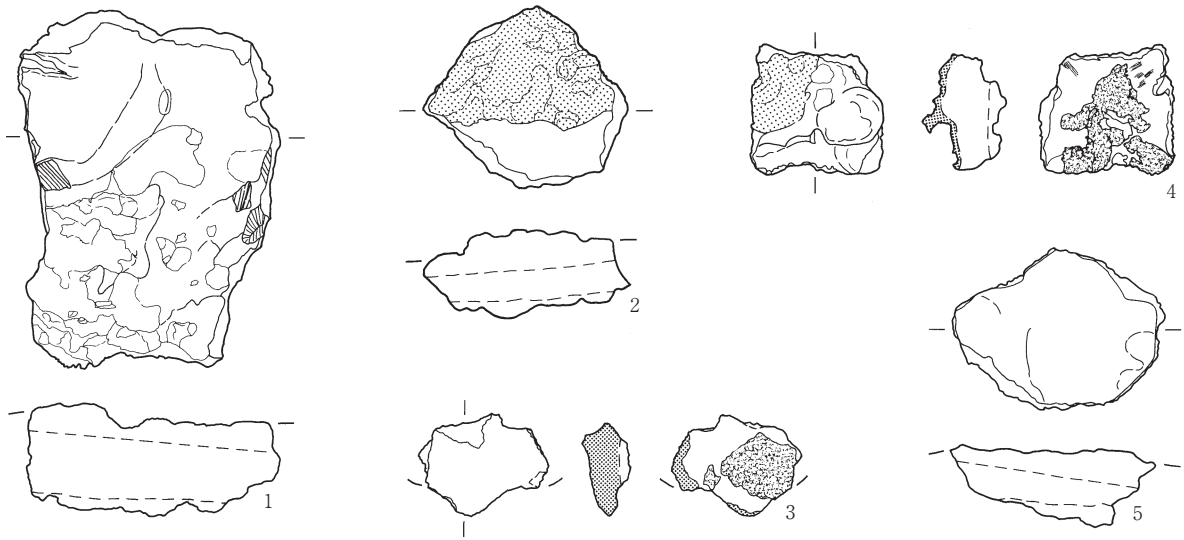
これら本遺跡出土の製鉄関連遺物を種類毎に分類したところ、製鉄に関わる各種のものが揃っていることが判明した。その様相は、本遺跡の北にある西野原遺跡(5)(7)から出土するものと共通している。西野原遺跡(5)(7)は製鉄炉や鍛冶遺構が確認され、古代の東日本では最大級の鉄生産遺跡とされている遺跡である。本遺跡内には製鉄関連の遺構は

見つかっていないので、そのため、出土した遺物は、西野原遺跡(5)(7)から持ち込まれたものと考えられる。

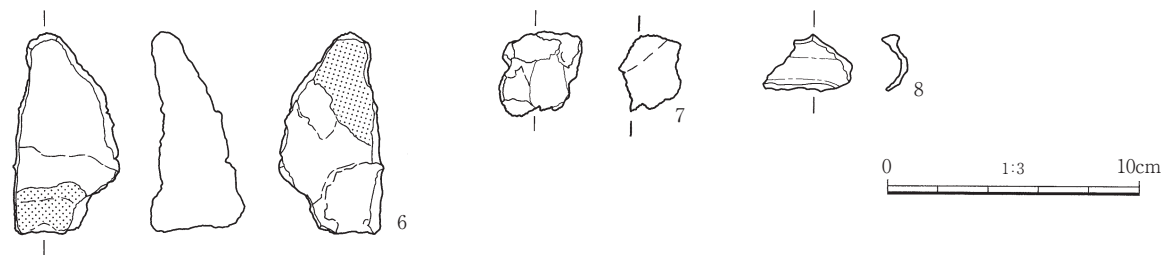
出土した遺構は溝が大部分で、その他土坑などもあるが、いずれも時期を特定できるようなものはない。(3)Ⅷ区の1号溝出土としたものは89ページで述べたとおりその周囲の溝のものも含まれていると思われるが、いずれも近世以降の溝であり、西野原遺跡(5)(7)の製鉄炉(7世紀後半)とは大きく異なっていて、基本的には混入品である。

出土した製鉄関連遺物の全体量は第21表の通りで、そのうち良好なものだけ実測図をあげた(第176図～第179図)。出土量の合計は1,055kgに達する。

炉壁

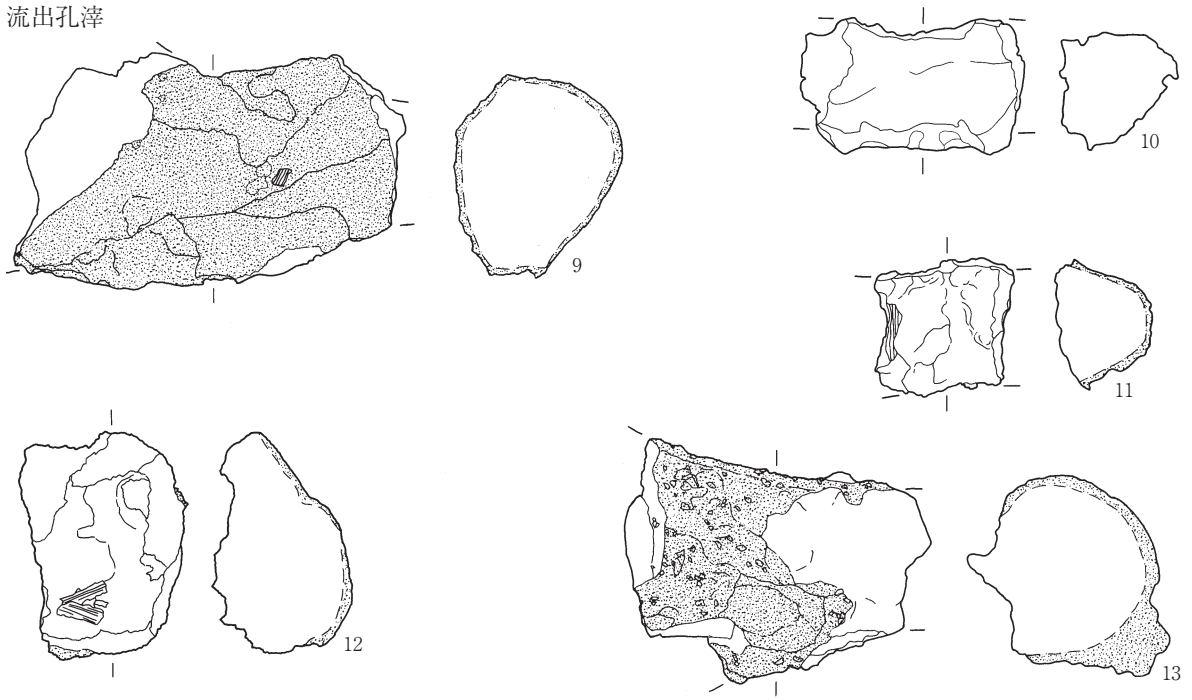


マグネタイト系遺物

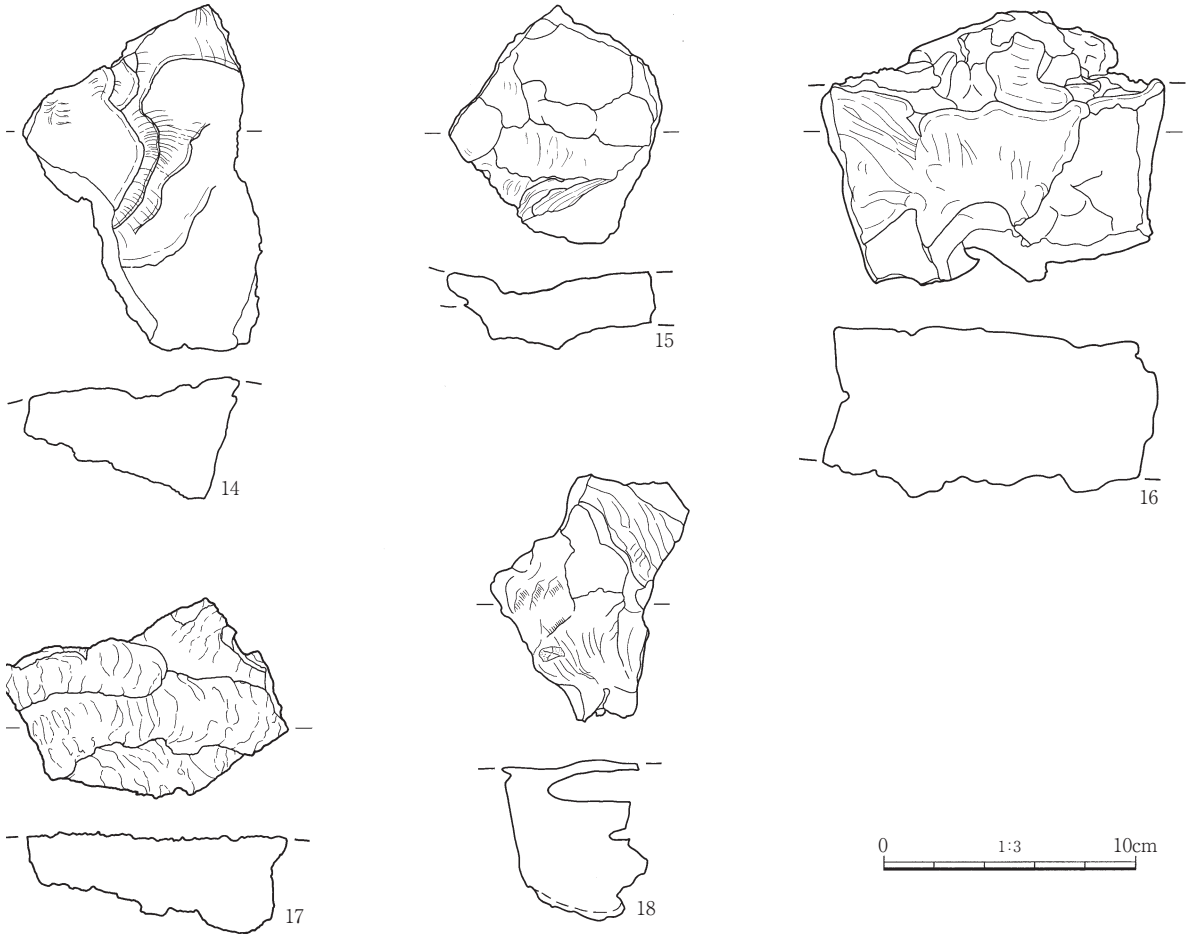


第176図 製鉄関連遺物(1)

流出孔滓



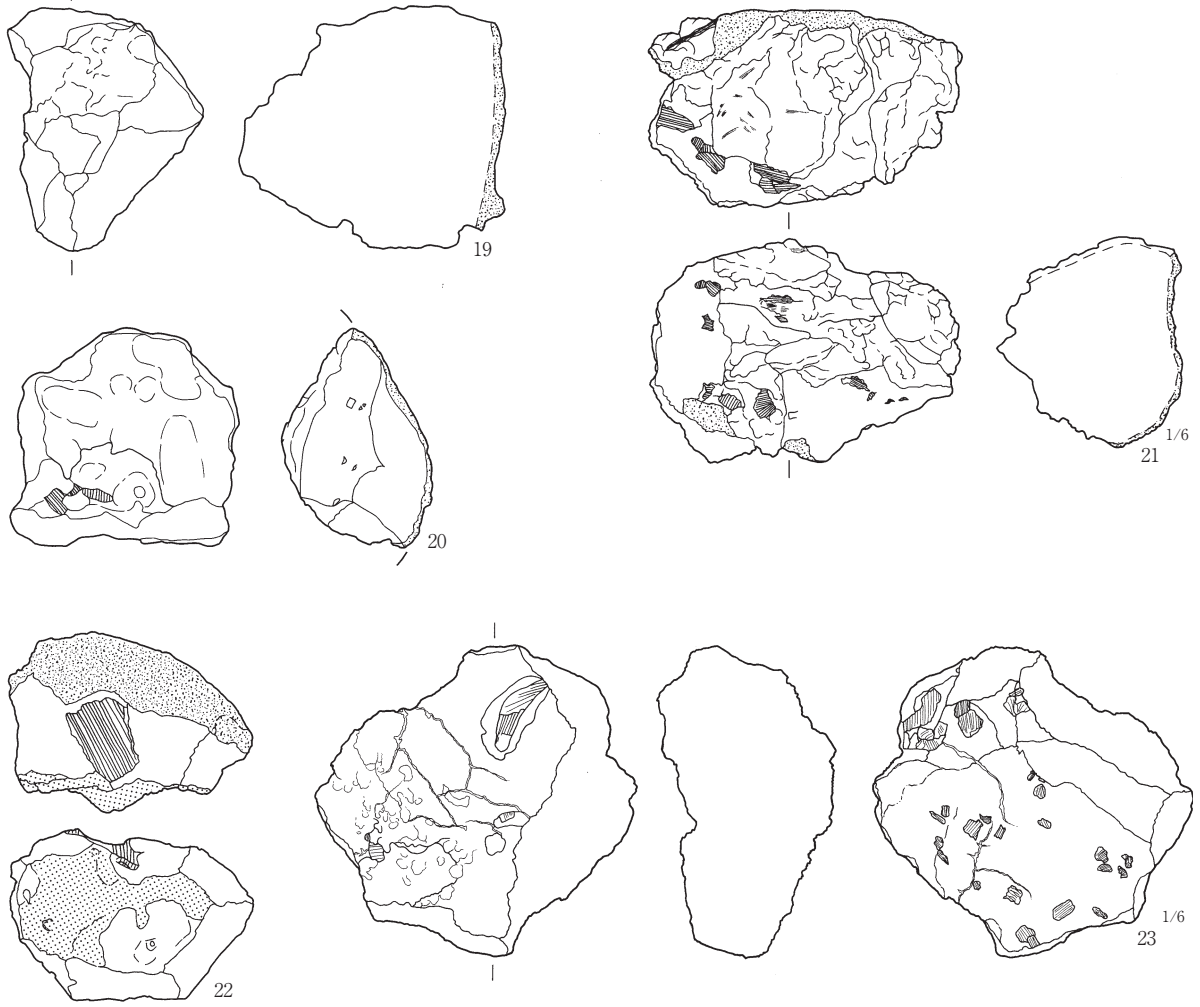
流動滓



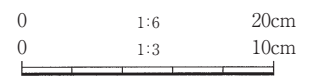
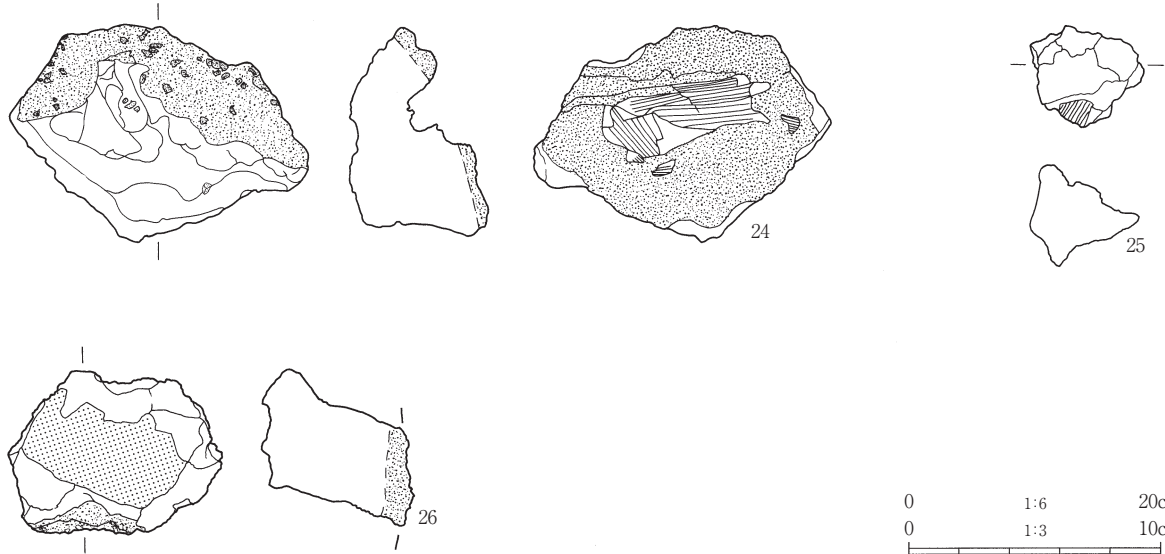
0 1:3 10cm

第177図 製鉄関連遺物(2)

炉底滓

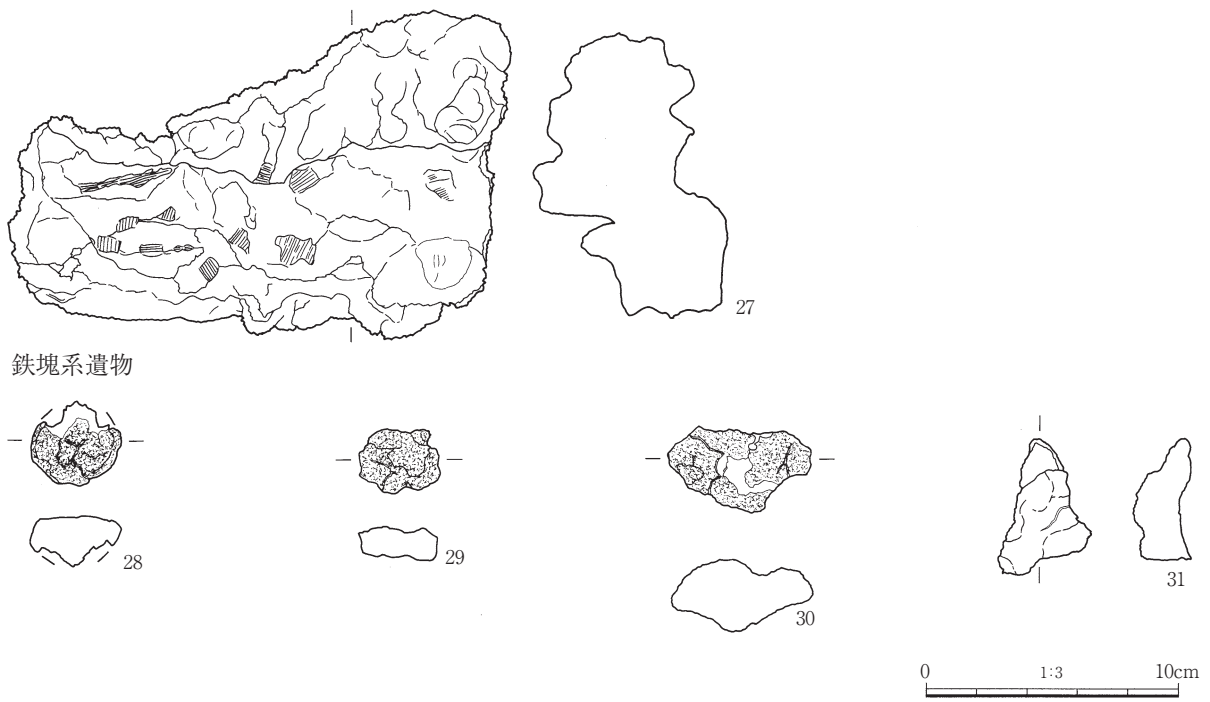


炉内滓



第178図 製鉄関連遺物 (3)

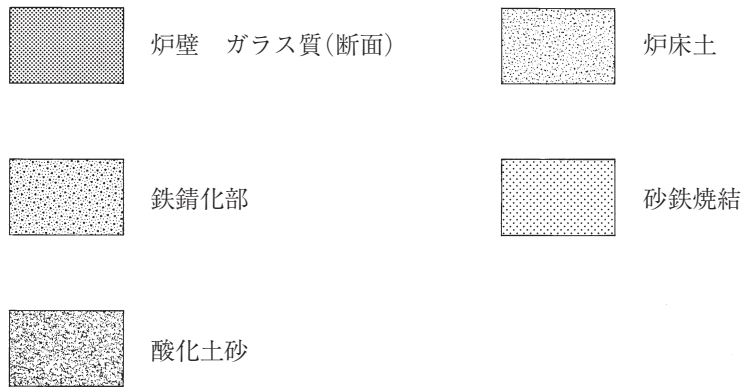




鉄塊系遺物

第179図 製鉄関連遺物（4）

鉄滓実測図中のスクリーンパターンは以下の通りである



第10章 製鉄関連遺物

No.	遺物名	出土位置	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	特徴など
			長	幅	厚さ				
1	炉壁中段	Ⅷ区1溝	10.3	14.1	5.8	500.3	2	なし	外面に多量のスサ痕あり。内面は厚さ約5mmガラス化し、約2cm程発泡。木炭痕は少なく、中段程の炉壁か。内面の錆化した含鉄部は生成鉄の一部が付着したものか。
2	炉壁 (砂鉄焼結付き)	Ⅷ区攪乱	8.1	7.2	3.4	85.7	4	なし	上半に砂鉄焼結の付着した炉壁。砂鉄焼結は一部マグネタイト化し磁着が強い。約3cmの厚さで滓化発泡。
3	炉壁 (通風孔部先端)	Ⅷ区1溝	5.1	4.0	1.9	27.3	3	なし	内面が厚さ約1cmガラス化。外面は強い酸化部あり。下端の垂れから通風孔先端部の可能性がある。
4	炉壁 (通風孔部周辺)	Ⅷ区1溝	5.3	5.1	2.7	57.8	2	なし	内面は厚さ2～3mmガラス化。内面には砂鉄焼結からマグネタイト化した部分や錆化した含鉄部も見られる。厚さ約1.5～2.0mm発泡。外面下半に強い酸化部あり。通風孔部周辺の可能性もある。
5	炉壁(通風孔部 周辺)	Ⅷ区攪乱	8.3	5.9	3.0	92.5	1	なし	厚さ2cmの滓化発泡。外面に強い酸化部分があり、通風孔部周辺の可能性あり。外面に多量のスサ痕がある。
6	マグネタイト系 遺物	Ⅷ区1溝	4.1	7.9	3.7	177	5	なし	一部砂鉄焼結の残るマグネタイト系遺物。磁着度5と強い。滓質は密で重量感がある。
7	マグネタイト系 遺物(含鉄)	Ⅷ区	3.2	3.3	2.3	36.3	5	錆化(△)	内面に含鉄部があるマグネタイト系遺物。
8	マグネタイト系 遺物(工具付着 滓か)	Ⅷ区1溝	3.5	2.2	0.7	5.8	5	なし	磁着度5と強い。形状は径2cm程の断面楕円形の工具付着滓。裏面は一部砂鉄焼結が残存。
9	流出孔滓	Ⅷ区1溝	15.5	8.3	7.2	1055.2	1	なし	上面に流動痕のない流出孔滓。表面に炉床土付着。炉床土には径2～5mm程度の角礫が混在。
10	流出孔滓	Ⅷ区1溝	8.7	5.3	5.3	244.3	1	なし	上面に流動痕のない流出孔滓。表面に炉壁土付着。断面U字状の孔滓。
11	流出孔滓	(4)16溝	5.4	5.4	4.8	151.3	1	なし	表面に炉壁片が付着した流出孔滓。径4.5cm。側面から底面に径約1～3mm大の角礫を含む。
12	流出孔滓	(4)21土 坑	8.9	6.1	6.0	524.0	1	なし	滓質は密。側面から下面に5～7mmの炉床土が付着。炉床土には1～7mm程度の角礫が混在。
13	流出孔滓	(4)190 -240G	12.1	9.6	8.4	1141	2	なし	左端約10cm、右端5.5cmの直径を持つ流出孔滓。下半には厚さ約2～7mmの炉床土が付着する。滓質は密。
14	流動滓	Ⅷ区1溝	9.3	13.6	7.1	941.8	1	なし	滓質は密。紫黒色。断面に約2～3cmの気泡あり。
15	流動滓	Ⅷ区1溝	8.4	9.4	4.1	369.6	1	なし	滓質は密。紫黒色。断面に径約1～2cmの気泡が点在。
16	流動滓	(4)21土 坑	13.5	10.8	6.7	1616.9	1	なし	滓質は密。内面上側に6cm大の横長の気泡あり。
17	流動滓	(4)4溝	11.4	7.8	3.8	462	1	なし	滓質は密。内面の気泡は1.5cm程度。
18	流動滓 (炉床土付き)	(4)205 -225G	7.8	9.8	7.0	438	2	なし	滓質は密。内面に横長の約6cm大の気泡あり。
19	炉底塊	(4)21土 坑	7.7	9.5	10.3	1064.1	2	H(○)	厚さ3mm程度の炉床土付着。炉床土には、厚さ約2～3mmの角礫が混在する。滓質は密。上面に砂鉄焼結付着。
20	炉底塊 (炉壁付き)	Ⅷ区1溝	9.2	8.5	5.9	401.6	2	H(○)	炉底塊の上半に黒色ガラス化した炉壁が付着。炉底塊の滓は密で、炉床土には径約1～4mm大の角礫が混在。
21	炉底塊(炉壁・木 炭痕付き)	(4)	24.9	18.1	14.5	8500.0	1	なし	
22	炉底塊 (砂鉄焼結付き)	Ⅷ区1溝	9.5	6.6	7.0	585.7	3	H(○)	上面に砂鉄焼結が付着した炉底塊。炉床土は1mm程度下面に付着。径2～5mm程度の角礫の混在する炉床土。
23	炉底塊(含鉄)	Ⅷ区1溝	25.7	25	15.4	10000.6	3	L(●)	放射割れもあり含鉄部を多く含む炉底塊。裏面から観察される上側面の含鉄部は、錆化が進んだ還元鉄が多く見られる。また、裏面下半の炉底部は、細かい木炭痕が観察できる。炉床土はほとんどない。
24	炉内滓 (木炭痕、炉床 土付き)	Ⅷ区1溝	11.7	8.7	6.0	630.4	1	なし	滓質は密。表面上半に炉壁片が付着。中央は流動状。下半は破面。裏面には厚さ5～7mm程度の炉床土が付着。
25	炉内滓 (木炭痕付き)	(4)16溝	4.5	4.0	4.0	86.0	2	なし	裏面に多量の幅約1.5cmの木炭痕が付着。滓質は密。
26	炉内滓 (炉床土付き)	(4)	8.5	6.5	4.5	492.4	2	なし	下面に厚さ7～10mmの炉床土付着。滓質は密。
27	炉内滓(砂鉄焼 結・木炭痕・炉 床土・炉壁付き)	(4)	19.8	12.9	11.0	1618.5	3	なし	炉壁最下段から炉床付近の炉内滓。内面には炉壁が溶解したガラス質の滓や、木炭痕を残した滓質が密な滓が混在。内面には、含鉄部や多量の木炭痕がある。外面には炉床土が付着。下面は破面である。
28	鉄塊系遺物	Ⅷ区1溝	3.6	3.3	2.0	23.4	3	H(○)	放射割れの目立つ鉄塊系遺物。錆化が進み磁着度メタル度とも低い。
29	鉄塊系遺物	Ⅷ区	3.2	2.5	1.5	20.0	4	L(●)	上面下半に酸化土砂付着。錆化済み、放射割れあり。
30	鉄塊系遺物	(4)	5.5	3.4	2.8	71.6	5	L(●)	表面が酸化土砂に覆われた鉄塊系遺物。放射割れあり。
31	鉄塊系遺物 (炉壁付き)	Ⅷ区1溝	5.3	3.6	2.0	31.3	4	なし	上半1/3が炉壁。下半2/3が鉄塊系遺物。鉄塊系遺物には放射割れも見られる。炉壁は黒色ガラス化し溶損。

第20表 西野原遺跡(3)(4) 製鉄関連遺物観察表

(単位：kg)

	西野原(3)Ⅷ	西野原(3)Ⅸ	西野原(4)	合 計
炉壁	60.160	1.880	8.017	70.057
マグネタイト系遺物	0.721	0.051	0.069	0.841
流出孔滓	11.892	0.277	2.543	14.712
流出溝滓	2.670	0.000	1.277	3.947
流動滓	612.889	6.311	37.793	656.993
炉内滓	186.562	1.000	16.594	204.156
炉内流動滓	0.000	0.031	0.000	0.031
炉内滓 (炉壁付)	0.000	0.166	0.000	0.166
炉内滓 (炉床土付)	5.879	0.000	9.174	15.053
炉底塊	53.158	1.545	17.612	72.315
炉底土	1.530	0.000	0.000	1.530
鉄塊系遺物・含鉄鉄滓	1.617	0.012	0.170	1.799
含鉄鉄滓	0.960	0.060	0.496	1.516
再結合滓	10.806	0.991	0.332	12.129
合 計	948.844	12.324	94.077	1,055.245

第21表 製鉄関連遺物総重量集計表

## 第11章 自然科学分析

島谷戸遺跡の調査においては、①土層に含まれているテフラを同定するため、②水田跡の存在を証明するため、③古代の自然環境を知るためといった目的で、自然科学分析を株式会社古環境研究所に委託して行った。以下、その報告書を収録する。

### 群馬県、島谷戸遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

#### I. 島谷戸遺跡の土層とテフラ

##### 1. はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、年代が不明な土層や遺構が検出された島谷戸遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析や屈折率測定を行って示標テフラの層位を把握し、土層や遺構の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、1区東壁、2区西壁、2区南壁、2区2号溝、2区3号溝、2区東壁の6地点である。

##### 2. 土層層序

###### (1) 1区東壁

1区東壁では、下位より黒灰褐色泥層（層厚16cm）、灰色粗粒火山灰混じり黒泥層（層厚6cm）、黒泥層（層厚6cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）、暗灰色粘質土（層厚3cm）、灰褐色粘質土（層

厚19cm）、暗灰色粘質土（層厚12cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚5cm）、暗灰色粘質土（層厚2cm）、灰色砂層（層厚14cm）、灰色土（層厚13cm）、砂混じり褐色土（層厚12cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）、灰色粘質土（層厚12cm）、亜円礫混じり暗灰褐色土（層厚58cm、礫の最大径108mm）が認められる（図1）。

###### (2) 2区西壁

2区西壁では、下位より暗灰色砂質土（層厚8cm以上）、黒泥層（層厚25cm）、灰色粗粒火山灰混じり黒灰色泥層（層厚2cm）、黒灰褐色粘質土（層厚5cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚3cm）、黒灰褐色粘質土（層厚6cm）、暗灰褐色粘質土（層厚7cm）、亜円礫混じり灰褐色土（層厚32cm、礫の最大径18mm）、灰褐色土（層厚17cm）、暗灰色粘質土（層厚8cm）、灰色粘質土（層厚5cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚5cm）、黄灰色砂質土（層厚3cm）、灰色土（層厚10cm）、灰褐色土（層厚10cm）、暗灰色土（層厚11cm）、暗灰褐色表土（層厚13cm）が認められる（図2）。

###### (3) 2区南壁

2区南壁では、下位より灰褐色シルト質砂層（層厚10cm以上）、灰褐色砂層（層厚9cm）、黒泥層（層

厚19cm)、灰色砂層(層厚6cm)、暗灰褐色粘質土(層厚3cm)、白色軽石混じり黄灰色粗粒火山灰層(層厚2cm, 軽石の最大径8mm)、暗灰褐色粘質土(層厚7cm)、灰褐色粘質土(層厚27cm)、暗灰色粘質土(層厚15cm)、暗灰色粘質土(層厚6cm)、黄灰色粗粒火山灰層(層厚3cm)、砂混じり暗灰色土(層厚5cm以上)が認められる(図3)。

#### (4) 2区2号溝

2区2号溝の覆土は、下位より暗灰色粘質土(層厚7cm)、黒灰色粘質土(層厚11cm)、成層したテフラ層(層厚10cm)、砂混じり暗灰褐色土(層厚12cm)、暗灰褐色土(層厚9cm)、砂混じり灰褐色土(層厚15cm)、黄灰褐色土(層厚7cm)、灰褐色土(層厚10cm)、灰褐色表土(層厚14cm)からなる(図4)。これらのうち、成層したテフラ層は、下部の黄灰色粗粒火山灰層(層厚8cm)と上部の桃色細粒火山灰層(層厚2cm)からなる。

#### (5) 2区3号溝

2区3号溝の基盤の土層は、下位より砂混じり暗灰褐色土(層厚11cm)、砂混じり暗灰色土(層厚12cm)、暗灰色土(層厚9cm)、暗灰褐色粘質土(層厚11cm)、白色軽石混じり灰白粗粒火山灰層(層厚3cm, 軽石の最大径9mm)、黒灰色粘質土(層厚7cm)などが認められる。ただし、正確な溝の構築面については不明である。一方、2区3号溝の覆土は、下位より亜円礫混じり灰色砂礫層(層厚6cm, 礫の最大径33mm)、黒灰色粘質土(層厚16cm)、成層したテフラ層(層厚6cm)、灰色細粒火山灰層(層厚0.8cm)、暗灰褐色土(層厚12cm)、灰褐色土(層厚17cm)、灰褐色表土(層厚16cm)からなる(図5)。これらのうち、成層したテフラ層は、下部の黄灰色粗粒火山灰層(層厚4cm)と上部の桃色細粒火山灰層(層厚2cm)からなる。

#### (6) 2区東壁

2区東壁の土層は、下位より灰褐色砂質土(層厚

37cm以上)、灰色砂質土(層厚11cm)、砂混じり暗灰褐色土(層厚5cm)、暗灰褐色土(層厚6cm)、灰褐色表土(層厚21cm)が認められる。

### 3. テフラ検出分析

#### (1) 分析試料と分析方法

テフラの特徴とその降灰層準を把握するために、基本的に5cmごとに採取された試料のうち、44点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は、次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

#### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。1区東壁では、試料25から試料22にかけて、また試料15にスポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石(最大径2.0mm)が含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。この軽石は、試料23から試料22にかけて比較的多く含まれている。試料23から試料15にかけては、さほど発泡が良くない白色軽石(最大径1.2mm)が認められる。軽石の班晶には、角閃石や斜方輝石が含まれている。試料13のテフラ層には、比較的良く発泡した淡褐色軽石(最大径1.9mm)がとくに多く含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

2区西壁では、試料19から試料17にかけて、また試料11や試料9に、スポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石(最大径2.1mm)が含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。とくに試料18に多く認められる。試料23'から試料15にかけて、また試料13から試料9にかけては、さほど発泡が良くない白色軽石(最大径7.8mm)が認められる。軽石の班晶には角閃石や斜方輝石が含まれている。とくに試料16のテフラ層に多く含まれて

いる。試料1のテフラ層には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径1.9mm）がとくに多く含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

2区南壁では、試料3と試料2に、スポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径3.7mm）が多く含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

2区3号溝では、試料4にスポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径1.9mm）が少量含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料4と試料3には、さほど発泡が良くない白色軽石（最大径5.3mm）が含まれている。この軽石の班晶には、角閃石や斜方輝石が含まれている。さらに試料1のテフラ層には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径1.9mm）がとくに多く含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

#### 4. 屈折率測定

##### (1) 測定試料と測定方法

テフラの特徴記載および示標テフラとの同定を行うために、1区東壁の試料23について、温度一定型屈折率測定法（新井, 1972, 1993）により、テフラ粒子の屈折率測定を試みた。

##### (2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。試料23に含まれる火山ガラスの屈折率（ $n$ ）は、1.513–1.520である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、ごく少量の角閃石が含まれている。斜方輝石（ $\gamma$ ）の屈折率は、1.707–1.710である。

#### 5. 考察

1区東壁の試料23に含まれるテフラ粒子のうち、灰白色軽石で特徴づけられるテフラは、その岩相や屈折率などから、4世紀中葉\*<sup>1</sup>に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979）

に由来すると考えられる。したがって、2区西壁の試料18付近、2区南壁の試料3付近に降灰層準があると考えられるテフラも、As-Cと推定される。

また、班晶に角閃石や斜方輝石をもち、さほど発泡の良くない白色軽石の多くは、その特徴から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳洪川テフラ（Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992）に由来する可能性が高い。したがって、1区東壁の試料21、2区西壁の試料16、2区南壁の試料1のテフラ層については、いずれもHr-FAに同定される。なお、1区東壁の試料23'に含まれる白色軽石や角閃石については、5世紀に榛名火山から噴出したと推定されている榛名有馬火山灰（Hr-AA, 町田ほか, 1984）に由来する可能性も考えられる。

班晶に斜方輝石や単斜輝石をもつ淡褐色軽石は、岩相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979）に由来する。したがって、1区東壁の試料13、2区西壁の試料1、2区3号溝の試料1のテフラ層、さらに同じ層相をもつ2区南壁の最上位の火山灰層や2区2号溝の試料1のテフラ層も、As-Bに同定される。層相やAs-Bのすぐ上位にあることなどから、2区3号溝のAs-B直上の灰色細粒火山灰層については、1128（大治3）年に浅間火山から噴出したと推定されている浅間粕川テフラ（As-Kk, 早田, 1991, 1995）に同定される。

以上のことから、2区2号溝の層位はAs-Bより下位にあることがわかる。また3号溝の層位は、Hr-FAより上位で、As-Bより下位にあると考えられる。

#### 6. 小結

島谷戸遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間C軽石（As-C, 4世紀中葉\*<sup>1</sup>）、榛名二ツ岳洪川テフラ（Hr-FA, 6世紀初頭）、浅間Bテフラ（As-B, 1108年）、浅間粕川テフラ（As-Kk, 1128年）など、多くのテフラを認めることができた。発掘調査によ

り検出された2区2号溝はAs-Bより下位、また3号溝はHr-FAより上位でAs-Bより下位に層位があると推定される。

\*1 現在では4世紀を遡るとする説が有力になっているようである（たとえば、若狭，2000）。しかし、具体的な年代観が示された研究報告例はまだない。現段階においては「3世紀後半」あるいは「3世紀終末」と考えておくのが妥当なのかも知れないが、土器をもとにした考古学的な年代観の変更については、考古学研究者による明確な記載を待ちたい。

## 文献

- 新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定  
 -テフクロロジーの基礎的研究。第四紀研究，11，p.254-269.
- 新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。  
 考古学ジャーナル，no.53，p.41-52.
- 新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法-研究対象別分析法」，p.138-148.
- 荒牧重雄（1968）浅間火山の地質。地団研専報，no.45，65p.
- 町田 洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス。東京大学出版会，276p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫（1984）テフラと日本考古学-考古学研究と関係するテフラのカタログ-。古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」，p.865-928.
- 坂口 一（1986）榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p.103-119.
- 早田 勉（1989）6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究，27，p.297-312.
- 早田 勉（1991）浅間火山の生い立ち。佐久考古通信，no.53，p.2-7.
- 早田 勉（1995）テフラからさぐる浅間山の活動史。御代田町誌自然編，p.22-43.
- 早田 勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴

-とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて-。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，7，p.256-267.

若狭 徹（2000）群馬の弥生土器が終わるとき。かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く-古墳が成立する頃の土器の交流」，p.41-43.

表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石の量	軽石の色	調軽石の最大径 (mm)	
1区東壁	1	+	淡褐	0.9	
	3	++++	淡褐	1.6	
	5	++	淡褐	1.3,1.4	
	7	++	淡褐	1.4,2.0	
	9	+++	淡褐	1.9	
	11	+++	淡褐	1.8	
	12	++	淡褐	2.2	
	13	++++	淡褐	1.9	
	15	+	白>灰白	2.1,1.3	
	17	+	白	3.1	
	19	++	白	3.0	
	20	++	白	2.4	
	21	+++	白	5.0	
	22	++	灰白>白	1.3,1.2	
	23	++	灰白>白	1.6,1.2	
	25	+	灰白	1.2	
	2区西壁	1	++++	淡褐	1.9
		2	+	淡褐	1.2
		3	+	淡褐	1.1
		5	-	-	-
		7	-	-	-
		9	+	白, 灰白	2.0,1.7
		11	+	白, 灰白	4.8,1.3
		13	+	白	2.3
		14	-	-	-
15		+	白	1.3	
16		+++	白	8.1	
17		++	灰白>白	1.9,2.8	
18		+++	灰白	2.1	
19		+	灰白	0.9	
21		-	-	-	
23	-	-	-		
2区南壁	2	++	灰白	2.5	
	3	+++	灰白	3.71	
	5	-	-	-	
	7	-	-	-	
	9	-	-	-	
	11	-	-	-	
2区3号溝	1	++++	淡褐	1.9	
	3	+	白	1.0	
	4	++	白>灰白	5.3,1.9	
	5	-	-	-	
	7	-	-	-	
	9	-	-	-	
	11	-	-	-	

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない.



表2 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス (n)	重鉱物	斜方輝石 ( $\gamma$ )
1区東壁	23	1.513-1.520	opx>cpx, (ho)	1.707-1.710

屈折率の測定は、温度一定型測定法（新井，1972，1993）による。

opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ho: 普通角閃石. () は、量が少ないことを示す.

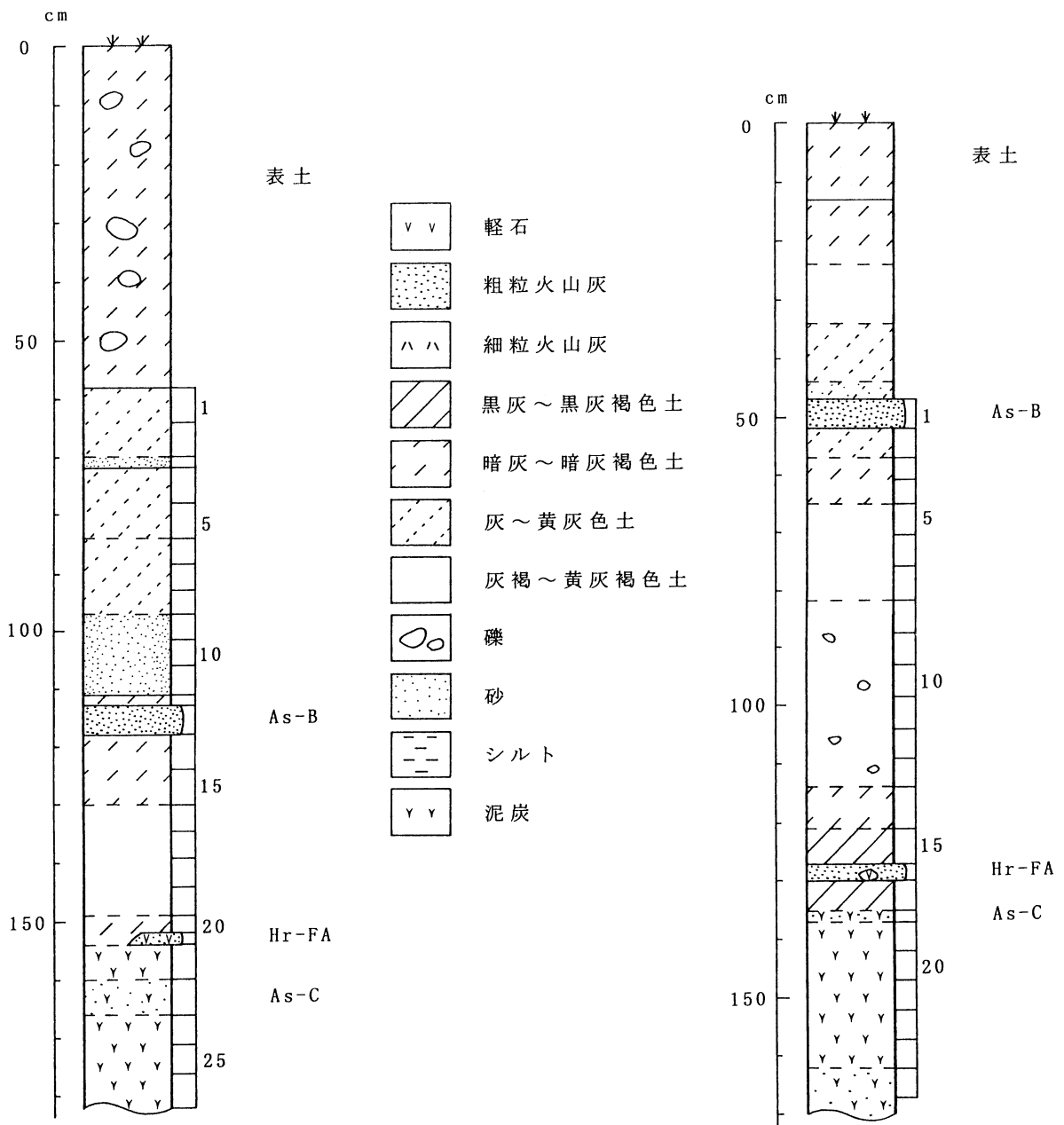


図1 鳥谷戸遺跡1区東壁の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

図2 鳥谷戸遺跡2区西壁の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

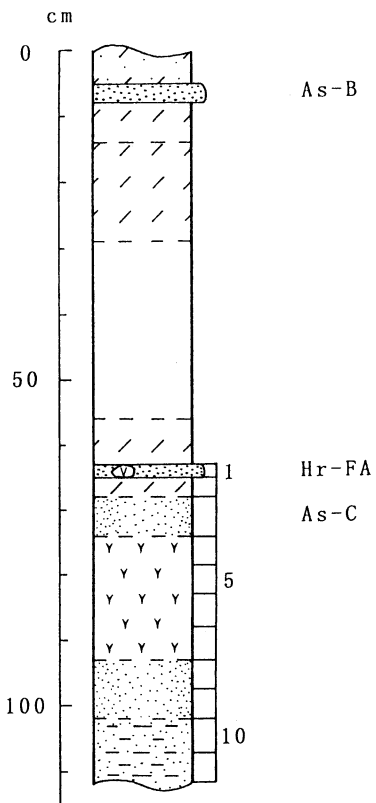


図3 鳥谷戸遺跡2区南壁の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

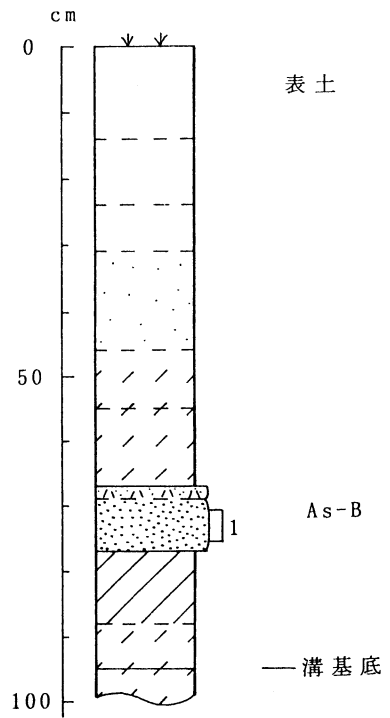


図4 鳥谷戸遺跡2区2号溝の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

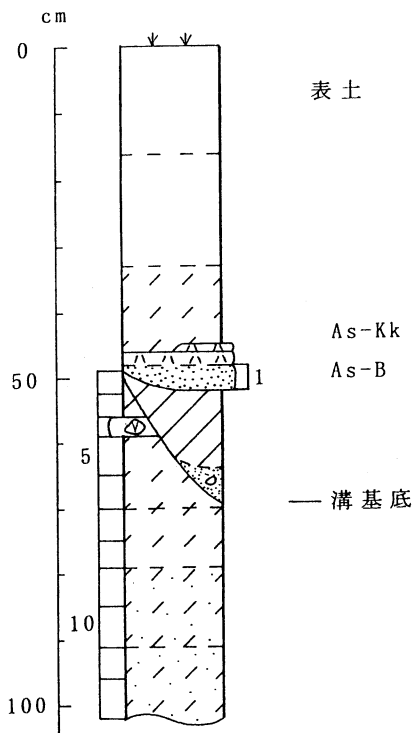


図5 鳥谷戸遺跡2区3号溝の土層柱状図  
数字はテフラ分析の試料番号

## II. 島谷戸遺跡におけるプラント・オパール分析

### 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (杉山, 2000)。

### 2. 試料

試料は、1区東壁、2区西壁、2区南壁の3地点から採取された計27点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

### 3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40 $\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚

分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:  $10^{-5}\text{g}$ ) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ (赤米) の換算係数は2.94、ヒエ属 (ヒエ) は8.40、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属 (ススキ) は1.24、タケ亜科 (ネザサ節) は0.48である。

### 4. 分析結果

水田跡 (稲作跡) の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

### 5. 考察

#### (1) 水田跡の検討

水田跡 (稲作跡) の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している (杉山, 2000)。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

#### 1) 1区東壁

As-A直下層 (試料1) からAs-Cの下層 (試料9) までの層準について分析を行った。その結果、As-A直下層 (試料1) とその下層 (試料2)、As-B直上層 (試料3)、As-Bの下層 (試料5) からイネが検

出された。このうち、As-A直下層（試料1）とその下層（試料2）、As-Bの下層（試料5）では密度が3,000～3,800個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では、稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。As-B直上層（試料3）では、密度が700個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

## 2) 2区西壁

As-B直下層（試料1）からAs-Cの下層（試料8）までの層準について分析を行った。その結果、As-Bの下層（試料1'）とその下位層（試料3）からイネが検出された。密度は800～1,500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

## 3) 2区南壁

As-B直下層（試料1）、およびHr-FA直下層（試料2）からAs-Cの下層（試料4～6）までの層準について分析を行った。その結果、イネはいずれの試料からも検出されなかった。

## (2) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。

おもな分類群の推定生産量によると、As-Bより下位層準ではおおむねヨシ属が優勢であり、とくにAs-Bの上下層やAs-Cの下層ではヨシ属が卓越していることが分かる。また、2区西壁のAs-B下層やAs-C下層などでは、タケ亜科（おもにネザサ節）も多くなっている。

以上のことから、稲作が開始される以前の遺跡周

辺は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、As-Bの下位層の時期にそこを利用して調査区の一部で水田稲作が開始されたと推定される。なお、稲作の開始以降もヨシ属が多く見られることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育していたことや、休閑期間中にヨシ属が繁茂していたことなどが想定される。また、当時の調査区周辺にはネザサ節なども多く分布していたと推定される。

## 6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、1区東壁の浅間A軽石（As-A, 1783年）直下層とその下層、および浅間Bテフラ（As-B, 1108年）の下層では、イネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、2区西壁のAs-B下層などでも稲作が行われていた可能性が認められた。

本遺跡周辺は、稲作が開始される以前はヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、As-Bの下位層の時期にそこを利用して調査区の一部で水田稲作が開始されたと推定される。

## 文献

- 杉山真二 (2000) 植物珪酸体 (プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.
- 藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1)- 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5)- プラント・オパール分析による水田址の探査-. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

表1 島谷戸遺跡におけるプラント・オパール分析結果  
 検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	1区東壁							2区西壁												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	9'	1	1'	2	3	4	5	6	7	7'	8
イネ	<i>Oryza sativa</i>	38	30	7		37								8	15						
ヒエ属型	<i>Echinochloa type</i>							8													
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	15	105	30	22	15	30	68	23	61	38	68	45	7	15	38	22	53	68	82	
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	15		8	22	15	38	38	30	15	8	30	22	22	60	8	15	38	38	15	
タケ亜科	Bambusoideae	60	83	52	105	30	90	99	98	188	114	196	218	195	105	112	83	90	143	249	

推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>	1.10	0.88	0.22		1.10								0.22	0.44						
ヒエ属型	<i>Echinochloa type</i>							0.64													
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0.95	6.61	1.89	1.42	0.95	1.91	4.28	1.42	3.83	2.37	4.28	2.83	0.47	0.94	2.38	1.41	3.33	4.28	5.20	
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	0.19		0.09	0.28	0.19	0.47	0.47	0.37	0.19	0.09	0.37	0.28	0.28	0.74	0.09	0.19	0.47	0.47	0.19	
タケ亜科	Bambusoideae	0.29	0.40	0.25	0.50	0.14	0.43	0.47	0.47	0.90	0.55	0.94	1.05	0.93	0.50	0.54	0.40	0.43	0.69	1.19	

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	2区南壁			
		1	2	3	4
イネ	<i>Oryza sativa</i>				6
ヒエ属型	<i>Echinochloa type</i>				
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	90	8	38	15
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	22	8	8	7
タケ亜科	Bambusoideae	82	113	75	90

推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>																				
ヒエ属型	<i>Echinochloa type</i>																				
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	5.66	0.47	2.38	0.95	3.29	9.01	2.39													
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	0.28	0.09	0.09	0.09	0.55	0.19	0.09													
タケ亜科	Bambusoideae	0.39	0.54	0.36	0.43	0.43	0.22	0.15													

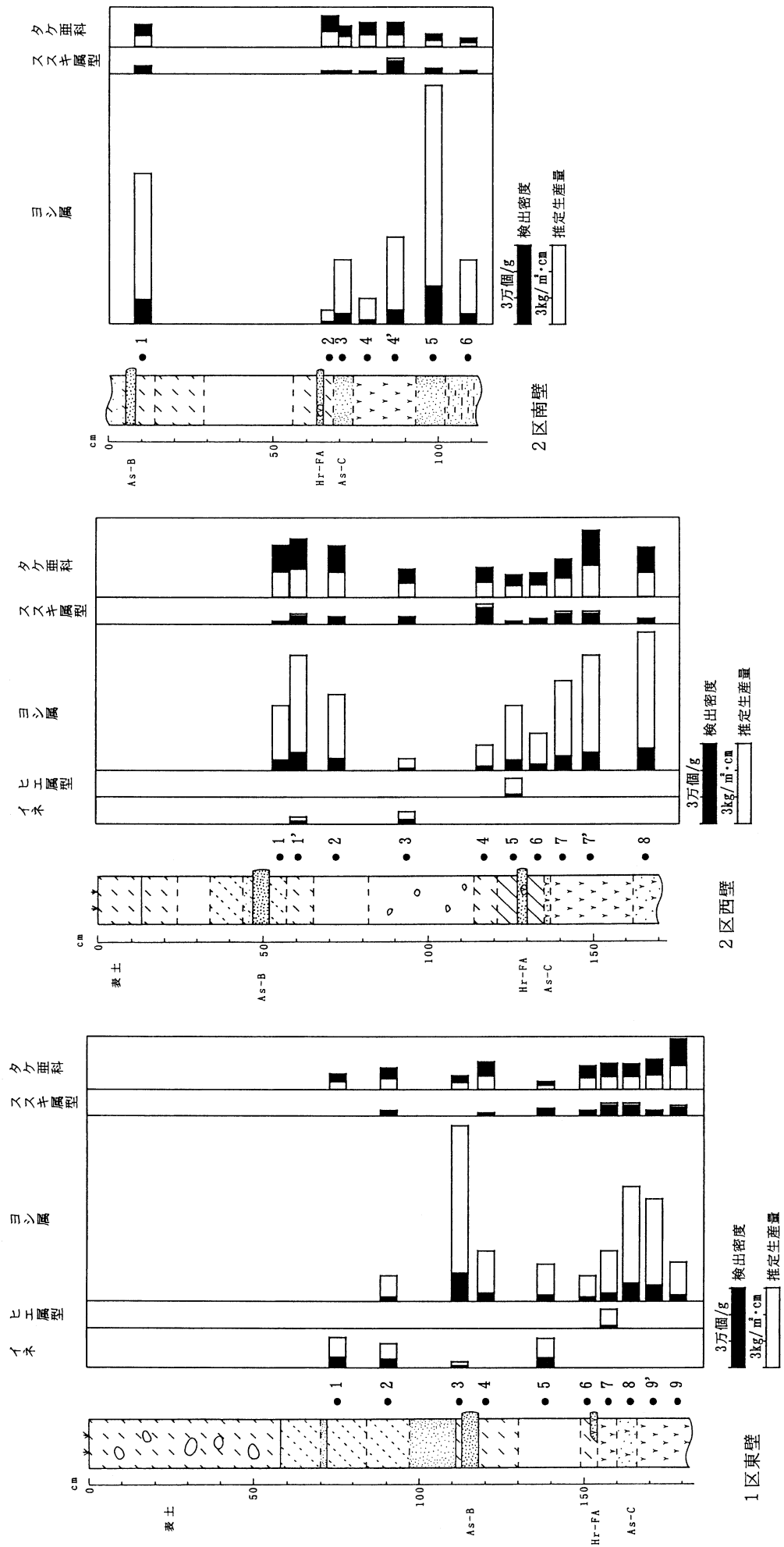


図1 島谷戸遺跡におけるプラント・オパールの分析結果

### Ⅲ. 島谷戸遺跡における花粉分析

#### 1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

#### 2. 試料

試料は、2区西壁から採取された計10点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

#### 3. 方法

花粉粒の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎
- 2) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 4) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す
- 5) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種があるこ

とからイネ属型とした。

#### 4. 結果

##### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉24、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉18、シダ植物孢子2形態の計45である。分析結果を表1に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

##### [樹木花粉]

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤマモモ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、ウルシ属、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、ミズキ属、ニワトコ属-ガマズミ属  
[樹木花粉と草本花粉を含むもの]

##### クワ科-イラクサ科

##### [草本花粉]

ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、タデ属サナエタデ節、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、コウホネ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、セリ亜科、ゴキヅル、タンポポ科、キク亜科、ヨモギ属  
[シダ植物孢子]

##### 単条溝孢子、三条溝孢子

##### (2) 花粉群集の特徴

花粉群集の特徴とその変遷から、下位よりI帯、II帯、III帯の花粉分帯を設定した。以下に、各分帯ごとに花粉群集の特徴を記載する。

- 1) I帯：試料6、試料7

シダ植物胞子の占める割合が高く、樹木花粉より草本花粉の割合が高い。草本花粉では、ヨモギ属が優占し、イネ科、カヤツリグサ科、キク亜科などが低率に伴われる。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、モミ属などが出現する。

## 2) II帯：試料4、試料5

樹木花粉よりも草本花粉の出現率がやや高い。草本花粉では、ヨモギ属、カヤツリグサ科、イネ科が多く、ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ、タデ属サナエタデ節、コウホネ属などが低率に伴われる。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属が優占し、コナラ属アカガシ亜属、シイ属、スギなどが伴われる。

## 3) III帯：試料1～試料2

樹木花粉よりも草本花粉の占める割合が高い。草本花粉では、カヤツリグサ科、ヨモギ属、イネ科が多く、クワ科-イラクサ科、キク亜科、タンポポ亜科などが伴われる。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、シイ属、クリなどが出現する。

## 5. 花粉分析から推定される植生と環境

浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉)の下位層では、花粉がほとんど検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられるが、水流による淘汰を受けた可能性も想定される。

As-C直下層および榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)直下層の堆積当時は、シダ植物やヨモギ属を主に、イネ科やカヤツリグサ科などの草本が繁茂する状況であったと推定される。ヨモギ属とシダ植物はやや乾燥したところに生育し、イネ科やカヤツリグサ科の多くは湿潤な環境に生育することから、当時は乾燥と湿潤を繰り返す環境であった可能性が考えられる。また、周辺地域にはコ

ナラ属コナラ亜属(ナラ類)、コナラ属アカガシ亜属(カシ類)、モミ属などを構成要素とする森林が分布していたと推定される。

Hr-FA直上層およびその上層では、ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、コウホネ属などの抽水植物や、イボクサ、タデ属サナエタデ節などの湿生植物が検出されることから、相対的に湿潤な環境であったと考えられる。また、周辺地域にはナラ類、カシ類、シイ類、スギなどを構成要素とする森林が分布していたと推定される。

浅間Bテフラ(As-B, 1108年)直下層およびその下層の堆積当時は、カヤツリグサ科を主としてヨモギ属、イネ科などの草本が生育するやや湿潤な環境であったと考えられ、周辺にはクワ科-イラクサ科、キク亜科、タンポポ亜科などの耕地雑草ないし人里植物も分布していたと推定される。また、周辺地域にはナラ類、カシ類、シイ類、クリなどを構成要素とする森林が分布していたと考えられる。

## 文献

- 中村純(1973)花粉分析. 古今書院, p.82-110.
- 金原正明(1993)花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本 第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.
- 烏倉巳三郎(1973)日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.
- 中村純(1980)日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
- 中村純(1974)イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.
- 中村純(1977)稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.



Ⅲ. 島谷戸遺跡における花粉分析

表1 島谷戸遺跡における花粉分析結果

学名	分類群	和名	2区西壁																		
			1	1'	2	3	4	5	6	7	7'	8									
Arboreal pollen		樹木花粉																			
<i>Podocarpus</i>		マキ属																		1	
<i>Abies</i>		モミ属				1			4	5	2	3									
<i>Tsuga</i>		ツガ属						1	1	1	1	2									
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>		マツ属複雑管束亜属	1	1					2	1		1									
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	1	2	2	1	6	8				1									
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科 - イヌガヤ科 - ヒノキ科	1		1	1	3														
<i>Myrica</i>		ヤマモモ属				1	1														
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サワグルミ			1			1	1	1											
<i>Alnus</i>		ハンノキ属			1	6	3														
<i>Betula</i>		カバノキ属			1	1	3	2													
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属 - アサダ					2	3	2												
<i>Castanea crenata</i>		クリ	3		4	2	3	4	1												
<i>Castanopsis</i>		シイ属	4	2	7	1	4	12													
<i>Fagus</i>		ブナ属			1	2	1	4													
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	15	12	17	1	46	88	13	8											
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	5	1	10	2	28	22	8	1											
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属 - ケヤキ			1		1	2													
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属 - ムクノキ					2	2													
<i>Rhus</i>		ウルシ属					1														
<i>Acer</i>		カエデ属						1	1		1										
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ			1		2	1	2												
<i>Vitis</i>		ブドウ属						1													
<i>Cornus</i>		ミズキ属						1													
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉																			
Moraceae-Urticaceae		クワ科 - イラクサ科	3	1				4	5	2											
<i>Sambucus-Viburnum</i>		ニワトコ属 - ガマズミ属						1	3	2										1	
Nonarboreal pollen		草本花粉																			
<i>Typha-Sparganium</i>		ガマ属 - ミクリ属										4									
<i>Alisma</i>		サジオモダカ属										1									
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属				1		2	1												
Gramineae		イネ科	13	19	12	1	69	29	16	11											
<i>Oryza type</i>		イネ属型						1													
Cyperaceae		カヤツリグサ科	38	40	40	4	61	63	12	8											
<i>Aneilema keisak</i>		イボクサ						1													
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節						1	1												
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科 - ヒユ科						1	3												
Caryophyllaceae		ナデシコ科				1		1													
<i>Nuphar</i>		コウホネ属						1													
Cruciferae		アブラナ科								1											
<i>Impatiens</i>		ツリフネソウ属				1		1													
Apioidae		セリ亜科	3		2		3	11	1	1											
<i>Actinostemma lobatum</i>		ゴキヅル						2													
Lactuoidae		タンポポ亜科	2	1	1		3	2		1											
Asteroidae		キク亜科	3	1	1		4	5	5	3											
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	19	27	40	5	95	79	66	60	1										
Fern spore		シダ植物胞子																			
Monolate type spore		単条溝胞子	25	29	4		13	60	121	253	4										
Trilate type spore		三条溝胞子	9	3			2	5		11	2										
Arboreal pollen		樹木花粉	30	24	54	11	117	157	27	17	0	0									
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	3	1	0	1	7	7	2	1	0	0									
Nonarboreal pollen		草本花粉	78	88	99	10	246	200	100	84	1	0									
Total pollen		花粉総数	111	113	153	22	370	364	129	102	1	0									
Unknown pollen		未同定花粉	6	5	3	0	1	7	5	2	1	0									
Fern spore		シダ植物胞子	34	32	4	0	15	65	121	264	6	0									
Helminth eggs		寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins		明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments		微細炭化物	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

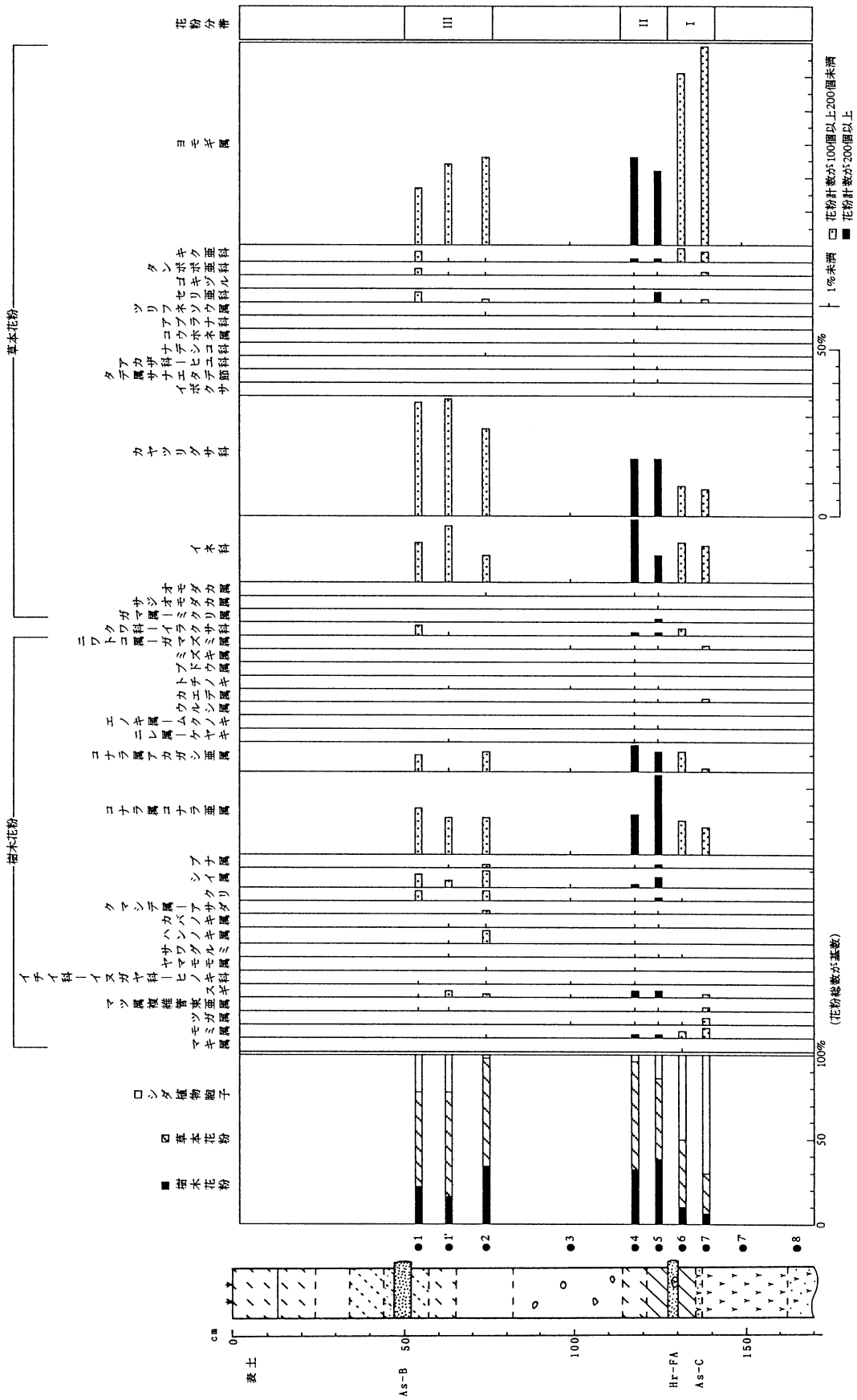


図1 島谷戸遺跡、2区西壁における花粉ダイアグラム

## 第12章 まとめ

本書で報告したのは、西野原遺跡(3)(4)、鳥谷戸遺跡のほか、大久保鹿聴遺跡、大原百石遺跡、山之神野田遺跡、山之神南側遺跡の6遺跡である。以下、それらの調査の成果をまとめて結びとする。

大久保鹿聴遺跡、大原百石遺跡、山之神野田遺跡、山之神南側遺跡の4遺跡はいずれも大間々扇状地上にあり、遺構の密度は希薄と考えられたが、確認調査の結果、予想通り遺構はごく少なかった。わずかに確認できたのは時期不明の溝と炭焼き窯などであり、その部分についてはトレンチを拡張して調査した。炭焼き窯は山之神南側遺跡で3基を確認したが、ガラス製品が出土したことから近現代のものであることが判明した。

西野原遺跡(3)(4)は今回の調査では中心となる部分である。それらのうち、大間々扇状地の東端部に当たる西野原遺跡(3) I～V区については、遺構が希薄であることが予想されたために確認調査を行い、やはり遺構がほとんど存在しないことを確認した。そのため、全面的な調査を行ったのはより東側に位置する西野原遺跡(3) VI～IX区と(4)である。この遺跡の北側には、東国最大級の製鉄遺跡として注目されている西野原遺跡(5)があるので、本遺跡でもその関連遺構の存在が期待されたが、鉄滓や炉壁片などの、製鉄関連の遺物が出土したのみであり、遺構は存在しなかった。そのため、製鉄遺跡は本遺跡の北側までがその範囲と考えられる。出土した遺物は西野原遺跡(5)と共通しているので、そちらから運び込まれたものと思われる。出土遺構は近世以降の溝などに集中しており、新しい時期に動かされたものと考えられる。

また、本遺跡では竪穴住居が計7軒調査されている。これらの住居は調査区の北側に多く見つかったが、本遺跡の北側に当たる西野原遺跡(5)と(2)には多くの竪穴住居が分布しており、これが集落の中心であると思われる。本遺跡で見つかった

いるのはその集落の南端部に相当するものであろう。時期はいずれも6世紀前半から中頃にかけてのものであり、ほぼ単一の時期のものである。これら古墳時代後期の集落の性格は、北側の遺跡の様相を併せて考察すべきものである。

掘立柱建物は比較的散在して8棟調査した。時期は不詳であるが、その形状や周囲の溝の埋土にAs-Bが含まれていること等から平安末～中世にかけてのものであると思われる。その時期の屋敷地の一部を調査しているものと思われる。それらのうちVI区とVII区との境にあるVI区1号掘立柱建物は、ほぼ正方形の溝の中に1棟の建物があるという構造であり、神社などの宗教施設である可能性が考えられ、注目される遺構である。

溝は合計125条調査した。これもほとんど時期不詳であるが、埋土の特徴などから近世以降のものが大部分であり、区画溝が多いと考えられる。VI区西端にある1号溝は、北側に隣接する西野原遺跡(2)で平安末に遡ると推定されているもので注目される。西野原遺跡(2)では途中で途切れてしまうので水を流した溝ではないが、直線的にのびることから何らかの意図をもった施設と考えられ、より南側の調査が今後期待されよう。

土坑は合計248基という多数を調査したが、やはり近世以降のものが大部分を占めると考えられる。その他の遺構として、井戸2基、古墳時代の祭祀跡と考えられる土器集中部1カ所、近世以降の畠跡数面などを確認し、この地域の土地利用について考える多くの資料を得た。

鳥谷戸遺跡は低湿地となるため、複数面の調査となった。ここではAs-Bに埋もれた水田面の他、各時期にわたる多くの溝を調査した。低湿地に当たるため、排水の為に溝が掘られたものと思われる。西野原遺跡の集落遺跡の生産域の一つがこの低地部にあることは間違いのないと思われる。

## 出土遺物観察表

### V区遺構外

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材等	器形・技法等の特徴	備考
第23図 P L.43	1	石器 打製石斧	3号 トレンチ	長さ 7.9 幅 5.2 厚さ 1.8	珪質頁岩	背面は原石面が残る。 重さ 84g。	

### VI区2号溝

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第32図 P L.56	1	陶器 鉢	埋土 口縁部小破片	口径 - 底径 - 高さ -	①砂粒やや多い ②還元焰 ③灰オリーブ(5YR6/2)	内外面とも轆轤ナデ。在地産中世陶器。 13世紀後半～14世紀前半。	

### VI区6号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第35図 P L.56	1	陶器 甕	埋土 体部小破片	口径 - 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②焼締め ③表面灰赤(2.5YR4/2)	外面粗いナデ。内面に自然釉が付着しているため体部下位の破片と思われる。中世常滑。	
第35図 P L.56	2	陶器 鉢	埋土 口縁部小破片	口径 - 底径 - 高さ -	①細砂粒やや多い ②酸化焰 ③にぶい橙(5YR6/4)	内外面とも摩滅。在地産中世陶器。13世紀。	

### VI区遺構外

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材等	器形・技法等の特徴	備考
第37図 P L.43	1	石製品 砥石	表採 完形	長さ 9.8 幅 3.0 厚さ 1.8	砥沢石	1面のみ使用。他の3面には櫛歯状の跡が残る。重さ51g。	
第37図 P L.43	2	石器 打製石斧	表採	長さ (6.1) 幅 6.9 厚さ 1.1	ホルンフェルス	重さ58g。	

### VII区2号溝

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	銭種	器形・技法等の特徴	備考
第40図 P L.43	1	銅銭	埋土	径 2.2	「慶元通宝」(南宋・1195年初鑄)か。	周辺欠。錆と摩滅のため銭文不明瞭。背文は不明。	

### VII区10号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第48図 P L.56	1	陶器 鉢	埋土 口縁部小破片	口径 - 底径 - 高さ -	①砂粒やや多い ②酸化焰 ③にぶい赤褐(2.5Y5/4)	体部内面器表摩滅。掘り鉢として使用か。在地産中世陶器。13世紀。	

### VII区遺構外

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材等	器形・技法等の特徴	備考
第61図 P L.43	1	石器 打製石斧	240-410G	長さ (7.2) 幅 8.6 厚さ 3.0	ホルンフェルス	背面に原石面を残す。重さ233g。	
第61図 P L.43	2	石器 削器	200-400G	長さ 5.5 幅 4.8 厚さ 1.2	黒色頁岩	重さ46g。	

Ⅷ区1号住居

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第62図 P L.43	1	土師器 坏	南隅 口縁部一部 欠	口径 9.3 底径 - 高さ 4.6	①砂粒、赤色粒子含む ②やや軟質 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	丸底。器壁が厚い。口縁部内外面横撫で。体部外面上半・内面撫で。体部外面下半～底部外面斲削り。	
第62図 P L.43	2	土師器 坏	南隅 完形	口径 9.6 底径 1.7 高さ 4.6	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	器壁厚い。底面小さく、木葉痕らしいもの残る。口縁部内外面横撫で。体部外面上半・内面撫で。体部外面下半斲削り。	
第62図 P L.43	3	土師器 坏	南隅 口縁・体部 一部欠	口径 9.6 底径 3.0 高さ 4.7	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	器壁厚い。底部外面ワラ状の圧痕。口縁部内外面横撫で。体部外面上半・内面撫で。体部外面下半斲削り。内面黒色処理。	
第62図 P L.43	4	土師器 坏	南隅 完形	口径 9.5 底径 4.7 高さ 4.0	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	器壁厚い。底部外面木葉痕。口縁部外面～内面横撫で。体部外面上半撫で。体部外面下半斲削り。	
第63図 P L.43	5	土師器 坏	南東壁際 1/5	口径 (10.0) 底径 - 高さ 3.6	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	器壁厚い。口縁部外面～内面横撫で。体部外面下半～底部外面斲削り。	
第63図 P L.43	6	土師器 坏	南隅 ほぼ完形	口径 12.0 底径 - 高さ 4.3	①砂粒、白色粒子含む ②やや軟質 ③にぶい褐(7.5YR5/4)	体部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。	
第63図 P L.43	7	土師器 坏	南隅 口縁部大部 分欠	口径 11.9 底径 - 高さ 4.2	①砂粒、白色粒子含む ②やや軟質 ③にぶい橙(5YR6/4)	体部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。底部外面に黒斑。	
第63図 P L.43	8	土師器 坏	南隅 1/4	口径 (14.4) 底径 - 高さ (3.9)	①細砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	口縁部は大きく外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。	
第63図 P L.43	9	土師器 坏	南東壁際 1/3	口径 (13.6) 底径 - 高さ (4.8)	①細砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁部は外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。	
第63図 P L.43	10	土師器 小型甕	埋土 3/4	口径 (11.0) 底径 7.0 高さ 14.7	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁部内外面横撫で。内面撫で。体部～底部外面斲削りの後棒状のものでごく粗く磨き。	
第63図 P L.43	11	土師器 鉢	埋土 口縁～体部 小破片	口径 (14.0) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤・白色粒子含む ②やや軟質 ③にぶい赤褐(5YR5/3)	底部が厚い。口縁部歪みあり、片口か。口縁部外面～内面横撫で。体部外面斲削りの後磨き。	

Ⅷ区2号住居(1)

挿図番号 図版番号	No.	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第66図 P L.43	1	土師器 坏	竈東、5住埋 土 1/2	口径 (13.2) 底径 - 高さ 4.1	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR6/4)	口縁部外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。	
第66図 P L.43	2	土師器 坏	竈東 3/5	口径 (12.2) 底径 - 高さ 4.4	①細砂粒含む ②普通 ③橙(2.5Y7/6)	口縁部内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。	
第66図 P L.43	3	土師器 坏	中央部、5住 埋土 1/5	口径 (12.4) 底径 - 高さ (4.0)	①細砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR7/6)	口縁部直立。口縁部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。	
第66図 P L.43	4	土師器 坏	竈内 3/4	口径 (14.0) 底径 - 高さ 4.8	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁部やや内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面斲削り、黒斑あり。	
第66図 P L.43	5	須恵器 高坏	竈内、中央 部 坏部小破片	口径 (10.6) 底径 - 高さ -	①砂粒、白色粒子含む ②還元焰 ③灰(5Y5/1)	外面掻き目。内面横撫で。	
第66図 P L.44	6	土師器 碗	1号土坑 ほぼ完形	口径 10.6 底径 4.4 高さ 4.6	①砂粒、赤色粒子やや多い ②普通 ③橙(5YR7/6)	底部外面木葉痕。体部は直線的に開く。歪みひどい。内外面とも横撫で。	1号土坑は住居に伴わない
第66図 P L.44	7	土師器 甕	住居中央 1/2	口径 (16.2) 底径 (8.8) 高さ 12.1	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③橙(5Y6/6)	口・底面共に広く、器高低い。胴部は丸く、口縁やや外傾。口縁部外面～内面横撫で。体部～底部外面斲削り。底部に黒斑。	

Ⅷ区2号住居(2)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第66図 P L.44	8	土師器 甕	竈内と周辺 4/5	口径 13.3 底径 6.4 高さ 10.6	①粗砂粒やや多い ②普通 ③橙(2.5YR6/8)	胴部は丸みをもち、口縁部はわずかに外反。間の稜は明瞭。口縁部外面～内面横撫で。体部～底部外面篋削り。	
第67図 P L.44	9	土師器 甕	竈内 3/5	口径 (14.5) 底径 5.7 高さ 12.1	①砂粒、白色粒子含む ②やや軟質 ③橙(2.5YR6/6)	胴部は丸みをもち、口縁部は短く外反する。全体に器形が歪む。口縁部内外面横撫で。その他は粗い撫で。	
第67図 P L.44	10	土師器 甕	埋土、5住埋 土 1/5	口径 (20.6) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	胴部は丸みをもち、口縁部はくの字状に外傾。口縁部内外面横撫で。胴部外面篋削り。胴部内面横撫で。	
第67図 P L.44	11	土師器 甕	竈前 底部のみ	口径 - 底径 4.6 高さ -	①粗砂粒多い ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/6)	底部外面に木葉痕。	
第67図 P L.44	12	土師器 甕	中央やや南 底部のみ	口径 - 底径 6.0 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	口径3.2cm。体部～底部外面篋削り。内面横撫で。	
第67図 P L.44	13	弥生土器	埋土 口縁部小破 片	残存高 2.5 厚さ 0.6	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5Y6/4)	外面に波状文。	

Ⅷ区3号住居(1)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第70図 P L.44	1	土師器 坏	南西部 ほぼ完形	口径 14.8 底径 - 高さ 4.2	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内外面漆塗り処理が剥離か。	
第70図 P L.44	2	土師器 坏	埋土 2/3	口径 (13.2) 底径 - 高さ 4.4	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第70図 P L.44	3	土師器 坏	中央 1/2	口径 (15.4) 底径 - 高さ 4.3	①細砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第70図 P L.44	4	土師器 坏	南西部 1/4	口径 (14.0) 底径 - 高さ 4.8	①砂粒、赤色粒子やや多い ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第70図 P L.44	5	土師器 坏	竈前 1/2	口径 (14.4) 底径 - 高さ 4.0	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	口縁部外傾。器壁が厚く重い。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第70図 P L.44	6	土師器 坏	埋土 1/2	口径 (13.3) 底径 - 高さ 3.7	①砂粒、赤色粒子やや多い ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第70図 P L.44	7	土師器 坏	東半部 1/4	口径 (13.2) 底径 - 高さ 3.3	①細砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第70図 P L.44	8	土師器 坏	東半部 1/5	口径 (15.0) 底径 - 高さ -	①細砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内外面漆塗り処理か。	
第70図 P L.44	9	土師器 坏	中央部 1/3	口径 (14.4) 底径 - 高さ -	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。底部内面粗い放射状暗文。	
第70図 P L.44	10	土師器 坏	竈内・竈周 辺 1/2	口径 (22.0) 底径 - 高さ (6.9)	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削りの後一部粗い篋磨き。	
第70図 P L.44	11	土師器 坏	南東部 1/2	口径 (13.0) 底径 - 高さ 4.2	①砂粒、白・赤色粒子含む ②やや軟質 ③にぶい褐(7.5YR6/3)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第70図 P L.44	12	土師器 坏	西・南隅 口縁一部欠	口径 (12.5) 底径 - 高さ 3.9	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③にぶい褐(7.5YR5/4)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内外面漆塗り処理か。	

Ⅷ区3号住居(2)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第70図 P L.44	13	土師器 坏	南東部 2/3	口径 (13.2) 底径 - 高さ 4.6	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内面漆塗り処理が剥離か。	
第71図 P L.44	14	土師器 坏	南隅 1/2	口径 12.6 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第71図 P L.44	15	土師器 坏	南西部 1/5	口径 (13.6) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内面漆塗り処理か。	
第71図 P L.44	16	土師器 坏	中央部 1/3	口径 (12.8) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内外面漆塗り処理か。	
第71図 P L.44	17	土師器 坏	埋土 1/2	口径 (11.8) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内面漆塗り処理か。	
第71図 P L.44	18	土師器 坏	中央部 小破片	口径 (12.0) 底径 - 高さ -	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第71図 P L.44	19	須恵器 高坏	中央東寄り 坏部のみ3/4	口径 17.0 底径 - 残存高 7.2	①砂粒、白色粒子多い ②還元焰 ③灰(10Y5/1)	内外面とも横撫で。脚部との接合部に同心円状の刻みを入れる。透かしは3方向らしい。	
第71図 P L.44	20	須恵器 高坏	中央部 脚部小破片	口径 - 底径 - 残存高 7.8	①砂粒やや多い ②還元焰 ③灰(N4/)	内外面とも轆轤撫で。透かしは3方向。	
第71図 P L.44	21	土師器 甕	中央南寄り 1/2	口径 (17.0) 底径 - 高さ (23.6)	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面縦方向篋削り。	
第71図 P L.44	22	土師器 甕	埋土 小破片	口径 (20.6) 底径 - 高さ -	①粗砂粒多い ②やや軟質 ③にぶい赤褐(5YR4/4)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋撫でか。	
第71図 P L.44	23	土師器 甕	埋土 口縁～胴部 小破片	口径 (15.0) 底径 - 高さ -	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面縦方向篋削り。	
第71図 P L.44	24	土師器 甕	埋土 底部完形～ 胴部1/2	口径 - 底径 5.3 高さ -	①粗砂粒多い ②やや軟質 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	胴部内面篋撫で。胴部外面縦方向篋削り、下端は横方向。底部外面に木葉痕。	
第72図 P L.45	25	土師器 甕	中央西寄り 口縁1/3～胴 部上端	口径 (21.6) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面斜め～横方向篋削り。	
第72図 P L.45	26	土師器 甕	埋土 口縁完形～ 胴部上端	口径 (18.6) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第72図 P L.45	27	土師器 甕	中央南寄り 口縁1/3～胴 部上端	口径 (12.4) 底径 - 高さ -	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③明赤褐(5YR5/6)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面縦方向篋削り。	
第72図 P L.45	28	土師器 甕	中央南寄り 胴部上端1/3	口径 - 底径 - 高さ -	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR7/8)	胴部内面横撫で。胴部外面横方向篋削り。	
第72図 P L.45	29	土師器 甕	中央部 底部完形～ 胴部下半1/5	口径 - 底径 7.4 残存高 21.2	①粗砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR7/6)	胴部内面撫で。胴部外面縦・横方向篋削り。	
第72図 P L.45	30	土師器 台付甕	竈内、中央 部 台部のみ3/4	口径 - 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	外面縦方向篋削り、下端横撫で。内面横撫で。	
第72図 P L.45	31	土師器 甕	中央部 口縁1/2～胴 部上半	口径 (13.4) 底径 - 高さ -	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	薄い作り。口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面横方向篋削り。口縁部内外面に赤彩の痕跡あり。	

Ⅷ区3号住居(3)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第72図 P L.45	32	土師器 埴	南部 口縁部のみ	口径 8.4 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	内外面とも横撫で。	
第73図 P L.45	33	須恵器 横瓶	竈前 小破片	口径 - 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②還元焰 ③灰(N6/)	小破片だが横瓶の胴部と推定。外面平行叩きの後粗い縦篋撫で。内面当て具痕。	

Ⅷ区4号住居

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第75図 P L.45	1	土師器 坏	竈前 口縁部一部 欠	口径 14.3 底径 - 高さ 4.6	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③赤褐(10R4/4)	口縁外傾。底部が厚く重い。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内外面とも漆塗り処理か。	
第75図 P L.45	2	土師器 坏	竈前 完形	口径 12.1 底径 - 高さ 4.3	①砂粒含む ②普通 ③橙(2.5YR6/6)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内外面とも漆塗り処理か。	
第75図 P L.45	3	土師器 坏	中央部 口縁部1/2欠	口径 (12.0) 底径 - 高さ 4.8	①粗砂粒含む ②普通 ③橙(5YR7/6)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第75図 P L.45	4	土師器 坏	竈前 口縁部一部 欠	口径 12.4 底径 - 高さ 4.1	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(2.5YR6/6)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第75図 P L.45	5	土師器 坏	竈前 口縁部1/2欠	口径 12.6 底径 - 高さ 4.4	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい赤褐(2.5YR5/4)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。底部に黒班あり。	
第75図 P L.45	6	土師器 甕	竈前 4/5	口径 22.2 底径 3.5 高さ 41.0	①砂粒やや多い ②やや軟質 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	器表摩滅。口縁部内外面横撫で。胴部内面横撫で、輪積み痕残る。胴部外面篋削り。底部外面に木葉痕。	
第75図 P L.45	7	土師器 甕	竈前 5/6	口径 18.8 底径 7.2 高さ 32.3	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	胴部は丸みをもち、口縁は外反。口縁内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部～底部外面篋削り。	

Ⅷ区5号住居(1)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第78図 P L.45	1	土師器 坏	中央部、北 東部 2/3	口径 (13.8) 底径 - 高さ 4.3	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(2.5YR6/6)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内外面漆塗り処理か。	
第78図 P L.45	2	土師器 坏	中央部、北 部 3/4	口径 13.1 底径 - 高さ 5.1	①細砂粒含む ②普通 ③橙(5YR7/6)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第78図 P L.45	3	土師器 坏	貯蔵穴内 3/4	口径 (13.2) 底径 - 高さ 4.1	①砂粒やや多い ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第78図 P L.45	4	土師器 坏	中央部、P2 3周辺 1/2	口径 (12.8) 底径 - 高さ 4.5	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR7/6)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第78図 P L.45	5	土師器 坏	P2付近 1/3	口径 (13.8) 底径 - 残存高 4.5	①粗砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(2.5YR6/6)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内面の器表が荒れている。	
第78図 P L.45	6	土師器 坏	P2付近 口縁部 4/5 欠	口径 (14.2) 底径 - 高さ 4.8	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内外面漆塗り処理か。	
第78図 P L.45	7	土師器 坏	中央、東隅 口縁～底部 一部欠	口径 13.5 底径 - 高さ 4.2	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(2.5YR6/6)	口縁ほぼ直立。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	



Ⅷ区5号住居(2)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第78図 P L.45	8	土師器 坏	中央部 1/5	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内面の器表が荒れている。	
第78図 P L.45	9	土師器 坏	南西部 1/2	口径 (20.6) 底径 - 高さ (8.9)	①砂粒含む ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内外面漆塗り処理か。	
第78図 P L.45	10	土師器 鉢	P4付近、中 中央部 1/2	口径 (20.6) 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第78図 P L.45	11	土師器 鉢	貯蔵穴上、P 1付近、竈前 1/5	口径 (24.6) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②やや軟質 ③にぶい橙(5YR6/4)	口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内面黒色処理。底面がやや厚くなるか。甑である可能性もある。	
第79図 P L.45	12	土師器 甕	P1付近、東 隅 口縁1/3 ～胴部上端	口径 (18.4) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁部内外面横撫で。胴部内面篋削り。	
第79図 P L.45	13	土師器 甕	中央付近 口縁1/2～胴 部上半1/2	口径 (18.8) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁部内外面横撫で。胴部内面篋削り。	
第79図 P L.45	14	土師器 甕	中央部 底部完形～ 胴部下端	口径 - 底径 5.6 残存高 10.8	①粗砂粒多い ②やや軟質 ③橙(25YR6/6)	内面撫で。胴部外面篋削り後撫で。底部外面に木葉痕。	
第79図 P L.46	15	土師器 甕	貯蔵穴上、P 1付近 口縁 付近4/5	口径 19.4 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第79図 P L.46	16	土師器 甕	中央部 胴部1/3	口径 - 底径 - 残存高 12.0	①砂粒含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第79図 P L.46	17	土師器 甕	貯蔵穴上、 中央部 口縁～胴部 上端2/3	口径 11.6 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。外面漆塗り処理か。	
第79図 P L.46	18	土師器 甕	P4付近、東 隅口縁付近 1/4	口径 (12.2) 底径 - 残存高 7.2	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁部外面～内面横撫で。胴部外面篋削り。	
第79図 P L.46	19	土師器 器種不明	貯蔵穴付近 台部のみ	口径 - 底径 8.8 残存高 5.9	①砂粒、白・赤色粒子含む ②やや軟質 ③にぶい褐(7.5YR5/4)	厚く重い。作りは雑。内外面とも撫で。	
第79図 P L.46	20	土師器 甕	P1・4付近、 竈前胴部下 端1/3	口径 - 底径 (11.2) 残存高 11.0	①粗砂粒含む ②やや軟質 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	内面丁寧な撫で。外面篋削り後撫で。	

Ⅷ区1号溝(1)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第83図 P L.56	1	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 2.3 厚さ 0.5	①砂粒含む ②普通 ③にぶい褐(7.5YR5/4)	外面横位の沈線。	
第83図 P L.56	2	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 3.7 厚さ 0.6	①砂粒含む ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	外面横位の沈線。	
第83図 P L.56	3	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 3.4 厚さ 0.7	①砂粒含む ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	外面斜位の沈線。	
第83図 P L.56	4	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 4.0 厚さ 0.6	①砂粒やや多い ②普通 ③にぶい黄褐(10YR5/3)	外面横位の細い沈線。	

Ⅷ区1号溝(2)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第83図 P L.56	5	弥生土器	埋土 口縁部小破片	残存高 2.6 厚さ 0.5	①砂粒含む ②普通 ③灰黄褐(10YR4/2)	口縁外面に波状文。	
第83図 P L.56	6	弥生土器	埋土 口縁部小破片	残存高 3.2 厚さ 0.6	①砂粒含む ②普通 ③にぶい褐(7.5YR5/4)	口縁部外面に波状文。	
第83図 P L.56	7	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 5.7 厚さ 0.8	①砂粒含む ②普通 ③黒褐(10YR3/1)	外面に条痕文。	
第83図 P L.56	8	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 3.5 厚さ 0.6	①砂粒含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR6/3)	外面細かい縄文の上に波状の沈線。	
第83図 P L.56	9	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 4.4 厚さ 0.7	①砂粒含む ②普通 ③褐(7.5YR4/6)	口縁近くの破片。外面横位の簾状文と斜位の条痕文。	
第83図 P L.56	10	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 3.2 厚さ 0.6	①砂粒含む ②普通 ③褐(7.5YR4/6)	外面に沈線。	
第83図 P L.56	11	陶器 甕	埋土 小破片	残存高 9.4 厚さ 1.2	①砂粒含む ②還元焰 ③灰(5Y6/1)	外面に叩き目あり。渥美。12世紀。	
第83図 P L.56	12	陶器 甕	埋土 小破片	残存高 8.8 厚さ 1.5	①細砂粒含む ②還元焰 ③灰白(5Y7/1)	内外面撫で。外面薄い自然釉。美濃須衛か。12世紀か。	
第83図 P L.46	13	銅銭	埋土	径 2.2	貨泉(新・14年初鑄)	銭文摩滅。	

Ⅷ区2号溝

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第83図 P L.56	1	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 3.0 厚さ 0.65	①砂粒含む ②普通 ③灰褐(7.5YR4/2)	外面に条痕文。	

Ⅷ区5号溝

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第83図 P L.56	1	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 2.3 厚さ 0.5	①細砂粒含む ②普通 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	外面細かい縄文の上に沈線文を入れる。	

Ⅷ区26号溝

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第83図 P L.56	1	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 2.7 厚さ 0.6	①細砂粒含む ②普通 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	外面に沈線。	

Ⅷ区10号溝

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第88図 P L.56	1	青磁 碗	埋土 体部小破片	残存高 1.7 厚さ 0.4	①細砂粒含む ②良好 ③釉暗オリーブ(7.5Y4/2)	龍泉窯系青磁。片彫りによる鎬蓮弁文。貫入する。	

Ⅷ区18号溝

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材等	器形・技法等の特徴	備考
第88図 P L.46	1	石器 石鏃	埋土 先端部欠	残存長 1.7 幅 1.9 厚さ 0.35	チャート	有脚鏃。重さ2g。	

Ⅷ区1号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第89図 P L.56	1	青磁 碗	埋土 体部小破片	残存高 3.3 厚さ 0.5	①細砂粒少ない ②良好 ③釉灰(7.5Y5/1)	内面篋による文様。	
第89図 P L.56	2	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 2.7 厚さ 0.55	①砂粒含む ②普通 ③にぶい黄褐(10YR4/3)	外面条痕文。	
第89図 P L.56	3	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 3.7 厚さ 0.6	①砂粒含む ②普通 ③黒褐(10YR3/2)	外面波状文。	
第89図 P L.56	4	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 5.1 厚さ 0.5	①砂粒やや多い ②やや軟質 ③にぶい黄褐(10YR7/2)	外面粗い条痕文。	

Ⅷ区43号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第93図 P L.46	1	土師器 埴	埋土、260-3 60G 口縁部1/5	口径 (15.6) 底径 - 残存高 7.3	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	内外面撫で。口縁部内外面横撫で。	

Ⅷ区69号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材等	器形・技法等の特徴	備考
第94図 P L.46	1	石製品 硯	埋土 4/5	現存長 12.9 幅 5.0 現存厚 1.5		周囲の縁と海部の大部分欠。陸部はよく使用され、中央が細長く磨れて凹んでいる。	

Ⅷ区76号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第95図 P L.46	1	須恵器 短頸壺	埋土 4/5	口径 11.7 底径 - 高さ 9.0	①粗砂粒含む ②還元焰 ③灰(5Y5/1)	丸底。胴部内外面轆轤撫で。口縁部内外面横撫で。底部外面右回転篋削り。	

Ⅷ区54号ピット

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第98図 P L.46	1	須恵器 高台付埴	埋土 1/4	口径 (13.6) 底径 6.1 高さ 5.7	①砂粒やや多い ②還元焰 ③灰黄(2.5Y7/2)	内外面とも轆轤撫で。底部回転糸切り後高台貼り付け。体部は丸みをもって立ち上がり、口縁は外反する。	
第98図 P L.46	2	須恵器 埴	埋土 小破片	口径 (12.4) 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②還元焰 ③灰黄(2.5Y6/2)	内外面とも轆轤撫で。墨書判読不能。	

Ⅷ区1号土器集中部(1)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第102図 P L.46	1	土師器 高埴	坏部4/5欠	口径 (19.6) 底径 13.2 高さ 16.8	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③明赤褐(2.5YR6/6)	脚部内面を除いて横撫で。のち裾部内面を除いて粗い篋磨き。脚部内面輪積痕。	

Ⅷ区1号土器集中部(2)

挿図番号 図版番号	No	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第102図 P L.46	2	土師器 高坏	坏部1/2・裾 部1/3欠	口径 (17.8) 底径 13.2 高さ 15.8	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	脚部内面を除いて横撫で。のち坏部外面と裾部外面に粗い篋磨き。脚部内面横篋削り。	
第102図 P L.46	3	土師器 高坏	坏部1/3欠	口径 (17.4) 底径 12.8 高さ 13.5	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	脚部上半～坏部下半外面は篋削り痕が残り、それ以外は丁寧な横撫で。	
第102図 P L.46	4	土師器 高坏	坏部1/2・裾 部2/3欠	口径 (14.8) 底径 (12.5) 高さ 12.0	①砂粒含む ②普通 ③橙(2.5YR6/6)	全体丁寧な横撫で。のち坏部下半～脚部上端外面と脚部内面を除いて篋磨き。坏部と裾部に黒斑。	
第102図 P L.46	5	土師器 高坏	坏部1/3のみ	口径 (21.0) 底径 - 残存高 6.1	①砂粒含む ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/6)	内外面ともヨコナデの後粗い篋磨き。	
第102図 P L.46	6	土師器 高坏	坏部3/4のみ	口径 17.8 底径 - 残存高 5.2	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	坏部内外面とも横撫で。内面暗文状の篋磨き。脚部との境は篋削り。外面に赤彩の痕跡。	
第102図 P L.46	7	土師器 高坏	坏部欠、裾 部1/2欠	口径 - 底径 14.2 残存高 11.8	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/8)	脚部外面縦方向、裾部内外面横方向の丁寧な撫で。坏部と脚部の境は横撫で。脚部内面輪積み痕残る。	
第102図 P L.46	8	土師器 高坏	坏部欠、脚 部～裾部完 形	口径 - 底径 13.7 残存高 9.7	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	外面は縦～斜め方向の篋撫での後、裾部下半を横撫で。裾部・脚部内面は横撫で。	
第102図 P L.46	9	土師器 高坏	坏部欠、脚 部下半～裾 部完形	口径 - 底径 13.3 残存高 8.5	①砂粒含む ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/6)	外面～裾部内面丁寧な撫での後、外面に粗い篋磨き。脚部内面は粗い撫で、輪積み痕残る。	
第102図 P L.46	10	土師器 高坏	坏部・脚部 上半欠、裾 部1/5欠	口径 - 底径 14.9 残存高 5.8	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(2.5YR6/6)	脚部外面縦、裾部内外面横方向撫で。脚部内面は粗い撫で、輪積み痕残る。	
第102図 P L.46	11	土師器 高坏	坏部欠、脚 部～裾部完 形	口径 - 底径 9.6 残存高 7.7	①砂粒含む ②良好 ③明赤褐(5YR5/8)	脚部～裾部外面丁寧な撫での後篋磨き。裾部～脚部内面は横撫で。	
第102図 P L.46	12	土師器 高坏	脚部完形～ 裾部小破片	口径 - 底径 (11.2) 残存高 8.6	①砂粒、赤色粒子含む ②やや軟質 ③橙(5YR7/6)	脚部外面縦、その他横方向撫で。	
第103図 P L.46	13	土師器 高坏	裾部1/4	口径 - 底径 (15.4) 残存高 1.6	①砂粒やや多い ②やや軟質 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	内外面とも横撫で。	
第103図 P L.46	14	土師器 埴	口縁部1/4～ 胴部ほぼ完 形	口径 (8.4) 底径 2.8 高さ (9.3)	①砂粒、赤色粒子やや多い ②やや軟質 ③橙(5YR7/6)	器表やや摩滅。胴部上半外面～口縁部内外面横撫で。内面撫で。胴部下半外面～底部外面篋削り。	
第103図 P L.46	15	土師器 埴	口縁小破片 ～胴部4/5	口径 - 底径 2.2 残存高 8.0	①砂粒含む ②普通 ③橙(2.5YR6/6)	胴部上半外面～口縁部内外面横撫で。内面撫で。胴部下半外面篋削り。	
第103図 P L.46	16	土師器 埴	口縁部欠、 胴部4/5	口径 - 底径 2.1 残存高 6.0	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	内面撫で。胴部上半外面横撫で。胴部下半外面篋削り。	
第103図 P L.47	17	土師器 埴	口縁部欠、 胴部完形	口径 - 底径 2.6 残存高 5.7	①粗砂粒多い ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	内面撫で。胴部上半外面横撫で。胴部下半外面篋削り。	
第103図 P L.47	18	土師器 埴	口縁部欠、 胴部3/4	口径 - 底径 2.3 残存高 5.9	①砂粒やや多い ②普通 ③橙(5YR6/6)	内面撫で。胴部上半外面横撫で。胴部下半外面～底部外面篋削り。	
第103図 P L.47	19	土師器 埴	口縁部欠、 胴部1/2	口径 - 底径 4.4 残存高 5.0	①砂粒やや多い ②普通 ③橙(2.5YR6/6)	内面撫で。胴部下半外面～底部外面篋削り。	
第103図 P L.47	20	土師器 埴	口縁部1/2 欠、胴部1/5 欠	口径 (9.6) 底径 4.2 高さ 10.3	①砂粒含む ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/6)	内面撫で。胴部上半外面～口縁部内外面横撫で。胴部下半外面篋削り。胴部に黒斑。	

Ⅷ区1号土器集中部(3)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第103図 P L.47	21	土師器 埴	口縁部欠、 胴部1/6欠	口径 - 底径 2.4 残存高 6.3	①砂粒含む ②普通 ③明赤褐 (5YR5/6)	内面撫で。胴部上半外面横撫で。胴部下 半外面篋削り。	
第103図 P L.47	22	土師器 埴	口縁部小破 片、胴部完 形	口径 - 底径 2.0 残存高 6.2	①砂粒含む ②普通 ③橙 (7.5YR6/6)	内面撫で。胴部上半外面～口縁部内外面 横撫で。胴部下半外面～底部外面篋削り。	
第103図 P L.47	23	土師器 埴	口縁部小破 片、胴部1/3 欠	口径 - 底径 2.6 残存高 6.4	①砂粒含む ②普通 ③橙 (5YR6/6)	内面撫で。胴部上半外面～口縁部内外面 横撫で。胴部下半外面～底部外面篋削り。 胴部に黒斑。	
第103図 P L.47	24	土師器 埴	口縁部小破 片、胴部1/3 欠	口径 - 底径 3.5 残存高 7.0	①砂粒含む ②普通 ③橙 (2.5YR6/6)	内面指撫で。胴部上半外面～口縁部内外 面横撫で。胴部下半外面篋削り。	
第103図 P L.47	25	土師器 埴	胴部下半1/3	口径 - 底径 2.5 残存高 4.3	①砂粒含む ②普通 ③明赤褐 (5YR5/6)	内面指撫で。胴部上半外面横撫で。胴部 下半外面～底部外面篋削り。	
第103図 P L.47	26	土師器 埴	胴部1/2	口径 - 底径 2.9 残存高 10.2	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙 (7.5YR7/6)	底部丸底に近い。内面撫で。胴部上半外 面横撫で。胴部下半外面～底部外面篋削 り。胴部下半に黒斑。	
第103図 P L.47	27	土師器 埴	胴部1/2	口径 - 底径 3.8 残存高 9.5	①砂粒含む ②良好 ③赤褐 (5YR4/6)	内面撫で、輪積み痕明瞭。胴部上半外面 横撫で後粗い篋磨き。胴部下半外面～底 部外面篋削り。	
第104図 P L.47	28	土師器 埴	口縁部小破 片	口径 (14.6) 底径 - 残存高 6.5	①砂粒含む ②普通 ③赤 (10YR5/6)	内外面横撫での後縦方向の篋磨き。	
第104図 P L.47	29	土師器 埴	口縁部小破 片	口径 (9.0) 底径 - 残存高 4.8	①砂粒含む ②普通 ③にぶい褐 (7.5YR5/4)	内外面横撫での後縦方向の粗い篋磨き。	
第104図 P L.47	30	土師器 埴	口縁部小破 片	口径 (12.0) 底径 - 残存高 6.0	①砂粒含む ②普通 ③にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部上半に明瞭な段がある。内外面横 撫で。上端部外面に黒斑。	
第104図 P L.47	31	土師器 埴	口縁部1/4	口径 (14.8) 底径 - 残存高 4.2	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙 (10YR6/4)	口縁部上半に明瞭な段がある。内外面横 撫で。その後外面下半のみ篋磨き。	
第104図 P L.47	32	土師器 埴	口縁部1/3	口径 (11.0) 底径 - 残存高 5.1	①砂粒含む ②普通 ③明赤褐 (2.5YR5/6)	内外面横撫で。口唇部は丁寧。	
第104図 P L.47	33	土師器 埴	口縁部小破 片	口径 (10.0) 底径 - 残存高 4.3	①砂粒含む ②普通 ③明褐 (7.5YR5/6)	内外面横撫で。	
第104図 P L.47	34	土師器 埴	口縁部小破 片	口径 (9.2) 底径 - 残存高 4.3	①砂粒含む ②普通 ③明赤褐 (5YR5/6)	内外面横撫で。	
第104図 P L.47	35	土師器 埴	1/3	口径 (9.4) 底径 3.0 高さ 6.7	①砂粒含む ②普通 ③にぶい赤褐 (5YR5/4)	内面撫で。胴部上半外面～口縁部内外面 横撫で。胴部下半外面篋削り。	
第104図 P L.47	36	土師器 甕	3/4	口径 (9.1) 底径 3.7 高さ 8.0	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③橙 (5YR6/6)	胴部上半外面～口縁部内外面横撫で。胴 部下半外面篋削り。胴部内面撫で。	
第104図 P L.47	37	土師器 甕	口縁部～胴 部1/2、底部 欠	口径 (9.6) 底径 - 残存高 7.9	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③明赤褐 (5YR5/6)	胴部上半外面～口縁部内外面横撫で。胴 部下半外面篋削り。胴部内面撫で。	
第104図 P L.47	38	土師器 甕	1/2	口径 (12.6) 底径 3.2 高さ 8.1	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③橙 (5YR6/6)	胴部上半外面～口縁部内外面横撫で。胴 部下半外面篋削り。胴部内面撫で。	
第104図 P L.47	39	土師器 壺	口縁部小破 片、胴部1/ 3、底部1/2	口径 (9.6) 底径 (5.2) 高さ 13.2	①砂粒含む ②普通 ③赤褐 (5YR4/6)	胴部上端外面～口縁部内外面横撫で。胴 部下半外面篋削り。胴部内面撫で。	

Ⅷ区1号土器集中部(4)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第104図 P L.47	40	土師器 壺	口縁部付近2/3	口径 (20.6) 底径 - 残存高 9.6	①砂粒多い ②良好 ③にぶい赤褐 (2.5YR4/4)	口縁部上部に段がある。器表が荒れている。内外面とも撫でか。	
第104図 P L.47	41	土師器 甕	胴部下半1/3 ～底部完形	口径 - 底径 9.2 残存高 15.5	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③明赤褐 (5YR5/6)	胴部外面篋削りの後篋磨き。内面篋撫で。	
第104図 P L.47	42	土師器 手捏ね土器	口縁一部欠	口径 4.0 底径 2.4 残存高 3.2	①砂粒含む ②普通 ③明赤褐 (5YR5/6)	手捏ね成形。内外面とも指撫で調整。	
第105図 P L.47	43	石製品 円盤形石製品	完形	長径 3.4 短径 3.2 厚さ 0.3	蛇紋岩	全面に研磨痕。中央部に穿孔。孔径0.1cm。重さ8g。	
第105図 P L.47	44	石製品 円盤形石製品	完形	長径 3.8 短径 3.3 厚さ 0.8	蛇紋岩	全体に研磨痕。穿孔なし。重さ18g。	
第105図 P L.47	45	石製品 剣形石製品	完形	長さ 6.25 幅 2.3 厚さ 0.65	蛇紋岩	全体に研磨痕。上端に2箇所穿孔。上の孔は欠損。孔径0.1cm。重さ12g。	

Ⅷ区遺構外(1)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第107図 P L.48	1	かわらけ	210-250G 1/3	口径 (9.6) 底径 4.0 高さ 3.1	①砂粒含む ②酸化焰 ③灰白 (7.5Y8/2)	体部内外面轆轤撫で。底部内面指撫で。底部糸切り痕不明瞭。	
第107図 P L.48	2	須恵器 坏	230-250G ほぼ完形	口径 14.3 底径 6.2 高さ 4.9	①砂粒、白・赤色粒子含む ②酸化焰 ③橙 (7.5YR6/6)	器壁厚く重い。体部上半外面～内面轆轤撫で後、内面篋磨き。体部下半外面篋削り底部外面糸切り痕。内面黒色処理か。	
第107図 P L.48	3	須恵器 鉢	230-260G 底部1/2	口径 - 底径 6.7 高さ -	①砂粒含む ②還元焰 ③灰白 (N7/)	胴部外面掻き目。内面撫で。	
第107図 P L.48	4	土師器 甕	200-250G 1/2	口径 11.8 底径 - 高さ 9.0	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙 (7.5YR7/4)	丸底。口縁部内外面横撫で。胴部内面篋撫で。胴部外面篋削り。底部に黒斑。	
第107図 P L.48	5	土師器 甕	200-250G 口縁部小破片	口径 (12.4) 底径 - 残存高 5.5	①砂粒含む ②普通 ③にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横撫で。胴部外面篋削り。胴部内面撫で。	
第107図 P L.48	6	土師器 甕	210-260G 底部のみ	口径 - 底径 5.8 残存高 3.7	①粗砂粒やや多い ②普通 ③明褐灰 (5YR7/2)	胴部内外面～底部内面撫で。底部外面木葉痕。外面に煤、炭化物付着。	
第107図 P L.48	7	土師器 埴	260-360G 口縁欠、胴部ほぼ完形	口径 - 底径 2.3 残存高 5.1	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙 (5YR6/4)	内面撫で。胴部上半外面横撫で。胴部下半外面～底部外面篋削り。	
第107図 P L.48	8	土師器 埴	260-360G 口縁下部～胴部1/5	口径 - 底径 - 残存高 4.9	①砂粒含む ②普通 ③明赤褐 (2.5YR5/6)	内面撫で。胴部上半外面～口縁内外面横撫で。胴部下半外面篋削り。	
第107図 P L.48	9	土師器 手捏ね土器	260-360G 1/4	口径 (6.0) 底径 (3.4) 高さ 3.1	①砂粒含む ②普通 ③にぶい褐 (7.5YR5/4)	手捏ね成形。内外面とも指撫で調整。	
第107図 P L.48	10	埴輪 円筒埴輪	230-280G 口縁部小破片	残存高 6.8 厚さ 1.5	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙 (5YR6/4)	外面縦方向刷毛目。内面撫で。	
第107図 P L.48	11	埴輪 円筒埴輪	表土 小破片	残存高 6.5 厚さ 2.1	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙 (5YR6/6)	内外面とも横方向刷毛目。その後外面に突帯を貼り付ける。	
第107図 P L.48	12	埴輪 円筒埴輪	表土 小破片	残存高 8.3 厚さ 2.4	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙 (5YR6/6)	内外面とも縦方向刷毛目。外面下端に突帯。	

Ⅷ区遺構外(2)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第107図 P L.56	13	青磁 碗	表土 底部小破片	口径 底径 残存高 (5.3) 3.9	①細砂粒少ない ②良好 ③釉・緑灰(7.5GY6/1)	龍泉窯系青磁。高台端部を除き全面施釉。 器壁薄く、釉厚い。	
第107図 P L.56	14	青磁 碗	表土 体部下位小 破片	残存高 厚さ 2.7 0.7	①細砂粒少ない ②良好 ③釉灰オリーブ(7.5Y6/2)	龍泉窯系青磁。片彫りによる鎬蓮弁文。 貫入する。	
第107図 P L.56	15	陶器 鉢	表採 体部小破片	残存高 厚さ 6.2 1.3	①細砂粒含む ②良好 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	内面器表剥離。在地産中世陶器。	
第107図 P L.48	16	銅銭	200-250G 4/5	径 -	「皇宋通宝」(北宋・1038 年初鑄)	2つに割れ、「宋」の部分欠損。	
第108図 P L.56	17	弥生土器	210-260G 胴部小破片	残存高 厚さ 3.4 0.65	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	外面沈線文。内面撫で。	
第108図 P L.56	18	弥生土器	250-370G 胴部小破片	残存高 厚さ 4.4 0.9	①砂粒やや多い ②普通 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	外面細かい縄文。内面撫で。	
第108図 P L.56	19	弥生土器	表土 胴部小破片	残存高 厚さ 3.9 0.6	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	外面縄文の上に沈線を描く。	
第108図 P L.56	20	弥生土器	表土 口縁部小破 片	残存高 厚さ 1.1 0.7	①砂粒含む ②やや軟質 ③褐灰(10YR6/1)	外面細かい縄文。	
第108図 P L.56	21	弥生土器	表土 口縁部小破 片	残存高 厚さ 3.1 0.5	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	口唇部に波状文を施した後、丸い粘土粒 をつぶして貼り付け(径8mm)、その上を 串先状のもので6回刺突する。	
第108図 P L.56	22	弥生土器	表土 口縁近く小 破片	残存高 厚さ 4.1 0.55	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR5/4)	外面横と斜め方向の条痕文。	
第108図 P L.56	23	弥生土器	表土 胴部小破片	残存高 厚さ 2.8 0.6	①粗砂粒含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR5/3)	外面細かい縄文。内面撫で。	
第108図 P L.56	24	弥生土器	表土 胴部小破片	残存高 厚さ 4.1 0.9	①細砂粒含む ②普通 ③明赤褐(5YR5/6)	外面細かい縄文、上半は横撫で。	
第108図 P L.56	25	弥生土器	210-250G 胴部小破片	残存高 厚さ 3.7 0.5	①砂粒含む ②普通 ③明赤褐(YR5/6)	外面沈線文。	
第108図 P L.56	26	弥生土器	210-250G 胴部小破片	残存高 厚さ 5.3 0.7	①砂粒含む ②やや軟質 ③にぶい黄橙(10YR7/2)	外面粗い条痕文。	
第108図 P L.57	27	縄文土器 深鉢	表採 胴部小破片	残存高 厚さ 3.0 0.9	①細礫少量含む ②普通 ③にぶい黄褐(10YR6/4)	沈線によりモチーフを描き、沈線間に単 節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺I式
第108図 P L.48	28	土製品 用途不明	235-270G 完形	上幅 下幅 高さ 2.7 4.3 3.6	①砂粒含む ②普通 ③にぶい褐(7.5YR5/4)	焼成された粘土の塊。用途不明。	
第108図 P L.48	29	石器 石鏃	220-270G 完形	長さ 幅 厚さ 4.7 3.8 0.3	チャート	有脚鏃。先端は錐状に細く作り出す。重 さ2g。	
第108図 P L.48	30	石器 打製石斧	240-310G	長さ 幅 厚さ (8.5) 7.2 1.0	ホルンフェルス	薄手の撥形石斧。両側縁はよく敲打して ある。刃部は一部欠損し、鋭さに欠ける。 重さ102g。	
第108図 P L.48	31	石器 削器	240-330G	長さ 幅 厚さ (6.6) 0.9	黒色頁岩	重さ52g。	

Ⅷ区遺構外(3)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第108図 P L.48	32	石器 削器	250-340G	長さ 4.3 幅 8.7 厚さ 1.0	ホルンフェルス	重さ46g。	
第108図 P L.48	33	石器 削器類	表土	長さ 4.5 幅 3.2 厚さ 1.1	チャート	重さ17g。	

Ⅸ区5号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第120図 P L.56	1	陶器 甕	埋土 胴部小破片	残存高 7.1 厚さ 1.0	①砂粒含む ②還元焰 ③灰(7.5Y6/1)	外面叩き目あり。渥美産。12世紀。	

Ⅸ区27号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第123図 P L.56	1	陶器 鉢	埋土 底部小破片	残存高 5.9 厚さ 1.4	①砂粒含む ②還元焰 ③灰(5Y6/1)	内面摩滅著しい。掘り鉢として使用。底部回転糸切り無調整。在地産中世陶器。	

Ⅸ区85号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第127図 P L.56	1	青磁 碗	埋土 体部下端小破片	残存高 4.0 厚さ 0.75	①夾雑物少なく緻密 ②良好 ③釉灰オリープ(7.5Y6/2)	龍泉窯系青磁。貫入なく発色も良好。片彫りによる鎬蓮弁文。	

Ⅸ区89号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第128図 P L.48	1	須恵器 壺	埋土 4/5	口径 (24.2) 底径 - 高さ 45.2	①砂粒含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐(2.5YR4/4)	頸部～口縁部外面波状文。胴部外面斜め方向撫での後横方向に刷毛目。口縁部内面横撫で。胴部内面は当て具痕を撫で消す。	
第128図 P L.48	2	土師器 高坏	埋土 坏部1/4、脚部3/4	口径 (19.6) 底径 (15.5) 高さ -	①砂粒含む ②普通 ③橙(5YR7/6)	坏部と脚部は直接接合しない。坏部内外面横撫で、外面には突帯が巡る。脚部外面縦撫で。裾部内外面～脚部内面横撫で。	
第128図 P L.48	3	土師器 壺	埋土 底部周辺のみ	口径 - 底径 6.2 残存高 4.5	①砂粒やや多い ②普通 ③橙(5YR6/6)	胴部外面～底部外面鈍削り。内面鈍撫で。	
第128図 P L.48	4	土師器 甕	埋土 口縁部1/3	口径 (19.4) 底径 - 残存高 8.9	①砂粒やや多い ②普通 ③明赤褐(5YR5/6)	口縁部内外面横撫で。胴部内面丁寧な撫で。胴部外面横方向鈍削り。	

Ⅸ区遺構外(1)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第130図 P L.56	1	青磁 碗	190-300G 体部小破片	残存高 1.6 厚さ 0.4	①夾雑物少なく緻密 ②良好 ③釉 緑灰(7.5GY6/1)	龍泉窯系青磁。器壁薄く、釉厚い。片彫りによる鎬蓮弁文。	
第130図 P L.49	2	鉄銭	230-300G 2/3	径 2.4	寛永通宝か	表面錆のため、銭文不明瞭。重さ1g。	
第130図 P L.49	3	石器 打製石斧	表採	長さ 11.2 幅 6.2 厚さ 2.5	ホルンフェルス	やや厚手の撥形石斧。刃部先端はつぶれた部分が多い。重さ183g。	



Ⅹ区遺構外(2)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第130図 P L.49	4	石器 石核	200-310G	長さ 12.5 幅 12.2 厚さ 4.0	ホルンフェルス	重さ 865g。	
第130図 P L.49	5	石器 石核	200-310G	長さ 10.8 幅 11.6 厚さ 2.9	ホルンフェルス	重さ 389g。	

西野原(4)1号住居

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第131図 P L.49	1	土師器 坏	南隅部 2/3	口径 (13.8) 底径 - 高さ 3.9	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR6/3)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内面の器表が荒れている。	

西野原(4)2号溝

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	銭種	器形・技法等の特徴	備考
第134図 P L.49	1	銅銭	埋土 1/2	径 -	祥符□□(元寶か通宝、いずれも北宋・1009年初鑄)		

西野原(4)7号溝

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	銭種	器形・技法等の特徴	備考
第134図 P L.49	1	銅銭	埋土 完形	径 2.4	宣和通宝(北宋・1119年初鑄)	「通」字が錆のため判読不能。	

西野原(4)17号溝

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材等	器形・技法等の特徴	備考
第134図 P L.49	1	石器 磨石	埋土 完形	長径 6.8 短径 6.7 厚さ 1.5	粗粒輝石安山岩	両面とも全面が磨かれている。	

西野原(4)3号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材等	器形・技法等の特徴	備考
第135図 P L.49	1	石器 打製石斧	埋土	長さ (9.6) 幅 7.2 厚さ 2.0	ホルンフェルス	撥形石斧。刃部一部欠損。	

西野原(4)6号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	石材等 ①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第135図 P L.49	1	石製品 砥石	埋土 上下欠	残存長 3.8 幅 3.0 厚さ 1.2	砥沢石	両面ともよく使用されている。左右両側面に櫛歯状の鑿の跡が残る。	
第135図 P L.57	2	縄文土器 深鉢	埋土 胴部小破片	残存高 4.0 厚さ 0.8	①細礫少量含む ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	撚糸紋Lを縦位施紋する。	井草式

西野原(4)21号土坑(1)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第137図 P L.49	1	土師器 高坏	埋土 脚部付近	口径 - 底径 - 残存高 8.9	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③淡橙(5YR8/3)	外面縦方向篋削り。坏部内面撫で。脚部内面指撫で。	

西野原(4)21号土坑(2)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第137図 P L.49	2	土師器 高坏	埋土 脚部のみ	口径 - 底径 - 残存高 -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	外面縦方向斲削り。坏部内面撫で。脚部内面粗い縦撫で、輪積み痕明瞭に残る。	
第137図 P L.49	3	土師器 坏	埋土 3/4	口径 10.8 底径 - 高さ 3.4	①砂粒含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	丸底。口縁部外面～内面横撫で。体部～底部外面斲削り。	
第137図 P L.49	4	土師器 坏	埋土 口縁部1/3のみ	口径 (13.2) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR7/6)	口縁部外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。	
第137図 P L.49	5	土師器 坏	埋土 口縁部1/3のみ	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	底部平坦で平底に近い。口縁部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。	
第137図 P L.49	6	土師器 手捏ね土器	埋土 完形品	口径 8.0 底径 6.1 高さ 1.8	①砂粒、赤色粒子含む ②やや軟質 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	手捏ね成形。小皿状。内外面粗い指撫で。	
第137図 P L.49	7	土師器 手捏ね土器	埋土 一部欠	口径 7.3 底径 - 高さ 2.2	①砂粒、赤色粒子含む ②やや軟質 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	手捏ね成形。小皿状。内外面粗い指撫で。	
第137図 P L.49	8	土師器 手捏ね土器	埋土 完形	口径 8.0 底径 5.7 高さ 3.1	①砂粒含む ②やや軟質 ③淡黄(2.5Y8/3)	手捏ね成形。内外面粗い撫で。底部木葉痕。内面黒色処理。	
第137図 P L.49	9	土師器 甕	埋土 口縁部付近1/2	口径 (24.2) 底径 - 残存高 7.5	①砂粒含む ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	口縁部外面～内面横撫で。胴部外面斲削り。	

西野原(4)22号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第138図 P L.49	1	土師器 坏	埋土 小破片	口径 (12.7) 底径 - 高さ -	①細砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。	
第138図 P L.49	2	土師器 坏	埋土、200-2 20G 口縁付近1/3	口径 (13.8) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。	
第138図 P L.49	3	土師器 坏	埋土 口縁1/4欠	口径 13.8 底径 - 高さ 4.5	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。	
第138図 P L.49	4	土師器 坏	埋土 1/2	口径 (11.6) 底径 - 高さ 3.6	①砂粒、白・赤色粒子含む ②良好 ③明赤褐(2.5YR5/6)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。	
第138図 P L.50	5	土師器 坏	埋土、205-2 20G 口縁部1/4	口径 (23.6) 底径 - 高さ -	①砂粒やや多い ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。体部～底部外面斲削り。	
第138図 P L.50	6	須恵器 壺	埋土、200-2 15・200-220 胴部1/4	口径 - 底径 - 残存高 15.0	①砂粒含む ②還元焰 ③褐灰(10YR6/1)	外面掻き目。内面横撫で。	
第138図 P L.50	7	須恵器 甕	195-225・200 -220・200-22 5・200-230G 口縁～胴部 上半1/2	口径 (21.5) 底径 - 残存高 16.5	①砂粒含む ②還元焰 ③褐灰(10YR5/1)	口縁部外面～内面横撫で。胴部外面叩きの後掻き目。胴部内面同心円状の当て具痕。外面に自然釉。	

西野原(4)遺構外(1)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第142図 P L.50	1	土師器 坏	200-225G 1/2	口径 (11.7) 底径 - 高さ 4.5	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面斲削り。	

西野原(4)遺構外(2)

挿図番号 図版番号	No	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第142図 P L.50	2	土師器 坏	200-220・20 0-225G 口縁部1/5	口径 (11.6) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第142図 P L.50	3	土師器 坏	200-220・20 0-230G 3/4	口径 12.5 底径 - 高さ 4.3	①細砂、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR7/6)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内面の器表が荒れている。	
第142図 P L.50	4	土師器 坏	200-225G 小破片	口径 (12.0) 底径 - 高さ -	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。外面漆塗り処理か。	
第142図 P L.50	5	土師器 坏	200-225G 小破片	口径 (11.2) 底径 - 高さ -	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/3)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。底部が厚い。	
第142図 P L.50	6	土師器 坏	205-220,20 0-220,200- 230G 4/5	口径 11.8 底径 - 高さ 3.7	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR7/8)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第142図 P L.50	7	土師器 坏	205-220G 1/3	口径 (12.0) 底径 - 高さ 3.8	①砂粒、赤色粒子含む ②良好 ③にぶい橙(5YR7/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第142図 P L.50	8	土師器 坏	205-220G 小破片	口径 (13.6) 底径 - 高さ -	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第142図 P L.50	9	土師器 坏	205-220G 1/5	口径 (14.0) 底径 - 高さ 3.8	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③明褐灰(5YR7/2)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第142図 P L.50	10	土師器 坏	205-220G 1/5	口径 (13.7) 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。外面黒班あり。	
第143図 P L.50	11	土師器 坏	205-220G 1/3	口径 (13.6) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	12	土師器 坏	200-220G 1/5	口径 (14.0) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③明褐灰(7.5YR7/2)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。底部外面黒班あり。	
第143図 P L.50	13	土師器 坏	200-225G 1/2	口径 (13.6) 底径 - 高さ 3.7	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	14	土師器 坏	205-225G 1/5	口径 (14.6) 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②普通 ③にぶい褐(7.5YR5/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	15	土師器 坏	205-225G 2/3	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR7/8)	口縁外傾。表面摩滅。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	16	土師器 坏	205-220G 1/3	口径 (14.8) 底径 - 高さ -	①砂粒、白・赤色粒子含む ②良好 ③明黄褐(10YR6/6)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	17	土師器 坏	210-205G 1/2	口径 (13.7) 底径 - 高さ 4.5	①砂粒、白色粒子やや多い ②普通 ③にぶい褐(7.5YR6/3)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	18	土師器 坏	195-225G 1/3	口径 (14.5) 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	19	土師器 坏	200-225G 1/4	口径 (14.0) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	20	土師器 坏	200-230G 小破片	口径 (13.4) 底径 - 高さ -	①細砂粒含む ②良好 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	器壁薄く丁寧な作り。口縁外傾、中位に明瞭な段がある。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	

西野原(4)遺構外(3)

挿図番号 図版番号	No	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第143図 P L.50	21	土師器 坏	205-225G 口縁完形、 底部欠	口径 12.8 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子やや多い ②普通 ③橙(5YR6/8)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	22	土師器 坏	200-225G 小破片	口径 (13.5) 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	23	土師器 坏	200-215G 小破片	口径 (13.4) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR6/3)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。外面に黒班あり。	
第143図 P L.50	24	土師器 坏	200-225G 1/2	口径 (13.8) 底径 - 高さ 4.9	①細砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③灰褐(5YR4/2)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部内面やや粗い放射状篋磨き。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	25	土師器 坏	200-230G 1/3	口径 (13.6) 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②普通 ③橙(5YR6/8)	口縁外傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	26	土師器 坏	210-235G 口縁一部欠	口径 13.5 底径 - 高さ 4.2	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	27	土師器 坏	200-220G 口縁一部欠	口径 13.5 底径 - 高さ 4.4	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第143図 P L.50	28	土師器 坏	200-225・22 0-225G 口縁一部欠	口径 12.4 底径 - 高さ 4.5	①砂粒含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR6/3)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。外面に黒班あり。	
第144図 P L.51	29	土師器 坏	200-225G 2/3	口径 (12.4) 底径 - 高さ 4.4	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。底部外面に黒班あり。	
第144図 P L.51	30	土師器 坏	200-220G 2/3	口径 (12.2) 底径 - 高さ 4.4	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第144図 P L.51	31	土師器 坏	200-225G 1/2	口径 (12.3) 底径 - 高さ 3.8	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第144図 P L.51	32	土師器 坏	205-220G 1/2	口径 (12.0) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③灰褐(5YR4/2)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第144図 P L.51	33	土師器 坏	200-220G 1/2	口径 (11.7) 底径 - 高さ 4.0	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい褐(7.5YR6/3)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。底部外面黒班あり。	
第144図 P L.51	34	土師器 坏	205-225G 1/3	口径 (11.0) 底径 - 高さ 4.1	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③明赤褐(5YR5/6)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第144図 P L.51	35	土師器 坏	200-230G 1/5	口径 (10.9) 底径 - 高さ -	①細砂粒含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR6/3)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第144図 P L.51	36	土師器 坏	200-220G 1/5	口径 (11.0) 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第144図 P L.51	37	土師器 坏	205-220G 1/5	口径 (12.0) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第144図 P L.51	38	土師器 坏	205-225G 3/4	口径 12.0 底径 - 高さ 4.4	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第144図 P L.51	39	土師器 坏	205-225G 1/2	口径 11.5 底径 - 高さ -	①夾雑物少なく緻密 ②普通 ③灰黄(2.5Y6/2)	丁寧な作りで須恵器に似る。口縁部と底部との境が丸い。口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	

西野原(4)遺構外(4)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第144図 P L.51	40	土師器 坏	205-225G 1/3	口径 (12.4) 底径 - 高さ -	①砂粒やや多い ②普通 ③にぶい褐(7.5YR6/3)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第144図 P L.51	41	土師器 坏	200-220G 2/3	口径 (12.0) 底径 - 高さ 4.6	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/2)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。外面に黒班あり。	
第144図 P L.51	42	土師器 坏	205-225G 2/3	口径 (12.0) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②やや軟質 ③橙(2.5YR6/8)	口縁内傾。器表摩滅。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第144図 P L.51	43	土師器 坏	205-225G 1/5	口径 (14.0) 底径 - 高さ -	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③明赤褐(7.5YR6/6)	口縁直立。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第144図 P L.51	44	土師器 坏	200-225G 1/3	口径 (11.6) 底径 - 高さ 4.5	①砂粒、赤色粒子やや多い ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/3)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。底部外面黒班あり。	
第144図 P L.51	45	土師器 坏	205-225G 2/3	口径 (13.8) 底径 - 高さ 4.5	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	口縁直立。器表摩滅。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第144図 P L.51	46	土師器 坏	205-220G 1/3	口径 (13.0) 底径 - 高さ 4.4	①砂粒、赤色粒子含む ②良好 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁内傾。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。口縁内面に粗い放射状篋磨き。	
第145図 P L.51	47	土師器 坏	FAを含む褐 灰色粘質土 口縁小破片	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①砂粒、赤色粒子含む ②良好 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁直立、途中に段が付く。口縁部内外面横撫で。胴部外面篋削り。	
第145図 P L.51	48	土師器 坏	205-215G 1/5	口径 (12.4) 底径 - 高さ -	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁部と底部との境はやや不明瞭。口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第145図 P L.51	49	土師器 坏	200-220G 2/3	口径 (9.8) 底径 - 高さ 4.5	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁部外面～内面横撫で。体部外面撫で。底部外面篋削り。内外面に黒班あり。	
第145図 P L.51	50	土師器 坏	200-225G 1/2	口径 (10.2) 底径 - 高さ 2.9	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁部外面～内面横撫で。底部外面篋削り。	
第145図 P L.51	51	土師器 坏	205-225G 1/4	口径 (13.0) 底径 - 高さ -	①細砂粒含む ②普通 ③灰黄褐(10YR6/2)	口縁と体部との境は不明瞭。口縁部外面～内面横撫で。体部～底部外面篋削り。内面漆塗り処理か。	
第145図 P L.51	52	土師器 坏	205-225G 1/5	口径 (14.5) 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②普通 ③にぶい褐(7.5YR6/3)	口縁外面～内面横撫で。底部外面篋削り。内面黒色処理か。	
第145図 P L.51	53	土師器 坏	205-225G 1/5	口径 (12.6) 底径 - 高さ -	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR6/4)	口縁部外面横撫で。底部外面篋削り。内面横撫で後篋磨き、黒色処理。	
第145図 P L.51	54	土師器 高坏	205-225G 脚部1/4	口径 - 底径 (15.6) 残存高 14.0	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	脚部外面縦方向篋削り、その後裾部を横撫で。内面横撫で。輪積み痕残る。	
第145図 P L.51	55	土師器 甕	200-205・200 -210・200-21 5・210-230G 底部欠	口径 (20.5) 底径 - 残存高 25.8	①砂粒含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	口縁部内外面横撫で。胴部内面篋撫で。胴部外面篋削り。	
第145図 P L.51	56	土師器 甕	200-225・205 -220・205-24 0G 口縁小破片 ～胴部1/4	口径 (14.0) 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②普通 ③浅黄橙(10YR8/4)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第145図 P L.51	57	土師器 甕	195-205・200 -225G 口 縁～胴部1/2	口径 (10.8) 底径 5.5 高さ 19.0	①砂粒含む ②普通 ③橙(2.5YR7/6)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で、下半に粘土接合痕残る。胴部外面篋削り。	

西野原(4)遺構外(5)

挿図番号 図版番号	No	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備 考
第145図 P L.51	58	土師器 甕	200-215・20 5-220G 口縁部1/3	口径 (22.8) 底径 - 残存高 8.5	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第146図 P L.51	59	土師器 甕	200-220・200 -225G 口縁部1/2	口径 (22.2) 底径 - 残存高 6.9	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③浅黄橙(7.5YR8/3)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第146図 P L.51	60	土師器 甕	200-220G 口縁部付近1 /2	口径 (17.0) 底径 - 残存高 5.5	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③淡橙(5YR8/3)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第146図 P L.52	61	土師器 甕	200-225G 口縁部付近1 /4	口径 (19.0) 底径 - 残存高 6.0	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第146図 P L.52	62	土師器 甕	195-220・200 -220G 口縁小破片	口径 (13.8) 底径 - 残存高 7.0	①砂粒含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/2)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第146図 P L.52	63	土師器 甕	205-225G 口縁部付近1 /4	口径 (18.2) 底径 - 残存高 5.6	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③浅黄橙(7.5YR8/3)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第146図 P L.52	64	土師器 甕	200-220G 口縁部付近 小破片	口径 (12.8) 底径 - 残存高 4.5	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第146図 P L.52	65	土師器 甕	200-225G 口縁～胴部 上端小破片	口径 (14.4) 底径 - 残存高 9.5	①砂粒含む ②普通 ③浅黄橙(10YR8/4)	口縁部内外面横撫で。胴部内面篋撫で。胴部外面篋削り。	
第146図 P L.52	66	土師器 甕	205-225G 口縁部付近1 /3	口径 (16.2) 底径 - 残存高 6.2	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR7/6)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面縦方向篋削り。	
第146図 P L.52	67	土師器 鉢	205-220G 口縁部小破 片	口径 (15.2) 底径 - 残存高 6.6	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第146図 P L.52	68	土師器 鉢	200-220・205 -220G 口縁小破片	口径 (18.2) 底径 - 残存高 9.2	①砂粒含む ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/6)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第146図 P L.52	69	土師器 鉢	205-220G 口縁部小破 片	口径 (18.8) 底径 - 残存高 7.0	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第146図 P L.52	70	土師器 鉢	200-220・205 -220G 口 縁部小破片	口径 (21.1) 底径 - 残存高 5.7	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面粗い篋削り、輪積み痕が残る。	
第147図 P L.52	71	土師器 鉢	205-205G 口縁部小破 片	口径 (16.0) 底径 - 残存高 5.3	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第147図 P L.52	72	土師器 甕	205-225G 口縁部付近1 /2	口径 (9.8) 底径 - 残存高 7.6	①砂粒やや多い ②普通 ③橙(5YR6/8)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴部外面篋削り。	
第147図 P L.52	73	土師器 甕	200-225G 底部のみ	口径 - 底径 5.5 残存高 4.7	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	胴部外面篋削り、下端撫で。内面撫で、黒色処理。	
第147図 P L.52	74	土師器 甕	200-225G 底部のみ	口径 - 底径 7.9 残存高 4.4	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	胴部～底部外面篋削り。内面撫で。外面に黒班あり。	
第147図 P L.52	75	土師器 甕	195-220・200 -225G 胴部下端1/5	口径 - 底径 (11.2) 残存高 13.7	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	胴部外面縦方向篋削り。胴部内面撫で、下端横方向篋削り。	
第147図 P L.52	76	土師器 埴	200-220・200 -225・205-22 0G 1/4	口径 - 底径 - 残存高 13.7	①細砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	内面撫で。口縁部～胴部上半外面横撫で、その後口縁部は縦、胴部は横方向篋磨き。胴部下半外面篋削り。	

西野原(4)遺構外(6)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第147図 P L.52	77	須恵器 高坏	200-220・200-225・205-220G 坏部 1/3欠	口径 (12.4) 底径 12.5 高さ 15.0	①砂粒、白色粒子含む ②還元焰 ③灰(N5/)	全体回転を利用した横撫で。透かしは3方向2段。	
第147図 P L.52	78	須恵器 甕	200-220・205-225G 4/5	口径 (14.6) 底径 - 高さ 22.9	①砂粒含む ②還元焰 ③灰(N4/)	口縁部内外面横撫で、外面中位に隆線を1本巡らせ上下に波状文。胴部外面撫で。胴部内面横撫で、頸部に指押さえの跡。	
第147図 P L.52	79	須恵器 甕	200-220・200-220・200-230G 口縁 ~胴部中央	口径 14.6 底径 - 残存高 15.7	①砂粒含む ②還元焰 ③灰(N5/)	口縁部外面波状文、胴部外面掻き目。口縁部~胴部内面横撫で。	
第148図 P L.52	80	須恵器 甕	195-225・200-220・200-225・200-230G 口縁~胴部 上半	口径 25.3 底径 - 残存高 20.0	①砂粒含む ②還元焰 ③灰(N4/)	口縁部外面横撫での後上半に波状文。胴部外面平行叩き目。口縁部内面横撫で。胴部内面同心円当て具痕。	
第148図 P L.52	81	須恵器 甕	195-215G 口縁~胴部 上端1/3	口径 (19.8) 底径 - 残存高 8.1	①砂粒含む ②還元焰 ③灰(N6/)	口縁部外面横撫で。胴部外面平行叩き目。口縁部内面横撫で。胴部内面当て具痕。	
第148図 P L.52	82	須恵器 甕	200-215・200-225G 口縁~胴部 上端1/5	口径 (20.6) 底径 - 残存高 8.3	①砂粒含む ②還元焰 ③灰(N5/)	口縁部外面横撫での後上半に波状文。胴部外面平行叩き目を撫で消す。口縁部内面横撫で。胴部内面同心円当て具痕。	
第148図 P L.52	83	須恵器 甕	205-225G 口縁部小破 片	口径 (22.4) 底径 - 残存高 4.5	①砂粒、白色粒子含む ②還元焰 ③灰(N4/)	内外面とも横撫で。その後外面に沈線と波状文を入れる。	
第148図 P L.52	84	須恵器 甕	215-215G 口縁部1/4	口径 (21.6) 底径 - 残存高 4.3	①砂粒、白色粒子含む ②還元焰 ③灰(N5/)	内外面とも横撫で。その後外面に沈線と隆線と波状文を入れる。	
第148図 P L.52	85	須恵器 甕	200-220G 胴部小破 片	口径 - 底径 - 残存高 12.4	①砂粒含む ②還元焰 ③灰黄(2.5Y6/2)	外面横撫で、上半は掻き目。内面撫で。	
第148図 P L.52	86	須恵器 鉢	220-225G 口縁部1/4	口径 (18.4) 底径 - 残存高 6.4	①砂粒含む ②還元焰 ③灰白(N7/)	内外面とも横撫で。内面は使用により器表が滑らかになっている。	
第148図 P L.52	87	須恵器 壺	200-195・200-220G 口縁 ~胴部1/4	口径 (12.0) 底径 - 残存高 5.8	①砂粒含む ②還元焰 ③灰(N5/)	口縁~胴部上半外面横撫で、その後胴部中位に波状文、上下に沈線を入れる。胴部下半外面は篋削り。内面横撫で。	
第148図 P L.52	88	須恵器 壺	200-220G 口縁~胴部 小破 片	口径 (10.4) 底径 - 残存高 7.7	①細砂粒含む ②還元焰 ③灰(N7/)	口縁~胴部上半横撫で。胴部下半~底部外面篋削り。内面横撫で。	
第148図 P L.52	89	石製品 用途不明	195-230G 一部欠	径 2.3 厚さ 0.35 孔径 0.3	蛇紋岩	円盤形の石製品。全面に研磨痕あり。	
第148図 P L.52	90	土製品 土錘	200-220G 一部欠	長さ 6.3 径 1.7 孔径 0.45	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/3)	外面撫で。重さ13g。	
第149図 P L.57	91	縄文土器 深鉢	205-205G 口縁部小破 片	残存高 2.2 厚さ 0.65	①細礫少量含む ②普通 ③にぶい赤褐(5YR4/4)	丸頭状口唇で、口唇部が肥厚する。無紋帯なのか、口縁下には施紋が見られない。口部に単筋LR縄紋を施紋。内側と外側に2帯施紋する。	井草式
第149図 P L.57	92	縄文土器 深鉢	北東部 口縁部小破 片	残存高 4.3 厚さ 0.8	①細礫少量含む ②良好 ③明赤褐(5YR5/6)	丸頭状口唇で、緩く外反する器形。撚糸紋Rを縦位施紋する。口唇部にも施紋。	井草式
第149図 P L.57	93	縄文土器 深鉢	表土 胴部小破 片	残存高 3.9 厚さ 1.0	①細礫少量含む ②良好 ③明赤褐(5YR5/6)	92と同一個体。撚糸紋Rを縦位施紋する。	井草式

西野原(4)遺構外(7)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第149図 P L.57	94	縄文土器 深鉢	220-230G 胴部小破片	残存高 厚さ 3.7 0.8	①細礫少量含む ②良好 ③明赤褐(5YR5/6)	単節R L縄紋を斜位施紋する。	井草式
第149図 P L.57	95	縄文土器 深鉢	205-205G 胴部小破片	残存高 厚さ 2.2 0.75	①細礫少量含む ②良好 ③明赤褐(5YR5/6)	撚糸紋Rを縦位施紋する。	井草式
第149図 P L.57	96	縄文土器 深鉢	185-225G 胴部小破片	残存高 厚さ 4.7 -	①細礫少量含む ②普通 ③にぶい黄褐(10YR6/4)	単節L R縄紋と無節L r縄紋を縦位施紋する。	前期後半
第149図 P L.57	97	縄文土器 深鉢	185-235G 胴部小破片	残存高 厚さ 3.0 0.8	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR6/3)	地紋に単節R L縄紋を施し、横位に浮線を貼付する。	諸磯b式
第149図 P L.57	98	縄文土器 深鉢	210-205G 胴部小破片	残存高 厚さ 5.5 0.7	①細礫少量含む ②良好 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	撚糸紋Lを縦位施紋する。	井草式
第149図 P L.57	99	縄文土器 深鉢	205-220G 口縁部小破片	残存高 厚さ - -	①細礫、白色粒子含む ②良好 ③にぶい褐(7.5YR6/3)	波状口縁。波頂部の環状突起。	堀之内1式
第149図 P L.53	100	石器 石鏃	195-225G 茎部先端欠	長さ 幅 厚さ 3.5 1.6 0.8	珪質頁岩	有茎の石鏃。丁寧な作り。重さ3g。	
第149図 P L.53	101	石器 石鏃	195-230G 茎部先端欠	長さ 幅 厚さ 2.1 1.1 0.2	チャート	有茎の石鏃。小型で丁寧な作り。重さ0.5g。	
第149図 P L.53	102	石器 石鏃	205-215G 先端欠	長さ 幅 厚さ 2.4 1.9 0.3	珪質頁岩	有脚の石鏃。重さ1g。	
第149図 P L.53	103	石器 打製石斧	表土 刃部欠	長さ 幅 厚さ 10.8 5.9 1.4	粘板岩	撥形。刃部の大部分を欠損。重さ81g。	
第149図 P L.53	104	石器 打製石斧	190-240G 3/4	長さ 幅 厚さ 12.3 8.4 2.3	粘板岩	分銅形か。片方の刃部は欠損。重さ264g。	
第149図 P L.53	105	石器 打製石斧	表土 刃部欠	長さ 幅 厚さ 9.2 4.3 1.0	ホルンフェルス	撥形。刃部の大部分を欠損。重さ50g。	
第149図 P L.53	106	石器 打製石斧	190-230G 1/2	長さ 幅 厚さ 5.9 5.4 2.4	ホルンフェルス	片方の刃部が欠。重さ93g。	
第150図 P L.53	107	石器 石核	215-230G	長さ 幅 厚さ 8.8 18.8 4.6	ホルンフェルス	重さ830g。	
第150図 P L.56	108	弥生土器	200-240G 口縁付近小破片	残存高 厚さ 3.0 0.5	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/3)	表面摩滅。内面赤彩の痕跡あり。	
第150図 P L.56	109	陶器 皿	210-205G 口縁部小破片	残存高 厚さ 1.9 0.5	①夾雑物少なく緻密 ②良好 ③釉 灰白(7.5YR8/2)	灰釉丸皿。大窯期か。	
第150図 P L.56	110	青磁 碗	表土 口縁部小破片	残存高 厚さ 3.3 0.6	①細砂粒含む ②良好 ③釉灰オリーブ(7.5Y5/3)	龍泉窯系青磁。片彫りによる蓮弁文。鏝はないと思われる。	
第150図 P L.56	111	陶器 瓶	190-220G 底部小破片	残存高 厚さ 5.2 0.7~1.8	①細砂粒含む ②良好 ③釉オリーブ灰(10YR6/2)	古瀬戸。内面と割れ口にベンガラのような赤色物質付着。中世。	
第150図 P L.56	112	陶器 鉢	210-230G 口縁部小破片	残存高 厚さ 10.0 1.5	①砂粒含む ②良好 ③灰(N6/)	在地産中世陶器。口縁片口部分。体部内面は使用により平滑となっている。14世紀前半。	



島谷戸Ⅱ区第1面1号溝

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第153図 P L.53	1	埴輪 盾形埴輪 か	埋土 小破片		①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	2つの破片から推定復元。外面に赤色塗彩の痕跡あり。皮の縫い目の表現あり。		
第153図 P L.53	2	埴輪 人物埴輪 か	埋土 小破片		①砂粒やや多い ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	人物埴輪の台部と推定。表面は摩滅。		
第153図 P L.53	3	円筒埴輪	埋土 小破片	残存高 厚さ	6.3 1.7	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	外面縦ハケ後粗い横撫で。内面撫で。	
第153図 P L.53	4	円筒埴輪	埋土 底部小破片	残存高 厚さ	5.8 1.8	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	外面縦ハケ。内面縦撫で。	
第153図 P L.53	5	円筒埴輪	埋土 底部小破片	残存高 厚さ	6.0 2.0	①砂粒含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	表面摩滅。外面縦ハケ。内面縦撫で。	
第153図 P L.53	6	円筒埴輪	埋土 底部小破片	残存高 厚さ	6.1 1.8	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	表面摩滅。外面縦ハケ。内面縦撫で。	
第153図 P L.53	7	円筒埴輪	埋土 底部小破片	残存高 厚さ	6.5 2.0	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	内外面とも縦ハケ。	

島谷戸Ⅱ区第1面2号溝

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第154図 P L.53	1	須恵器 坏	埋土 底部のみ	口径 底径 残存高	- 5.5 2.4	①砂粒、赤色粒子含む ②酸化焰 ③にぶい橙(7.5YR7/3)	表面摩滅。底部回転糸切り。	
第154図 P L.53	2	須恵器 坏	埋土 底部のみ	口径 底径 残存高	- 6.5 1.8	①砂粒、赤色粒子やや多い ②酸化焰 ③にぶい橙(5YR7/4)	表面摩滅。底部回転糸切り、外周鈍削り。	
第154図 P L.53	3	石器 打製石斧	埋土 刃部一部欠	長さ 幅 厚さ	(10.0) 8.3 1.9	ホルンフェルス	全体に表面摩滅。分銅形の石斧。片方の刃部が欠損。重さ142g。	
第154図 P L.56	4	弥生土器	埋土 小破片	残存高 厚さ	3.0 0.7	①砂粒、白色粒子多い ②普通 ③灰白(10YR8/1)	外面沈線文。	

島谷戸Ⅱ区第1面15号溝

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第154図 P L.53	1	銅銭	埋土	径	2.4	寛永通宝	表面錆のため銭文やや不明瞭。重さ2g。	
第154図 P L.56	2	弥生土器	埋土 小破片	残存高 厚さ	1.9 0.7	①砂粒、白色粒子含む ②やや軟質 ③黒(10YR2/1)	外面櫛書き文。	

島谷戸Ⅱ区第1面16号溝(1)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考	
第154図 P L.53	1	土師器 甕	埋土 口縁部小破片	口径 底径 残存高	(23.3) - 6.6	①砂粒含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	やや弱いコの字口縁。口縁内外面横撫で。胴部外面横方向鈍削り。	
第154図 P L.53	2	土師器 甕	埋土 底部～胴部 下半1/2	口径 底径 残存高	- (8.6) 9.1	①砂粒、赤色粒子やや多い ②普通 ③にぶい橙(5YR7/4)	器表が荒れている。胴部外面鈍削り。内面撫で。	

島谷戸Ⅱ区第1面16号溝(2)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第154図 P L.56	3	縄文土器 深鉢	埋土 胴部小破片	残存高 5.2 厚さ 0.6	①細礫多い ②良好 ③黒(2.5Y2/1)	沈線により横位区画し、単節LR縄紋を 充填施紋する。	堀之内2式
第154図 P L.54	4	石器 石核	埋土	長さ 12.2 幅 6.7 厚さ 5.0	黒色頁岩	重さ 422g。	

島谷戸Ⅱ区第2面13号溝

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第158図 P L.56	1	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 3.3 厚さ 0.55	①細砂粒含む ②普通 ③赤褐(5YR5/6)	外面直角に曲がる櫛描き文の上に円形の 貼り付け文。	
第158図 P L.56	2	弥生土器	埋土 胴部小破片	残存高 2.9 厚さ 0.6	①細砂粒含む ②普通 ③明赤褐(5YR5/6)	外面簾状文と櫛描き文の上に円形の貼り 付け文。	

島谷戸Ⅱ区第2面4号土坑

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第159図 P L.54	1	土師器 台付甕	埋土 口縁～胴部 上半小破片	残存高 6.5 厚さ 0.6	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/2)	S字状口縁甕。胴部外面刷毛目。内面撫で。	
第159図 P L.54	2	土師器 台付甕	埋土 台部1/2	口径 - 底径 (9.6) 残存高 7.5	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	外面刷毛目、下半は縦に撫で消す。内面 指撫で、下半は横撫で。	
第159図 P L.56	3	弥生土器	埋土 小破片	残存高 5.5 厚さ 0.5	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	外面篋で文様を描く。	
第159図 P L.56	4	弥生土器	埋土 小破片	残存高 2.6 厚さ 0.6	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	外面篋で文様を描く。	

島谷戸Ⅱ区第3面36号溝(1)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第163図 P L.54	1	土師器 坏	埋土 完形	口径 12.7 底径 - 高さ 4.4	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③灰白(7.5Y8/1)	口縁部内傾。口縁部外面～内面横撫で。 底部外面篋削り。	
第163図 P L.54	2	土師器 甕	埋土 口縁～胴部 上端1/3	口径 (24.2) 底径 - 残存高 8.7	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③浅黄橙(7.5YR8/4)	口縁部内外面横撫で。胴部内面撫で。胴 部外面篋削り。	
第163図 P L.54	3	土師器 甕	埋土 口縁～胴部 上端1/3	口径 (19.8) 底径 - 残存高 9.3	①砂粒、赤色粒子やや多い ②普通 ③橙(7.5YR7/6)	口縁部内外面横撫で、内面篋磨き。胴部 内面撫で。胴部外面篋削り。	
第163図 P L.54	4	土師器 甕	埋土 口縁～胴部 上端小破片	口径 (15.9) 底径 - 残存高 5.0	①砂粒やや多い ②普通 ③灰白(2.5Y7/1)	屈曲の弱いS字状口縁。表面摩滅。口縁 部外面～内面横撫で。胴部外面刷毛目。	
第163図 P L.54	5	土師器 甕	埋土 口縁部小破 片	口径 (20.4) 底径 - 残存高 3.8	①砂粒やや多い ②普通 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	内外面とも横撫で。	
第163図 P L.54	6	土師器 壺	埋土 口縁部小破 片	残存高 3.8 厚さ 0.7	①砂粒含む ②良好 ③にぶい橙(7.5YR7/3)	口縁部刷毛目の後、先端を折り返して口 唇部を作り出す。	
第163図 P L.54	7	土師器 台付甕	埋土 台部2/3	口径 - 底径 (10.1) 残存高 5.7	①砂粒含む ②普通 ③浅黄橙(7.5YR8/3)	外面刷毛目の後粗い撫で。内面上半縦方 向の指撫で、下半は横撫で。	

島谷戸Ⅱ区第3面36号溝(2)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第163図 P L.54	8	土師器 器台	埋土 器受部1/4～ 脚部上半	口径 (6.4) 底径 - 残存高 6.3	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③橙(5YR7/6)	器受部内外面横撫で。脚部外面縦篋磨き。 胴部内面撫で。脚部の孔は3方向。	
第163図 P L.54	9	土師器 器台	埋土 脚部上半1/4	口径 - 底径 - 残存高 5.8	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/3)	脚部外面器表摩滅、丁寧な撫でか。脚部 内面撫での後下部に横方向の刷毛目。脚 部の孔は3方向。	
第163図 P L.56	10	弥生土器 壺	埋土 口縁部小破 片	残存高 3.6 厚さ 0.6	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	口縁下部に3～4本の沈線が巡る。	
第163図 P L.57	11	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部小破 片	口径 - 底径 - 高さ -	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③灰白(10YR8/1)	2破片に分かれるが直接接合しない。口 縁部がくの字状に外反、環状突起を付す。 沈線によるモチーフを描く。	堀之内1式
第163図 P L.54	12	石器 石鏃	埋土 茎部欠	残存長 2.6 幅 1.4 厚さ 0.5	チャート	有茎の石鏃。茎部欠損。丁寧な作り。重 さ1g。	

島谷戸Ⅱ区第3面37号溝

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第163図 P L.54	1	土師器 高坏	埋土 坏部1/3～脚 部上半	口径 - 底径 - 残存高 8.8	①砂粒、赤色粒子やや多い ②やや軟質 ③橙(5YR7/6)	器表摩滅のため、調整不明。	
第163図 P L.56	2	弥生土器 壺	埋土 口縁部小破 片	口径 - 底径 - 高さ -	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	3破片から推定復元。内外面に赤色塗彩 の痕跡あり。	
第164図 P L.57	3	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部小破 片	残存高 9.5 厚さ 1.3	①細礫、白色粒子含む ②ふつう ③にぶい橙(5YR6/4)	頸部でくびれる器形。横位沈線を施す。	堀之内1式

島谷戸Ⅱ区第4面2号土器集中部

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第171図 P L.54	1	土師器 台付甕	埋土 台部小破片	口径 - 底径 (6.7) 残存高 4.1	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/6)	外面粗い指押さえ。内面撫で。	
第171図 P L.57	2	縄文土器 深鉢	埋土 底部～胴部 下端小破片	口径 - 底径 7.0 残存高 10.3	①細礫、繊維含む ②普通 ③にぶい赤褐(5YR5/4)	無紋。内面に一部、貝殻条痕が見られる。	条痕紋系

島谷戸Ⅱ区第4面3号土器集中部

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第171図 P L.54	1	土師器 壺	埋土 口縁部小破 片	口径 (20.4) 底径 - 残存高 2.5	①砂粒含む ②普通 ③にぶい黄褐(10YR7/3)	外面斜め方向刷毛目の後折り返して口唇 部を作る。内面撫で。	

島谷戸Ⅱ区第4面4号土器集中部

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第171図 P L.54	1	土師器 甕	埋土 底部～胴部 下半2/3	口径 - 底径 6.8 残存高 17.3	①砂粒、赤色粒子含む ②やや軟質 ③橙(5YR6/6)	外面粗い撫での後粗いケズリ。内面撫で。	

島谷戸Ⅱ区第4面5号土器集中部

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第172図 P L.57	1	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片	残存高 7.5 厚さ 0.9	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③灰黄褐(10YR5/2)	頸部でくびれる器形。沈線により幾何学状モチーフを描き、単節RL縄紋を充填施紋する。口縁に環状突起を付す。	堀之内1式
第172図 P L.57	2	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片	残存高 14.1 厚さ 1.0	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③にぶい黄褐(10YR6/4)	波状口縁。口縁に沿って隆線を1条貼付し、波頂部からも垂下させて連結。波頂部と連結部に凹形刺突を施す。隆線下に沈線による幾何学状を描く。	堀之内1式
第172図 P L.57	3	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片	残存高 8.2 厚さ 0.6	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	頸部でくびれる器形。沈線により幾何学状モチーフを描く。	堀之内1式
第172図 P L.57	4	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片	残存高 7.7 厚さ 1.5	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR6/4)	口縁下肥厚。沈線により、曲線モチーフを描く。	堀之内1式
第172図 P L.57	5	縄文土器 深鉢	埋土 口縁部破片	残存高 5.3 厚さ 1.1	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	頸部でくびれる器形。横位沈線を施す。	堀之内1式
第172図 P L.57	6	縄文土器 深鉢	埋土 胴部破片	残存高 10.8 厚さ 1.1	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③橙(7.5YR6/6)	沈線により幾何学状モチーフを描き、列点を充填施紋する。	堀之内1式

島谷戸遺構外(1)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第173図 P L.54	1	土師器 手捏ね土器	110-080G FA下 小破片	口径 (6.0) 底径 (4.8) 高さ 2.6	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	手捏ね成形。内外面ごく粗い撫で。	
第173図 P L.54	2	土師器 蓋	140-080G 2/3	つまみ径 3.5 口径 8.2 高さ 4.0	①砂粒含む ②普通 ③浅黄橙(10YR8/3)	全面横撫で。	
第173図 P L.54	3	土師器 器台	110-080G FA下 脚部上端	口径 - 底径 - 残存高 4.2	①細砂粒含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/4)	全面撫で。孔は3方向。	
第173図 P L.54	4	土師器 高坏	130-090G FA下 口縁付近1/2	口径 (25.8) 底径 - 残存高 12.7	①砂粒やや多い ②普通 ③赤褐(7.5YR6/4)	表面摩滅。外面横撫での後坏部縦磨き。坏部内面横撫で。脚部内面横撫で。脚部の孔は3方向。	
第173図 P L.54	5	土師器 壺	130-060G FA下 胴部小破片	口径 - 底径 - 高さ -	①砂粒多い ②普通 ③灰白(10YR8/2)	3片から推定復元。胴部上半に粘土紐を貼り付けて模様を施す。	
第173図 P L.54	6	土師器 甕	130-060G FA下 口縁部破片	口径 (15.0) 底径 - 残存高 4.7	①砂粒やや多い ②やや軟質 ③にぶい橙(7.5YR7/3)	表面摩滅。口唇部は折り返し。	
第173図 P L.54	7	土師器 甕	120-080G FA下 口縁部1/4	口径 (19.2) 底径 - 残存高 5.3	①砂粒、白・赤色粒子含む ②普通 ③明赤褐(5YR5/6)	口縁中位に明瞭な段がある。内外面とも横撫で。	
第173図 P L.54	8	土師器 壺	表土 口縁部小破片	残存高 4.9 厚さ 0.8	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(5YR6/4)	外面刷毛目の後口唇部折り返し。内面横撫で。	
第173図 P L.54	9	土師器 甕	130-040G FA下 口縁部小破片	口径 (13.7) 底径 - 残存高 3.2	①砂粒含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR7/3)	胴部外面刷毛目。口縁部内外面横撫で。	
第173図 P L.54	10	土師器 甕	150-080G 底部	口径 - 底径 (4.0) 残存高 3.5	①砂粒含む ②普通 ③淡黄(2.5Y8/3)	外面磨削。内面撫で。底部外面を除いて赤色塗彩。	
第173図 P L.55	11	銅銭	表土	径 2.3	開元通寶(唐・621初鑄)		
第173図 P L.55	12	銅銭	100-020G	径 2.4	天聖元寶(北宋・1023初鑄)		

島谷戸遺構外(2)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第173図 P L.56	13	弥生土器 壺	140-100G 口縁部1/5	口径 (14.2) 底径 - 残存高 5.2	①砂粒多く粗い ②やや軟質 ③にぶい橙(5YR7/4)	表面摩滅。内外面とも横撫で。口唇部に縄文か。	
第173図 P L.56	14	弥生土器 壺	150-110G 頸部1/5	口径 - 底径 - 残存高 11.1	①砂粒、白・赤色粒子含む ②やや軟質 ③にぶい褐(7.5Y5/3)	外面細かい縄文。内面撫で。	
第174図 P L.56	15	弥生土器	160-110G 胴部小破片	残存高 3.0 厚さ 0.7	①砂粒含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	外面篋による沈線文と列点文。	
第174図 P L.56	16	弥生土器	140-080G 口縁部小破片	残存高 3.8 厚さ 0.7	①砂粒やや多い ②やや軟質 ③橙(7.5YR7/6)	外面縄文の上に沈線による波状文。	
第174図 P L.56	17	弥生土器	140-070G 胴部小破片	残存高 2.5 厚さ 0.7	①砂粒、赤色粒子含む ②普通 ③にぶい黄橙(10YR7/2)	外面平行する沈線文。	
第174図 P L.56	18	弥生土器	160-080G 胴部小破片	残存高 3.3 厚さ 0.65	①砂粒やや多い ②普通 ③灰白(10YR8/2)	外面平行する沈線文。	
第174図 P L.56	19	弥生土器	150-110G 胴部小破片	残存高 3.8 厚さ 0.9	①砂粒やや多い ②やや軟質 ③にぶい橙(7.5YR7/4)	外面平行する沈線文。	
第174図 P L.56	20	弥生土器	150-110G 胴部小破片	残存高 4.2 厚さ 0.8	①砂粒、赤色粒子やや多い ②普通 ③橙(2.5YR6/6)	外面平行する沈線文。	
第174図 P L.56	21	弥生土器	160-090G 胴部小破片	残存高 2.8 厚さ 0.5	①砂粒含む ②普通 ③明赤褐(2.5YR5/6)	外面櫛描文と円形の貼り付け文。	
第174図 P L.56	22	弥生土器	160-110G 胴部小破片	残存高 2.7 厚さ 0.8	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③にぶい橙(7.5YR6/4)	外面円形の貼り付け文。その上に串先状のもので刺突。	
第174図 P L.56	23	弥生土器	120-080G 胴部小破片	残存高 3.1 厚さ 0.6	①砂粒含む ②普通 ③橙(5YR6/6)	外面櫛描きによる波状文。	
第174図 P L.56	24	弥生土器	140-090G 胴部小破片	残存高 4.0 厚さ 0.5	①砂粒含む ②普通 ③黒褐(10YR3/2)	外面不整方向の櫛描文。	
第174図 P L.56	25	弥生土器	140-080G 胴部小破片	残存高 3.3 厚さ 0.6	①砂粒含む ②普通 ③にぶい褐(7.5YR5/4)	外面櫛描きによる波状文。	
第174図 P L.56	26	弥生土器	140-080G 胴部小破片	残存高 1.8 厚さ 0.5	①砂粒含む ②やや軟質 ③灰黄褐(10YR6/2)	外面縄文の上に簾状文。	
第174図 P L.56	27	弥生土器	170-080G 胴部小破片	残存高 4.1 厚さ 0.55	①砂粒やや多い ②普通 ③明赤褐(5YR5/6)	外面縄文。	
第174図 P L.56	28	弥生土器	150-100G 胴部小破片	残存高 4.3 厚さ 0.75	①砂粒、白色粒子含む ②普通 ③褐(7.5YR4/3)	外面細かい縄文。	
第174図 P L.56	29	弥生土器	150-110G 胴部小破片	残存高 2.8 厚さ 0.6	①砂粒含む ②普通 ③黒(10YR2/1)	外面横に並ぶ列点文。	
第174図 P L.56	30	弥生土器	120-080G 胴部小破片	残存高 4.4 厚さ 0.5	①砂粒含む ②普通 ③にぶい黄褐(10YR5/3)	外面刷毛目状。	
第174図 P L.56	31	弥生土器	130-080G 胴部小破片	残存高 5.3 厚さ 0.6	①砂粒含む ②普通 ③灰黄褐(10YR4/2)	外面刷毛目状。	

島谷戸遺構外(3)

挿図番号 図版番号	No.	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		①胎土②焼成③色調	器形・技法等の特徴	備考
第174図 P L.56	32	弥生土器	130-060G 口縁部小破片	残存高 厚さ	4.5 0.6	①砂粒含む ②普通 ③褐灰(10YR5/1)	外面沈線文。	
第174図 P L.57	33	縄文土器 深鉢	150-110G 底部完形～ 胴部1/4	口径 底径 残存高	- 5.2 12.1	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③明赤褐(5YR5/6)	底径5.2cm、現存器高12.1cm。小形。頸部でくびれる器形。沈線によりモチーフを描く。胴下半部は無紋。	堀之内1式
第174図 P L.57	34	縄文土器 深鉢	110-080G FA下 口縁部破片	残存高 厚さ	9.0 1.15	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③にぶい赤橙(5YR4/4)	口縁部に無紋帯を成形。沈線により幾何学状モチーフを描き、単節LR縄紋を充填施紋する。	称名寺I式
第174図 P L.57	35	縄文土器 深鉢	120-080G FA下 口縁部破片	残存高 厚さ	9.3 0.8	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③にぶい黄褐(10YR6/4)	条線を逆V字状に施す。	堀之内1式
第174図 P L.57	36	縄文土器 深鉢	FA下 口縁部破片	残存高 厚さ	5.7 1.1	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③灰黄(2.5Y7/2)	口縁部を肥厚させ、肥厚部に浅い円形刺突を施す。	堀之内1式
第174図 P L.57	37	縄文土器 深鉢	140-060G FA下 口縁部破片	残存高 厚さ	5.9 1.5	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③にぶい黄褐(10YR6/4)	口縁下肥厚。横位沈線、刺突を施す。	堀之内1式
第174図 P L.57	38	縄文土器 深鉢	150-080G 胴部小破片	残存高 厚さ	6.9 0.9	①細礫、繊維含む ②普通 ③明赤褐(5YR5/6)	内外面に貝殻条痕を施す。	条痕紋系
第174図 P L.57	39	縄文土器 深鉢	130-060G 胴部小破片	残存高 厚さ	6.0 1.0	①細礫、白色粒子含む ②普通 ③にぶい黄褐(10YR6/4)	沈線により幾何学状モチーフを描き、刺突を充填施紋する。	堀之内1式
第174図 P L.57	40	縄文土器 深鉢	120-080G 胴部小破片	残存高 厚さ	1.9 0.8	①細礫少量含む ②良好 ③明赤褐(5YR5/6)	横位に沈線を施し、沈線間に貝殻腹縁紋を施す。	田戸下層式
第175図 P L.57	41	石器 打製石斧	130-080G FA下	長さ 幅 厚さ	13.1 7.1 1.3	ホルンフェルス	撥形の石斧。刃部はよく使用されている。重さ169g。	
第175図 P L.57	42	石器 石鏃	140-080G ローム層直上 先端欠	残存長 幅 厚さ	3.8 3.9 0.35	チャート	有脚の石鏃。先端欠。薄く丁寧な作り。重さ1g。	
第175図 P L.57	43	石器 石鏃	130-090G FA下 先端欠	長さ 幅 厚さ	2.5 1.5 0.3	チャート	有脚の石鏃。先端欠。やや細身で薄く丁寧な作り。重さ1g。	

# 写真図版







I区全景 (東から)



III区東端・IV区全景 (西から)



VII区東半・VIII区全景 (西から)



I区14号トレンチ (東から)



I区15号トレンチ (西から)



I区17号トレンチ (東から)



I区14号トレンチ1号溝 (南から)



I区17号トレンチ2号溝 (東から)



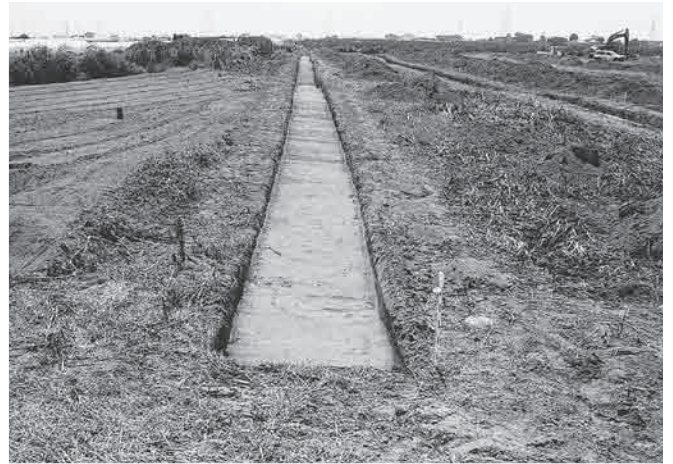
II・III区11号トレンチ (東から)



II・III区8号トレンチ (東から)



III区9号トレンチ (東から)



III区10号トレンチ (東から)



IV区1号トレンチ (東から)



IV区2号トレンチ (西から)



IV区4号トレンチ (西から)



VII区22号トレンチ (西から)



V・VI区19号トレンチ (西から)



V・VI区21号トレンチ (西から)



VII区24号トレンチ (西から)



VIII区28号トレンチ (西から)



I区1号トレンチ (西から)



I区2号トレンチ (西から)



I区4号トレンチ深掘り (北から)



II区8号トレンチ (東から)



II区10号トレンチ (西から)



III区14号トレンチ (西から)



III区17号トレンチ (西から)



III区18号トレンチ (西から)



山之神野田遺跡Ⅰ区1号トレンチ (西から)



山之神野田遺跡Ⅰ区3号トレンチ (西から)



山之神野田遺跡Ⅱ区7号トレンチ (西から)



山之神野田遺跡Ⅱ区10号トレンチ深掘り (南から)



山之神南側遺跡Ⅰ区3号トレンチ (西から)



山之神南側遺跡Ⅱ区6トレンチ (東から)



山之神南側遺跡Ⅲ区11トレンチ (南西から)



山之神南側遺跡Ⅳ区14号トレンチ (西から)



Ⅷ区37・38号トレンチ2号溝 (南から)



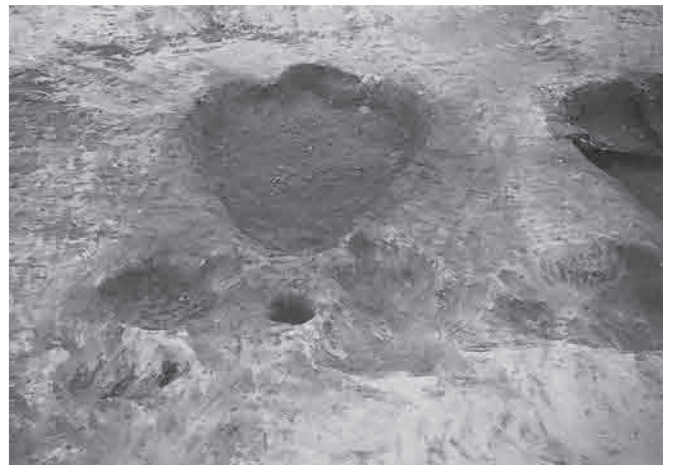
Ⅷ区38号トレンチ3号溝 (東から)



X区45号トレンチ (西から)



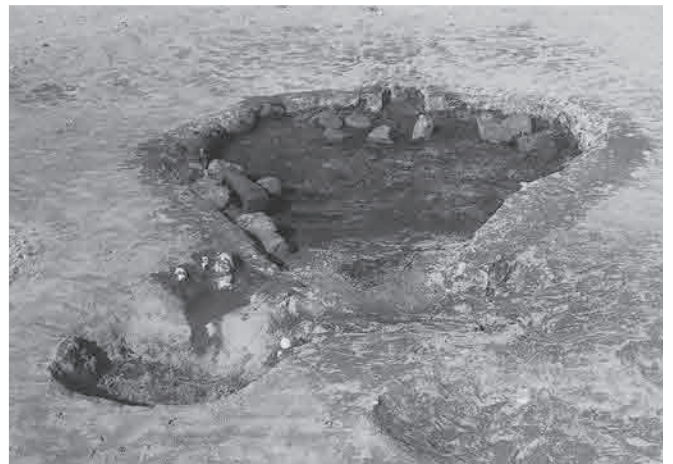
X区46号トレンチ1～3号炭焼窯跡 (南から)



X区46号トレンチ1号炭焼窯跡 (南から)



X区46号トレンチ2号炭焼窯跡 (南から)



X区46号トレンチ3号炭焼窯跡 (南から)



I区2号トレンチ (西から)



I区3号トレンチ (西から)



I区4号トレンチ (西から)



II区6号トレンチ (北から)



III区7号トレンチ (西から)



IV区12号トレンチ (東から)



V区1・2号溝 (南から)



V区1号溝A-A'セクション (南から)



V区2号溝D-D'セクション (南から)



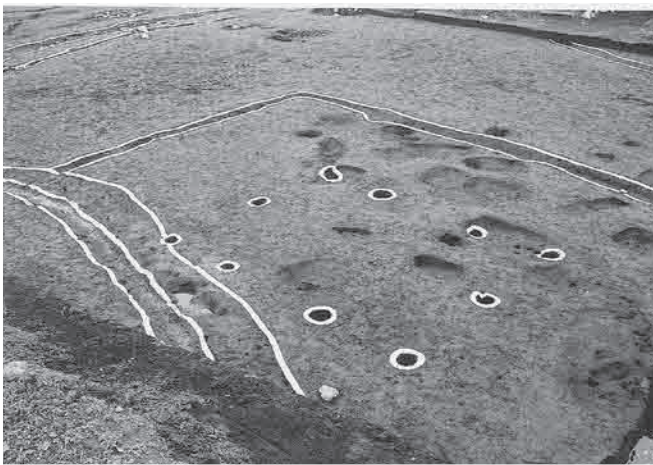
V区1号土坑 (北西から)



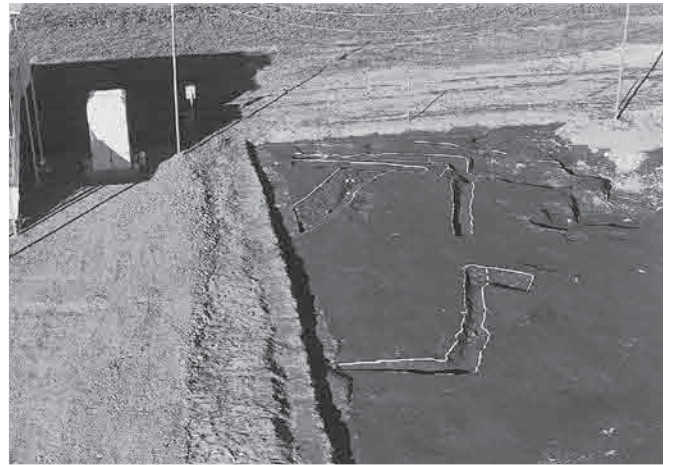
V区旧石器確認調査中央トレンチ (南西から)



VI区東部全景 (西から)



VI区1号掘立柱建物 (北東から)



VI区4号溝 (VII区内・南から)



VI区4号溝 (VII区内・南東から)



VI区4号溝B-B'セクション (VII区内・南東から)

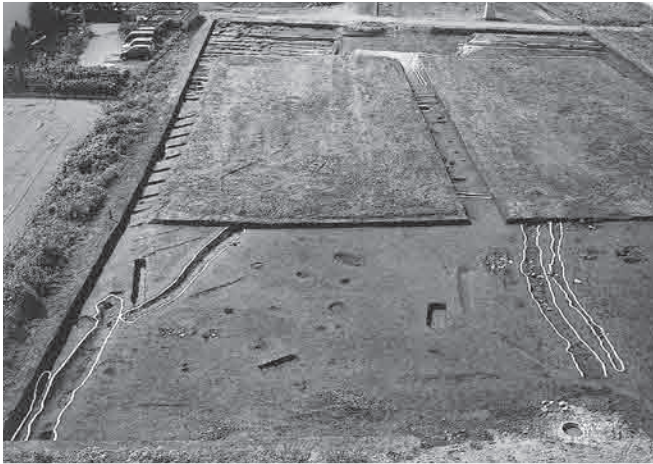




Ⅵ区1号溝南半・21号溝 (南西から)



Ⅵ区1号溝A-A'セクション (南から)



Ⅵ区2・8～10号溝 (東から)



Ⅵ区4・6・8・9号溝 (東から)



11号溝 (Ⅵ区内・南から)



Ⅵ区12・13号溝、2号土坑 (北東から)



Ⅵ区15号溝 (南から)



Ⅵ区旧石器確認調査240-500G (北東から)



Ⅶ区北半(Ⅶ-1区)全景(西から)



Ⅶ区北半(Ⅶ-1区)全景(東から)



Ⅶ区南半(Ⅶ-2区)全景(西から)



Ⅶ区南東部(Ⅶ-3区)全景(北から)



Ⅶ区南東部(Ⅶ-3区)全景(北西から)



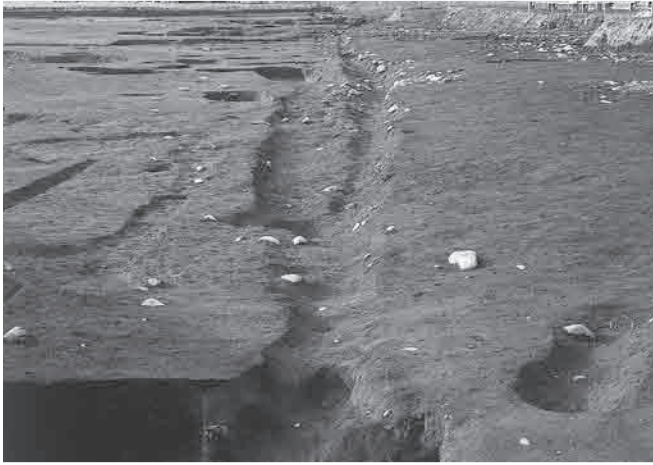
Ⅶ区南東隅(Ⅶ-3区)全景(北から)



Ⅶ区1号掘立柱建物(南西から)



Ⅶ区1号掘立柱建物(北西から)



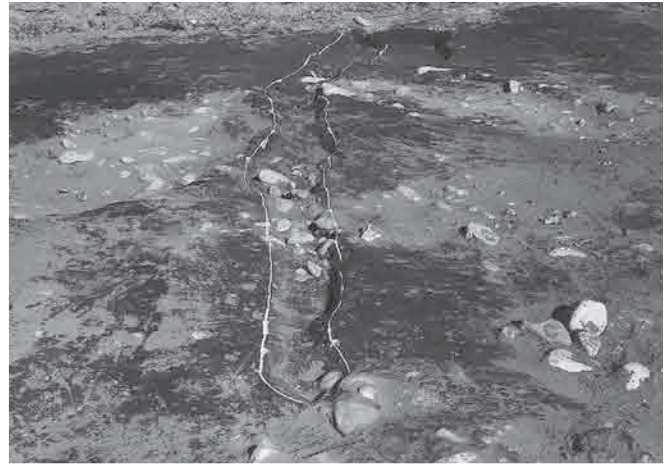
Ⅶ区2・3号溝 (南東から)



Ⅶ区2・3号溝 (北西から)



Ⅶ区4・5号溝 (北東から)



Ⅶ区4号溝南端 (南西から)



Ⅶ区6・7号溝と12～14号溝交差部 (南から)



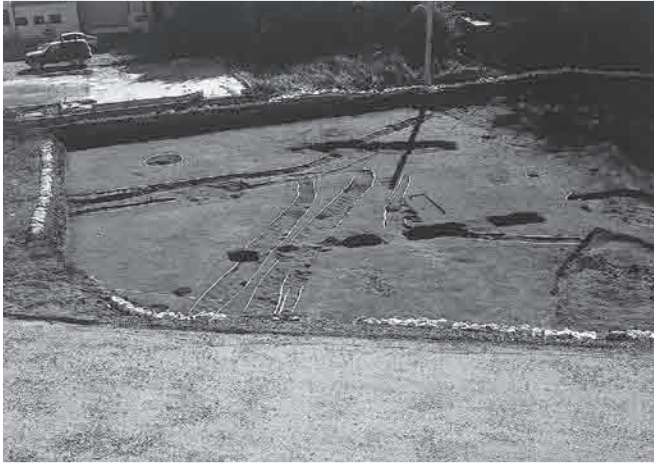
Ⅶ区6・7号溝C-C'セクション (南から)



Ⅶ区12～14号溝 (東から)



Ⅶ区12～14・31号溝 (南西から)



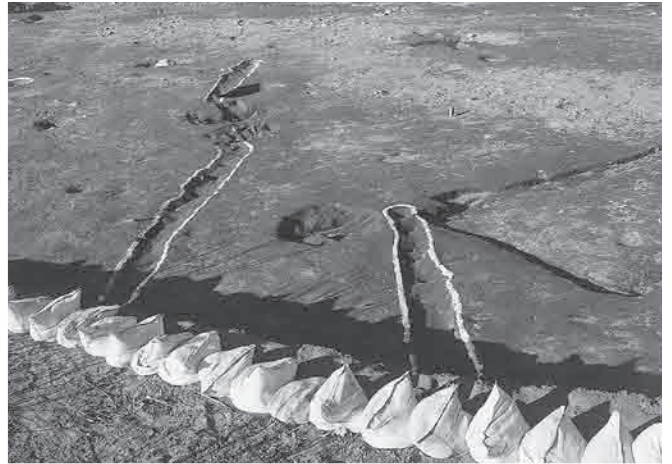
Ⅶ区6～8・12～14・15号溝 (北から)



Ⅶ区16～19号溝 (南東から)



Ⅶ区17～19号溝 (南東から)



Ⅶ区20～22号溝 (南東から)



Ⅶ区23号溝 (南西から)



Ⅶ区25・28・29号溝 (北西から)



Ⅶ区25号溝A-A'セクション (西から)



Ⅶ区28号溝D-D'セクション (南東から)



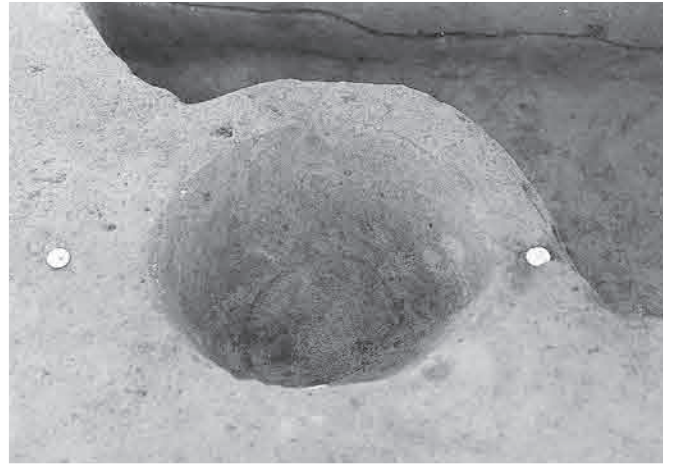
Ⅶ区29号溝D-D'セクション (南東から)



Ⅶ区27号溝 (北東から)



Ⅶ区34～36号溝 (南東から)



Ⅶ区1号土坑 (南西から)



Ⅶ区2号土坑 (南西から)



Ⅶ区3号土坑 (南西から)



Ⅶ区4号土坑 (南西から)



Ⅶ区5号土坑 (南西から)



Ⅶ区6号土坑 (南西から)



Ⅶ区7号土坑 (南東から)



Ⅶ区8号土坑 (南西から)



Ⅶ区9号土坑 (南東から)



Ⅶ区10号土坑 (南西から)



Ⅶ区11号土坑 (南西から)



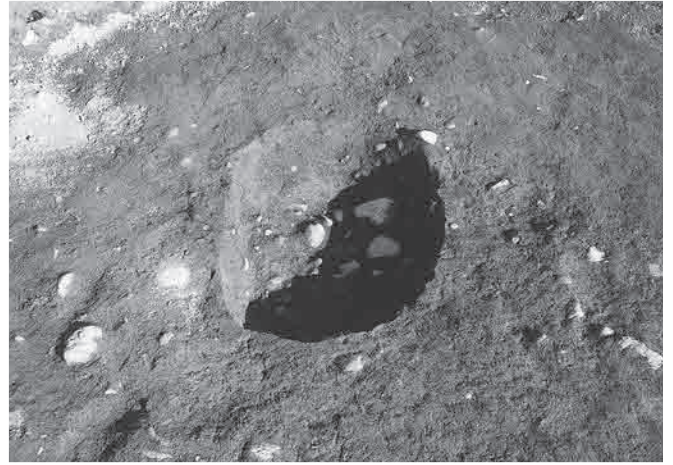
Ⅶ区12号土坑 (東から)



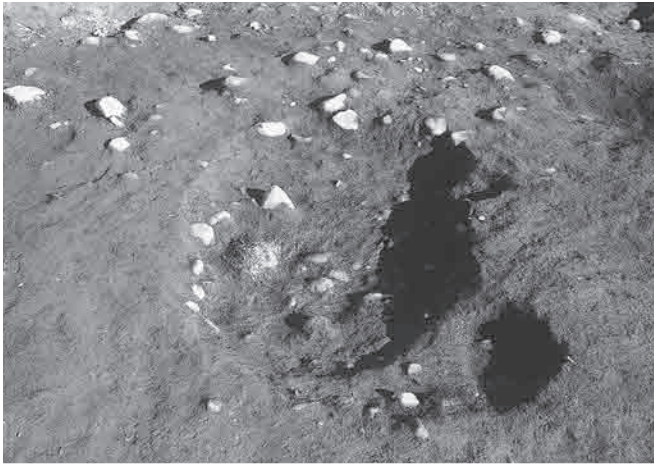
Ⅶ区13・14号土坑 (北東から)



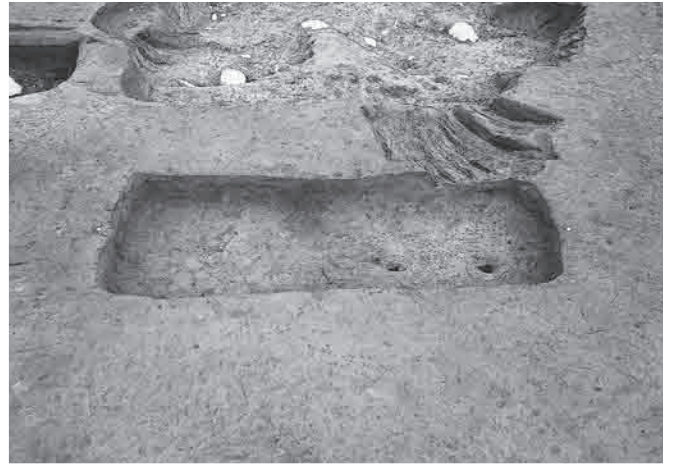
Ⅶ区15号土坑 (南西から)



Ⅶ区16号土坑 (南西から)



Ⅶ区17号土坑 (南西から)



Ⅶ区19号土坑 (南西から)



Ⅶ区21号土坑 (南から)



Ⅶ区23号土坑 (西から)



Ⅶ区24号土坑 (西から)



Ⅶ区25・26号土坑 (南西から)



Ⅶ区27号土坑 (南から)



Ⅶ区28号土坑 (南東から)



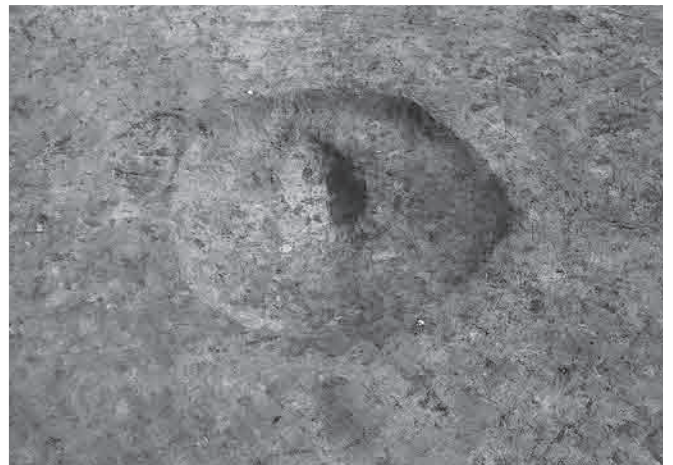
Ⅶ区29号土坑 (南から)



Ⅶ区30号土坑 (東から)



Ⅶ区31号土坑 (南西から)



Ⅶ区32号土坑 (西から)



Ⅶ区33号土坑 (北東から)



Ⅶ区34号土坑 (南西から)

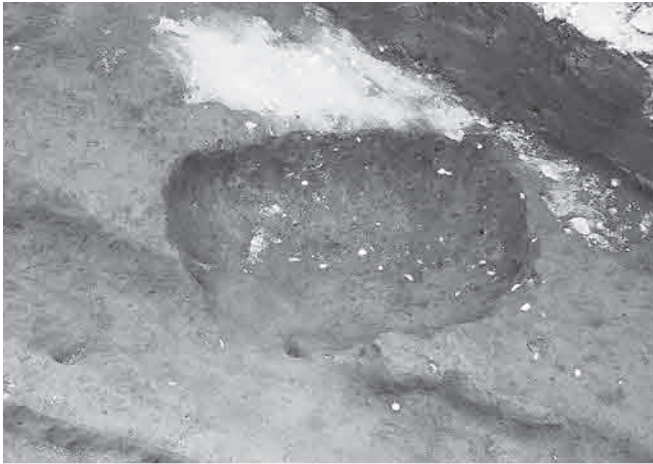




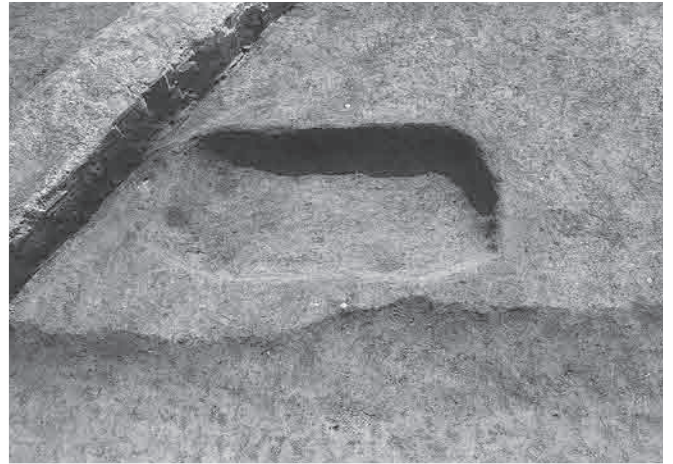
Ⅶ区35号土坑 (北西から)



Ⅶ区37号土坑 (北西から)



Ⅶ区38号土坑 (北東から)



Ⅶ区39号土坑 (北西から)



Ⅶ区40・44号土坑 (北西から)



Ⅶ区42・44号土坑 (北東から)



Ⅶ区41号土坑 (北東から)



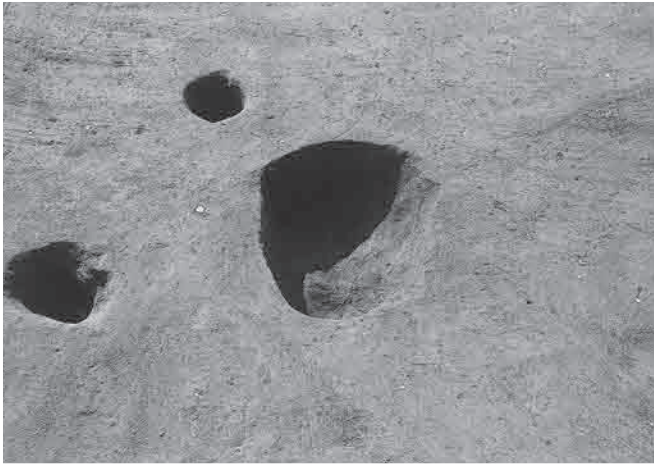
Ⅶ区43号土坑 (北西から)



Ⅶ区45号土坑 (南から)



Ⅶ区54号土坑 (南東から)



Ⅶ区55号土坑 (東から)



Ⅶ区57号土坑セクション (南東から)



Ⅶ区58号土坑セクション (南から)



Ⅶ区59号土坑セクション (南東から)



Ⅶ区77号土坑 (南から)



Ⅶ区1号井戸 (北東から)



Ⅶ区北半部(Ⅶ-1区)旧石器確認調査(東から)



Ⅶ区北半部(Ⅶ-1区)旧石器確認調査(西から)



Ⅶ区旧石器確認調査250-440G(西から)



Ⅶ区旧石器確認調査作業風景



Ⅷ区西部(北東から)



Ⅷ区中央部(北西から)



Ⅷ区中央部(北西から)



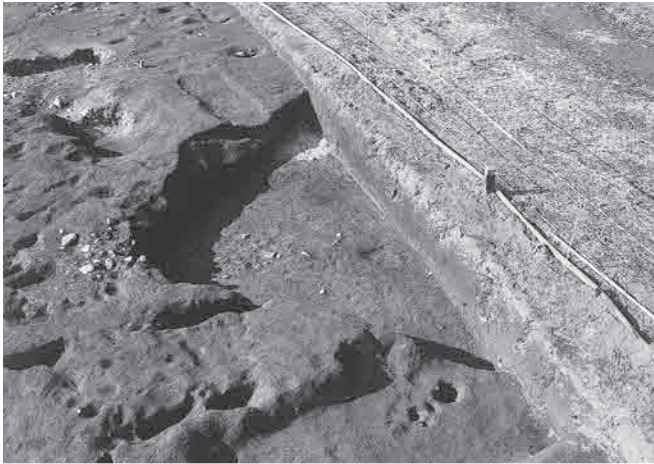
Ⅷ区中央部(北から)



Ⅷ区東部 (東から)



Ⅷ区東部 (南西から)



Ⅷ区1号住居 (南東から)



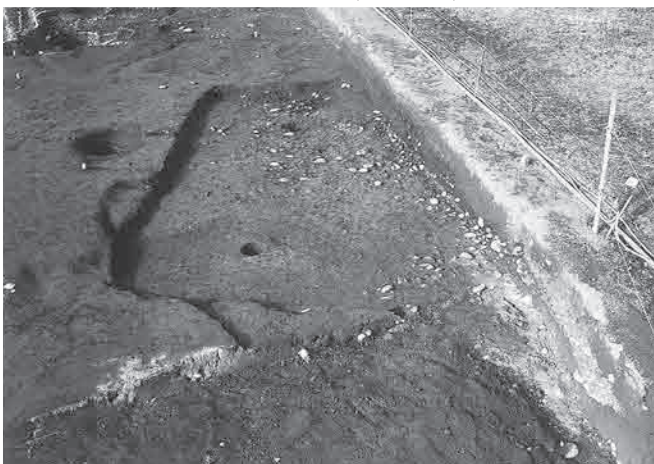
Ⅷ区2・5号住居とその周辺 (北から)



Ⅷ区2号住居 (南東から)



Ⅷ区2号住居竈 (南東から)



Ⅷ区3号住居 (南東から)



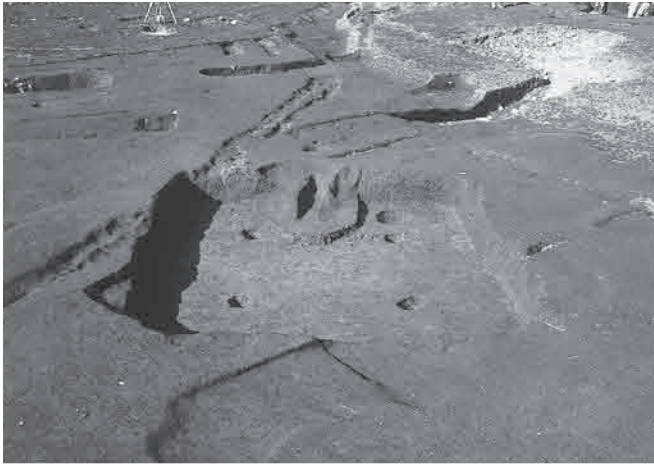
Ⅷ区3号住居竈 (南東から)



Ⅷ区4号住居 (南西から)



Ⅷ区4号住居竈 (南西から)



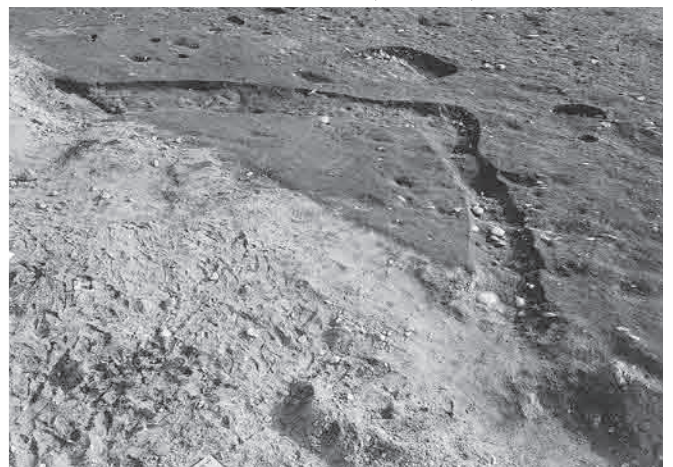
Ⅷ区5号住居 (南東から)



Ⅷ区5号住居竈 (南東から)



西野原遺跡(3)Ⅷ区と(4)の境の溝群 (南から)



Ⅷ区16号溝 (Ⅷ区内・北西から)



Ⅷ区19号溝H-H' セクション (南から)



Ⅷ区20-1・2号溝H-H' セクション (南から)



Ⅷ区30・31号溝 (南東から)



Ⅷ区21号土坑セクション (東から)



Ⅷ区22号土坑セクション (東から)



Ⅷ区23号土坑 (南から)



Ⅷ区25号土坑セクション (東から)



Ⅷ区29号土坑セクション (西から)



Ⅷ区31号土坑セクション (北西から)



Ⅷ区34号土坑セクション (北東から)



Ⅷ区35号土坑セクション (南から)



Ⅷ区37号土坑セクション (南東から)



Ⅷ区38号土坑セクション (東から)



Ⅷ区40号土坑 (北東から)



Ⅷ区1号土器集中部 (北東から)



Ⅷ区旧石器確認調査 (南西から)



Ⅷ区旧石器確認調査265-370G



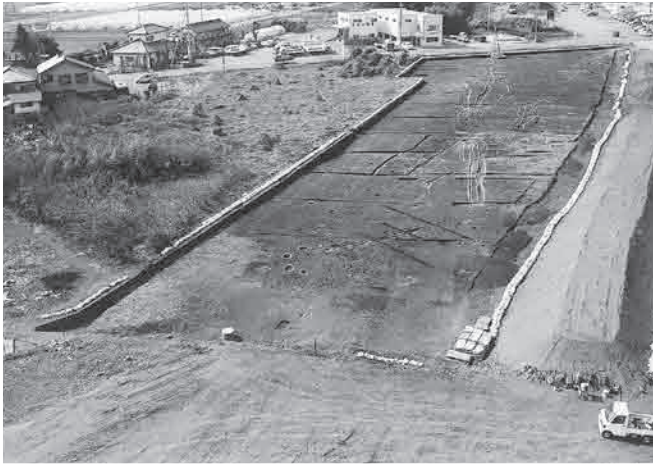
西野原(4)・(3)Ⅷ区台風10号による冠水状態



Ⅸ区全景（西から）



Ⅸ区東半部（北西から）



Ⅸ区全景（東から）



Ⅸ区中央部（北から）



Ⅸ区西端部1・3・4号掘立柱建物周辺（北東から）



Ⅸ区1号掘立柱建物（南東から）



Ⅸ区2号掘立柱建物（北東から）



Ⅸ区3号掘立柱建物（南東から）

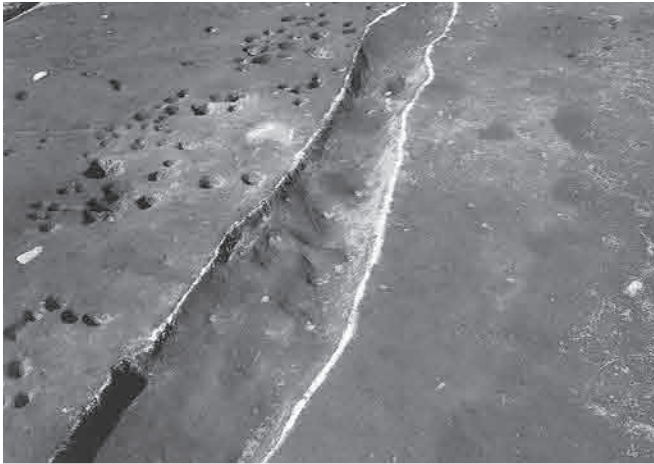




Ⅸ区4号掘立柱建物・4号柵列(南西から)



Ⅸ区1号溝(東から)



Ⅸ区2号溝(北東から)



Ⅸ区3・4号溝(西から)



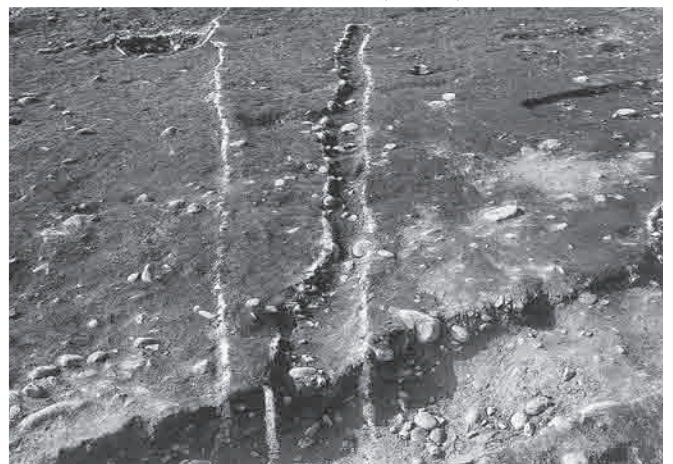
Ⅸ区8号溝(東から)



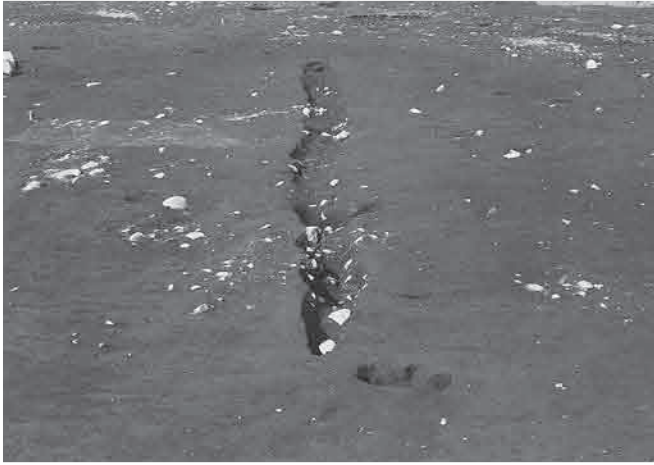
Ⅸ区8・18号溝(北から)



Ⅸ区9号溝(東から)



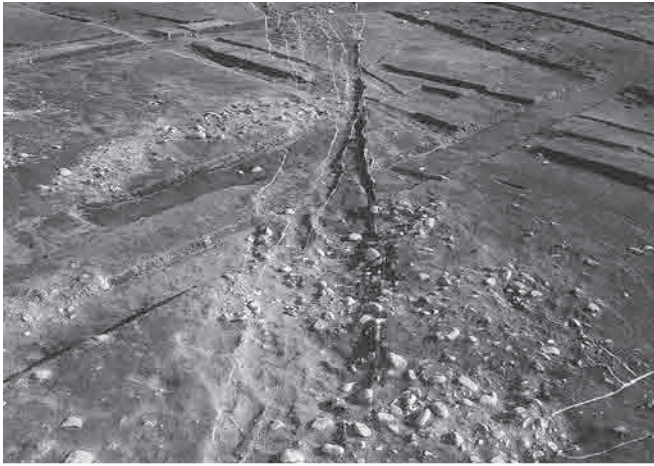
Ⅸ区10号溝(南東から)



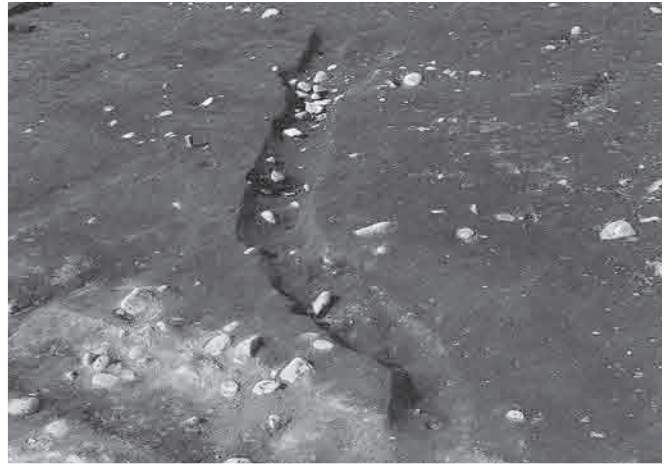
Ⅸ区14号溝 (南から)



Ⅸ区15号溝 (西から)



Ⅸ区16号溝 (北西から)



Ⅸ区18号溝 (南東から)



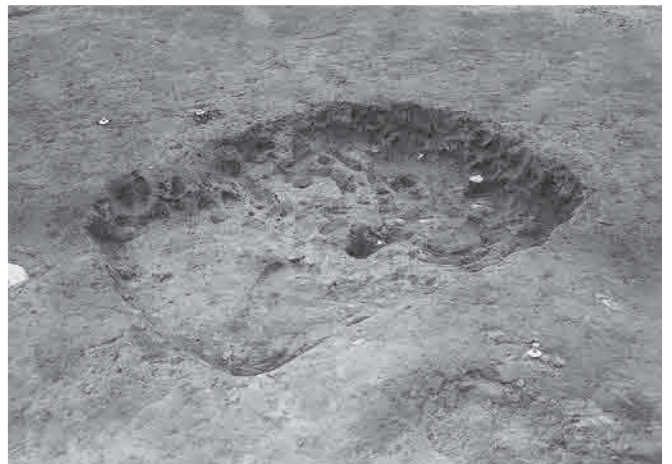
Ⅸ区20・21号溝 (北東から)



Ⅸ区22号溝 (南東から)



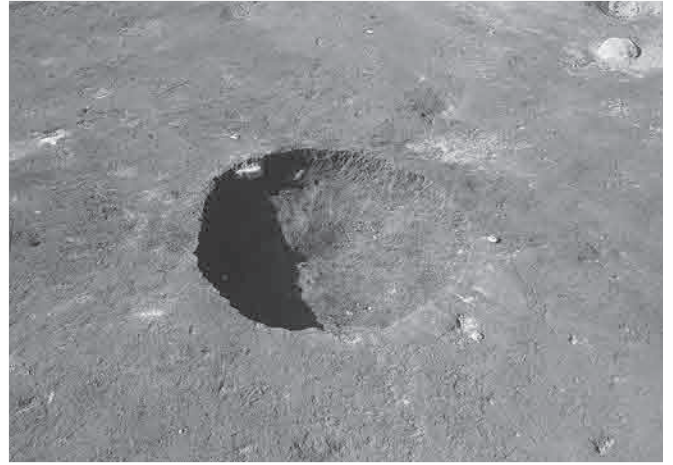
Ⅸ区1号土坑 (北東から)



Ⅸ区2号土坑 (北東から)



Ⅸ区3号土坑 (南東から)



Ⅸ区4号土坑 (南東から)



Ⅸ区5号土坑 (北から)



Ⅸ区7号土坑 (南東から)



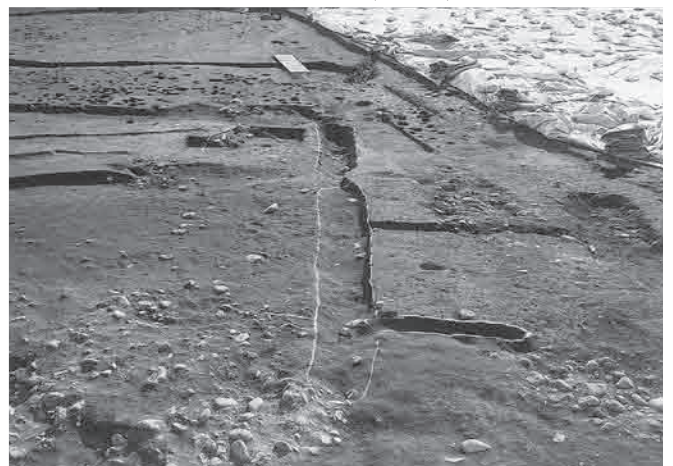
Ⅸ区8号土坑 (南東から)



Ⅸ区9号土坑 (東から)



Ⅸ区10号土坑 (東から)



Ⅸ区10・16号土坑 (北から)



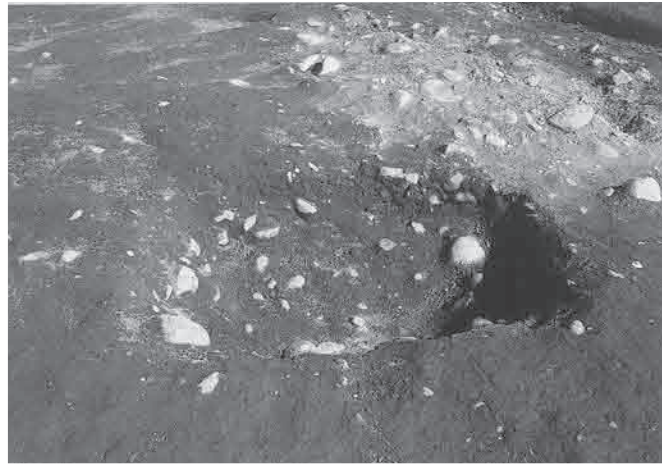
Ⅸ区13号土坑 (西から)



Ⅸ区14号土坑 (北から)



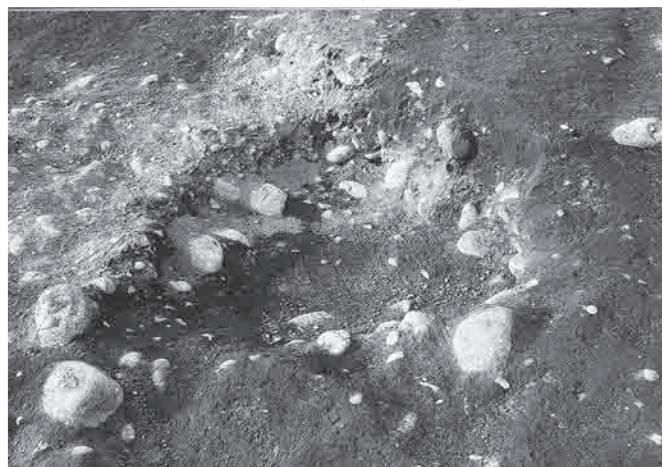
Ⅸ区17号土坑 (西から)



Ⅸ区18号土坑 (南西から)



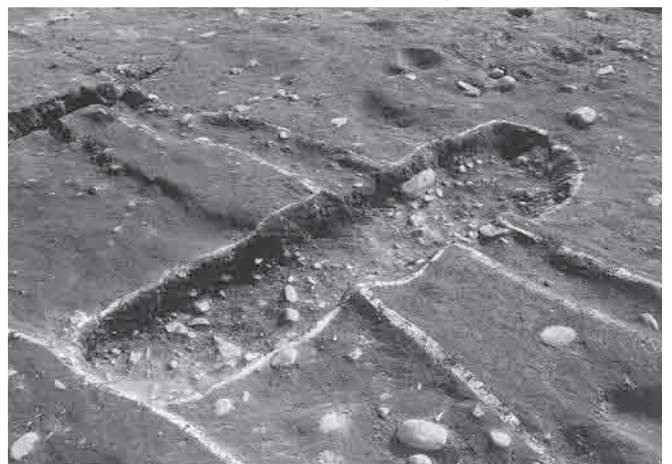
Ⅸ区19号土坑 (南から)



Ⅸ区20号土坑 (南から)



Ⅸ区21号土坑 (南東から)



Ⅸ区23号土坑 (北西から)



Ⅸ区24号土坑 (北西から)



Ⅸ区26号土坑 (南から)



Ⅸ区27号土坑 (南東から)



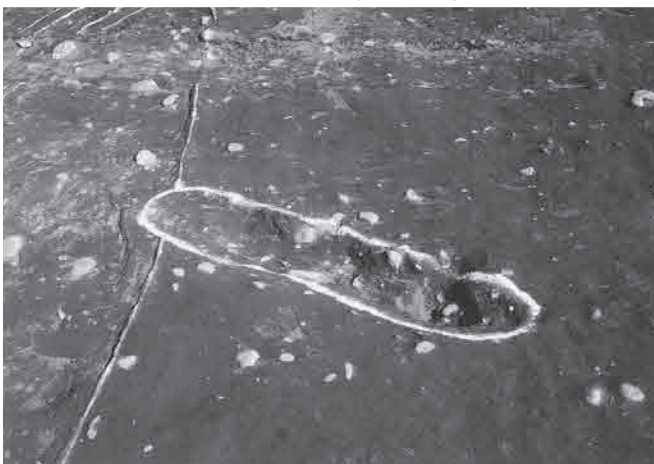
Ⅸ区28号土坑 (南東から)



Ⅸ区29号土坑 (南東から)



Ⅸ区30号土坑 (西から)



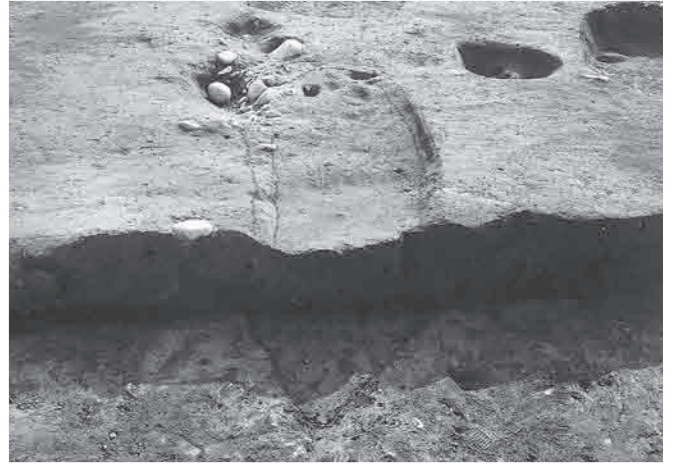
Ⅸ区34号土坑 (西から)



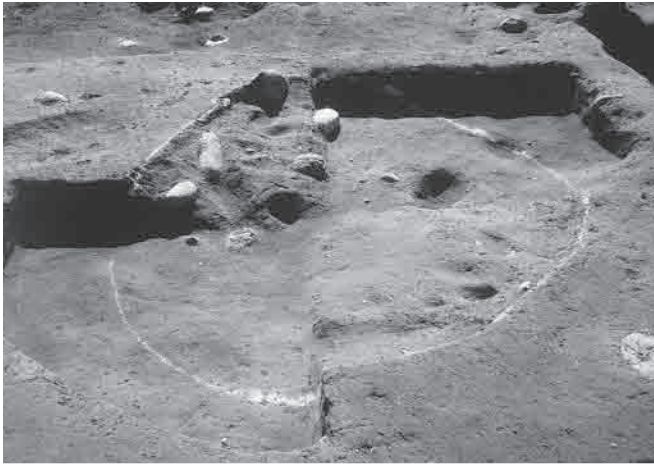
Ⅸ区35号土坑 (西から)



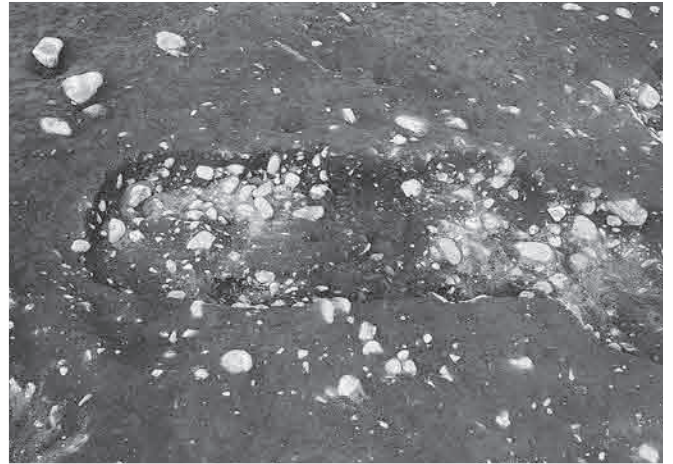
Ⅸ区38号土坑 (南東から)



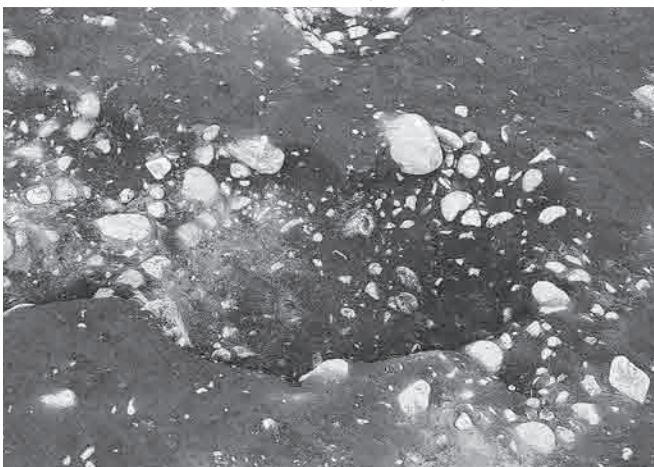
Ⅸ区39号土坑 (北から)



Ⅸ区40号土坑 (北から)



Ⅸ区41号土坑 (南西から)



Ⅸ区42号土坑 (南西から)



Ⅸ区43号土坑 (南から)



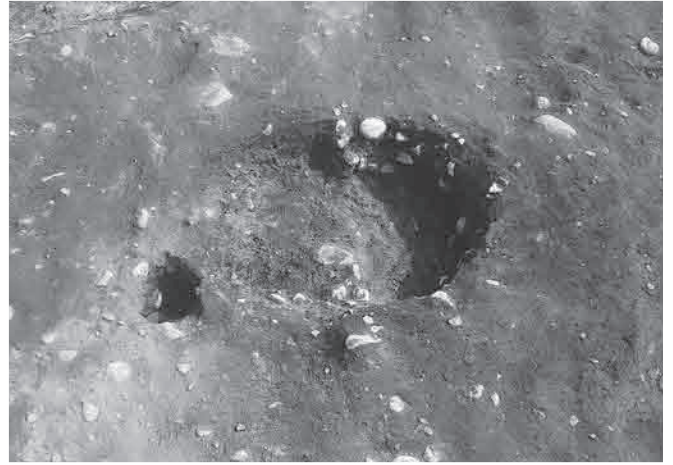
Ⅸ区44号土坑 (南西から)



Ⅸ区45号土坑 (北西から)



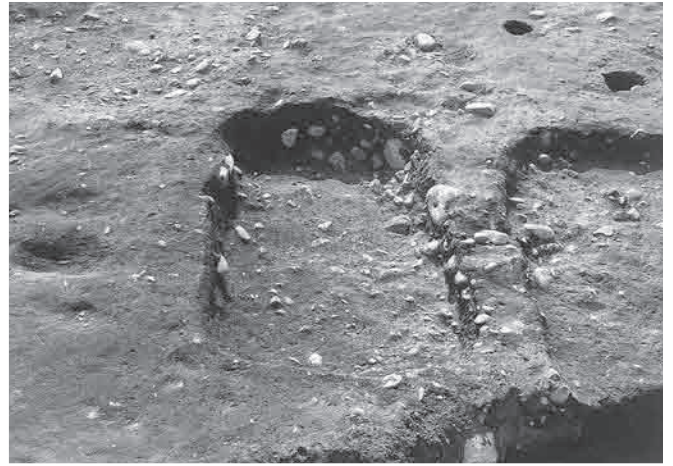
Ⅸ区49号土坑 (南西から)



Ⅸ区50号土坑 (西から)



Ⅸ区51号土坑 (西から)



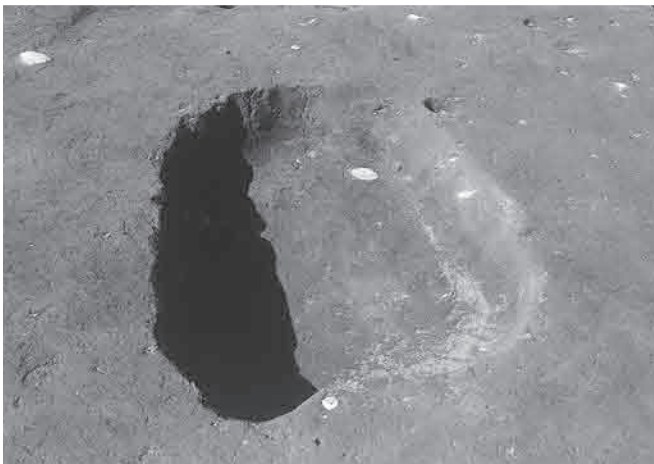
Ⅸ区52号土坑 (北東から)



Ⅸ区53号土坑 (北東から)



Ⅸ区54号土坑 (南から)



Ⅸ区58号土坑 (東から)



Ⅸ区59号土坑 (東から)



Ⅸ区61号土坑 (東から)



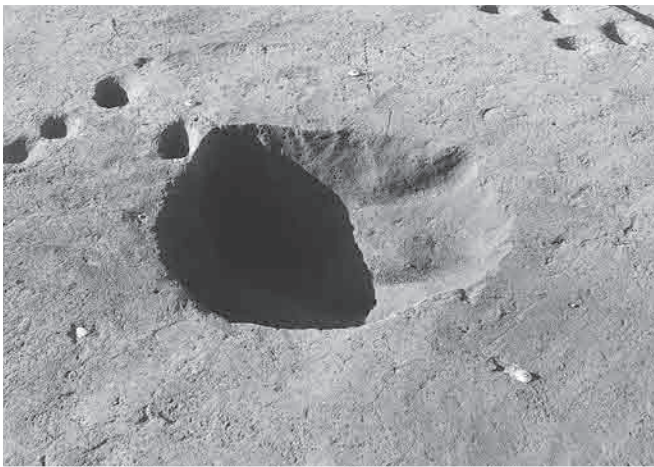
Ⅸ区62号土坑 (南西から)



Ⅸ区65号土坑 (北西から)



Ⅸ区66号土坑 (南東から)



Ⅸ区67号土坑 (南東から)



Ⅸ区70号土坑 (東から)



Ⅸ区71号土坑 (北東から)



Ⅸ区76号土坑 (南西から)





Ⅸ区77号土坑 (南西から)



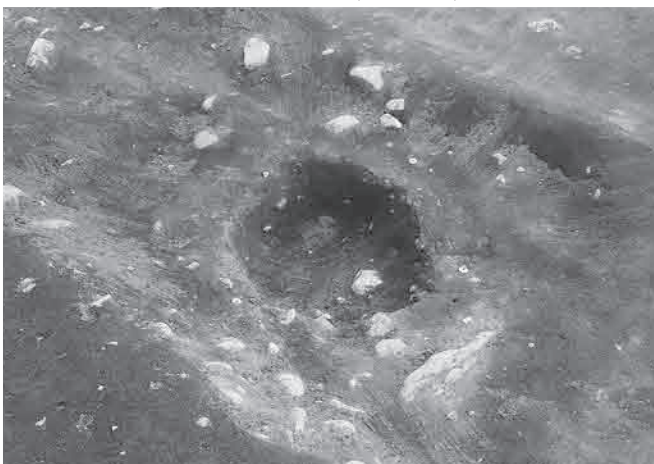
Ⅸ区79号土坑 (北から)



Ⅸ区85号土坑 (南東から)



Ⅸ区1号ピット (西から)



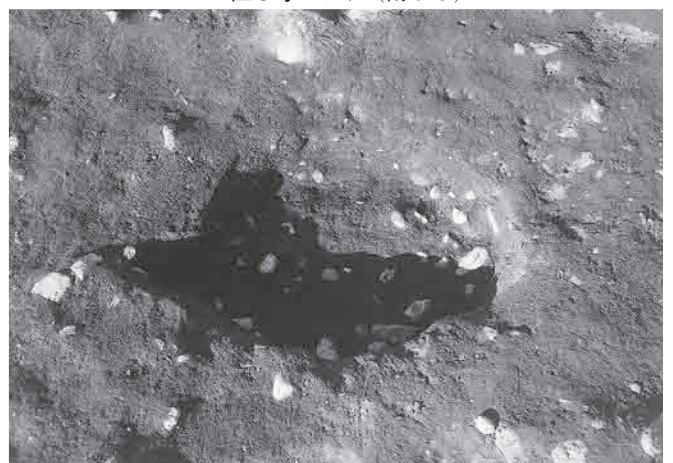
Ⅸ区2号ピット (北西から)



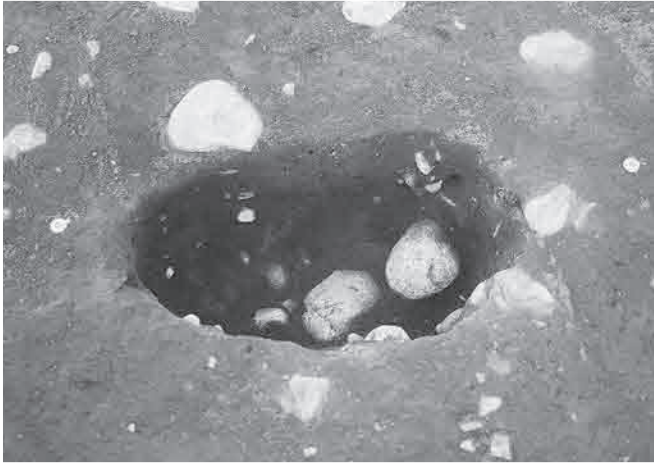
Ⅸ区3号ピット (南から)



Ⅸ区4号ピット (南西から)



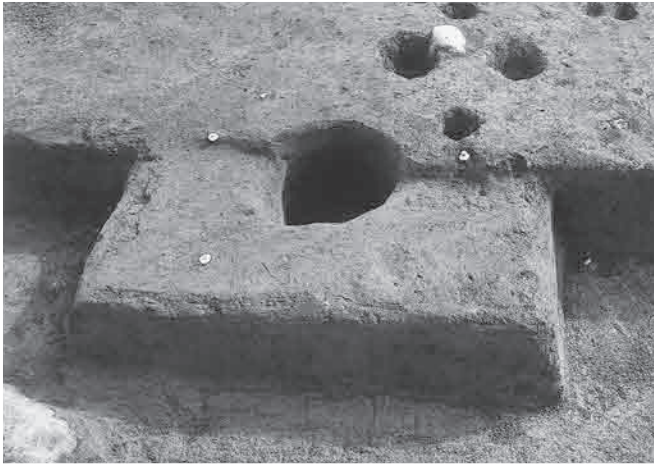
Ⅸ区5号ピット (南から)



Ⅸ区6号ピット (南から)



Ⅸ区7号ピット (南東から)



Ⅸ区9号ピット (西から)



Ⅸ区10号ピット (東から)



Ⅸ区1号畝跡 (北西から)



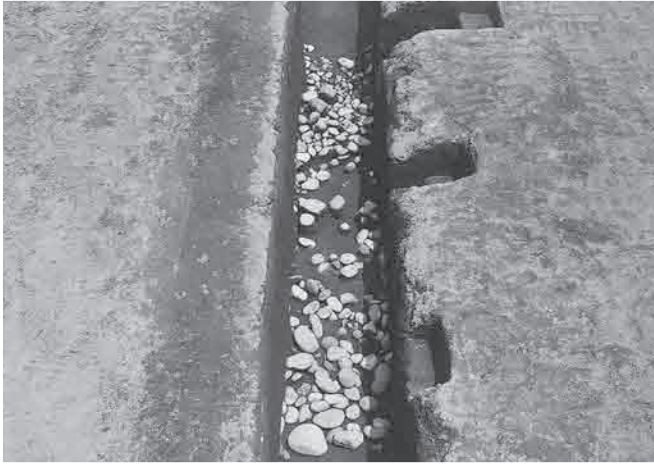
Ⅸ区東半部旧石器確認調査 (北西から)



Ⅸ区東端旧石器確認調査 (北西から)



Ⅸ区西端旧石器確認調査 (東から)



I区試掘調査Dトレンチ (南西から)



I区全景 (南から)



II区試掘調査全景 (南から)



III区1面全景 (北から)



III区2面全景 (南東から)



1号住居掘方全景 (南西から)



7号溝 (東から)



10号溝と1号畠跡 (北から)



16号溝 (南から)



17号溝 (南から)



18号溝 (南から)



1号土坑 (南東から)



6号土坑 (南から)



8号土坑 (南東から)



9号土坑 (北東から)



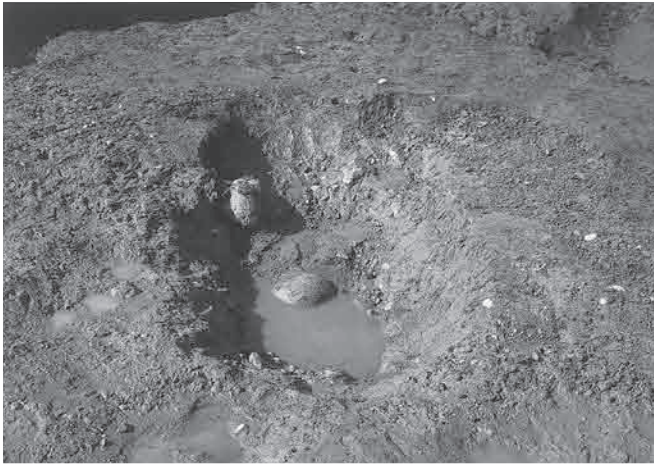
10号土坑 (南西から)



12号土坑 (南西から)



14号土坑 (北東から)



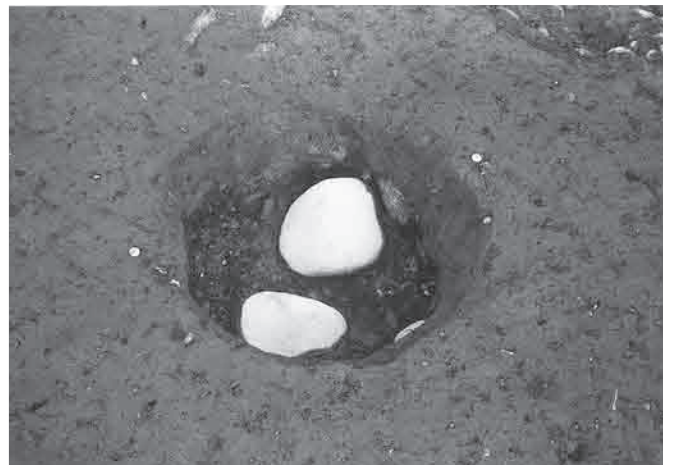
20号土坑 (南東から)



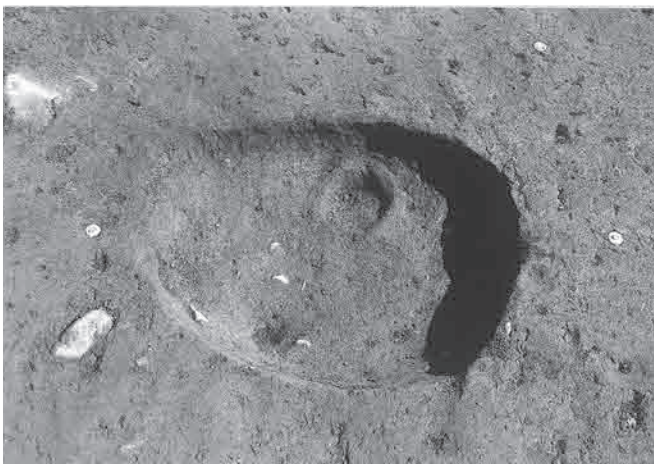
21号土坑 (南から)



22号土坑 (東から)



25号土坑 (東から)



27号土坑 (西から)



28号土坑 (西から)



1号島 (南西から)



200-220G 遺物出土状態 (南西から)



島谷戸遺跡1面全景 (西から)



島谷戸遺跡1面全景 (南東から)



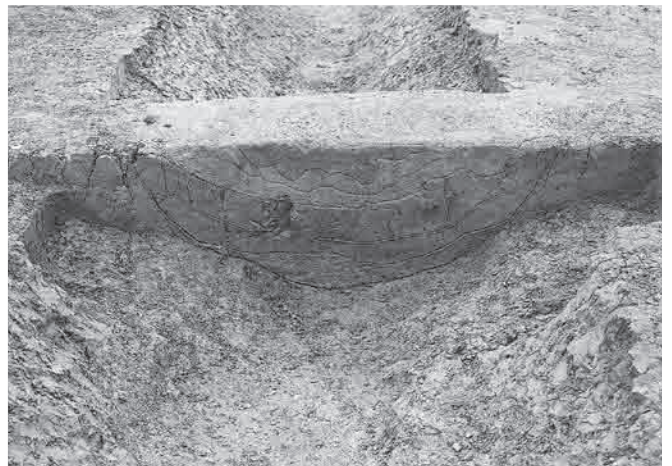
島谷戸遺跡1面補足 (南東から)



島谷戸遺跡1面1号溝 (南東から)



島谷戸遺跡1面2・3号溝 (南西から)



島谷戸遺跡1面2号溝A-A' セクション (南から)



1面3号溝B-B'セクション (南から)



1面6号溝・31号土坑 (南西から)



1面8号溝 (南西から)



1面8号溝・32号土坑 (南西から)



1面16号溝G-G'セクション (東から)



1面1・2号土坑 (南西から)



1面3・33号土坑 (南西から)



1面12号土坑 (北から)



2面全景 (右は1面12・14号溝・南東から)



2面17・18号溝 (西から)



2面西隅の溝群 (南から)



2面西隅の溝群 (西から)



2面西隅の溝群 (西から)



2面西隅の溝群 (南西から)



2面4・6号土坑 (南西から)

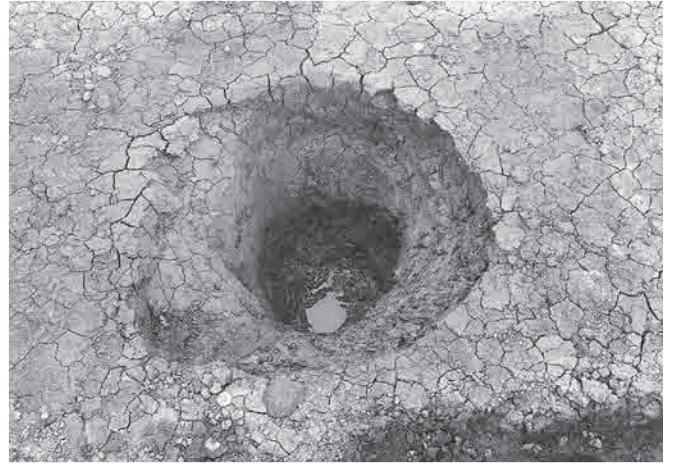


2面5号土坑 (右は1面16号溝・南西から)





3面36・45号溝 (南西から)



3面9号土坑 (南から)



3面1号集石 (東から)



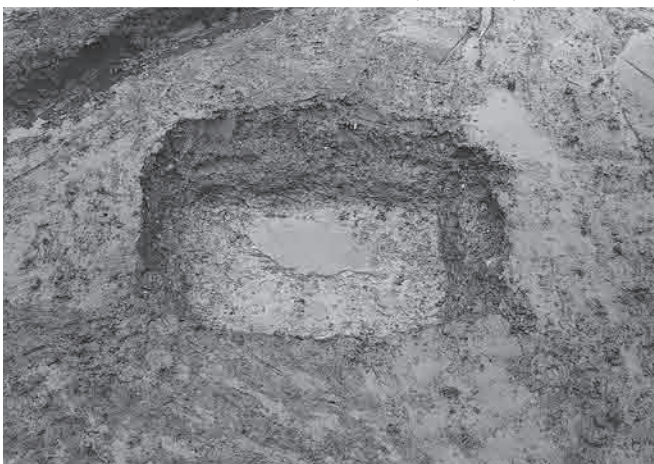
3面1号集石 (西から)



4面西側低地の調査状況 (南東から)



4面46号溝 (南東から)



4面8号土坑 (北東から)



4面18号土坑 (西から)



4面東側低地（北西から）



4面西側低地（北西から）



4面縄文土器No.33出土状態（東から）



4面4号土器集中部（東から）

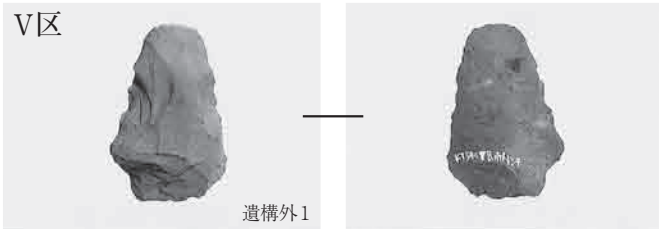


4面5号土器集中部（南東から）

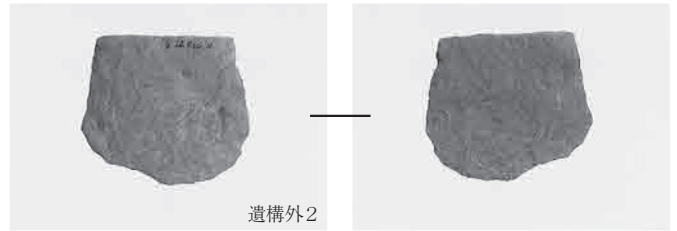


I区As-B下面全景（南から）

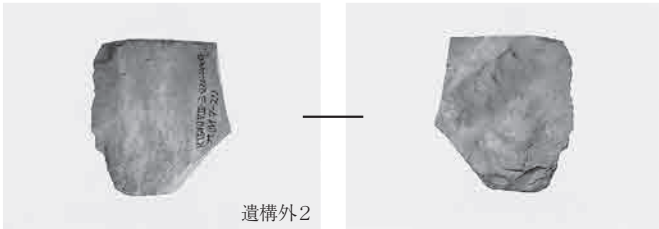
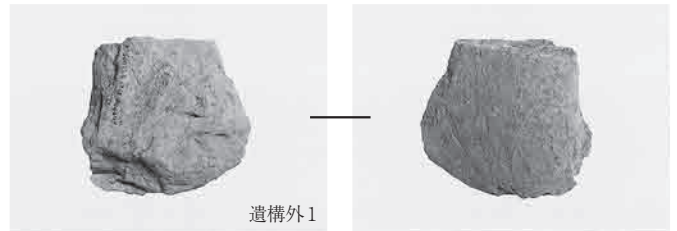
V区



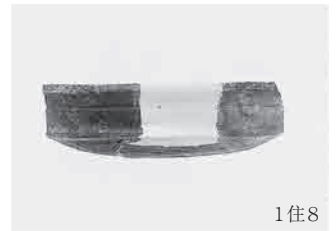
VI区



VII区



VIII区





2住6



2住7



2住8



2住9



2住10



2住11



2住12



3住1



3住2



3住3



3住4



3住5



3住6



3住7



3住8



3住9



3住10



3住11



3住12



3住13



3住14



3住15



3住16



3住17



3住18



3住19



3住21



3住23



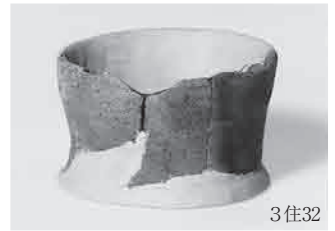
3住20



3住22



3住24





5住15



5住16



5住17



5住18



5住19



5住20



1溝13



18溝1



43坑1



76坑1



69坑1



54ピット1



54ピット2



1集1



1集2



1集3



1集4



1集5



1集6



1集7



1集8



1集9



1集10



1集11



1集12



1集13



1集14



1集15



1集16



1集17



1集18



1集19



1集20



1集21



1集22



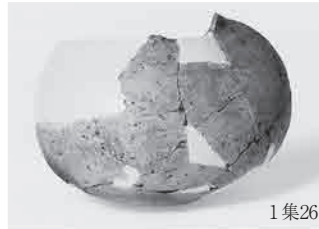
1集23



1集24



1集25



1集26



1集27



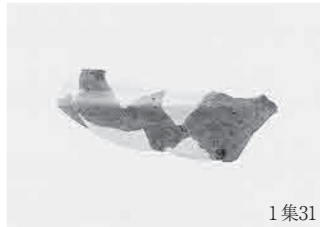
1集28



1集29



1集30



1集31



1集32



1集33



1集34



1集35



1集36



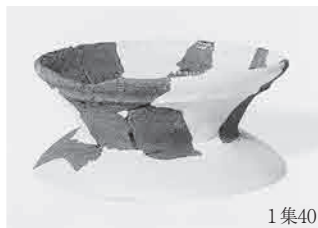
1集37



1集38



1集39



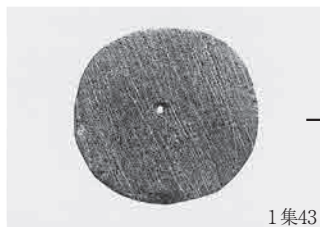
1集40



1集41



1集42



1集43



1集44



1集45





遺構外1



遺構外2



遺構外3



遺構外4



遺構外5



遺構外6



遺構外7



遺構外8



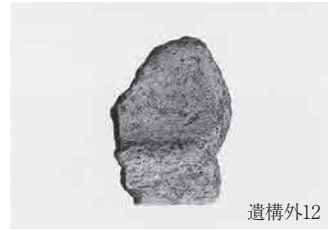
遺構外9



遺構外10



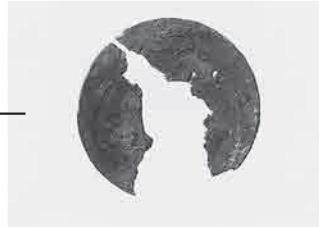
遺構外11



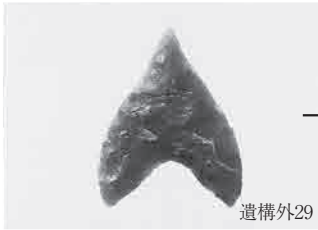
遺構外12



遺構外16



遺構外28



遺構外29



遺構外30



遺構外31



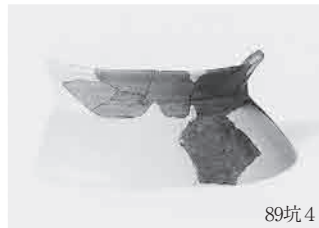
遺構外32



遺構外33



89坑3



89坑4



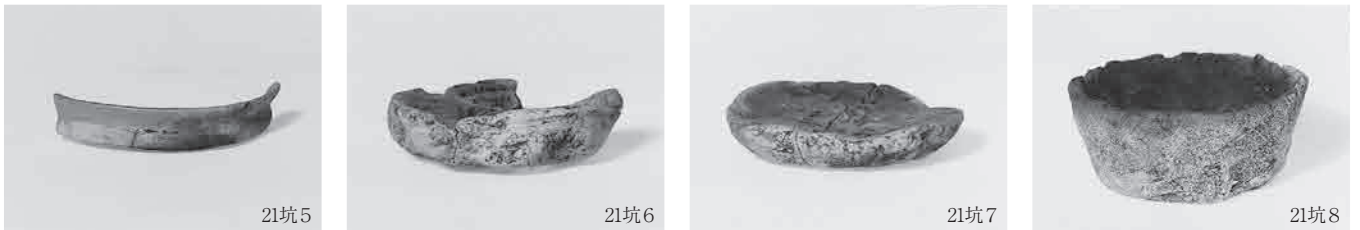
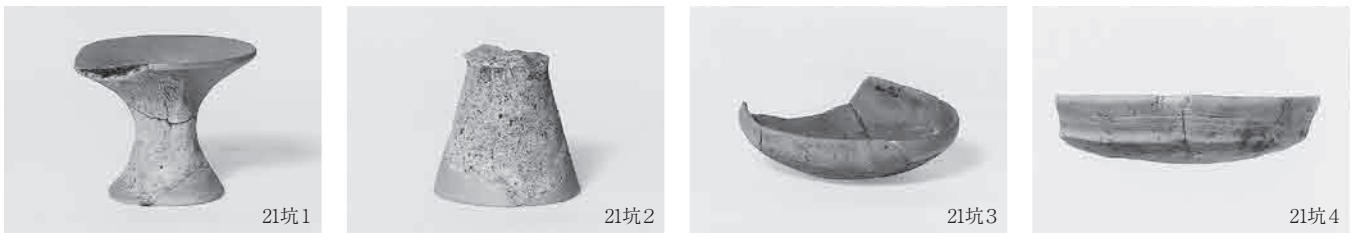
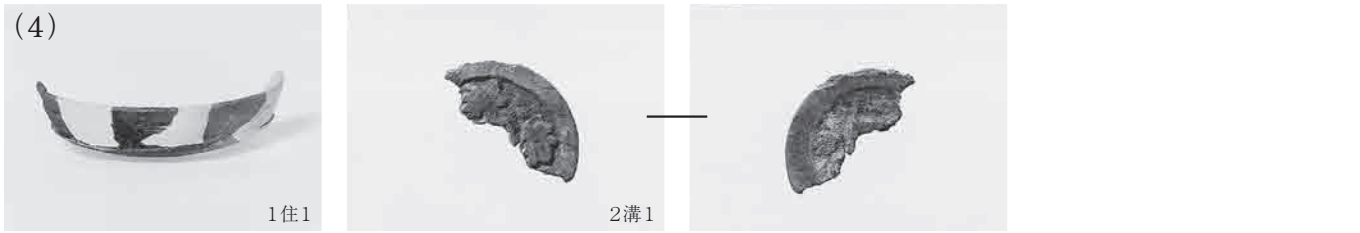
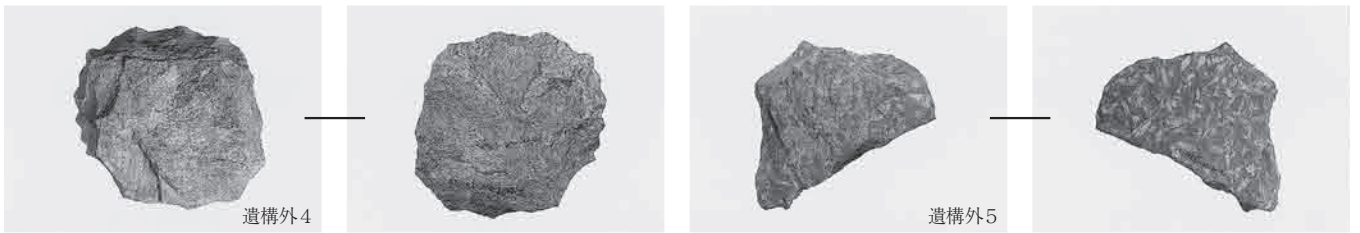
89坑1



89坑2

Ⅸ区







22坑4



22坑5



22坑6



22坑7



遺構外1



遺構外2



遺構外3



遺構外4



遺構外5



遺構外6



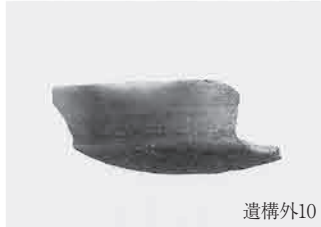
遺構外7



遺構外8



遺構外9



遺構外10



遺構外11



遺構外12



遺構外13



遺構外14



遺構外15



遺構外16



遺構外17



遺構外18



遺構外19



遺構外20



遺構外21



遺構外22



遺構外23



遺構外24



遺構外25



遺構外26



遺構外27



遺構外28



遺構外29



遺構外30



遺構外31



遺構外32



遺構外33



遺構外34



遺構外35



遺構外36



遺構外37



遺構外38



遺構外39



遺構外40



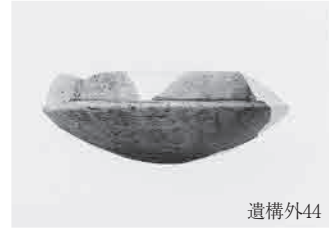
遺構外41



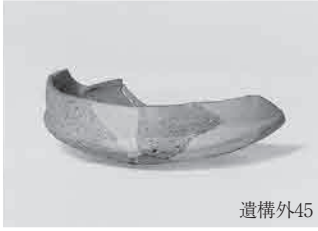
遺構外42



遺構外43



遺構外44



遺構外45



遺構外46



遺構外47



遺構外48



遺構外49



遺構外50



遺構外51



遺構外52



遺構外53



遺構外54



遺構外55



遺構外56



遺構外57



遺構外58



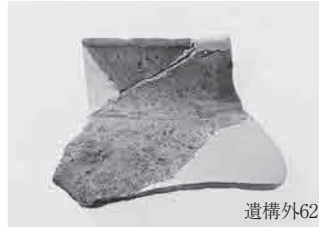
遺構外59



遺構外60



遺構外61



遺構外62



遺構外63



遺構外64



遺構外65



遺構外66



遺構外67



遺構外68



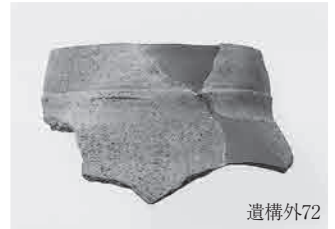
遺構外69



遺構外70



遺構外71



遺構外72



遺構外73



遺構外74



遺構外75



遺構外76



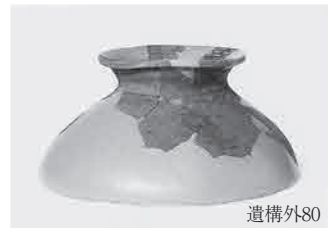
遺構外78



遺構外77



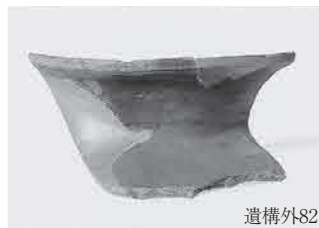
遺構外79



遺構外80



遺構外81



遺構外82



遺構外83



遺構外84



遺構外85



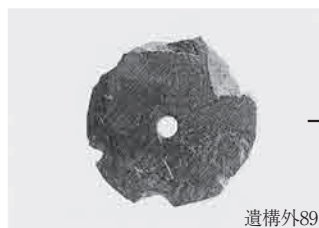
遺構外86



遺構外87



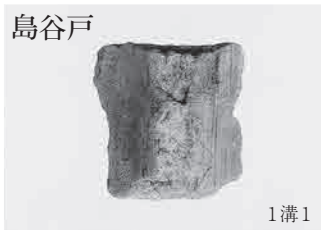
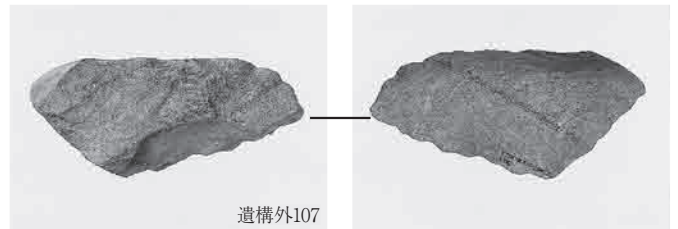
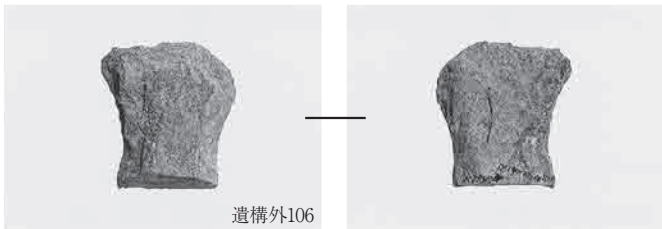
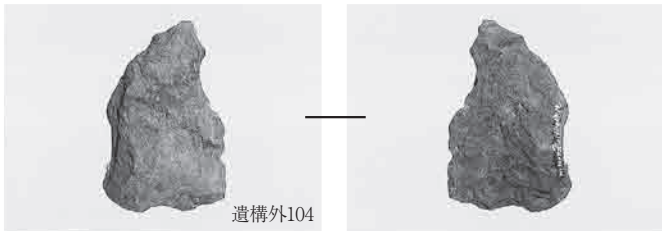
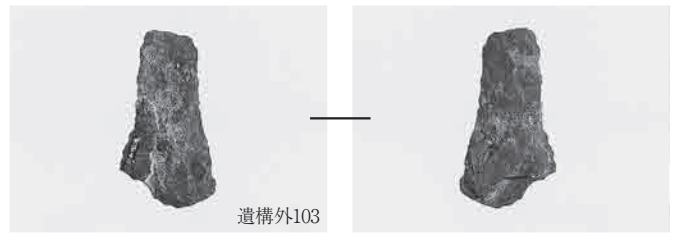
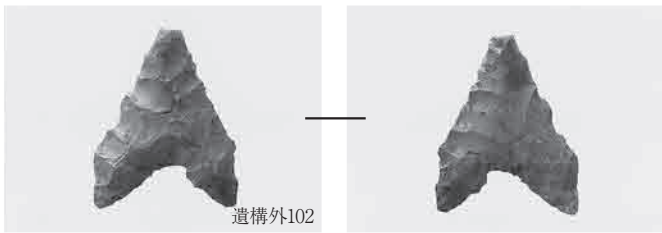
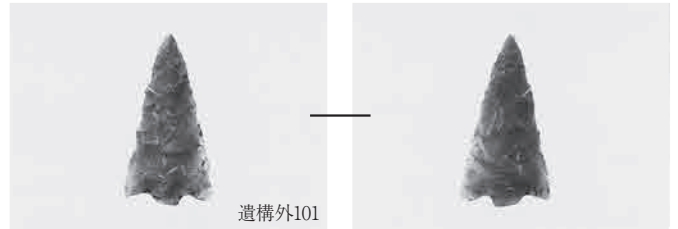
遺構外88



遺構外89



遺構外90

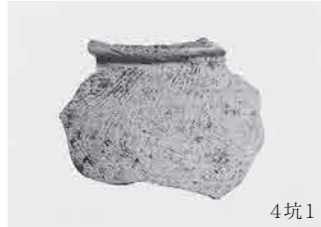




16溝4



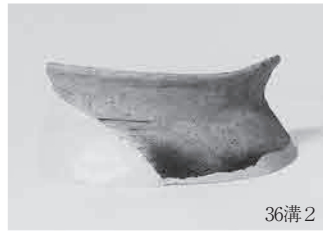
4坑1



4坑2



36溝1



36溝2



36溝3



36溝4



36溝5



36溝6



36溝7



36溝8



36溝9



36溝10



36溝12



37溝1



37溝2



2集1



3集1



4集1



遺構外1



遺構外2



遺構外3



遺構外4



遺構外5



遺構外6



遺構外7



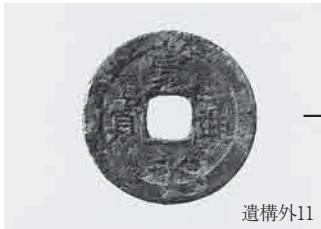
遺構外8



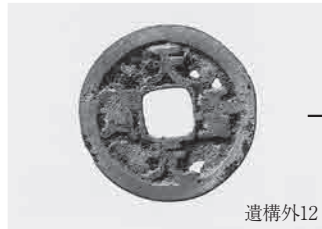
遺構外9



遺構外10



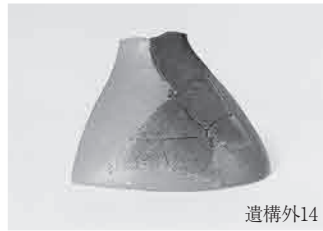
遺構外11



遺構外12



遺構外13



遺構外14



遺構外41



遺構外42

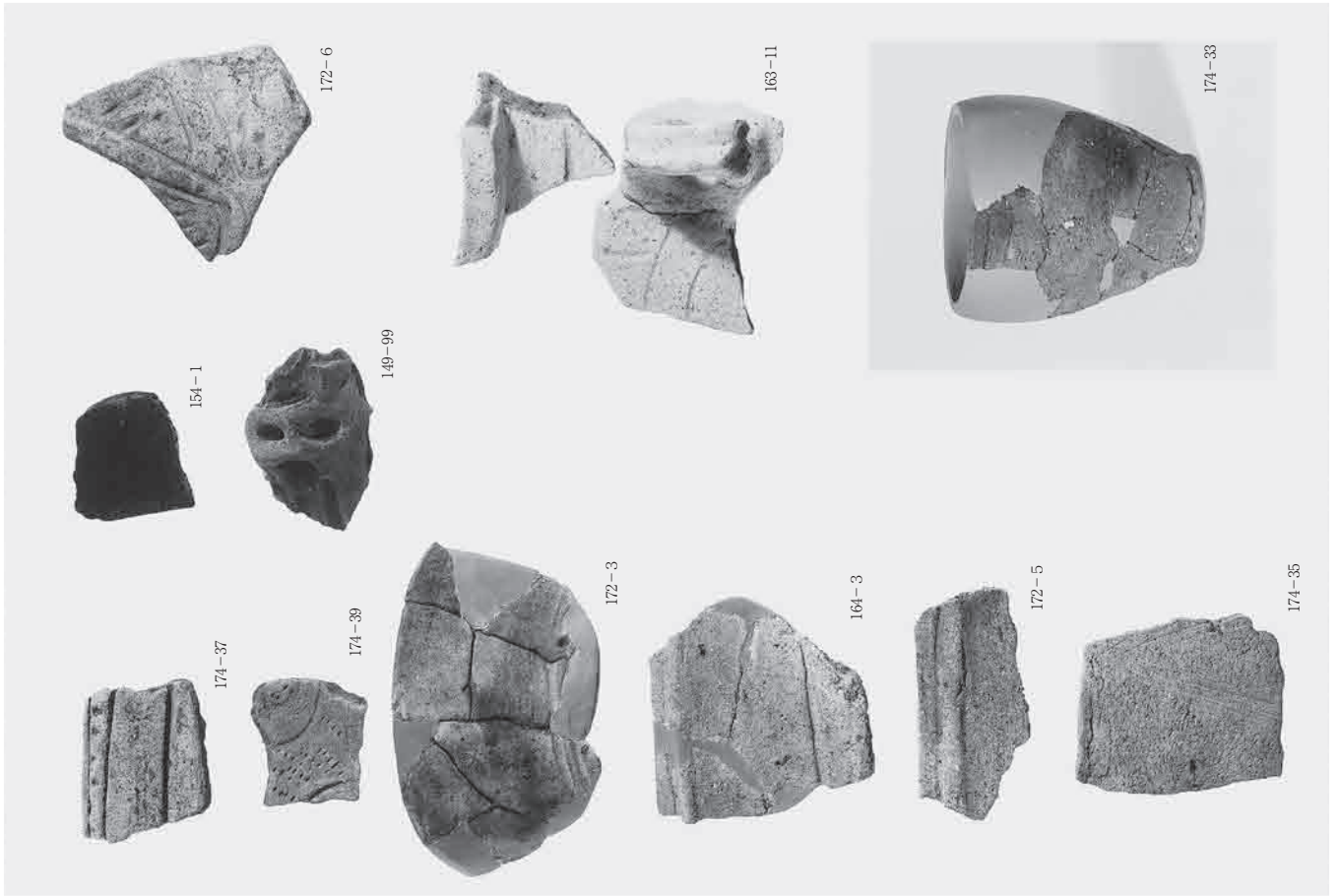


遺構外43

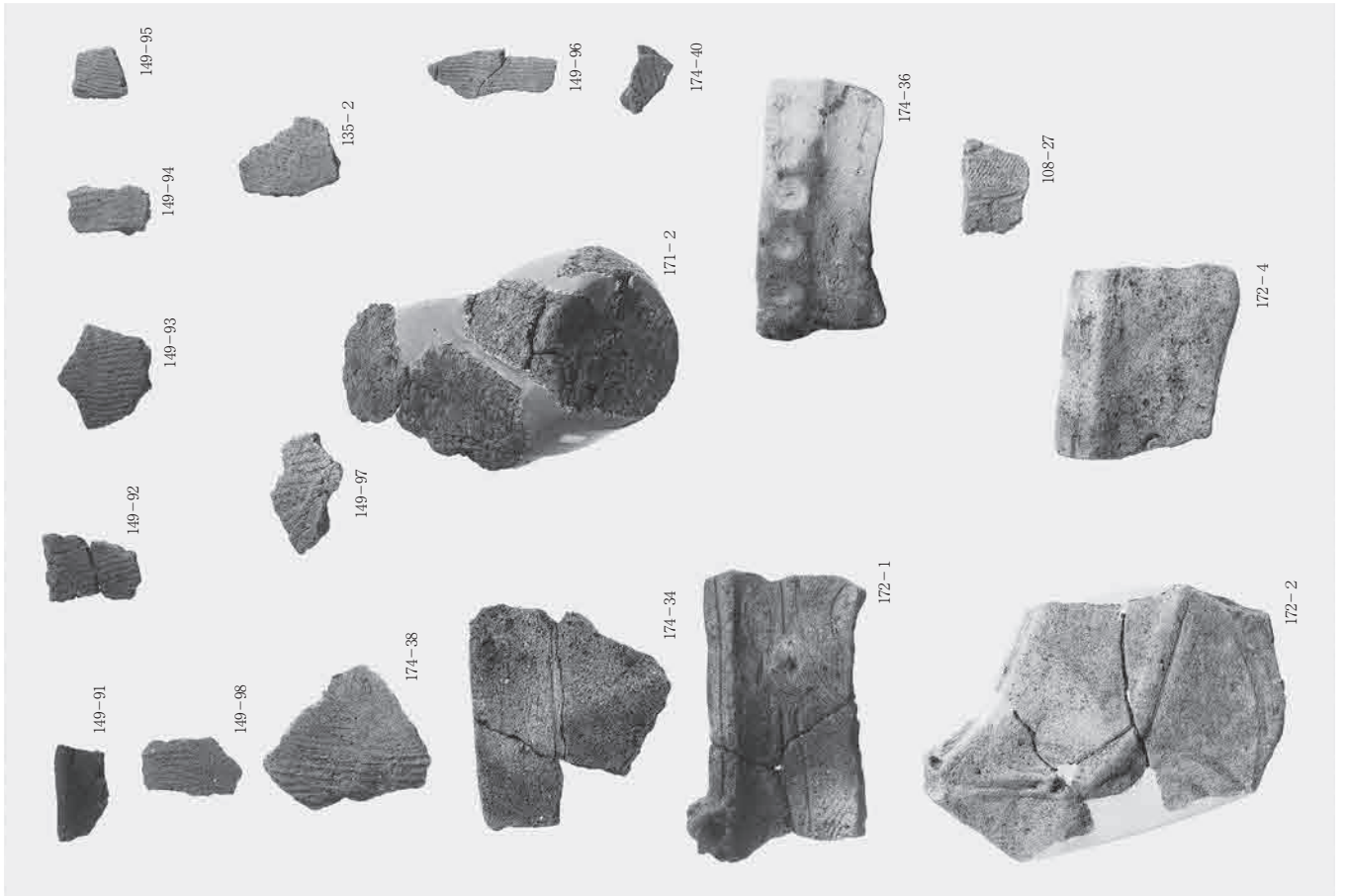






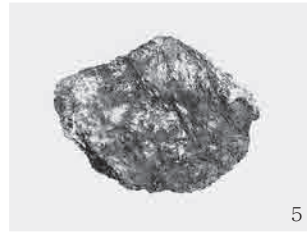


縄文土器 (2) 数字は挿入番号



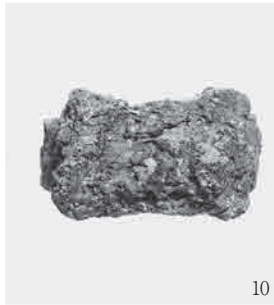
縄文土器 (1) 数字は挿入番号

炉壁

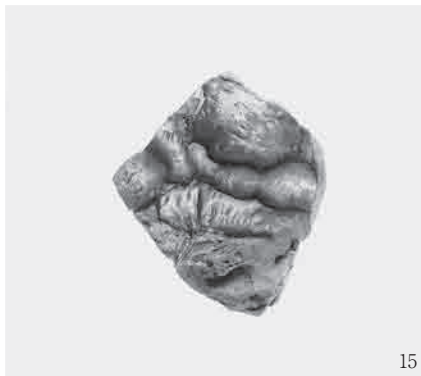


マグネタイト系遺物

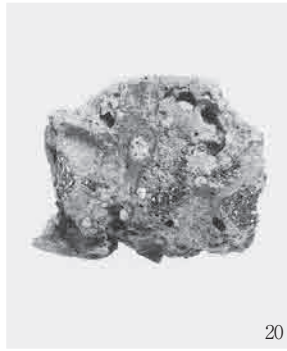
流出孔滓



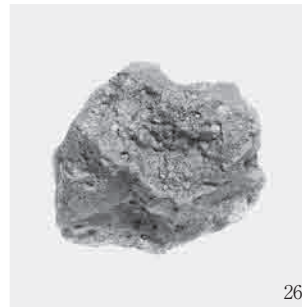
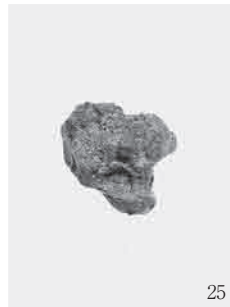
流動滓



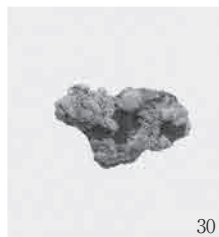
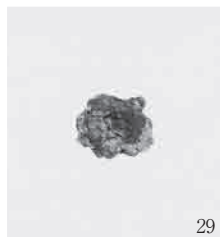
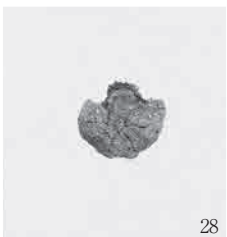
炉底塊



炉内滓



鉄塊系遺物



## 報告書抄録

書名ふりがな	にしのはらいせきさんよん・しまがいといせき
書名	西野原遺跡（3）（4）・島谷戸遺跡
副書名	北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	447
編著者名	石塚久則/谷藤保彦/高井佳弘
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20081212
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	にしのはらいせきさんよん
遺跡名	西野原遺跡（3）（4）
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしやぶづかまち/にしながおかまち
遺跡所在地	群馬県太田市藪塚町/西長岡町
市町村コード	10205
遺跡番号	
北緯（日本測地系）	362035
東経（日本測地系）	1391941
北緯（世界測地系）	362047
東経（世界測地系）	1391929
調査期間	20010205-20010329/20020501-20020531/20030601-20040331/20040401-20040430
調査面積	35687
調査原因	道路建設工事
種別	集落
主な時代	古墳/中世
遺跡概要	包蔵地-縄文+弥生-土器+石器/集落-古墳-堅穴住居4+土器集中部1-土器/集落-平安+中世-掘立柱建物8-陶磁器/集落-近世-溝+土坑
特記事項	製鉄関連遺物が多数出土
要約	古墳時代の集落跡は北側に中心があり、本遺跡はその南端部。掘立柱建物は中世の屋敷と思われ、1棟は神社などの祭祀施設の可能性がある。製鉄関連遺物が多数出土しているが、これらは北側にある西野原遺跡（5）の製鉄遺構の遺物が二次的に動かされたものと考えられる。
遺跡名ふりがな	しまがいといせき
遺跡名	島谷戸遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしにしながおかまち
遺跡所在地	群馬県太田市西長岡町
市町村コード	10205
遺跡番号	
北緯（日本測地系）	362034
東経（日本測地系）	1391952
北緯（世界測地系）	362046
東経（世界測地系）	1391940
調査期間	20010401-20020331
調査面積	3781
調査原因	道路建設工事
種別	水田
主な時代	平安
遺跡概要	包蔵地-縄文+弥生+古墳-土器+石器/水田-平安-水田面+溝
特記事項	浅間B軽石に埋もれた水田面と各時代の排水溝
要約	低地に位置しているため複数面の調査を行った。浅間B軽石に埋もれた水田面を確認したほか、各時代の溝を数多く調査した。溝の多くは排水用と考えられる。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
調査報告書第447集

## 西野原遺跡(3)(4) 島谷戸遺跡

北関東自動車道(伊勢崎～県境)建設  
事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成20年(2008)12月5日 印刷

平成20年(2008)12月12日 発行

発行/編集 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 渋川市北橘町下箱田 784 番地の2

電話 (0279) 52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

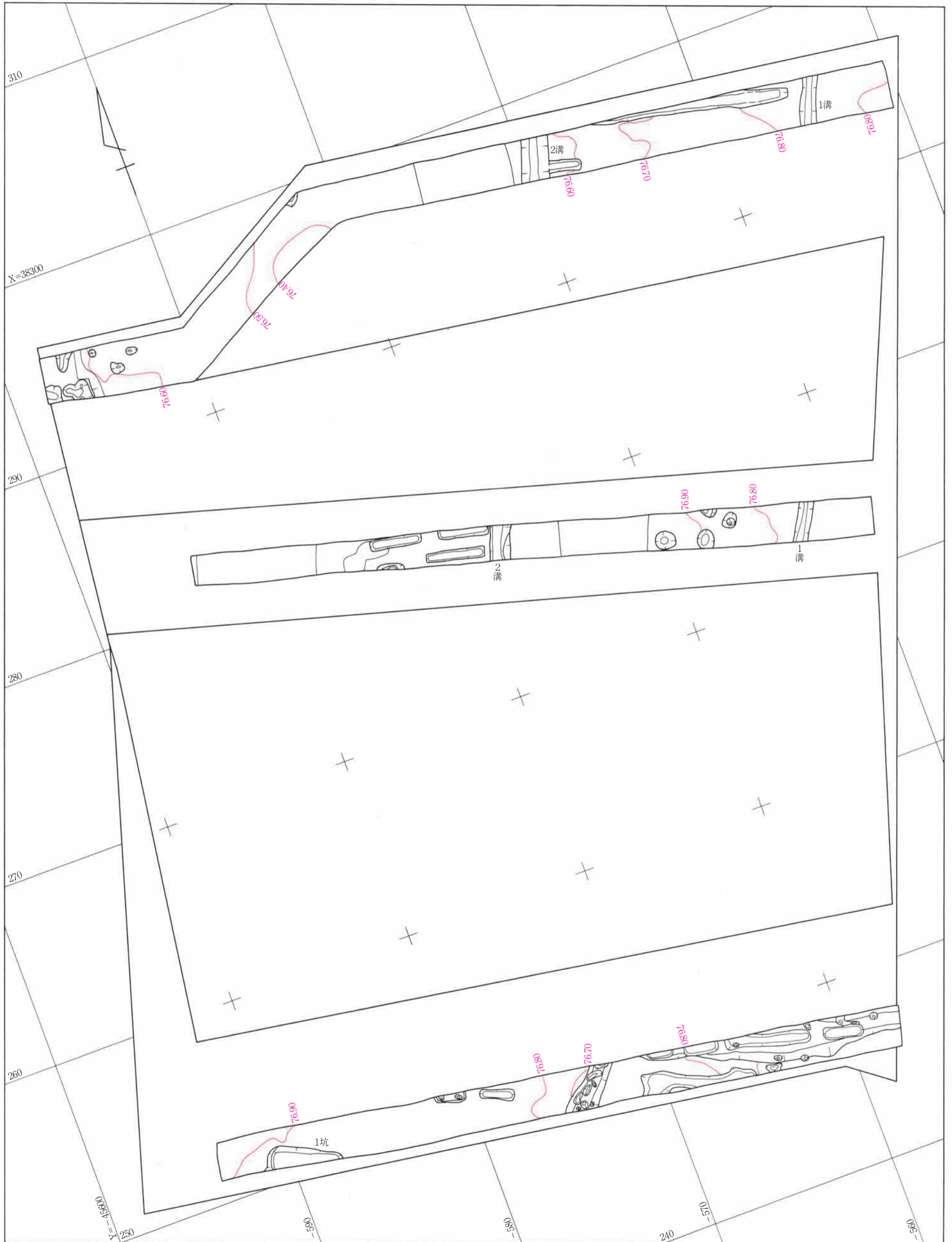
印刷 松本印刷工業株式会社



# 西野原遺跡(3)(4) 島谷戸遺跡 付図

- 1 西野原遺跡(3)V区全体図(1/200)
- 2 西野原遺跡(3)VI区全体図(1/200)
- 3 西野原遺跡(3)VII区全体図(1/250)
- 4 西野原遺跡(3)VIII区全体図(1/250)
- 5 西野原遺跡(3)IX区全体図(1/250)
- 6 西野原遺跡(4)全体図(1/200)
- 7 島谷戸遺跡全体図(1/250)

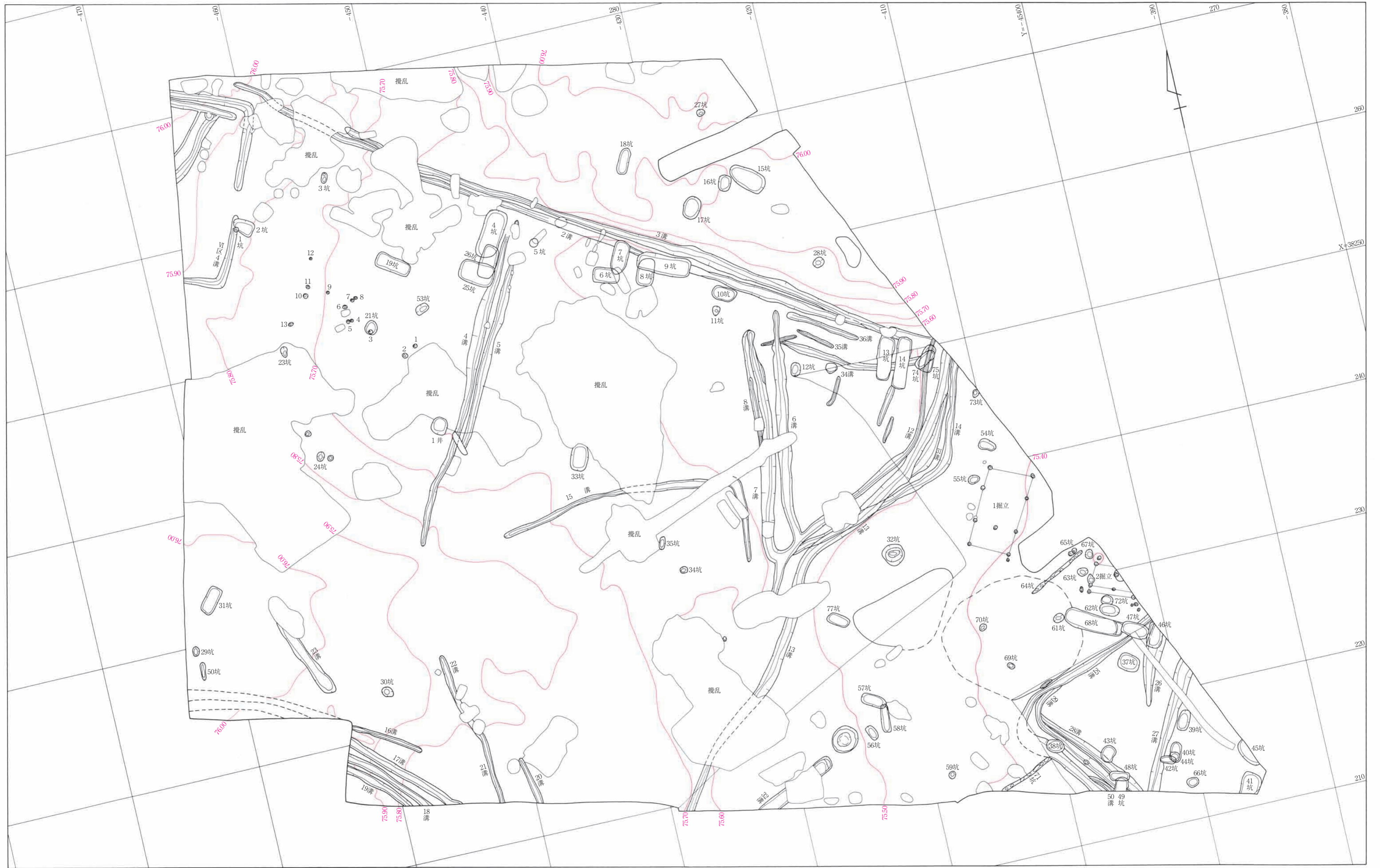
# 付図1 西野原遺跡(3)V区全体図 1/200



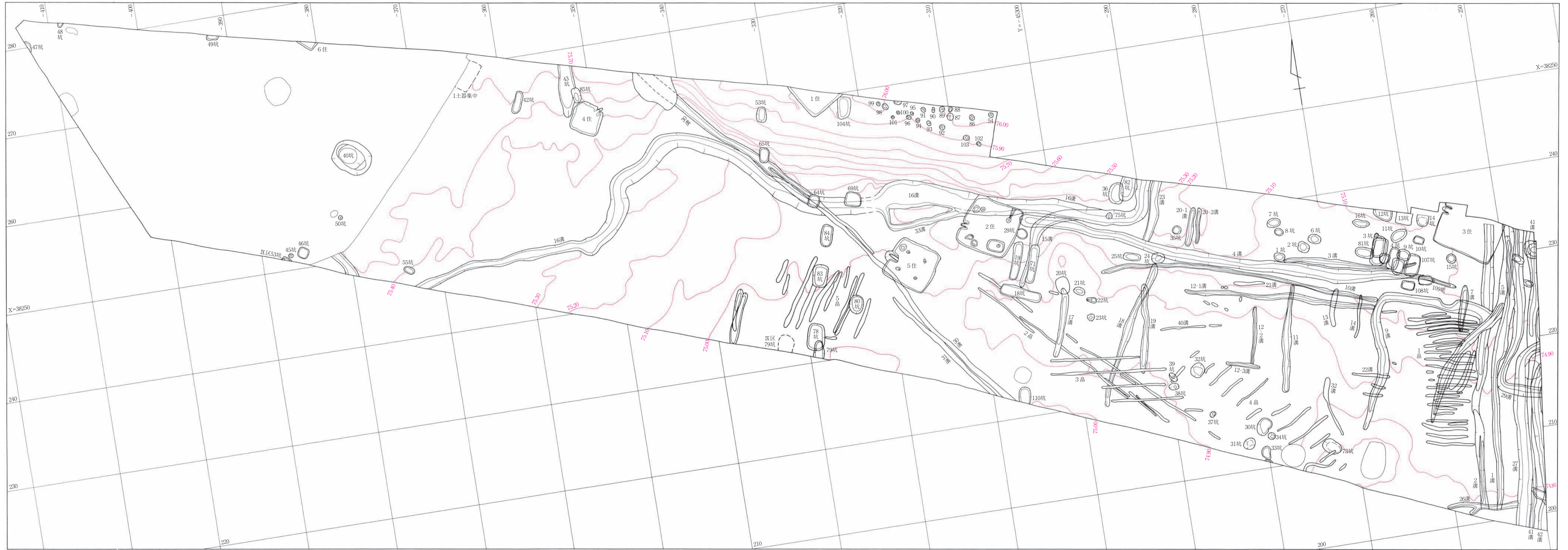




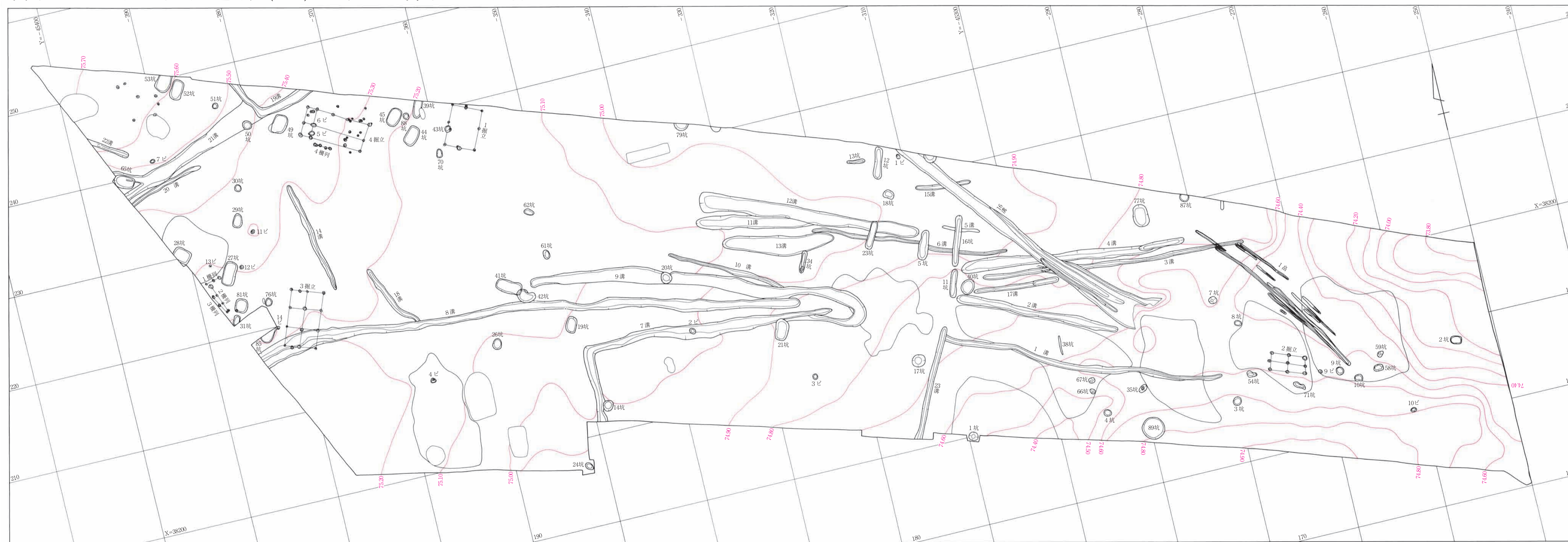
付図3 西野原遺跡(3)Ⅶ区全体図 1/200



付図4 西野原遺跡(3)Ⅷ区全体図 1/250



付図5 西野原遺跡(3)Ⅸ区全体図 1/250



付図6 西野原遺跡(4)全体図 1/200



付図7 島谷戸遺跡全体図 1/250

